



18. シラバス

【2013 年度シラバス 目次】

《一般科目》	
ICT イノベーション入門.....	1
ICT ビジネス入門(情報概論).....	2
IT アドミニストレータ.....	3
IT マネジメントⅠ.....	4
IT マネジメントⅡ.....	5
アジア経済Ⅰ.....	6
アジア経済Ⅱ.....	7
English ExpressionⅠ.....	8
English ExpressionⅡ.....	9
English ビジネスコミュニケーション.....	10
インターンシップⅠ.....	11
インターンシップⅡ.....	12
Web サービス開発.....	13
Web デザインⅠ.....	14
Web デザインⅡ.....	15
Web プログラミング.....	16
AP 数学.....	17
SNS 社会論.....	18
海外研修Ⅰ～Ⅲ.....	19
観光学概論.....	20
韓国語Ⅰ.....	21
韓国語Ⅱ.....	22
韓国ビジネスコミュニケーションⅠ.....	23
韓国ビジネスコミュニケーションⅡ.....	25
管理会計入門.....	27
キャリアデザインⅠ.....	28
キャリアデザインⅡ(開発).....	29
キャリアデザインⅢ.....	31
キャリアデザイン入門.....	32
教育心理学.....	33
教育相談.....	34
近現代史:世界と日本.....	35
金融論.....	38
グローバルビジネス入門.....	39
経営科学Ⅰ.....	40
経営科学Ⅱ.....	41
経営学概論Ⅰ.....	42
経営学概論Ⅱ.....	43
経営基礎Ⅰ.....	44
経営基礎Ⅱ.....	46
経営実務Ⅰ.....	48
経営実務Ⅱ.....	50
経営情報数学Ⅰ(線形代数).....	52
経営情報数学Ⅱ(微積).....	53
経営情報論Ⅰ.....	54
経営情報論Ⅱ.....	55
経営組織Ⅰ.....	56
経営組織Ⅱ.....	57
経営と意思決定.....	58
経済統計学.....	59
原価分析.....	60
現代アメリカ論.....	61
現代環境経済論Ⅰ.....	62
現代環境経済論Ⅱ.....	63
現代中国入門.....	64
現代中国論Ⅰ.....	65
現代中国論Ⅱ.....	66
現代ビジネス潮流論(20世紀を知る).....	67
現代メディア論Ⅰ.....	68
現代メディア論Ⅱ.....	70
国際会計論.....	72
国際経営入門Ⅰ.....	73
国際経営入門Ⅱ.....	74
国際経済.....	75
コンピュータ概論.....	76
コンピュータサイエンス.....	78
コンピュータネットワーク活用.....	79
財務会計Ⅰ.....	81
財務会計Ⅱ.....	82
財務管理Ⅰ.....	83
財務管理Ⅱ.....	84
財務諸表分析.....	85
財務報告.....	86
産業社会論入門(経済学入門).....	87
産業社会論入門Ⅱ(会計).....	88
システムデザイン.....	89
システム分析概論.....	91
自然科学概論Ⅰ.....	93
自然科学概論Ⅱ.....	95
実践の事業経営特講.....	96
社会経済政策.....	97
社会心理.....	99
社会調査士実習Ⅰ～Ⅱ.....	100
消費心理.....	101
情報概論(オムニバス).....	102
情報工学概論.....	103
情報セキュリティ.....	104
情報探索法.....	105
情報通信と社会.....	107
情報と職業.....	108
情報ネットワーク概論Ⅰ.....	110
情報ネットワーク概論Ⅱ.....	111
情報法.....	112
初級簿記.....	113
数字力で語る.....	114
スポーツⅠ.....	115
スポーツⅡ.....	116
スポーツと健康.....	117
スポーツビジネス論Ⅰ(スポーツマーケティング論).....	118
スポーツビジネス論Ⅱ(スポーツマネジメント論).....	119
世界と日本のエネルギー問題Ⅰ.....	120
世界と日本のエネルギー問題Ⅱ.....	121
多国籍企業Ⅰ.....	122
多国籍企業Ⅱ.....	123
多摩学入門Ⅰ(歴史).....	124
多摩学入門Ⅱ(社会経済).....	126
地域活性化戦略論.....	127

地域観光とビジネス.....	128	マーケティングデータ分析Ⅰ.....	201
地域社会とビジネス(地域ビジネス入門).....	129	マーケティングデータ分析Ⅱ.....	202
地域政策マネジメント論.....	131	マーケティングリサーチ.....	203
中級簿記.....	132	マクロ経済学.....	204
中国語Ⅰ.....	133	マネジメントデザイン論Ⅰ(図解表現).....	206
中国語Ⅱ.....	134	マネジメントデザイン論Ⅱ.....	208
中国ビジネスコミュニケーションⅠ.....	135	マルチメディア実践.....	210
中国ビジネスコミュニケーションⅡ.....	136	ミクロ経済学.....	212
中小企業論(志企業論).....	137	問題解決学総論(入門).....	213
データ解析.....	138	問題解決学実践Ⅰ.....	214
データベース.....	140	余暇マネジメントⅠ.....	215
統計.....	141	余暇マネジメントⅡ.....	216
統計学Ⅰ.....	142	ライフデザイン.....	218
統計学Ⅱ.....	143	ライフデザイン入門.....	219
TOEICⅠ.....	144	リサーチ入門.....	220
TOEICⅡ.....	145	立志人物論.....	222
特別講座Ⅰ～Ⅱ.....	146	立志論Ⅰ(スポーツマンシップ立国論).....	224
特別語学研修Ⅰ～Ⅱ.....	147	立志論Ⅱ(立志事業家論).....	226
日本経営史Ⅰ.....	148	立志論Ⅲ(立志起業家論).....	228
日本経営史Ⅱ.....	149	流通論.....	229
日本経済史Ⅰ.....	150	歴史と文化.....	230
日本経済史Ⅱ.....	151		
日本経済論.....	152	《演習科目》	
日本語講座(初級).....	154	プレゼミナール.....	232
日本語講座(中級Ⅰ).....	156	プレホームゼミナール.....	233
日本語講座(中級Ⅱ).....	158		
日本語講座(上級).....	160	〈ホームゼミナール〉	
日本語表現法Ⅰ.....	162	飯田 健雄.....	234
日本語表現法Ⅱ.....	163	石川 晴子.....	235
日本政治史.....	164	出原 至道.....	236
認知心理.....	166	今泉 忠.....	237
比較文化論Ⅰ.....	167	梅澤 佳子.....	238
比較文化論Ⅱ.....	169	大森 映子.....	239
ビジネスコミュニケーション入門Ⅰ(読解力).....	171	大森 拓哉.....	241
ビジネスコミュニケーション入門Ⅱ(伝達力).....	172	奥山 雅之.....	242
ビジネス数学基礎.....	173	金子 邦博.....	246
ビジネススキル基礎Ⅰ.....	174	金 美徳.....	247
ビジネススキル基礎Ⅱ.....	175	清松 敏雄.....	248
ビジネス戦略Ⅰ.....	176	小林 英夫.....	249
ビジネス戦略Ⅱ.....	178	齋藤 S.裕美.....	250
ビジネス戦略入門.....	180	彩藤 ひろみ.....	253
ビジネスソフトウェア活用.....	182	酒井 麻衣子.....	254
ビジネス入門Ⅰ.....	183	椎木 哲太郎.....	255
ビジネス入門Ⅱ.....	185	志賀 敏宏.....	257
Practical English ConversationⅠ.....	186	下井 直毅.....	258
Practical English ConversationⅡ.....	187	杉田 文章.....	260
プログラミング言語Ⅰ.....	188	趙 佑鎮.....	261
プログラミング言語Ⅱ.....	190	常見 耕平.....	265
プログラミング言語入門Ⅰ.....	191	豊田 裕貴.....	267
プログラミング言語入門Ⅱ.....	192	中庭 光彦.....	270
文章伝達入門.....	193	中村 その子.....	271
Basic Office EnglishⅠ～Ⅱ.....	194	中村 有一.....	273
法学(憲法).....	195	バートル.....	274
マーケティング入門.....	196	浜田 正幸.....	278
マーケティングの為にWeb解析技法.....	198	樋口 裕一.....	279
マーケティングマネジメント論.....	199	久恒 啓一.....	282
マーケティングモデリング.....	200	広瀬 一郎.....	284

増田 浩通	290
村山 貞幸	292
諸橋 正幸	293
山原 克明	294

〈社会人力セミナー〉

社会人力セミナーⅠ～Ⅵ 春学期	296
社会人力セミナーⅠ～Ⅵ 秋学期	297

〈プロジェクトゼミナール〉

池田 勇人 春学期	298
江頭 満正 春学期	300
江頭 満正 秋学期	301
大風 薫 秋学期	302
荻野 博司 秋学期	303
片桐 徹也 春学期	305
片桐 徹也 秋学期	307
木村 知義 春学期	309
木村 知義 秋学期	311
田中 雄 春学期	313
中野 未知子 春学期	315
中野 未知子 秋学期	316
中村 紳吾 秋学期	317
福島 清彦 春学期	318
松本 祐一 春・秋学期	
サンリオピューロランドの課題解決イベントの企画・運営	319
松本 祐一 春・秋学期	
地域プロジェクトマネジメントの手法(多摩市のシティセールス)	320
見山 謙一郎 秋学期	321
もしもしホットライン 秋学期	323
森本 美行 秋学期	324
渡辺 幸裕 春学期	325

〈合同ゼミナール〉

大森 拓哉 春・秋学期	326
金子 邦博 春学期	327
酒井 麻衣子 春学期	328
酒井 麻衣子 秋学期	329
豊田 裕貴 春・秋学期	330
村山 貞幸 春・秋学期	331
金子 邦博 秋学期	332
彩藤 ひろみ 秋学期	333
下井 直毅 秋学期	334
諸橋 正幸 秋学期	335

〈その他ゼミナール〉

社会工学研究会 春学期	336
社会工学研究会 秋学期	338

《教職に関する科目》

教育原理	340
教育史	342
教育実習	344
教育制度論	345
教育方法	346
教職概論	348

教職課程総論	350
教職実践演習	352
情報科教育法	353
生徒指導	355
特別活動	357

科目名 ICTイノベーション入門[Introduction to ICT Innovation]

担当教員 今泉 忠

■講義目的

ICT分野では、日進月歩で技術革新が進んでいる。しかし、技術のみを高度に進歩させるのでなく、顧客のために技術を考える必要がある。
ICTビジネス入門では、技術をビジネスとして展開するためのポイント(商品企画入門)の解説と、企画書(提案書)の書き方、さらにプレゼンテーションについて解説を行った。
この科目では、イノベーションのために、現時点でのいくつかの先端ICTの技術をテーマにその解説などを行う。
これらを通じて、職業としてのICTイノベーション分野の可能性と魅力について理解し、かつ、その分野での就職を目指す基礎を作るのが本講義の目的である。

■講義分類

問題解決のための方法／ビジネスICT／ビジネス創造

■到達目標

イノベーションの基礎となる技術などについてまとめて、活用法などを提案できる。
日経ITProなどに紹介されている技術について理解できる。
その技術について仕様書や提案書、企画書を書くために基礎を身につけることが目標となる

■講義形態

講義+レポート[学外学習無]

■講義の概要

本講義の最も重要なポイントは、解説される技術をいかに分かり易く説明できるかにある。。したがって、予習よりはむしろ復習が重要であり、技術の要点をまとめることに力点が置かれる。
各回の内容を講義で用いたものとは異なる技術や事例によって、各自が説明できるようになることが、復習の目安である。
〈第1講〉オリエンテーション
ICTイノベーション入門の全体像の説明と履修方法などのオリエンテーション
今年度は以下の先端4技術について解説する。解説順序については第1講目で行う。

センサー技術(3回)

日常生活に於いて多くのセンサーが利用されている。特に、自動車、機械、航空宇宙、医学、産業およびロボット工学などで重要な位置を占めている。そこで用いられている技術について解説するとともにビジネスでの利活用について学ぶ
キーワード：Kinect,Motion Capture,コンパス

映像・音声技術(3回)

映像や音声技術の活用場面としてProjection Map,「初音ミク」,3D映像などがある。これらは単に部品を組み合わせたのではなく、ストーリー性のもとにさまざまな技術が総合的に組み合わせられている。これらについて講義する。

キーワード：AR

情報通信技術(3回)

ユビキタスやSNSなどの発展に伴い、安定した高速通信網の整備の整備が必須である。これについて講義する。

キーワード：LTE,スマートネット、LED通信

データ加工技術(3回)

twitterやGISなどではさまざまなデータでは多種多様なデー

タを処理する。この技術について解説する。

キーワード：ビッグ・データ

〈第14・15講〉ICTイノベーション技術説明演習①・②

解説された技術について、「あなたの会社の営業担当社員に分かり易く説明できる」ことを目的とするための技術説明書の作成と発表を行うことで、最新技術を理解し、また、その説明力をつける。

■教科書

適宜配布する。

■指定図書

日経ITPro

■評価方法

相対評価

■評価基準

通常点(「出席講義」と「講義レポート」)および期末レポートにより評価する。

通常点：期末レポート＝70：30

■事前履修科目等

なし、

ICTビジネス入門を履修していることが望ましい

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

- ・全回出席を前提とする(何回まで休んでも良いかというような愚問をしないこと)。
- ・ケースの紹介などが多く、途中からの出席では理解できないため、遅刻をしないこと。遅刻は減点対象とする。
- ・新規開講科目のため、受講希望者は、第一回目の講義に出席し、オリエンテーションを受けることを強く推奨する。
- ・春学期のICTイノベーション入門とあわせて受講することを推奨する。
- ・就職先としてICT業界を視野に入れておくためにも、受講を推奨する。

科目名

ICTビジネス入門(情報概論)(Introduction to ICT Business)

担当教員

豊田 裕貴、他

■講義目的

ICT分野では、日進月歩で技術革新が進んでいるものの、必ずしも、技術を高度に進歩させれば(よい技術にすれば)、市場に普及する商品(売れる商品)になるとは限らない。

ICTビジネス入門では、知っておくべきICT技術の解説だけではなく、その技術をビジネスとして展開するためのポイント(商品企画入門)の解説と、企画書(提案書)の書き方、さらにプレゼンテーションについて解説する。

また、いくつかのICTの技術をテーマに、商品企画演習を行い、単なる座学ではなく、技術から考える商品企画について学ぶ。

これらを通じて、職業としてのICTビジネス分野の可能性と魅力について理解し、かつ、その分野での就職を目指す基礎を作るのが本講義の目的である。

■講義分類

顧客理解／ビジネス創造／ビジネスICT

■到達目標

技術をいかにビジネス(商品)化するかにについて、講義事例を学び、その上で、各自が商品開発ならびにその提案書、企画書を書く基礎を身につけることが目標となる。

■講義形態

講義＋レポート[学外学習なし]

■講義の概要

〈第1講〉オリエンテーション

ICTビジネス入門の全体像の説明と履修方法などのオリエンテーション

※以下、第2講から第14講に共通する(予習、復習のポイント)

本講義の最も重要なポイントは、解説される事例や考え方をいかに自分の興味のあるテーマに置き換えて考えるかにある。したがって、予習よりはむしろ復習が重要であり、知識の応用の仕方考えることに力が置かれる。

各回の内容を講義で聞いたものとは異なる技術や事例によって、各自が説明できるようになることが、復習の目安である。

〈第2講〉マーケティングから考えるICTビジネス①

手段目的の連鎖からニーズとシーズの関係把握し、技術のビジネス上の価値を考える視点をマスターする。

〈第3～5講〉知っておくべきICT事例

ICTの代表的な技術や今後注目される技術について、各回2教員が解説する。なお、その技術についての簡単な要約を講義内レポートとし評価に用いることとする。

〈第6講〉マーケティングから考えるICTビジネス②

技術革新(イノベーション)をもとにビジネスを展開する場合に巻き込まれるジレンマが指摘されている。このジレンマ(イノベーションのジレンマ)とは何か、また、マーケティング的にはいかにこのジレンマから抜け出すかを解説する。

〈第7講〉特許情報にみる技術とビジネス

技術情報の最たるものが特許情報であるが、一般にはあまり目にするものではない。ただし、特許情報は、ビジネスを考える上で非常に有効な情報であり、その検索のしかたから読み方までを解説する。

〈第8講〉提案書・企画書の書き方

特許情報の書き方を応用し、技術がどんなニーズを解決するのかを中心にした提案書・企画書の書き方を解説する。最終レポートの書き方に関係するため、欠付しないこと。

〈第9-10講〉ICTビジネスプレゼン事例

実際のICT技術のプレゼンを見て、その商品の特徴をまとめると同時に、そのプレゼンがもっとわかりやすくするには、どうすれば良いと思うかについて検討を加えていく。講義内レポートを予定している。

〈第11-14講〉ICTビジネス企画演習①・②

具体的な2つの技術(講義時に発表)についての説明を聞き、それをもとにした説明資料と提案書を作成する演習を行う。

〈第15講〉優秀プレゼンおよび全体のまとめ

ここまでの優秀なレポートや提案書を選び、プレゼンをしてもらう。その上で、全体のまとめを行う。

■教科書

なし

■指定図書

- ・Christensen, Clayton M. (1997), The Innovator's Dilemma: When New Technologies Cause Great Firms to Fail. Boston, Harvard Business School Press. (クレイトン・クリステンセン 著、玉田俊平太(監修)、伊豆原弓(訳) (2001)『イノベーションのジレンマ—技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』翔泳社)
- ・Clayton M. Christensen, Michael E. Raynor(2003), The Innovator's Solution: Creating and Sustaining Successful Growth, Harvard Business School Press. (クレイトン・クリステンセン 著、マイケル・レイナー 著、玉田俊平太(監修)、櫻井祐子(訳) (2004)『イノベーションへの解 利益ある成長に向けて』翔泳社)

- ・豊田裕貴、菟田文男(2011)『特許情報のテキストマイニング—技術経営のパラダイム転換』ミネルヴァ書房
- ・菟田文男、松島三兒、高橋敏昭、垣内淳、矢野裕裕(2007)『技術と市場ニーズの探索・融合』税務経理協会

■参考文献

講義時に随時紹介する

■評価方法

通常点(「出席講義」と「講義レポート」)および期末レポートにより評価する。

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・新規開講科目のため、受講希望者は、第一回目の講義に出席し、オリエンテーションを受けることを強く推奨する。
- ・全回出席を前提とする(何回まで休んでも良いかというような愚問をしないこと)。
- ・ケースの紹介などが多く、途中からの出席では理解できないため、遅刻をしないこと。遅刻は減点対象とし、10分以上の遅刻入室も認めない(10分後施設します)。
- ・後期のICTイノベーション入門とあわせて受講することを推奨する。
- ・就職先としてICT業界を視野に入れておくためにも、受講を推奨する。

科目名 ITアドミニストレータ[IT Administrator]

担当教員 トランスコスモス

■講義目的

今日の社会では企業での業務に限らず、日常の生活においても情報通信技術(ICT)が欠かせないものとなっており、今後 ICT の必要性はより増していく傾向にある。この科目ではその情報通信技術を、特にコンピュータ基礎知識とネットワーク基礎知識を中心に修得する。尚、本講座を提供するトランスコスモスでは、春学期に「マーケティングのための web 解析技法」「ビジネスソフトウェア活用」の IT 講座を提供しており、これらの講座をトータルに受講することにより、IT の基礎能力を育成し、IT 人材への成長を目指す構成となっている。

■講義分類

ビジネス ICT

■到達目標

- (1) コンピュータの仕組みについて説明できる
- (2) コンピュータの各コンポーネントについて、その役割を説明できる
- (3) ネットワークの通信の仕組みについて説明できる

■講義形態

講義 + GD + GW + PR [学外学習無]

■講義の概要

【第1講】ITとコンピュータ

概要：コンピュータの歴史はデジタルであること学ぶ

事前学習しておくべき用語【2進数、数値変換、ビット、バイト】

詳細：デジタル表現を理解するために2進数について学習し、さらに通常の表現として使用される10進数との相互変換および2進数を簡易的に表現するために覚える16進数との変換を学習する。

【第2講】内部表現

概要：データの表現について学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント【1の補数、2の補数、ASCIIコード】

詳細：すべてが1だけで構成されるコンピュータの内部で数値データ、文字データ、音声・画像データがどのように表現されるのを学習する。

【第3講】論理演算・論理回路

概要：コンピュータの計算の仕組みを学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント【論理和、論理積、真偽値表、ベン図】

詳細：コンピュータの演算装置(加算器)および記憶装置の仕組みを論理演算の考え方を元に学習する。

【第4講】コンピュータの構成

概要：コンピュータを構成する装置(コンポーネント)を学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント【制御装置、演算装置、記憶装置、入出力装置】

詳細：コンピュータを構成する五大要素といわれる制御装置、演算装置、記憶装置、入力装置、出力装置について、その働きを概要を学習する。

【第5講】コンピュータの外部周辺装置

概要：外部記憶装置やコンピュータに接続して利用する周辺装置について学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント【ハードディスク、インタフェース、USB】

詳細：外部記憶装置として利用されるハードディスクやCD、入出力装置であるディスプレイ装置やプリンターについて学習する。

【第6講】オペレーティングシステム

概要：コンピュータの働きを制御、管理する基本ソフトウェア(OS)について学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント【マルチタスク、仮想記憶、ファイルのツリー構造】

詳細：事前学習しておくべき用語やポイント【マルチタスク、仮想記憶、ツリー構造】

オペレーティングシステムの主な役割であるタスク管理、メモリー管理、ファイル管理、デバイス管理等の機能を学習する。

【第7講】表計算とデータベース

概要：ソフトウェアとしてよく利用される表計算ソフトとデータベースについて学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント【RDB、主キー、外部キー】

詳細：ビジネス分野においてよく使われる表計算ソフトウェアについて学習し、さらに膨大な量のデータを管理し取り扱うソフトウェアであるデータベースについてその仕組みを学習する。

【第8講】ネットワーク

概要：ローカルエリアネットワークの構成について学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント【LAN、パケット、トポロジ、プロトコル】

詳細：コンピュータ同士が通信を行なうネットワークの仕組みについて学習し、その形態や通信規格について知識を得る。

【第9講】IPアドレス

概要：インターネットで通信相手特定するためのIPアドレスについて学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント【IPアドレス、サブネットマスク】

詳細：インターネットで使用されているIPアドレスがネットワークアドレスとホストアドレスから構成されていることを学習し、通信相手特定する仕組みを理解する。

【第10講】ネットワーク演習

概要：PCのネットワーク設定について学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント【ローカルエリア接続のプロパティ】

PCを充電して待機すること。詳細：各台のPCにIPアドレスを設定する方法を学び、ホスト間のネットワークの接続の仕組みを体験する。ネットワークの設定演習はグループワークによって行なう。

【第11講】サーバのクライアント

概要：クライアントサーバシステムについて学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント【ポート番号、サーバ、クライアント、URL】

詳細：インターネットで一般的に利用されているクライアントサーバシステムについて、特にDNSサーバ、DHCPサーバ、Webサーバの仕組みについて学習する。

【第12講】ネットワークセキュリティ

概要：ネットワークセキュリティとしてファイアウォールと暗号化について学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント【ファイアウォール、共通鍵方式、公開鍵方式】

詳細：ファイアウォールの一環としてプロキシサーバによるネットワークセキュリティを学習し、さらに通信データを暗号化する技術として共通鍵方式と公開鍵方式を学習する。

【第13講】開発技術

概要：システム開発の流れを学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント【アルゴリズム、基本設計、ウォーターフォール型】

詳細：システムの企画、要件定義、プログラム設計、開発、テスト、運用というシステム開発の概要について学習する。

【第14講】システムの評価

概要：システムの信頼性や可用性、障害対策について学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント【稼働率、MTBF、MTTR、RAID】

詳細：システムの信頼性となる稼働率、平均故障時間、平均修理時間の計算方法を学習し、さらに障害対策としてバックアップ戦略やディスクに冗長性を持たせるRAIDの技術について学習する。

【第15講】企業と、システムエンジニア

概要：ICTにおける法規制および企業の経営戦略、システム戦略について学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント【著作権、変動費、固定費、仕訳、フローチャート図】

詳細：プログラムの著作権および配布形態に関する権利について学習する。また企業の戦略として販売管理、財務管理、工程管理を学習する。

■教科書

『やさしいITスポーツ講座 2013年版』 高橋麻奈香 ソフトバンククリエイティブ

■指定図書

特になし

■参考文献

特になし

■評価方法

評価は、出席率70%以上の者に対し、期末定期試験(100%)により行う。注1)遅刻・早退は欠席扱いとする。電車遅延の際は遅延証明書を提出すること注2)就職活動等による止むを得ない欠席は証明書の提出により3回まで認める

■評価基準

絶対評価

期末定期試験100点満点中40点以上を合格とする絶対評価とする

A+： 90点以上

A： 80点以上 B： 60点以上 C： 40点以上 F： 40点未満

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

私語、飲食、授業と関係のないPC操作、携帯電話操作、帽子・サンダス着用、その他履修態度としてふさわしくない行為を禁止する。また著しく履修態度の悪い者にはその後の出席ならびに期末試験の受験資格を認めないことがある。

科目名 IT マネジメント I [IT Management I]

担当教員 村上 治

■講義目的

ビジネス管理を目指す学生を対象に、経営とITの関わりについてわかりやすく解説する。この講義を通じて、ITは経営と密接に関わっていることを理解してもらうことが狙いである。

ITマネジメントでは「リスクマネジメント」を基本にして、ITという経営ツールをいかに管理すればよいのかをマネジメントシステム(管理のしくみ)の学習を通じて学ぶ。PDCAモデル、ライフサイクルモデル、情報セキュリティマネジメントのマネジメントシステム、事業継続のマネジメントシステム、内部統制のマネジメントシステム、ITサービスマネジメントのマネジメントシステムなどを解説。以上の学習を通して、経営においてITをどのように管理していけばよいのかを考える。難しい話や数式的な話はしないで、楽しく学んでもらえれば幸いである。

■講義分類

☐顧客理解 ☐ビジネス環境理解／☐ビジネス創造
☐ビジネスマネジメント ☐社会人育成／☐グローバルビジネス ☐ビジネスICT ☐地域ビジネス

■到達目標

ITの様々なマネジメント手法を理解できていること。

■講義形態

☐講義のみ 講義＋GD・GW・PR
☐GD・GW・PR ☐その他()
 GD: グループディスカッション
 GW: グループワーク
 PR: プレゼンテーション

■講義の概要

(第1講)講義の概要

概要：講義全体を通して、目的、内容を解説

事前学習しておくべき用語やポイント]

詳細：講義の目的は、企業経営においてITをどのようにマネジメントすべきかを理解すること。講義前半は、現代のマネジメントで基本的な要素となっているリスクマネジメントについて学ぶ。後半はその応用としての様々なITマネジメントの例を学ぶ。

(第2講)リスク

概要：リスクの概念の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[リスク、危険]

詳細：リスクの基本的な定義、リスクと類似の概念などを理解する。具体的なリスクの例からリスクの構成要素が何かを考え、リスクの理解を深める。

(第3講)リスク評価

概要：リスク評価の方法の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[発生確率、結果の重大性]

詳細：リスクを評価する方法をいくつかのパリエーションを通して理解する。実際の事例に基づきリスク評価を行ってみる。

(第4講)インパクト分析

概要：インパクト分析の方法の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[インパクト、ROI]

詳細：リスクとインパクトの違い、リスク管理と危機管理の違いを理解する。事業インパクト分析を通して、インパクト分析の概念、方法を理解する。

(第5講)リスクマネジメント

概要：リスクマネジメントの概念の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[リスク対応、コントロール]

詳細：リスクマネジメントのプロセスを理解する。リスクマネジメントのプロセスにしたがいリスクマネジメントを机上で行ってみる。

(第6講)マネジメントシステム

概要：マネジメントシステムの概念の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[プロセス、システム]

詳細：マネジメントプロセスとマネジメントシステムの違いを理解する。事例をもとに簡単なマネジメントシステムを作ってみる。

(第7講)PDCAモデル

概要：PDCAの概念の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[PD、PDCA]

詳細：PDから発展したPDCAの概念を理解する。事例をもとに簡単なPDCAを机上で行ってみる。

(第8講)ライフサイクルモデル

概要：ライフサイクルの概念の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[SOX]

詳細：ライフサイクルの概念を理解する。ライフサイクルによるプロジェクト管理を、事例をもとに机上で行ってみる。

(第9講)情報セキュリティマネジメント

概要：情報セキュリティマネジメントの概念の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[機密性、完全性、可用性、否認性]

詳細：企業における情報セキュリティマネジメントとは、どのようなものであるかを理解する。情報セキュリティマネジメントにおけるリスク評価の方法を理解する。また情報セキュリティマネジメントの体系とその中での対策の内容を学ぶ。

(第10講)事業継続マネジメント

概要：事業継続マネジメントの概念の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[BCA、BCP]

詳細：企業の危機管理としての事業継続マネジメントとは、どのようなものであるかを理解する。事業継続マネジメントにおける、事業インパクト分析の方法を理解する。また事業継続マネジメントの導入のプロセスを学ぶ。

(第11講)内部統制

概要：内部統制の概念の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[SOX法、J-SOX法、RCM]

詳細：内部統制の概念を理解し、それが必要とされるに至った歴史的背景を解説する。内部統制の体系を理解し、企業は内部統制においてどのような活動をするのかを学ぶ。

(第12講)集約と分散

概要：コンピュータと通信の歴史の中での>集約と分散の変化

事前学習しておくべき用語やポイント[集約処理、分散処理、クラウドコンピューティング]

詳細：現在、クラウドコンピューティングが進展しつつあるといわれているが、これに至るまでのコンピュータと通信の歴史を紐解いていく。

(第13講)ITサービスマネジメント

概要：ITサービスマネジメントの概念の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[ITIL]

詳細：現在、ITビジネスがハード・ソフトの提供から、サービスの提供に変わりつつある。サービス時代のITサービスをマネジメントする方法を、ITILフレームワークを基本に解説する。

(第14講)クラウドIT

概要：ITと環境問題の関係の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[アーキテクチャー、雲・エネルギー]

詳細：環境に優しい言葉と云われてきたIT業界も、環境問題に悩んでいる。IT業界における環境問題への取り組みの状況を解説する。

(第15講)まとめ

概要：半年間の講義を通して、そのポイントを確認する

■教科書

特になし。

■指定図書

特になし。

■参考文献

必要に応じて講義時に指定。

■評価方法

授業内期末試験 75%

出席 25%

■評価基準

相対的評価

■事前履修科目等

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

講義はプロジェクターを使って進める。

科目名 IT マネジメント II (IT Management II)

担当教員 村上 治

■講義目的

ビジネスマンを目指す学生を対象に、経営とITの関わりについてわかりやすく解説する。この講義を通じて、ITは経営と密接に関わっていることを理解してもらうことが狙いである。ITマネジメントIでは「ロジカルシンキング」を基本にして、戦略の策定方法の解説、eビジネスの戦略のケーススタディ、IT戦略の変遷と将来の方向性などの解説を行う。以上の学習を通して、経営においてITをどのように利用していけばよいのかを考える。難しい話や数学的な話はしないので、楽しく学んでもらえれば幸いである。

■講義分類

ビジネスマネジメント／ビジネスICT

■到達目標

ITの様々なマネジメント手法を理解できていること。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉講義の概要

概要：講義全体を通して目的、内容を解説

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：講義の目的は、ITを利用したビジネスの現状と方向性を理解すること。講義前半では、ビジネス戦略を構築するうえで必要な要素となっているロジカルシンキングについて学ぶ。後半はその応用としての様々なITビジネス、IT戦略の現状と方向性を学ぶ。

〈第2講〉コミュニケーション

概要：コミュニケーションの概念の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[コミュニケーション]

詳細：コミュニケーションの基本的な定義、経営戦略とコミュニケーションの関係を理解する。コミュニケーションの構成要素からコミュニケーションがうまくいかない時の問題点を考える。

〈第3講〉MECE

概要：情報の整理の仕方の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[MECE]

詳細：コミュニケーションにおいてメッセージを正しく伝えるためにはMECEの概念が大切である。MECEの概念を理解し、例題によってMECEに情報を整理する演習を行う。

〈第4講〉So What Why So

概要：論理のつながりの理解

事前学習しておくべき用語やポイント[So What, Why So]

詳細：論理の飛躍を防ぐSo What/Why Soの概念を理解する。例題で論理の飛躍のチェックの方法と論理展開の方法を理解する。

〈第5講〉論理パターン

概要：論理構造の概念の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[MECE, So What/Why So]

詳細：MECE、So What/Why Soを組み合わせた論理パターンを理解する。例題によって論理の構造化の演習を行う。

〈第6講〉戦略策定のプロセス

概要：戦略策定のプロセスの理解

事前学習しておくべき用語やポイント[戦略、パレートの法則、ロングテール]

詳細：戦略の定義を理解する。戦略策定のプロセスを理解する。例題をもとに簡単なIT戦略を策定してみる。

〈第7講〉戦略分析のツール

概要：戦略分析のツールの理解

事前学習しておくべき用語やポイント[PPM, Value Chain, Advantage Matrix]

詳細：さまざまな戦略分析のツールを理解する。事例をもとに簡単な戦略分析を机上で行ってみる。

〈第8講〉ITの変遷

概要：ITと経営の変遷を学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント[レガシーシステム、クライアントサーバ、Webシステム]

詳細：ITと経営は密接に関連して発展、変遷してきたことを学ぶ。

〈第9講〉ITと経営戦略

概要：ITと経営戦略の関係を学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント[ERP、SCM、CRM]

詳細：経営戦略発展の歴史を理解する。その中でITと経営戦略が互いに影響し合って発展してきたことを学ぶ。

〈第10講〉セミ・グローバル化

概要：セミ・グローバル化の概念の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[CAGE]

詳細：企業のグローバル化の問題点とその克服に当たっての考え方を学ぶ。

〈第11講〉ITビジネスの現状

概要：現状のITビジネス各社の状況を理解する

事前学習しておくべき用語やポイント[Google、Microsoft、Oracle]

詳細：ITビジネスの現状を理解し、ITビジネスはこれからどこに向かうのか、その将来像を学ぶ。

〈第12講〉クラウド化の波

概要：クラウドコンピューティングの概念の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[クラウドコンピューティング、サービス化]

詳細：現在進展しているクラウドコンピューティングとは何か、またその現状と方向性を学ぶ。

〈第13講〉IT業界の世代交代

概要：IT業界の世代交代とその意味を理解する

事前学習しておくべき用語やポイント[ITIL]

詳細：現在、IT業界の世代交代が進展しているが、その意味と向かっている先には何かあるのかを学ぶ。

〈第14講〉戦略手法の変遷

概要：さまざまな戦略手法とそれらの変遷を学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント[選択と集中、垂直統合]

詳細：さまざまな戦略手法の変遷の状況と、それらが必要とされてきた背景を学ぶ。

〈第15講〉まとめ

概要：半年間の講義全体を通して、そのポイントを確認する。

■教科書

特になし。

■指定図書

特になし。

■参考文献

必要に応じ講義時に指定。

■評価方法

授業内期末試験	75%
出席	25%

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

講義はプロジェクターを使って進める。

科目名 アジア経済I(Economy of Asia I)

担当教員 金 美徳

■講義目的

本講義では、アジアビジネスを学ぶ。今や日本企業は、アジア市場に進出するか、アジアのヒト・モノ・カネ・情報を取り込みにして、生き残れない。換言すれば「ビジネス＝アジア」、「人生＝アジア」の時代だとと言っても過言でない。また、不条理な社会・国際問題を解決し、時代的使命を果たすことによってのみ、持続可能な成長経営モデルとなり得る。したがってアジアなど新興国市場や不条理な社会問題に踏み込む勇気と、アジア・ユーラシアで活躍する国際人材や時代ニーズの産業的解決者、所謂「アジア・グローバル人材」の育成を目指す。このアジア経済圏のエネルギーを取り込むという経済政策的要請と「アジア・グローバル人材」の育成という教育的要請に答えることが、就職活動への一歩の近道と信じている。本講義のキーワードは、アジア・ユーラシアダイナミズム、アジア戦略、アジア情報、アジア企業、アジア市場、アジア消費、アジアマーケティング、中小・ベンチャー企業のアジアへの販路拡大、アジア企業やアジア観光客の日本観、新興国ビジネスモデル、アジアの知恵と日本の知恵の融合、地政学的知と地政学的戦略、アジアマインド、アジアセンス。アジア経済ではアジア域内経済連携に、アジア経済IIではアジア域外経済連携に、重点を置く。

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / ビジネス創造 / ビジネスマネジメント / 社会人力育成 / グローバルビジネス /

■到達目標

- ①アジアの政治外交・経済ビジネス・文化社会に関する基礎的な知識・理論を習得する。
- ②アジア発の国際情報の収集力・分析力・発信力を身に付ける。
- ③アジアの潮流・論理・視点に基づく経営戦略力やビジネスモデル構築力の向上を図る。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〔第1講〕アジア経済Iガイダンス

事前学習しておくべき用語やポイント: アジアに関する情報を図書館・本屋や新聞・ネットで探す

〔第2講〕アジアの地政学的立地

事前学習しておくべき用語やポイント: 日本の周辺国(中国・韓国・ロシア・モンゴル・北朝鮮)の経済規模について調べる。

〔第3講〕アジアの歴史

事前学習しておくべき用語やポイント: アジアの歴史について調べる。

〔第4講〕アジアの政治経済関係(1)日本と韓国

事前学習しておくべき用語やポイント: 韓国の政治経済概況について調べる。

〔第5講〕アジアの政治経済関係(2)日本と中国

事前学習しておくべき用語やポイント: 中国の政治経済概況について調べる。

〔第6講〕アジアの政治経済関係(3)日本とロシア

事前学習しておくべき用語やポイント: ロシアの政治経済概況について調べる。

〔第7講〕アジアの政治経済関係(4)日本とモンゴル

事前学習しておくべき用語やポイント: モンゴルの政治経済概況について調べる。

〔第8講〕アジアの政治経済関係(5)日本と北朝鮮

事前学習しておくべき用語やポイント: 北朝鮮の政治経済概況について調べる。

〔第9講〕アジアの政治経済関係(6)中国とロシア

事前学習しておくべき用語やポイント: 中露関係について調べる。

〔第10講〕アジアの政治経済関係(7)中国と韓国

事前学習しておくべき用語やポイント: 中韓関係について調べる。

〔第11講〕アジアの政治経済関係(8)中国と北朝鮮

事前学習しておくべき用語やポイント: 中朝関係について調べる。

〔第12講〕アジアの政治経済関係(9)中国とモンゴル、ロシアとモンゴル、韓国とモンゴル、モンゴルと北朝鮮

事前学習しておくべき用語やポイント: 中露蒙3カ国関係について調べる。

〔第13講〕アジアの政治経済関係(10)韓国とロシア、韓国と北朝鮮、ロシアと北朝鮮、

事前学習しておくべき用語やポイント: 中韓露朝4カ国関係について調べる。

〔第14講〕アジアの問題点と課題

事前学習しておくべき用語やポイント: アジアの問題点と解決策について調べる。

〔第15講〕アジア戦略レポートテーマの発表

事前学習しておくべき用語やポイント: テーマ、理由、自決

■教科書

『韓国企業だけが知っている日本企業没落の真実-日本再浮上27核心-』(金美徳、中経出版、2013年)

『図解 韓国四大財閥早わかり』(金美徳、中経出版、2012年)

『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか-新興国ビジネス最新線-I』(金美徳、PHP新書、2012年)

■指定図書

『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』

(寺島実郎、NHK出版、2012年)

『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP新書、2011年)

『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年)

■参考文献

随時、関連資料を配布する。

■評価方法

評価は、出席(35%)、毎回提出の講義メモ(35%)、最終レポート(30%)、質問・意見(+10%)により行う。

■評価基準

- ①相対評価である。
- ②出席と毎回提出する講義メモを重視(35%+35%=70%)する。
- ③講義メモは、最低限の記述内容が記載されていない場合は、減点する。また、採点后、講義の最終段階で返却する。
- ④戦略レポート(30%)は、A4用紙2枚以上とする。尚、図表の活用や枚数が増える場合は、積極的に評価する。15回の講義終了後、指定された提出期限までに提出すること。
- ⑤質問意見(+10%)は、講義への積極的な参加・貢献として評価し、発言回数に基づいて1%~10%の評価を加える。
- ⑥評価点110% (出席35%+ 講義メモ35%+ レポート30%+ 質問意見10%)のうち70%未満は、不合格とする。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

- ①携帯電話・パソコン・音楽イヤホン、使用を禁止する。
- ②私語、帽子着用、飲食は、禁止する。
- ③遅刻および途中退室は、厳禁とする。途中退室は、必ず入退室を記録(日付・時間・学籍番号・氏名)すること。また、大幅な減点を行う。虚偽記録をした場合は、不合格扱いとする。
- ④就職活動による欠席は、公平性を保つため欠席扱いとする。
- ⑤講義メモの不正提出は、即刻、不合格とする。友人への提出依頼や欠席したにも関わらず講義終了時に提出するなどの行為。
- ⑥戦略レポートの不正提出は、不合格とする。友人のレポートのコピーや現代中国論など他科目のレポートを提出する行為。

科目名 アジア経済II[Economy of Asia II]

担当教員 金 美徳

■講義目的

本講義では、アジアビジネスを学ぶ。今や日本企業は、アジア市場に進出するか、アジアのヒト・モノ・カネ・情報を取り込まずには、生き残れない。換言すれば「ビジネス=アジア」、「人生=アジア」の時代代と言っても過言でない。また、不条理な社会・国際問題を解決し、時代的使命を果たすことによってのみ、持続可能な成長経営モデルとなり得る。したがってアジアなど新興国市場や不条理な社会問題に踏み込む勇気と、アジア・ユーラシアで活躍する国際人材や時代ニーズの産業的解決者、所謂「アジア・グローバル人材」の育成を目指す。このアジア経済圏のエネルギーを取り込むという経済政策的要請と「アジア・グローバル人材」の育成という教育政策的要請に答えることが、就職活動への一歩の近道と確信している。本講義のキーワードは、アジア・ユーラシアダイナミズム、アジア戦略、アジア情報、アジア企業、アジア市場、アジア消費者、アジアマーケティング、中小・ベンチャー企業のアジアへの販路拡大、アジア企業やアジア観光客の日本認知、新興国ビジネスモデル、アジアの知恵と日本の知恵の融合、地政学的知と地政学的戦略、アジアマイノリティ、アジアセレス。アジア経済IIではアジア域内経済連携に、アジア経済IIではアジア域外経済連携に、重点を置く。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人育成／グローバルビジネス

■到達目標

- ①アジアの政治外交・経済ビジネス・文化社会に関する基礎的な知識・理論を習得する。
- ②アジア発の国際情報の収集力・分析力・発信力を身に付ける。
- ③アジアの潮流・論理・視点に基づく経営戦略力やビジネスモデル構築力の向上を図る。

■講義形態

講義のみ[学外学習なし]

■講義の概要

〈第1講〉アジア経済II ガイダンス

事前学習しておくべき用語やポイント: アジアに関する情報を図書館・本屋や新聞・ネットで探す。

〈第2講〉アジアの地政学的立場

事前学習しておくべき用語やポイント: 日本の周辺国(中国・韓国・ロシア・モンゴル・北朝鮮)の経済規模について調べる。

〈第3講〉アジアの歴史

事前学習しておくべき用語やポイント: アジアの歴史について調べる。

〈第4講〉アジアと安全保障

事前学習しておくべき用語やポイント: アジアの平和について調べる。

〈第5講〉アジアとエネルギー・資源・環境・農業

事前学習しておくべき用語やポイント: アジアのエネルギー・環境について調べる。

〈第6講〉アジアと生産・物流ネットワーク

事前学習しておくべき用語やポイント: アジアの国際物流(陸海空)について調べる。

〈第7講〉北東アジア

事前学習しておくべき用語やポイント: 北東アジアの政治経済概況について調べる。

〈第8講〉東南アジア

事前学習しておくべき用語やポイント: 東南アジア(アセアン)の政治経済概況について調べる。

〈第9講〉南西アジア

事前学習しておくべき用語やポイント: インドの政治経済概況について調べる。

〈第10講〉アジア大洋州

事前学習しておくべき用語やポイント: オーストラリアの政治経済概況について調べる。

〈第11講〉アジアと米国

事前学習しておくべき用語やポイント: 米国の政治経済概況について調べる。

〈第12講〉アジアと中南米

事前学習しておくべき用語やポイント: 中南米の政治経済概況について調べる。

〈第13講〉アジアと欧州

事前学習しておくべき用語やポイント: EUの政治経済概況について調べる。

〈第14講〉アジアと中東・アフリカ

事前学習しておくべき用語やポイント: 中東・アフリカの政治経済概況について調べる。

〈第15講〉アジア戦略レポートテーマの発表

事前学習しておくべき用語やポイント: テーマ、理由、目次

■教科書

『韓国企業だけが知っている日本企業没落の真実-日本再浮上27核心-』(金美徳、中経出版、2013年)

『図解 韓国四大財閥早わかり』(金美徳、中経出版、2012年)

『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか-新興国ビジネス最前線-』(金美徳、PHP 新書、2012年)

■指定図書

『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK 出版、2012年)

『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP 新書、2011年)

『世界を征服する力』(寺島実郎、PHP 新書、2010年)

■参考文献

随時、関連資料を配布する。

■評価方法

評価は、出席(35%)、毎回提出の講義メモ(35%)、最終レポート(30%)、質問・意見(+10%)により行う。

■評価基準

①相対評価である。

②出席と毎回提出する講義メモを重視(35%+35%=70%)する。

③講義メモは、最低限の記述内容が記載されていない場合は、減点する。また、採点后、講義の最終段階で返却する。

④戦略レポート(30%)は、A4用紙2枚以上とする。尚、図表の活用や枚数が増える場合は、積極的に評価する。15回の講義終了後、指定された提出期限までに提出すること。

⑤質問意見(+10%)は、講義への積極的な参加・貢献として評価し、発言回数に基づいて1%~10%の評価を加える。

⑥評価点110%(出席35%+講義メモ35%+レポート30%+質問意見10%)

のうち70%未満は、不合格とする。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

①携帯電話・パソコンは、使用を禁止する。②私語、帽子着用、飲食は、禁止する。③遅刻および途中退室は、厳禁とする。途中退室は、必ず入退室を記録(日付・時間・学籍番号・氏名)すること。また、大幅な減点を行う。虚偽記録をした場合は、不合格扱いとする。④就職活動による欠席は、公平性を保つため欠席扱いとする。⑤講義メモの不正提出は、即刻、不合格とする。友人への提出依頼や欠席したにも関わらず講義終了時に提出するなどの行為。⑥戦略レポートの不正提出は、不合格とする。友人のレポートのコピーや現代中国論など他科目のレポートを提出する行為。

科目名

English ExpressionⅠ〔English ExpressionⅠ〕

担当教員

中村 その子、他

■講義目的

経営と情報に開かれた様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効果的なコミュニケーションを図れるようになる。最初は自己紹介、自由時間の過ごし方好きなど、自分の長所や短所、成功体験、失敗談など語るところから始め、スモールトークや日常会話を円滑に行えるようになる。徐々に、7PMバイトやボランティア活動、自分の住んでいる町の特徴などについて話す練習、ものごとの起源やプロセスを説明する練習に切り、英語力の社会的な幅を広げて行きたい。また、単なる和文英訳的な会話をすることに終わらず、なんらかの調査や研究を行って自分の考えをまとめ、それを英語で学生同士話し合ったり、プレゼンテーションとして発表する場も設ける予定である。グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーションなどの活動を重視し、産業界の最新時事例や問題解決シミュレーションなども積極的に取り入れる。大学の学びでは、学習したものを自分なりにまとめて、自分の将来に向けて活用できるようにすることも必要である。経営と情報に開かれた様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効果的なコミュニケーションを図れるようになる。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／グローバルビジネス

■到達目標

経営と情報に開かれた様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効果的なコミュニケーションを図れるようになる。以下がこの授業のゴールとなる。

- (1) 自分たちの意見、考え方、アイデアをしっかりとした形で伝え、理解できる＝ 発信
- (2) 相手からの発言を正確に理解し、状況に応じて的確な処理を行える＝ 受信
- (3) 自分が必要な情報(WEB/論文をはじめとする資料や文献等)を検索し、内容を読み取って利用できる＝ 情報理解
- (4) 社会的問題をビジネスの現場で解決していく力の一つとして英語でのコミュニケーション能力を身につける

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

〈第1・2講〉自己紹介 ～～ でも普通の自己紹介では印象に残りません。アピール

度を増すためのちょっとしたスバイスを加えよう。

以下のモデル文を参考に、お互い実際に自己紹介、他人紹介をします。

How do you do? Nice to meet you.

My name is Taro (Tama) and I am from Hachioji, Tokyo.

Please call me Taro.

I am 18 years old. There are 5 people in my family, my father, my mother,

my brother, my sister and me. I have a pet dog whose name is Pochi.

In my free time, I enjoy listening to Japanese pops and playing football (soccer).

My favorite foods are Korean barbecue (焼肉) and Pizza.

I'm a big fan of Ronaldo and SMAP.

My favorite school subject (科目) is history, and my least favorite is science.

In English Expression, I would like to talk with my friends and EE teachers in as much as possible and study how to make a presentation in English.

(In Tama University, I would like to study marketing and accounting (会計) and join the

soccer club.)

In the future, (After graduating from Tama University) my goal is to set up a travel agency (旅行会社を設立する).

I also have a dream of building the largest theme park in the world.

(世界で一番大きいテーマパークを建設する)

I look forward to studying with you at Tama University.

〈第3講〉以下の教室英語表現を学び、英語で英語を学ぶ世界を体験すると同時に、下記の表現の中に隠れている表現文型を学びます。

- 1) Excuse me! / Pardon? / Sorry!
- 2) How do you say _____ in English?
- 3) How do I spell _____?
- 4) What does _____ mean?
- 5) How do you pronounce this/that?
- 6) Could you repeat that please? / Could you say that again? / What did you say?
- 7) I'm not sure what to do. / Could you tell me what to do?
- 8) I have a question. / Could I ask a question?
- 9) Could I go to the restroom?
- 10) I don't understand.

- 11) I don't know.
- 12) Do you have a partner?
- 13) Let's be partners.
- 14) Could you please explain _____?
- 15) Could you please slow down?
- 16) Could you please speak up?
- 17) I'm sorry I'm late.
- 18) I overstept.
- 19) I missed the train.
- 20) The train/bus was delayed.
- 21) I was sick. / I had to go to the hospital.
- 22) What is the assignment/homework?
- 23) When is the assignment/homework due?

〈第4講〉スモールトークは、人間関係を円滑に進め、スムーズなコミュニケーションを行うための「世間話」です。世間話と言っても、もしなくてもよいくだらないしゃべりではなく、その人の社会での人間力を左右するものです。上手にスモールトークができることはビジネスパーソンの必須要素の一つでもあります。相手とどここの話の入りであれ、お互いの理解と親近感を深め、ひいてはビジネスを成功させる重要な要素でもあるのです。基礎的なスモールトーク表現を学び、さらに初回からの相手にいい印象を与える練習をします。

〈第5講〉スモールトークの話題としては、天気、旅行、スポーツ、音楽、映画、芸術、などが無難だと考えられています。これらの話題について話す練習を取り入れ、さらにスモールトーク力を磨きます。

〈第6・7講〉あななのイケていることとイケないこと → 長所と短所を語る

自分、もしくは他人の性格を語る表現を学び、人間の内面、長所と短所を語る練習をします。これは将来、英語で面接を受ける時の準備でもあり、またそこから発展させて、同じく定番質問である Tell me about yourself に対する答えとなり、英語の面接に必要な基礎表現を同時に学びます。

〈第8・9講〉あななたがの自慢者になってしまったら、あなだが英語プレゼンテーションで商品紹介をするなら、という想定で人間の外見描写、モノの形状・機能・特徴描写の表現を学びます。以下のような表現を取り上げます。

Introduce your new products

Today I take great pleasure in introducing our new electric fan called Ecofan. Let me tell you about some of the features of this new product.....

〈第10・11講〉自由時間の過ごし方とあなたが好きなもの、こだわっているものを語ります。単に語るだけでなく、自分のこだわりや、自分が好きなものの魅力を他の人にもわかりやすく（語るコツと表現を学びます。インターネット上のブログやTwitter、Facebook など自分のことについて発信することを見据えた授業活動です。

〈第12講〉映画、ドラマ、アニメーション、小説、などストーリーのあるものの内容（あらすじ）を語る練習をします。これは自分では知っているけれど、他人には知らないストーリーをわかりやすく、かつ魅力的に語る練習です。

〈第13講〉ものごとの手順と英語で説明する練習をします。英語で指示を出す、指示を受ける、という状況に的確に対処できるようになるための学習項目です。PCへのソフトのインストール、ソフトの使用法、トラブルシューティングなどが主要なものになりますが、PC関係には特にこだわらず、学生から要望も集めて授業内容に決めに行きます。料理やお菓子の作り方、日常生活のちょっとしたアイデア技、問題テクニクなどみなさんからの提案を歓迎します。

〈第14・15講〉幅広いスピーチテスト、および聴取試験

■教科書

TOPIC TALK ISSUES EFL Press を予定（ただし変更があった場合は第1回目の授業で告知します）。

■評価方法

出席	20%	授業内小テスト	20%
宿題	20%	中間テストおよび期末テスト	40%

■評価基準

上記要素を合算した100%を100点に換算し、
60点～69点 C 70点～79点 B
80点～89点 A 90点～100点 A+とする。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

指定されたクラスに履修登録をして出席すること。

科目名

English ExpressionII(English Expression II)

担当教員

中村 その子、他

■講義目的

経営と情報に關した様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効率的なコミュニケーションを図れるようにする。

最初は自己紹介、自由時間の過ごし方と好きなこと、自分の長所や短所、成功体験、失敗談などを語るところから始め、スモートークや日常会話を円滑に行えるようにする。徐々に、アルバイトやボランティア活動、自分の住んでいる町の特徴などについて話す練習、ものごとの起源やプロセスを説明する練習に移り、英語力の社会的な幅を広げて行きたい。

また、単なる和文英訳的な会話をするに終わらず、なんらかの調査や研究を行って自分の考えをまとめ、それを英語で学生同士話し合ったり、プレゼンテーションとして発表する場合も設ける予定である。グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーションなどの活動を重視し、産業社会の最新事例や問題解決シミュレーションなども積極的に取り入れる。大学の学びでは、学習したものを自分なりにまとめて、自分の将来に向けて活用できるようにすることを必須である。経営と情報に關した様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効率的なコミュニケーションを図れるようにする。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／グローバルビジネス

■到達目標

経営と情報に關した様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効率的なコミュニケーションを図れるようにする。以下がこの授業のゴールとなる。

- (1) 自分たちの意見、考え方、アイデアをしっかりと形で伝え、提案できる = 発信
- (2) 相手からの発信を正確に理解し、状況に応じて的確な処理が行える = 受信
- (3) 自分が必要な情報(WEB/論文をはじめとする資料や文献など)を検索し、内容を読み取って利用できる = 情報理解
- (4) 社会の課題をビジネスの現場で解決していく力の一つとして英語でのコミュニケーション能力を身につける

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

〈第1講〉

今までの成功体験と恥ずかしい失敗談

自分の経験を感想を交えて生き生きと英語で語る練習をします。この練習では、英語の時刻と感想・感情表現を中心に学びます。自分や経験談・エピソードを、ユーモアも交えて魅力的に語れるようにすると同時に、他の人の経験談・エピソードを聞いたときに、ふざけた意味ではなく上手に「突っ込んで」場を盛り上げるテクニックも身につけます。

〈第2講〉

第6講の続きとして、次は一番嬉しかったこと、腹が立ったことを語りますが、今度は個人的なことではなく、自分が客として利用した会社やお店の顧客サービスについて語ります。これにより、エピソードを語る技術に加えて、基礎的な顧客サービスに関する英語表現も習得することができます。

〈第3講〉

慣用句やその他の事物の起源、使用プロセス、理由を語るプチプレゼンテーション。何らかのビジュアル(現物も含めて)を効果的に見せながら上記を人前で語る練習をします。プレゼンテーションに必要な英語表現だけでなく、姿勢、アイコンタクト、声の調子、ジェスチャー、聴衆をひきつけるその他の工夫など付随した技術も学びます。

〈第4・5講〉

あなたの住んでいる(またはふるさとの)町について語ります。ただ単に説明するだけでなく、市民としての目線をもって、その町の歴史や風土、行政(サービス)、産業、

住民の性質、その他いろいろな特徴、を語ります。ちょうどテレビの旅行紀行番組を作るような気持ちになって自分の町を語ります。次に、もし自分が町を改善、開発、PRするとしたら、またビジネスを始めるとしたらどのようにするか(ビジネスチャンスの発見)について考え小さいプレゼンテーションを行います。

(例、あなたの住んでいる町にパン屋を作るとしたらどんな店？

住民はどんな会社かどんな商品、サービスを提供してくれることを望んでいる？住民はどんな行政サービスを望んでいる？

〈第6・7講〉

コココーラVSペプシ 明治VS森永 カルビーVS湖池屋

永遠のライバル対決に終止符を打つのはキミだ！ ブライントースティングで勝負！自分の味覚を英語で表現する練習から始め、そのあと、アンケート作成、実施、集計、販売計画立案など一連の販売促進活動をシミュレーションし、必要な英語表現

〈第10・11講〉

アイスクリーム新商品開発。

市場リサーチと分析、アンケート作成と実施、結果分析、企業見学、新製品開発、プレゼンテーション、コマercial(キャッチコピー)作成、販売促進戦略作成、などの一連の活動を英語で行います。

〈第12講〉

コンビニエンスストアにはよく行きますか？

～～～大手のコンビニエンスストアを比較して、それぞれの特徴について考えてみましょう。

その結果を友達と話し合い、プレゼンテーションにまとめてみましょう。誰も気づかなかったコンビニエンスストアの秘密、発見できるかもしれません。

〈第13講〉

最近、流行しているものについて調べ、それが流行した原因から現在の状況に至るまでのプロセスを説明しましょう。自分なりの分析や、ユニークな視点なども加えるように心がけてください。また、成功している外食産業、旅行代理店、お肉屋さん、美容院、などなど、そしてそれらのお店の独自のアイデアを調べ、その秘訣を英語で話したり、書いて行ってみましょう

〈第14・15講〉

総まとめのスピーチテストと期末テスト

■教科書

TOPIC TALK ISSUES EFL Press を予定 (ただし変更があった場合は)

第1回目の授業で告知します。

■評価方法

出席	20%	授業内小テスト	20%
宿題	20%	中間テストおよび期末テスト	40%

■評価基準

上記要素を合算した100%を100点に換算し、

60点～69点 C

70点～79点 B

80点～89点 A

90点～100点 A+

とする。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

指定されたクラスに履修登録をして出席すること。

科目名

English ビジネスコミュニケーション〔English Business Communication〕

担当教員

飯田 健雄

■講義目的

英語力を単なる英会話、資格獲得や知識教養として捉えるのではなく、実際のグローバル・ビジネスで活かせる英語コミュニケーションのあり方を講義していく。

■講義分類

グローバルビジネス・国際経営

■到達目標

グローバル人材とみなされるような実践的コミュニケーション方法を獲得する。

■講義形態

講義形式で適宜、演習方式をとる。〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉ビジネス英語が必要とされる理由

詳細：日本企業は、1970年代から国際化を進め、2000年代には、多くの大企業・中堅企業で、売上高が国内より海外の比率が高まった。2010年代からは、本社ベースでの外国人正規従業員の大量採用も行われ、英語を使用する機会が増している。ネットのビジネスでも英語を使用する機会が飛躍的に増えている。

事前学習のポイント 日本の上場企業の国内売上高と海外売上高を時系列的に比較してみよう。

〈第2講〉ビジネス英語と一般英会話の違い

詳細：ビジネス英語は一般英会話と違って、話題の集中と仕事への責任を生ずる。ここでは、その違いについて詳述していきたい。

事前学習のポイント 一般英会話は非常に難しいです。その理由を考えてみよう。

〈第3講〉ビジネス英語の諸分類

詳細：ビジネス英語でも、そのカテゴリーは4つに峻別できる。ひとつひとつのカテゴリーを説明していく。

事前学習のポイント 経営学で使われる英語と通常のビジネスで使われる英語では違いがあるのか考えてみよう。

〈第4講〉準拠集団と異文化経営

詳細：準拠集団とは、その人が属する集団・国家をさす。準拠集団は、その人考える思考枠といえてよい。そのために、本能的に英語を解釈するので、英語圏の人々とコミュニケーションをとる時に思わぬ誤解が生じる。その誤解例と原因を述べていきたい。

事前学習のポイント 準拠集団は社会学用語であるが、この言葉の意味を検索してみよう。

〈第5講〉仕事本位の英語を学ぶ

詳細：仕事本位の英語がビジネス英語である。時間が限られているビジネス・パースンがいかにか効率的にビジネス英語を会得できるかについて講義していく。

事前学習のポイント 一度、就職すると、勉学する機会が難しくなると言われるが、社会人の方々に、「勉強する環境作り」がいかにか難しいかを聞いてみよう。

〈第6講〉英語学習不安症からの脱却

詳細：ビジネス英語の学習を始めるにあたって、何から初めていいのか、戸惑う人々は多く存在する。そのような、不安やコンプレックスを取り除くテクニックについて解説していきたい。

事前学習のポイント なぜ、語学学習が苦手な人々が多いか、自分を分けて考えてみよう。

〈第7講〉学習の継続性問題

詳細：「継続は力なり」という格言にも関わらず、語学学習からたやすく脱落してしまう人々が多い。どのように、英語学習に関して自分自身を動機付け、継続性を維持できるかについて焦点をあてていきたい。

事前学習のポイント 動機付けの継続性は一般的に難しいが、自分の継続しているスポーツや習い事の継続させている動機付けを考えてみよう。

〈第8講〉TOEIC トレードマークの長所と短所

詳細：TOEICは英語検定と違って受験する人々が多い。就職や昇進にも大きなポイントとなる。一方で、丁々発止のビジネスの中で本当にTOEICで得た知識が縦横無尽に活用できるのかについて考えていきたい。

事前学習のポイント TOEICの本を図書館でみて、自分がどれだけとれるか考えてみよう。図書館には100冊に近いTOEIC関連本が蔵書されている。

〈第9講〉ビジネス英語研修での問題点

詳細：ビジネス研修を企業側が行う場合の注意点を探り出していく。ネイティブ教師であれば誰でもいいのか。テキストに問題はないのか。講義内容についても批判的な考察をしていきたい。

事前学習のポイント 語学の先生で、「この先生は教え方がうまい！」と感じた時、その理由を思い出してみよう。

〈第10講〉コーチングとビジネス英語

詳細：コミュニケーションとは、単に知識・情報のやりとりだけではない。殊に、ビジネスに関すれば、人間関係の構築もビジネス成功への大きな要素となる。コーチングを使用したビジネス表現を考えていきたい。

事前学習のポイント 図書館にコーチングの本が50冊近くあります。一度、「コーチングとは何か」に関連本を借りて下さい。

〈第11講〉英語プレゼンテーションの技術

詳細：プレゼンテーションとは報告会や発表会ではない。プレゼンターを通した製品の売り込みや研究成果を聴衆に納得させるテクニックである。ここでは、英語圏の人々へのプレゼンテーションの成功テクニックについて考察していきたい。

事前学習のポイント NHKの教育テレビ番組ではプレゼンテーション番組、TEDを放映しています。一度、プレゼンテーションのプロの手法をみて下さい。

〈第12講〉英文Eメールについて

詳細：ネイティブとやり取りするビジネスEメールは、高校受験や大学受験での英文文とは違います。また、日本的感覚で書くと、全く相手に通じるところが、誤解をも与えてしまいます。簡単な英文Eメールを作ってみましょう。

事前学習のポイント

<13講>会議の英語について

詳細：英語での会議の仕切り方、発言の仕方を学びましょう。日本人にとって、直截に言いづらいYes, Noの表現方法も学んでいきましょう。

事前学習のポイント KYとは、日本語では侮蔑に近い言葉ですが、欧米圏では、どうなのでしょう。「会議で何もいわない」ことは英語圏では美德かどうか考えてみましょう。

〈第14講〉電話の英語について

詳細：簡単な英会話はできるけれど、電話は怖くて、ネイティブに掛けられないという人は多いはず。ここでは、電話で自分の意志を最低でも伝えられる表現を学んでいきましょう。

事前学習のポイント 「〇〇さんをお願いします」この言い方を、英語を使って、電話でなんと表現するかを事前に調べてみてください。

〈第15講〉まとめ

詳細：英語での「ビジネス・コミュニケーションとは何か」もう一度、再考察していきます。

■教科書

適宜指定する。

■指定図書

飯田健雄『現場英語』桐原書店、2006年。

■参考文献

鈴木孝夫『日本人はなぜ英語ができないか』、岩波新書、1999年。

■評価方法

期末定期試験(70%)、出席(30%)

■評価基準

評価は相対評価で、A+, A, B, C, Fとなる。

■事前履修科目等

NHKのテレビ・ラジオの英語語学番組を聞く習慣をつけていこう。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する。

■留意点

講義中に講義内容に疑問点があれば、積極的に、その場で質問していこう。

科 目 名 インターンシップⅠ(Internship Ⅰ)

担当教員 浜田 正幸

■講義目的

- 1.職場での実務体験を通して、しっかりとした職業観、労働観形成のきっかけとする。
- 2.関心のある業界・職種の実態を知り、将来の職業選択に役立たせる。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人育成／地域ビジネス

■到達目標

インターン受け入れ会社の担当者から、社会人としての最低限の及第点を得られることが目標。

■講義形態

〔学外学習有〕

<実施期間等>

- 1.実施期間 3年生の8月1日から9月30日の2ヶ月間(2週間程度から企業側と個々に期間を決める)
- 2.派遣方法 1)実習希望学生を募り、受け入れ企業の説明会を行う。
- 2)学生から希望企業を申し出させ、大学側で面談の上、派遣。
- 3.賃金、交通費は企業負担。賃金は各企業の意向で支給する場合もあるし、支給しない場合もある。
- 4.企業、学生との窓口 実務上の責任者は浜田とし教務課が窓口となる。
- 5.具体的な実習内容は、各派遣先からの指示による。

■教科書

特になし。

■指定図書

特になし。

■参考文献

特になし。

■評価方法

- 1.企業側の提出する評価および実習者本人の提出する実習報告書の内容により100%評価。
- 2.企業提出の評価では、実習中の態度(遅刻・欠勤の状況、仕事の理解度、コミュニケーション能力、仕事に対する積極的な態度等)や仕事の内容で、絶対評価。

■評価基準

実習報告書では実習内容のレベル、実習に対する取組み、姿勢および報告書のまとめ方、書き方を重視する。

■留意点

- 1.説明会に参加すること。
- 2.春学期の事前講義の受講が必須である。インターンシップを考えている学生は、春学期の登録に注意すること。
- 3.秋の履修登録の際に登録すること。

科目名 インターンシップⅡ(Internship Ⅱ)

担当教員 浜田 正幸

■講義目的

- 1.職場での実務体験を通して、しっかりとした職業観、労働観形成のきっかけとする。
- 2.関心のある業界・職種の実態を知り、将来の職業選択に役立たせる。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／地域ビジネス

■到達目標

インターン受け入れ会社の担当者から、社会人としての最低限の及第点を得られることが目標。

■講義形態

〔学外学習有〕

<実施期間等>

- 1.実施期間 3年生の8月1日から9月30日の2ヶ月間(2週間程度から企業側と個々に期間を決める)
- 2.派遣方法 1)実習希望学生を募り、受け入れ企業の説明会を行う。
- 2)学生から希望企業を申し出させ、大学側で面談の上、派遣。
- 3.賃金、交通費は企業負担。賃金は各企業の意向で支給する場合もあるし、支給しない場合もある。
- 4.企業、学生との窓口 実務上の責任者は浜田とし教務課が窓口となる。
- 5.具体的な実習内容は、各派遣先からの指示による。

■教科書

特になし。

■指定図書

特になし。

■参考文献

特になし。

■評価方法

- 1.企業側の提出する評価および実習者本人の提出する実習報告書の内容により100%評価。
- 2.企業提出の評価では、実習中の態度(遅刻・欠勤の状況、仕事の理解度、コミュニケーション能力、仕事に対する積極的な態度等)や仕事の内容で、絶対評価。

■評価基準

実習報告書では実習内容のレベル、実習に対する取組み、姿勢および報告書のまとめ方、書き方を重視する。

■留意点

- 1.説明会に参加すること。
- 2.春学期に事前講義の受講が必須である。春学期の登録に注意すること。
- 3.秋の履修登録の際に登録すること。

科 目 名 Web サービス開発〔Web Service Building〕**担当教員** 彩藤 ひろみ**■講義目的**

Webデザインを習得した後、Webプログラミングの前身になる科目として、Webサービス開発を学んでもらう。世の中に散らばる様々なデータを自動で(プログラミングで)集めてきて、使いやすい形にまとめる。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成

■到達目標

XML形式のデータ構造が理解できること。応用Webプログラミングが出来るようになること。クラウドコンピュータの概念を理解し、自由に使えるような自信をつけること。Webサービス開発の新しい提案ができること。

■講義形態

講義＋PR〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉

講義の流れの説明 XMLについて説明

アマゾン(<http://www.amazon.com>)利用の練習

〈予習、復習のポイント〉

WEBサービス開発という言葉を検索してみる

〈第2講〉

XMLについての理解 XML(eXtended Markup Language)の考え方と利点について

〈予習、復習のポイント〉

アマゾンのWebサービスの仕組みについて事前調査。

〈第3講〉

サービスの提供 アマゾンのWebサービスを利用して、自分で新しいWebページを組み立てるにはどうしたらいいか。

〈予習、復習のポイント〉

実際にWebサービス開発する場合、何をセレクトするか、いくつか実験をおこなう

〈第4講〉

世の中(インターネット上)に散らばっているデータをいかに集めて整形して提示するか

〈予習、復習のポイント〉

インターネット上に散らばっていると思われるデータを調査する

〈第5講〉

デザイン実践。

〈予習、復習のポイント〉

Webデザインの復習と自分が作成したいページイメージのデッサン

〈第6講〉

大量データを扱う企業を調査

〈第7講〉

Google研究

〈予習、復習のポイント〉

Googleについて調査。

〈第8講〉

Google提供のWebサービス開発について

〈予習、復習のポイント〉

Googleサイトの調査。

〈第9講〉

プログラミングの基本と実際

〈予習、復習のポイント〉

Webプログラミングの復習

〈第10講〉

クラウドコンピュータについて

〈予習、復習のポイント〉

クラウドコンピュータについて調査

〈第11講〉

Twitter利用方法(Webサービス開発との関連で)

〈予習、復習のポイント〉

Twitterについて調査

〈第12講〉

プログラミング応用と実際

〈予習、復習のポイント〉

最終課題準備

〈第12講〉

グループミーティング。

フローチャートの作成

〈予習、復習のポイント〉

最終課題準備

〈第13講〉

仮発表

〈予習、復習のポイント〉

最終課題準備

〈第14講〉

仮発表

最終課題準備

〈第15講〉

プレゼンテーション。授業内試験

〈予習、復習のポイント〉

プレゼンテーションの準備。

■教科書

特になし。

■指定図書

特になし。

■参考文献

授業内で必要に応じて指示する。

■参考URL<http://pub.edu.tama.ac.jp/hiro/>**■評価方法**

出席(10%)、授業内レポート(30%)、作品(20%)、試験(40%)

■評価基準

相対評価

A+：基準A＋先進的なWebサービス開発の提案（合格者の5%以内）

A：基準B＋新しい考え方への挑戦（合格者の30%以内）

B：基準C＋Webサービスの新しい提案

C：Webサービス開発の基本的理解

F：

■事前履修科目等

Webデザイン。絶対ではないが、事前履修が強く推奨される

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

/原則として、3年次からの履修を想定している。

2年次生で履修希望する者は、事前にレポート提出による理解度試験(Webデザイン、Webプログラミング)に合格する必要があるため、相談にいくこと。

科目名 WebデザインI(Web Design I)

担当教員 齋藤 S. 裕美

■講義目的

Webデザインでは、HTMLおよびCSSを用いて中級レベルのWebサイトを自分の手でつくりあげることが最終目標とする。演習を通じて、Webページを記述するためのマークアップ言語のひとつであるHTMLとCSSの記述方法、それぞれの特徴と使い方を習得し、あわせてWebページのデザインに関する基礎的な知識およびWebサイトの管理運営に關する必要な知識を身につける。

■講義分類

ビジネス ICT

■到達目標

HTMLとCSSを用いたWebサイト構築技術の習得およびWebページのデザインに関する基礎的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉HTMLの構造

・HTMLの構造(ヘッダ部、ボディ部、フッタ部) ・HTMLの書法(HTMLタグの記述)

<学習・復習のポイント>

課題を作成し、HTMLの基本構造、HTMLタグの使い方を理解する。

〈第2講〉Webページのレイアウトと構成要素

・ブラウザに対するレイアウト/ページのレイアウト/グループのレイアウト ・トップページのレイアウトと構成要素
/各構成要素の意義と内容 ・代表的なレイアウトとWebサイトの事例 ・HTMLとCSSの関係/CSSの書法

<学習・復習のポイント>

課題を作成し、CSSの働き、CSSの記述方法、HTMLとCSSの関係を理解する。

〈第3講〉トップページの作成

・CSSを用いた2ペインレイアウトの作成 ・CSSを用いたボックスモデルの記述方法

<学習・復習のポイント>

課題を作成し、各ボックス内の表示を変化させ、ボックスモデルを理解する。

〈第4講〉色彩設計

・色や配色による印象の相違とWebサイトの事例 ・色の三要素(色相・彩度・明度)

・Webセーフカラー ・CSSによる背景色・文字色などの指定とカラーコード

<学習・復習のポイント>

課題を作成し、CSSによる色の指定方法、色の特徴や働きを理解する。

〈第5講〉フォントの特徴

・文字の可読性と可視性(セリフ・サンセリフ、明暗体・ゴシック体)

・プロポーション(フォントと等幅フォント)

・文字組み(行間・行送り・字間)

・ジャギング

・CSSによるフォントの指定

<学習・復習のポイント>

課題を作成し、CSSによるフォントの指定、フォントやポイント数による印象の違いなどを理解する。

〈第6講〉画像の取扱い

・画像の種類(ラスター画像・ベクタ画像)

・画像ファイルの形式(JPEG・GIF・PNG・WMF・EPSなど) ・図版率と版面率

・HTMLによる画像の挿入 ・CSSによる背景画像の指定 <学習・復習のポイント>

課題を作成し、HTMLによる画像の挿入方法、CSSによる背景画像の指定方法、ファイル形式による情報量や表示の違い、画像の大きさによる印象の違いなどを理解する。

〈第7講〉写真の取扱い

・構図の種類(構図・縦構図・三分割構図・日の丸構図)

・トリミングと輪郭の処理

・写真の役割

・視覚度

<学習・復習のポイント>

各自の課題で使用する写真を撮影し、構図の大切さや視覚度などについて理解する。

〈第8講〉テーブルの取扱い

・グリッドレイアウトとグリッド拘束率

・HTMLによるテーブル作成 ・CSSによる線の表示 ・アクセシビリティの観点からのテーブルを扱う際の注意点

<学習・復習のポイント>

課題を作成し、HTMLを用いたテーブル作成の方法、グリッドレイアウトの効果などを理解する。

〈第9講〉Webのアクセシビリティ

・アクセシビリティとユーザビリティ、ユニバーサルデザイン ・JIS X8341-3 ・CSSの意義

・読み上げブラウザやオースティンソフトや専用機器の紹介

・アクセシブルなWebサイトにするための工夫

<学習・復習のポイント>

課題を作成し、色や画像、フォントなどによって使いやすく、使いにくさが左右されることを理解する。

〈第10講〉ファイルのアップロードと著作権

・アップロードの方法 ・リンクとファイルの絶対参照・相対参照

・著作権(送信可能化・自動公衆送信権)

・フリーウェアとシェアウェア

<学習・復習のポイント>

課題を作成し、リンクの記述、ファイルの参照方法を理解する。

〈第11講~第15講〉

課題制作

■教科書

猿橋大 『詳解 HTML タグ辞典』 秀和システム

■指定図書

猿橋大 『詳細 CSS スタイルシート辞典』 秀和システム

エビスコム 『HTML/XHTML&スタイルシートレッスンブック』 ソシム

■参考文献

特になし。

■評価方法

課題作品35%、期末試験35%、学期中の課題15%、出席状況15%を基本とし、授業への参加態度などを加味して総合的に評価する。

■評価基準

絶対評価

作品は、次の3点を中心に評価する。

(1)技術の基本を理解しているか。

(2)デザイン的に見所のある作品か(内容の深さ・表現の美しさ)。

(3)著作権に配慮しているか。

また、期末試験は、次の2点を中心に評価する。

(1)Webデザインに関わる基礎知識を正しく理解しているか。

(2)HTML、CSSについて基本的な使い方を理解しているか。

A+ : 上記評価方法で評価点95点以上

A : 上記評価方法で評価点80点以上95点未満

B : 上記評価方法で評価点70点以上80点未満

C : 上記評価方法で評価点60点以上70点未満

F : 上記評価方法で評価点60点未満

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

但し、最終課題を提出していない履修生、期末試験を受験していない履修生、出席回数が2分の1以下の履修生に対しては実施しない。

■留意点

積み重ねが大切な授業であるから、途中で欠席しないこと。

科 目 名 WebデザインII〔Web Design II〕

担当教員 彩藤 ひろみ

■講義目的

html,CSSといったWebデザインの基本を1で学んだ後、クライアントサイドのWebプログラミングである、JavaScriptとそのライブラリであるjQueryについて基礎的なことを学ぶ。応用としては、次の学期に用意されているWebサービス開発やWebプログラミングで学ぶことを推奨する。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネス創造／社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

Webとプログラミング言語 (JavaScript)との関係について学ぶ。自由にホームページを作成できるような技術力を身につける。サーバーとの関係についても理解を深め、セキュリティについても関心を持つようにする。

■講義形態

講義 + PR〔学外学習なし〕

■講義の概要

〈第1講〉

Webデザイン1の復習 htmlとcss

〈第2講〉

htmlとcss

〈第3講〉

Javascriptとホームページ

〈第4講〉

JavascriptのライブラリjQueryを使う

〈第5講〉

jQueryとセレクタの関係 jQueryの書き方

〈第6講〉

jQueryのセレクタとメソッドの関係

〈第7講〉

クリックイベントの操作

〈第8講〉

マウスオーバーによる操作

〈第9講〉

フォーム要素の理解

〈第10講〉

要素の表示・非表示 ダイナミック処理

〈第11講〉

要素の作成や追加

〈第12講〉

文字列操作

〈第13講〉

携帯 スマートフォン用ホームページ作成

〈第14講〉

デザインについて

〈第15講〉

作品講評

■教科書

必要に応じて指示する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

必要に応じて指示する。

■評価方法

理解度を測るため、授業内または試験期間中試験を実施。試験50%、出席30%、提出物20%

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

マルチメディア実践、Webデザイン1の履修が望ましい(条件ではないが、強く推奨する)。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

パソコンを初回から持ってくること。電源も一緒にもってくこと。

科目名 Webプログラミング〔Web Programming〕

担当教員 中村 紳吾

■講義目的

この講義では、実践を通じて、Webプログラミング環境構築、HTMLの基礎、CSSの基礎、PHPプログラミングの基礎、を習得し、Webプログラミングの全体像を理解することにより、今後のさまざまなシーンでより高度にWebを活用し、問題解決に資する能力を高めることを目的としている

授業は、受講生がノートPCを持参し、また、Webプログラミングの前提環境であるWebサーバを自ら実装する(受講生のノートPC上にWebサーバをインストールする予定)。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

- (1)Webプログラミング環境を構築できる
- (2)HTMLを使ったWebページを作成できる
- (3)HTMLにCSSを組み込んでWebページを作成できる
- (4)PHPプログラムを作成できる
- (5)PHPプログラムによりHTMLのフォームを作成し処理できる
- (6)PHPプログラムによりファイル入出力を処理できる

■講義形態

講義のみ

その他(PCを使用した実習)〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉Webの基礎と環境構築

概要:Webの基礎の習得、Webサーバ環境(XAMPP)を導入、講義用Webサイトの紹介
事前学習しておくべき用語やポイント[Webサーバ]

詳細:Webの基礎を学習し、この講義で使用するWebサーバ環境を導入する。また、講義で使用するWebサイトの使い方も紹介する。

〈第2-3講〉HTMLの基礎

概要:HTMLの基礎の習得およびHTMLを使ったWebページの作成

事前学習しておくべき用語やポイント[HTML]

詳細:HTMLの基礎を学習し、Webサーバ上にHTMLページを作成して表示する。簡単な自己紹介ページを作成して表示されることを確認する。

〈第4-5講〉CSSの基礎

概要:CSSの基礎の習得およびCSSを使ったWebページの作成

事前学習しておくべき用語やポイント[CSS]

詳細:CSSの基礎を学習し、Webサーバ上にCSSを組み込んだHTMLページを作成して表示する。第2講で作成したHTMLページにCSSを組み込んで表示されることを確認する。

〈第6講〉PHPの基礎(1)

概要:PHPの基礎の習得およびPHPを使ったプログラムの作成

事前学習しておくべき用語やポイント[PHP、プログラミング]

詳細:PHPの基礎を学習し、PHPプログラムを作成して実行する。PHPのプログラム作成方法、画面表示、変数、演算、配列などを習得する。

〈第7-8講〉PHPの基礎(2)

概要:PHPの基礎の習得およびPHPを使ったプログラムの作成

事前学習しておくべき用語やポイント[PHP、プログラミング]

詳細:PHPの基礎を学習し、PHPプログラムを作成して実行する。条件分岐、繰り返しなどを習得する。

〈第9講〉PHPの基礎(3)

概要:PHPの基礎の習得およびPHPを使ったプログラムの作成

事前学習しておくべき用語やポイント[PHP、プログラミング]

詳細:PHPの基礎を学習し、PHPプログラムを作成して実行する。関数などを習得する。
〈第10-11講〉HTMLフォームおよび入力されたデータを処理するPHPプログラムの作成

概要:HTMLフォームおよび入力されたデータを処理するPHPプログラムの作成

事前学習しておくべき用語やポイント[フォーム]

詳細:HTMLによるフォームおよびフォームから送信されたデータを処理するPHPプログラムを作成して実行する方法を習得する。

〈第12-13講〉PHPによるファイル入出力処理

概要:PHPによるファイル入出力処理

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細:PHPによるファイルからのデータ読み込みおよびファイルへのデータ書き込み処理を習得する。

〈第14講〉復習

概要:これまでに学習した内容の復習と応用

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細:これまでに学習した内容を復習し、応用する。

〈第15講〉試験

概要:試験

事前学習しておくべき用語やポイント[これまでの授業内容を復習しておく]

詳細:

■教科書

講義用Webシステム上で授業のための資料を提供する予定

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■評価方法

講義内で出題される課題提出(50%)、試験(50%)

試験には講義の最終回に実施する予定

■評価基準

相対評価

- (1)Webプログラミングのための環境構築ができるか
- (2)基本的なHTMLページを作成できるか
- (3)基本的なCSSを使ってHTMLページを作成できるか
- (4)基本的なPHPプログラムを作成できるか
- (5)基本的なフォームデータ処理ができるか
- (6)基本的なファイル入出力処理ができるか

■卒業年次生対象再試験の実施

なし(追加課題あり)

■留意点

日常的にWebを使用し、Webプログラミングに興味をもっていることを期待したい。

前提知識として、①Webの使い方、②基礎的なプログラミングの知識・能力、を知っていることとする。

扱う内容が多岐にわたるので(HTML、CSS、PHPなど)、理解が難しいと感じた場合は自らWebなどで調べてフォローする姿勢を期待したい。

講義への出席は評価には影響しないが、課題や試験に関連する内容は講義内で紹介する(講義用Webシステムへのアクセス情報も講義内で紹介する)。

課題提出が評価に大きく影響し、最終試験のみでは及第は難しい可能性があるので注意する。

科目名 AP 数学[Advanced Practical Mathematics]**担当教員** 大森 拓哉**■講義目的**

経営情報学部においては、複合領域での知識や技術の修得が必要となる。このような複合領域を対象とする分野で必要になるデータを扱う数学的手法の基礎について、演習と講義により身につけることが本講義の目的である。この講義は必修科目である。演習の積み重ねを通して技術が身に付く構成になっているので、欠席しないこと。

本講義では、課題を解決するためにどのようなデータの取り扱いをするとよいか、中学から高校1年程度の数学を基点として、問題解決方法の理解とそれを応用した問題解決演習を行い、産業社会において必要な数理技能の基礎を完全習得する。

■講義分類

ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

経営情報学部で学ぶ上で必要な数学の能力が身についているか。

■講義形態

講義＋演習
〔なし〕

■教科書

授業中にプリントを配布する。

■指定図書

『社会科学系の数学入門』若尾良男、水谷昌義共著 ムイスリ出版

『高校数学がまるごとわかる』間地秀三著 ベレ出版

『文系数学超入門』大川隆夫他著 学術図書出版社

『経済学と数学がイッキにわかる』石川秀樹著 学習研究社

『計算力が身に付く数学基礎』佐野公朗著 学術図書出版社

『まんがDE入門経済数学』西村和雄著 日本評論社

■評価方法

成績評価は、80%以上の出席を単位取得の条件とし、その上で試験(90%)、平常点(10%)により評価する。

注)遅刻・早退は欠席扱いとする。電車の遅延や病欠などの際には、遅延証明書・診断書を提出すること。

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

クラスは自分が割り当てられたクラスを確認の上、そのクラスで履修すること。

授業中の私語、飲食、携帯電話操作、ノートPC操作、帽子・サングラス着用等禁止する。

科目名 SNS社会論(SNS Synousiacs)

担当教員 安藤 美冬

■講義目的

詳細については1回目の講義及びWEBシラバスでお知らせします。

■講義形態

科目名 海外研修Ⅰ～Ⅲ〔Study AbroadⅠ～Ⅲ〕

担当教員 中村 その子

■講義目的

原則として、T-S a pもしくは大学の認定した留学プログラムに参加した学生が、留学先で取得した単位を多摩大学の正規の単位として読み替えるための科目である。担当教員により、留学先の単位がこの科目の単位と同等の価値があると認められた場合に単位が認定される。原則として、留学から帰国後に、この授業の履修申請をし、留学に関するレポートを提出。帰国報告のプレゼンテーション、口頭試験を行う。

■講義分類

グローバルビジネス／語学・コミュニケーション

■到達目標

- (1) 自分たちの意見、考え方、アイデアをしっかりとした形で伝え、提案できる ＝ 発信
- (2) 相手からの発信を正確に理解し、状況に応じて的確な処理が行える ＝ 受信
- (3) 自分が必要な情報(WEB/論文をはじめとする資料や文献など)を検索し、内容を読み取って利用できる＝ 情報理解
- (4) 社会の課題をビジネスの現場で解決していく力の一つとして英語でのコミュニケーション能力を身につける
- (5) グローバリズムに対する正しい知識を身につけ、地球人として自分の志を実現するための社会における人間力を留学を通して身につける。

■講義形態

その他(海外への留学またはそれに相当する活動)〔学外学習無〕

■講義の概要

多摩大学T-s a p いずれも夏休み、または春休み
 ☆オーストラリア ケアンズ 英語研修とインターンシッププログラム
 ☆アメリカ合衆国 シアトル 語学・ビジネス研修
 ☆アメリカ合衆国 ソルトレイクシティ ティーチャーアシスタント in USA
 ! ! ! 注意 ! ! !

上記、または上記以外の留学プログラムに参加希望の学生は、遅くとも留学の3カ月前には担当教員中村その子 sonoko-n@tama.ac.jp に必ずコンタクトを取ってください。留学前の3ヶ月間教員と十分に相談をし、入念な準備をする必要があります。このコンタクトがない場合は留学プログラムに参加することはできません。オリエンテーションや留学準備のための授業がない代わりに、教員との最低3ヶ月間の事前相談、準備が必須となります。言い換えると、たとえば夏休みの留学プログラムに参加したい場合、夏休み直前に、急に参加したいと言っても参加することはできません。

■評価方法

留学先教育機関での単位認定を多摩大学の単位として読み替えます。

■評価基準

留学先教育機関の単位認定制度に原則として準じます。

■事前履修科目等

English Expression

Basic Office English

Practical English Conversation

TOEIC

を履修することが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

留学を希望する学生は、留学に行く少なくとも3カ月前には担当教員 中村その子 sonoko-n@tama.ac.jp に連絡を取ってください。この連絡がない場合は留学プログラムに参加することはできません。

科目名 観光学概論(Tourism Development)

担当教員 中庭 光彦

■講義目的

日本の社会経済を支える有力な産業に「観光産業」があります。温泉地、歴史ある都市、魅力ある景観、その土地ならではの名産品・・・様々な観光商品・観光サービスを企業や自治体が開発し、観光客、すなわち「移動する顧客」を相手にしたビジネスを伸ばしてきました。

昔は、大都市の旅行代理店と観光地の宿泊施設が協力して観光客を集めていました。今は、各観光地が魅力づくりを競った結果、海外からの観光客も増え、元気になる地域も出てきています。かつては、「観光業」と言えばどんな仕事か誰もが想像できましたが、今では様々な観光業が生まれ、「これも観光業なの？」という仕事も生まれています。例えば、ネット通販の楽天はホテル予約ポータルサイト運営者として巨大な観光業者となっています。

そこで、本講義では、これまでまったく産業や地域について考えたことがなかった主に2年生を対象に、観光産業の基本・現状を伝え、「移動する人間」が社会経済を変える影響力や地域観光政策の考え方について学びます。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／地域ビジネス

■到達目標

- (1) 観光産業を考えるための基礎的な視点・知識を覚えること。
- (2) 新聞や経済雑誌に掲載された観光関係記事の意味を解釈できるようにすること。

■講義形態

講義のみ[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉オリエンテーション

概要：観光資源と観光ビジネスの概要を簡単に説明。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

〈第2講〉観光論が対象とする様々なビジネス

概要：観光ビジネスの拡がりについて理解する。

事前学習しておくべき用語やポイント[観光]

〈第3講〉観光業界

概要：現在の観光業界について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント[市場占有率]

〈第4講〉観光地と観光産業の関係

概要：観光地と観光産業の多様な関係を説明する。

事前学習しておくべき用語やポイント[観光資源]

〈第5講〉観光の仕事

概要：観光業界の仕事について説明する。

事前学習しておくべき用語やポイント[観光入込客]

〈第6講〉ホスピタリティについて考える

概要：ホスピタリティ・マネジメントを解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント[ホスピタリティ]

〈第7講〉コンベンション・ビジネスについて考える

概要：コンベンション・ビジネスの世界を紹介する。

事前学習しておくべき用語やポイント[MICE]

〈第8講〉テーマパークについて考える

概要：テーマパーク・ビジネスについて紹介する。

事前学習しておくべき用語やポイント[テーマパーク]

〈第9講〉マスツーリズムからニューツーリズムへ

概要：過去半世紀の観光ビジネスの歴史を解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント[ニューツーリズム]

〈第10講〉観光地プロモーションとブランド化を考える

概要：観光地ブランド化について紹介する。

事前学習しておくべき用語やポイント[ブランド化]

〈第11講〉観光地ブランド化と文化の関係を考える

概要：前回に引き続き、観光地のブランド化について紹介する。

事前学習しておくべき用語やポイント[SWOT分析]

〈第12講〉観光立国・クールジャパンについて考える

概要：国の観光振興政策について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント[訪日海外旅行者]

〈第13講〉観光まちづくりについて考える①ゆるキャラ

概要：地域の観光まちづくり手法について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント[象徴化とデザイン]

〈第14講〉観光まちづくりについて考える②都市観光

概要：地域の観光まちづくり手法について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント[都市観光]

〈第15講〉観光まちづくりについて考える③流通と観光

概要：地域の観光まちづくり手法について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント[交流人口]

■教科書

特に定めません。適宜資料を配布します。

■指定図書

適宜指示します。

■参考文献

青木義英・廣岡裕一・神田孝治編著『観光入門』新曜社(2011)
安島博幸監修『観光まちづくりのエンジニアリング』学芸出版社(2009)

岡本伸之編『観光学入門』有斐閣(2001)

フィリップ・コトラー『コトラーのホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング 第3版』ピアソン・エデュケーション(2011)

■評価方法

出席(40%)、期末レポート(60%)

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名 韓国語Ⅰ(Korean Ⅰ)

担当教員 朴 浩烈, 趙 佑鎮

■講義目的

多摩大学では世界流通としてのアジアダイナミズムを体得すべく諸々の教育プログラムを提供しているが、アジアの第一関門は韓国である。本講義では韓国語をはじめて学ぶ学生を対象に、ハングル文字と発音、基礎的文法やコミュニケーションを学ぶことを目的とする。韓国語の単語を一つ知ること、フレーズを一つ学ぶことに、学生の目に映る韓国や韓国人は変わってくるものである。韓国語のみならず韓国や韓流を知りたい意欲ある学生の参加を望む。本講義を1年間積極的に参加することで、中級レベルの韓国語も扱う韓国ビジネスコミュニケーション論の学習につながることを期待するものである。

■講義分類

ビジネス環境理解／グローバルビジネス

■到達目標

・ハングル文字や発音を徹底してマスターした後に、基本的文法を理解する・韓国ビジネスコミュニケーション論・現代韓国論・北東アジア論を学ぶ際の土台づくり

■講義形態

講義のみ

その他(韓国語と韓国を扱ったビデオ・視聴覚教育)
[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉

オリエンテーション、韓国語について

<予習、復習のポイント>

ハングルとは、語順と語彙、ハングル文字の仕組みを理解する

〈第2講〉

基本母音

<予習、復習のポイント>

基本母音10個を発音できるようにする

〈第3講〉

基本子音

<予習、復習のポイント>

基本子音19個を発音できるようにする。激音、濃音を発音できるようにする

〈第4講〉

複合母音

<予習、復習のポイント>

子音と母音を組み合わせて文字を書けるようにする

〈第5講〉

パッチム、ハングル理解度のテスト

<予習、復習のポイント>

パッチムの形と発音を理解する、ハングル理解のテスト実施

〈第6講〉

発音の変化

<予習、復習のポイント>

有声化、連音化、舌側音化、濃音化、口蓋音化を意識して発音できるようにする

〈第7講〉

第1課(以降、教科書順) 私は浅井ゆかりです

<予習、復習のポイント>

あいさつと簡単な自己紹介を学習する

〈第8講〉

第2課 出身はソウルですか

<予習、復習のポイント>

「～ですか」を学習する

〈第9講〉

第3課 図書館ではありません

<予習、復習のポイント>

「～ではありません」という否定型を学習する

〈第10講〉

第4課 時間がありますか

<予習、復習のポイント>

「あります／ありません」を学習する

〈第11講〉

第5課 インターネットをします

<予習、復習のポイント>

「します／しますか」を学習する

〈第12講〉

第6課 貿易会社で働いています

<予習、復習のポイント>

「します」を学習する

〈第13講〉

第7課 東大門市場に行きます

<予習、復習のポイント>

動詞を学習する

〈第14講〉

第8課 しょっちゅうスーパーで買います

<予習、復習のポイント>

用言を学習する

〈第15講〉

総括・期末小テスト

※ 小テストは、ほぼ毎回の講義ごとに実施することを留意されたい

■教科書

木内 明著『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』国書刊行会
2100円

■評価方法

・「小テストと期末小試験(80%)」+「出席(20%)」+授業態度(加算点)・出席を疎かにすると小テストを受けられないことになるので、結果的には成績に著しく不利になることを留意されたい。よって、出席が一定未滿だとF処理されることを警告する。

■評価基準

相対評価

・上記の総合評価・評価の順に、学習理解度の高い学生が多いと判断された場合、絶対評価に変わることもあり得る。
・語学は積み重ねが重要であるため評価における「出席」は大事である。評価基準と比重の詳細は、オリエンテーションの際に提示する。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・授業態度における私語、携帯電話(をいじること)、本授業とは無関係のパソコン使用、途中退室は絶対に不可であり、徹底的に厳しく注意する。これらの注意は学生の社会人としての常識涵養のための不可避なものであるが、このような注意と授業態度を静かに保つ教員の姿勢がいやであれば、本講義の履修は絶対的に勧められない。この点に関しては何度も強調したいところである。語学の学習には地道さ、根気強さが必要であるため、なるべく毎回の出席を望む。これまでの経験だと、出席が良好な学生が成績も上位であり、毎回の出席こそ語学上達の近道である。一定の出席に満たない場合、学籍途中においてもFになる可能性を警告する。・復習を重視すること・授業では随時、筆記や発音の小テストがあるが、決して高いハードルではない。この科目は2008年度以前の入学生は履修することが出来ない。

科目名 韓国語Ⅱ〔KoreanⅡ〕

担当教員 趙 佑鎮, 朴 浩烈

■講義目的

多摩大学ではアジアダイナミズムを体得すべく諸々の教育プログラムを提供しているが、アジアの第一関門は韓国である。本講義では韓国語をはじめ学ぶ学生を対象に、ハングル文字と発音、基礎的文法やコミュニケーションを学ぶことを目的とする。韓国語の単語一つ知ること、フレーズ一つ学ぶごとに、学生の目に映る韓国や韓国人は変わってくるのである。韓国語のみならず韓国や韓流を知りたい意欲ある学生の参加を望む。本講義を1年間積極的に参加することで、中級レベルの韓国語も扱う韓国ビジネスコミュニケーション論の学習につながることを期待するものである。

■講義分類

ビジネス環境理解／グローバルビジネス

■到達目標

・ハングル文字や発音を徹底してマスターした後に、基本的文法を理解する・韓国ビジネスコミュニケーション論・現代韓国論・北東アジア論を学ぶ際の土台づくり

■講義形態

講義のみ

その他(韓国語と韓国を扱ったビデオ・視聴覚教育)
[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉

第9課 それは1万ウォンです

<予習、復習のポイント>

漢数詞を学習する

〈第2講〉

第10課 今、何時ですか

<予習、復習のポイント>

固有数詞と時計の読み方を学習する

〈第3講〉

第11課 日本語を話されますか

<予習、復習のポイント>

敬語、敬語の特殊例を学習する

〈第4講〉

第12課 そんなに遠くありません

<予習、復習のポイント>

用語の否定形を学習する

〈第5講〉

第13課 いつ韓国に来ましたか

<予習、復習のポイント>

用語の過去形を学習する

〈第6講〉

第14課 民俗村に一緒に行きましょう

<予習、復習のポイント>

勧誘の言葉を学習する

〈第7講〉

第15課 パーティーの準備をしています

<予習、復習のポイント>

用語の現在進行形を学習する

〈第8講〉

第16課 何も食べられませんでした

<予習、復習のポイント>

可能／不可能の表現を学習する

〈第9講〉

第17課 陶磁器が見たいです

<予習、復習のポイント>

「～したい」という表現を学習する

〈第10講〉

第18課 写真を撮ってもいいですか

<予習、復習のポイント>

禁止の表現を学習する

〈第11講〉

第19課 もう行かなければなりません

<予習、復習のポイント>

義務の表現を学習する

〈第12講〉

第20課 手紙を書きますよ

<予習、復習のポイント>

意志・推量の表現を学習する

〈第13講〉

韓国の映画を見ながらのビデオ学習、韓国語の文法とボキャブラリー(I)

<予習、復習のポイント>

これまで学んだ重要なボキャブラリーと助詞のまとめを学習する

〈第14講〉

韓国の映画を見ながらのビデオ学習、韓国語の文法とボキャブラリー(II)

<予習、復習のポイント>

変則活用の用言、連体形のまとめを学習する

〈第15講〉

期末小テストと総括

※ 小テストは、ほぼ毎回の講義ごとに実施することを留意されたい

■教科書

木内 明著『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』国書刊行会 2100円

■評価方法

・「小テストと期末小試験(80%)」+「出席(20%)」+授業態度(加算点)・出席を疎かにすると小テストを受けられないことになるので、結果的には成績に著しく不利になることを留意されたい

■評価基準

相対評価

・上記の総合評価・評価の際に、学習理解度の高い学生が多いと判断された場合、絶対評価に変わることもあり得る。
・語学は積み重ねが重要であるため評価における「出席」は大事である。評価基準と比重の詳細は、オリエンテーションの際に詳細に提示する。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・授業態度における私語、携帯電話(をいじること)、本授業とは無関係のパソコン使用、途中退室は絶対に不可であり、徹底的に厳しく(注意する。これらの注意は学生の社会人としての常識涵養のための不可避なものであるが、このような注意と授業態度を静観に保つ教員の姿勢がいやであれば、本講義の履修は絶対的に勧められない。この点に関しては何度も強調したいところである。・語学の学習には地道さ、根気強さが必要であるため、なるべく毎回の出席を望む。これまでの経験だと、出席が良好な学生が成績も上位であり、毎回の出席こそ語学上達の近道である。一定の出席に満たない場合、学期途中においてもF(確定)となる可能性を警告する。・復習を重視すること・授業では随時、筆記や発音の小テストがあるが、決して高いハードルではない。この科目は2008年度以前の入学生は履修することが出来ない。

科目名 韓国ビジネスコミュニケーションⅠ(Korean Business CommunicationⅠ)

担当教員 朴 浩烈

■講義目的

教材と配布資料を使って、読む、書く、話す、聞くのレベルにおいて「韓国語Ⅰ・Ⅱ」を踏まえた上での韓国語中級を目指す。外国語マ스터への道は短気と不断の努力以外にはありがないので、適宜小テストを行い韓国語向上を目指す。本書はすべて韓国語とし、講義の際の対話や解説もできるだけ日本語を併用する。受講生にはハングル能力検定試験(1級～5級)の受験を奨励する。しかし外国語レベルとコミュニケーションレベルは必ずしも比例するとは言えない。したがって「ことばと文化」を通して韓国(朝鮮半島)を幅広く理解することによって、様々なビジネスシーンや国際交流などにおけるコミュニケーションを能動的に行う上での自信やヒントを得ようとするのも講義目的である。ことばと文化における日韓間の類似点や相違点を双方向的に捉えることは、お互いの心理的距離を縮める接近法ともなる。「ことばと文化」を幅広く理解するための手段として関連する政治、社会、歴史、教育、芸術、スポーツ、ナショナリズム、時事問題など最新線事例も適度ピックアップして扱いながら、個人が疑問に思うことなども議題に取り上げ、ディスカッションも行う。素早く自然した議論になれるは幸いである(自信がなくてもできるだけ韓国語を使ってみる)。一切タブーはない。その過程において集団(国家・民族・企業など)として、又は人間個人として日韓間に存在する問題点を見出し、受講生自らの解決へのアプローチを見いだすことも目的とする。下に掲載した教材・参考文献以外に韓国の新聞記事やコラムなどを利用し、それらを讀んだり書いたりしながら韓国語能力の向上を図るとともに思考力や想像力を高める。

■講義分類

社会人育成／ビジネス環境理解／グローバルビジネス

■到達目標

1. 「韓国語Ⅰ・Ⅱ」を踏まえた上での韓国語中級レベルの達成
2. ディスカッションを通しての自己主張とコミュニケーション能力の向上
3. 「韓流」と「日流」を通してのビジネス事情理解(最新線事例理解)
4. 異文化理解力の向上とグローバル化における他者認識の方法論習得
5. 総合的韓国(朝鮮半島)学に対する知の蓄積と問題意識の涵養

■講義形態

・講義＋GD・GW・PR[学外学習無]

■講義の概要

<第1講>

概要：「韓国ビジネスコミュニケーション」ガイダンス

事前学習しておくべき用語やポイント[「韓国語Ⅰ・Ⅱ」の復習と理解が難しかったところのチェック]

詳細：この講義は何をどのような方法を使って学ぶのかを解説し目的や目標を理解することを中心に据える。また教材の説明と評価についても述べる。「韓国」や「韓流」をキーワードに受講生のイメージを聞き出し、そのようなイメージはなぜ作られたのかなどをディスカッションする。

<第2講>

概要：韓国語と朝鮮語、そしてハングルについてと第2教科書『朝鮮語の入門・改定版』(白水社刊)を使っての発音・読む練習。

事前学習しておくべき用語やポイント[日本語と韓国語の類似点や相違点を「韓国語Ⅰ・Ⅱ」を学んだ土台から考えてみる]

詳細：韓国語と朝鮮語は同じなのか違う言語なのか、ハングル表記上、韓国語と朝鮮語の違いはあるのかなど、言語問題から朝鮮半島の歩みと現状を理解する。第2教科書を使っての発音・読む練習。

<第3講>

概要：日韓のことばと文化①と第2教科書『朝鮮語の入門・改定版』(白水社刊)を使っての発音・読む練習。

事前学習しておくべき用語やポイント[参考文献『韓国人の作法』金栄勲、集英社新書2010]

詳細：韓国(人)と日本(人)の文化における類似点と相違点を考えてみ

る。参考文献の内容を概説し要点を整理する。文化とは何でありどのように形成されるのかをディスカッションを通して考えてみる。第2教科書を使っての発音・読む練習。

<第4講>

概要：日韓のことばと文化②と第2教科書『朝鮮語の入門・改定版』(白水社刊)を使っての発音・読む練習。

事前学習しておくべき用語やポイント[参考文献『韓国人の作法』金栄勲、集英社新書2010]

と『ことばと文化の日韓比較』齋藤明美、2005]

詳細：日常生活や空間意識の違いなどから日韓比較文化論を考えてみる。その後自文化と多文化、文化相対主義と批判的文明論を考えてみる。第2教科書を使っての発音・読む練習。

<第5講>

概要：韓流と日流について①と第1教科書1課

事前学習しておくべき用語やポイント[指定図書『韓流』と「日流」-文化から読み解く日韓新時代』ウォン・ヨンソクNHKブックス2010と教科書1課]

詳細：日本における韓流需要の過程を時系列的に分析し、単なる「ブーム」として捉えるのではなく、ひとつの社会文化現象とグローバル化ということばから社会的に考察する。韓国語中級として教科書1課を学ぶ。

<第6講>

概要：韓流と日流について②と第1教科書2課

事前学習しておくべき用語やポイント[指定図書『韓流』と「日流」-文化から読み解く日韓新時代』ウォン・ヨンソクNHKブックス2010と教科書2課]

詳細：韓流ドラマやK-POPなどの特徴を分析する。主題や内容もさることながら韓国ドラマや映画が歩んできた歴史を分析する時、韓国の政治や社会の変遷と深く関わりを持つことが認められるが、韓流に込められた韓国側の戦略(国家的及びビジネス)などを資料を手掛かりに分析する。韓国語中級として教科書2課を学ぶ。

<第7講>

概要：嫌韓流とナショナリズムと第1教科書3課

事前学習しておくべき用語やポイント[参考文献『日韓新たな始まりのための20章』第1部「嫌韓流」現象を読み解く」田中宏・板垣竜太[編]、岩波書店2007と教科書3課]

詳細：嫌韓流とは何か、どのような「批判」と連動しながら展開されているのか、嫌韓流からどのようにナショナリズムを読み取れるのかを考察する。多文化主義と排他排斥主義の相克を考える。韓国語中級として教科書3課を学ぶ。

<第8講>

概要：日本と韓国における多言語・多文化共生社会と第1教科書4課

事前学習しておくべき用語やポイント[在日外国人と多文化共生論]

詳細：日本でも韓国でも外国人(労働者など)や国際結婚の増加により多文化社会が訪れているとの分析があるが、その実態を考察し課題を考えてみる。私たちが空間移動によっていつでも外国人になれるが、身近な国際化を追体験することによってグローバル化を考えてみる。韓国語中級として教科書4課を学ぶ。

<第9講>

概要：新旧アンケート調査から分析する日韓の意識変化と現状分析と第1教科書5課

事前学習しておくべき用語やポイント[朝日新聞と読売新聞のアンケー

ト調査結果と第1教科書5課]

詳細：地理的距離が最も近い日本と韓国であるが、人々の心理的距離はどのようなかなどを最新の新聞アンケート調査と参考文献『韓国特派員の見た日本 日本人 日本社会』（曹斗欽、日本風景社1981）を比較しながら読み解く。お互いの心理的距離を縮めるための問題解決はどのように図られるべきかを議論する。韓国語中級として教科書5課を学ぶ。

〈第10講〉

概要：第2教科書『朝鮮語の入門・改定版』（白水社刊）を使っている発音・読む練習とハングルで書かれた新聞記事を読み書きして見よう。
事前学習しておくべき用語やポイント [韓国の新聞をネットで検索してみよう]

詳細：ハングルで書かれた新聞記事を取り上げ読んでみる。難しい語句などを調べ、内容を把握する。その後ノートに書き書きし、再度読んでみる事によって文字と単語、文章と内容をハイレベルで習得する。

〈第11講〉

概要：第2教科書『朝鮮語の入門・改定版』（白水社刊）を使っている発音・読む練習とハングルで書かれたコラム、社説を読み書きして見よう。
事前学習しておくべき用語やポイント [韓国の新聞をネットで検索し、コラムから社説を持参する]

詳細：ハングルで書かれたコラムを取り上げ読んでみる。難しい語句など調べ、内容を把握する。その後ノートに書き書きし、再度読んでみる事によって文字と単語、文章と筆者の主義主張をハイレベルで理解する。

〈第12講〉

概要：日韓文化交流史を紐解く①と第1教科書6課
事前学習しておくべき用語やポイント [参考文献⑩『千年働いてきましたー老舗企業大国ニッポン』野村進、角川ONEテーマ2006]

詳細：参考文献の解説、そして「渡来人」と「文禄慶長の役」をキーワードに日韓の交流史を文化から考えてみる。特に日本の陶磁器文化の歴史と発展過程が朝鮮文化と深い関係にある事などを理解し、ハイブリッドとしての文化を考えてみる。韓国語中級として教科書6課を学ぶ。

〈第13講〉

概要：日韓文化交流史を紐解く②と第1教科書7課
事前学習しておくべき用語やポイント [雨森芳洲と江戸時代の朝鮮通信使]

詳細：鎖国と言われる江戸時代に実は朝鮮との交流があったことを詳細に学び、今日の日韓あるいは日朝間に存在する障壁や問題点をあぶり出し、問題解決を模索してみる。韓国語中級として教科書7課を学ぶ。

〈第14講〉

概要：韓国語コミュニケーションの練習として「ともに語ろう 日韓の未来」（NHK）の続きを韓国語でディスカッションしてみよう。
事前学習しておくべき用語やポイント [「ともに語ろう 日韓の未来」（NHK）の事前視聴]

詳細：大衆討論番組「ともに語ろう 日韓の未来」（NHK）を事前に視聴する。その上で自分の見解や主張をまとめ、韓国語を使ってディスカッションを行う。自信がなくてもできるだけ韓国語を使用することによって語学（話す）能力向上を図る。

〈第15講〉

概要：春学期のまとめと夏休みの課題を提示する。第1教科書1課～7課の復習、第2教科書『朝鮮語の入門・改定版』（白水社刊）を使っている発音・読む練習。

事前学習しておくべき用語やポイント [教科書1課～7課の復習]

詳細：春学期の講義を通しての感想や疑問点などを、韓国語を駆使して述べてみる。その上で 指定図書 1課～7課について復習を行う。夏休みの課題として韓国映画を見て感想文を書くことを提示する。視聴する韓国映画のリストを配布し、夏休み明けの授業にて各自発表するようになる。

■教科書

第1教科書木内明『基礎から学ぶ韓国語講座 中級』国書刊行会

第2教科書『朝鮮語の入門・改定版』白水社刊

■指定図書

『韓流』と『日流』-文化から読み解く日韓新時代』ウォン・ヨンソク NHK ブックス2010

『日韓新たな始まりのための20章』田中宏・板垣竜太[編]、岩波書店2007

■参考文献

①『韓国人の作法』金栄勲、集英社新書2010

②『ことばと文化の日韓比較』齋藤明美、2005

③『『韓流』のうち外-韓国文化力と東アジアの融合反応』徐勝、他[編]、御茶ノ水書房2007

④『『縮み』志向の日本人』李御寧、講談社文庫 昭和59

⑤『これだけは知っておきたい日本と朝鮮の100年史』和田春樹、平凡社新書2010

⑥『統一コリア-東アジアの新秩序を展望する』玄武岩、光文社新書2007

⑦『韓国特派員の見た日本 日本人 日本社会』曹斗欽、日本風景社1981

⑧『朝鮮語を考える』塚本勲、白帝社2001

⑨『文化人類学20の理論』綾部恒雄[編]、弘文同 平成18年

⑩『アイデンティティの心理学』鍾幹一郎、講談社現代新書1990

⑪『千年働いてきましたー老舗企業大国ニッポン』野村進、角川ONEテーマ2006

⑫『近代日本のナショナリズム』大澤真幸、講談社選書メチエ2011

⑬『海外コリアン』朴三石、中公新書2002

⑭『『マンガ嫌韓流』のここがテララメ』朴一[編・著]、コモンズ2006

⑮『想像の共同体』B・アンダーソン（白石さや、白石隆[訳]）NTT出版2007

その他、韓国と日本の新聞、雑誌、カタログ、チラシなど

■評価方法

出席70%、レポート、ディスカッション、小テストを含む講義参加態度30%

■評価基準

絶対評価

A+：出席率が90%以上、講義参加態度が最優であること

A：出席率が80%以上、講義参加態度が優であること

B：出席率が70%以上、講義参加態度が良であること

C：出席率が60%以上、講義参加態度が良であること

F：上記の要求を満たしていない場合

■事前履修科目等

「韓国語」I、IIを履修済みのこと。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

教科書と指定図書の4冊は各自が購入し講義に参加すること。

科目名 韓国ビジネスコミュニケーションⅡ(Korean Business CommunicationⅡ)

担当教員 朴 浩烈

■講義目的

教材と配布資料を使って、読む、書く、話す、聞くのレベルにおいて「韓国語Ⅰ・Ⅱ」を踏まえた上での韓国語中級を目指す。外国語マ스터への進捗と不断の努力以外にあり得ないので、適宜小テストを行い韓国語向上を目指す。本書はすべて韓国語とし、講義の際の対話や解説もできるだけ日本語を排する。受講生たちにはハングル能力検定試験(1級～5級)の受験を奨励する。しかし外国語レベルとコミュニケーションレベルは必ずしも比例するとは言えない。したがって「ことばと文化」を通して韓国(朝鮮半島)を幅広く理解することによって、様々なビジネスシーンや国際交流などにおけるコミュニケーションを能動的に行う上での自信やヒントを得ようとするのも講義目的である。ことばと文化における日韓間の類似点や相違点を双方向的に捉えることは、お互いの心理的距離を縮める接近法ともなる。「ことばと文化」を幅広く理解するための手段として関連する政治、社会、歴史、教育、芸術、スポーツ、ナショナリズム、時事問題など最新時事例も適宜トピックとして扱いながら、個人が疑問に思うことなども議題に取り上げ、ディスカッションも行う。素早く自然した議論になれるは幸いである(自信がなくてもできるだけ韓国語を使ってみる)。一切タブーはない。その過程において集団(国家・民族・企業など)として、又は人間個人として日韓間に存在する問題点を発見し、受講生自らの解決へのアプローチを見いだすことも目的とする。下に掲載した教材・参考文献以外にも韓国の新聞記事やコラムなどを利用し、それらを讀んだり書いたりしながら韓国語能力の向上を図るとともに思考力や想像力を高める。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／グローバルビジネス

■到達目標

1. 「韓国語Ⅰ・Ⅱ」を踏まえた上での韓国語中級レベルの達成
2. ディスカッションを通しての自己主張とコミュニケーション能力の向上
3. 「韓流」と「日流」を通してのビジネス事情理解(最新線事例理解)
4. 異文化理解力の向上とグローバル化における他者認識の方法論習得
5. 総合的韓国(朝鮮半島)学に対する知の蓄積と問題意識の涵養

■講義形態

講義＋GD・GW・PR(学外学習無)

■講義の概要

〈第1講〉

概要：「韓国ビジネスコミュニケーションⅡ」ガイダンス、課題発表とディスカッション。

事前学習しておくべき用語やポイント[夏休みの課題である韓国映画を視聴してのレポート作成済みのこと]

詳細：この講義は何をどのような方法を使って学ぶのかを解説し目的や目標を理解することを中心に据える。また教材の説明と評価についても述べる。夏休みの課題である韓国映画の感想文を各自発表する。発表を踏まえてディスカッションを行う。

〈第2講〉

概要：韓国映像文化(映画・ドラマ)からのリスニングと第2教科書を使っての発音・読む練習

事前学習しておくべき用語やポイント[韓国の映像文化(映画・ドラマ)]

詳細：一般的に外国語の映像文化(映画やドラマ)を視聴すると早くに聞こえるとの分析があるが、なぜ外国語を聞く時、早くに聞こえるのかを言語学から考察し教授する。リスニング無しにはコミュニケーションは図れない。韓国映画を視聴し自らのリスニング能力を確かめ、リスニングにおける課題と目標、向上方法などをディスカッションを通して考えてみる。

〈第3講〉

概要：日韓の食文化の特徴とマナー、第2教科書を使っての発音・読む練習

事前学習しておくべき用語やポイント[韓国料理、日本の食文化におけるマナー]

詳細：キムチは韓国を代表するおかずであるが、日本の代表は何か?「クッパ」と「猫まんま」は似て非なるところがある! ? など、日韓の食文化の特徴を比較食文化から考察する。日韓ビジネスの最前線に立った時、大変役に立つ食文化伝統・情報やマナー、食に関する人々の意識などを紹介する。

〈第4講〉

概要：日韓が歩んできた道のりと第1教科書8課

事前学習しておくべき用語やポイント[NHK放映「日本と朝鮮半島の2000年(1～10)」と教科書8課]

詳細：事前に配布し視聴済みのNHK放映「日本と朝鮮半島の2000年」を、韓国語を使って議論・感想を述べ合う。話す能力の向上を目指す。韓国語中級として教科書8課を学ぶ。

〈第5講〉

概要：日韓近現代史①と第1教科書9課

事前学習しておくべき用語やポイント[NHK放映「日本と朝鮮半島1,2」と教科書9課]

詳細：事前に配布し視聴済みのNHK放映「日本と朝鮮半島」を、韓国語を使って議論・感想を述べ合う。話す能力の向上を目指す。韓国語中級として教科書9課を学ぶ。

〈第6講〉

概要：日韓近現代史②と第1教科書10課

事前学習しておくべき用語やポイント[NHK放映「日本と朝鮮半島3,4,5」と教科書10課]

詳細：事前に配布し視聴済みのNHK放映「日本と朝鮮半島」を、韓国語を使って議論・感想を述べ合う。話す能力の向上を目指す。韓国語中級として教科書10課を学ぶ。

〈第7講〉

概要：アイデンティティ、ナショナリズムと第1教科書11課

事前学習しておくべき用語やポイント[『アイデンティティの心理学』鍾幹一郎、講談社現代新書1990、『近代日本のナショナリズム』大澤真幸、講談社選書メチエ2011と第1教科書11課]

詳細：国際交流やビジネスにおいて他者をどのように理解し接するのかが重要である。ここでは何故「○○人」になるのか、どのような文脈においてアイデンティティが表出するのかなどを、社会言語学を絡め考察してみる。排除か包摂かにはナショナリズムが絡むとの論理から日韓の相互理解と友好のためのアイデンティティとナショナリズムはどのようなものなのかを議論する。韓国語中級として教科書11課を学ぶ。

〈第8講〉

概要：寺島実郎「真の東アジア連携をもとめて」を読む、第1教科書12課

事前学習しておくべき用語やポイント[『韓流』のうち外・韓国文化力と東アジアの融合反応(徐勝、他[編]、御茶ノ水書房2007に掲載されている論文 寺島実郎「真の東アジア連携をもとめて」]

詳細：寺島実郎「真の東アジア連携をもとめて」を分析し、既

成観念を打破し思考転換の不可避性を分析、新たなビジネスモデル、あるいはビジネスチャンスをとどのように創造するべきかを韓国(朝鮮半島)を中心に据えて考える。韓国語中級として教科書12課を学ぶ。

〈第9講〉

概要：海外の韓国人とグローバルネットワーク、第1教科書13課

事前学習しておくべき用語やポイント[『海外コリアン』朴三石、中公新書2002と教科書13課]

詳細：現在日本では台湾企業を足がかりに中国へ進出しようとする試みも見られるが、韓国とのビジネスも海外に住むコリアンとのネットワークが有効に作用する場合があります。このようなことを踏まえ海外コリアンの現状を資料から立体的に分析して見る。韓国語中級として教科書13課を学ぶ。

〈第10講〉

概要：第2教科書を使っての発音・読む練習、そしてハングルで書かれた新聞記事を読み書きして見よう。

事前学習しておくべき用語やポイント[韓国新聞をネットで検索して見よう]

詳細：ハングルで書かれた新聞記事を取り上げ読んでみる。難しい語句など調べ、内容を把握する。その後ノートに写し書きし、再度読んでみる事によって文字と単語、文章と内容をハイレベルで習得する。

〈第11講〉

概要：第2教科書を使っての発音・読む練習、そしてハングルで書かれたコラム、社説を読み書きして見よう。

事前学習しておくべき用語やポイント[韓国新聞をネットで検索し、コラムが社説を持参する]

詳細：ハングルで書かれたコラムを取り上げ読んでみる。難しい語句など調べ、内容を把握する。その後ノートに写し書きし、再度読んでみる事によって文字と単語、文章と筆者の主義主張をハイレベルで理解する。

〈第12講〉

概要：在日コリアンと商業活動、第1教科書14課

事前学習しておくべき用語やポイント[焼き肉屋や韓国物産のショップをネットで検索して見よう。教科書14課]

詳細：約70万人と言われる在日コリアンの商業活動を焼き肉屋や韓国料理店のメニュー、そして宣伝雑誌やチラシなどを通して見てみるが、もちろん日本で出回っている韓国語のチラシも扱うので韓国語能力を試すこともできる。韓国語中級として14課を学ぶ。

〈第13講〉

概要：第2教科書を使っての発音・読む練習、そしてビジネスコミュニケーションをしてみよう。

事前学習しておくべき用語やポイント[焼き肉屋や韓国料理店のメニュー、そしてカタログやチラシなどの理解]

詳細：エスニック・メディアとしての焼き肉屋や韓国料理店のメニュー、そしてカタログやチラシなど利用し売買を目的とする疑似ビジネスコミュニケーションを韓国語で行ってみる。役割やグループ分けして模擬体験を試みる。

〈第14講〉

概要：第2教科書を使っての発音・読む練習、そして韓国語文章を日本語に翻訳してみよう。

事前学習しておくべき用語やポイント[翻訳するためにはどのような方法があるのかを調べる]

詳細：インターネットや辞書などを総動員し、配布する韓国語を日本語に訳してみる。

〈第15講〉

概要：秋学期の総括とハングルによる作文作成。

事前学習しておくべき用語やポイント[作文作成のための準備]

詳細：秋学期の講義を踏まえ総括する。そしてハングルで文(短文)を作ってみる。秋学期のレポート課題を提示する。

■教科書

第1教科書木内明『基礎から学ぶ韓国語講座 中級』国書刊行会

第2教科書『朝鮮語の入門・改定版』白水社刊

■指定図書

『日韓新たな始まりのための20章』田中宏・板垣竜太[編]、岩波書店2007

『韓流』と『日流』-文化から読み解く日韓新時代』クォン・ヨンソクNHKブックス2010

■参考文献

- ①『韓国人の作法』金栄勲、集英社新書2010
 - ②『ことばと文化の日韓比較』齋藤明美、2005
 - ③『韓流』のうち外-韓国文化力と東アジアの融合反応』徐勝、他[編]、御茶ノ水書房2007
 - ④『縮み』志向の日本人』李御寧、講談社文庫 昭和59
 - ⑤『これだけは知っておきたい日本と朝鮮の100年史』和田春樹、平凡社新書2010
 - ⑥『統一コリア-東アジアの新秩序を展望する』玄武岩、光文社新書2007
 - ⑦『韓国特派員の見た日本 日本人 日本社会』曹斗欽、日本風景社1981
 - ⑧『朝鮮語を考える』塚本勲、白帝社2001
 - ⑨『文化人類学20の理論』綾部恒雄[編]、弘文同 平成18年
 - ⑩『アイデンティティの心理学』鍾幹八郎、講談社現代新書1990
 - ⑪『千年働いてきましたー老舗企業大国ニッポン』野村進、角川ONEテーマ2006
 - ⑫『近代日本のナショナリズム』大澤真幸、講談社選書メチエ2011
 - ⑬『海外コリアン』朴三石、中公新書2002
 - ⑭『「マンガ嫌韓流」のここがデータラメ』朴一[編・著]、コモンズ2006
 - ⑮『想像の共同体』B・アンダーソン(白石さや、白石隆[訳])NTT出版2007
- その他、韓国と日本の新聞、雑誌、カタログ、チラシなど

■評価方法

出席70%、レポート、ディスカッション、小テストを含む講義参加態度30%

■評価基準

絶対評価

- A+：出席率が90%以上、講義参加態度が最優であること
 A：出席率が80%以上、講義参加態度が優であること
 B：出席率が70%以上、講義参加態度が良であること
 C：出席率が60%以上、講義参加態度が良であること
 F：上記の要求を満たしていない場合

■事前履修科目等

「韓国語」I、IIを履修済みのこと。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

教科書と指定図書の4冊は各自が購入し講義に参加すること。

科目名 管理会計入門〔Introduction to Management Accounting〕

担当教員 金子 邦博

■講義目的

【意思決定と業績管理に関する会計手法を学ぶ】

本講義は、産業社会を支える企業などの組織体の経営・管理活動における問題発見や問題解決に役立つ情報を提供するた
めのシステムとしての管理会計について、最新の理論と手法を学習することで、企業の戦略的な経営に資することを旨
して会計情報を活用していくことの意義を理解することを目的とする。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

企業で使われている意思決定への情報提供システムとしての管理会計における理論と手法についての
基礎的な知識を習得すること。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉序 管理会計とは

概要：管理会計の意義について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：（復習のポイント）管理会計とはどのような学問なのかを理解する。

〈第2講〉1 管理会計の諸概念

概要：管理会計で使われる諸概念について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：（復習のポイント）管理会計で使われる諸概念についてその内容を理解する。

〈第3講〉2 事業部制の業績管理

概要：責任センターの意義と業績管理の考え方を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：（復習のポイント）部門別の業績管理の手法を理解する。

〈第4講〉3 損益分岐点分析

概要：損益分岐点分析の手法を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：（復習のポイント）損益分岐点分析の計算ができるようになる。

〈第5講〉4 利益計画と予算

概要：利益計画と予算管理について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：（復習のポイント）利益計画策定のプロセスと予算管理の仕組みを理解する。

〈第6講〉5 原価企画

概要：原価企画について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：（復習のポイント）原価企画の仕組みと原価低減の推進方法を理解する。

〈第7講〉6 ABC

概要：活動基準原価計算（ABC）について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：（復習のポイント）活動基準原価計算の仕組みを理解する。

〈第8講〉7 コストのマネジメント

概要：コストのマネジメント技法を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：（復習のポイント）ライフサイクル・コストینگ、品質原価計算、現場での原価管理手法、営業費管理を理解する。

〈第9講〉8 経営意思決定

概要：短期的意思決定の手法を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：（復習のポイント）受注の可否などの短期的な意思決定の計算ができるようになる。

〈第10講〉9 戦略的意思決定

概要：戦略的な意思決定手法を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：（復習のポイント）投資の採算を判断する計算ができるようになる。

〈第11講〉（計算問題の総まとめ）

概要：損益分岐点分析、経営意思決定、戦略的意思決定の問題演習。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：（復習のポイント）損益分岐点分析、経営意思決定、戦略的意思決定の計算問題が解けるようになる。

〈第12講〉10 戦略的・戦術的価格決定

概要：商品や製品の価格決定の手法を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：（復習のポイント）商品や製品の価格決定の手法を理解する。

〈第13講〉11 経営戦略と管理会計

概要：経営戦略と管理会計のつながりを学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：（復習のポイント）企業価値創造に結びつく戦略の策定手法を理解する。

〈第14講〉12 バランス・スコアカード

概要：バランス・スコアカードの仕組みを学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：（復習のポイント）バランス・スコアカードの意義とその利用可能性を理解する。

〈第15講〉13 無形資産とコーポレート・レピュテーション

概要：無形資産とコーポレート・レピュテーションについて学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：（復習のポイント）無形資産とコーポレート・レピュテーションの意義を理解する。

■教科書

櫻井通晴 『管理会計 基礎編』 同文館出版

■指定図書

[1] 上埜 進 『管理会計の基礎』 税務経理協会

[2] 倉地裕行 『サクッとわかる日商1級工業簿記・原価計算3テキスト』 ネットスクール

[3] 川野克典 『管理会計の理論と実務』 中央経済社

[4] 浅田幸幸ほか 『管理会計・入門（第3版）』 有斐閣

[5] 谷 武幸 『エッセンシャル管理会計』 中央経済社

■参考文献

[1] 古田清和ほか 『基礎からわかる管理会計の実務』 商事法務

[2] 千原秀信 『管理会計の基本』 日本実業出版社

[3] 林 總 『50円のコスト削減と100円の値上げでは、どちらが儲かるか？』 ダイアモンド社

[4] 中元文徳 『巨大帳分析』 中央経済社

[5] 浅田幸幸・鈴木研一・川野克典 『固定収益マネジメント』 中央経済社

■参考 URL

<http://faculty.tama.ac.jp/kaneko/>

■評価方法

期末定期試験の成績により評価する（100%）。ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受講
態度に問題があった者に対しては、期末定期試験の成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

期末定期試験の成績が上記のこの講義の到達目標に達したと判断された者に単位を付与し、期末定期
試験の得点順に成績評価する。

相対評価

■事前履修科目等

この講義の受講に際して、特定の科目の単位取得は条件とは
しなないが、「原価分析」が履修済みであることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

講義のなかで随時計算演習を行うので、電卓ないしPCを毎
回持参すること。

科目名

キャリアデザインI〔Employment and Management I〕

担当教員

浜田 正幸

■講義目的

1. キャリア概念の発達とキャリア開発に関して、理論と実践について知る。2. 教育界から産業界、さらに老後まで、つまり生まれてから死ぬまでキャリアは継続することを知り、その支援について考える。3. 諸外国のキャリア支援策を参考にしながら、日本のキャリア支援のあり方を考える。

4. 現在の日本におけるキャリア形成とその支援の限界と問題点を知った上で、それらに制約されない自由な自分自身や若者のキャリア形成を考える。以上が本講の目的である。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネス創造／社会力育成

■到達目標

日本のキャリア支援の現状と課題を理解し、かつ諸外国のキャリア支援を知った上で、日本のキャリア支援のあるべき姿を論じることができることが目標である。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR

GD・GW・PR

〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉

概要：キャリアデザインIの範囲

事前学習しておくべき用語やポイント〔キャリアデザイン〕

詳細：本講全体で何を学ぶのか説明し、同時にラーニングゴールを明確にする。すなわちガイダンスである。

〈第2講〉

概要：若者の就労意識

事前学習しておくべき用語やポイント〔就労意識〕

詳細：新入社員の意識調査から、若者が仕事や働くことをどのようにとらえているのか読み解く。そのことと自身の就労観との比較をしながら、就労意識を醸成していく。

〈第3講〉

概要：キャリア発達(1)

事前学習しておくべき用語やポイント〔小学生のキャリア意識〕

詳細：小学生におけるキャリア意識と発達課題を明確にし、小学生に必要なキャリア教育について考察する。

〈第4講〉

概要：キャリア発達(2)

事前学習しておくべき用語やポイント〔中学生のキャリア意識〕

詳細：中学生の社会に対する意識調査から、中学生のキャリア意識と発達課題について考察する。グループディスカッションによって、社会について考える。

〈第5講〉

概要：キャリア発達(3)

事前学習しておくべき用語やポイント〔高校生のキャリア意識〕

詳細：高校生のキャリア意識と発達課題を明確にし、高校生に必要なキャリア教育について考察する。

〈第6講〉

概要：労働経済

事前学習しておくべき用語やポイント〔労働経済、失業率、求人倍率〕

詳細：労働経済に関する統計資料から、わが国の就労環境について考える。グループディスカッションで自らがおかれている環境を認識し、対応を考える。

〈第7講〉

概要：ジェンダーの問題

事前学習しておくべき用語やポイント〔雇用機会均等法〕

詳細：女性の就労意識や労働環境、就労実態をしり、ダイバーシティについて考える。

〈第8講〉

概要：ドイツのキャリア支援

事前学習しておくべき用語やポイント〔デュアルシステム〕

詳細：ドイツのキャリア教育とキャリア支援のシステムを知り、その利点と日本への示唆を考える。

〈第9講〉

概要：スウェーデンのキャリア支援

事前学習しておくべき用語やポイント〔シチズンシップ〕

詳細：スウェーデンのキャリア教育とキャリア支援のシステムを知り、その利点と日本への示唆を考える。

〈第10講〉

概要：イギリスのキャリア支援

事前学習しておくべき用語やポイント〔コネクションス政策〕

詳細：イギリスのキャリア教育とキャリア支援のシステムを知り、その利点と日本への示唆を考える。

〈第11講〉

概要：諸外国における若者のキャリア意識

事前学習しておくべき用語やポイント〔PSA〕

詳細：諸外国の若者が将来に対する意識や期待を、意識調査やPSAテストの結果から分析し、日本の若者との比較を考察する。

〈第12講〉

概要：日本のキャリア支援と政策

事前学習しておくべき用語やポイント〔日本のキャリア政策〕

詳細：日本の教育システムの変遷を俯瞰し、またキャリア支援の政策を調べる。それと諸外国のキャリアシステムを比較し、キャリア支援のあり方考える。

〈第13講〉

概要：日本の就労環境

事前学習しておくべき用語やポイント〔失業率、経済成長〕

詳細：日本の就労問題をとりあげ、課題や解決策についてグループディスカッションによって考察する。

〈第14講〉

概要：日本企業のキャリアシステム

事前学習しておくべき用語やポイント〔昇格、研修、一括採用〕

詳細：日本企業の採用の方法、入社後の配属方法、人事異動、人材育成について解説し、それにどう対処すべきなのか、グループディスカッションで掘り下げていく。

〈第15講〉

概要：講義内容理解確認のための試験

事前学習しておくべき用語やポイント〔全講義の内容確認〕

詳細：試験問題は講義内(一ヶ月程度前)で発表する。資料の持ち込みは可とし、事前に調べておかないで回答できない論述問題が出題される予定である。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

講義内に適宜紹介する

■評価方法

講義の最終回に試験を実施し、その答案の量と質で評価する。毎回実レポートを課す。その内容を評価に加味する。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

真摯な態度で講義にのぞむこと。

科目名 キャリアデザインⅡ(開発)(Employment and Management Ⅱ (Career development))

担当教員 トータル アカデミー

■講義目的

キャリアデザインⅡ(開発)は、学生が社会の仕組みの中で働く力をつけることを目的とする。社会という大きな仕組みの中で其々の役割を担う社会人に求められる様々なスキル、常識、マナーなどを学ぶことにより、社会で活躍できる人材の育成を実現する。ビジネスマナー、コミュニケーションマナー、接客応対はもちろんのこと、就業マナーやコンプライアンスに関する事項も理解を促し、自信を持って社会に羽ばたいて頂ける基礎力を培う。講座形式としては、グループディスカッションやグループワークを多く取り入れ、コミュニケーション能力を伸ばしながら、実践的に学べる本講義を通し、より多くの学生に、就職活動への橋渡しができるように、社会人基礎力を培うことができる講座内容とする。

■講義分類

顧客理解/ビジネス環境理解/ビジネスマネジメント/社会人力育成

■到達目標

社会人に求められるビジネスマナー、コミュニケーションマナー、就業マナー等の知識を身に付ける。敬語、電話応対、接客応対などの習得を通し、社会人となるための基礎力を培う。また、グループディスカッションやグループワークを多く取り入れることで、社会人として求められるコミュニケーション能力を伸ばす。ビジネスマナーの知識、敬語の修得、社会人基礎力養成を目標とする。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■講義の概要

〈第1講〉ガイダンス

概要：キャリアデザインⅡ(開発)の全15回の概要を説明。単位修得に際しての評価基準等詳細を明示する。

事前学習しておくべき用語やポイント[キャリア]

詳細： 第一印象をアップするための基礎トレーニングとして発声練習ならびに表情訓練を行う。また、習得するのに継続したトレーニングが必要な敬語の実践的な練習を行う。この基礎トレーニングを実践することで、より効果的に好感度を高めることができる。今後は、基礎トレーニングを習慣的に実践することを求める。特に敬語が日常の会話で使いこなせるよう反復練習する。

〈第2講〉キャリアデザイン

概要：就職活動の現状把握

事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、インターンシップ]

詳細： 就職活動の現状を解説する。また、最近多くの企業で取り入れられているインターンシップについて解説する。企業側、学生側双方のメリット、参加に際しての心構えを解説し、より多くの学生の前向きな実習への取り組みを促す。次回までに、インターンシップの取り組みに関し、自己の考えをまとめる。

〈第3講〉自分を知る

概要：自己分析を行い、自己のアピールポイントを知り、自己啓発に繋げる。

事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反

復練習、自分史作成資料集]

詳細： 自分の長所や短所、興味、関心を整理し、自己PRを作成しておくことは、卒業後の仕事やキャリアを考える上で重要なことである。また、面接でも自己PRは必ず聞かれるため、自信が持てる自己PRを作成することは、就職活動を行う上で必要なことである。次回までに、自分史を完成させる。

〈第4講〉立居振舞い

概要：好印象につながる所作/立ち姿・座り姿・立ち方・座り方・歩き方・お辞儀/動作

に添えるもの5つ

事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習]

詳細： 人と接する上で、印象を大きく左右する立居振舞いについて、立ち姿、座り姿など6項目に分けて実践的に習得する。繰り返し実技をすることで、より美しい身のこなしが自然にできるようになる。本講義後も、自宅で、学んだ立居振舞い6項目を身につくまで復習することが必要である。

〈第5講〉ビジネスマナー

概要：社会人の常識/プラスの心理・マイナスの心理/挨拶・笑顔・身だしなみ・言葉遣い・

態度

事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、ビジネスマナー]

詳細： ビジネスマナーについて、基本事項を講話を交えて分かりやすく解説。就職活動につながる知識を身に付ける。とりわけクッション言葉や効果的な依頼の仕方など普段から活かせる言葉のテクニックを中心に学ぶ。本講義後は、本講義で学んだことを日常生活に取り入れるよう努めていただきたい。特に、挨拶の励行、笑顔トーク、身だしなみ(髪型、服装、メイク等)の配慮、正しい言葉遣い、向上心を持ったよい態度は重要である。

〈第6講〉コミュニケーションマナー

概要：電話のマナー/Eメールのマナー/手紙のマナーについて学習する。

事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、コミュニケーション]

詳細： 電話のかけ方、受け方、携帯電話の扱いも含めた電話、Eメール、手紙など、コミュニケーションツールを使用する際のマナーを学ぶ。次回までに、電話独自の言い回しなど、本講義で学習したことを確認しておく。

〈第7講〉ビジネス文書作成演習

概要：お礼状の書き方(例:インターンシップのお礼状)、お詫び状の書き方(例:内定辞退のお詫び状)を学習し、必要な時に備える。

事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、ビジネス文書]

詳細： お礼状とお詫び状の書き方のポイントを学習する。インターンシップや面接終了後にお礼状を出すことを徹底するため、書き方も実践的に習得する。次回までに、本講義で作成したお礼状を参考に、別パターンのお礼状を書いてみる。

〈第8講〉就業マナー

概要：個人情報管理と守秘義務/公私混同、受命・報告/報

告・連絡・相談の重要性とその正しい振舞い方を解説する。
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、就業マナー]

詳細： 入社後、職場でよい評価を受けるために、社会人の常識である就業マナーを学ぶ。出社時間・就業時間の常識や、コンプライアンスに関わる個人情報管理と守秘義務について、危険性も含めて講話する。公私混同と捉えられる行動についても抑止し、コンプライアンスの問題に巻き込まれないよう注意を促す。

〈第9講〉接遇マナー

概要：来客応対／物の授受・湯茶接待・ご案内・指示し方・上席の知識・名刺交換・メモの取り方・お見送りなど
事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、接遇]

詳細： 「物の授受」「湯茶接待」「ご案内」「指示し方」「上席の知識」について学習し、繰り返し練習して身に付ける。

〈第10講〉グループワーク①

概要：グループディスカッション

事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、ディスカッション]

詳細： 学生と社会人の違いとは、入社までに具体的に何を習得することが必要か、職場でどのようなことが求められるか等をディスカッション形式で考え、認識を新たにすることにより、本講座で学習したビジネスマナー、コミュニケーションマナー、就業マナー等の復習を行う。

〈第11講〉グループワーク②

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、ホウレンソウ]

詳細： 職場で多くの指示のもとに仕事をする中で特に大切な指示の受け方や報告の仕方について学ぶ。報告・連絡・相談(ホウレンソウ)の必要性を解説し、実際にグループワークでは、職場上司と実習生のロールプレイを通し、指示を受ける際、報告をする際のポイントを習得する。

〈第12講〉グループワーク③

概要：グループディベート

事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、ディベート]

詳細： 就職活動の面接形式として採用されているグループディベートについて解説し、実際に体験する。

〈第13講〉グループワーク④

概要：電話応対を想定したロールプレイ

事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、第6講の復習]

詳細： 第6講で学んだ、コミュニケーションマナーの中で、電話応対について再確認し、実際の場面を想定したロールプレイをグループワークで実施。正しい電話応対について学び、スムーズに電話のやり取りができるよう、実践を通して習得する。

〈第14講〉グループワーク⑤

概要：来客応対を想定したロールプレイ

事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習、第9講の復習]

詳細： 第9講で学んだ、「物の授受」「湯茶接待」「ご案内」「指示し方」「上席の知識」などをお客様と職員役の役割分担をして、小道具を使用して、実践的にロールプレイで習得する。これは、接客適性にも繋がる技量なので、学生時代に、磨け

るだけ磨き、社会人基礎力をアピールできるよう取り組む。
次回までに、学んだお茶出しやご案内の仕方等を自宅で復習する。

〈第15講〉期末試験

概要：期末試験実施

事前学習しておくべき用語やポイント[基礎トレーニング反復練習]

詳細： テキストを中心に講義内容より出題。特に必須事項を復習することで、より有利な就職活動に繋げる。

■教科書

「多摩大学 就活ハンドブック」日本トータルアカデミー松井直美(又は、同 就職活動必勝マニュアル)

■評価方法

「出席回数」「授業態度」「提出物」合わせて50%+「期末テスト」50%=100%

■評価基準

相対評価

期末試験により、講義内容の習得度を測る。グループワーク等の取組む姿勢、授業態度、提出物、出席回数等も加味して評価する。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科 目 名 キャリアデザインⅢ〔Employment and Management Ⅲ〕

担当教員 浜田 正幸

■講義目的

「働く」現場を知る。

1.学校生活と会社生活は全く異なるが、学生には会社生活の実態が分からないので、社会人になってからのギャップの大きさにとまどってしまう。したがって、働く現場の実態を知ることから、この講義はスタートする。2.会社生活では、どんなイベント（制度）があるのか知識として取得する。3.会社生活を送るために、今から準備すべきことを考え、行動変容する。4.社会人としての基礎的な能力を養う。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネス創造／社会人力育成

■到達目標

会社生活をイメージすることができ、自分自身がどのような働き方をしているのか、会社の中でどのようなことが行われるのか想像し、そこに適応しようとする意志が持てることがゴールである。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

GD・GW・PR

〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉

概要：本講の全体像

事前学習しておくべき用語やポイント〔キャリアデザイン〕

詳細：本講全体で何を学ぶのかを説明し、同時にラーニングゴールを明確にする。すなわちガイダンスである。

〈第2講〉

概要：会社が求める人材・能力

事前学習しておくべき用語やポイント〔採用〕

詳細：会社が求めている人材と能力について理解する。

〈第3講〉

概要：選考の実態

事前学習しておくべき用語やポイント〔選考試験〕

詳細：会社が求める人材・能力をみきわめるために会社はどのように選考しているのか知る。

〈第4講〉

概要：入社から導入研修

事前学習しておくべき用語やポイント〔入社式、導入研修、入社前研修〕

詳細：入社前研修、入社式、その後数週間から数ヶ月におよぶ導入研修について理解する。

〈第5講〉

概要：配属

事前学習しておくべき用語やポイント〔配属〕

詳細：長い研修期間をおえてようやく配属となる。会社はどのようにして新入社員を配属しているのか、その考えと実際のところを知る。

〈第6講〉

概要：入社から10年間くらいの典型的なキャリア

事前学習しておくべき用語やポイント〔人事異動、配置転換、適材適所〕

詳細：入社してから数年ごとに人事異動があったり、ジョブローテーションを経験することになる。その要因は何なのか、新入社員は何を期待されているのか、最初のキャリアについて考える。

〈第7講〉

概要：等級制度、キャリアラダー

事前学習しておくべき用語やポイント〔等級制度〕

詳細：会社の人事制度上の等級制度について理解する。

〈第8講〉

概要：評価制度

事前学習しておくべき用語やポイント〔人事評価、人事考課、査定〕

詳細：人事上の評価制度について、誰が誰の何を評価するのか。評価の結果はどうなるのかを理解する。

〈第9講〉

概要：賃金制度

事前学習しておくべき用語やポイント〔賃金、ボーナス〕

詳細：賃金制度はどうなっているのか。成果主義とは何か。年功序列賃金とは何か。ボーナスはどのように決まるのか。

〈第10講〉

概要：転職

事前学習しておくべき用語やポイント〔転職、第二新卒〕

詳細：現在世帯では転職をどのようにとらえているのか。第二新卒のメリット・デメリットについても考える。

〈第11講〉

概要：報酬

事前学習しておくべき用語やポイント〔報酬制度〕

詳細：仕事に対する報酬とは何なのかを考える。おカネはたしかに重要であるが、おカネのために働くとはどうなるのか、人間の心理面から考える。

〈第12講〉

概要：昇進・昇格の仕組み

事前学習しておくべき用語やポイント〔昇進、昇格〕

詳細：入社後数年後には昇格があり、その先には昇進がある。昇進昇格の仕組みやキャリアラダーについて理解を深め、自分自身のキャリアデザインを考える。

〈第13講〉

概要：リーダーシップ

事前学習しておくべき用語やポイント〔リーダーシップ〕

詳細：リーダーシップは組織のトップのみ求められるものではない。新入社員にもリーダーシップが必要である。リーダーシップを身につけ発揮するためにはどうすべきなのか。自分自身のリーダーシップトレーニングと今からすべきことについて考える。

〈第14講〉

概要：日本企業のキャリアシステム

事前学習しておくべき用語やポイント〔昇格、研修、一括採用〕

詳細：日本企業の採用の方法、入社後の配属方法、人事異動、人材育成について解説し、それに対してどう対応すべきなのか、グループディスカッションで掘り下げていく。

〈第15講〉

概要：講義内容確認のための試験

事前学習しておくべき用語やポイント〔全講義の内容確認〕

詳細：試験問題は講義内（一ヶ月程度前）で発表する。資料の持ち込みは可とし、事前に調べておかないと回答できない論述問題が出題される予定である。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

講義内に適宜紹介する

■評価方法

講義の最終回到試験を実施し、その答案の量と質で評価する。毎回実レポートを課し、その内容が評価に加味される。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

真摯な態度で講義にのぞむこと。

科目名 教育心理学(Educational Psychology)

担当教員 大森 拓哉

■講義目的

教育心理学とは、人間の「教える」「学ぶ」という営為について、心理学の観点から科学的に理解・考察する学問である。この学問の目的は、心理学の研究から得られた知見や技術を教育活動の場に応用することによって、教育という活動を社会において効率的・効果的に行えるようにすることである。

■講義分類

顧客理解/ビジネス環境理解/ビジネス創造/ビジネスマネジメント /社会人力育成

■到達目標

教育・発達について、心理学的な観点から科学的に理解し、一般社会における学校教育・社会教育においても本講義で学んだ知見を応用できるようにすることを目標とする。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR[学外学習なし]

■講義の概要

〈第1講〉

概要：教育心理学とは何か

事前学習しておくべき用語やポイント[教育心理学、発達、学習]

詳細：心理学における教育心理学の担い役割、教育における教育心理学の重要性、教育心理学で取り上げるテーマなどについて概説する。

〈第2講〉

概要：教育と発達

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：生まれてから成人になるまでの発達過程と、その過程での心理状態、発達の状況に応じた教育方法などについて概説する。

〈第3講〉

概要：認知発達

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：人間の発達における認知能力の変化と、人間の脳のしくみ、認知機構などについて概説する。

〈第4講〉

概要：学習理論

事前学習しておくべき用語やポイント[学習、習得、記憶、轉移]

詳細：教育の基本となる学習行動について、心理学的な面から解説し、発達に応じた学習方法や様々な学習形態について言及する。

〈第5講〉

概要：教授・学習過程

事前学習しておくべき用語やポイント[集団学習、個別学習]

詳細：教授・学習過程は学校教育におけるもっとも基本的な形態である。その形態の中でも様々な方法が存在するが、適切な教授方法、学習方法などについて概説する。

〈第6講〉

概要：意欲と動機づけ

事前学習しておくべき用語やポイント[古典的条件付け、オペラント条件付け]

詳細：学習するための動機には様々なものがあるが、学習する意欲との関係は大きい。そのための動機付けの意義や、条件付けのための理論・方法などを解説する。

〈第7講〉

概要：パーソナリティ・個人差

事前学習しておくべき用語やポイント[パーソナリティ]

詳細：性格の違い、能力の違いは多少少なからず存在するものである。個人個人の持つもの(パーソナリティ)について、性格や能力について考える。

〈第8講〉

概要：個に応じた学習指導

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：個々の児童・生徒には必ず個人差が存在する。その差は個性・性格の違い・能力の違いなどさまざまである。個人個人に合った教育やその方法とはどのようなものかについて考える。

〈第9講〉

概要：集団における人間関係

事前学習しておくべき用語やポイント[集団行動]

詳細：人間社会は集団の中での生活であり、学校現場も集団生活の場である。その中で教育がどのように行われるべきか、集団行動の中での人間関係がどのようなものであるか、クラス集団などかのような役割を果たしているか、などについて考える。

〈第10講〉

概要：言語の発達

事前学習しておくべき用語やポイント[言語発達]

詳細：幼児は成長とともに言語を獲得する。その際の概念獲得と教育の方法について解説する。

〈第11講〉

概要：数概念の発達と算数・数学の学習

事前学習しておくべき用語やポイント[数概念の獲得]

詳細：数の概念は成長とともに正確に学習されるが、その途中段階での様子とそれに応じた学習などについて解説する。

〈第12講〉

概要：知能と学力

事前学習しておくべき用語やポイント[知能検査、学力検査]

詳細：知能とは何か、学力とは何かということを考え、それらを図るためにはどのような方法があるかを考える。

〈第13講〉

概要：教育評価

事前学習しておくべき用語やポイント[テスト、評価]

詳細：学力の評価や態度評価など、教育において評価する場面は数多く存在するが、その評価の意味や役割などを正確に理解し、その評価の方法と活用の方針などについて解説する。

〈第14講〉

概要：ライフスキルを高める教育

事前学習しておくべき用語やポイント[生涯学習]

詳細：教育は義務教育や高等教育などの学校教育で終わるものではなく、一生継続のものである。社会人あるいはそれ以降においても教育・学習行動は必要と becoming ことは十分考えられる。それらのことを踏まえ、今後の日常生活と教育について心理学的な観点から解説する。

〈第15講〉

概要：まとめ

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：本講義のまとめを行う。

■教科書

特に指定なし。講義ごとに紹介する。

■指定図書

教育心理学Ⅰ、大村彰道編、東京大学出版会、1996

教育心理学、荒井邦二郎他、培風館、2009

よくわかる教育心理学、中澤潤編、ミネルヴァ書房、2008

■参考文献

特に指定なし。講義ごとに紹介する。

■評価方法

出席50%、課題50%

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

情報系科目全般

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講義は毎科目中の一科目でもあるので、教職課程履修のものは必修の授業である。講義中の飲食、携帯電話操作、帽子・サングラスの着用等は厳禁である。

科目名

教育相談〔Educational Counseling〕

担当教員

大森 拓哉

■講義分類

志、キャリア／産業社会、サービス、最前線事例／課題発見、問題解決、実践的知識獲得／問題解決のための理論、問題解決のための科学、問題解決のための方法／顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、／社会人力育成、社会人基礎力

■到達目標

教育相談の理論と実践について、適切に理解し、実際の場面でも適応できるかどうか。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉

概要：教育相談とは何か

事前学習しておくべき用語やポイント〔教育相談、カウンセリング〕

詳細：教育における相談とはどういうものか、相談体制、相談方法、教育相談の効果、教育の中での教育相談の役割、などについて包括的に講義する。

〈第2講〉

概要：幼児・児童期の発達

事前学習しておくべき用語やポイント〔幼児期、児童期〕

詳細：人が生まれてから幼児期、児童期までの心の動きと心身の発達について解説する。同時に、自分自身についての振り返りも行う。

〈第3講〉

概要：思春期・青年期の発達

事前学習しておくべき用語やポイント〔思春期、成年期〕

詳細：思春期・青年期の心の動きと心身の発達について解説する。

〈第4講〉

概要：不応・不登校

事前学習しておくべき用語やポイント〔不登校、不応〕

詳細：不応・不登校の児童・生徒の実態と、その対応の方法と支援体制について解説する。

〈第5講〉

概要：いじめ・虐待

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：

〈第6講〉

概要：学習障害・発達障害

事前学習しておくべき用語やポイント〔アスペルガー症候群、ADHD〕

詳細：学習障害、発達障害といった

〈第7講〉

概要：学校カウンセリング

事前学習しておくべき用語やポイント〔相談室、スクールカウンセラー〕

詳細：学校における心理相談の体制、スクールカウンセラーの導入、その方法と効果などについて解説する。

〈第8講〉

概要：カウンセリングの技法①

事前学習しておくべき用語やポイント〔心理カウンセリング、来談者中心療法〕

詳細：カウンセリングの技法の概要とその手法について解説する。本講ではまずカウンセリングの流れを解説し、その後各手法について解説する。本講では来談者中心療法について解説する。

〈第9講〉

概要：カウンセリングの技法②

事前学習しておくべき用語やポイント〔精神分析、行動療法、認知行動療法〕

詳細：カウンセリングの各技法について解説する。本講では、精神分析、行動療法、認知行動療法等について解説する。

〈第10講〉

概要：カウンセリングの技法③

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：カウンセリングの各技法について解説する。本講では、自律訓練法、森田療法、音楽療法、箱庭療法などについて解説する。

〈第11講〉

概要：心理テスト①

事前学習しておくべき用語やポイント〔質問紙法、性格検査〕

詳細：面接場面における心理テストの方法として、質問紙法の利用の仕方について解説する。性格検査、抑鬱度測定検査などを実際にを行いながら解説する。

〈第12講〉

概要：心理テスト②

事前学習しておくべき用語やポイント〔面接法、投影法〕

詳細：面接場面における心理テストの方法として、面接法や投影法による心理検査の利用の仕方について解説する。

〈第13講〉

概要：ソーシャルスキル・ライフスキル教育

事前学習しておくべき用語やポイント〔社会性、対人関係、生涯教育〕

詳細：良好な人間関係をつくり、保つための知識と具体的な方法であるソーシャルスキルと、生涯教育としてのライフスキルについて解説する。

〈第14講〉

概要：キャリア相談

事前学習しておくべき用語やポイント〔進路指導、キャリア支援、就職指導〕

詳細：進路指導、就職指導、将来のキャリア形成に関して、教育機関・教育者がどのようなことを支援すべきか等について解説する。

〈第15講〉

概要：まとめ

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：これまでの講義のまとめを行う。

■教科書

プリント等を配布

■指定図書

教師のための学校カウンセリング、小林正幸他、有斐閣アルマ、2008

生徒指導と教育相談、角田豊編、創元社、2009

教師のためのカウンセリング実践講座、菅野純、金子書房、2007

教師のための教育相談の基礎、久芳美恵子、三省堂、2003

■参考文献

講義内で紹介する

■評価方法

出席・レポート50%、期末テスト50%

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講義は教職科目の中の一科目でもあるので、教職課程履修のものは必修の授業である。

科目名 近現代史:世界と日本〔Modern History〕

担当教員 榎木 哲太郎

■講義目的

本講義は、史料学的な歴史研究ではなく、若い諸君が韓国など時代認識を持ち、これらの人生にどう向き合うかを考えるための一つの契機となることをめざしている。そして、現代の世界が直面する諸課題とその歴史的背景を知り、複雑な相互連関の中にある国際関係や経済問題を考察するための共通認識を深め、未来への適切な選択につなげていけるような歴史的教訓を得ることをねらいとしている。歴史を動かすものは何かと問ひかけよう。さらに、日本の近現代についても、世界史の流れの中で再検討したい。幕末・明治維新以後の日本は、西洋近代の大きな歴史的潮流に抗えず飲み込まれたが、その一方で、海中に消すことのできない楔を打ち込み、近現代世界史の1ページを飾る主体へと変身した。グローバル化の中を生き抜くためには、他者を知らねばならない。世界の各地域、欧米や中国、アジア、ロシアやイスラム世界について理解を深めるには、地政学的視点とともに、その歴史に遡って考究することが不可欠であろう。アジア・太平洋地域の協力関係のあり方をめくっては議論が分かれているが、仮に「東アジア共同体」といった枠組みを志向するのであれば、EUへの道のりがどのような途に落ちたものであったかを追跡しておく必要があるのではないだろうか。少子・高齢社会、「持続可能な社会」への取り組みは、北朝鮮国等の「実験」からも示唆を得ることができよう。半期15回という限られた時間の中で、歴史を扱う際の時代的制約(現代の価値基準で評価することの危険性、等)を十分意識しつつ、こうした現代問題意識に沿って、適宜よりもテーマ中心の大きなアプローチを採みたい。前半で歴史を動かす諸要因について検討し、後半では欧州、米国、中国、ロシア、アジア・アフリカ、イスラム世界、そして日本の近現代史について概観する。20世紀的の原理とはいかなるものであったのだろうか。21世紀において、それはどのように展開、変容を遂げていけるであろうか。配布資料の事前の読解(予習)を前提に、ディスカッションを交えた密度の高い講義となるよう心がけたい。また諸君にも、自らが歴史を創る主体に他ならないことを銘記して臨んで頂くことを期待する。

■講義分類

ビジネス環境理解/社会人育成/グローバルビジネス

■到達目標

世界と日本の相互作用、光と影に満ちた近現代史を学ぶことを通じて、現代社会の直面する諸課題の解決につながる豊富な示唆を得、社会研究の基盤とグローバル社会に生きるための視座を構築することができる。

■講義形態

講義・GD・GW・PR(学外学習用)

■講義の概要

〈第1講〉近現代史と現代社会

概要：現代とのつながりを意識し、近現代史を学ぶ意義を考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[近代、現代、第二次世界大戦、国際連合、G20]

詳細：何のために歴史を学ぶのか。歴史研究はどう「役に立つ」のか。2009年の第二次世界大戦開戦70周年、2011年のアジア・太平洋戦争開戦70周年等を例に、現在はどう歴史とつながっているのかを考える。これまでの近現代史には進歩史観・西欧中心史観が色濃く投影されており、それがどのような社会的影響を及ぼしてきたかを考察する。

〈第2講〉近現代史を紐解く

概要：近代の始まりから時系列的に近現代史の流れを跡づける。

事前学習しておくべき用語やポイント[近代史、ルネサンス、宗教改革、大航海時代、主権国家、科学革命、近代合理主義、市民革命、産業革命、国民国家、資本主義、帝国主義、近代経済成長]

詳細：近代は中世と何が異なるのか。歴史に法則はあるのか。何が歴史を動かすのか。歴史学の新しい動きとは？議会制民主主義はいかに誕生し、世界的に普及していったのか。産業化、「産業革命」の実態と波及過程はどのようなものであったのか。1820年代に急激な近代経済成長が開始されたのはいかなる要因によるものと考えられるか。

〈第3講〉歴史からの教訓：ヴァイマル共和政の崩壊を例に

概要：歴史からの教訓を得ることの重要性について、ヴァイマル共和政を例に考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[第一次世界大戦、ヴェルサイユ体制、ヴァイマル共和政、ハイパー・インフレーション、ヴァイマル憲法、ヴァイマル文化、社会民主党、ファシズム、ナチ党]

詳細：なぜ選挙を通じてナチ党が政権奪取に成功し、民主的憲法を持つヴァ

イマル共和政は崩壊したのか。マクロ経済のパフォーマンスと政治的混乱はどうつながるか。後にホロコーストを起こし、多くの戦争犠牲者を生み出したヒトラーの野望をどうすれば阻止することができたのか。ファシズム、ナチズム、全体主義とは、どのような歴史的背景で誕生し、いかなる性格を持った社会運動なのか。

〈第4講〉リーダーシップの役割

概要：歴史の動向を決定づけたリーダーたちの決断についてその当否と成否を考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[スペイン内戦、ミュンヘン会談、チャーチル、東西「冷戦」、キューバ危機、ベトナム戦争、ケネディ、澤澤栄一]

詳細：チャーチル、ケネディ、澤澤栄一の3人を例に、そのリーダーシップがどのように歴史を変え、動かしたかを明らかにする。1938年9月の「ミュンヘン会談」でヒトラーを阻止できなかったチェンバレンと、度々失敗を犯しながらも戦時宰相として返り咲き「大英帝国」を守るためにリーダーシップを発揮したチャーチルの違いは何か。1962年のキューバ危機、あるいは後のベトナム戦争に際して、ミュンヘン会談の教訓はどう生かされたか。澤澤栄一が日本の近代化過程において果たした役割の重要性は、今日の発展途上国にどのような示唆を与えるのか。

〈第5講〉近代経済成長と社会経済思想の役割

概要：近代経済成長の過程を概観し、近現代史を動かしたいくつかの社会経済思想について掘り下げる。

事前学習しておくべき用語やポイント[重商主義、アダム・スミス、自由放任、社会民主主義、共産主義、ケインズ、混合経済、ハイエク、新自由主義]

詳細：近代経済成長はいかにして実現されたのか。アダム・スミスやマルクス、ケインズ、ハイエク等の社会経済思想は、現代にどのような影響を及ぼしているのか。20世紀を動かした社会経済思想はどのようなものであったか。欧州社会主義の主流はマルクス＝レーニン主義(共産主義)ではなく、日本人には馴染みの薄い「社会民主主義」であった。社会民主主義とはいかなる社会思想か。前世紀末から今世紀初頭にかけて世界を席捲した「新自由主義」は、いかにして誕生したのか。

〈第6講〉ヨーロッパの近現代

概要：EU統合に至るヨーロッパの近現代史について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[EEC、NATO、EU、社会民主主義、福祉国家]

詳細：EU統合への道は、いかなる要因、思想、リーダーシップによって切り拓かれたのか。そのプロセスは「東アジア共同体」をめぐる議論にいかなる示唆を与えるのか。ヨーロッパのアイデンティティとは何か。アメリカとは何が異なるのか。欧州社会民主主義は、例えば北欧諸国、ドイツ、オランダ等においてどのような社会的実験に取り組み、具体的成果を上げてきたのか。保守勢力との対立点は？近年の社会民主主義はいかなる変貌を遂げつつあるのか。

〈第7講〉アメリカの近現代

概要：アメリカとはいかなる国か、200年の歴史の中でどう変貌を遂げたか。

事前学習しておくべき用語やポイント[建国宣言、トクヴィル、WASP、モンロー主義、ニューディール連合、公民権運動、ベトナム戦争、対抗文化、レーガノミクス、宗教右派]

詳細：自由と民主主義の国、アメリカはいかにして形成されたのか。19世紀初めに訪米した仏人貴族アレクシス・ド・トクヴィルにとって、アメリカはヨーロッパとどのような違いを持つ国として映ったか。フランクリン・ロー

ズヴェルト大統領のニューディール政策とはどのようなもので、それまでのアメリカをどう変えたのだろうか。1960年代の公民権運動、ベトナム戦争以後、アメリカ社会はどのような変貌を遂げていったのだろうか。レーガン大統領の登場はアメリカに何をもたらしたのだろうか。「二つのアメリカ」と呼ばれるような今日の状況は、いかにして生じたのであろうか。

〈第8講〉ロシアの近現代

概要：世界初の大規模な革命を起こした大ロシアの集権制の背景には何があり続けたのか。

事前学習しておくべき用語やポイント [ロマノフ王朝、農奴解放、ロシア革命、ボリシェヴィキ、スターリン、計画経済、スターリン批判、ペレストロイカ、ソ連解体]

詳細：文豪ドストエフスキーやトルストイの見た後発資本主義国ロシアの実態は、いかなるものであったか。1917年のロシア革命では、なぜ世界で初めて共産党が政権を奪取することができ、体制維持をなしたのか。革命はその後の世界にどのような影響を与えたのか。それから74年後、ソ連邦はなぜ崩壊することになったのか。スターリンの独裁はなぜ生まれ、何を引き起こしたのか。

〈第9講〉中国の近現代

概要：清朝の崩壊から中華人民共和国の建国、高度成長に至る近現代史について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント [華夷秩序、清朝、乾隆帝、マカートニー、アヘン戦争、辛亥革命、孫文、国民党、蒋介石、中国共産党、五四運動、国共内戦、毛沢東、文化大革命、鄧小平、改革開放、天安門事件]

詳細：中国とはいかなる国か。「中華思想」と言われるものはどのような歴史的起源を持ち、清朝においてはいかなる形で西欧諸国に向けて発露されたのであろうか。辛亥革命はどのようにして実現したのか。共産党はなぜ国民党との内戦に勝利できたのだろうか。文化大革命とはいかなるもので、現在の中青年世代はどのような犠牲を払ったのであろうか。鄧小平の思想と改革の内容とは？中国の「市民社会」の動向をどう見るべきか。

〈第10講〉日本の近現代(1)

概要：日本の近代化はどのように実現され、日本人の世界認識はどう変わったのか。

事前学習しておくべき用語やポイント [江戸時代、明治維新、文明開化、自由民権運動、脱藩入欧、大日本帝国憲法、統帥権、家父長制、男尊女卑、日露戦争、韓国併合、大正デモクラシー、在郷軍人会、憲政の常道]

詳細：江戸期の日本は、明治の近代化に何を提供することができたのか。開国後に訪れた外国人の目に映った日本とは？明治憲法体制（大日本帝国）とは？それを支えた草の根の組織とはどのようなものであったか。「富国強兵」はいかにして、どのような犠牲の上に実現されたか。日本人のアジア観はどう変化していったか。戦前の日本には民主主義が存在しなかったとするブッシュ前米大統領に代表される歴史認識はどこが誤りか。

〈第11講〉日本の近現代(2)

概要：アジア・太平洋戦争の惨禍、戦後の高度経済成長とその終焉から何を学ぶべきか。

事前学習しておくべき用語やポイント [ワシントン体制、近衛文麿、北一輝、満州事変、国体、アジア・太平洋戦争、日本国憲法、1955年体制、高度経済成長]

詳細：これまでの欧米諸国の近現代史に日本のそれを重ね合わせ、1930年代の世界がどのような動きをしたのかをトータルに描き出してみよう。日本はなぜアジア・太平洋戦争を起こし、多くの犠牲者を生むことになったのか。他の選択肢はなかったか。戦争への圧力はどこから生まれたのか。欧州のファシズムと日本の軍国主義はどう異なるのか。「昭和」戦前の日本社会はどのようなものであったのだろうか。戦前と戦後では何が変わったのか。「国際秩序」はどう変わったのか。高度経済成長の要因は何か。日本人のめざすものは、どう変わってきたのか。「領土問題」を近現代史の中で考える。

〈第12講〉アジア・アフリカの近現代

概要：19世紀に欧米の植民地とされたアジア・アフリカ諸国の独立とその後

を展望する。

事前学習しておくべき用語やポイント [国民会議派、ウィルソンの14か条、ガンディー、スワデーシ、ネルー、ヒンドゥー・ナショナリズム、ASEAN、ベルリン会議、ンクルマ、アバルト・ヘイト、ANC、AU]

詳細：イギリスに支配されたインドは、いかなる歴史を経て今日の経済発展にたどりついたのか。パキスタンとの関係は？国民会議派とはいかなる政治勢力であったのか。ヒンドゥー至上主義の本質は何か。ASEAN諸国の近現代史はどのようなものであったか。アフリカの貧困は何によってもたらされたのか。アジアと比較すると、何が障害となったのか。21世紀に入って、アフリカはどう変わりつつあるのか。

〈第13講〉イスラーム世界の近現代

概要：アフリカからアジアに至る広範なイスラーム世界の近現代史を展望する。

事前学習しておくべき用語やポイント [ワッハブ運動、シオニズム、バルフォア宣言、トルコ革命、汎アラブ主義、中東戦争、イラン革命、公正発展党、ジャシミン革命]

詳細：かつて西洋文明（キリスト教世界）をリードしたイスラーム圏は、危機に直面してどのような復興・改革運動を展開したのか。「世俗化」とは何か。トルコやエジプトをはじめとするイスラーム諸国の近代化と、日本の近代化に至る歩み（攘夷→倒幕→文明開化）はどの重なるか。イラン革命とはいかなるものであったのか。中東紛争、パレスチナ問題の起源はどこにあるのか。中東諸国の民主化の動きはどの展開するか。何が影響を与えるのか。最後に中国、日本、アジア、アフリカの近現代史を重ね合わせ、非西欧世界の20世紀像をトータルに描き出してみよう。

〈第14講〉20世紀から21世紀へ

概要：20世紀とはいかなる世紀であったのか。近現代史の学びを通じて、21世紀は何を受け継ぎ、何を变えねばならないのかを考える。

事前学習しておくべき用語やポイント [産業主義、国民国家、ナショナリズム、大衆民主主義、ポピュリズム、地球環境問題、知識—情報社会、グローバル化]

詳細：近現代を貫いた諸原理、諸思想、行動様式は、どこまでが変わらず、どこまでが変わりつつあるのか。科学や技術の「進歩」は歴史をどう変えてきたのか、変えるのか。

〈第15講〉再び、近現代史と現代社会

概要：我々は近現代史から何を学んだのか。

事前学習しておくべき用語やポイント [歴史の潮流、歴史の教訓]

詳細：我々はどこへ向かうかとしているのか。歴史から得た教訓をどう生かさねばならないのか。講義全体を踏まえて、あらためて近現代史の学びから得られた認識を掘り下げる。

＊履修者少数の場合は、授業時間内試験を行う。

■教科書

使用しない(毎回資料を配布する)。

■指定図書

- [1] 正村公宏(1995)『現代史・原典書局』
- [2] T.C.W. フランシス・ギブソン・山田史郎監訳(2009)『オックスフォードヨーロッパ近代史ミネルヴァ書局』
- [3] 久保亨・土居哲夫・高田孝男・井上久士(2008)『現代中国の歴史 両岸三地100年のあゆみ』(東京大学出版会)
- [4] 遠藤龍雄(2008)『ヨーロッパの歴史 名古巣大学出版会』
- [5] テート・ボブ・ポークト(小野清美・田村栄子・原田一真訳(1993))『ワイマル共和国 古典的近代の軌跡』(名古巣大学出版会) (原著：1987)
- [6] 寺島英郎(2007)『20世紀から何を学ぶか(上)』(1900年への旅 欧州と出会った若き日本) (新潮選書) (原著：2000)
- [7] 寺島英郎(2007)『20世紀から何を学ぶか(下)』(1900年への旅 アメリカの世紀、アジアの自尊) (新潮選書) (原著：2002)
- [8] 正村公宏(1996)『世界史のなかの日本近現代』(東洋経済新報社)
- [9] 正村公宏(2010)『日本の近代と現代史をどう読むか』(NTT出版)

■参考文献

- [1] 藤岡義典(2005)『20世紀現代史—一書』
- [2] ボール・ジョーンソン(別宮宣典訳(1992))『現代史：1917—1991』(共同通信社)
- [3] ウィリアム・H・マクニール(増田義典・佐々木昭夫訳(2008))『世界史』(上・下) (中公文庫)

- [4]『世界の歴史』中央公論社[全30巻](1996-1999)
- [5]『岩波講座 世界歴史』[全28巻]岩波書店(1997-2000)
- [6]『興亡の世界史』[全7巻]講談社(2006-2010)
- [7]『世界史資料』[全12巻]岩波書店(2006-刊行中)
- [8]J.M.ロバーツ(2003)『世界の歴史』[全10巻]創元社
- [9]『新版世界各国史』[全28巻]山川出版社
- [10]『ケンブリッジ版世界各国史』創土社(2005-刊行中)
- [11]『読書書店』ヨーロッパ入門
- <第1期>『ルネサンス』『フランス革命』『帝国主義』『ロシア革命1900-1927』『スターリニズム』他
- <第11期>『ドイツ宗教改革』『市民権と民主主義1750-1914』『冷戦1945-1991』他
- [12]フェルナン・ブローテル[浜名優美訳](1991-1995)『地中海』[全5巻]藤原書店
- [13]イマニュエル・ウォーラーステイン[川北聡訳](1997)『近代世界システム 1730-1840』大西洋革命の時代/名古屋大学出版会
- [14]アンドレ・クンダー・フランク[山下載久訳](2000)『リオリエント：アジア時代のグローバル・エコノミー』藤原書店[原著：1998]
- [15]水島司編(2008)『グローバル化の挑戦』山川出版社
- [16]辻村公宏(1993)『産業主義を越えて』講談社学術文庫[原著：1986]
- [17]A.F.ドラッカー[上田博生訳](2008)『読者の時代 ドラッカー名著12』ダイヤモンド社[原著：1979](経済史)
- [18]ミシェル・ポー[筆宝康之・勝俣誠訳]『資本主義の世界史』藤原書店
- [19]ポール・ケネディ[鈴木主税訳](1993)『大国の興亡 決定版』(上・下)車恵社[原著：1987]
- [20]C. P. キンデルバーク[中島健二訳](2002)『経済大國興亡史 1500-1995』岩波書店[原著：1996]
- [21]E.L.ジョーンズ[天野敏敏訳](2007)『経済成長の世界史』名古屋大学出版会
- [22]ウィリアム・バーンスタイン[徳川康成訳](2006)『豊かな誕生 成長と発展の文明史』日本経済新聞社[原著：2004]
- [23]ダニエル・ヤーギン[ジョセフ・スタンズロウ][山岡洋一訳](2001)『市場対国家 世界を作り変えた歴史的攻防』(上・下)日経ビジネス文庫[原著：1998]
- [24]金井雄一・中西聡・福澤直樹編(2010)『世界経済の歴史 グローバル経済入門』名古屋大学出版会
- [25]フランク・マティン[金森久雄監訳](2004)『経済統計で見る世界経済2000年史』柏書房
- [26]宮崎厚一・奥村茂次・森田明朗編(1981)『近代国際経済要覧』東京大学出版会
- (アジア近現代史)
- [27]『岩波講座東アジア近現代史』
- [28]川島寛・服部隆二編(2007)『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会
- [29]三谷博・並木頼寿・月野達彦編(2009)『大人のための近現代史19世紀編』東京大学出版会
- [30]秋田茂(2003)『イギリス帝国とアジア国際秩序』名古屋大学出版会
- [31]秋田茂(2012)『イギリス帝国の歴史 アジアから考える』中公新書
- [32]杉原真(1996)『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房
- [33]ミット・サルカール[長崎峰一・白田雅之・中里成孝・栗原江利訳](1993)『新しいインド近代史—下からの読み』I・II 研文出版
- [34]『岩波新書 シリーズ中国近現代史』
- [35]磯波護・岸本美緒・杉山正明編(2006)『中国歴史研究入門』名古屋大学出版会
- [36]『中国の歴史』[全12巻]講談社(2004-2005)
- [37]『原典中国現代史』[全6巻、別巻1]岩波書店(1994-1995)
- [38]『新編原典中国近代思想史』[全7巻]岩波書店(2010-)
- [39]溝口雄三・丸山祐幸・池田知久編(2001)『中国思想史大系』東京大学出版会
- [40]マカートニー[坂野正高訳](1975)『中国訪問断片日記』東洋文庫/平凡社
- [41]ルシアノ・ピアンコ[坂野正高訳/坪井善明補訳](1989)『中国革命の起源1915-1949』東京大学出版会
- [42]飯家謙・高[コウ]辻康吾監訳(2002)『文化大革命十年史』(上・中・下)岩波現代文庫[原著：1986]
- [43]コン・チンファンジョン・ハリテイ[土屋京子訳](2005)『マオ誰も知らなかった毛沢東』(上・下)講談社
- [44]高文謙[上村幸治訳](2007)『周恩来秘蔵 党機密文書は語る』(上・下)文藝春秋
- [45]飯島淳・久保幸・村田雄二郎編(2009)『シリー-ス20世紀中国史』[全4巻]東京大学出版会
- (アメリカ近現代史)
- [46]有賀夏紀・紀平実作・油井大三郎(2010)『アメリカ史研究入門』山川出版社
- [47]アレクシス・ド・トクヴィル[松本礼二訳](2005)『アメリカのテモクラシー』[第1巻上・下]岩波文庫[原著：1835]
- [48]アレクシス・ド・トクヴィル[松本礼二訳](2008)『アメリカのテモクラシー』[第2巻上・下]岩波文庫[原著：1835]
- [49]宇野重規(2007)『トクヴィル 平等と不平等の理論家』講談社選書メチエ
- [50]松本礼二(1991)『トクヴィル 研究家家族・宗教・国家とテモクラシー』東京大学出版会
- [51]ブラスフィ[新川健三郎・木原良一訳](1976)『アメリカ人 大量消費社会の生活と文化』(上・下)河出書房新社
- [52]エリック・フーナー[藤山良次他訳](2008)『アメリカ自由の物語 植民地時代から現代まで』(上・下)岩波書店
- [53]アメリカ学会編(2006)『原典アメリカ史 第8巻 衰退論の登場』岩波書店
- [54]アメリカ学会編(2006)『原典アメリカ史 第9巻 唯一の超大国』岩波書店
- [55]『史料で読むアメリカ文化史』[全5巻]東京大学出版会(2005-2006)
- [56]秋元英一・菅原純(2003)『アメリカ20世紀史』東京大学出版会
- [57]クレーム・T.アリンソン(1977)『決定の本質 キューバ・ミサイル危機の分析』中央公論社[原著：1971]
- [58]アーネスト・メイ[遠藤肇一訳](2004)『歴史の教訓 アメリカ外交はどう作られたか』岩波現代文庫[原著：1977]
- [59]デイヴィッド・ハルバースタム[浅野暢訳](2009)『ベスト&ブライトスト』(上・中・下)二玄社
- (ヨーロッパ近現代史)
- [60]望田幸男・野村博樹・藤本和貴夫・川北聡・花若祐司・阿河雄二郎編(2006)『西洋近現代史研究入門 第3版』名古屋大学出版会
- [61]福井孝彦(2010)『近代ヨーロッパ史 世界を変えた19世紀』ちくま学芸文庫
- [62]福井孝彦(2005)『ヨーロッパ近代の社会史 工業化と国民形成』岩波書店
- [63]ノーマン・ティグイス[別宮貞徳訳](2000)『ヨーロッパⅢ 近代・共同通信社
- [64]ノーマン・ティグイス[別宮貞徳訳](2000)『ヨーロッパⅣ 現代・共同通信社
- [65]ジェイムス・ジョウ[池田清訳](1975・1976)『ヨーロッパ1000年史』(上・下)みすず書房[原著：1973]
- [66]トニー・ジャット[森本輝訳](2008)『ヨーロッパ(戦後史)』(上・下)みすず書房[原著：2005]
- [67]E.H.カー[藤村久訳](2011)『危機の二十年 理想と現実』岩波文庫[原著：1939]
- [68]A・J・Pテイラー[吉田暉夫訳](2011)『第二次世界大戦の起源』講談社学術文庫[原著：1964]
- [69]遠藤彰編(2008)『原典ヨーロッパ(戦後史)』名古屋大学出版会
- (日本近現代史：一部)
- [70]『日本の近代』[全16巻]中央公論新社
- [71]坂野龍彦(2012)『日本近代史』ちくま新書
- [72]中村隆英(1993)『昭和史』I・II 東洋経済新報社
- [73]南亮造[牧野文夫協力](2002)『日本の経済発展 第3版』東洋経済新報社
- [74]渡辺正二(2005)『逆さし世の画像』平凡社ライブラリー[原著：1998]
- [75]テッサ・モリス・鈴木[藤井隆至訳](2010)『日本の経済思想 江戸期から現代まで』岩波モダンクラシックス[原著：1991]
- [76]三和良一・原朝樹(2010)『近代日本経済史要覧 補訂版』東京大学出版会
- [77]井井清志(2012)『昭和戦前期の政党政治』ちくま新書
- [78]加藤陽子(2009)『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社
- [79]石川康雄・山口二郎(2010)『戦後政治史 第3版』岩波新書
- (共產主義国家の近代史)
- [80]アーサー・ブラウン[下斗米伸矢監訳](2012)『共產主義の興亡』中央公論新社
- (ヨーロッパ(各国近現代史)、(ロシア近現代史)、(イスラエル近現代史)、(アフリカ近現代史)、(日本近現代史)についてはここに掲載できなかったため、講義の中で紹介する。

■評価方法

評価は、期末試験(資料持込み可)の結果(70%)、レポート・小テスト・出席(30%)により行う。

■評価基準

試験範囲が十分学習され、理解できているか。答案に学習の形跡が十分認められるか。配布資料や文献が読み込まれ、シラバスに記載された「論点」、そして私が講義の中で「論点」を置いて提示した内容が十分説明できているか。近現代史に関するトータルかつ体系的な認識が深まり、視野が広がったか。

相対評価

■事前履修科目等

「歴史と文化」を履修済みであることが望ましいが、必要条件ではない。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義は毎回、前週に配布した資料を読み込んでいることを前提として進行する。資料の持参を怠れた者は、原則として当日の受講を認めない。また、連続性を重視した講義であるため、欠席3回を超えた者は、本講義の履修を認めない。レポート作成にあたっては、MS Office、Excelを使いこなすことを目標とする。経済史関連のデータを扱う際にExcelが必要となる。

科目名 金融論(Finance)

担当教員 下井 直毅

■講義目的

この講義では、金融の理論と仕組みの基礎知識について学ぶ。
また、産業社会にとっても重要である金融の役割を理解する。

■講義分類

ビジネス環境理解／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

日本の金融の現状と課題についての基本的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉金融の基本的な機能

概要：金融の基本的な機能を理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔ファイナンス、証券市場、金融資産、負債、直接金融、間接金融〕

詳細：金融とは何か、その特徴は何かを学ぶ

〈第2講〉企業と政府のファイナンス

概要：企業と政府のファイナンスを理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔資金調達、内部資金、外部資金、財政赤字、国債〕

詳細：企業の資金調達は何か、政府の資金調達は何かを学ぶ

〈第3講〉日本の金融機関と金融市場

概要：日本の金融機関や金融市場について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔日本銀行、金融仲介機関、証券会社、金融市場〕

詳細：日本の金融市場はどのようなものかを学ぶ

〈第4講〉貨幣とインフレ

概要：貨幣とインフレについて理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔マネーストック、マネタリーベース、インフレ、デフレ〕

詳細：貨幣の機能は何か、またインフレを引き起こす要因や問題点などを学ぶ

〈第5講〉金融政策の運営

概要：金融政策の運営について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔金融政策、公開市場操作、貨幣創造、量的緩和、政策〕

詳細：現在の日本の金融政策はどのようなものかを学ぶ

〈第6講〉債券市場と金利

概要：債券市場と金利について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔国債市場、社債、転換社債、ワラント債、現在価値〕

詳細：債券市場にはどのようなものがあるかを学ぶ

〈第7講〉株式市場と株価

概要：株式市場と株価について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔証券取引所、上場、日経平均株価、TOPIX、バブル〕

詳細：株価はなぜ変動するのかを学ぶ

〈第8講〉金融規制の課題と仕組み

概要：金融規制の課題と仕組みについて理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔金融規制、情報の非対称性、ブルーテンシャル規制、自己資本規制、インサイダー取引〕

詳細：証券市場における規制にはどのようなものがあるかを学ぶ

〈第9講〉金融危機の発生

概要：金融危機の発生について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

〔金融危機、不良債権、信用収縮、預金保険制度、サブプライムローン危機、証券化〕

詳細：金融危機のメカニズムはどのようなものかを学ぶ

〈第10講〉国際金融

概要：国際金融について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔外国為替市場、為替レート、投機、資本流出、資本流入〕

詳細：為替レートはなぜ変動するのかを学ぶ

〈第11講〉金融派生商品とリスク・ヘッジ

概要：金融派生商品とリスク・ヘッジについて理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

〔金融派生商品、リスク・ヘッジ、先物、差金決済、プット・オプション、コール・オプション〕

詳細：金融派生商品とは何か、リスクを回避するものとしてどのようなものがあるのかを学ぶ

〈第12講〉日本の金融をめぐる諸問題(I)

概要：日本の金融をめぐる諸問題を理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔円の国際化、グローバル、アジア〕

詳細：日本の金融の課題は何かを学ぶ

〈第13講〉日本の金融をめぐる諸問題(II)

概要：日本の金融をめぐる諸問題を理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔円の国際化、グローバル、アジア〕

詳細：日本の金融の課題は何かを学ぶ

〈第14講〉講義前半の復習

概要：金融の基本的な機能や金融市場について復習する

事前学習しておくべき用語やポイント〔金融、直接金融、間接金融、金融機関〕

詳細：全体を通じて金融に対する理解が深まったかを確認する

〈第15講〉講義後半の復習

概要：金融規制の課題や金融危機発生メカニズムを復習する

事前学習しておくべき用語やポイント〔金融規制、自己資本比率規制、金融危機、バブル〕

詳細：全体を通じて金融に対する理解が深まったかを確認する

■教科書

谷内満 『入門 金融の現実と理論』 同友館(2009年)

■指定図書

講義中に紹介する

■参考文献

講義中に紹介する

■評価方法

期末テスト(70%)、出席(20%)、宿題(10%)

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

2010年度以前の入学生は、「経済学基礎」の単位修得者に限り、また2011年度以降の入学生は、「産業社会論入門(経済)」の単位修得者に限り、履修登録ができる。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

科目名 グローバルビジネス入門〔Introduction to Global Business〕

担当教員 金 美徳、他

■講義目的

6名の担当教員が「世界から見た日本」と「日本から見た世界」という視点から、日本と世界、政治と経済、歴史と未来などをテーマに最前線事例を踏まえて解説する。また、日本や世界を高度産業社会に再構築するための問題点と解決策を考察する。主な目的は、グローバルビジネス系統科目や特別講座ⅠⅡ(寺島学長監修リレー講座)の基礎学習や社会科学の基本的な考え方を学ぶこと。また、自らの立ち位置や、将来進むべき方向性を思索することである。主なキーワードは、世界潮流と時代認識、アジア・ユーラシアダイナミズム、グローバルビジネスと国際経済、日本の社会と歴史、グローバルである。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／ビジネス ICT／地域ビジネス

■到達目標

- ①グローバルビジネス系統科目の特性を理解するとともに、他分野の系統科目との関連性を把握する。
- ②2年時の特別必修科目である「特別講座ⅠとⅡ(共通テーマ「世界潮流と日本の進路」)」の基礎知識を習得する。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉世界潮流入門のガイダンス(担当教員全員)

履修者を確定する。

〈第2講〉「アジアとどう向き合うか(1)」(金美徳)

事前学習しておくべき用語やポイント:外務省HPでアジアを調べる。

〈第3講〉「アジアとどう向き合うか(2)」(金美徳)

事前学習しておくべき用語やポイント:外務省HPでアジアを調べる。

〈第4講〉「中国を見る目(1)」(バトル)

事前学習しておくべき用語やポイント:ジェトロ(日本貿易振興機構)HPで中国の政治経済概況を調べる。

〈第5講〉「中国を見る目(2)」(バトル)

事前学習しておくべき用語やポイント:ジェトロ(日本貿易振興機構)HPで中国の政治経済概況を調べる。

〈第6講〉「世界の大きな流れを知ろう」(飯田健雄)

事前学習しておくべき用語やポイント:世界経済に関連する資料を読む。

〈第7講〉「世界の大きな流れに乗っていこう」(飯田健雄)

事前学習しておくべき用語やポイント:世界経済に関連する資料を読む。

〈第8講〉中間レポートを作成する。(飯田健雄、金美徳、バトル)

事前学習しておくべき用語やポイント:第7講までの講義内容と配布資料を準備する。

〈第9講〉「日本経済と世界経済について(1)」(下井直毅)

事前学習しておくべき用語やポイント:日本経済に関連する資料を読む。

〈第10講〉「日本経済と世界経済について(2)」(下井直毅)

事前学習しておくべき用語やポイント:日本経済に関連する資料を読む。

〈第11講〉「社会や経済についての考え方はどう変わってきたか」(椎木哲太郎)

事前学習しておくべき用語やポイント:社会経済思想に関連する資料を読む。

〈第12講〉「国際協力はなぜ必要か、私たちに何ができるか」(椎木哲太郎)

事前学習しておくべき用語やポイント:国際協力について調べる。

〈第13講〉「前近代における海外認識(1)」(大森映子)

事前学習しておくべき用語やポイント:江戸時代以前の外交政策について調べる。

〈第14講〉「前近代における海外認識(2)」(大森映子)

事前学習しておくべき用語やポイント:江戸時代の外交政策について調べる。

〈第15講〉最終レポートを作成する。(大森映子、椎木哲太郎、下井直毅)

事前学習しておくべき用語やポイント:第1講から第14講までの講義内容と配布資料を準備する。

■教科書

担当教員が随時紹介する。

■指定図書

担当教員が随時紹介する。

■参考文献

担当教員が随時紹介する。

■評価方法

出席率と合計8つのレポートとに基づいて評価する。

①6名の担当教員が2コマずつオムニバス形式で講義を行い、それぞれレポートの提出を求める(6レポート)。

②中間レポート(前半3名の担当教員の講義終了後)と最終レポート(後半3名の担当教員の講義終了後)の提出を求める。

■評価基準

①相対評価。

②評価は、出席と6レポート(70%)、中間および最終レポート(30%)。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

①第1回目の世界潮流入門ガイダンスに出席しない場合は、履修できない。

理由は、6名の担当教員によるオムニバス形式の講義が、第2回目より開始される為。

②パソコン・携帯電話・音楽イヤホンは、使用を禁止する。

③私語・帽子着用・飲食は、禁止する。

④遅刻および途中退室は、厳禁とする。

科目名 経営科学II(Management Science II)

担当教員 岡太 彬朗

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / 社会人力育成 /

■到達目標

第1は、「最小の努力で最大の効果を上げる」という経営科学の基本的な考え方を理解することです。第2は、経営科学で使われる代表的なモデルであるPERTと線形計画法を理解することです。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR(学外学習無)

■講義の概要

【概要】

概要：半年間の講義の中心となる授業の予定を述べます。

執筆予定：たけぐさ雅彦(ヤシタ)「オペレーションズ・リサーチ」編纂、監修予定

講義：経営科学の歴史と発展の過程および発展を述べます。経営科学が、現在が商業にどのような目的で、どのような環境で用いられ、どのように実社会で役に立っているかを述べます。授業で用いられるPERT(計画評価法)と線形計画法の概要を述べ、発展(拡張)の概念を概観させます。

【課題】

課題：PERTの背景と目的を把握し、従来の日程計画ととの違いを説明します。

執筆予定：たけぐさ雅彦(ヤシタ)「問題解決、PERTの目的」

講義：PERT(Program Evaluation and Review Technique)の算出目的を説明し、PERTの目的と背景と目的、PERTの発展の歴史を説明します。実際の社会での日程計画の重要性を理解するとともに、PERTが日程計画の問題解決に用いられる背景、利点、PERTが社会に活用されているの理由を説明します。

【課題】

課題：従来の日程計画とを比較し、その問題をPERTで克服し説明します。クリティカル・パスの概念を説明します。

講義：執筆予定：たけぐさ雅彦(ヤシタ)「クリティカル・パス」

PERTの算出目的を説明し、従来の日程計画とPERTとを比較し、従来の日程計画とどのような違いがあるかを述べます。また、PERTの利点を示します。PERTで重要な概念であるクリティカル・パスの必要性を理解し、その利点を説明します。

【課題】

課題：作業からPERT図の作成を説明します。

執筆予定：たけぐさ雅彦(ヤシタ)「PERT図(パート・ダイアグラム、ノード、矢線)」

講義：PERTの算出目的を説明し、作業からPERT図を作成し、クリティカル・パスの考え方を、ノードと矢線を用いたPERT図を用いたクリティカル・パスの求め方を説明します。PERT図の作成を習得し、クリティカル・パスの考え方を理解し、日程計画におけるクリティカル・パスの概念を説明します。

【課題】

課題：各作業についての余剰時間を説明します。

執筆予定：たけぐさ雅彦(ヤシタ)「余剰時間、クリティカル・パス」

講義：PERTの算出目的を説明し、各作業の余剰時間を算出します。ノードと矢線によるPERT図を用いた求めたクリティカル・パスを通じて、各作業に焦点を当てます。各作業について、その作業の総時間、実行可能性を算出し、クリティカル・パスの考え方を理解し、日程計画におけるクリティカル・パスの概念を説明します。

【課題】

課題：PERTについての演習

執筆予定：たけぐさ雅彦(ヤシタ)「PERTでの演習、クリティカル・パス」

講義：PERTの算出目的を説明し、PERTについての演習を行い、PERTの理解をさらに深める予定です。演習では、PERTの背景の問題を解く予定です。PERTの1回目の算出まで進めた、さまざまな概念、それを基に、演習問題と、PERTの図の作成、クリティカル・パスの求め方を説明し、日程計画におけるクリティカル・パスの概念を説明します。

【課題】

課題：PERTの概念、その目的、パート図の作成、クリティカル・パスの求め方を説明し、日程計画におけるクリティカル・パスの概念を説明します。

執筆予定：たけぐさ雅彦(ヤシタ)「PERTの概念での演習と求め方と具体例」

講義：PERTの算出目的を説明し、演習問題を行います。演習問題は、PERTについて(第1回目から第4回目まで)に3回、第5回目に行った演習で述べた内容について行う予定です。PERTでの演習の考え方やそのための具体的な方法、自分自身で考えるための機会とします。

【課題】

課題：PERTについての演習問題の解説を行います。

執筆予定：たけぐさ雅彦(ヤシタ)「演習、演習」

講義：演習問題で用いた問題を各自で解き、理解が不十分な点や不安な点を述べます。PERTの問題解決に用いられる背景、PERTが社会に活用されているの理由を説明します。演習では、線形計画法の算出目的を説明し、線形計画法について演習問題を行います。線形計画法の利点と目的、線形計画法の算出方法を説明し、線形計画法のモデル構築の重要性を述べます。

【課題】

課題：オースト・スビー・カンニング

執筆予定：たけぐさ雅彦(ヤシタ)「問題解決、PERT」

講義：実際のオースト・スビー・カンニング企業での実際の環境に基づき、経営科学のPERTの活用について解説しています。これらの経営科学の方法と実際に活用する場合の利点ととも、どのような点に注意が必要であるか、という点を説明します。なおオースト・スビー・カンニングの講義は、講義の日程の場合により変更がある場合があります。

【課題】

課題：線形計画法のモデルの構築とその利点を説明します。

執筆予定：たけぐさ雅彦(ヤシタ)「線形計画法のモデル、目的関数」

講義：線形計画法の算出目的を説明し、線形計画法のモデル構築とモデルを用いた問題の考え方を説明します。モデルを構築する前提となる仮定について考え、その前提が、どのような影響をもたらすか、どのような制約があるか、現実の問題を解決するための影響があるかを説明します。

【課題】

課題：線形計画法のグラフ法を説明し、そのようにして目的関数を最大化します。

執筆予定：たけぐさ雅彦(ヤシタ)「線形計画法、線形計画法の発展」

講義：線形計画法の算出目的を説明し、線形計画法のモデル構築とモデルを用いた問題の構築と、その利点、その利点の最大限まで活用します。具体的な線形計画法の利点、最も基本的な手段であるグラフ法を用いた線形計画法の方法です。線形計画法の方法の線形計画法の発展を説明します。

【課題】

課題：目的関数を最大化して解を求める方法を説明します。

執筆予定：たけぐさ雅彦(ヤシタ)「線形計画法」

講義：線形計画法の算出目的を説明し、線形計画法のモデル構築とモデルを用いた問題の構築と、その利点、その利点の最大限まで活用します。具体的な線形計画法の利点、最も基本的な手段であるグラフ法を用いた線形計画法の方法です。線形計画法の方法の線形計画法の発展を説明します。

【課題】

課題：線形計画法についての演習

執筆予定：たけぐさ雅彦(ヤシタ)「線形計画法、線形計画法」

講義：線形計画法の算出目的を説明し、線形計画法のモデル構築とモデルを用いた問題の構築と、その利点、その利点の最大限まで活用します。具体的な線形計画法の利点、最も基本的な手段であるグラフ法を用いた線形計画法の方法です。線形計画法の方法の線形計画法の発展を説明します。

【課題】

課題：線形計画法の概念、その目的、そのようにして目的関数を最大化します。

執筆予定：たけぐさ雅彦(ヤシタ)「線形計画法、線形計画法」

講義：第2回目の演習を行います。演習問題は、線形計画法について(第1回目から第4回目まで)に3回、第5回目に行った演習で述べた内容について行う予定です。線形計画法のモデル構築と目的関数の最大化の方法、自分自身で考えるための機会とします。

【課題】

課題：線形計画法についての演習問題の解説を行います。

執筆予定：たけぐさ雅彦(ヤシタ)「線形計画法の演習」

講義：線形計画法で用いた問題を各自で解き、理解が不十分な点や不安な点を述べます。線形計画法の問題解決に用いられる背景、線形計画法が社会に活用されているの理由を説明します。演習では、線形計画法の算出目的を説明し、線形計画法について演習問題を行います。線形計画法の利点と目的、線形計画法の算出方法を説明し、線形計画法のモデル構築の重要性を述べます。

■教科書

岡太彬朗・後藤兼一(共著)「オペレーションズ・リサーチ 経営科学入門」 共立出版(1987)

■指定図書

田畑吉雄「経営科学入門」 牧野書店(2000)

■参考文献

加藤孝・小沢正典「ORの基礎-AHPから最適化まで」 実教出版(2007)

■評価方法

講義への出席状況 (10%)、講義中におけるあるいは質問用紙への質問の長さ (10%)、2回の試験 (各30%) とレポート (20%) を総合して評価します。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

予習と復習を必ず行うこと。

科目名 経営学概論Ⅰ(Introduction to Management Ⅰ)

担当教員 常見 耕平

■講義目的

経営学理論を理解する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

経営学の理論について理解する。

■講義形態

講義のみ(学外学習無)

■講義の概要

経営学理論のうち、古典的(あるいは伝統的)管理論と呼ばれるものを学ぶ。

授業は文章を読み、内容を理解することを中心においてすすめる。したがって出席し、教師の話の聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。ちなみに、2012年度の単位取得率は57.7%(31名中51名)である。なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

〈第1講〉経営学の理論的理解(その1)

概要: 経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細: 講義中に指示・解説する。

〈第2講〉経営学の理論的理解(その2)

概要: 経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細: 講義中に指示・解説する。

〈第3講〉経営学の理論的理解(その3)

概要: 経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細: 講義中に指示・解説する。

〈第4講〉経営学の理論的理解(その4)

概要: 経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細: 講義中に指示・解説する。

〈第5講〉経営学の理論的理解(その5)

概要: 経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細: 講義中に指示・解説する。

〈第6講〉経営学の理論的理解(その6)

概要: 経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細: 講義中に指示・解説する。

〈第7講〉経営学の理論的理解(その7)

概要: 経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細: 講義中に指示・解説する。

〈第8講〉経営学の理論的理解(その8)

概要: 経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細: 講義中に指示・解説する。

〈第9講〉経営学の理論的理解(その9)

概要: 経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細: 講義中に指示・解説する。

〈第10講〉経営学の理論的理解(その10)

概要: 経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細: 講義中に指示・解説する。

〈第11講〉経営学の理論的理解(その11)

概要: 経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細: 講義中に指示・解説する。

〈第12講〉経営学の理論的理解(その12)

概要: 経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細: 講義中に指示・解説する。

〈第13講〉経営学の理論的理解(その13)

概要: 経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細: 講義中に指示・解説する。

〈第14講〉講義の振り返り

概要: これまでの講義を振り返る。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細: 講義中に指示・解説する。

〈第15講〉最終試験

概要: 講義内容に基づく試験を実施する。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細: 講義中に指示・解説する。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

必要に応じて講義中に指示する。

■評価方法

相対評価

合否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。

講義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。

試験は、2013年7月18日(木)第3時限に実施する予定である。但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。掲示等は行わない。

■評価基準

講義を通して得た知識や理解を基に論理的な解答ができているか。講義を通して得た経営学理論についての基本的な知識を習得できているか。試験の得点が、60%以上であれば、合格(単位取得)となる。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

秋学期開講科目「経営学概論Ⅱ」との連続を前提に講義を進める。

科目名 経営学概論Ⅱ[Introduction to Management Ⅱ]

担当教員 常見 耕平

■講義目的

経営学理論を理解する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

経営学の理論について理解する。

■講義形態

講義のみ(学外学習無)

■講義の概要

経営学理論のうち、戦略論・組織論・マーケティング論を中心に学ぶ。授業は文章を読み、内容を理解することを中心にしています。したがって、出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。ちなみに、2012年度の単位取得率は60.8%(51名中31名)である。なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

〈第1講〉経営学の理論的理解(その1)

概要：経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第2講〉経営学の理論的理解(その2)

概要：経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第3講〉経営学の理論的理解(その3)

概要：経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第4講〉経営学の理論的理解(その4)

概要：経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第5講〉経営学の理論的理解(その5)

概要：経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第6講〉経営学の理論的理解(その6)

概要：経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第7講〉経営学の理論的理解(その7)

概要：経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第8講〉経営学の理論的理解(その8)

概要：経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第9講〉経営学の理論的理解(その9)

概要：経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第10講〉経営学の理論的理解(その10)

概要：経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第11講〉経営学の理論的理解(その11)

概要：経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第12講〉経営学の理論的理解(その12)

概要：経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第13講〉経営学の理論的理解(その13)

概要：経営学の理論を学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第14講〉講義の振り返り

概要：試験結果に基づき、講義の振り返りを行う。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第15講〉最終試験

概要：講義内容に基づく試験を実施する。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

必要に応じて講義中に指示する。

■評価方法

相対評価

合否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。

義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。試験は、2014年1月16日(木)第3時限に実施する予定である。但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。掲示等は行わない。

■評価基準

講義を通して得た知識や理解を基に論理的な解答ができてくるか。

講義を通して日本経済史の基本的な知識を習得できているか。試験の得点が、60%以上であれば、合格(単位取得)となる。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

春学期開講科目「経営学概論Ⅰ」との連続を前提に講義を進める。但し、経営学概論Ⅰの単位取得を、受講登録の条件とはしない。

科目名 経営基礎I[Introduction to Business I]

担当教員 常見 耕平

■講義目的

企業経営についての基本を学ぶ科目である。この科目は2013年度入学生を対象とした「選択」必修科目である。2013年度入学者については、クラス指定で開講する。A、B、Cのクラス指定は、語学受講クラス分けに基づいて行う。受講クラスの指定および座席指定は、2013年9月18日(水)からのオリエンテーション期間中に掲示およびクラス表配布という形式で行う。なお、2012年以前入学者で受講を希望する学生は、他の履修科目の受講計画に応じて、クラスを選ぶことができる。科目名に「基礎」とあるが、内容自体が簡単で安易な科目と誤解しないこと。昨年実績によると、本科目履修者の単位取得率72.7%(取得者253名、未取得者95名)である。この数値から、学習への意思と意欲に欠ける履修者には、単位取得が困難であることが明らかである。この点を理解した上で科目選択を行うことを求める。経営基礎Iは、企業の目的や責任、役割や仕組みについての基礎的な知識だけでなく、ビジネスの全体像を把握し、基本的な理解を得ることを目的とする講義である。講義では、ビジネスを知識として理解するだけでなく、ビジネスに従事するための基本的な態度・姿勢を身につけることも目指していく。なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。受講上の注意や試験実施等についての指示があるので、評価基準と方法や留意点もかならず読んでおくこと。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

経営の基礎を身につける。

■講義形態

講義のみ[学外学習無]

■講義の概要

ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

〈第1講〉経営の基礎を学ぶ(その1)

概要：経営を数値から理解する(その1)。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第2講〉経営の基礎を学ぶ(その2)

概要：経営学の理論を学ぶ(その2)。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第3講〉経営の基礎を学ぶ(その3)

概要：マーケティングを学ぶ(その1)

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第4講〉経営の基礎を学ぶ(その4)

概要：マーケティングを学ぶ(その2)

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第5講〉経営の基礎を学ぶ(その5)

概要：マーケティングを学ぶ(その3)

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第6講〉経営の基礎を学ぶ(その6)

概要：経営戦略を学ぶ(その1)

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第7講〉経営の基礎を学ぶ(その7)

概要：経営戦略を学ぶ(その2)

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第8講〉ここまで学んできたことの振り返り試験

概要：ここまで学んできた学習内容の振り返り試験。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第9講〉経営の基礎を学ぶ(その8)

概要：経営戦略を分析的に理解する(その1)

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第10講〉経営の基礎を学ぶ(その9)

概要：経営戦略を分析的に理解する(その2)

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第11講〉経営の基礎を学ぶ(その10)

概要：経営戦略を分析的に理解する(その3)

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第12講〉経営の基礎を学ぶ(その11)

概要：組織と人事について学ぶ(その1)

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第13講〉経営の基礎を学ぶ(その12)

概要：組織と人事について学ぶ(その2)

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第14講〉経営の基礎を学ぶ(その13)

概要：経営分析を学ぶ

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第15講〉これまで学んできたことのまとめ試験

概要：ここまで学んできた学習内容に基づき試験を実施する。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

必要に応じて講義中に指示する。

■評価方法

相対評価

評価方法

可否(単位取得)は、講義時間内で合計2回実施する試験成績のみで判定する。第1回試験 2013年11月13日(水)実施予定。第2回試験 2014年1月21日(火)実施予定(授業予備日を行う)。試験日程・内容等は、講義開始後に、より詳細に指示する。試験開始後、20分間は、試験実施教室への入室を禁止する。いかなる理由による遅刻・欠席でも、受験機会の喪失、解答作成時間の減少等への配慮は行わない。

■評価基準

2回の試験の合計点数が、60%以上であれば、合格(単位取得)となる。成績評価(A+、A、B、C)判定には、試験成績のほか、課題への取り組みや受講姿勢を加味する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

(1)講義は、受講者(2013年入学者)を3つのグループに分け、実施する。
グループ分けは、語学(必修)の時間割によって決定する予定である。グループ分けは、2013年9月18日からのオリエンテーション期間に掲示等で指示する。2012年度以前の入学者でこの科目履修を希望する学生は、他の科目も含めた自分の履修計画に応じて、クラスを選ぶことができる。(2)講義は、座席指定制で実施する。講義開始前に、必ず指定された座席に着席していることを求める。
(3)時間を守ること講義開始時(第1時限は9時、第2時限は10時40分)に指定された座席に着席していることを要求する。
したがって、次の時刻以降は、教室に入ることはできない。
第1時限 8時59分 (講義開始時刻にかかわらず、講義時間は90分間である)第2時限 10時39分 (講義開始時刻にかかわらず、講義時間は90分間である)これは、定刻に指定された座席に着席し、受講する学生の講義を受ける権利を最大限擁護するためである。公共交通機関の遅延を含め、理由の如何を問わず、遅刻者の受講は認めない。(4)遅刻者の入室を認めないため、いわゆる延着証明書、病気の診断書等は受け取らない欠席者あるいは遅刻者への配慮はいっさい行わないので、延着証明書、診断書等を提出する必要はない。(5)10月半ば以降、履修登録が完了次第、あらためて教室での座席を指定する予定である。(6)以上の留意点などは経営基礎Ⅰのみに適用される評価基準や欠席の取り扱い、診断書提出の有無、開講日、講義の休みの日、試験方法など、他科目の方針、指示と異なっている点があることに注意すること。(7)2014年1月15日(水)の講義は、開講しない場合がある(1月21日(火)に試験実施のため)。

科目名

経営基礎Ⅱ(Basic Management Ⅱ)

担当教員

杉田 文章, 常見 耕平, 他

■講義目的

多摩大学の学生が将来進んでいくであろう、方向を考えると、二つの教育的課題が想定される。

第一は企業活動の全体像を、いかにして(それも出来るだけ早い段階で)理解してもらうか、ということであり、第二は、「主体的に問題解決に取り組み、成功させる能力」をいかにして修得してもらうか、という点である。

本講義は、この二つの課題を解決するために、開設されている。

具体的には、受講学生は、(1)講義を受講し、(2)「多摩大式経済経営シミュレーター」ゲームへ参加する。この2点が、本講義の概要である。

ゲームでは、一定のルールにのっとり、ゲーム上に作られた仮定の市場において、参加者すべてが、企業経営者と消費者の役を果たす。8業種の中から選んだある業種に属する会社を設立、経営し、経営理念に従った経営を展開し、利益の確保を目指す。

講義では、当初の述べたような目的を達成するのに必要な、具体的もしくは抽象的な情報を学生諸君に伝えんとする。そしてこれを踏まえ、ゲームの中での企業経営を、自らがたてた経営目標に合致するように進める。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会力育成／グローバルビジネス

■到達目標

- ① 企業経営の全般について理解し、表現できるようになること。
- ② 自分が経営にかかわった企業や、他の企業の経営の概要を把握、分析することができるようになること
- ③ 受講後、自分の専攻分野がより明確に絞り込むことができ、さらに、その専攻分野が全体の中でどのような位置にあるのかについて理解できるようになること。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR
その他[学外学習有]

■講義の概要

授業開始後、ルールブックを作成・配布し、詳細について説明するので、ここではゲームの概略について述べる。

シミュレーションゲームは、いくつかの製品によって成り立つ市場に、学生諸君によって組織された企業が参入し、これらの企業によって投入された商品を、消費者としての学生が、所属する企業からの給与や賞与をもとに購入することによって進められていく。企業が商品を製造販売するにはコストがかかるが、研究開発費や宣伝広告費を多く使った価格の高い商品(同時に「商品魅力度」も高い商品)を投入することもできるし、コストを抑えて廉価の商品を投入することもできる。

一週間が一つの決算期となり、各期に会社は決算を出す。利益が出ればそれを下期の製品の生産につぎ込むこともできるし、賞与賞として、社員の購入活動に回すこともできる。

このようにして、会社としてはより利益を追求し、また消費者としては、なるべく「商品魅力度」の高い商品を多く購入することによって、「消費ポイント」を獲得しようとするゲームである。

講義内容についての注意

最終回「株主総会」は、各クラスの授業時間ではなく、レギュラーな時間を設定し、各クラス全員が一同に集まって開催されることになる予定である。具体的開催日程については、授業開始後アナウンスするので、注意されたい。(出席することが、単位取得の基本条件になります)

また、ゲームの進行状況によっては、各講義の内容が変更となることがある。

(第1講)「講義」オリエンテーション」

- ・スタッフ紹介
- ・この授業の趣旨、目的、目標について
- ・「大学における思考と能力開発」

多摩大学での学習の課題をひとこと言えば、それは「ビジネス社会において要求される能力を開発することである。また、そのような能力、資質が必要なのかを理解してもらいたい。次に、この授業が自らその能力を開発しようとする学生の学習を支援するために開設しているものである、ということをまずは理解していただきたい。

(ゲーム)「経営シミュレーションゲームの説明」

- 1)ゲームの趣旨、概要について理解する
- 2)具体的なルールの概要について理解する

「多摩大式経済経営シミュレーター」では、会社としてグループで動く部分と、消費者の一人として、個人で動く部分とがある。ルールブックにのっとり、ゲームの説明を行う。

最初は紙上でゲームを動かす(手計算またはExcelを使う)、ゲームルールを覚える。4名から7名の仮グループを作り、そのグループでゲームを手計算する。さらに、実際のゲームをためしに動かしてみる。

■予習・復習のポイント

シラバスをよく(読み、この講義の目的について理解しておくことが必要である。

(第2講)「講義」企業の経営理念と経営戦略」

「企業の経営理念や経営方針を戦略的に考える」とは、どういうことだろうか。

企業や組織などにおいても、また個人においても、その意識と行動は、PLAN-DO-SEEというサイクル化したプロセスを持っていると考えられる。すなわち、思考し、その思考結果にもとづいて行動し、行動した結果を評価し、これが次の思考の材料となるのである。経営理念、経営方針とは、具体的に言えば、PLAN-DO-SEEの「PLAN」をどう考えるのか、ということだが、自分たちの経営戦略を構築するには、前提としての経営理念があるのだ、というような認識について理解してもらいたい。

「経営理念を具現化する方法」については、たとえば価格重視なのか、ニッチでいくか、付加価値重視か、等、各会社の方針に沿った経営をするならば、どのような行動をとらなければならないか、現実の事例もふまねながら、経営戦略のたて方について学ぶ。この「理念」が実際の「経営戦略」に結びつくのである。

(ゲーム)「試しバージョンの初期投入」

- 1)ゲームのルールの概要をあらためて説明した上、簡単な紙上のシミュレーションをする。
- 2)試しチーム(このチームは本書のメンバーと同一である必要はない)によって、実際にスペック投入してみる。

■予習・復習のポイント

春学期科目「経営基礎Ⅰ」において学んだ、「経営の目的」「経営理念」について、今一度理解し、それらをめぐる現実的課題について整理しておくこと。

(第3講)「講義」企業内での役割分担と組織」

役割分担の概念と実際。そこでその責任体制と権限構造、また、いわゆる「チーム制」などについて講義する。たとえば大きな費用をかけてもライバル製品を上回るものを作りた製品開発担当と、できるだけ「結果的な無駄」をなくしたい財務担当では、課せられたテーマがあまり異なる。総合的、最終的な意思決定(判断)によってこれらがバランスされていくという会社のしくみの中で、各担当はどう行動するか、するべきか、などについて論じる。

(ゲーム)「試しバージョンの初期投入結果の読み取り、評価、次期投入の検討」

1)一回目に紙上で行ったシミュレーションの結果をもちより、なぜそうなったか分析する。グループごとに発表し、インストラクターからコメントをもらう。

この段階で意識されるのは、売上・利益・コストなど、基本的な概念に、実際に触れるということである。同時に、このゲームにおいて、最終どの程度の利益をたさなければならないか、といった感覚もつかんてほしい。

■予習・復習のポイント

会計上の基礎概念について、復習しておくこと。とくに、「固定費」「変動費」「変動費」「販売管理費」等の概念について予習しておくことが望ましい。

(第4講)「講義」会社数値の読み方」

損益計算、損益分岐点について理解する。管理会計の視点から会計を見る見方について学習してもらいたい。

(ゲーム)「試しバージョン2回目」の結果の評価、検討、本ゲームの開始」

本書の開始。メンバーの再確認、会社名、取り扱う製品、役割分担、経営理念・方針、等を決定、初期値をあらたに決定、投入。社長のパーソナリティや、給与についても決定する。ウェブ上のゲームはリセットされ、新たに開始される。

・設立手順の説明を受けたら、順次進んで、自分たちの会社を設立する。

・利益追求型か社会還元重視型、などの経営方針もここで話し合うことになる。

・話合うにあたり、ブレーストミミング、KJ 法などの手法を学ぶ。

・なお経営会議では、ゲーム始動後、毎期ごとに出力される決算をもとに、次期の入力ベクチェックを行う。その際、あらかじめ販売数や同業他社の動向等のデータを学生諸君が用意しておく必要がある。

■予習・復習のポイント

損益分岐売上上の概念について、受講の前までに理解しておくこと。

《第3講》（講義）「会社数義の読み方②」

財務諸表の読みと、経営の基本について学ぶ。この授業を履修する諸君はすでに「経営基礎」などの授業を通じて、基礎的な知識を得ている段階であるので、これを前提に、財務的に経営を成立させる基本事項について学んでいく。

（ゲーム）「経営会議」

初期投入の結果の評価と、次期投入ベクスの検討、経営理念と、実際の経営の整合制などについての評価、検討も始める。

■予習・復習のポイント

第4講におなじである。

《第5講》（講義）「製品政策と価格政策」

まず、マーケティングの4P'sについて確認し、ゲームを前提に考えると特に重要であると思われる製品製作、価格政策についてより詳細に検討する。

どのような製品を企画するのか。それはなぜか。ゲーム上でも実際でも、市場の状況や需要の動向から、製品を企画あるいは価格を決定することになる。その実際と、方法について理解してもらう。また、課題に関連して、PPMマトリクスなどの理論などにも触れ、研究開発や広告宣伝に資金を投入するとは、どういうことなのか理解する。また、このゲーム上ではどのような動きが得られているか、分析する。

（ゲーム）（第3回は同じ。）

■予習・復習のポイント

テキストとして配布された資料から、価格を上げること・下げることが、決算にどのように影響するかについて理解しておくことが望ましい。

《第7講》（講義）「経営活動報告のしかた」

経営活動表現することを学習する。

1) 数値的な評価方法とその結果の生かし方

2) 非数値的な評価方法とその結果の生かし方

講義では、実際の実業における「事業報告書」や経営の自己評価について紹介する。また、これまで出させてきた各チームの「報告書」と、決算書によって、良いチームを紹介するかもしれない。

（ゲーム）「中間報告書の作成と、戦略の再構築」

講義を受けて、実際に報告書を作ってみる。また、次期投入ベクもいつも通り決定する。

■予習・復習のポイント

経営報告のあらましについて、概要を把握しておくことがそましい。

また、講義後、実際の経営報告の事例をあたり、理解に努めること。

《第8講》（講義）「競争戦略」など

模範の他、「事業報告書」について理解する。

（ゲーム）（第5、第6回には同じ）

■予習・復習のポイント

① 理論としての競争戦略について、今一度復習する。

② ゲームにおける、同業種の戦略を比較してみる。

《第9講》（講義）「事業報告書の書き方と、報告の技術」

株主に対して社の方針や行動を、どのように理解してもらうか。大切な点はなにか。「事業報告」にポイントをしほり、学習する。

（ゲーム）

事業報告書の作成

これまでの経営結果の整理、分析、自己評価&65515;報告書にまとめる作業

■予習・復習のポイント

収益性、安全性、成長性などの概念について今一度復習し、理解することが望ましい。

《第10講》（講義）「まとめ」

1.「経営基礎II」のまとめ」これまでのまとめ

2.「株主総会について」ビデオも利用、企業にとって株主総会とはなにか。

株主総会の実際を学んだ後、実際に株主総会に向けたシナリオを作成し、経営活動についてのプレゼンテーションを行う。

その際、会社への投資者からの質問も想定し、返答の準備も行う。

（ゲーム）「資料の作成作業」

株主総会資料作成（前回の「事業報告書」を仕上げ、その他必要資料を作成する。）

■予習・復習のポイント

経営報告が誰に対してなんの目的に応じた活動であるかを理解し、そのうえで、あるべき報告について考察しておく。

《第11講》「株主総会」

前述のとおり、通常の授業時間ではなく、別途設定された時間ですべての履修者が集合して開催するので、まず開催日時について注意を要しない。

全ての会社が株主総会の準備をしてもらう。各票種から、当日発表企業を決定し、演台より経営報告と、フロアよりの質疑への対応を行う。

個人ポイントのランキングの発表なども予定している。

■予習・復習のポイント

他社の報告にも積極的に耳を傾け、報告の内容、方法などについてよりよいありかたについて メンバー間相互で討論する。

《第12講》「経営分析」

本番のゲームが終了した時点で、自社も含め、すべての会社が、すべての会社の財務についてみるができるようになる。前回同株主総会をも踏まえ、自分達の経営を振り返り、多面的に分析する。指導としては、授業の中で学習した経営分析指標を使用し、全期における企業経営について、詳細に検討し、レポートを作成する。

■予習・復習のポイント

これまでの学習を通じて、企業経営のさまざまなディメンジョンを理解し、「何のために」「何を」「どのように」行うのかについての全体像を、自分の中でまとめよう。

《第13講》「クラス別株主総会」本番

《第14講》全体での「株主総会」本番

《第15講》講義内でのテスト、理解のあきめを行う。

■教科書

シミュレーションゲームのマニュアルを兼ねた冊子（印刷物）を授業内にて配布する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

特になし。

■評価方法

(1) ゲームへの参加の度合い（出席を含む）

(2) レポート

(3) 試験

を総合して評価を行う。このほかにも、シミュレーションゲームの結果も、ある程度成績に加味する。

■評価基準

まず、上記三つの評価方法のそれぞれにおいて、一定の基準を上回ることが、単位取得の条件となる。これを超えていることを前提に、これら三つの項目の合計によって、評価を行う。

試験は、ゲームのオペレーションおよび、ゲームを通じて得た企業経営に関する知識の理解がなされているかどうかを判定するものである。

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

すべての授業に出席・参加することが単位取得の基本条件であることを銘記されたい。

科目名 経営実務I〔Business Administration I〕

担当教員 川端 敏郎

■講義目的

経営実務Iでは、経営戦略、マーケティング、アカウンティングを中心に企業活動の中での経営の問題解決、事業プランの選定などの分野を、理論のマネジメントへの応用という視点で捉え社会科学が机上の空論ではなく、実践から生まれ、実践に回帰することを理解することを目的に講義を行う。

講義登録者が40名を超えない場合は、事例を取り上げる回数を増やして、実務上の課題を討議しつつ講義を進める予定である。

現状のビジネス環境を理解する為に最新の企業情報を取り入れながら講義を進める。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント

■到達目標

会社という組織を経営戦略・マーケティングを中心に見ることで実際の企業行動がなぜそのように行われているのかを基本的に理解することで戦略やそれと不可分のマーケティングの考え方を理解する。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR

■講義の概要

現代の経営は日常の問題解決や新しい事業プランの策定など、あらゆる分野で経営に関連する理論をフルに活用し、迅速かつ的確に対処できる能力を要求される。

このためには情報機器を自在に操作できることは勿論、経営関連科目で得た知識を実際に応用できる「知恵」を持つことが必要である。「社会科学の理論は実践から生まれ実践に回帰する」と言われるが、本講座は理論のマネジメントへの利用方法についての理解を目的としている。

内容としては

経営実務Ⅰ・・・経営戦略・マーケティング・アカウンティング

経営実務Ⅱ・・・ファイナンス・組織と人・情報技術・ビジネスプラン

を対象とする。

〈第1講〉経営戦略(1) 全社戦略と事業戦略

実務の場では知識として知っていること、実際に出来ることには大きな隔たがある」と言うのが、理論を理解することは、それが実際に使える段階に到達して初めて効果が高くなることになる。経営関連の理論は、字面上大きな問題として取り上げられているが実務面ではそれ以上に課題とせねばならぬ問題も多い。この講座ではこうした事例を示し、理論の応用にあたっての観点を説明する。

次に経営戦略の手法を概観するが、経営に於ける戦略・戦術・戦技の区分は

- 1) 戦略＝戦う相手、範囲、経営資源の配分など経営の根幹に関する決定
- 2) 戦術＝決定された戦略の中で、最も経済的な戦い方の決定
- 3) 戦技＝戦う技術とその具体的な活用法

となるが、ここ数年の情報技術の進展という戦技の変化は現代の戦略・戦術に大きい影響を与えている事実を強く認識し、本講では

1.全社戦略の意味と事業戦略の策定プロセス 2.経営戦略と企業変革 3.経営理念、ドメインとCI

について解説する。

<予習・復習のポイント>

経営学の中である経営戦略の位置づけを明確にし、現代企業において戦略の重要性が増していることを確認する。実務のレベルにおける経営戦略の実例を念頭に置いて戦術、戦技の変化が戦略に及ぼす影響についても理解する。

〈第2講〉経営戦略(2) 企業変革とポートフォリオ

事業ポートフォリオ(Portfolio)を考える上で重要なことは

- 1)事業の勢力
- 2)競争優位の見込み
- 3)他の事業へのシナジー

を検討することにある。

これを具体的に表すものがポートフォリオ・マトリックスである。

本講では

- 1.事業ポートフォリオと事業ライフサイクル 2.ポートフォリオ・マトリックス 3.GE社のポートフォリオ・マネジメント 4.事業拡大と多角化の基本戦略

について説明、ポートフォリオ・マトリックスを実際にも描く演習を予定している。

<予習・復習のポイント>

企業における事業のポートフォリオがなぜ重要なのかを具体的な集束を基に考える習慣をつけるとともに、ポートフォリオを応用すればリスク分散が実現できることを理解する。

〈第3講〉経営戦略(3) 環境分析

事業戦略は内外の環境分析・経済性分析に基づいて策定されるが、これには基礎理論の理解が必要である。本講では

- 1.競争優位を築くための3つの基本戦略 2.事業の経済性分析 3.外部環境分析:業界構造と5つの力・アドバンテージ・マトリックス 4.内部環境分析:価値連鎖 5.コスト・リーダーシップ戦略・差別化戦略・集中戦略

について考え、その実例を示して理解を深める予定である。

<予習・復習のポイント>

競争環境を的確に分析し、それに対処することは企業にとって重要な問題であり環境の変化が急速に進化する時代では、環境の変化を事業に生かすことが極めて重要な戦略ともなることを理解する。

〈第4講〉経営戦略(4) 個別戦略

企業にはその市場でのポジションとしてリーダーとフォロワーがあり、それによって戦略は基本的に相違する。さらに国際化への戦略、戦略的提携など戦略の類型は多様化している。本講では

- 1.リーダーの戦略とフォロワーの戦略 2.国際化戦略 3.M&Aと戦略的提携 4.成熟期における戦略

を実例を交え解説し、併せてバブル崩壊後の企業戦略の展望を俯瞰するつもりであり、経営戦略のとりまとめとトピック的な話題をここで解説を行う予定である。

<予習・復習のポイント>

個別の企業戦略はどのように形成される、競争環境の中にあつてはそのポジションによってもとれる戦略は異なるものであることを理解する。

〈第5講〉マーケティング(1) マーケティングの役割

企業は変化する事業環境に適応するため市場変化を敏感に受け止め、企業内に売れる仕組みを構築し、供給サイドへの枠組みを示すことがマーケティングの役割である。

本講ではその内容とプロセスを

- 1.マーケティングの発想と役割 2.マーケティング環境分析 3.市場機会と脅威の発見 4.競争市場戦略 5.マーケティング・プロセス 6.市場細分化と標的市場 7.製品ポジショニング

といった角度で眺めることとする。

<予習・復習のポイント>

市場を的確に把握し必要とされる製品・サービスを提供するためにはマーケティングの知識は必要不可欠である。マーケティングを真に生かすためには戦略に最適なマーケティング戦略を行う必要があることを理解する。

〈第6講〉マーケティング(2) 製品特性とブランド

マーケティング戦略は製品特性・ライフサイクル・ブランドイメージといった製品戦略、それに応じた価格戦略と流通戦略が一体化し、さらにはこれにプロモーション戦略が付加して成立する。

本講では

- 1.製品特性とライフサイクル 2.ブランドの機能・効果と新製品開発 3.価格政策と価格設定の手法 4.流通チャネルの意義と設計

から各戦略の理論と整合性について説明する。

<予習・復習のポイント>

マーケティング戦略の中での製品のライフサイクル、製品特性を理解しておかなければ陳腐化が進行したのでは企業の存続を危うくする可能性が高くなることを理解する。

〈第7講〉マーケティング(3) 戦略的価格設定

プロモーション戦略の立案は消費者の態度変容プロセスに応じてプロモーション・ミックスを考えなければならない。この問題を中心に本講では

- 1.プロモーション戦略 2.広告戦略 3.営業管理

について考え、今後のマーケティングの動向を左右する事項として、プライベート・ブランドの台頭と関係性マーケティングや問題解決型マーケティングに直結する予定である。

<予習・復習のポイント>

競争戦略におけるプロモーションや広告といった直接的に販売に大きく影響を及ぼす行動を採用する際に陥りやすい側面を正しく理解し、消費者の行動変容をもたらす要因を理解する。

〈第8講〉マーケティング(4)Accounting・Promotion,財務諸表

マーケティングのPromotionについて概説し、その後Accountingに入る。アカウントINGは外部向けの財務会計・税務会計と内部向けの管理会計に区分され、管理会計は業績管理会計と意思決定会計に細分化される。

本講では

- 1.企業経営とアカウントING
- 2.収益・費用の認識
- 3.貸借対照表項目の性格
- 4.損益計算書の性格
- 5.キャッシュフロー・ステートメント

について説明する。財務会計はアカウントINGの基礎構造であり、特に新しい思考方向の理解が大切な理由を明確に説明する。

<予習・復習のポイント>

企業における財務的知識がなぜ必要になるかを財務諸表の関係を概観しながら数字で把握することの重要性ならびに数字の裏に隠されている企業行動の読み取り方を理解する。

〈第9講〉Accounting(2)財務諸表の構造

企業における収益と費用の関係を踏まえ、貸借対照表と損益計算書の関係。更にはキャッシュフロー・ステートメントに言及し、そうした会計的アプローチを評価する際の総合分析の指標としてROAとROEを取り上げ、併せて収益性分析の意味、算出の方法等について講義する。

本講では

- 1.財務諸表の成り立ち
- 2.貸借対照表の構造
- 3.損益計算書の構造
- 4.ROAとROE
- 5.収益性分析

について説明する。財務会計はアカウントINGの基礎構造であり、その構造の理解が大切な理由を明確に説明する。

<予習・復習のポイント>

財務の理解を深めるために、貸借対照表、損益計算書の概要を理解し、経営の重要な指標としてのROEやROSの持つ意味と役割を理解する。

〈第10講〉Accounting(3)経営分析

企業の経営分析指標としての安全性分析を概説し、財務諸表分析の意味とその手法について講義する。また主な項目のうち有価証券、減価償却、オフバランス取引などについて個別に項目ごとに触れる。

本講では

- 1.安全性分析
- 2.財務分析の手法
- 3.棚卸資産・有価証券・減価償却
- 4.税務会計
- 5.連結会計とオフバランス取引

について説明する。会計の幅広い範囲を概観することで大枠を捉えていく考え方の重要性を確認し、併せて会計制度の変遷の流れについても理解することの重要性を説明する。

<予習・復習のポイント>

企業経営を行った結果を定量的に把握するための経営分析手法のうち、安全性と収益性の関係を財務諸表との関連において概略的に理解する。

〈第11講〉Accounting(4)損益分岐点

管理会計を理解する上で最も基礎的な事項は損益分岐点であろう。これは単にBEPの計算ができればでなく、これから利益計画のポイントを把握することが重要である。最終講のビジネスプランに繋がる概念を計算問題などを例として講義する。

本講では

- 1.損益分岐点分析
- 2.損益変化と損益分岐点
- 3.限界利益と固定費
- 4.損益分岐点の応用

についてプリント・計算例題を加えて解説する。

<予習・復習のポイント>

管理会計手法の重要なものひとつである損益分岐点分析の考え方、並びに計差するための計算方法を理解する。

〈第12講〉Accounting(5)原価計算

費用を把握することは事業の採算性を検討する重要な項目となる。費用を把握する手法としての直接原価計算や特殊原価計算、標準原価計算制度については実務的な理解が必要である。こうした観点から計算方法及び各計算方法による特色を理解し具体的な事例を検討する。

本講では

- 1.直接原価計算
- 2.特殊原価計算

について解説する。

<予習・復習のポイント>

製造業にかかわらずすべての企業における費用の管理のための原価計算の果たす役割とその計算手法を理解する。

〈第13講〉Accounting(6)会計的管理

意思決定における採算性の問題を検討するには管理会計の手法が欠かせない。マネジメント・コントロール・プロセスにおける会計的側面を業務的に照らした場合の責任会計を理解することは重要である。さらに、わが国の会計制度が大きき変化している現状を考えたときに国際会計基準の導入による変化までを考えて行動することが求められる。

本講では

- 1.マネジメント・コントロール
- 2.責任会計
- 3.国際会計基準の導入

について大きな流れを踏まえて、その対応と考え方を解説する。

<予習・復習のポイント>

マネジメントを行う際に必要となる会計的側面からのコントロールに影響を及ぼす要因を理解する。近年の会計基準の変更は何を意図し行われているのかを理解する。

〈第14講〉事例研究(1)

企業の様々な行動を分析する際に必要となる視点を広くすることを目的に、ケーススタディ形式による事例を検討する(取り扱う事例は講義の中で選定する予定)

<予習・復習のポイント>

実際の企業を取り上げた事例研究を通して戦略やマーケティングをどのように考え、どのような行動指針として活用しているかを事例を通じ確認する。

〈第15講〉事例研究(2)

事例研究で取り上げた内容をもう一段掘り下げたことを目的としたグループ討論を実施予定。

<予習・復習のポイント>

事例を通して内容を見え交差することで様々なとらえ方や考え方が存在することを理解し、多角的視点に立つことの重要性を確認する。

■教科書

(株)グロービス編著 『改訂 3 版・MBA マネジメント・ブック』 タイヤモンド社

特には定めないが、適宜講義の中で紹介をする

■指定図書

特には定めないが、適宜講義の中で紹介をする

■参考文献

記に記した教科書として使用する MBA シリーズの他の書籍

■評価方法

期間中、講義時間内に行う小テストとレポートの内容と提出状況をもって平常点とし、これに期末に行うペーパーテストまたはレポートの結果を総合して評点する。

■評価基準

絶対評価

A+：9.5 点以上

A：9.4～9.0 点

B：8.9～8.0 点

C：7.9～6.0 点

F：試験受験なし、またはレポート提出なし

■事前履修科目等

講義の中で参考文献等を紹介するので、レポートの提出もしくは試験の受験だけでは単位は取りにくいことを明記しておく

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する。

■留意点

講義資料は講義時間の開始時に配布するので講義時間中・事後教科書と併用復習を行うこと。なお、講義は事前に教科書を読んでいるものとして行う予定である。レポートの提出に際しては別途課題を指定する。

科目名 経営実務Ⅱ(Business Administration II)

担当教員 川端 敏郎

■講義目的

経営実務Ⅱでは、ファイナンス、組織と人・IT・ビジネスプランを中心に企業活動の中に占める経営の問題解決、事業プランの策定などの分野を、理論のマネジメントへの応用という視点で捉え社会科学が机上の空論ではなく、実践から生まれ実践に帰することを理解することを目的に講義を行う。講義登録者が40名を超えない場合は、事例を取り上げる回数を増やして、実務上の課題を討議しつつ講義を進める予定である。レポート作成に必要な資料は講義時間に配布し、レポート作成に際してはコメントを入れることを実施し、基準をクリアするまで指導する予定である。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント

■到達目標

経営に関するファイナンス、人事政策、情報化への対応の各分野に関する知識を学習し、ビジネスプラン(新規事業計画を含む)へとまとめる力を身につける。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■講義の概要

本講義は「経営実務」に際して諸理論のマネジメントやプランニングへの利用方法についての理解を深めることを目的としている。

【第1講】

企業経営におけるファイナンスは企業価値最大化のため投資の選択とそれのための調達手段に中心が置かれる。

過去、我が国企業の財務戦略の誤りは土地の高騰を過大視し、ファイナンス本来の目的を忘却したところに生れた。企業財務は企業会計とは別のスタンスポイントに立ち、企業活動と表裏一体で流れている資金(Cash Flow)を管理することにある。

本講では、1.企業経営と企業財務 2.キャッシュフロー 3.運転資金管理 4.金銭の時間的価値の基本原則 5.ディスカウント・キャッシュフロー(DCF)法について計算実例を交えて解説する。

<予習・復習のポイント>

企業における資金は非常に重要な資源であり、其の重要な資源をどのような方法で確保してくるかを実践するファイナンスは欠かせない企業の活動であることを理解する

【第2講】ファイナンス(2)投資の評価

企業における投資はその正否が企業の命運を左右するだけに、そのリスクを含め評価方法が研究され、実際上でも利用されている。

本講ではその代表的手法を中心に、1.投資評価のさまざまな方法 2.投資収益率とリスク 3.分散投資の効果としてのポートフォリオ理論と資本資産モデル

についてコンピュータによる計算表示方法を加えて説明する予定である。

昨今の米国の資源地としての金融不安における投資のあり方についても言及するとともに、健全な投資についての投資家としての行動をどのように考えておくべきについても触れる予定である。

<予習・復習のポイント>

ファイナンス活動によって得られた資金を最も有効な投資対象に投資することは企業の活動にとっては非常に重要である。投資先を選間違えれば市場からの撤退を招く可能性を引き起こすことを考えると、その投資対象の評価を行う手法を理解することは重要なポイントであることを理解する。

【第3講】ファイナンス(3)資金調達

企業はその成長期においても資金調達能力に対して過大な売上成長力を掲げることができず、この管理は企業財務の命題である。企業の維持成長には適正な資金コストでの資金調達手段を確立することが大きい課題といえる。

本講では、1.企業成長とファイナンス 2.企業の資金調達手段 3.資本コスト 4.株主資本コストの決定

5.企業の最適資本構成の理論と実際

について実例を交えて解説する。

<予習・復習のポイント>

資金調達とは別な形での資本コストを発生させることになる。新たなコストを上回る投資対象に資金を渡り続けることは企業の成長戦略には欠かせない行動であることを理解する。

【第4講】ファイナンス(4)企業価値

企業価値とは理論的には企業が将来生み出すキャッシュフローの現在価値である。しかし、その算定は困難な点もある。この代替的な算出方法として会計的・利益から、精算価値での方法が採られる。また、株式の価値や経営者の義務としてのROE維持の戦略もまた重要な事項である。

本講では、1.配当政策 2.企業価値の算出 3.株主決定メカニズム 4.経営者の義務と株主資本利益率

に言及するとともに、これからの企業財務のありかたを論ずる。

<予習・復習のポイント>

企業価値という考え方が重要視される中で、今では企業価値のなかを環境の変化やグローバル化の進展といった中でどのようにとらえるべきなのかを理解する。

【第5講】組織・人(1)組織文化とマネジメント

経営資源の1つである人材は組織と人の良いマネジメントや組織文化から生まれる。

本講では、1.企業経営と組織・人マネジメント 2.組織・人マネジメントのフレームワークと影響を与える諸要因 3.組織文化の生成と浸透 4.経営組織と組織文化

<予習・復習のポイント>

経営資源の中でもヒトの果たす役割は他の経営資源に比較してもより重要となる。企業におけるヒトの側面に焦点を当ててマネジメントの大きな対象となるヒトの問題を理解する。

【第6講】組織・人(2)組織形態と能力開発

人材という経営資源は同じでも、インセンティブ次第で組織への貢献度合いに差がでてくる。働くことに対する人のモチベーションに組織がうまくインセンティブを組み合わせることがポイントだが、これらはあくもに行うべきではなく理論的理解が必要である。

併せて人間の側面に焦点を当てる。

本講では、1.モチベーションとインセンティブ 2.モチベーションの理論 3.個人間対立の管理 4.パワーの源泉 5.リーダーシップとマネジメント

について説明、人間ゆえの諸問題について言及する。

<予習・復習のポイント>

人が組織の中で働くインセンティブやそのインセンティブに大きな影響を及ぼす外部環境との関係を理解する。

【第7講】情報技術(1)企業経営と情報技術

情報技術の進展はInternetやWindowsに象徴されるようにコンピュータ・通信技術とも高速・大容量化し、Net-Work時代を招来させている。これにともない企業のマネジメントも戦略・戦術に至るまで根本的な変革が生まれている。

本講では、1.企業経営と情報技術戦略 2.技術進歩の捉え方と情報戦略 3.BPR・ERP・SCMとロジスティックなどについて実証的に説明する予定である。

<予習・復習のポイント>

近年のネットワーク環境の進展が企業経営に及ぼす影響と、ITを知り、その技術をいかに企業経営に生かすかが企業の経営に重要性を帯びていることを理解する。

【第8講】情報技術(2)ナレッジマネジメントとネットワーク

情報技術の中でも事業構造の再構築をもたらすような変革はネットワーク環境の進展と共にその重要度を増加させている。特に知的活動をめぐる企業生産性の向上は大きな課題となっており、知的財産権などの言葉と共に知的財産をめぐるナレッジ経営は企業規模の大小を問わずその重要度をましている。

本講では、1.インターネット 2.ナレッジ経営の2点に焦点を絞り込んでマーケティングなどの手法などにも影響を与え始めている問題を検討する。

<予習・復習のポイント>

IT化の進展は企業という組織の中で働く人の行動に様々な影響を及ぼしている。特に個人々人の中にある知識をいかに組織として活用できるかは企業の成長行動に大きな影響を及ぼすことを理解する。

【第9講】ビジネスプラン概観

ビジネスプランの基本的経営外部・内部に企業の方向や結果としての成果を示す共に、マネジメントの基準を明らかにすることにある。

業績管理システムの基準もビジネスプランから生まれる。ビジネスプランにはその目的によって種々の形態があり、それぞれ関連性を持って作られるし、作成には一定のルールがある。

本講はプリントにより、1.経営の規範としてのビジネスプラン 2.ビジネスプランの種類と特性 3.ビジネスプラン準備のための留意点 4.ビジネスプラン作成上の留意点 など、ビジネスプラン全般についての解説を行う。

<学習・復習のポイント>

これまで学習してきた内容を総合的に理解する材料としてビジネスプランを取り上げることで、個別の講義の寄せ集めの知識ではなく、それらの知識を総合的に活用することの重要性を理解する。

《第10講》Business Planにおける利益計画の考え方

ビジネスプランの中核をなすものは利益計画であるが、これには利益目標の設定に始まり、それを可能とする売上・製品原価・販売及び一般管理費・金融費などの計画を行うが、それは体系的な理論に基づいたものであると共に満足する計画になるまで各要素の検討修正を必要とする。

本講はプリントにより、1.企業での利益の重要性とそのための目標設定 2.はじめに売上計画ありき 3.売上数量計画から展開する諸計画 4.変動費の計画 5.固定費の計画 6.利益計画確定までの流れ

についてステップ的に説明する。

<学習・復習のポイント>

ビジネスプランの中心的課題である利益計画はいかに考え、その実現を図るための定量的な結末の重要性を理解する。

《第11講》Business Planにおける資金計画の考え方

利益計画は資金の収支下や関連方法によって変化することはファイナンスにおいて説明済みであるが、実際には合理的な計画設定システムを持つ企業は少なく、利益計画に期首期末の資産・負債・資本比較と減価償却など非資金費用を調整し、正味キャッシュフローを求める程度である。

この水準では真の意味で利益計画と資金計画の連動は困難で、特に手動変動と資金流動の関連を明らかにできない。そこで本講では資金損益結合表の方法を示す。

本講ではプリントにより、1.「勘定合って銭だず」は総空事 2.資金循環の原則 3.資金計画化への2つの考え方 4.資金損益結合表による資金計画 5.資金計画のステップ などについて経験談を交えて解説を行う。

<学習・復習のポイント>

勘定合って銭だずの事態を招かないことは実務の世界では必要不可欠であり、そのために必要となる資金計画の重要性を理解する。

《第12講》Business Plan Simulation 試案

ビジネスプランを作成するに当たり、事前準備段階で諸種の条件を付与した場合の損益・資金への影響を検討できるシミュレーション化が必要であることから、会計的相関を考慮して損益・資金の相互関連モデルを作成した。

これはかつて吉田・松野両氏が開発したセルパランを発展させ表計算ソフトでの計算を前提に試作したものであるが、損益分岐点理論や政策決定値の影響さらには必要資金の算定まで小型ながら計画損益計算書・貸借対照表を試算できる利点がある。

本講ではプリントにより、1.シミュレーションとは 2.ビジネスプランのためのシミュレーション・モデル 3.事例としての XYZ 社の経営実態 4.ビジネスシミュレーションで営業部長・経理部長の検討と社長の結論 5.ビジネスシミュレーションのロジックと作成上の留意点

についてコンピュータでの体験からの理解を求める予定である。

併せて企業を人体に喩えた場合の病状についてその兆候はどのように点に留意すべきかについて検討する。

<学習・復習のポイント>

ビジネスプランを理解するためのモデルを取り上げ、シミュレーションによる検証するための考え方を理解する。

《第13講》シミュレーションモデルの概説

前項におけるシミュレーションの実態を表計算ソフトを用いて計算方法の組み立てを検討し、実際における使用方法を含めて概説する。

<学習・復習のポイント>

シミュレーションで取り上げる考え方を現実的なモデルとして作成する考え方、並びにシミュレーションを組み上げるためのこの計算式を確認してモデル全体を理解する。

《第14講》事例研究

企業のビジネスプランの事例を題材に、実際のビジネスプランの作成に必要とされる内容を検討し、具体的な作成の方法についての概説をする。

<学習・復習のポイント>

ビジネスプランとして実際に使われたものを事例として取り上げることで、総合的な理解を深める。

《第15講》事例研究

実際の企業の事例を取り上げて、ケーススタディの考え方やその活用、さらには問題に対する分析能力の向上を目指した討議を中心とした形式での学習を実施する。

<学習・復習のポイント>

事例研究を通じてこれまでの学習内容を実際の事例の仮名で検証するので、それまでに得られた学習内容を確認する。

■教科書

(株)グロービス編著 『改訂 3 版・MBA マネジメント・ブック』ダイヤモンド社

■指定図書

特には定めないが、適宜講義の中で紹介をする

■参考文献

特には定めないが、適宜講義の中で紹介をする

■評価方法

期間中、講義時間内に行う小テストとレポートの内容と提出状況をもって平常点とし、これに期末に行うペーパーテストまたはレポートの結果を総合して評点する。

■評価基準

絶対評価

A+：9.5 点以上

A：9.4～9.0 点

B：8.9～8.0 点

C：7.9～6.0 点

F：試験受験なし、またはレポート提出なし

■事前履修科目等

講義の中で参考文献等を紹介するので、レポートの提出もしくは試験の受験だけでは単位は取りにくいことを明記しておく。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する。

■留意点

講義資料は講義時間の開始時に配布するので講義時間中・事後教科書と併用復習を行うこと。なお、講義は事前に教科書を読んでいるものとして行う予定である。

科目名

経営情報数学I(線形代数)〔Mathematics for management and Information sciences I〕

担当教員

岡太 彬訓

■講義目的

第1は、データ分析など用いられる統計学のさまざまな概念や操作を、幾何学的に、すなわち、図的に表現することによってなるのかということを理解することです。第2は、線形代数の基礎的な知識を、とくに、幾何学的な表現に基づいて身につけることです。

■講義分類

ビジネスマネジメント／社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

線形代数の基礎であるベクトルと行列の概念を理解し、基礎的な操作を習得します。通常の数値や変数であるスカラー、ベクトルおよび行列との階層的な関係を理解し、特に、データ分析や統計学との関連を理解することです。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

〔第1講〕概要：半年間の講義の目的と授業の予定を述べます。

事前学習しておくべき用語やポイント〔データの幾何学的表現、ベクトル〕

詳細：データの幾何学的な表現、すなわち、図的に表現する方法と線形代数の関連を考えます。ベクトルの意味とその利点を考えます。詳細：行列の数の数値、統計的な概念や演算あるいは操作との関連、および、その幾何学的な意味を述べ、授業でとりあげる内容の概要を説明し、授業と試験の日程をお知らせします。

〔第2講〕概要：ベクトルを使ったデータの幾何学的〔図的〕な表現を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント〔スカラー、ベクトル、行列〕

詳細：ベクトルはスカラーの値を理解します。特に、ベクトルとスカラーのもつ階層的な関係の重要性を説明します。データをベクトルを使って幾何学的〔図的〕に表現する方法を理解します。そして、ベクトルを用いて幾何学的〔図的〕にデータを表現することによってどのような意味があるのかを考えます。

〔第3講〕概要：ベクトルのスカラー一倍とベクトルの和と差を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ベクトルが等しいとは、ベクトルのスカラー倍〕

詳細：ベクトルが等しいということの意味を理解します。ベクトルをスカラー一倍することの意味を述べ、その幾何学的な考え方、データ分析での意味を説明します。特に、ベクトルの方向とその大きさのもつ意味を考えて、ベクトルのスカラー倍との関係について説明します。

〔第4講〕概要：ベクトルの演算の基礎を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ベクトルの演算、和と差〕

詳細：ベクトルの演算について説明します。特に、スカラーの演算の値を理解します。ベクトルの演算の第1歩として、ベクトルの和と差を意味することの意味を述べ、その幾何学的な考え方やデータ分析での意味を説明します。必要に応じて図記号〔 $\pm$ 、シグマ〕の使い方を補足説明します。

〔第5講〕概要：ベクトルのスカラー・積、および、差を組み合わせたベクトルの1次結合を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ベクトルの1次結合〕

詳細：ベクトルの1次結合は、スカラー倍したいくつかのベクトルの和あるいは差により求められるベクトルであることを理解します。ベクトルの1次結合が、ベクトルの幾何学的〔図的〕表現で、どのような意味をもっているのか、また、統計的にどのような意味があるのかを考えます。

〔第6講〕概要：ベクトルの内積について述べ、統計的な意味を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ベクトルの内積、ベクトルの内積の幾何学的表現〕

詳細：ベクトルの1次結合の幾何学的な意味に基づいて、ベクトル間の関係〔近さや遠さ〕という概念を考えます。それに基づいて、ベクトルの1次結合と内積の関係を考えます。ベクトルを幾何学的〔図的〕に表現した場合に2つのベクトルの成す角とベクトルの内積との関係を考えます。

〔第7講〕概要：ベクトルの内積とその統計的な意味を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ベクトルの内積と内積〕

詳細：ベクトルの内積と幾何学的〔図的〕に表現した場合に2つのベクトルの成す角、そして、相関係数、さらに、さまざまな統計的な概念との関連を理解します。変数の関連を分析するために、多変量データを分析する多変量解析手法、上に述べた内積の関係を考えます。

〔第8講〕概要：ベクトルの直交性と1次独立と1次従属を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ベクトルの直交、1次独立と1次従属〕

詳細：ベクトルを幾何学的〔図的〕に表現した場合に、ベクトルが直交について考えます。特殊な場合として、ベクトルの直交性を取り上げ、その幾何学的な意味を理解します。ベクトルが表されている空間について考え、ベクトルの1次独立と1次従属を理解し、ベクトルが表す空間〔直線、平面、3次元空間、・・・〕について考えます。

〔第9講〕概要：ベクトルの1次独立性と基底を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント〔1次独立、基底〕

詳細：ベクトルの1次独立と1次独立の値、また、基底という概念を理解します。ベクトルの1次独立と1次独立ということと基底の関係を理解し、基底とベクトルが表す空間の次元数の関係を考えます。それに基づいて、1次独立なベクトルの最大個数、基底、空間を表るベクトルを考えます。

〔第10講〕概要：ベクトルについて理解を深めます。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ベクトルの幾何学的表現、ベクトルの演算〕

詳細：第1回の試験を行う予定です。筆記試験を行います。筆記試験の範囲は、第1講から第9講で扱い、授業中に随時に演習で扱った内容について行う予定です。ベクトルの幾何学的〔図的〕表現の意味、ベクトルの演算と幾何学的〔図的〕表現との関係、さらに、その統計的な意味を各自で自ら確認するための機会とします。

〔第11講〕概要：筆記試験の問題の解説を行います。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ベクトルの幾何学的表現、ベクトルの演算、情報の表現〕

詳細：筆記試験の問題の解説を行います。なぜ、行列が必要になるのかを説明し、理解が不十分な点や不完全な点を補います。ベクトルを幾何学的に表現するというこの意味と、データのもつ情報を表現することの意味を考えます。そのために必要な方法の理解を深めます。

〔第12講〕概要：行列の概念、行列の幾何学的な表現を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント〔行列、行列の幾何学的〔図的〕な表現〕

詳細：行列の概念を述べます。なぜ、行列が必要になるのかを説明し、スカラーとベクトルとの関係、および、ベクトルと行列の関係から、それらの間にある階層的な関係を理解します。それに基づいて、行列の幾何学的〔図的〕な表現を考え、行列によるデータの幾何学的〔図的〕な表現を考えます。

〔第13講〕概要：さまざまな行列〔対称行列、単出行列、対角行列、三角行列、零行列など〕を紹介し、その意味を扱う予定です。

事前学習しておくべき用語やポイント〔置行列、単出行列、対称行列、対角行列〕

詳細：特殊な性質をもついくつかの行列を取り上げます。それらの行列のもっている意味をスカラーやベクトルとも関連づけ理解します。また、これらの行列が、その性質を利用して、どのような目的のために有効に利用されているのかを述べます。レポートを提出して貰います。

〔第14講〕概要：ベクトルと行列について理解を深めます。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ベクトル、行列〕

詳細：第2回の試験を行う予定です。筆記試験を行います。試験の範囲は、第1講から第13講で扱い、授業中に随時に演習で扱った内容について行う予定です。ベクトルと行列の幾何学的〔図的〕表現、ベクトルと行列の演算と幾何学的〔図的〕表現との関係、さらに、その統計的な意味を各自で自ら確認するための機会とします。を各自で自ら確認するための機会とします。

〔第15講〕概要：筆記試験の問題の解説を行います。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ベクトル、行列、情報の表現〕

詳細：筆記試験の問題の解説を行います。筆記試験で解いた問題を各自で考察し、理解が不十分な点や不完全な点を補います。ベクトルと行列を幾何学的〔図的〕に表現するというこの意味と、それによりデータのもっている情報が、どのように表現されるのか、そこにはどのような長所と短所があるのかを考えます。

■教科書

岡太彬訓 「データ分析のための線形代数」 共立出版(2008)

■指定図書

岡太彬訓 「基礎数学」 新曜社(1977)

■参考文献

佐武一郎 「線形代数」 共立出版(1997)

■評価方法

講義への出席状況（10%）、講義中におけるあるいは質問用紙への質問の良さ（10%）、2回の試験（各30%）とレポート（20%）を総合して評価します。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

予習と復習を必ず行うこと。

科目名 経営情報数学Ⅱ(微積)〔Mathematics for management and Information sciences Ⅱ〕

担当教員 今泉 忠

講義目的

経営上では、情報を活用して、未来の状態を予測し、そこで発生する問題を事前に対応できるようにすることは重要である。

本講義では、数学的知識を用いたモデル構築のための基礎としての、数学的な考察およびモデルの構築を目指し、関数の概念とその応用、微分積分の概念と応用について、基礎的な概念についての理解と実際の計算方法についての習得を目指す。

できるだけ、実際の問題解決のための数学と位置づけて講義を行う。

講義分類

ビジネスマネジメント / 社会人力育成 / グローバルビジネス / ビジネスICT / 地域ビジネス

到達目標

- (1) 初等関数について微分積分を理解して行える
- (2) 多変数関数の微分を理解して行える
- (3) 関数近似について理解して行える

講義形態

講義 + GD + GW + PR〔学外学習無〕

講義の概要

(第1講) グラフから学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント：グラフ、2次関数

変化や加速度などの関数のグラフのポイントを学ぶ

CAS(Computer algebra system)システムのインストール

PCやスマートフォンにCASをインストールする。

(第2講) 関数

事前学習しておくべき用語やポイント：連続性

変化を表現する事の重要性と数学における関数の表現について学ぶ

(第3講) 微分の基本

事前学習しておくべき用語やポイント：差分

極限としての微分を捉える場合の枠組みについて理解する。

(第4講) 基本的な関数の微分法

事前学習しておくべき用語やポイント：多項式関数や三角関数のグラフ

2次関数から初めて、多項式関数や三角関数の微分法について学ぶ

(第5講) 合成関数の微分法

事前学習しておくべき用語やポイント：関数の和や積などのグラフ

実際の場面では、初等関数の和、積、商の関数を扱う。この場合の微分について学習する

(第6講) 変化するからの総量を求める

事前学習しておくべき用語やポイント：局所的な変化

関数のある部分の面積を求めることを通じて積分の基礎を学ぶ

(第7講) テラー展開

事前学習しておくべき用語やポイント：多項式近似

関数の近似のためのテラー展開について講義する

(第8講) テラーの公式

事前学習しておくべき用語やポイント：テラー展開

2つの関数の近似について講義する

(第9講) 最適化問題

事前学習しておくべき用語やポイント：テラー展開

テラーの公式を用いた場合の最適化問題について講義する

最適化問題などについて講義する

事前学習しておくべき用語やポイント：ニュートン法

(第10講) 最適化問題応用

事前学習しておくべき用語やポイント：テラー展開

テラーの公式を用いた場合の最適化問題とその応用について講義する

(第11講) 不定積分の基本

事前学習しておくべき用語やポイント：積分の操作

微分との対応での不定積分について講義する

(第12講) 置換積分と部分積分

事前学習しておくべき用語やポイント：微分の公式

微分の公式をもとにして合成関数の場合の積分について講義する

(第13講) 多変数関数と偏微分

事前学習しておくべき用語やポイント：偏微分と全微分の違い

ここでは、2変数の場合に用いられる偏微分について講義する

(第14講) 多変数関数と偏微分Ⅱ

事前学習しておくべき用語やポイント：グラフ

様々な関数の場合に関しての偏微分について講義する

(第15講) まとめ

教科書

テキストは配布する

指定図書

[1] 岡部恒治・長谷川愛美「図解ざっくりわかる！ 微分・積分入門」青春出版社

[2] 矢野 健太郎・田代 嘉宏「社会科学者のための基礎数学」

[3] 石村 園子 「やさしく学べる微分積分」 共立出版

[4] 山田善靖他 「経営情報学のための微分積分」 共立出版

[5] 志賀浩二 「微分積分30講」 朝倉書店

[6] 小林龍一他 「解析序説」 ちくま学芸文庫

その他、授業中に適宜紹介。

参考文献

[1] 若尾良男・水谷昌義 「社会科学者の数学入門 第2版」 ムイスリ出版

[2] 石井望他 「経済・経営のための基礎数学 新版」 実教出版株式会社

[3] 足利義則 「経営と情報のための数学概論-経営情報の数学的手法-」 培風館

[4] 小林龍一他 「解析序説」 ちくま学芸文庫

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

その他、授業中に適宜紹介。

科目名

経営情報論Ⅰ〔Management Information SystemsⅠ〕

担当教員

諸橋 正幸

■講義目的

企業内の情報いかにタイムリーかつ正確に集め企業活動に利用していくかについて理解する。企業内のIT化というときに常に取り上げられる情報収集・活用的一般的な方法を知る。情報収集と蓄積の手段としてはデータベースがあり、その活用手段としてはデータウェアハウスが使われるが、その他さまざまな工夫が各企業によっておこなわれている。それらを概括的に紹介する。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／ビジネスICT

■到達目標

企業が、基幹業務において如何に生産効率を上げ、また、事務処理効率を上げるための工夫を行っているかを理解する。さらに、顧客側の視点から最も望ましいサービスを提供する目的で企業間連携が行われている現状を知る。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

(第1講)

0章 本講義の目的

1章 企業活動と情報システム

1.1節 仕事の仕組みと情報システム

予習、復習のポイント：

「講義目的の紹介」では、企業の基幹業務を扱う際の情報システムの役割を説明することで本講義全体の目的を紹介する。「仕事の仕組みと情報システム」では給与計算や受注・納品の仕組みを母に於て、その抽象モデルとしての情報システムを理解する。

(第2講)

1.2節 セブンイレブンにおける情報システム(事例1)

予習、復習のポイント：

加盟店を統括する形での商品発注・納品の仕組みを自動化する「スリップオーダー方式」から、商品の売行き予測まで行う「店舗統合情報システム」に至る情報システムの発展を概観する。

(第3講)

1.3節 製造業における情報システム

予習、復習のポイント：

製造業を作業手順から組み立て加工型、枝分かれ型に分類し、また、受注形態からオーダーメイド・非オーダーメイドに分類して、それぞれの形態の特徴とそれに合わせた情報システム構築の要件を捉える。

(第4講)

1.4節 トヨタにおける情報システム(事例2)ー概要

予習、復習のポイント：

組み立て加工・非オーダーメイド型の代表である自動車組み立て工場の情報システムの例として、トヨタの情報システムを紹介し、自動車産業の歴史の流れの中でシステム化の存在意義を理解する。

(第5講)

1.4節 トヨタにおける情報システム(事例2)ー平準化・かんばん方式

予習、復習のポイント：

トヨタシステムの代表的機能である平準化、かんばん方式の考え方を簡単な例を用いて理解する。

(第6講)

1.5節 CAD、FA、CIM(設計から生産までの自動化)

予習、復習のポイント：

製造業における設計から生産自動化にいたる代表的技術とそれをシステム化した製品を紹介する。

(第7講)

2章 情報管理から戦略への情報活用へ

2.1節 米国流仕事の階層

予習、復習のポイント：

マニュアル化に代表される効率重視の考え方が効果を発揮する定型業務と意思決定プロセスの的確さを重視する非定型業務の違いを明確にし、特に意思決定プロセス支援に関連する情報系システムの概要を紹介する。

(第8講)

2.2節 データベース、データウェアハウス、データマイニング

予習、復習のポイント：

従来、基幹系システムの代表であったDBMSが、どういう形で情報系システムに役立つ形に変化していったかを技術的な観点から理解する。

(第9講)

2.4節 S I S (戦略的情報システム)ー定義と事例

予習、復習のポイント：

S I Sの定義と情報システムの中での位置づけを理解し、その成功事例(米航空会社AALとUALのシステム)を通して設計の考え方を学ぶ。

(第10講)

2.4節 S I S (戦略的情報システム)ー事例その2

予習、復習のポイント：

S I Sの成功事例としてAHS、FEDEX、トステムを取り上げ、これら成功事例に共通するS I Sの考え方の理解を深める。

(第11講)

2.5節 B P R (Business Process Reengineering)ー必要性の背景と定義

予習、復習のポイント：

B P Rの生まれた背景と発展の歴史を理解し、単なるリストラとは異なる考え方であることを理解する。

(第12講)

2.6節 B P R (Business Process Reengineering)ー事例

予習、復習のポイント：

I B Mクレジットの例を通して、リエンジニアリングの実態を知る。

(第13講)

3章 つながる世界

3.1節 S C M (サプライチェーン・マネジメント)

予習、復習のポイント：

S C Mの定義、事例を通して、企業間の情報共有の有効性を知る。

(第14講)

3.2節 K M (ナレッジ・マネジメント)

予習、復習のポイント：

K Mの考え方、知識創造プロセス(S E C I)の概念、実現のための4つのアプローチ(タイプ)を理解する。

(第15講)

3.3節 C R M (カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)

3.4節 eービジネス/eーコマース

予習、復習のポイント：

事例を通してC R Mの考え方を理解する。また、eービジネス/eーコマースを通して、企業が取るB-to-B、B-to-Cのアプローチを紹介する。

■教科書

テキストは配布する

■参考文献

必要に応じ講義資料にて紹介する。

■評価方法

評価は、講義中の演習およびレポート課題(30%)、出席(20%)、期末試験(50%)により行う。

■評価基準

演習、レポート、期末試験ともに、講義内容をどの程度理解したかを見る。相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

紹介する最新技術やビジネスモデルには、英語の略語が頻出する。単にその略称を覚えるのではなく、元の英語名称を覚えることで内容を理解するように努めること。

科目名 経営情報論Ⅱ(Management Information Systems Ⅱ)

担当教員 諸橋 正幸

■講義目的

企業活動を効果的に行うには顧客嗜好や社会動向をタイムリーかつ的確につかむ必要がある。従来はアンケート調査等に頼っていたがウェブの発達により安価で正確な情報をつかむことが可能になった。これらの技術の利用法とその実例を紹介する。ウェブ2.0の登場によりウェブ上には一部の専門家や企業ばかりでなく一般多数の人々の意見・心情が公開できる場になった。そうした意見・心情の中から人々の考え方、流行に対する受け入れ方を分析し、企業活動に活かす方法について学ぶ。なお、分析対象はウェブに記載された文書ばかりでなくマウス等を用いたユーザの振る舞いも含まれる。

■講義分類

顧客理解/ビジネス環境理解/ビジネスマネジメント/グローバルビジネス/ビジネスIT/

■到達目標

ウェブ2.0上で活用されている最新技術の動向を理解した上で、企業がそれをもとに活用しているか、また、ユーザとして利用することによって社会全体どのような変化を起こしつつあるかを理解し、ネット社会とどう付き合っていくかを考えた行動がとれるようにする。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉0章 本講義の目的

1章 ネットワークを介した情報の収集/発信

1.1節 ネットワーク発展の歴史

予習、復習のポイント：

商用コンピュータの誕生からネットワーク活用の歴史を振り返り、ネットワークが必要とされてきた背景と要求の変化を知る。

〈第2講〉1.2節 発展の歴史が示すもの-未来への方向性

予習、復習のポイント：

ウェブ2.0の登場と現在の開発競争の中から将来の方向を知るとともに、その中で一般大衆としての我々の生活スタイルに与える影響を概観する。

〈第3講〉2.2節 ブラウザとデータベースの結合

2.1節 ブラウザとは

2.2節 ブラウザとデータベースシステムを結合するには

予習、復習のポイント：

ウェブの重要な要素となっているブラウザの仕組みを理解し、発展の歴史から現状を理解する。特に、データベースとの結合の必要性とその実現手段について概観する。

〈第4講〉3章 検索サイトのビジネスモデル

3.1節 検索サイトとは

予習、復習のポイント：

情報検索手段の代表であるディレクトリ検索とキーワード検索の違いを知った上で、実際の検索サイトがどのように両方式を融合させてユーザの満足を得ようとしているかを理解する。

〈第5講〉3.2節 検索サイトの技術的意義

3.3節 ビジネスモデル

予習、復習のポイント：

ディレクトリ方式とキーワード方式を実現するための技術的側面を理解する。また、ビジネスモデルとしての検索サイトの運営法を学ぶ。

〈第6講〉確認テスト

予習、復習のポイント：

1～6講までの講義内容の理解度確認をとるためにテストを行う。

〈第7講〉4章 Web2.0のビジネスモデル

4.1節 Web2.0の定義

予習、復習のポイント：

ウェブ2.0の実現事例をみながら、名付け親であるティム・オライリーの定義に従って、ウェブ2.0の本質を理解する。

〈第8講〉4.2節 Web2.0によって何が変わったか

4.3節 ビジネスモデル

予習、復習のポイント：

ウェブ2.0の実現事例や先端技術動向から一般社会生活に与える影響を考える。また、その中で活動する企業のビジネスモデルについても学ぶ。

〈第9講〉5章 Web2.0を利用したサービス

5.1節 CGM(Consumer Generated Media)

予習、復習のポイント：

ウェブ2.0の具体的実現例の中からCGMについて知る。また、それが社会に与える影響を「光と影」の両面から考える。

〈第10講〉5.2節 集合知とウェブ市場調査

予習、復習のポイント：

ウェブ2.0の具体的実現例の中から集合知獲得技術とウェブ市場調査の実態について知る。また、それが社会に与える影響を「光と影」の両面から考える。

〈第11講〉5.3節 オンライン広告

5.4節 オンラインショッピング

予習、復習のポイント：

ウェブ2.0の具体的実現例の中からオンライン広告・オンラインショッピングについて知る。

〈第12講〉5.5節 モバイル向けサービス

予習、復習のポイント：

ウェブへ参加する手段がPCからモバイルへと傾斜しているが、その実態を技術面からとらえる。また、多機能携帯(スマートフォン)の出現によって可能になったサービスの実態を学ぶ。

〈第13講〉6章 クラウド・コンピューティング

6.1節 クラウド・コンピューティングとは

6.2節 その狙いとビジネスモデル

予習、復習のポイント：

クラウド・コンピューティングの定義と実態を学ぶ。

〈第14講〉7章 ユビキタス・コンピューティング

7.1節 センサーおよびウェアラブル端末の発展

予習、復習のポイント：

ユビキタス・コンピューティングの定義を知る。また、実現のための先端技術の動向を知る。

〈第15講〉7.2節 ユビキタス社会

予習、復習のポイント：

ユビキタス・コンピューティングが社会に与える影響を考える。また、実際にこの技術をビジネスに活かした事例を通して、その実態を確認する。

■教科書

テキストは配布する

■参考文献

必要に応じ講義資料にて紹介する。

■評価方法

評価は、講義中の演習・確認テストおよびレポート課題(30%)、出席(20%)、期末試験(50%)により行う。

■評価基準

演習、レポート、期末試験ともに、講義内容をどの程度理解したかを見る。相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

紹介する最新技術やビジネスモデルには、英語の略語が頻出する。単にその略称を覚えるのではなく、元の英語名称を覚えることで内容を理解するように努めること。

科目名

経営組織I〔Management Organization I〕

担当教員

小林 英夫

■講義目的

企業は最も重要な経営資源である人々を一つの組織としてまとめあげ、直面する内外の課題を解決し、成果をあげ続けることを指す存在である。時代とともに変化する組織のあり方、組織を構成する人的資源を最大に発揮する方法などを考える科目である。経営組織Iでは、この問題に関する基礎的項目について最新事例を踏まえて学び、実践的知識を獲得する。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

・組織とは何であり企業組織はどのように運営されているのかを理解し説明できる。・組織の主要構成要素である人的資源が組織の中でどのように活かされているのかを理解し説明できる。・自らが組織を通じてキャリアを築き社会へ貢献することのイメージを描くことができる。

■講義形態

・講義のみ・その他(クラスディスカッション)(学外学習無)

■講義の概要

〈第1講〉イントロダクション

概要： 企業組織と経営

事前学習しておくべき用語やポイント[企業、経営、企業の機能]

詳細： 経営組織を考える上での前提となる企業とはそもそもどのような存在であるか、その経営とはどのようなものであるか、会社はどのようにして社会に設立されているかを学ぶ。

〈第2講〉組織運営1

概要： 企業統治～会社は誰が動いているのか

事前学習しておくべき用語やポイント[株式会社、コーポレート・ガバナンス]

詳細： 資本主義社会における株式会社では、株式所有者や会社経営者は異なった存在であることが多い。実際の経営の意思決定を担う経営者が、会社の社会的役割を正しく果たすように行動するための仕組みについて学ぶ。

〈第3講〉組織運営2

概要： 企業理念と経営戦略～会社はどのような方針で動いているのか

事前学習しておくべき用語やポイント[経営理念、経営戦略]

詳細： 会社を牽引しているのは経営者であるが、多くの社員を組織目的に沿うように動かすためには、社員が共通に理解する方針や基本的な方向付けが必要である。そのため仕組みや、経営環境の変化に応じて組織が採る戦略について学ぶ。

〈第4講〉組織運営3

概要： 組織形態～会社はどのような仕組みで動いているのか

事前学習しておくべき用語やポイント[職能別組織、事業部別組織、持株会社]

詳細： 効率的に活動するために、会社には部門が作られ部門間で仕事が調整されている。会社を動かしている仕組みとして、職能別組織や事業部別組織などの組織形態や企業グループ運営などを学ぶ。

〈第5講〉組織運営4

概要： 組織間関係～会社は他の会社とどのように協力しているのか

事前学習しておくべき用語やポイント[系列、サブライ・チェーン・マネジメント]

詳細： 企業集団や財閥、系列や下請け、戦略的提携などを取り上げて、会社組織が他の会社組織とどのように協力しているのかを学ぶ。

〈第6講〉組織運営5

概要： 生産管理～会社はどのようにしてモノを造るのか

事前学習しておくべき用語やポイント[規模の経済性、スピードの経済性]

詳細： 20世紀初頭のアメリカにおける科学的管理法や少量多種少量生産方式の効果と問題、コンパ生産方式とセル生産方式の違いを取り上げて、会社はどのようにして生産を行い、労働者はどのようにそれに関与しているのかを学ぶ。

〈第7講〉組織運営6

概要： 組織設計～社員は仕事をどのように分担しているのか

事前学習しておくべき用語やポイント[分業、調整、権限、職務設計]

詳細： 個人の職務を設計することや個人間の分業を行うことの意味やその方法を知ることを通じて、人が働く組織をどのように作っていくのかを学ぶ。

〈第8講〉人的資源管理1

概要： 人の管理とはどのようなことか

事前学習しておくべき用語やポイント[人的資源、マネジメント、人事労務管理]

詳細： 貴重な経営資源の一つとされる人材、それを管理するというとはどのようなことなのか、その役割や特徴にはどのようなものがあるかを、歴史的経緯も踏まえて学ぶ。

〈第9講〉人的資源管理2

概要： 働き方～組織は人をどのように捉えるのか

事前学習しておくべき用語やポイント[人間モデル、モチベーション、キャリア]

詳細： 人が働くとはどういうことで、それはどのような要素に動かされているのか、リーダーは人をどのように動かしているのか等を知り、組織は人をどのように捉えているのかを学ぶ。

〈第10講〉人的資源管理3

概要： 雇用システム～組織は社員をどのように雇うのか

事前学習しておくべき用語やポイント[職務、終身雇用、定年制、解雇]

詳細： 変容しつつある日本型雇用慣行とはどのようなものか、雇用形態の多様化とはどのようなものかを知り、雇用という観点から社員と組織の関係について学ぶ。

〈第11講〉人的資源管理4

概要： 採用・配置～組織は人をどのように雇い入れるのか

事前学習しておくべき用語やポイント[採用面接、R J P、出向、転籍、社内公募制度]

詳細： 組織の採用活動のプロセスや課題、採用後の異動や出向のあり方などを知り、組織は人をどのように雇い入れ動かすのかを学ぶ。

〈第12講〉人的資源管理5

概要： 人材育成～社員はどのようにして育てられるのか

事前学習しておくべき用語やポイント[OJT、一皮むける経験、自律型キャリア]

詳細： 組織にとって人材育成の持つ意義や人材育成の方法を知り、組織は人をどのように育てるのかを学ぶ。

〈第13講〉人的資源管理6

概要： 評価と処遇～組織は仕事の結果をどのように評価し処遇するのか

事前学習しておくべき用語やポイント[人事評価、目標管理、重層型昇進制度]

詳細： 組織において人はどのように評価されるのか、昇進昇格とはどのようなメカニズムで管理されているのかを知り、組織は人をどのように処遇するのかを学ぶ。

〈第14講〉人的資源管理7

概要： 報酬制度～社員はどのような報酬を求め、組織から与えられるのか

事前学習しておくべき用語やポイント[外的報酬、内的報酬、成果主義]

詳細： 報酬の種類にはどのようなものがあり、その中の金銭的報酬である賞金はどのように決定されるのかを知り、組織は人にどのような報酬を与えるのかを学ぶ。

〈第15講〉人的資源管理8

概要： 組織内の多様化～社員や労働形態などの多様化に組織はどう対応するのか

事前学習しておくべき用語やポイント[ダイバーシティ・マネジメント、WL B]

詳細： 企業活動の国際化、女性や高齢者の働く場の拡大、非正規雇用や限定性社員の増加など、組織で働く人材も働き方も多様化している。その実態を知り、組織は多様化にどのように対応しているのかを学ぶ。

■教科書

特になし。講義用資料を適宜配布または紹介する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

講義内で適宜紹介する。

■評価方法

出席・授業貢献(50%)、期末定期試験(50%)

■評価基準

相対評価

授業に臨む態度や建設的な意見や質問による課題の品質向上への貢献を評価する。期末試験では、経営組織に関する知識の習得度とともに、組織を通じたキャリア形成イメージが描けるようになっていくかを評価する。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名 経営組織Ⅱ(Management Organization II)

担当教員 小林 英夫

■講義目的

企業は最も重要な経営資源である人(々)をつつの組織としてまとめあげ、直面する内外の問題を解決し、成果をあげ続けることを目指す存在である。時代とともに変化する組織のあり方、組織を構成する人的資源を最大に発揮する方法などを考える科目である。経営組織Ⅱでは、この問題に対してこれまでの学術的成果を踏まえ理論側面からの検討を行うとともに、理論を実態に適用する際の考慮点を学ぶ。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

・1900年代より現在に至る経営組織理論の進展を体系的に説明することができる。・経営組織の理論と実際の組織運営における課題を結びつけて考え、理論を用いて実務的な問題解決方法を考えることができる。自らが組織を通じてキャリアを築き産業社会へ貢献することのイメージを描くことができる。

■講義形態

- ・講義のみ
- ・その他(クラスディスカッション)(学外学習無)

■講義の概要

(第1講) イントロダクション

概要： 経営組織論の体系

事前学習しておくべき用語やポイント[マクロ組織論、ミクロ組織論]

詳細： 経営組織とは何かを、様々な組織の定義や組織論に触れながら学ぶ。さらに、ミクロ/マクロの経営組織論の体系を俯瞰し、第2講以降の理解を促進する前提知識を身に付ける。

(第2講) 古典的管理1

概要： 官僚制組織

事前学習しておくべき用語やポイント[官僚制、ウェバー]

詳細： 「官僚制」という言葉は確立した組織の代名詞として使われるが、官僚制の定義と長所短所の学習を通してその意味を再考し、実際の組織運営に対する意義を考える。

(第3講) 古典的管理2

概要： 組織における人間観

事前学習しておくべき用語やポイント[テイラー、メイヨー、人間モデル]

詳細： 科学的管理論と人間関係論を手始めに、組織運営を構造的に重要な要素となる人間観としての経済人モデルと社会人モデルについて考える。

(第4講) 組織行動1

概要： 個人の動機付け

事前学習しておくべき用語やポイント[モチベーション、目標管理]

詳細： 自己実現人モデルも含めた人間観、人の欲求、人が動機付けられる要因について理論的に学び、組織において個人がより高い成果をあげるための施策について考える。

(第5講) 組織行動2

概要： 仕事を通じた個人の生き方

事前学習しておくべき用語やポイント[キャリアアンカー、計画された偶然性]

詳細： キャリアの観点から、人と組織との関わりについて考える。キャリアマネジメントにおける理論と実践事例を概観することで、自己のキャリア設計について考える機会とする。

(第6講) 組織行動3

概要： 組織を導く

事前学習しておくべき用語やポイント[リーダーシップ理論、リーダーシップスタイル]

詳細： リーダーシップ論の歴史や最新動向を学ぶことを通じて、組織のメンバーを動かす力としてのリーダーシップとは何か、その望ましいあり方はどのようなものか、を考え学ぶ。

(第7講) 組織行動4

概要： 組織の中の影響力

事前学習しておくべき用語やポイント[集団力学、影響力の武器]

詳細： 人への影響力の行使要素やグループ・ダイナミックスの働き、組織の意思決定を左右する要因を学び、集団としての組織はどのように働き、動かされるの考える。

(第8講) 近代組織1

概要： 意思決定機関としての組織

事前学習しておくべき用語やポイント[経営者の役割、経営行動、オーガニゼーション]

詳細： パーナード、サイモン、マーチ、サイアードと続く企業行動理論の基本的な考え方を学び、経営の観点から組織の意思決定について考え、実

務への示唆を得る。

(第9講) 近代組織2

概要： 組織と環境の適応

事前学習しておくべき用語やポイント[中観論の理論、条件適合論]

詳細： 組織のコンティンジェンシー理論の概念やオープンシステム観を学び、組織と環境との関わりについて考え、経営組織をとりまく環境を分析することの重要性を知る。

(第10講) 近代組織3

概要： 組織と制度

事前学習しておくべき用語やポイント[経営学における制度]

詳細： 環境変化への積極的対応を促した組織形態についての団体共生学や制度派組織論の概念と事例を学ぶことを通じて、組織における制度の重要性や経営への意義について考える。

(第11講) 近代組織4

概要： 組織の構造と設計

事前学習しておくべき用語やポイント[組織構造、組織設計]

詳細： 職務的選理理論、情報処理モデル、資源依存理論、組織境界理論などを学ぶとともに、具体的事例を通して、組織形態の種類や組織構造を決定する要因について考える。

(第12講) 現代組織1

概要： 組織における文化

事前学習しておくべき用語やポイント[エクスレクティブ・カンパニー、組織風土]

詳細： 1900年代に一世を轟かした企業文化論と以降に続く組織文化論や組織アイデンティティ論、および人的資源管理を中心とした日本の経営論について学び、組織文化について考える。

(第13講) 現代組織2

概要： 組織とネットワーク

事前学習しておくべき用語やポイント[ネットワーク組織、ソーシャルキャピタル]

詳細： 組織構成員の間のネットワークや組織を支配する場の論理、社会関係資本の考え方を学び、組織を動かす非公式に要する働きを理解し、実務への応用について考える。

(第14講) 現代組織3

概要： ベンチャー企業組織

事前学習しておくべき用語やポイント[企業成長、組織における人の流動化]

詳細： アドレブレーションや創業期の組織形成プロセスについて事例紹介を通して学び、動的に変化しつづ成長する存在という観点から組織と経営チームについて考える。

(第15講) ラブアアップ

概要： 経営組織の展望

事前学習しておくべき用語やポイント[組織理論の体系、現代組織]

詳細： これまでの経営組織理論を再整理し、今後の組織のあり方や個人の働き方を展望する。最後に本講座における組織の制度を振り返り、それが実際にどのような役割を果たしているのかを考えると、経営組織についての学習の振り返りを導く。

■教科書

特になし。講義用資料を適宜配布または紹介する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

講義内で適宜紹介する。

■評価方法

出席・授業貢献(50%)、期末定期試験(50%)

■評価基準

相対評価

授業に臨む態度や建設的な意見や質問による調査の品質向上への貢献を評価する。期末試験では、経営組織に関する知識の習得度とともに、経営組織の理論と実際の組織運営における課題を結び付けて実務的な問題解決方法を考えることができるようになっているかを評価する。

■事前履修科目等

経営組織Ⅰを履修していることが望ましいが、必須ではない

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名

経営と意思決定〔Decision Making for Management Sciences〕

担当教員

今泉 忠

■講義目的

経営では、競争があり、そこではさまざまな問題解決のためには戦略的なアプローチが必要である。それは、これらがリスク下での意思決定問題として表現できることからわかる。本講義では、さまざまな状況下で適切に判断できる能力や技法などの意思決定の基礎について合理的な解決に活用する数理解的方法及び統計的方法について実例を交えながら学ぶ。いくつかの課題については、グループ課題として行う。

- 1.意思決定とは
- 2.確実性のもとの意思決定
- 3.不確実性のもとの意思決定
- 4.ベイズ意思決定

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント / 社会人
力育成／ビジネス ICT

■到達目標

意思決定に関して、以下の項目について講義する。1.意思決定とは 2.確実性のもとの意思決定 3.不確実性のもとの意思決定 4.ベイズ意思決定 特に、以下の習得に目標とする。(1)AHP法について理解している (2)Decision Treeについて理解している (3)ベイズ意思決定について理解している

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉 意思決定を考える：何故定量的な意思決定が必要かについて講義する

事前学習しておくべき用語または学習のポイント：意思決定の必要性の認識
社会や企業の活動では、絶えず意思決定が必要である。この意思決定の枠組について講義する。

〈第2講〉 確実性のもとの意思決定

事前学習しておくべき用語または学習のポイント：定量と定性
意思決定基準には定量的な評価と定量的な評価があるが、この違いについて講義を行う。

〈第3講〉 確実性のもとの意思決定 機会費用とサンクコスト

事前学習しておくべき用語または学習のポイント：ミクロ経済学での費用の考え方
経済学で扱った機会費用とサンクコストについて復習する。これらはしばしば見過こされているが、意思決定を行う場合には重要な概念である。

〈第4講〉 確実性のもとの意思決定 代替案の選択！選択基準

事前学習しておくべき用語または学習のポイント：選択基準の種類
意思決定のプロセスは、いくつかのステップにより表現することができる。
それは、(0)目標の設定、(1)選択基準の設定、(2)解決案の候補の設定、(3)実施案の決定である。これについて講義をする

〈第5講〉 確実性のもとの意思決定 演習

事前学習しておくべき用語または学習のポイント：平均と標準偏差
データをもとにして定量的な意思決定を行う場合について平均と標準偏差の活用について学ぶ。特に、平均をリターン、標準偏差をリスクと定義して、これを用いて意思決定について学ぶ。
EXCELなどの表計算ソフトを用いる。

〈第6講〉 選択基準（効用を評価する）

事前学習しておくべき用語または学習のポイント：ラブラス基準、マクシミン基準
定量的意思決定では、活用できるデータが同じでも、どのような選択基準を用いるかで、実施案の選択が異なる。これらについて学ぶ。

〈第7講〉 選択基準 期待値

事前学習しておくべき用語または学習のポイント：ラブラス基準、マクシミン基準、ミニマックス基準
期待値を用いた場合の選択基準について講義する。

〈第8講〉ゲーム理論入門

第6講で学んだ選択基準を用いて演習を行うことにより選択基準による実施案の選いを習得する。
義を行う

〈第9講〉 多属性意思決定 AHP

事前学習しておくべき用語または学習のポイント：AHP、多属性意思決定でのモデル化、一対比較
現実の問題を階層構造の問題として表現し、その解決を図るAHPについて講義する。

AHPでは階層の各段階で一対比較行列をそれぞれとして、選択案を評価する。これについて講義する。

〈第10講〉 多属性意思決定 AHP演習

事前学習しておくべき用語または学習のポイント：AHP、一対比較、行列の演算

学習したAHPについて演習を通じて理解を深める。

EXCELなどの表計算ソフトやCAS(Computer algebra system)を用いての環境を用意すること。

〈第11講〉 不確実性のもとの意思決定 ティンジョンツリー

事前学習しておくべき用語または学習のポイント：分岐型の意思決定

意思決定において、分岐型の意思決定を行う場合に必要となるティンジョンツリー(決定木)の基礎について学ぶ

〈第11講〉 不確実性のもとの意思決定 ティンジョンツリーⅡ

事前学習しておくべき用語または学習のポイント：ティンジョンツリーでの意思決定の評価

不確実性がある場合の分岐型意思決定について講義する

〈第12講〉 ベイズ統計入門 Ⅰ

事前学習しておくべき用語または学習のポイント：条件付き確率、事前確率と事後確率

不確実性がある場合には、ベイズ統計が用いられる。この枠組みについて講義する。

また、事前確率と事後確率の枠組みについても学ぶ

〈第13講〉 ティンジョンツリーとベイズ意思決定Ⅰ

事前学習しておくべき用語または学習のポイント：ティンジョンツリーでの期待値の計算

以前学習したティンジョンツリーをベイズ意思決定の観点から学ぶ

〈第14講〉 ティンジョンツリーとベイズ意思決定Ⅱ

事前学習しておくべき用語または学習のポイント：ティンジョンツリーでの期待値の計算、リアルオプション
ティンジョンツリーをベイズ意思決定の観点から捉え直す。特に、未来でのシナリオを想定した評価法について学ぶ。

〈第15講〉 まとめ

事前学習しておくべき用語または学習のポイント：ティンジョンツリーやベイズ意思決定
ティンジョンツリーやベイズ意思決定についてまとめる

■教科書

テキストを公開する

■指定図書

福澤英弘 定量分析 実践講座 ファーストプレス
松原望 「統計の考え方」(改訂版) 放送大学教材

■参考文献

繁樹算男 「意思決定の認知統計学」 朝倉書店(1995)
多田洋介 「行動経済学入門」 日本経済新聞社(2003)

■参考URL

<http://stat.tama.ac.jp:8080>

■評価方法

評価は、講義中の小テスト(50%)、レポート(40%)、出席(10%)により行う。

講義中の小テストは、次の3点を中心に評価する。

- (1) 統計モデルを想定しているか。
 - (2) モデルを検討するに必要な前提を考慮しているか。
 - (3) 確率を評価して判断できるか。
- レポートは次の3点から評価する。
- (1) 分布の設定が出来ているか。
 - (2) 数式モデルとして表現されているか。
 - (3) 検討が統計的に正しく行われているか。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

統計学Ⅰ、Ⅱ

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

PCなどを用いているので、PCを活用できることが必要である。

科目名 経済統計学(Economic Statistics)

担当教員 下井 直毅

■講義目的

産業社会を分析する上では多種多様な問題が提起される。経済成長の見通しはどうなのか、中高年層の雇用の予想はどうなのか、為替相場の動向はどう予想されるのか、等々である。こうした問題について経済理論はもちろん必要だが、経済統計データもあわせてみる必要がある。この講義では、日本経済の現状および日本経済が抱える課題について学び、最前線事例を紹介しつつ、その際に必要なデータについての基礎知識を身につけることを目的としている。

■講義分類

ビジネス環境理解／グローバルビジネス

■到達目標

日本経済の現状と課題についての基本的な知識や経済データに関する必要な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義のみ[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉日本経済の全体像

概要：日本経済の全体像を把握する

事前学習しておくべき用語やポイント[GDP、経済成長]

詳細：日本経済の姿はどのようなものなのかを学ぶ

〈第2講〉戦後日本の経済成長

概要：戦後日本の経済成長の推移を理解する

事前学習しておくべき用語やポイント[経済成長、需要、供給]

詳細：戦後の高度成長の著しい伸びの背景には何があったのかを学ぶ

〈第3講〉景気循環の姿とそのとらえ方

概要：景気循環について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント[景気循環、先行指数、一致指数、遅行指数]

詳細：景気はなぜ変動するのか、そのメカニズムを学ぶ

〈第4講〉ストックから見た日本経済

概要：ストック面から日本経済を概観する

事前学習しておくべき用語やポイント[資産、実物資産、金融資産]

詳細：日本の資産の現状はどのようなものなのかを学ぶ

〈第5講〉雇用の変動と日本型雇用慣行の行方

概要：雇用環境について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント[完全失業率、有効求人倍率、終身雇用制度、年功賃金制度]

詳細：日本の雇用構造はどのような姿なのかを学ぶ

〈第6講〉企業行動と日本型企業経営の行方

概要：日本の企業行動について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント[合意の誤謬、パブル、日本型企業経営]

詳細：従来型の日本経営とはどのようなものだったのか、日本型経営が向かう方向はどのようなものかを学ぶ

〈第7講〉産業構造の変化と将来のリーディング産業

概要：産業構造の変化や将来のリーディング産業について考える

事前学習しておくべき用語やポイント[アジア、グローバル、サービス化]

詳細：日本の産業構造変化の背景は何だったのか、リーディング産業はどのようなものかについて考える

〈第8講〉物価の変動とデフレ問題

概要：物価の変動とデフレの問題について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント[消費者物価指数、インフレ、デフレ]

詳細：物価変動の要因やデフレの背景は何かを学ぶ

〈第9講〉円レートの変動と日本経済

概要：為替相場の変動や日本経済に及ぼす影響について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント[為替レート、交易条件、1カブ]

詳細：円レートはなぜ変動するのか、日本経済に及ぼす影響はどのようなものかを学ぶ

〈第10講〉貿易と国際収支の姿

概要：貿易と国際収支の姿を概観する

事前学習しておくべき用語やポイント[比較優位、経常収支]

詳細：日本の貿易構造の変化はどのようなものかを学ぶ

〈第11講〉直接投資と空洞化をめぐる議論

概要：直接投資と空洞化をめぐる議論を概観する

事前学習しておくべき用語やポイント[対外直接投資、対内直接投資、空洞化]

詳細：日本の対外直接投資の動きはどのようなものか、空洞化論で注意すべき点は何かを学ぶ

〈第12講〉財政をめぐる諸問題

概要：財政をめぐる諸問題について考える

事前学習しておくべき用語やポイント[クラウディング・アウト、リカードの等価定理、プライマリー・バランス]

詳細：日本の財政の再建はできるのかを考える

〈第13講〉経済再生の鍵を握る金融

概要：経済再生の鍵を握る金融について考える

事前学習しておくべき用語やポイント[安全資産、危険資産、金融政策、間接金融、直接金融]

詳細：日本の金融の長期的課題は何かを考える

〈第14講〉講義前半の復習

概要：講義前半の復習

事前学習しておくべき用語やポイント[経済成長、景気循環、雇用]

詳細：全体を通じて日本経済に対する理解が深まったかどうか振り返る

〈第15講〉講義後半の復習

概要：講義後半の復習

事前学習しておくべき用語やポイント[産業構造、デフレ、為替相場、国際収支]

詳細：全体を通じて日本経済に対する理解が深まったかどうか振り返る

■教科書

小峰隆夫『最新 日本経済入門』日本評論社(2008年)

■参考文献

小峰隆夫他『データで斬る 世界不況 エコノミストが挑む30問』日経BP社(2009年)

小峰隆夫『政権交代の経済学』日経BP社(2010年)

■評価方法

期末テスト(70%)、出席(20%)、宿題(10%)

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

2010年度以前の入学生は、「経済学基礎」の単位修得者に限り、また2011年度以降の入学生は、「産業社会論入門(経済)」の単位修得者に限り、履修登録ができる。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

科目名 原価分析〔Management Accounting〕

担当教員 山原 克明

■講義目的

管理会計は、事前的に組織の経済的意思決定の判断材料となる有用な情報を提供するとともに、事後的に組織の業績を内部的に評価するために有用な原価情報を解析・提供するものである。現代の管理会計において重要となっているのは、判断材料となる有用な経営情報の提供であるが、組織の業績を内部的に評価するための有用な原価情報の解析・提供はその基礎となる。この講義では、まず管理会計の学習の前提として、伝統的な原価計算の基礎概念やプロセスを理解する。次に、有用な経営情報の解析力を身に付けるという観点から、経営戦略・マーケティングなどのかかわりを考察しながら、管理手法としての役割や原価情報の分析を理解していく。

■講義分類

顧客理解/ビジネス創造/ビジネスマネジメント/社会人育成/グローバルビジネス

■到達目標

コストの計算と分析について、経営情報(経営戦略・マーケティングなど)との関連を考察しながら、原価計算の基本から管理会計の入り口にあたる知識の習得までをめざす。

■講義形態

講義のみ〔学外学習 無〕

■講義の概要

講義では、まず伝統的な原価計算の基礎概念や計算プロセスを理解する。次に、有用な経営情報の解析力を身に付けるために、経営戦略、マーケティングなどのかかわりを考察しながら、原価情報の計算・分析や解析手法を理解していく。計算プロセスと計算・分析手法については、講義中に演習(専門用語や計算等の問題)を組み合わせて進め、その裏付けとなっているコスト・マネジメントのロジックを積み重ねるように学習を進める必要がある。講義では、要点を示しながら進め、資料として内容に関する『原価分析研究ノート』(講義用冊子)やプリント教材を配布する。また、講義ごとに出席カードを兼ねた小テストを実施するとともに、必要な時に中間テストを行って理解度を確認しながら進める。

〔第1講〕原価分析の全体像

- ・適正な原価と利益を分析してみよう。
- ・企業活動で管理会計はどのような位置を占め、なぜそういった情報が重要なのか。
- ・どのように原価を分類し、特有の専門用語はどのように使われるのか。
- ・原価はどのように計算し、その目的は何か。

<予習・復習ポイント>

原価分析の全体像を理解し、ロジックをはっきり把握して計算・分析できたか。

〔第2講～第3講〕費目別計算

- ・原価計算で使われるキーとなるタームを記憶できたか。
- ・材料費・労務費・経費の計算と、費目を区分するロジックを把握できたか。
- ・製造間接費の計算とは、どのようなコストとしての特性を持っているのか。

<予習・復習ポイント>

費目別計算について理解し、計算・分析できたか。

〔第4講〕部門別計算

- ・部門別計算とその目的は何か。
- ・原価部門(原価発生場所別区分)の分類・集計はなぜ必要なのか。
- ・部門別の計算には、どのような方法があり、どのような計算の考え方があるのか。

<予習・復習ポイント>

部門別計算について理解し、計算・分析できたか。

〔第5講〕製品別計算

- ・個別原価計算とは、どのようなコスト集計方法で、その特徴はどこにあるのか。
- ・適用される生産スタイルは何か。

<予習・復習ポイント>

製品別計算について理解し、計算・分析できたか。

〔第6講～第8講〕総合原価計算・基礎から応用へ

- ・総合原価計算とは、どのようなコスト集計方法で、その特徴はどこにあるのか。
- ・適用される生産スタイルは何か?
- ・単純総合原価計算の基本的な計算方法とそのロジックを理解できたか。

- ・工程別・組別・等級別の原価計算の計算方法を理解できたか。
- ・仕損品・減損の取り扱いについて、基礎的な知識を応用できたか。

<予習・復習ポイント>

総合原価計算について理解し、計算・分析できたか。

〔第9講～第11講〕標準原価計算・基礎と応用

- ・標準原価計算の目的と予算制度との関連とどのようなものか。
- ・標準原価の種類と運用手順を理解できたか。
- ・直接材料費・直接労務費と差異分析プロセスを計算手法と結び付けられたか。
- ・製造間接費と差異分析プロセスを計算手法と結び付けられたか。
- ・各差異の発生原因を理解し、正確な専門用語を使用できたか。

<予習・復習ポイント>

標準原価計算の基礎的な手法を理解し、具体的に計算・分析できたか。

〔第12講～第14講〕原価計算から原価管理へ

- ・原価管理活動の重点移行を理解できたか。
- ・原価管理(Cost Management)とは何か。
- ・伝統的な原価計算と直接原価計算、ABC(Activity-Based Costing:活動基準原価計算)原価企画の意義、目的、構造を知識として身に付けられたか。

<予習・復習ポイント>

直接原価計算、原価企画、ABCについて理解し、具体的に計算・分析できたか。

〔第15講〕原価計算の総括と総合演習

■教科書

山原克明編『原価分析研究ノート』 講義の要点を整理した講義用テキスト(冊子)

小林健吾著『新訂版 原価計算総論』 創成社

■指定図書

[1] 小林啓孝著『現代原価計算講義』

中央経済社

[2] 青木雅明著『管理会計』

同文館出版

その他、講義のなかで指示する。

■参考文献

[1] 田中隆雄・小林啓孝編『原価企画戦略』 中央経済社

[2] 清水孝著『戦略管理会計』 中央経済社

[3] 金子智朗著『SEの会計知識』

日経BP社 その他、講義のなかで指示する。

■評価方法

期末試験(60%)、小テスト・課題(10%)、出席(30%)

■評価基準

相対評価

・期末試験 ・専門の用語、基本的な原価の算出プロセスを正確に理解しているか。

・正確に計算、分析する知識が身に付いているか。

・原価分析の意義やロジックを理解して、適切に処理ができるか。

・小テスト ・毎時間の講義の要点をよく理解しているか。(小テストと合わせて出席を取る。)

・課題 ・課題の着眼点を正確に把握し、適切な結果が示されているか。

・簡潔な表現で要点が論述されているか。(課題などは、期日を厳守して提出する)

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

実施する

科目名

現代環境経済論Ⅰ(Trends of the Environmental Economy Ⅰ)

担当教員

菅野 光公

■講義目的

地球環境の現状と課題を学ぶ。地球温暖化・エネルギー利用・原発問題を講義対象とするが、歴史的背景理解のために、日本の公害史や企業の社会的責任についても考察する。解決策のひとつとしての「エネルギー利用・エネルギー政策」について、大学生向け基礎知識を講義する。授業展開や受講生の意欲に合わせて、グループワーク・ティベート・パネルディスカッション・専門家講演等を導入することもある。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

社会の知的セクター予備校としての「大学生」に不可欠な、基礎知識・視野・教養を身に付け、社会生活で直面する課題に立ち向かう力を醸成する。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉

概要：オリエンテーション、教員自己紹介、問題意識の共有

事前学習しておくべき用語やポイント[地球温暖化]

詳細：地球温暖化について、地球46億年の歴史と温度変化等の基礎知識を説明する。

〈第2講〉

概要：欧米諸国環境税の現状

事前学習しておくべき用語やポイント[環境税]

詳細：欧米諸国環境税の現状を解説し、受講生の認識を把握するために、「環境税」アンケートを実施する。

〈第3講〉

概要：発電用エネルギー比較

事前学習しておくべき用語やポイント[発電用エネルギー]

詳細：「発電用エネルギー評価シート」第1回目の記入をさせる。

〈第4講〉

概要：地球温暖化のメカニズム

事前学習しておくべき用語やポイント[大気とCO₂]

詳細：なぜ 地球温暖化というのか。そのメカニズムと言葉づかいの背景を解説。

〈第5講〉

概要：(続)地球温暖化のメカニズム

事前学習しておくべき用語やポイント[地表温度]

詳細：なぜ地球だけが動植物の生育に適しているのか？ 金星や火星と地球を比較する。

〈第6講〉

概要：京都議定書解説

事前学習しておくべき用語やポイント[COP3]

詳細：COP3 COP15 COP17 等の国際会議における議論の変遷と、今日の課題を考える。

〈第7講〉

概要：各エネルギーの長所・短所

事前学習しておくべき用語やポイント[再生可能エネルギー 原発]

詳細：化石燃料・自然エネルギー・原子力の長所と短所とを理解する

〈第8講〉

概要：エネルギーコスト

事前学習しておくべき用語やポイント[エネルギーコスト]

詳細：化石燃料・自然エネルギー・原子力のコストについて、先行研究を紹介する。

原子力発電のコストに関しては諸説があることを解説し、学生自身に考えさせる。

〈第9講〉

概要：石油危機の歴史と教訓

事前学習しておくべき用語やポイント[石油危機]

詳細：石油危機の定義。石油危機から人類が学んだこと

〈第10講〉

概要：持続可能ライフスタイルを考える

事前学習しておくべき用語やポイント[ライフスタイル]

詳細：持続可能型ライフスタイルとは何か。どのように実行するのか？

〈第11講〉

概要：原発事故と企業の社会的責任

事前学習しておくべき用語やポイント[福島第1原発事故]

詳細：福島第1原発事故の概要と放射能汚染

〈第12講〉

概要：原発事故から学ぶべき教訓

事前学習しておくべき用語やポイント[福島第1原発事故のその後について]

詳細：地球規模で原発を考える

〈第13講〉

概要：日本の経済発展と公害の歴史

事前学習しておくべき用語やポイント[公害と企業の社会的責任]

詳細：足尾銅毒事件、水俣病、四日市公害等日本の代表的公害事件を学ぶ

〈第14講〉

概要：日本の将来構想と新エネルギー開発・エネルギー自給

事前学習しておくべき用語やポイント[エネルギー政策]

詳細：第1講～第13講 総括、受講による成長を確認。

〈第15講〉

テスト実施

■教科書

なし

■指定図書

「地球温暖化 ほほすべての質問に答えます」明日香壽川
(岩波ブックレット)

■参考文献

「地球温暖化防止とエネルギー選択」 菅野光公(論文)

「環境税の理論と国際的動向」 菅野光公(論文)

「日本のエネルギー政策検証」 菅野光公(論文)

「地方自治体のエネルギー政策立案と地元大学の役割」 菅野光公(論文)

「アロマテラピーの風、朝日新聞社

その他原発事故関連図書

その他授業の中で随時紹介する。

「授業用プリント」を、毎回配布する。

■評価方法

期末試験をベースに、レポート・授業参加意欲・授業中の発言や質問を加味する。

受講生の意欲や出席状況を見ながら、追加評価項目を検討する。

■評価基準

絶対評価

授業中に説明する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

新聞を毎日読むこと。テレビのニュース番組を毎日視聴すること。

「地球温暖化」「福島原発事故」に関連する記事は熟読して、スクリップを作ること。

科目名 現代環境経済論Ⅱ(Trends of the Environmental Economy Ⅱ)

担当教員 菅野 光公

■講義目的

地球温暖化の現状を学び、もはやそれは「地球過熱化」と呼ぶべき危機的状態にあることを認識する。春学期の「現代環境経済論Ⅰ」を入門編とすれば、「Ⅱ」では専門性を深めて、地球物理学的アプローチや、対立する学説紹介なども解説する。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

社会的知的セクター予備役としての“大学生”に不可欠な、基礎知識・視野・教養を身につけ、社会生活で直面する課題に立ち向かう力を醸成する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR[学外学習無]

■講義の概要

(第1講)

概要：オリエンテーション、地球温暖化と福島原発事故

事前学習しておくべき用語やポイント[福島原発事故]

詳細：2011年3月11日の福島原発事故をめぐる、世界と日本国内との世論変遷について考える。

(第2講)

概要：原発のコスト・CO2排出・廃棄物処理

事前学習しておくべき用語やポイント[原発のコスト]

詳細：原発のコスト・CO2排出・廃棄物処理について、事実とデータに基づき科学的に考察する。

(第3講)

概要：3つのE

事前学習しておくべき用語やポイント[福島原発事故]

詳細：地球温暖化防止・経済発展・エネルギー需給を総合的に考える。

(第4講)

概要：環境・エネルギー問題と思想・哲学

事前学習しておくべき用語やポイント[サステナビリティ]

詳細：思想・哲学的アプローチから、経済発展と人間の幸福、資本主義社会の発展と問題点を考える。

(第5講)

概要：地球46億年の歴史

事前学習しておくべき用語やポイント[地球史]

詳細：地球物理学の観点から考えた地球温暖化

(第6講)

概要：人間の誕生と地球の変化

事前学習しておくべき用語やポイント[人類史]

詳細：地球物理学の観点と人類史から考えた地球温暖化

(第7講)

概要：産業革命と地球温暖化・過熱化

事前学習しておくべき用語やポイント[産業革命]

詳細：環境経済学の観点から考えた地球温暖化

(第8講)

概要：宇宙物理学的アプローチによる地球過熱化原論

事前学習しておくべき用語やポイント[宇宙]

詳細：地球物理学の観点から考えた地球温暖化、環境経済学の観点から考えた地球温暖化。問題の限定や定義、考察の前提・時間軸の設定などについて解説する。

(第9講)

概要：(続)宇宙物理学的アプローチによる地球過熱化原論

事前学習しておくべき用語やポイント[定義の大切さ]

詳細：

〃

(第10講)

概要：社会システム(体制)の変遷と経済発展

事前学習しておくべき用語やポイント[資本主義]

詳細：経済史学概観

(第11講)

概要：エネルギーと文明

事前学習しておくべき用語やポイント[文明]

詳細：文明論概観

(第12講)

概要：国際石油会社(メジャーズ)の変遷と世界石油市場

事前学習しておくべき用語やポイント[石油危機]

詳細：国際石油会社(メジャーズ)の経営・M&A変遷

(第13講)

概要：石油輸出国機構(OPEC)の台頭と石油価格のメカニズム

事前学習しておくべき用語やポイント[資源ナショナリズム]

詳細：産油国の台頭による、石油価格決定者の変遷

(第14講)

概要：アメリカ・ロシア・欧州のエネルギー政策検証

事前学習しておくべき用語やポイント[エネルギー政策]

詳細：グリーン・ニューディール政策、原子力政策、石油政策

(第15講) まとめ、テスト

■教科書

なし

■指定図書

「グリーン・ニューディール」 寺島実郎、飯田哲也(NHK出版)

「オバマのグリーン・ニューディール」 山家公雄(日本経済新聞出版社)

「プランB」 レスター・ブラウン (ワルドウォッチャー)

■参考文献

「地球温暖化防止とエネルギー選択」 菅野光公(論文)

「環境税の理論と国際的動向」 菅野光公(論文)

「日本のエネルギー政策検証」 菅野光公(論文)

「地方自治体のエネルギー政策立案と地元大学の役割」 菅野光公(論文)その他授業の中で随時紹介する。「授業用プリント」を、毎回配布する。

■評価方法

期末試験をベースに、レポート・授業参加意欲・授業中の発言や質問を加味する。

受講生の意欲や出席状況を見ながら、追加評価項目を検討するが、その具体的な内容については授業中に説明する。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

「現代環境経済論Ⅰ」を履修していることが望ましい

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

予備学習のポイント

新聞を毎日読むこと。テレビのニュース番組を毎日視聴すること。

「地球温暖化」「原発事故」「エネルギー政策」に関連する記事は熟読して、スクラップをすること。

科目名

現代中国入門〔Collaboration of modern China forum〕

担当教員

安田 峰俊

■講義目的

隣国・中国は日本にとって最大の貿易相手国であり、政治・経済・文化・人の交流の各方面において日本と密接な関係があります。中国ビジネスへの従事はもちろん、職場や取引先などで中国人と仕事をともにする機会は、みなさん多くが将来的に体験するのではないのでしょうか。本講義は、政治・歴史・文化の各分野について現代中国の「いま」を紹介した上で、日本人の中国観、中国人の日本観を整理し、両国間における相互認識のギャップを描き出すことを目標としています。みなさんの中国への関心を喚起し、隣国への客観的な理解を深め、将来のビジネスシーンに役立つ基礎教養を身につけていただくことを目的にしています。

内容は、別講義「現代中国論」の基礎・入門編と考えてください。

■講義分類

ビジネス環境理解／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

現代中国についての客観的理解を深め、日本人が陥りがちな隣国への固定観念を克服し、将来的にビジネスシーンで中国に触れる際に役立つ基礎教養を体得する。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉

オリエンテーション&「中国とは何か」

概要:「おいしい中国料理」「現代中国入門」「中国との領土紛争」……、こうした様々な文脈で使われる「中国」という言葉は、果たして何を指す概念なのでしょう。講義の前に、まずは「中国」という枠組みについて知ることになります。

加えて、北京・上海・香港・台湾といった地名／地理的背景についても説明します。

〈第2講〉

「中国はなぜ、現在の『中国』になったのか その1」 現代中国史1

概要:1949年に建国され、いまや世界2位のGDPを誇る大国にのし上がった中華人民共和国。しかし、中国はわずか30年ほど前までは硬直的な社会主義計画経済が敷かれる貧しい国でした。彼らはなぜ、現在のようないま大国になったのか、1940年代の抗日戦争～1976年の文革終了までの経緯を概観します。

〈第3講〉

「中国はなぜ、現在の『中国』になったのか その2」 現代中国史2

概要:1970年代末の改革開放政策、天安門事件、江沢民・胡錦濤時代の中国を概観します。

〈第4講〉

「中国の政治はどうなっているのか ～いちばんえらい人は誰なのか～」 現代中国政治概説

※第4講から先は、順番が前後するかもしれません。

〈第5講〉

「中国の経済はどうなっているのか ～今後も経済大国であらう続けるか～」 現代中国経済概説

〈第6講〉

「中国の社会はどうなっているのか ～格差と“それを気にしない人々”～」 現代中国社会概説

〈第7講〉

「中国の外交はどうなっているのか ～敵の敵は味方～」 現代中国外交概説

〈第8講〉

「日中関係はどうなっているのか ～仲がいい時代もあった?～」 日中関係史

〈第9講〉

「中国の軍事はどうなっているのか ～人民解放軍は統制がとれているのか～」 現代中国軍事概説

〈第10講〉

「中国社会の裏側はどうなっているのか ～宗族・方言・民間信仰・少数民族文化圏～」 中国文化概説

〈第11講〉

「台湾と香港とはどんな場所か ～もうひとつの中国の姿～」 台湾・香港・華僑概説

〈第12講〉

「となりの中国人 ～在日華人の世界～」 在日華人概説

〈第13講〉

「現代中国におけるインターネットとメディア」 現代中国メディア概説

〈第14講〉

「中国の“民主化”とインターネット ～現代中国民主化の限界～」

〈第15講〉

「中国社会とはどうなっているのか」

■参考文献

安田峰俊『中国・電脳大国の嘘』（文藝春秋）

高井潔司、藤野彰、曽根康雄、遊川和郎、石井利尚『現代中国を知るための40章』（明石書店）

曾士才、瀬川昌久、西沢治彦『中国（暮らしがわかるアジア読本）』（河出書房新社）

毛里和子、園田茂人『中国問題:キーワードで読み解く』（東京大学出版会）

波多野淳彦『中国経済の基礎知識 改訂新版』（ジェトロ）

■評価方法

出席 30%

中間レポート 30%

期末レポート 40%

※出席…講義のうちで講師が任意で選んだ3～4回（どの講義が該当するかは明言しません）の出席率。就活などで忙しい学生は別途レポートの際などに報告すること。

■評価基準

絶対評価

A+ : 合計86点以上

A : 合計76～85点

B : 合計66～75点

C : 合計56～66点

F : 55点以下

科目名 現代中国論Ⅰ(Modern China forumⅠ)

担当教員 バートル

■講義目的

時代は今、何れも重要視される国際情勢となっており、膨大な情報の中から要約情報を抽出して分析し、未来を予測していくことが求められている。本講義では、世界経済の急激な変化と、国際化の加速がもたらしている変化を中心に、大中華（中国・台湾・香港・シンガポール）を比較かつ同時に論じて理解するための基礎知識の構築と、政治・経済の動向を把握し、発展性、可能性、産業社会がもたらす発展能力と国際競争力の高まりをエッセンス的に把握し人材育成に必要とされている素養を身に付け、社会が求めている人材に育てられるようになることにある。

■講義分類

顧客理解/ビジネス環境理解/ビジネス創造/ビジネスマネジメント/社会力育成/グローバルビジネス/地域ビジネス

■到達目標

①中国経済と中国（大中華圏を含む）ビジネスに関する基礎的な知識の修得を目指す。②中国経済（大中華圏を含む）の現状と課題を分析し、日本企業の新たな経営戦略・ビジネスモデルの立案のほか、中国間の協力の可能性について考える。

■講義形態

講義のみ【学外学習無】

■講義の概要

【第1講】中国とは何か 概要：中国の一般事情

事前学習しておくべき用語やポイント【中華人民共和国に関する情報を図書館・本屋や新聞・ネットで探す】

詳細：中国に関する基礎データ等を用いて、その政治、経済、社会構造など一般概観について解説し、中国の講義を受講する前の基本的な知識を授ける。

【第2講】今、なぜ中国なのか？ 概要：「世界の工場」と「世界市場」の両方の視点から「中国像」を提示する。

事前学習しておくべき用語やポイント【日本の貿易構造の変化、CHINA S&N】

詳細：具体的データを用いて世界経済における中国のプレゼンスの拡大の現状を解説する。とりわけ、日本の貿易構造の変化と日本企業の中投資の現状を踏まえ、日本にとっての中国の重要性を解説する。

【第3講】計画経済の崩壊と破壊（1949-1978） 概要：毛沢東の時代における中国の政治、経済、社会情勢

事前学習しておくべき用語やポイント【毛沢東・計画経済】

詳細：1949年の中華人民共和国樹立から改革開放政策の実施（1978年）に至る中国の歴史を振り返り、毛沢東時代計画経済の崩壊と破壊に向けた道を解説する。

【第4講】現代中国の再出発 鄧小平の改革・開放（1978-現在）

概要：近世30年間の改革開放政策の成果と課題

事前学習しておくべき用語やポイント【改革開放政策】

詳細：1978年から実施された改革開放政策が中国に何を果たしたのか、具体的事象とデータを用いて「成果」と「課題」の二つについて解説する。

【第5講】高度成長の「光」と「影」①-エネルギー、環境問題を中心に

概要：中国のエネルギー供給と環境問題の現状及び今後の見通し。

事前学習しておくべき用語やポイント【中国のエネルギー構造】

詳細：具体的データを用いて、エネルギーの供給状況とエネルギー資源の確保へ向けて中国の取り組みを解説する。また、中国の各種環境問題の現状を具体的データと事例を用いて解説し、問題解決のために中国が政府が如何なる政策を講じているのか、その全体の状況を把握する。

【第6講】高度成長の「光」と「影」②-食料問題を中心に

概要：中国の食料供給状況と今後の見通し。

事前学習しておくべき用語やポイント【三大穀物、食料自給率】

詳細：中国の食料供給の現状を踏まえ、中国人のライフスタイルや生活の変化に伴い、今後食料供給状況にもたらす影響について解説する。

【第7講】高度成長の「光」と「影」③-格差問題を中心に

概要：中国の格差問題の現状と対策

事前学習しておくべき用語やポイント【中国の格差問題】

詳細：格差問題の内幕、問題の背景、中国政府が講じる対策など各側面から解説する。

【第8講】高度成長の「光」と「影」④-人口問題を中心に

概要：中国の人口構造の現状と今後の見通し。

事前学習しておくべき用語やポイント【一人っ子政策、高齢化社会、高齢社会、超高齢社会】

詳細：具体的データを用いて中国の人口構造の現状と今後の見通しを解説する。

【第9講】高度成長の「光」と「影」⑤-農民工問題を中心に

概要：「農民工」の現状と

事前学習しておくべき用語やポイント【新世代農民工・戸籍制度】

詳細：中国の労働力分業「農民工」の現状と労働市場の陥穽要因となる戸籍制度の弊害を解説する。

【第10講】高度成長の「光」と「影」⑥-民族問題を中心に

概要：民族問題の歴史的背景と現状

事前学習しておくべき用語やポイント【中国の少数民族】

詳細：中国で存在する民族問題の歴史的背景を踏まえ、具体的な事例を挙げてその現状と問題解決のための中国政府の取り組みを解説する。

【第11講】高度成長の「光」と「影」⑦-中国共産党の一元支配体制を中心に

概要：中国の政治体制と中国共産党

事前学習しておくべき用語やポイント【中国共産党第18回全国代表大会】

詳細：中国共産党による一元支配体制の現状と課題に加え、中国ビジネスの政治的リスクについて解説する。

【第12講】大中華圏①-台湾編

概要：台湾の歴史、文化、経済状況

事前学習しておくべき用語やポイント【中華民国、台湾】

詳細：大中華圏の一角をなす台湾の一般概況に加え、中台、台台関係の現状と今後の展望について解説する。

【第13講】大中華圏②-香港編

概要：香港の歴史、文化、華人財閥

事前学習しておくべき用語やポイント【香港、華僑、華人財閥】

詳細：大中華圏の一角をなす香港の一般概況に加え、中国やアジア経済における香港の役割について解説する。

【第14講】大中華圏③-シンガポール編

概要：シンガポールの歴史、文化、経済状況

事前学習しておくべき用語やポイント【シンガポール、華僑】

詳細：大中華圏の一角をなすシンガポールの一般概況に加え、中国やアジア経済におけるシンガポールの役割について解説する。

【第15講】まとめと総括：専断的講義内容の総まとめ

事前学習しておくべき用語やポイント【第12次五カ年計画、経済構造の転換、投資輸出主導から内需主導】

詳細：最新のデータ等を用いて定元の中国経済の現状と見通しについて解説する。

■教科書

なし

■指定図書

随時紹介・推薦する。

■参考文献

関志雄『チャイナ・アズ・ナンバワン』（東洋経済新聞社、2009年）

寺島実郎『世界を知る力』（PHP新書、2010年）

寺島実郎『世界を知る力 日本創生編』（PHP新書、2011年）

寺島実郎『大中華圏』（NHK出版、2012年）

真家陽一『中国経済の実像とゆくえ』（ジェトロ、2012年）

三井物産戦略研究所『アジアを見る眼』（共同通信社、2012年）

■評価方法

評価は、出席（30%）、毎回提出の講義メモ（30%）、最終レポート（30%）、質問・意見（10%）により行う。

■評価基準

相対評価 出席と毎回提出する講義メモを重視（30%+30%＝60%）する。レポート（30%）は、A4用紙2枚以上。質問意見（10%）は、講義への積極的な参加・貢献として評価し、発言回数に基づいて1%～10%の評価を加える。講義メモは、講義内容を理解し、かつ独自の問題意識を持ち、問題解決へ向けての取り組み姿勢が顕著に表れているのかを重視する。採点後、最後に返却する。尚、評価点100%（出席30%+講義メモ30%+レポート30%+質問意見10%）のうち60%未満は、不合格とする。

■事前履修科目等

特に指定しない

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

以下の情報に関する情報を参照すること。日本経済新聞P: <http://www.nikkei.com/pd/gdp/bsa/ch/index.html> 日本貿易振興機構P: <http://wwwJETRO.com/worldsize.html> 日経財務情報P: <http://www.csis.jp/press/info/> 日本銀行P: <http://www.boj.or.jp/graphics/index.html>

科目名

現代中国論Ⅱ(Modern China forum Ⅱ)

担当教員

バートル

■講義目的

時代は、「知」が重要視される知識情報社会となっており、膨大な情報の中から必要な情報を抽出して分析し、未来を洞察していくことが求められている。本講義では、「現代中国論Ⅰ」に続き、世界経済の牽引役として、国際的プレゼンスの高まりを見ている中国を立体的かつ複眼的な視点で理解するための基礎的な知識の修得と世界経済の潮流を「読む」力の養成を目指す。受講生は、産業社会が求める問題発見能力と問題解決能力及び高度なコミュニケーション能力を備えた人材像を念頭に置きながら受講すると共に、本講義を通じて修得した知識を自分の将来に向けて活用できるようにすることは必須である。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人育成／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

- ① 中国経済と中国ビジネスに関する基礎的な知識の修得を目指す。
- ② 中国の地域開発の現状と中国企業の経営戦略の特徴及び中国の外交戦略を分析し、日本企業の新たな経営戦略・ビジネスモデルの立案のほか、日中間の協力の可能性について考える。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉中国の地域開発戦略(1) 概要：「西部大開発」戦略

事前学習しておくべき用語やポイント〔西部大開発〕

詳細：中国の「西部大開発」戦略の概要とその成果、課題を解説する。

〈第2講〉中国の地域開発戦略(2) 概要：「中部振起」戦略

事前学習しておくべき用語やポイント〔中部振起〕

詳細：「中部振起」戦略の概要とその成果、課題を解説する。

〈第3講〉中国の「辺境経済圏」(1) 概要：「新シルクロード経済圏」

事前学習しておくべき用語やポイント〔新疆・中央アジア〕

詳細：「新シルクロード経済圏」の概要と中国の新疆ウイグル自治区のプレゼンスを解説する。

〈第4講〉中国の「辺境経済圏」(2) 概要：「グレートメコン経済圏」

事前学習しておくべき用語やポイント〔GMS、ASEAN〕

詳細：「グレートメコン経済圏」の概要と中国の雲南・広西のプレゼンスを解説する。

〈第5講〉中国の「辺境経済圏」(3) 概要：「北東アジア経済圏」

事前学習しておくべき用語やポイント〔東北振興〕

詳細：「北東アジア経済圏」の概要と中国の東北3省・内モンゴル自治区のプレゼンスを解説する。

〈第6講〉中国企業の対外投資(1) 概要：中国企業の海外進出の目的と成果

事前学習しておくべき用語やポイント〔走出去政策〕

詳細：中国による中国企業の海外進出促進策の概要と中国企業の海外進出の目的と特徴を解説する。

〈第7講〉中国企業の対外投資(2) 概要：中国企業の海外進出の現状と課題

事前学習しておくべき用語やポイント〔走出去政策〕

詳細：中国企業の海外進出の現状と課題を、具体的事例を挙げて解説する。

〈第8講〉中国企業の経営戦略 概要：国営企業と民営企業

事前学習しておくべき用語やポイント〔国営企業・私営企業〕

詳細：中国の代表的な国営企業と民営企業数社を取り上げて、それぞれの経営戦略を解説する。

〈第9講〉人民元改革と人民元の国際化はあり得るのか 概要：人民元改革と人民元の国際化

事前学習しておくべき用語やポイント〔人民元〕

詳細：人民元の切り上げを巡る米中間の論争が絶えない中国、中国政府による人民元改革の現状と人民元の国際化へ向けたを考察する。

〈第10講〉中国でシェールガス革命は起こり得るのか 概要：中国におけるシェールガス開発の現状と今後の見通し

事前学習しておくべき用語やポイント〔〕

詳細：中国におけるシェールガスの埋蔵量と開発に向けた具体的な取り組みの現状及び今後の見通しについて解説する。

〈第11講〉中国の対外関係(1)～米中関係 概要：米中戦略・経済対話

事前学習しておくべき用語やポイント〔米中戦略・経済対話〕

詳細：「米中戦略・経済対話」の概要とその成果を中心に米中両国の経済関係を理解する。

〈第12講〉中国の対外関係(2)～日中関係 概要：日中経済の現状と課題

事前学習しておくべき用語やポイント〔日中貿易・歴史認識問題・尖閣諸島問題〕

詳細：日中両国双方の貿易、投資関係の現状と課題を踏まえ、日本企業の対中投資のビジネスチャンスとリスクを解説する。

〈第13講〉中国の対外関係(3)～中露関係 概要：中国とロシア両国の経済、外交関係

事前学習しておくべき用語やポイント〔SCO〕

詳細：中国とロシア両国の歴史的関係を踏まえて、近年における上海協力機構(SCO)を軸とした両国の政治、経済関係を解説する。

〈第14講〉中国の対外関係(4)中国・中東・アフリカ関係 概要：中国と中東・アフリカ関係

事前学習しておくべき用語やポイント〔中国・アフリカ、中国・アラブフォーラム〕

詳細：外交やエネルギー安全保障の観点から具体的事情や事例を挙げて、中国・中東・アフリカ関係を解説する。

〈第15講〉まとめ 概要：秋学期講義内容の総まとめ

事前学習しておくべき用語やポイント〔〕

詳細：秋学期の講義で取り上げた内容を再度簡潔に取りまとめて、中国に関する理解を深める。

■教科書

なし

■指定図書

随時紹介、推薦する。

■参考文献

関志雄『チャイナ・アズ・ナンバーワン』(東洋経済新聞社、2009年) 寺島実郎『世界を知る力』(PHP新書、2010年) 寺島実郎『世界を知る力～日本創生編』(PHP新書、2011年) 寺島実郎『第中華圏』(NHK出版、2012年) 真家陽一『中国经济の実像とゆくえ』(ジェトロ、2012年) 三井物産戦略研究所『アジアを見る眼』(共同通信社、2012年)

■評価方法

評価は、出席(30%)、毎回提出の講義メモ(30%)、最終レポート(30%)、質問・意見(10%)により行う。

■評価基準

相対評価

出席と毎回提出する講義メモを重視(30%+30%=60%)する。レポート(30%)は、A4用紙2枚以上。質問意見(10%)は、講義への積極的な参加・貢献として評価し、発言回数に基づいて1%～10%の評価を加える。講義メモは、講義内容を理解し、かつ独自の問題意識を持ち、問題解決へ向けての取り組み姿勢が顕著に表れているのかを重視する。採点后、最後に返却する。尚、評価点100%(出席30%+講義メモ30%+レポート30%+質問意見10%)のうち60%未満は、不合格とする。

■事前履修科目目

特に指定しない

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

以下の機関が発表する情報を常時確認すること。

日本外務省HP：<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/index.html>

日本貿易振興機構HP：<http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/>

日本財務省貿易統計HP：<http://www.customs.go.jp/toukei/info/>

日本銀行HP：<http://www.boj.or.jp/statistics/index.htm/>

科目名 現代ビジネス潮流論 (20世紀を知る)〔Trends of the Modern Business〕

担当教員 広瀬 一郎

■講義目的

現在、我々が生きている21世紀は、言うまでもなく20世紀の延長にある。そして、我々が直面している問題のほぼ全ては、20世紀の負の遺産である。(無論、正の遺産もある。)現代ビジネスも例外ではない。従って、これらの問題解決に挑むなら、20世紀を知っておくことは、不可欠である。「20世紀を知る」ことは、我々の「歴史」を知ることであると同時に、「現在」の我々自身の癖を確認する行為でもある。それは、19世紀以前の「知識としての歴史」とは、本質的に異なる作業である。そこには、21世紀を生きる我々のアイデンティティーを確認するという意味がある。20世紀は「歴史」でもあるが、「記憶」でもあるのだ。(2012年現在、地球上に生存している70億人の人間のいまだ過半数は、20世紀に生を受けているはずなので、それは特に字義通りの自己確認行為に他ならない。)学びのKey-Word：産業社会、世界潮流、実践的知識獲得グローバルビジネス、ビジネス環境理解、

■到達目標

20世紀の歴史について、常識的、かつビジネスマンとして最低限の知識を得る。個別事象の羅列でなく、全体を俯瞰し、「トレンド/構造」を理解する。特に「政治」と「経済」が不可分になった「産業主義の世紀」であること、20世紀を通じて、グローバル化が進み、かつては国内問題であったことのほとんどが、一国内で完結せず、必ず国際問題につながる点を認識すること。

■講義形態

本格的には講義形式で行う。20世紀の出来事は、ほとんど映像で残されているので、時間が許す限り「映像」を利用した説明を行う。(NHKのアーカイブで、当該事項に関連する知識を深めることが望ましい。例えば「その時、歴史を動いた」シリーズのバックナンバーなど。)

■講義の概要

第1回：講義の「構造」と「ねらい(成果の定義)」

第2回：20世紀の前半としての19世紀

～「近代(モダン)」とは何か?～

・モダンというパラダイム(前近代との比較/人間の誕生「神から人へ」)

「理性」「進化(進歩)」/「啓蒙」

・「産業革命」とバクス・ブリタニカ Pax-Britanica (英独/英仏/英露)

第3回：20世紀の前半としての19世紀 (II) 一国民国家の誕生～

・ウェストファリア条約

・フランス革命とナポレオン戦争(民主主義とナショナリズム)

・普仏戦争とドイツ帝国の誕生(イタリア王国誕生)

・19世紀の基礎知識

①明治維新～日清戦争(清朝末期)～日露戦争(ロシア帝国)

②帝国主義と植民地政策(第一次世界大戦のプレヒストリー)

第4回：「国際政治/経済」の世紀 (I)

・「欧州近代」の世界化した世紀

・「マス」が世界化した世紀(大衆の誕生/3つのサブシステム/日本の大衆社会化)

・「マーケット」の機能変化と「マーケティング」の誕生

(「欲望の生産」/「マーケティング」/「TVメディア」と大衆消費社会)

・ナショナリズムの変容(東西冷戦構造とスポーツの隆盛)

第5回：「国際政治/経済」の世紀 (II)

「アメリカの世紀(Pax-Americana)」(「アメリカニズム」とは何か?)

・産業主義国家へ

・「科学技術」の時代(「方法」の目的化)

・基礎通貨の交替「ポンドからドルへ」(Pax-Britanicaの終焉)

・グローバルズムとグローバル・スタンダード

第6回：「国際政治/経済」の世紀 (III) ～「石油の世紀」～

第7回：帝国主義の時代(～1945年)

◆帝国主義◆社会主義国家の誕生◆第一次世界大戦◆国際連合と「国際協調」主義の誕生◆大恐慌◆ファシズム国家の台頭◆第二次世界大戦(～ヤルタ会談)

第8回：国際協調の時代(1945年～)

・「東西冷戦」(「NATO」と「ワルシャワ条約機構」/ベルリンの壁/

「朝鮮戦争」/「ベトナム戦争」)

・欧州復興とマーシャルプラン(1947)

・IMF/ブレトン・ウッズ体制/GATT(～WTO:95年)

・EEC(欧州共同体)～EC～EU(マーストリヒト条約)

第9回：

・バレーシュナ問題と中東戦争(イスラエル建国～スエズ戦争)

・OPECとオイル・ショック

・植民地解放と「南北問題」(インドシナ戦争～ベトナム戦争)

・「文化大革命」/「天安門事件」～

・ASEAN

・NIESと多文化・多極化

第10回：「アフリカの世紀」の嚆矢(ベルリンの壁崩壊と「歴史の終わり」)

・ニコソニョック

(「ドルの兌換紙幣停止」→ブレトン・ウッズ体制崩壊と「変動相場制」)

・イラン革命～イラン戦争

・ソ連のアフガン侵襲

・スミソニアン体制

・ウルグアイ・ラウンド

・Rising Sun(日本経済のバブル～崩壊)

・「ベルリンの壁」崩壊(「ベルストロイカ」/「冷戦終結」)

・湾岸戦争と「文明の衝突」(～9.11)

・アバルト・ヘイト運動

第11回：第二の視点～「科学技術の発展」

・輸送機関(鉄道/自動車)とエンジン

・原子力(キュリー/アインシュタイン/オッペンハイマー)

・シリコンバレーの物語(HP/アップル/ゲール/「Facebook」)

・コンピュータとIT産業(IBM/MS/アップル)

・インターネット(ヤフー/アマゾン)

・遺伝子の発見とバイオ産業(トソニックとクリックによるDNAのらせん構造発見)

第12回：第三の視点～「文化」

・マスメディア

・ファッション産業

・ポップミュージック(ヒッピー現象/マイルス/ビートルズ)

・スポーツ産業◆スポーツの世紀

第13回：第四の視点～「環境問題」

・「ローマクラブ」と「成長の限界」

・環境汚染(四日市/水俣)と環境アセスメント

・エコロジーと生態系(生物多様性/二酸化炭素)

・エネルギー問題

第14回：20世紀の総括と21世紀の課題

・グローバルズムと市場主義(「市場vs公共性」)

■教科書

「20世紀を知る」(3月末にT-Next内に電子書籍化し公開予定)

■参考文献

「幻想の共同体」ベネディクト・アンダーソン「ナショナリズムの現在」E・ボズボーム「豊かさの誕生」W. ハーンスタイン「グリーン革命」トーマス・フリードマン「新・マネー戦争」トル基後の日本(文春新書)若本 沙月ベトナム戦争一語論と諒解の戦い(中公新書)松岡 寛『高校の歴史の教科書の現代化(20世紀)を通読しておく、良い準備になる。』

■参考URL

<http://aps02.atreatre.com/chapter1-3.html>

■評価方法

講義前後の課題レポート30%期末筆記試験(持ち込み不可)70%

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

科目名

現代メディア論 I [Contemporary Media Studies I]

担当教員

木村 知義

■講義目的

「知のシャワー・頭脳のダンス」胸躍る教室へ！
 新聞購読者の減少、視聴率競争にさらされるテレビ、広告収入の落ち込みによる既存マスメディアの経営悪化、その一方でインターネットの台頭とソーシャルメディアの爆発的な広がり……。こうしたメディア環境の変化のうねりをまに、いまメディアの危機が頻繁に語られる。さらに東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故にかかわる報道を契機として、既存のマスメディアへの不信が一層深まり、メディアのあり方が根底から問われる時代となっている。
 現在のメディア危機について考える際、経営的側面にとどまらず、ジャーナリズムの危機としてとらえる視点を忘れるはならない。このような時代状況の中で、一体何が情報で、その背後にある「構造」は何かを見抜き、読み解くことがますます重要になっている。つまり、情報の受け手としての我々にとって、メディアリテラシー（メディアを的確に読み解き、活用する能力）の重要性が一層増しているというべきである。
 情報の受け手である私たちが、この時代にどのような問題意識と力を必要とするのか、メディアを読み解くことを通じて世界と時代の動向を的確に認識し、現代の情報社会を生き抜く実践的知識と問題解決のための道を考え抜く力を獲得することをめざす。そのために、日々メディアで伝えられるニュースや「できごと」をアップトゥーデイトに取り上げビビッドで実践的な学びの場としていく。これらの学びを総合して、問題発見能力、論理的思考そして問題解決能力にいたる、現代社会を生きるうえで必要とされる社会人基礎力の涵養にチャレンジする。
 大学という場から産業社会に巣立つ際に不可欠な世界潮流とビジネス環境への理解を深め、コミュニケーション能力を鍛えることで、社会に立ち向かうための新たなリベラルアーツともいべき創造的な学びの場をめざす。
 合言葉は、知のシャワー・頭脳のダンス、胸躍る教室へ！

■講義分類

社会人力育成 ビジネスICT／ビジネス環境理解
 グローバルビジネス

■到達目標

1. 現在のメディア状況とメディアのあり方について認識を深め、問題意識を持つことができる。
2. 日々、世界と日本で起きる出来事、ニュースについて、自分の頭で考え、分析して自分の言葉で語ることができる。
3. メディアにおける表現とその背後にある認識と問題意識の関係について、具体事例を通じて理解できる。
4. これらを総合して、情報を読み解く力、問題発見能力を鍛え、問題解決の方法を考えるための実践的知識と力を発揮できる。
5. これらを総合してコミュニケーション能力を高め、社会生活の中で活用できる。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR(学外学習無
 たし、自主学习としての学外学習や調査は必要となる場合がある。)

■講義の概要

(第1講)メディアの風景、メディアの危機

概要：「メディア危機」とはどのようなことなのか。現代メディア論がめざすものは何か。

事前学習しておくべき用語やポイント：「メディア危機」

なぜこの講義に関心を持ったのかと、各自、受講の動機について発言できるような考えを整理しておく。

詳細：思いこいといわれるメディア経営の現状やインターネットの急速な台頭など、メディア環境の大きな変化と「メディアの現況」について概観しながら現在の「メディア危機」とメディアが抱える問題について認識を深める。同時に、この講義で何をめざすのか、「現代メディア論」の内容と目標、そして講義のすみ方について提示する。

(第2講)テレビを学ぶ(1)「ニュース報道の危機」は何を語りかけているのか

概要：アメリカのテレビニュース報道に起きている具体事例を通じて、テレビに押し寄せる「変化の波」について考える。

学習しておくべき用語やポイント：「テレビのバリエーション化」

詳細：NHK・BSドキュメンタリー「アメリカ ニュース報道の危機～報道の娯楽化とブログの攻勢～」を視聴し、意見発表を交えながら、これが何を物語るのかを考える。同時に、これが、「アメリカで起きている事例にとどまらず、まさに日本のテレビの現在進行の問題としてあることを、具体事例にふながら考え、これらのTVのあり方について問題意識を深める。

(第3講)テレビを学ぶ(2)テレビは新たな「教養」となるのか？！

概要：今、テレビで「わかりやすさ」「面白さ」が花盛りである。ではわかりやすさ、面白さとはどういうことなのか？メディアのあり方について考えてみる。

事前学習しておくべき用語やポイント：「深読み」「そうだったんだ！」「ブーム

詳細：テレビの報道番組をはじめメディアでは「わかりやすさ」「面白さ」が強く求められる時代になっている。「そうだったんだ○○」という解説本もベストセラーという状況である。しかし「わかりやすさ」「面白さ」とは何をもってそう考えるのか、あるいはこの「わかりやすさ」は虚構か？「面白さ」は虚構か？「面白さ」に何を求めているのかについてはほとんど語られることはない。前講をふまえてメディアと「わかりやすさ」「面白さ」に潜む問題についてTV番組の具体事例を通じて考えていく。

(第4講)テレビを学ぶ(3)選挙報道、テレビに未来はあるか？！

概要：若者のテレビ離れが言われる。またテレビは録画で見るといって視聴習慣も広がっている。「見られなくなったテレビ」の未来をどう描くのか。

事前学習しておくべき用語やポイント：「テレビ60年の歩み」

詳細：日本のテレビ放送開始から60年、ネット社会の急速な広がりの中で、「遠慮」を越えたTVはビジネスモデルの転換の必要性が語られる。テレビに将来はあるのか、どのような未来像を描くのか、徹底討論によって「テレビ60年」をどうのこせるのかを考える。これらのメディア環境とメディアビジネスの姿を探る。

(第5講)SNSがメディアを変える！

概要：SNS、ソーシャルメディアの急速な普及をまえに、マスメディアがSNSの活用に取り出した。メディア最新報で何が起きているのか。

事前学習しておくべき用語やポイント：「SNS」の現在、「ヒソオメディア」(朝日新聞2013年新年企画)

詳細：ツイッターなどソーシャルメディアを活用した情報発信から新たな読者、視聴者の発掘まで、いま新聞、TVなどのマスメディアはSNSの世界に足を踏み入れた。メディアのSNS戦略の現在と、そこで何が生まれ、何が課題となるのか、事前に調べた意見発表と討論を通じて考える。

(第6講)新聞を学ぶ(1)新聞は読めるか？！

概要：「新聞」は誰でも読める。しかし誰もが読めるわけではない。ではどうする……」

事前学習しておくべき用語やポイント：新聞を読んでみる。羽仁五郎、尾崎秀実とはどんな人

詳細：ネット依存(新聞を読まない若者世代。まず、新聞を手にしたてに関心を持った記事を見つけ、その記事について何をどう考えたのかを語る)から始める。前報、朝日新聞記者尾崎秀実が上海社任を前にして東大時代の友人、歴史家の羽仁五郎を訪ねた際の新聞にかかわる「問答」を引きながら、新聞を読む意味とこの方法について実践的に学ぶ。

注)当日の「問答」を必ず持参すること。

(第7講)新聞を学ぶ(2)メディアを読み解く遠征法

概要：具体事例を通して新聞を読み込み、新聞とどう付き合うのか、どう向き合うのかを実践的に学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント：政治家の「失言」報道、放射能について「やっすい」発言

近年、相次いで政治家の「失言」がメディアの報道について調べ、整理するとともに、そこにどんな問題が見えてくるのかを考える。

詳細：近年、政治家の「失言」「放言」による発任が相次いだ。こうした「失言報道」を検証しながら、メディアによる報道がはらむ問題について考える。新聞を読むことを通じて、メディアと向き合う遠征法というべき情報の「受け手」の側の情報処理能力、メディアを読み取り、すなわちメディアリテラシーについて認識と問題意識を深める。履修対象者が、就職活動に直間してこれら社会に出る4年生、あるいは就職活動を控えた3年生ということふまえて、新聞を教材にして、情

報を的確に読み解くには何が必要なのかを実践的に学ぶ。

《第8講》新聞を学ぶ(3) 新聞とメディアリテラシー

概要：新聞を読みこなすとはどういうことか、具体事例を通じて、メディアリテラシーの重要なポイントである、情報を「批判的に」読み取る具体的な方法を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント：「批判的」とはどういうことか

日々メディアから伝えられる情報を吟味して読むという体験をすることで、メディアリテラシーというもの、を、ことばではなく、まず実践的に理解する。

詳細：「メディアを批判的に読み取る」とともに、メディアを活用して表現していく能力」といわれるメディアリテラシーだが、では「批判的に」とはどういうことなのか、具体的な事例を通して「批判的」ということの意味を深めて考える。特に、問題意識との関係はどのようなものか。メディアで伝えられるものを「所与の前提」とするのかなど、もの見方、考え方の根幹にかかわる問題として、メディアリテラシーを教える。

《第9講》メディアリテラシーとは

概要：メディアリテラシーとは、「メディアリテラシー18の原則」を手がかりに

事前学習しておくべき用語やポイント：「メディアリテラシー」

メディアリテラシーについて基礎的な意味を調べ、その考え方についてまとめる。

詳細：情報化社会の現代を生きる際、「メディアリテラシーが重要だ」とよく目にすることである。ではメディアリテラシーとはいったいどのようなことをさすのか。米ジャーナリストの菅谷明子氏の提説とレン・マスターマンの「メディアリテラシー18の原則」を手がかりに、意見発表と議論を重ねながら考えていく。

《第10講》ネット時代とメディアの未来

概要：「未来への提言～ネット時代に報道はどう生き残るのか」ワシントンポスト副社長 レナード・ダウニー」を視聴して考えるメディア。

事前学習しておくべき用語やポイント：ワシントンポスト、「ウォーターゲート事件」

詳細：「ウォーターゲート事件」のスクープ報道をはじめワシントンポストとともに歩んだレナード・ダウニーが語る「ネット時代のメディア報道」を素材に、メディアの現在と未来について考える。75分におよぶ長時間の番組だが、現在、メディアが抱える問題や課題とそれをのりこえるための機軸にたどり着き、現在のメディア状況、既存マスメディアを置く立場からネット時代をどうとらえているのか、権力とメディアの関係、これからのメディア教育のあり方、メディアを支えるNPOなど未来に向けての社会システムの試行など、メディアをめぐる問題を網羅する内容となっている。

《第11講》徹底討論「レナード・ダウニー氏の提言」に何を学んだか

概要：前講で視聴した「未来への提言 レナード・ダウニー」から何を学んだのかを軸に意見発表と討論によって問題意識を深めていく。

事前学習しておくべき用語やポイント：「ウオッチドッグ」「ビュッツアー貴」

詳細：レナード・ダウニー氏の話は自身の仕事の体験にじまじり、現在のメディア状況、既存マスメディアを置く立場からネット時代をどうとらえているのか、権力とメディアの関係、これからのメディア教育のあり方、メディアを支えるNPOなど未来に向けての社会システムの試行など、メディアをめぐる問題を網羅する内容となっている。ダウニー氏の話から触発されたことを発表、議論しながら、メディアの現在と未来について問題意識を発展させる。

《第12講》「マスメディア・ジャーナリズムを支配する『最大多数の最大幸福』の最大不幸」

概要：東京大学大学院情報学環教授、林香里氏の論考「マスメディア・ジャーナリズムを支配する『最大多数の最大幸福』の最大不幸」を読んでメディアに内在する問題を考える。

事前学習しておくべき用語やポイント：「集中豪雨報道」「メテオスクラム」

詳細：前講のジャーナリズムを「恐竜」になぞらえるコラムからもメディアとジャーナリズムの乖離という現実が見えてきた。では、メディアとジャーナリズムは「共存」できるのか、そのためのハードルはどのようなものか、さらにそれをこえるためには何が必要なのか。林香里氏の論考、問題提議をもとに討論と意見発表を重ねながら問題を深めていく。

《第13講》いま、エドワード・サイードに学ぶ～報・メディアを読み解く「逆説」～

概要：エドワード・W・サイードの問題提起をもとに、国際報道をもとに読み解くのかを深める

事前学習しておくべき用語やポイント：「エドワード・W・サイード」「イスラム報道」

エドワード・W・サイードについて調べ、彼がどのような問題提起を重ねてきたのかについて、まとめる。とりわけ、「イスラム報道」における、メディアのあり方についての問題提起を日常の国際ニュースに結びつけて考えてみる。

詳細：生前、現代世界が直面する問題、課題について衝動的に書く論文を重ねた、コロンビア大学教授エドワード・サイードの問題提起をもとに、メディアにおける情報やイメージがどのように形作られるのか、そのための「画一性」をどうこえるのかを考え、国際情報の読み解き方、ひいてはメディアの読み方についてさらに深める。

《第14講》「アントレプレニアル・ジャーナリズム」を考える

概要：デジタル時代、ネット時代に新たに求められるジャーナリズムと起業家精神について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント：「ポリティコ」「ハフィントン・ポスト」などネットジャーナリズムの現状について
詳細：レナード・ダウニーの著書でも登場したNPOによる「メディア相繼」の活動をはじめ、最近、欧米では「アントレプレニアル・ジャーナリズム」という言葉、考え方が注目されている。デジタル技術を使えば、起業家精神を発揮した新たなメディアを生み出していくという動きである。こうした最新のメディア動向をもとに、これからのメディアのあり方について深める。

《第15講》今日のニュースは明日の歴史～春学期のまとめに代えて

概要：メディアに向き合う力、メディアを活用して生かす力を教えるために学んだきた春学期のポイントについて整理し

ながら、再確認する。

事前学習しておくべき用語やポイント：あらためて、メディアリテラシーとはどういうことなのか。]

詳細：メディアと向き合う際に重要な歴史意識について考えながら、春学期の問題意識の整理と到達点の確認をおこなう。同時に、残された問題、課題を整理して秋学期への繋げ橋とする。

■教科書

なし。毎回、パワーポイントによるスライドやプリントなど、教材を準備する。

■指定図書

なし

■参考文献

『図説日本のメディア』藤竹暁編著(NHK出版2012年)

『官報復合体』牧野洋(講談社2012年)

『「本当のこと」を伝えない日本の新聞』マーティン・ファクラー(双葉社2012)

『検証 福島原発事故記者会見日聞一壱 大野龍造(岩波書店2012年)

『メディアリテラシー～世界の現場から～』菅谷明子(岩波書店2000年)

『ジャーナリズムの可能性』原 寿雄(岩波書店2009年)

『イスラム報道』エドワード・W・サイード(みすず書房2003年)

『テロ以降を生きるための私たちのニューテキスト』池田晶子、森達也ほか(角川書店2001年)

『戦争絶滅へ、人間復活へ～九十三歳・ジャーナリストの発言』むのたけじ(岩波書店2008年)

『放送を学ぶ人のために』小野善邦編(世界思想社2005年)

■評価方法

学期終了時に課題レポートを提出。

加えて途中2回の「ミニ・レポート」を課する。

また、意見発表、討論など教室での積極性を重視する。

学期末の課題レポートとミニ・レポート：70パーセント

教室での発言、発表など積極性：30パーセント。

なお、レポートはMicrosoft Office of the Wordで作成のこと。

■評価基準

相対評価

レポートの評価にあたっては、講義内容をふまえてそれぞれが考えをどう深め、何にどう触発されて自己の思考を発展させたのかを重視し、何よりも自分で考え、自分のことばで語る、各自のオリジナリティーを最重視して評価、採点する。引用を逸脱するWebからのコピーアンドペーストによるレポート作成は評価の対象外として不合格とする。また引用にあたっては必ず典拠を明示すること。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

この講義は、概説的なメディア論をめざすものではなく、メディアによって日々伝えられるニュースや話題さらには放送番組などを活用し、現代のメディア状況と情報の「読み解き」を実践的に学びながら、時代や世界を読み解く力を鍛えることをめざすため、素材として、日々のニュースなどビビッドな新事例を取り上げていく。従って、講義計画については臨機応変に組み替えていくこともありうる。また、授業では事前に示したテーマについて意見発表や討論を求めていくので、事前に調べ、考えを整理して臨むことが不可欠となる。教室で、積極的に発言して、自身の考えを自らのことばで論理的に語る力の獲得につなげていくことも重要な目標となる。

履修にあたっては以上のことをあらかじめ理解、承知しておくこと。

科目名

現代メディア論II[Contemporary Media Studies II]

担当教員

木村 知義

■講義目的

春学期の現代メディア論Ⅰをふまえて、さらに問題意識を深めていく。春学期がテレビ60年を入り口にして、メディアの現状が、とりわけ「総」(ラテニク)化するTVに内在する問題、課題について考えることから始めた。そしてネット時代において既存のマスメディアがどこに向かおうとしているのかなど、内外メディアの最新の具体事例を取り上げながら、そこの、我々、情報の受け手に求められるメディアリテラシーとはどのような力かを実践的に考えた。そこに通底する問題意識とはいはれ、日々洪水のように押し寄せる情報の氾濫に振り回されてはならないということである。あるいは過去あまりに語られるが、伝えられるべきことは語られていない、という問題意識でもあった。メディアの危機が語られる現代のメディア状況を前に、世界で、日本で、いま一体何が起きているのか、時代はどこに向かうのかなどを、的確に分析でき、認識できる力をもつようになり、鍛えられることでもある。長年にわたって、放送の現場で教養、文化および報道分野の仕事を重ね、ラジオの線の「報道・情報番組」のアンカーを務めてきた経験に立って、メディアが日々伝えられるニュースや話題をもとに、情報とは何かということにはじまり、それをどう読み解くのかを実践的に深め、時代や世界を読み解く力を鍛え、生きる力としてのメディアリテラシーと創造性豊かな知性の獲得をめざす。秋学期は、特に、「スクープ報道」「客観報道」「調査報道」「戦争とメディア」といったテーマを重要な柱として、新聞記事や国内、海外のテレビ・ドキュメンタリーなどを活用しながら、いまメディアに関わるものとは何かについてさらに深めていく。同時に、春学期にも掲げたように、大学という場から産業界に立上り、常に不可欠な情報への感度を高め、情報の解析能力、さらにはそれらにもとづいたコミュニケーション能力を総合的に鍛え、現代社会を生かすための新たなリベラルーツともいえるべき創造的な学びの場をめざす。合言葉は春学期同様、「知のシャワー・頭脳のダンス・胸躍る教室へ!」

■講義分類

社会人育成 ビジネスICT／ビジネス環境理解
グローバルビジネス

■到達目標

1. 現在のメディア状況とメディアのあり方について認識を深め、問題意識を持つことができる。
2. 日本、世界と日本で起る出来事、ニュースについて、自分の目で考え、分析して自分の言葉で語るができる。
3. メディアにおける表現とその背後にある認識と問題意識の関係について、具体事例を通して理解できる。
4. これらを総合して、情報を読み解く力、問題発見能力を高め、問題解決の方法を考えるための実践的知識と力を発揮できる。
5. これらを総合してコミュニケーション能力を高め、社会生活の中で活用できる。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR[学外学習無]

ただし、自主学習としての学外学習や調査は必要となる場合がある。]

■講義の概要

【第1講】なぜ、メディアリテラシーは必要なのか～現代メディア論Ⅱがめざもの～

概要：「メディア危機」と「メディアリテラシー」という二つのキーワードを手がかりに、現在のメディア状況について概観し、メディアの何が問題として構わっているのかを整理する。

事前学習しておくべき用語やポイント：「メディア危機」「メディアリテラシー」

メディアリテラシーとは何かについて調べ、整理するとともに、なぜこの講義に関心を持ったのかなど、各自の受講の動機について考えを整理していく。

詳細：秋学期のスタートに当たり、春学期をつらぬく「通底音楽」といえるべき「メディアリテラシー」の意味について再確認する。また、この講義で目指すものや講義のすすめ方を提示し学ぶ意欲と目標を明確にする。特に、「スクープ報道」「客観報道」「調査報道」「戦争とメディア」というテーマに力点を置いて考えていくことを示し秋学期の問題意識について整理する。

【第2講】特ダネ、スクープの震とメディアリテラシー

概要：新聞やテレビの特ダネ、スクープ記事がはらむ「落とし穴」について、具体事例をもとに考える。

事前学習しておくべき用語やポイント：「IPS細胞報道と情報開示」

詳細：メディアの世界では特ダネ、スクープは読者、視聴者の注目を集めるだけではなく、社会や政治までもを動かす力になることがある。しかし一方で独自ネタを追い求めるメディアに思わぬ「落とし穴」が待っていることもしばしばである。「世紀のスクープ」が情報となった事例を通して、いま求められる「メディアを読む力」とはどのような力なのか、討論を通じて深める。

【第3講】「客観報道」とは何か(1)

概要：「客観報道」とは何か(1)～客観報道とはどう議論されてきたのか～

メディアの「伝える」という機能、立場を考えるとさきと違って通れない「客観報道」とはどういうことについて考える。

事前学習しておくべき用語やポイント：客観報道

詳細：まずこれまで「客観報道」とどのような言説で語られ、議論されてきたのかを整理し、それらが内包する問題について考えてみる。するとメディアにおける「客観報道」というテーマが実に手ごわい問題であることが見てとれる。合わせて、人の認識の深まり、あるいは問題意識はどのようにして獲得されるのかという、認識論と客観報道の関係についても深めて考える。

【第4講】「客観報道」とは何か(2)

概要：「客観報道」とは何か(2)～客観報道主義に潜むものは何か～

事前学習しておくべき用語やポイント：客観報道主義、支店長はなぜ死んだか

詳細：「客観報道」をめぐる言説と議論の論点をふまえて、元朝日新聞記者上前澤一氏のルポルタージュ「支店長はなぜ死んだか」の問題提起をもとに、メディアにおける「客観報道主義」に内在する問題点について考える。さらに、前講でのディスカッションを発展させて、メディアで「伝えられること」への視線、問題意識を鍛えていく。

【第5講】事実の時代へ、事実とは何か

概要：メディアにおける報道で事実にもとづくことがカギであることは誰もが認めることである。では事実とは・・・。

事前学習しておくべき用語やポイント：客観的事実とは、事実をめぐる議論

詳細：英国のメディア研究者ブライアン・マクナブは「客観的ジャーナリズム」の要件として第一に「事実と意見の分離」を挙げる。しかし「事実とは何か」という問いへの答えはきわめてむずかしい。事実というものの認識を深めながら、メディアで仕事をする人々からの問題提起、具体事例を通して、事実と向き合う力、メディアリテラシーの醸成、向上の力がかりを共有する。加えて、Webもふくめたメディアをどう活用するのかが、放送現場での仕事を通じた実践的な方法論についても提示する。

【第6講】戦争とメディア(1)「ピーター・ジェニングスからのメッセージ」①

概要：NHK・BS特集で放送された、アメリカABCのニュースアンカー、ピーター・ジェニングスについてのドキュメント(前編)を見ながら考える。

事前学習しておくべき用語やポイント：ピーター・ジェニングス、9・11同時多発テロ

詳細：アメリカ三大ネットワークのひとりのABCを代表するニュースアンカー、ピーター・ジェニングスは「9・11テロ」直後の報道姿勢によって「批判」にさらされることになる。ピーター・ジェニングスのジャーナリストとしての歩みを見ながら、メディアにおけるアンカーの役割と責任、そこの視聴者という存在、視聴率ははらむ問題について考えることで、メディアリテラシーの重要性について深める。

【第7講】戦争とメディア(2)「ピーター・ジェニングスからのメッセージ」②

概要：ピーター・ジェニングスからのメッセージ(後編)を視聴して考える。

事前学習しておくべき用語やポイント：米三大ネットワークの盛衰、FOXニュース

詳細：NHKBSドキュメント「後編」を視聴しながら、戦争とメディア、ひいては現代世界とメディアの関係について考えるとともに、「情報の伝え手」としての、アンカーのあり方、さらには報道という営みがはらむ意味と課題について、意見発表を交えながら深めていく。その上、メディアと向き合う速読法ともいえるべき情報の「受け手」側のメディアを読む力、すなわちメディアリテラシーの意味についてさらに問題意識を深める。

【第8講】戦争とメディア(3)「検証 米メディアのイラク戦争報道」から

概要：NHKBSドキュメンタリー「検証 米メディアのイラク戦争報道」を視聴して「戦争とメディア」

事前学習しておくべき用語やポイント：イラク戦争、大量破壊兵器、アブグレイブ刑務所

詳細：「戦争の最初の犠牲者は真実である」といわれるが、戦争とメディアの関係は古く「新しい問題であり続ける。米国のイラク戦争をめぐるメディアのあり方を検証したドキュメンタリーを視聴して、我々の、メディアとの向き合い方とりわけメディアを批判的に読み解くとともに、メディアを活用して表現しつづける能力にされるメディアリテラシーを鍛え、高めるためにどのような力のかを考へる。

【第9講】メディアの制作現場から

概要：メディアの現場で仕事を取り組む人々を特別講師に招きメディア最前線のヒット動きや仕事を通しての思い、そこからの問題提起を聞く。

事前学習しておくべき用語やポイント：※講師が確定した段階で別途提示する

詳細：メディアの現場で働く人々とはどのような問題意識で仕事に当たっているのか。メディアの現場からの発言、問題提起に耳を向けながら、メディアのあり方について考える。同時に受講生自身のキャリア形成への示唆として役立てることをめざす。

注)メディアの現場で仕事をする人物を特別講師に招くため、業務との兼ね合いで、変更などもあろう。不可能な場合は別途テーマ設定をする。

なお、2010年度はNHKスペシャル「無敵社会～無敵?」3万2千人の衝撃～の企画、制作者、坂垣淑子氏、2011年度はNHKニュースウォッチ9編集責任者、原伸彦氏、2012年度はNHK国際放送局中国語班の大根美代子氏を

招いた。

《第10講》調査報道とメディアの可能性(1)

概要：『調査報道』とは一体どういうものか、ジャーナリスト、研究者らの言説や最新の具体事例をもとに考える。

事前学習しておくべき用語やポイント：[発表報道、ロッキード事件、リクルート報道]

詳細：いまや日々のニュースは政府、官庁、企業などからの「発表報道」によって埋め尽くされているといっても過言ではないメディア状況にある。これに対して、ジャーナリストが独自の視点と問題意識によって事実や問題を掘り起し、取材、調査を積み上げて伝えていく「調査報道」がある。メディアの危機が揺らげる中で、あらためて「調査報道」の重要性が語られていく。メディアにおける最新の具体事例を通して「調査報道」がいかにものかについて知見を深めるとともに、なぜここに期待が集まるのかを考える。

《第11講》調査報道とメディアの可能性(2)

概要：調査報道はメディアを変えるか？！

事前学習しておくべき用語やポイント：[斎藤茂男、黒田清について調べる]

詳細：東日本大震災報道、とりわけ原発事故にかかわる報道においてメディアへの信頼が揺らぐに達している。それは政府や東京電力の発表そのままに伝えることの誤解、視聴者の不信と怒りを招いたことによる。こうしたメディア状況を前に独自の視点と取材によって事実を掘り起し、積み重ねられた調査報道にこそメディア再生の可能性を見出すべきだという指摘がある。調査報道はメディアの新たな可能性を拓くことができるのか、過去に調査報道によって高い評価と信頼を獲得したジャーナリストの事例に立ち返って、調査報道の可能性とメディアの将来について考える。

《第12講》メディアは若者の心を引き留められるか

概要：既存のマスメディア離れが著しい若者世代とメディアの将来について考える

事前学習しておくべき用語やポイント：「新世代が解く！ニッポンのジレンマ」

詳細：NHKで放送された「新世代が解く！ニッポンのジレンマ」をもとに、既存のマスメディアが若者世代の心をつかむことができるかどうか、ディスカッションで深めていく。

《第13講》メディアと「無知の技術」

概要：テッサ・モリスースズキ氏(オーストラリア国立大学教授)の講演録「境界」を越えて」を読みながら、現在のメディア状況とそこに内在する問題について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント：境界を越える視点、戦争とメディア

以前学んだ「戦争とメディア」の内容を復習し、そこでの問題意識を再度整理しておく。

詳細：冷戦の終焉後もさまざまな緊張関係の続く国際社会では依然として紛争、戦争が絶えない。「宗教、民族、性別などの「境界」を越える視点は可能か」という問いはメディアのみならず我々一人ひとりの問題としてある。テッサ・モリスースズキ氏のいうメディアにおける「無知の技術」をキーワードに、今、メディアと情報の受け手である我々に課せられている課題について考える。

《第14講》メディア、つぎつくる力と想像力そして歴史意識

概要：メディアを読み解く力、メディアリテラシーの重要な構成部分として「つぎつくる力」「想像力」「歴史意識」をとりあげ、これらの意味と相互の関係について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント：ジャーナリスト、作家、そして読人としての辺見庸之とは

詳細：メディアリテラシーの重要性について学んできたが、メディアと向き合う際の「適近法」において「突くつくる力」「想像力」そして「歴史意識」の重要性がある。辺見庸之の言説、問題提起を参考にしながら、現代社会を生きる力としてのメディアリテラシーという位置づけで、メディアとどう向き合っていくべきか、その方法的立場について深める。

《第15講》「きょうのニュースは明日の歴史」

概要：「最終レポート」へのコメントと新たな「旗立ち」にむけてのまとめ

事前学習しておくべき用語やポイント：あらためて、メディアリテラシーとは何か

秋学期の問題意識の整理と到達点の確認をおこない、「現代メディア論Ⅰ・Ⅱ」を通して考えてきたメディアに内在する問題とそれへの向き合い方についてまとめる。さらに現代社会を生きる上で、メディアとどう向き合っていくのか、そのための視点と実践的方法論についてまとめる。

■参考文献

- 『図説日本のメディア』藤竹暁編著(NHK出版2012年)
『メディアリテラシー～世界の現場から～』菅谷明子(岩波書店2000年)
『権力VS調査報道』高田昌幸・小黒純(旬報社2011年)
『調査報道がジャーナリズムを変える』田島泰彦他編(花伝社2011年)
『勝てないアメリカ「対テロ戦争」の日常』大治朋子(岩波書店2012年)
『ジャーナリズムの可能性』原 寿雄(岩波書店2009年)
『新聞が消える』アレックス・S・ジョーンズ(朝日新聞出版2010年)
『テレビの教養～億総博知化への系譜～』佐藤卓己(NTT

出版2008年)

『自分自身への審問』辺見 庸(毎日新聞社2006年)

『斉藤茂男―ジャーナリズムの可能性』斉藤茂男・内橋克人・筑紫哲也・原 寿雄編
(共同通信社2001年)

■評価方法

学期終了時に課題レポートを提出。

加えて途中2回の「ミニ・レポート」を課する。

また、意見発表、討論など教室での積極性を重視する。

学期末の課題レポートとミニ・レポート：70パーセント

教室での発言、発表など積極性：30パーセント。

なお、レポートはMicrosoft OfficeのWordで作成のこと。

■評価基準

相対評価

レポートの評価にあたっては、講義内容をふまえてそれぞれが考えをどう深め、何にどう触発されて自己の思考を進展させたのかを重視し、何よりも自分で考え、自分のことばで語る、各自のオリジナリティーを最重視して評価、採点する。引用を逸脱するWebからのコピーアンドペーストによるレポート作成は評価の対象外として不合格とする。また引用にあたっては必ず典拠を明示すること。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

「現代メディア論」に続くこの講義も、概説的なメディア論をめざすものではなく、あくまでも、メディアによって日々伝えられるニュースや放送番組を素材に、情報の読み解き方を学び、それを通して時代や世界を見る目を鍛え、同時に現代のメディアのあり方を考えることをめざしていく。新聞の企画報道やテレビのドキュメンタリー番組を通してメディアの現在と未来について考えることに力点を置くことから、その時々最新の具体事例、新聞記事やテレビ番組をビビッドに取り上げるため、当初の講義計画に沿いながらも柔軟に変更することがあることをあらかじめ承知しておくこと。

なお、意見発表や討論によって問題意識を深めていくことを重視していくので、教室で、積極的に発言して、自らのことばで論理的に語る力を鍛えることが重要になる。

履修にあたっては以上のことをあらかじめ理解、承知しておくこと。

科目名 国際会計論(International Accounting)

担当教員 清松 敏雄

■講義目的

本講義は、わが国の会計基準と国際会計基準のコンバージョンの内容についての理解することが目的である。わが国の会計基準は、本年までの10数年の間に劇的に変化している。変化にあたっては、海外の会計基準の影響を強く受けており、なぜ影響を受けるのか、また、どのような点で影響を受けているのかについての理解を得ることが主目的である。なお、本講義の目的を達成するには、わが国において最近導入された会計基準についての知識が必要となるため、それらについての理解を得ることも同時に目的としている。

■講義分類

ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

わが国の会計基準が、海外の会計基準の影響を受けてどのように変化しているのか等についての理解を得ることが目標である。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉

概要：イントロダクション。

事前学習しておくべき用語やポイント〔事前学習不要〕

詳細：財務報告をめぐる世界の動きの概要について解説する。

〈第2講〉

概要：財務報告をめぐる世界の動きの概要

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回の内容を復習しておくこと〕

詳細：財務報告をめぐる世界の動きの概要について解説する。特に、なぜわが国においてIFRSの導入議論が起こっているのかを解説する。

〈第3講〉

概要：IFRSの特徴

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：IFRSの特徴について解説する。特に、原則主義、公正価値の重視等について解説する。

〈第4講〉

概要：連結優先

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：わが国がIFRSを導入する場合、個別財務諸表はどのような扱いにするのかに関する議論について解説する。

〈第5講〉

概要：収益認識(1)

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：収益認識について解説する。特に、出荷基準と検収基準について解説する。

〈第6講〉

概要：収益認識(2)

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：収益認識について解説する。特に、総額か純額か、製品保証について解説する。

〈第7講〉

概要：借入費用の資産化

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：借入費用の資産化について、日本基準とIFRSの相違を解説する。

〈第8講〉

概要：減価償却

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：日本基準とIFRSにおける減価償却について解説する。

〈第9講〉

概要：減損会計

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：減損会計について解説する。特に、日本基準とIFRSの相違について解説する。

〈第10講〉

概要：のれん

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：のれんの会計処理について解説する。特に、日本基準とIFRSの相違について解説する。

〈第11講〉

概要：開発費の資産計上

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：研究開発費の会計処理について解説する。特に、日本基準とIFRSの相違について解説する。

〈第12講～第13講〉

概要：IFRS導入事例

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：HOYA株式会社の事例などをもとに、IFRSの導入事例について解説する。

〈第14講～第15講〉

概要：全体のまとめを行う。

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：講義全体を振り返り、全体像や個々の講義のポイントはどのようなものであったかを確認する。

■教科書

[1] 深見浩一郎著『IFRSの会計「国際会計基準」の潮流を読む』
光文社新書

■参考文献

必要に応じて講義中に指定する。

■評価方法

講義の進行にあわせて実施するミニテスト・授業内テストにより評価する。

■評価基準

相対評価

IFRSをめぐる世界の動向およびIFRSとわが国の会計基準の相違(基礎)を理解していることを基準とする。

■事前履修科目等

産業社会論(会計)、初級簿記、中級簿記、財務会計Ⅰ、財務会計Ⅱおよび財務報告の単位を取得していることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する(ただし、授業内で行ったテストに参加していることを再試験の受験要件とする)

■留意点

なし

科目名 国際経営入門Ⅰ(Introduction to International Management Ⅰ)

担当教員 飯田 健雄

■講義目的

国際経営は世界政治・経済に利益を求めてダイナミックに動くトランスナショナル(超国家的)組織体です。この組織を外部・内部から探求していきましょう。
国際経営の多面性を理解していきます。それゆえ、講義はきわめて多岐にわたりますが、その本質には「たえず経営とは何か」が横たわっています。ひとつひとつやさしく解説していきます。

■講義分類

グローバルビジネス

■到達目標

国際経営の各事業・業務部門をそれぞれ理解していく。

■講義形態

講義のみ

■講義の概要

国際経営の基礎を包括的に学んでいく。国際経営とは国内で履行される経営の海外適用・応用という考えをもつてもよい。しかし、その海外事業展開には国内競争では想像もできなかった複雑性・困難な問題が待ち受けている。その理由を解き明かしていくのがこの講義の最大の目的である。学生は、経営の基礎をきちんと学んでから履修することを希望する。

〈第1講〉 国際経営とは何か

詳細：国際経営はInternational Managementといい、多国籍企業はMultinational Corporationsという。国際経営とは、企業内部からの国外にかかわる経営活動であり、多国籍企業とは、経営を超えて、その企業が属する産業と組み合った経営行動パターンである。この講義では、企業内部の国際戦略にかかわる諸活動を1年の講義を通してみていきたい。

事前学習のポイント

多国籍企業を探索してみよう。どのような企業がスクリーン上に現れるであろうか。講義後、トヨタの海外工場の数やその地理的位置をネットであてよう。

〈第2講〉 国際経営組織Ⅰ

詳細：国際経営組織とは、本社内部の海外取引および子会社管理の組織的展開のありかたであると同時に、海外予習として子会社の組織体系でもある。ここでは、いかに国際組織が発展してきたかの歴史史に俯瞰してきたい。

事前学習のポイント

経営組織を探索してみよう。講義後、本社と海外子会社の関係を商社を例にネット調べてみよう。

〈第3講〉 国際経営組織Ⅱ

詳細：ここでは、国際組織として自動車企業、家電企業の本社組織と海外組織図を具体的なケースを使用して焦点をあてていく。純粋な国内志向企業との違いを理解していく。

事前学習のポイント

日本企業の海外組織図をネットであてみよう。講義後、ウォルマートやネスレ等の巨大多国籍企業の組織図をネットであてよう。

〈第4講〉 国際人事管理Ⅰ

詳細：人事管理はPersonnel ManagementからHuman Resource Managementと発展していった。その根底には、人を管理する経営政策から人の能力を引き出す経営政策に移行している。国際経営においてもこの傾向にある。この選では、国際人事管理の理論的側面をみていく。

事前学習のポイント

人事管理を探索してみよう。講義後、人事管理という仕事を考えてみよう。

〈第5講〉 国際人事管理Ⅱ

詳細：ここでは、1950年代からの日本企業の国際人事管理の発展をみていき、現在の日本の国際人事管理に関する問題点を理解していく。

事前学習のポイント

国際人事を探索してみよう。講義後、日本企業でも海外で現地スタッフが社長になっている企業を調べてみよう。

〈第6講〉 国際マーケティングⅠ

詳細：この選では、国内マーケティングと国際マーケティングの展開方法の違いについて述べていく。また、国際マーケティングにおけるマルチメタシステム型とグローバル統合型の違いについても述べていく。

事前学習のポイント

マーケティングを探索してみよう。講義後、マーケティングの4Pについて考えてみよう。

〈第7講〉 国際マーケティングⅡ

詳細：ここでは、世界的トイレットリーや清涼飲料水企業が、そのマーケティング戦略をどのように進出国において効果的に展開しているのかをケーススタディ方式で述べていく。

事前学習のポイント

国際マーケティングを探索してみよう。講義後、P&GやネスレのCMを意識的にみてみよう。

〈第8講〉 国際生産管理Ⅰ

詳細：ここでは、企業の海外生産移行への要素を講義する。それらの要素は、(1)製品自体の優位性、(2)生産へのノウハウの蓄積、(3)広告・マーケティングの上手さ、(4)豊富な資金量(100%子会社・コンソーシアム・戦略的提携・合併)、(5)為替レートの変動回避、(6)立地要因があげられる。

事前学習のポイント

生産管理を探索してみよう。講義後、なぜ、日本企業は海外で生産をしたがるのかを考えてみよう。

〈第9講〉 国際生産管理Ⅱ

詳細：この選においては、国際生産の理論を踏まえながら、日本企業の国際生産の歴史的展開を講義していきたい。さらに、国際生産の領域で使用される用語も解説していく。

事前学習のポイント

国際生産管理を探索してみよう。講義後、アメリカにおいてのトヨタの生産方式をネット調べてみよう。

〈第10講〉 異文化経営Ⅰ

詳細：国際経営で異文化経営論の領域が台頭してきた理由は、純粋な経営のレベルだけでは解決しない経営問題が国際事業には存在するからである。これを企業と経営の外的制約と呼んでいこう。この選では、企業における本社・海外子会社の次元からポリセントリズム、エスノセントリズム、ジョセントリズムの3類型にわけ説明していく。

事前学習のポイント

異文化経営を探索してみよう。講義後、中国から来ている留学生に日本と中国の生活様式の違いについて尋ねてみよう。

〈第11講〉 異文化経営Ⅱ

詳細：ここでは、海外子会社における日本人社員と現地社員の文化的コンフリクトを探ってみよう。そして、このコンフリクトを軽減する異文化インターフェイス管理のアプローチを説明していきたい。

事前学習のポイント

異文化インターフェイスを探索してみよう。講義後、文化の違いによって、経営組織内にどのようなトラブルが発生しやすいか考えてみよう。その参考として東洋水産の海外進出を描いた映画「燃ゆるときをき」をみてみよう。

〈第12講〉 国際提携戦略Ⅰ

詳細：この選では、なぜ1980年代以降、急速に国際戦略提携が増えつついったのかその理由を探っていく。

事前学習のポイント

企業提携を探索してみよう。そして、どのような企業同士の提携があるかみてみよう。講義後、提携の戦略的意義について考えてみよう。

〈第13講〉 国際提携戦略Ⅱ

詳細：この選では、国際提携のアプローチを理解する。どのような提携を取れば、長期的関係が保たれるか、どのような要因によって提携が解消・失敗していくのか理解していく。

事前学習のポイント

国際提携を探索してみよう。どのような国際提携があるかみてみよう。講義後、提携がどの分野で頻繁におこなわれているかネット調べてみよう。

〈第14講〉 国際研究開発

詳細：研究開発はテクニクストックの蓄積や次世代製品開発による競争優位の源泉となる。ここでは、なぜ国際研究開発がほとんど本社決行で行われる理由について述べていきたい。

事前学習のポイント

研究開発を探索してみよう。講義後、IT産業における製品の陳腐化の速さを考えてみよう。

〈第15講〉 まとめ

事前学習のポイント

試験に備えて、配布されたコピーをチェックしよう。講義後、理解できない部分があったら積極的に先生に質問しよう。

科目名

国際経営入門Ⅱ(Introduction to International Management Ⅱ)

担当教員

飯田 健雄

■講義目的

世界政治・経済に利益を求めてダイナミックに動くトランスナショナル(超国家的)組織体です。この組織を外部・内部から探究していきます。前期に学んだ国際経営の基本をより深く、具体的に掘り下げていきます。一つ一つやさしく解説していきます。簡単な達成度を測る小テストも行いますので、休まず出席してください。

■講義分類

グローバルビジネス

■到達目標

国際経営の各事業・業務部門をそれぞれ理解していく。

■講義形態

講義のみ(外学習無)

■講義の概要

国際経営の基礎を包括的に学んでいく。国際経営とは国内で履行される経営の海外適用・応用という考えをもつてもいい。しかし、その海外事業展開には国内競争では想像もできなかった複雑性・困難な問題が待ち受けている。その理由を解き明かしていくのがこの講義の最大の目的である。学生は、経営の基礎をきちんと学んでから履修することを希望する。

〈第1講〉国際SCM

詳細：サプライチェーン・マネジメントのグローバルな運用が国際SCMの問題でもある。ここではサプライチェーンを理論的に説明しながら、国内システムからグローバルシステムへの発展プロセスを述べていく。

事前学習のポイント

物流・ロジスティクス・SCMを検索してみよう。講義後、クロネコヤマトの企業発展を図式化してみよう。

〈第2講〉国際SCMⅡ

詳細：ここではケーススタディとしてこの週では、国際ロジスティクス企業の進、FedExの事業内容企業を理解しよう。

事前学習のポイント

FedExを検索してみよう。講義後、空港を描いた映画「ターミナル」をみてみよう。

〈第3講〉国際M&AⅠ

詳細：1990年代以降、日本でもM&Aは一つの企業戦略として積極的に取り入れられるようになってきた。その歴史的背景を知ろう。

事前学習のポイント

M&Aを検索してみよう。講義後、買収劇がなぜ人々の興味を引くか考えてみよう。

〈第4講〉国際M&AⅡ

詳細：2000年代以降、恒常的高高によりM&Aは一つの企業戦略として積極的に取り入れられるようになってきた。その現状を知ろう。

事前学習のポイント

鉄鋼業やビール業界の国際M&Aをネット調べてみよう。講義後、2000年代における大型買収をネット調べてみよう。

〈第5講〉国際ブランディング管理Ⅰ

詳細：まず、この週ではブランドの定義から始め、その類型を説明していく。ブランドは理性的な巧術をもって企業はその構築に邁進するが、消費者レベルでは、非常に感情的な次元でとらえられる厄介な領域である。

事前学習のポイント

予習としてブランドを定義しているサイトをネットで見つけよう。講義後、どうすれば多摩大学がブランドかを考えてみよう。

〈第6講〉国際ブランディング管理Ⅱ

詳細：ブランドで有名な博識する多国籍企業を紹介していきたい。特に、そのブランド成立に至るクリティカルな時期をみていきたい。

事前学習のポイント

国際的なブランドであるレイ・ヴィトンのサイトをみてみよう。講義後、ユニクロのグローバルなブランド戦略を考えてみよう。

〈第7講〉国際法務

中国では「ソフト」を中心に違法コピーが出回っている。また、研究開発面においても特許をめぐって、アメリカ、ヨーロッパ、日本の企業が激しく裁判を争っている。なぜ、知識財産権がグローバルに問題とされるのか考えていきたい。

予習・復習のポイント

企業法務を検索してみよう。講義後、海外で課税金を支払わねばならなかった日本企業を調べ、その原因を探ってみよう。

〈第8講〉国際財務管理Ⅰ

詳細：国際財務観測は、本社・子会社間で取引で各国の物価水準・インフレ・資本コスト・為替リスク・税率および会計制度をグローバルに統合・管理する有効なシステム構築である。この週では国際資金調達に焦点をあてていきたい。

事前学習のポイント

財務という用語を検索してみよう。講義後、企業活動における財務の重要性を考えてみよう。

〈第9講〉国際財務管理Ⅱ

詳細：この週では、財務の戦略的機能についてのべる。一つはトランスファープライシング(振替価格)であり、もう一つはタックス・ヘイブン(税回避地)の選定である。

事前学習のポイント

国際財務を検索してみよう。講義後、企業活動のグローバルな財務展開について考えてみよう。

〈第10講〉国際会計

詳細：多国籍化された企業はどのように利益を財務諸表に表すのであろうか。本社・子会社間の会計上からの利益管理である連結経営とはどのように作成されるのか理論的に考究してみる。

事前学習のポイント

国際会計を検索してみよう。講義後、IFRSという新しい国際会計の流れをネット調べてみよう。

〈第11講〉国際経営戦略Ⅰ

詳細：この週ではSWOT分析とポーターのダイヤモンド図式を理解しながら、トヨタ自動車のレクサス市場参入を考えていく。

事前学習のポイント

予習・復習のポイント

ダイヤモンド図式戦略を検索してみよう。講義後、酒業界(ウィスキー・ビール・日本語・焼酎・ワイン)をめぐるダイヤモンド図式を構築してみよう。

〈第12講〉国際経営戦略Ⅱ

詳細：この週ではマッキンゼー社とマイケルポーターによるバリューチェーン分析を理解していく。このバリューチェーンをデルコンビュータにあてはめて、バリューチェーンという概念の理解をふかめよう。

事前学習のポイント

バリューチェーンを検索してみよう。講義後、バリューチェーンの図式をIT企業に適用してみよう。

〈第13講〉国際経営戦略Ⅲ

詳細：バリューチェーンを発展させた戦略モデル、VRIOのフレームワークを説明していく。VRIOとは、V(価値)、R(稀少性)、I(模倣可能性)、O(組織)をさす。このVRIOフレームを使用してアメリカの清涼飲料水メーカーの競争をみていきたい。

事前学習のポイント

VRIO戦略を検索してみよう。講義後、VRIOを使って仮想的な企業を設立してみよう。

〈第14講〉国際経営戦略Ⅳ

詳細：ここでは、製品の差別化戦略について述べていく。製品の差別化は単なるマーケティング戦略を超えて、国際経営の組織構造全体の問題になっている。競合製品を市場に送り出すことは、グローバルな能力戦である。ここでは、日産の新車種投入(製品の差別化)から、グローバルな組織改革をみていきたい。

事前学習のポイント

製品差別化を検索してみよう。講義後、製品の差別化戦略を多摩大学に適用してみよう。

〈第15講〉まとめ

事前学習のポイント

試験に備えて、配布されたコピーをチェックしよう。講義後、理解できない部分があったら積極的に先生に質問しよう。

■教科書

適時指示する

■指定図書

適時指示する。

■参考文献

特になし

■評価方法

相対評価

■評価基準

期末試験(60%)、小テスト(10%)、出席点(30%)。

(1)国際経営の歴史性を理解したかどうか。

(2)国際経営の多面性(政治・経済・文化)を理解したかどうか。

(3)国際経営の事業展開を理解したかどうか。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

適時、アドバイスする

科目名 国際経済〔International Economics〕

担当教員 下井 直毅

■講義目的

この講義では、最前線事例を紹介しつつ、国際経済をめぐる問題をとりあげる。国際経済は日本経済に大きな影響を及ぼしている。グローバル化という言葉をよく耳にするが、世界の経済状況がめまぐるしく変わる中で、その動きを理解することはとても大切である。日頃、目や耳にしている出来事や現象を通して、日本や世界を取り巻く産業社会における経済動向の仕組みやメカニズムについて学んでほしい。

■講義分類

ビジネス環境理解／グローバルビジネス

■到達目標

世界経済の現状と課題についての基本的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉国際化の中の日本

概要：日本経済の状況を概観する

事前学習しておくべき用語やポイント〔ボーダーレス化、グローバル化〕

詳細：日本を取り巻く世界の状況はどうなっているのかを学ぶ

〈第2講〉戦後の国際経済体制の流れについて

概要：戦後の国際経済体制の流れをおさえる

事前学習しておくべき用語やポイント〔先進国、途上国、新興国、GATT、IMF〕

詳細：GATT／WTOやIMFの役割は何かを学ぶ

〈第3講〉貿易の基本的メカニズムについて(1)

概要：貿易の基本的メカニズムについて理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔交易条件、絶対優位、比較優位〕

詳細：比較優位とはどういうものかを学ぶ

〈第4講〉貿易の基本的メカニズムについて(2)

概要：貿易の基本的メカニズムについて理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔ヘクシャー＝オリーの貿易理論〕

詳細：貿易理論はどのように変遷してきたかを学ぶ

〈第5講〉保護貿易や自由貿易の功罪

概要：保護貿易や自由貿易について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔関税、輸入数量制限、非関税障壁、貿易の利益〕

詳細：保護貿易や自由貿易とはどういうものか、どのようなメリットないしはデメリットがあるのかを学ぶ

〈第6講〉外国為替について

概要：外国為替について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔外国為替市場、為替レート〕

詳細：外国為替市場とはどういうものかを学ぶ

〈第7講〉為替レートの決定理論(1)

概要：短期の為替レートの決定理論について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔金利裁定〕

詳細：短期的な為替レートはどのような要因に依存するのかを学ぶ

〈第8講〉為替レートの決定理論(2)

概要：長期の為替レートの決定理論について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔購買力平価〕

詳細：長期的な為替レートはどのように決まると考えられているかを学ぶ

〈第9講〉為替相場制度について

概要：様々な為替相場制度について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔固定相場制度、通貨バスケット制度、変動相場

制度〕

詳細：どのような為替相場制度があるのか、それぞれのメリットやデメリットは何かを学ぶ

〈第10講〉国際収支表の見方(1)

概要：国際収支表の見方を理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔経常収支、貿易収支、所得収支〕

詳細：経常収支とは何か、日本はどのような状況なのかを学ぶ

〈第11講〉国際収支表の見方(2)

概要：国際収支表の見方を理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔資本収支、投資収支、直接投資〕

詳細：資本収支とは何か、日本はどのような状況なのかを学ぶ

〈第12講〉貿易摩擦について

概要：貿易摩擦の歴史を振り返る

事前学習しておくべき用語やポイント〔ダンピング、輸出自主規制、集中豪雨の輸出、セーフガード〕

詳細：日本の貿易摩擦の問題はどのように推移してきたのかを学ぶ

〈第13講〉GATT／WTOの原則と例外について

概要：GATT／WTOの原則と例外について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔自由貿易協定、農業自由化問題、セーフガード協定、FTA〕

詳細：GATT／WTOの原則および例外は何かを学ぶ

〈第14講〉開放経済における経済政策について

概要：開放経済における経済政策について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント〔財政政策、金融政策、マンデル＝フレミングモデル〕

詳細：開放経済の下では財政政策や金融政策はどういう効果を持つのかを学ぶ

〈第15講〉まとめ

概要：これまでの復習

事前学習しておくべき用語やポイント〔貿易、為替レート、国際収支、貿易摩擦、GATT/WTO体制〕

詳細：全体を通じて国際経済の知識が身についたかを振り返る

■教科書

特になし

■指定図書

講義中に紹介する

■参考文献

伊藤元重『ゼミナール 国際経済入門(第3版)』日本経済新聞社(2005)

■評価方法

試験(70%)、授業評価(20%)、宿題(10%)

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

2010年度以前の入学生は、「経済学基礎」の単位修得者により、また2011年度以降の入学生は、「産業社会論入門(経済)」の単位修得者に限り、履修登録ができる。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

科目名 コンピュータ概論〔Introduction to Computers〕

担当教員 出原 至道

■講義目的

この講義の目的は「コンピュータはどういう機械か」ということを学び、「情報技術の専門家ではないが一通り技術を知っている人」を育てることである。この講義によって、情報技術やコンピュータの雑誌記事・ニュースなどが理解できるようになることを目指す。この講義の主な対象は、「情報技術も一通り理解しています」と言えるようになりたい一般の学生である。情報技術を活用して勝負したい学生は、講義の中で、より深いテーマを話題として提供するので、各自自習の上で質問や議論を持ってきてもらいたい。ただし、これは成績評価とは無関係である。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

コンピュータに関する基礎的な用語が理解できていること。
コンピュータの仕組みがだまかに把握できていること。2進数などの演算の仕方が理解できていること。

■講義形態

講義のみ〔外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉 コンピュータの種類と構成要素

概要：コンピュータの種類にはどのようなものがあるか。また基本的な構成要素は何か？

詳細：

コンピュータの構成要素に実際に観察しながら、コンピュータの内部構造を学ぶ。

予習用語：中央処理装置、主記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置、CPU、ハードディスク、光ディスク、CD-ROM、DVD

復習のポイント：講義ノートを読み返し、用語の意味などをしっかり理解する。

〈第2講〉 コンピュータとは何か

概要：コンピュータとは何か。一般的な事項を学ぶ。

詳細：

パーソナルコンピュータとは異なる様々なコンピュータを学びながら、そもそもコンピュータとは何かを考える。

予習用語：コンピュータ、ハードウェア、ソフトウェア、プログラム、科学技術計算、パソコン、組み込み

復習のポイント：講義ノートを読み返し、用語の意味などをしっかり理解する。

〈第3講〉 ネットワーク

概要：ネットワーク技術について学ぶ。

詳細：

当たり前のように使っているネットワークだが、そもそものような仕組みで動いているのが実験を通して学ぶ。

予習用語：インターネット、TCP/IP、IPアドレス、IPv6、ネームサーバ、DNS、WiFi

復習のポイント：講義ノートを読み返し、用語の意味などをしっかり理解する。

〈第4講〉 内部データ(文字・数値)

概要：コンピュータ内部のデータについて学ぶ（その1：文字・数値）

詳細：

いまやコンピュータは、何の不思議もなく、文字や数値ばかりでなく画像や音声などを処理している。どのようにコンピュータ内部にデータが蓄えられているのか、実験を通して学ぶ。

予習用語：デジタル、デジタル化、文字コード

復習のポイント：講義ノートを読み返し、用語の意味などをしっかり理解する。

〈第5講〉 内部データ(画像)

概要：コンピュータ内部のデータについて学ぶ（その2：画像）

詳細：

小さな携帯電話でも、ほとんどの機種でカメラを搭載し、電話機上で画像処理をすることができる。画像データがどのようにコンピュータ内部にデータが蓄えられているのか、実験を通して学ぶ。

予習用語：可逆圧縮、不可逆圧縮、RGB、JPEG、GIF、PNG

復習のポイント：講義ノートを読み返し、用語の意味などをしっかり理解する。

〈第6講〉 内部データ(音楽・動画)

概要：コンピュータ内部のデータについて学ぶ（その3：動画）

詳細：

近年、動画や音楽をコンピュータ上で容易に扱うことができるようになった。技術的な展開や社会動向も含めて、コンピュータがどのようにこれらのデータを扱っているのか学ぶ。

予習用語：サンプリング、サンプリングレート、動画、ストリーミング

復習のポイント：講義ノートを読み返し、用語の意味などをしっかり理解する。

〈第7講〉 コンピュータ利用の歴史

概要：パソコンやオンラインリアルタイム処理など、今日一般的なコンピュータの利用形態を概観する。

詳細：

コンピュータを使った仕事のスタイルは、1台の大型コンピュータにデータをまとめて処理する集中処理から始まった。その中でもバッチ処理、オンラインリアルタイム処理、タイムシェアリングシステム(TSS)などの仕組みが開発され、使いやすいシステムに進化してきた。1970年代以降パソコンが普及することにより分散処理がさかんになってきた。さらに1990年代になるとインターネットによりパソコンが相互に接続され、個人の生活に大きな影響を与えるようになった。

予習用語：バッチ処理、オンラインリアルタイム処理、タイムシェアリングシステム(TSS)、集中処理、分散処理

復習のポイント：講義ノートを読み返し、用語の意味などをしっかり理解する。

〈第8講〉 二進数

概要：2進数とは何か、何故2進数がコンピュータの基礎なのかをここで学ぶ。

詳細：

「コンピュータの基礎は2進数」という言葉がよく使われる。

我々がふだん使っている数は10進数である。難所だが、実

験を通して学ぶ。

予習用語：2進数、10進数、16進数、8進数

復習のポイント：講義ノートを読み返し、用語の意味などをしっかり理解する。

〈第9講〉 論理演算

概要：「0か1か」は「真か偽か(true or false)」ということでもある。「真か偽」を扱う論理演算について学ぶ。

詳細：

論理演算は、コンピュータのもっとも基本的な処理である。NOT, OR, ANDなどの論理演算を、身近な例を通して学ぶ。真理値表、ベン図についても書けるようにする。ビットごとの論理演算についても触れる。ここが最大の難所だが、実験を通して学ぶ。

予習用語：論理演算、NOT, OR, AND, NOR, NAND, EQUIV, XOR, 真理値表、ベン図

復習のポイント：講義ノートを読み返し、用語の意味などをしっかり理解する。

〈第11講〉 数の表現

概要：さまざまな数値をコンピュータで扱う仕組みについて学ぶ。

詳細：

我々は数や文字を自由自在に扱っている。コンピュータもかなり自由に扱っている。コンピュータという機械が数や数字をどうやって区別しているのか？ また数を扱うという点からみるとコンピュータは実に多彩な数を扱っている。例えば100000000000(1000億)という数も扱えれば、0.000000000001(1000億分の1)という数も扱える。このように大小様々な数を平気で扱っている。その原理を学ぶ。

予習用語：整数、浮動小数点実数

復習のポイント：講義ノートを読み返し、用語の意味などをしっかり理解する。

〈第12講〉 マンマシンインターエース

概要：人間とコンピュータの接点、および図形や音の扱い方について学ぶ。

詳細：

コンピュータと人間が対話する仕組みがマンマシンインタフェース。それを支えるディスプレイやマウスについて学ぶ。

予習用語：マンマシンインタフェース、OCR、OMR、POS、EOS、ポインティングデバイス、フォント、ピクセル、カラー、CAD
復習のポイント：講義ノートを読み返し、用語の意味などをしっかり理解する。

〈第13講〉 オペレーティングシステムとプログラミング言語

概要：コンピュータを操作するための仕組みであるオペレーティングシステムと人間の意志をコンピュータに伝えるためのプログラミング言語について取り上げる。

詳細：

オペレーティングシステム(OS)とは、ほとんどの人が使っているにもかかわらず、その存在を意識することがあまりなソフトウェアである。OSについて、詳細を学ぶ。また、コンピュータを動かすための指示書であるプログラミング言語について概観する。

予習用語：OS、機械語、アセンブラ、プログラミング言語、ビジュアルプログラミング、コンパイラ、インタプリタ

復習のポイント：講義ノートを読み返し、用語の意味などをしっかり理解する。

〈第14講〉 コンピュータの歴史

概要：コンピュータの歴史を概観する。

詳細：

商品としてコンピュータが登場したのは1951年。そのときのコンピュータはパソコンといえるような代物ではなかった。どのような経緯でパソコンが生まれ、発展していったか。それを支え、コンピュータの基盤となった半導体技術の発展も概観する。

予習用語：自動織機、階差機関、解析機関、統計機、パンチカード、ENIAC、Stored Program方式、チューリングマシン、DRAM、SRAM、フラッシュメモリ

復習のポイント：講義ノートを読み返し、用語の意味などをしっかり理解する。

〈第15講〉 期末テスト

概要：全体を通して期末テストを行う。

詳細：詳細については別途連絡する。

予習のポイント：講義ノートや補足資料をもう一度全体的に読み直し、疑問点は質問して解決しておくこと。用語の意味を確実に説明できるようにしておくこと。コンピュータに関する様々な原理を理解しておくこと。2進数などの計算ができるようにしておくこと。ミニテストをもう一度解いておくこと。

復習のポイント：試験問題は持ち帰り、自分でもう一度解きなおしてみる。わからない点があれば質問して解決しておくこと。

■教科書

必要に応じて補足的な教材を配布する。

■指定図書

特になし。

■評価方法

学期末試験70%

ミニテスト・レポートなど30%

■評価基準

講義内容を理解しているか

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

コンピュータを持ってくること。

授業と並行して、日経コンピュータ、週刊アスキーなどの入門雑誌や、ITMediaなどのインターネットニュースサイトを読むことを推奨する。

科目名 コンピュータサイエンス〔Computer Science〕

担当教員 中村 有一

■講義目的

コンピュータの仕組みを深く理解するには、機械語を使った経験がカギになる。機械語はコンピュータの内部構造を反映したものであり、その可能性と限界を示すものでもある。このような視点から簡単な機械語のプログラムをすることを通して、コンピュータの構造を理解し、高度言語とのギャップを実感してやることから始めよう。数値をコンピュータで扱うための表現方法として2進数が使われるが、それはなぜか。またなぜ整数型と浮動小数点数型が主に使われるのかなど、単に仕組みがどうなっているだけでなく、その理由も考えてみよう。前半ではコンピュータの仕組みに重点が置かれるが、後半ではアルゴリズムとデータ構造を中心として、実際にプログラムを動かしながらコンピュータによる問題解決の手法を学んでいくことにする。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

ハードウェアの基礎を理解したうえで、基本的なアルゴリズムとそのプログラムを使いこなせる。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無し〕

■講義の概要

<第1講> コンピュータサイエンス入門

概要：コンピュータサイエンスとは何を扱うか、どのような問題があるかを概説する。

詳細：コンピュータサイエンス(計算機科学)の対象は非常に広く、その応用も広範囲にわたっている。ここではその全体像をつかむため、他の分野との境界領域も含めて概観する。

学習用語：コンピュータサイエンス

<第2講> ハードウェアの仕組み

概要：現在主流であるコンピュータのハードウェアの大きな仕組みを理解する。

詳細：コンピュータはさまざまな部品からできている。その役割を理解したうえで、全体としてどのような設計思想(アーキテクチャ)によって作られているかを考察する。

学習用語：ハードウェア、CPU、メモリ

<第3講> ソフトウェアの基礎

概要：ソフトウェアの役割、関連した用語などをまとめる。

詳細：ソフトウェアに関する基本的な知識を整理してまとめておく。オペレーティングシステム(OS)、言語処理系(コンパイラ、インタプリタなど)、ユーザインターフェースなどの意味を理解する。

学習用語：OS、言語処理系、コンパイラ、インタプリタ

<第4講> 演習環境の整備

概要：演習のための環境を整備する。

詳細：機械語でプログラミングできる環境とC言語の使える環境を、各自のノートパソコン上に構築する。

学習用語：なし

<第5講> 数値の表現方法

概要：2進数・16進数について理解する。

詳細：2進数について、その原理を理解し、10進数との変換、四則演算などについて解説する。ハードウェア的にどのように実現するについても検討する。16進数の扱いについてもふれる。また機械語やC言語でどのように扱われるか実験してみる。

学習用語：2進数、16進数

<第6講> 負数・固定小数点数の表現

概要：2進数では負数はどのように表現されるか。固定小数点数とはどのようなものか。

詳細：2進数では負数は、2の補数表現という手法であらわされることが多い。これにはどのようなメリットがあるのか考える。

学習用語：負数、2の補数、固定小数点数

<第7講> 浮動小数点数

概要：浮動小数点数について理解する。

詳細：浮動小数点数はなぜ必要になったのか。数値計算分野の基礎的な知識を踏まえて解説する。また実際にプログラムを動かして、その内部構造を調べる。

<第8講> 関数と再帰的定義

概要：関数の概念と再帰的定義の意味を理解する。

詳細：関数の基本的な仕組みを理解し、再帰的定義のメリットを考察する。応用としてはパズルを解く問題を考える。

学習用語：関数、再帰的定義

<第9講> ポインタと動的データ構造

概要：ポインタの仕組みを理解し、動的データ構造を作ってみる。

詳細：C言語のポインタは、初心者には理解しにくい概念である。実際にプログラムを動かしながら、ポインタの仕組みを理解する。

学習用語：ポインタ、動的データ構造、構造体

<第10講> 探索のアルゴリズム

概要：配列の中からデータを見つけ出す探索のアルゴリズムを学ぶ。

詳細：逐次探索と二分探索について、プログラムを動かしながら理解する。

学習用語：逐次探索、二分探索、番兵

<第11講> ソートのアルゴリズム(1)

概要：簡単なソートのアルゴリズムを紹介する。

詳細：バブルソート、選択ソートについて原理を理解する。また実際にプログラムを動かして確かめてみる。計算時間などについても考察する。

学習用語：バブルソート、選択ソート

<第12講> ソートのアルゴリズム(2)

概要：高速なソートのアルゴリズムを理解する。

詳細：クイックソート、バケットソートなど、高速なソートアルゴリズムについて原理を理解する。また実際にプログラムを動かして確かめてみる。計算時間などについても考察する。

学習用語：クイックソート、バケットソート

<第13講> 線形リスト

概要：線形リストと呼ばれるデータ構造について理解する。

詳細：線形リストは動的データ構造の中では単純な部類である。この仕組みを理解し、ソートなどに利用する。

学習用語：線形リスト、動的データ構造

<第14講> ツリー

概要：ツリーと呼ばれるデータ構造について理解する。

詳細：ツリーは動的データ構造の中では実用上もっとも重要なものである。この仕組みを理解し、ソートなどに利用する。

学習用語：ツリー、二分木、AVL木、Bツリー、動的データ構造

<第15講> 期末テスト

概要：全体を通して期末テストを行う。

詳細：資料などをもう一度体系的に読み直し、疑問点は質問して解決しておくこと。例題はすべて自分で打ち込んで動作を確認しておくこと。

試験問題は持ち帰り、自分でもう一度解きなおしておくこと。わからない点があれば質問して解決しておくこと。

学習用語：なし

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

授業中に適宜紹介する。

■参考URL

<http://www.rye.tama.ac.jp/hiki/?Lecture>

■評価方法

学期末末試験70% レポートなど平常点30%

■評価基準

相対評価 コンピュータの仕組みが実感として理解できているか。アルゴリズムとデータ構造の基礎が理解できているか、を評価する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

プログラミングに関する科目をすでに履修していることが望ましい。

科目名 コンピュータネットワーク活用[Utilization of Computer Network]

担当教員 中村 有一

■講義目的

ネットワーク技術は、いま世の中でもっとも必要とされる技術の1つである。単に概念を理解するだけでなく、具体的にネットワークにコンピュータを接続し、システムとして機能するようにしなければならない。さらに安定してネットワークを利用するには、セキュリティや信頼性の面にも配慮しておく必要がある。これらのことを、1つ1つ意味を理解しながらできるようにしていくのがこの講義の目的である。

受講にあたっては、基本的な用語とその概念を理解し、実習を通して、具体的なネットワーク構築に必要な知識を習得する。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

現在主流として使われているネットワーク技術TCP/IPの基礎的な仕組みを理解し、実際にネットワークを利用したり、トラブルに対処したりできるように、知識とスキルを身につける。

■講義形態

講義のみ[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉 プロトコルとは

概要：プロトコルとは何か。一般的な事項を学ぶ。

詳細：最初にイントロダクションとして、授業の全体像を提示する。

ネットワーク上のコミュニケーションを成立させるためのプロトコル一般の考え方と、そこで提案された標準化(7階層モデル・5階層モデル)、実装されたプロトコルとの違いなどを学習する。TCP/IPプロトコルとそれ以外のプロトコルについて概略を理解したうえで、TCP/IPにおけるデータ形式と受け渡し手順について学ぶ。

予習用語：プロトコル、OSI参照モデル、TCP/IP、パケット、ヘッダ、RFC

〈第2講〉 物理層、データリンク層の仕組み

概要：階層モデルで、下位の2層に対応する物理層とデータリンク層の仕組みについて学ぶ。有線LAN、無線LANの規格についても、現状と今後の方向性について理解する。

詳細：物理層、データリンク層について解説する。Ethernetの歴史的な発展の経緯についても学ぶ。インターネットのアクセスラインにはどのような種類があり、それぞれどのような利点・欠点があるのかを理解する。取り上げるものとしては、ADSL、VDSL、光ファイバ、CATV、無線LANなどである。具体的な配線の仕組みなどについても取り上げる。

予習用語：物理層、データリンク層、Ethernet、ADSL、光ファイバ、無線LAN

〈第3講〉 IPアドレスの仕組み

概要：ネットワーク層(IP層)について、その役割を理解する。

詳細：IPアドレスの割り当て、クラス、アドレスのビット構成(ネットワーク部とホスト部)などについて学ぶ。グローバルIPアドレス、ローカルIPアドレス、プライベートIPアドレスの違いを理解する。これに関連して、CIDRの仕組みを取り上げる。演習として2進数の計算、関数電卓の使い方を学ぶ。

予習用語：インターネット層、IPアドレス、グローバルIPアドレス、ローカルIPアドレス、プライベートIPアドレス、クラス、ネットワーク部、ホスト部、CIDR

〈第4講〉 IPアドレスの知識

概要：ブリフィックス、ネットマスクの概念、ネットワークアドレス、ブ

ロードキャストアドレスの意味について理解する。

詳細：ブリフィックス、ネットマスクと同一ネットワークの概念、ブロードキャスト・マルチキャスト・ユニキャストの違い、ループバックアドレスの意味などについて学習する。ネットワークアドレス、ブロードキャストアドレスの意味についても理解する。グローバルアドレスが、世界的にどのように管理・配布されているかについても触れる。演習としてコマンドプロンプトの利用法を実際に操作しながら学ぶ。Windows系のネットワークコマンドとしてipconfigを動かしてみる。

予習用語：ブリフィックス、CIDR表記、ネットマスク、サブネットマスク、ネットワークアドレス、ブロードキャストアドレス、ipconfigコマンド、ブロードキャスト、マルチキャスト、ユニキャスト、ループバックアドレス
〈第5講〉 MACアドレスとインターネット層のプロトコル

概要：MACアドレスとインターネット層のプロトコルARP、RARP、ICMPの仕組みを理解する。

詳細：MACアドレスとは何か、IPアドレスとはどのような関係にあるかなどの点を学ぶ。またこれに関連してインターネット層のプロトコルであるARP、RARP、ICMPというプロトコルについても、その仕組みを理解する。データリンク層に属するPPPおよびPPPoEなどについても学ぶ。16進数と2進数・10進数の変換を演習として取り上げる。またWindows系のarp, ping, tracert, pathpingコマンドについて、実際に操作しながら学んでいく。

予習用語：MACアドレス、ARP、RARP、ICMP、arpコマンド、pingコマンド、tracertコマンド、16進数、PPP、PPPoE

〈第6講〉 トランスポート層の役割とホスト名・ドメイン名の仕組み

概要：トランスポート層の役割について学ぶ。ホスト名・ドメイン名の仕組みと、その配布・管理方式について学習する。

詳細：トランスポート層において重要な役割を果たすポート番号の意味を理解した上で、この階層に属するTCP、UDPという2つのプロトコルについて、その役割と特徴を整理する。ポート番号の割り当てとセッションの管理についても学ぶ。ホスト名・ドメイン名の仕組み、ドメイン名の種類についても理解する。演習としてWindows系のnetstatコマンドについても、実際に操作しながら学んでいく。

予習用語：トランスポート層、TCP、UDP、ポート番号、ウェルノウンポート番号、コネクション、セッション、ウィンドウ制御、ホスト名、ドメイン名、FQDN

〈第7講〉 アプリケーション層の役割

概要：アプリケーション層が扱う代表的アプリケーションとそこで行なう仕事の概略について学ぶ。DNSとHTTPの仕組みを理解する。

詳細：DNSの基本的な仕組みや用語について学習する。また、実際の設定例などを取り上げながら解説していく。ウェブサービスにおいて広く使われているHTTPというプロトコルについて、概略の仕組みを学ぶ。またそこで使われるクッキーの概念についても理解する。HTTPSと呼ばれるセキュリティに配慮したウェブ用のプロトコルについても簡単に取り上げる。演習としては、Windows系のnslookupコマンド、hostnameコマンドを取り上げる。

予習用語：DNS、名前解決、正引き、逆引き、ルートDNSサーバ、HTTP、WWW、Webブラウザ、Webサーバ、クッキー、SSL、HTTPS、Web2.0
〈第8講〉 アプリケーション層のプロトコル(メール、FTP、文字端末)

概要：メールサーバの仕組みについて学習する。また、SMTP、POP、IMAPなどのプロトコルの役割についても学ぶ。さらにFTP、TELNET、SSHについても学ぶ。

詳細：メールサーバの仕組み(SMTP、POP、IMAP)について基本を理解する。また歴史的経緯についても考察する。セキュリティに配慮したAPOP、POP before SMTPなどの方式についても触れる。ファイル転送に使われるFTPの

仕組みを学ぶ。またPASVモードの意味について理解する。文字端末のプロトコルとしてtelnetとSSHの基本を学ぶ。演習としては、Windows系のtelnetコマンドによりWindowsマシンから、Linuxサーバに接続する仕方を実際に操作しながら学ぶ。応用としてtelnetを使ったメール送信の実験を行う。またftpコマンドの使い方を学ぶ。

学習用語：電子メール、メールサーバ、SMTP、POP、IMAP、SPAMメール、不正中継、SMTP拡張、POP before SMTP、FTP、匿名FTP、Passiveモード、ファイアウォール、telnet、SSH、ポートフォワーディング、文字コード
〈第9講〉 その他のアプリケーションプロトコル（DHCP、NNTTP、SNMP、NTP）

概要：その他のアプリケーションプロトコルの中から、DHCP、NNTTP、SNMP、NTPを取り上げる。

詳細：DHCPについては仕組みや使い方だけでなく、さらに管理者側の立場で設定方法などについても学ぶ。NNTTPと呼ばれる電子掲示板のような役目をするプロトコル、SNMPと呼ばれるネットワーク機器を管理するためのプロトコル、NTPと呼ばれる正確な時間を管理するためのプロトコルなどについて簡単に解説する。演習としては、Windows系のipconfigコマンドを使って、DHCPの設定情報を調べてみる。またTeraTermという端末ソフトの使い方を学び、Linuxマシンにログインする操作を実行してみる。

学習用語：DHCP、NNTTP、SNMP、NTP

〈第10講〉 ルーティングの仕組み

概要：ルーティングの仕組みの基本を理解する。各種ルーティングプロトコルの特徴を知る。

詳細：TCP/IPのパケットは、ルータにより経路選択を目的に送られる。このルーティングの仕組みについて、基本的な事柄を理解する。スタティックルーティングとダイナミックルーティングがどのように役割分担して利用されているか理解する。さまざまなルーティングプロトコルの中から、代表的なものとして、RIP、OSPF、IGRPなどを取り上げ、その特徴を解説する。演習としては、UNIX系のネットワークコマンドifconfig、arp、ping、tracerouteの使い方を学ぶ。

学習用語：ルーティング、ルータ、ブロードバンドルータ、経路選択、ゲートウェイ、ルーティングテーブル、メトリック、スタティックルーティング、ダイナミックルーティング、ルーティングプロトコル、ディスタンスベクタ方式、リンクステート方式、RIP、OSPF、IGRP、自律システム

〈第11講〉 アドレス変換の仕組み

概要：組織内のプライベートアドレスをインターネットの世界で使えるグローバルアドレスに変換するためのアドレス変換の仕組みについて理解する。

詳細：組織内のネットワークをプライベートアドレスで構築した場合、外の世界に出るには、グローバルアドレスに変換する必要がある。これをアドレス変換と呼んでいるが、1対1に対応させるNATと1対多に対応させるNAPT（IPマスカレード）という方式がある。これらの原理について説明する。またアドレスを固定して変換する静的NAT、静的NAPTについても解説する。演習としては、UNIX系のネットワークコマンドnetstat、nslookup、host、dig、hostname、whoisの使い方を学ぶ。

学習用語：アドレス変換、プライベートアドレス、グローバルアドレス、NAT、NAPT、IPマスカレード、静的アドレス変換、静的NAT、静的NAPT
〈第12講〉 プロキシサーバとファイアウォール

概要：インターネットに潜む危険性についてある程度認識したうえで、その対応策としてのプロキシサーバおよびファイアウォールについて解説する。詳細：インターネットには、ウイルス、スパイウェア、フィッシングなど、さまざまな危険性が潜んでいる。これらに対応するために、プロキシサーバやファイアウォールなどが使われる。これらの機能や、方式ごとの違いについて理解する。またファイアウォールを使ったネットワーク構成の例としてDMZモデルを取り上げる。

学習用語：プロキシサーバ、ファイアウォール、パケットフィルタリング方式、アプリケーションゲートウェイ方式、ステートフルパケットインスペクション方式、DMZモデル

〈第13講〉 VPNとIP電話

概要：VPNとそれに関連する技術を解説する。またIP電話の仕組み、通信品質の確保に関する話題を取り上げる。

詳細：VPNは、暗号化の技術を使ってインターネット上に仮想的な信頼性の高い経路を作るための仕組みである。インターネットはもともと信頼性の面でいろいろな問題を抱えているが、これにより組織内のネットワークの一部をインターネットで代替できるようになり、コスト的に大きなメリットがある。IP電話は、音声をデジタル化してインターネット上で通話ができるようにした技術である。通話の品質を維持するための仕組みについても学ぶ。

学習用語：VPN、トンネリング、広域Ethernet、IP電話、音声符号化、P2P、QoS、IPv6

〈第14講〉 パケットキャプチャ

概要：パケットキャプチャツールを使って、実際にネットワークを流れているパケットをキャプチャし、解析して見る。

詳細：ネットワーク上を流れているパケットを実際にキャプチャすることにより、実際にどのような仕組みで通信が行われているかを実感してもらうことが目的である。パケットをキャプチャするには、キャプチャ用のソフトをインストールする必要がある。そのインストール法から使い方まで一通り解説する。

学習用語：パケット、パケットキャプチャ、ヘッダ、IPアドレス、ポート番号

〈第15講〉 期末テスト

概要：全体を通して期末テストを行う。

詳細：資料などをもう一度全体的に読み直し、疑問点は質問して解決しておくこと。レポートを事前に提出しておくので、解いておくこと。用語の意味を確実に説明できるようにしておくこと。さまざまなプロトコルの仕組みを理解しておくこと。2進数などの計算ができるようにしておくこと。

試験問題は持ち帰り、自分でもう一度解きなおしてみる。わからない点があれば質問して解決しておくこと。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

渡邉郁郎 「TCP/IPをめぐる88問88答」オーム社(2010)

■参考URL

<http://www.rye.tama.ac.jp/hiki/?Lecture>

■評価方法

学期末試験70% レポートなど平常点30%

■評価基準

相対評価

技術用語を単に記憶しているだけではなく、的確にその意味を知っていて、どのような場合に何をやればよいかが分かって初めてネットワーク技術を習得したといえる。そういう観点から演習と試験の結果を評価する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

コンピュータを使った演習については、自分で必ず実際に動かしてみる。単に本を読むだけでは得られない知識が得られるはずである。

科目名 財務会計Ⅰ(Principle of Accounting Ⅰ)**担当教員** 清松 敏雄**■講義目的**

本講義は、産業社会論(会計)の内容に関する理解を深化させることが目的である。具体的には、財務諸表のうち、損益計算書と貸借対照表(特に資産)に焦点を当て、会計処理の背後にある理論をマスターすることが目的である。

■講義分類

ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

損益計算書および貸借対照表(特に資産)に関する論点を理解することが目標である。

■講義形態

講義のみ[学外学習無]

■講義の概要**〈第1講〉**

概要：イントロダクション。会計の種類と役割。

事前学習しておくべき用語やポイント[事前学習不要]

詳細：会計の役割や財務諸表の種類について解説する。

〈第2講〉

概要：損益会計の基礎

事前学習しておくべき用語やポイント[前回の内容を復習しておくこと]

詳細：発生基準・実現基準・費用収益対応の原則などの、損益計算の基本原則について解説する。

〈第3講〉

概要：損益計算書の区分と表示

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：損益計算書における区分および各区分の意味について解説する。

〈第4講〉

概要：貸借対照表の区分の表示

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：貸借対照表における区分および各区分の意味について解説する。

〈第5講〉

概要：資産評価の基本原則

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：取得原価・時価・割引現在価値について解説する。

〈第6講〉

概要：金銭債権の評価

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：金銭債権の評価について解説する。特に、貸倒引当金について解説する。

〈第7講〉

概要：費用性資産の会計処理とその背景にある考え方

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：費用性資産の会計処理とその背景にある考え方について、費用配分の原則を中心に解説する。

〈第8講〉

概要：棚卸資産

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：棚卸資産の費用配分について解説する。

〈第9講〉

概要：有形固定資産

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：有形固定資産の費用配分について解説する。

〈第10講〉

概要：低価基準(低価法)

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：低価基準について解説する。

〈第11講〉

概要：減損会計

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：有形固定資産等の減損処理について解説する。

〈第12講〉

概要：無形固定資産

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：無形固定資産の会計処理の背後にある考え方を解説する。

〈第13講〉

概要：繰延資産と研究開発費等

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：繰延資産の意義、研究開発費の会計処理の背後にある考え方を解説する。

〈第14講～第15講〉

概要：全体のまとめを行う。

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：講義全体を振り返り、全体像や個々の講義のポイントはどのようなものであったかを確認する。

■教科書

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

■参考文献

必要に応じて講義中に指定する。

■評価方法

講義の進行にあわせて実施するミニテスト・授業内テストにより評価する。

■評価基準

相対評価

損益計算書および貸借対照表(特に資産)に関する論点を理解していることを基準とする。

■事前履修科目等

産業社会論(会計)の単位を取得していることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する(ただし、授業内で行ったテストに参加していることを再試験の受験要件とする)

■留意点

「財務会計Ⅰ」は、秋学期に行われる「財務会計Ⅱ」の事前履修科目である。

科目名 財務会計Ⅱ(Principle of Accounting Ⅱ)

担当教員 清松 敏雄

■講義目的

本講義は、産業社会論(会計)および財務会計Ⅰの内容に関する理解を深化させることが目的である。具体的には、財務諸表のうち、貸借対照表(特に負債・純資産)の会計処理の背後にある理論をマスターすることが目的である。

■講義分類

ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

貸借対照表(特に負債・純資産)に関する論点を理解することが目標である。

■講義形態

講義のみ[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉

概要：イントロダクション。貸借対照表の概要の復習。

事前学習しておくべき用語やポイント[事前学習不要]

詳細：貸借対照表の全体像について解説する。

〈第2講〉

概要：財務会計Ⅰの復習

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：貸借対照表のうち、資産について解説する。

〈第3講〉

概要：負債会計その1

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：負債の中でも、特に金融負債について解説する。

〈第4講〉

概要：負債会計その2

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：負債の中でも、特に負債性引当金について解説する。

〈第5講〉

概要：負債会計その3

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：負債性引当金の個々の内容について解説する。

〈第6講〉

概要：負債会計その4

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：負債について、まとめを行う。

〈第7講〉

概要：純資産の構成要素その1

事前学習しておくべき用語やポイント[前回の内容を復習しておくこと]

詳細：純資産の分類や個々の項目の内容を解説する。

〈第8講〉

概要：純資産の構成要素その2

事前学習しておくべき用語やポイント[前回の内容を復習しておくこと]

詳細：損益計算書と貸借対照表のつながりを解説する。

〈第9講〉

概要：自己株式

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：自己株式の会計処理の背後にある考え方について解説する。

〈第10講〉

概要：その他有価証券評価差額金

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：その他有価証券の会計処理および評価差額金の会計処理の背後にある考え方について解説する。

〈第11講〉

概要：純資産に関する復習

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：純資産について、まとめを行う。

〈第12講〉

概要：株主資本等変動計算書その1

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：株主資本等変動計算書について解説する。

〈第13講〉

概要：株主資本等変動計算書その2

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：株主資本等変動計算書、損益計算書、貸借対照表のつながりを解説する。

〈第14講〉～〈第15講〉

概要：財務会計Ⅱのまとめ

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：財務会計Ⅱで取り扱った論点について、まとめを行う。

■教科書

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

■参考文献

必要に応じて講義中に指定する。

■評価方法

講義の進行にあわせて実施する授業内テストにより評価する。

■評価基準

相対評価

貸借対照表(特に負債・純資産)に関する論点を理解していることを基準とする。

■事前履修科目等

産業社会論(会計)の単位を取得していることが望ましい。また、財務会計Ⅱを履修することができるのは、財務会計Ⅰの単位取得者に限る。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する(ただし、授業内で行ったテストに参加していることを再試験の受験要件とする)

■留意点

なし

科目名 財務管理Ⅰ(Financial Management Ⅰ)

担当教員 清松 敏雄

講義目的

本講義は、企業が存続していくために不可欠な資金運用について概観することを通じ、財務管理の基礎的事項について検討を行っていく。講義を通じ、長期的な意思決定（設備投資の意思決定）についての知識および計算能力を身につけることが目的である。

講義分類

ビジネスマネジメント／社会人力育成

到達目標

資金運用の意思決定に関する知識および計算能力を習得することが目標である。

講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

講義の概要

(第1講)

概要：イントロダクション。経営意思決定の流れを解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔事前学習不要〕

詳細：経営上の意思決定にはさまざまなものがあるが、そのうち、財務上の意思決定について、その流れを解説する。

(第2講)

概要：設備投資の意思決定の基本的考え方について解説する。また、貨幣の時間価値を考慮しない方法について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔事前学習不要〕

詳細：意思決定を行うには判断基準が必要である。そこで、設備投資の意思決定の判断基準の概要を解説する。また、貨幣の時間価値を考慮する必要性（考慮しない場合の問題点）を解説する。

(第3講)

概要：貨幣の時間価値と割引計算について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：将来価値と現在価値とは何かを解説する。また、年金現在価値についてもあわせて解説する。

(第4講)

概要：正味現在価値法について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：正味現在価値は、将来におけるネット・キャッシュ・フローの割引現在価値から初期投資額を控除した額であるが、その計算方法について解説する。

(第5講)

概要：内部収益率法について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：内部収益率法は、NPVがゼロになるような割引率であるが、その計算方法について解説する。

(第6講)

概要：タックス・シールドについて解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：将来キャッシュ・フローの計算にあたって考慮すべき、法人税等の税金の影響について解説する。

(第7講)

概要：新規大規模投資の意思決定について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：新規大規模投資を行う場合において、どのように複数の選択肢の中から選択を行うかを解説する。

(第8講)

概要：取替投資の意思決定について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：取替投資を検討する場合について、新規大規模投資を行う場合と比べてどのような考慮事項が生じるのかを中心に解説する。

(第9講)

概要：リースが購入かの意思決定について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：リースを行うのが購入するの、どちらが有利であるかを数値例を用いて検討する。

(第10講)

概要：第9講までで取り扱っていない関連論点について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：特別注文引受可否、内製か購入かの意思決定などを取り扱う。

(第11講)

概要：資本コストについて解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：なぜ資本コストを考慮する必要があるのかを解説する。

(第12講)

概要：負債コストについて解説する

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：負債コストと節税効果について解説する。

(第13講)

概要：株主資本コストについて解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：株主資本コスト、配当割引モデルについて解説する。

(第14講～第15講)

概要：全体のまとめを行う。

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回までの内容を復習しておくこと〕

詳細：講義全体を振り返り、全体像や個々の講義のポイントはどのようなものであったかを確認する。

教科書

[1] 石原久士著『スッキリわかる日商簿記1級 工業簿記・原価計算Ⅴ 意思決定・特殊論点編』ITAC 出版

指定図書

[1] TAC 株式会社〔簿記検定講座〕編著『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級工業簿記・原価計算Ⅲ』TAC 出版

[2] 櫻井通晴著『管理会計(第4版)』同文館出版

参考文献

なし

評価方法

講義の進行にあわせて実施するミニテスト・授業内テストにより評価する。

評価基準

相対評価

複数ある選択肢（投資案）の中から適切なものを論理的な根拠をもとに判断・選択する能力が身に付けられているのかを基準に評価する。

事前履修科目等

産業社会論（会計）、初級簿記、財務会計Ⅰの単位を取得していることが望ましい。

卒業年次生対象再試験の実施

実施する（ただし、授業内で行ったテストに参加していることを再試験の受験要件とする）

科目名 財務管理Ⅱ(Financial Management Ⅱ)

担当教員 清松 敏雄

■講義目的

本講義は、企業が存続していくために不可欠な資金運用について概観することを通じ、財務管理の基礎的事項について検討を行っていく。講義を通じ、財務管理の基礎知識を得ることが目的である。

■講義分類

ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

財務管理の意思決定に関する知識および計算能力の習得をめざす。

■講義形態

講義のみ[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉

概要：イントロダクション。

事前学習しておくべき用語やポイント[事前学習不要]

詳細：財務管理Ⅰの復習をしつつ、財務管理Ⅱで取り扱う内容を紹介する。

〈第2講〉～〈第3講〉

概要：資金繰り表

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：資金繰り表の作成の仕方について解説する。

〈第4講〉

概要：キャッシュ・フロー計算書の基礎

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：キャッシュ・フロー計算書の概要について解説する。

〈第5講〉

概要：キャッシュ・フロー計算書の区分

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：キャッシュ・フロー計算書の区分の意味について解説する。

〈第6講〉～〈第7講〉

概要：営業キャッシュ・フロー

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：営業活動によるキャッシュ・フローについて直接法・間接法を解説する。

〈第8講〉

概要：投資キャッシュ・フロー

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：投資活動によるキャッシュ・フローについて解説する。

〈第9講〉

概要：財務キャッシュ・フロー

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：財務活動によるキャッシュ・フローについて解説する。

〈第10講〉～〈第13講〉

概要：ビジネスゲーム

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：価格決定等についての意思決定を行う。

〈第14講～第15講〉

概要：全体のまとめを行う。

事前学習しておくべき用語やポイント[前回までの内容を復習しておくこと]

詳細：講義全体を振り返り、全体像や個々の講義のポイントはどのようなものであったかを確認する。

■教科書

[1] 榊原茂樹・菊地誠一・新井富雄・太田浩司『現代の財務管理』有斐閣

[2] 滝沢ななみ『スッキリわかる日商簿記1級商業簿記・会計学Ⅲ』ITAC出版

■指定図書

必要に応じて授業中に指定する。

■参考文献

必要に応じて授業中に指定する。

■評価方法

講義の進行にあわせて実施するミニテスト・授業内テストおよびレポートにより評価する。

■評価基準

相対評価

財務管理に関する基礎的な知識と計算能力が備わっているかを基準とする。

■事前履修科目等

財務管理Ⅰの単位を取得済みであることが履修の要件である。産業社会論(会計)、初級簿記の単位を取得していることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する(ただし、授業内で行ったテストに参加していることを再試験の受験要件とする)

科目名 財務諸表分析〔Financial Analysis〕

担当教員 山原 克明

■講義目的

本講義は、財務諸表から得られる財務データを中心に、経営分析のために会計情報を適切に取り取り、使える知識・技法として習得することを目標としている。経営戦略、マーケティング、企業組織・文化、企業変革などにかかわる定性的な視点を加え、いろいろな事例やケースを用いて、企業の経営力(組織力・組織力をコアに生産力・販売力・財務力などを統合したもので、経営体(企業)の総合的な能力)の見方・分析・解釈・評価の手順や方法を知識として身に付ける。

■講義分類

ビジネス環境理解/ビジネス創造/ビジネスマネジメント/社会人力育成/地域ビジネス

■到達目標

財務諸表による定量的な会計データをコアに、経営資源(人・物・金・情報)にかかわる定性的な情報を加味して、企業の経営活動を読み解く。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習 無〕

■講義の概要

企業経営に関する情報は多方面から発せられている。これらの情報を分析するためには、企業が公表する財務諸表をみるのがよい。財務諸表に集められたデータは、企業の過去から現在に至るまでの実態を伝える信頼性の高い豊かな情報の源である。定量的(quantitative:数値データ)な会計情報を的確にとらえるとともに、経営活動に関する広い定性的(qualitative:数値以外)な知識を合わせて、企業の現状の価値を理解して未来を見通す取り組みが求められる。定量的な会計(アカウンティング)やファイナンス(Finance:資金＝資金の融通・財務＝資金の運用と関連に関する業務)面の解明から、数値を超えて、ストラテジー＝マーケティング＝カルチャー(組織文化)による定性的な面へと観察を深める。

世界は広がり、数値が静かに溜りかける。それが現れた過去 → それが現れている現在 → それが現れるだろう未来までを捉える。本講義では、多くの多様な会計情報が集約され(ディスクロージャー制度に裏打ちされ、過去と現在の経営状況が明らかにする。過去・現在の状況を理解するだけでなくどうとらえ、それは、企業の未来へのロードマップ上の道標の連なりでもある。[「リターン(利益)の最大化を計り、企業価値を高めているか?」、経営資源を「効率的・効果的にマネジメントしているか?」のこの問いかけに対して、羅針盤の針となる経営情報が把握できるように。

〔第1講～第3講〕 総論・企業の強さ・弱さ、高い収益力・安定した財務力の発見

ケースによる財務諸表の分析を通じて、企業内外の利害関係者が経営的な意思決定を行うための問題点を抽出する。さらに、改善案を提案し、企業成長発展のシナリオを策定するための経営情報を提供する。

○企業集団(グループ)特有の経営力の分析と解釈

企業経営の現状は、関連事業への進出、地域別販売会社の配置などにより、多角化・分社化が進んでいる。親会社と企業集団(グループ)の会計情報を統合した連結財務諸表により、企業集団としての全体像を分析する。あわせて、どのセグメントが収益力・安全性・成長性、将来の発展性に優れていたか、劣っていたりするかのを的確に判定する。

<予習・復習ポイント>

企業集団(グループ)特有の経営力の分析と解釈の意義を理解できたか。

〔第3講～第6講〕 収益性の分析と解釈 企業価値の理解

収益性とは、損益計算書(包括利益計算書)の項目の利益と売上高と総資産や自己資本との関係から、さまざまな利益率・回転率などを観察する。まず、投下した資本と利益の関係から総資産利益率(ROA)を算出して解析する。さらに、売上高と利益の関係から売上利益率に、売上高と総資産の関係から回転率に分解して、収益性と効率性の観点へと展開する。また、自己資本利益率(ROE)を算出して、株主の観点からの収益性を分析する。合わせて、企業の成長性を利益、売上高、設備投資、従業員数の推移や伸びから検討する。

○企業価値の評価 将来の見通し

企業価値について理解し、DCF法で評価できるようにする。また、企業価値を向上させるための考え方を明らかにするとともに、過去から現在に至る評価に基づいて、将来のあるべき企業姿を予測してあげる。

<予習・復習ポイント>

収益性の分析について理解し、計算・分析できたか。

〔第7講～第9講〕 安全性の分析と解釈

財務的な安全性(流動性)とは企業の支払能力(短期支払能力・長期支払能力)をいうが、貸借対照表(財政状態計算書)の各項目の関係からの安定性を検討する。あわせて、キャッシュ・フローの状況について、キャッシュ・フロー計算書に示されているキャッシュの諸活動から分析する。

<予習・復習ポイント>

安全性の分析について理解し、計算・分析できたか。

〔第10講〕 生産性(会社の物作り・サービスの効率を測る数値)の分析と解釈

生産性分析は、付加価値分析ともいわれている。付加価値を使って、企業の生産性を分析し、経営資源を投入して、どれだけの付加価値を生み出したかを検討する。

<予習・復習ポイント>

生産性の分析について理解し、計算・分析できたか。

〔第11講〕 損益分岐点の分析による利益を獲得する力の判定

費用を固定費と変動費に分解して、その構造の観点から利益に及ぼす影響を評価する。損益分岐点の売上高(Break Even Point)に基づき、目標利益を達成するためには、売上高をどれだけ伸ばせばよいのか、費用をどれだけ削減すればよいのかを検討して、経営管理の手段とする。

<予習・復習ポイント>

損益分岐点の分析について理解し、計算・分析できたか。

〔第12講～第15講〕 模範ケースの分析と解釈 - 論理、普遍的な考え方を学ぶ-

ケースに現れる経営のディテールは、さまざまな経営に関する「ロジックを考えるための材料、論理的な推論のシードを提供する。考えを巡らせ、自問自答してみれば、多様な戦略や戦術の有り様を手にすることができる。道宣、財務諸表分析によって得た指標の数値によって示される情報の枠をこえて、経営そのもののあり方や、経営理念・経営戦略・組織文化などを深く考え、「普遍性(universality)」を発見する。

<予習・復習ポイント>

ケースの分析を通じて、収益性、安全性の諸指標を計算し、経営のあり方、経営理念・

経営戦略・組織文化などを深く考え、ロジックの組立てができたか。

■教科書

山原克明著 『財務諸表分析テキスト』講義の要点を整理した講義用テキスト教材(冊子)

■指定図書

[1] 野村健太郎著 『連結企業集団の経営分析』(全訂版) 税務経理協会 [2] 高田直芳著 『明解経営分析バイブル』 講談社 [3] 大津広一著 『企業価値を創造する会計指標入門』 ダイヤモンド社 その他、講義のなかで指示する。

■参考文献

[1] 浜谷武志著 「経営分析の考え方」 中央経済社 [2] 落合俊彦著 「決算スーパー分析」(第3版) 金融財政事情研究会 [3] 経営戦略研究会著 「経営戦略の基本」 日本実業出版社 その他、講義のなかで指示する。

■参考URL

<http://info.edinet.go.jp/>

■評価方法

期末試験(50%) 小テスト・レポート(10%) 出席(40%)

■評価基準

相対評価

・期末試験 専門用語の意味を正確に理解し、結果の判定に適切に用いることができるか。

基本的な指標の算出法を理解し、数値を正確に判定し、論述する知識が身に付いているか。

・小テスト・課題 計算ロジックに基づいて、指標の算出が正しくできるか。簡潔な表現で、よく整理された構成になっているか。着眼点を正確に把握し、適切な分量で記述しているか。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

・講義では知識の積み重ねが求められるので、講義内容の確認のために小テストを行い、これを出席カードとする。・テキスト・資料・ノートなどに講義で理解した内容を記録し、これを基に予習・復習することが必要である。・課題、レポートは期日を厳守して提出する。・日ごろから経済記事、ニュースに関心を持っていることが望ましい。

科目名 財務報告〔Financial Reporting〕

担当教員 清松 敏雄

■講義目的

本講義は、将来、会計専門家(公認会計士、税理士、国税専門官、証券アナリスト、ファイナンシャルプランナー、コンサルタント、企業の経理マンなど)の職に就くことを目指して会計学をより深く研究していきたいと考える学生を対象に、「財務会計Ⅰ」や「財務会計Ⅱ」での理論的学習を基礎に、将来の実践の場で財務諸表から読み取った情報が活用できる知識・能力の取得を目指して、主に連結財務諸表と税効果会計の検討を行っていく。講義では、日商簿記検定1級の「商業簿記」及び「会計学」及びビジネス会計検定2級において要求される知識と会計処理能力を身に付けることを目指して、論点学習(INPUT)と問題演習(OUTPUT)を重ねていく。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

連結財務諸表の作成および税効果会計に関する基本的な理解を習得すること。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無し〕

■講義の概要

〈第1講〉 1 会計の意義と制度

概要：イントロダクション。会社法、金融商品取引法、法人税法など、関連する法について概観するほか、作成される財務諸表の種類について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：個々の法律において、どのような(会計関係の)書類を作成することが求められているのか。また、それぞれの趣旨は何かを解説する。

〈第2講〉 2 税効果会計の基礎

概要：税効果会計に関する基本的な考え方を解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：税効果会計はなぜ必要なのか。また基本的会計処理はどのようなものかを解説する。

〈第3講〉 3 一時差異

概要：税効果会計の処理が必要となる具体的項目を解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：税効果会計が適用されない差異はどのようなものか。また逆に、必要とされる差異はどのようなものかを解説する。

〈第4講〉 4 将来減算一時差異と将来加算一時差異

概要：将来減算一時差異と将来加算一時差異について、具体的項目を解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：将来減算一時差異と将来加算一時差異の相違は何か。また、具体例としてどのようなものがあるかを解説する。

〈第5講〉 5 その他有価証券に関する税効果

概要：その他有価証券の会計処理と、それに関連する税効果の処理を解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：その他有価証券に係る税効果会計は、他の項目に係る税効果会計とどのように異なるのかを解説する。

〈第6講〉 6 その他の論点

概要：税効果会計について、その他の論点を解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：税効果会計について、細かい論点にはどのようなものがあるか。また、どのように考えればよいのか。

〈第7講〉 7 連結財務諸表の基礎

概要：連結財務諸表に関する基本的な考え方および連結の範囲について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：個別財務諸表と連結財務諸表の相違は何か。また、連結財務諸表はどのような会社が範囲となっているのかを解説する。

〈第8講〉 8 投資と資本の相殺消去(1)

概要：資本連結について解説する。特に、子会社株式の取得時の情報をもとに行う会計処理について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：取得時における資本連結の処理はなぜ必要なのか。また、どのような処理を行うのかを解説する。

〈第9講〉 9 投資と資本の相殺消去(2)

概要：資本連結について解説する。少数株主持分を中心に解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：少数株主が存在する場合、資本連結の処理はどのようなものかを解説する。

〈第10講〉 10 投資と資本の相殺消去(3)

概要：資本連結について解説する。評価差額とその税効果について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：評価差額が存在する場合、どのような処理を行うのか。また、その際行う税効果の処理は、税効果会計の中でどのような位置づけなのかを解説する。

〈第11講〉 11 債権債務・収益費用の相殺消去

概要：取得後における会計処理のうち、債権債務の相殺消去と収益費用の相殺消去について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：債権債務、収益費用はなぜ消去するのかを解説する。

〈第12講〉 12 未実現利益の消去(1)

概要：連結財務諸表を作成するための未実現利益の消去について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：連結のために親会社子会社間の未実現利益を消去を解説する。

〈第13講〉 13 未実現利益の消去(2)

概要：連結財務諸表を作成するための未実現利益の消去とその負担について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：少数株主が存在することを前提に、消去した未実現利益の負担について解説する。

〈第14講〉 14 持分法

概要：関連会社に対する持分法の会計処理について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：持分法の会計処理を解説する。

〈第15講〉 15 まとめ

概要：全体のまとめを行う。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：講義全体を振り返り、全体像や個々の講義のポイントはどのようなものであったかを確認する。

■教科書

桜井久勝 『財務会計講義』 中央経済社

■指定図書

滝沢ななみ 『スッキリわかる日商簿記1級 商業簿記・会計学Ⅲ』 TAC出版

滝沢ななみ 『スッキリわかる日商簿記1級 商業簿記・会計学Ⅳ』 TAC出版

■参考文献

講義のなかで随時、指示する。

■評価方法

講義の進行にあわせて実施するミニテストにより評価する。

■評価基準

ミニテストの成績が上記のこの講義の到達目標に達したと判断された者に単位を付与し、ミニテストの得点順に成績評価する。

相対評価

■事前履修科目等

この講義の履修登録には、「財務会計Ⅱ」の単位が取得済みであることが必要である。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

講義のなかで随時計算演習を行うので、電卓を毎回持参すること。

科目名 産業社会論入門(経済学入門) [(Basic Economics)]

担当教員 下井 直毅, 椎木 哲太郎

■講義目的

この科目では現代産業社会の構造・メカニズムを学び、社会問題の解決に発展させていくために不可欠な分析装置である経済学の基礎を講義する。できるだけ現実の経済現象に目を向け、それを分析する枠組みとしての経済学を学んでもらえることを目指す。この講義の目的は、経済理論の構造を明らかにし、それによって自分の目で経済問題について考える力をつけるようになることに存する。経済学は社会科学の中で重要な位置を占める「経済生活」の学である。かつてイギリスの経済学者A・マルシャスは、経済学徒に「冷静な頭脳」と「温かい心」の必要性を説いた。現代社会は、経済学におお多くの役割を求めている。経済政策の運営、「安定成長の実現に失敗すると、深刻な政治的混乱がもたらされることは歴史の教訓である。是れ、そのことに想いを馳せて熱心に学んでいただきたい。そして、この科目を起点として、ミクロ経済学やマクロ経済学、金融論、国際経済学や経済統計学、日本経済論や社会経済政策、さらに各国経済論と、応用分野に至る広範な経済学の世界を学んで活かしていくてもらえることを目指す。(1)経済学とは (2)需要と供給 (4)(5)価格の決定とその変化 (6)(7)資源配分と所得分配の決定 (8)(9)政府の役割 (10)(11)国内総生産の決定 (12)(13)経済の変動と安定化政策 (14)経済成長 (15)まとめ

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／グローバルビジネス

■到達目標

経済学の基本的な考え方を身につけて、現代産業社会の現状や課題について考える力を身につけることをめざす。

■講義形態

講義のみ[学外学習無]

■講義の概要

【第1講】経済学とは「経済生活」希少性と資源配分

概要：経済学の概観を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【財・サービス、生産、消費、資源】

詳細：「経済学とは」という学問的な、産業社会を分析し、社会問題の解決に貢献する重要な「問題解決の美学」とあることを理解する。

【第2講】需要と供給(1)

概要：需要について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【需要曲線、需要曲線のソフト、代替財、補完財】

詳細：需要を決定する要因にはどのようなものがあるかを理解する。

【第3講】需要と供給(2)

概要：供給について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【供給曲線、供給曲線のソフト】

詳細：供給を決定する要因にはどのようなものがあるかを理解する。

【第4講】価格の決定とその変化(1)

概要：均衡の概念について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【均衡、超過需要、超過供給】

詳細：完全競争市場における財・サービスの価格はどのように決定され、需要曲線や供給曲線の変化によってどのように変化するのかを理解する。

【第5講】価格の決定とその変化(2)

概要：均衡がどのように変化するのを知る。

事前学習しておくべき用語やポイント【需要の価格弾力性、供給の価格弾力性】

詳細：供給曲線のソフト（移動）したときに価格がどのように変化するのか。「量作戦」は需要曲線と供給曲線を用いてどのように説明できるかを理解する。

【第6講】資源配分と所得分配の決定(1)

概要：資源配分と所得分配の概念について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【コリン・クラークの経済学、生産要素】

詳細：完全競争市場において、資源配分と所得分配はどのように決まるのか。20年後の日本の産業（構造）はどのようなものになっていると予想できるかを理解する。

【第7講】資源配分と所得分配の決定(2)

概要：所得分配の決定について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【賃金、地代】

詳細：人々の間の所得配分はどのように決まるのか。賃金の類型はなぜ生じるのか。経済の偏重の傾向はどのように変わっているのかを理解する。

【第8講】政府の役割(1)

概要：市場の失敗について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【市場の失敗、費用超過産業、公共財】

詳細：政府の役割にはどのようなものがあるのか。市場の機能がうまく働かないのはどのような場合なのか。数値や電話事業はなぜ民営化されたのかを理解する。

【第9講】政府の役割(2)

概要：政府の役割について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【外部性、所得再分配政策、社会保障制度】

詳細：外部性による市場の失敗や情報の不完全性にかかわる政府の役割とは何か。市場経済で生じた人々の間の所得格差を是正する所得再分配政策には何があるのか。公的年金制度はなぜ必要なのかを理解する。

【第10講】国内総生産の決定(1)

概要：国内総生産の概念を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【GDP、付加価値、国内総所得】

詳細：マクロ経済学とは何か。マクロ経済学には何があるかを理解する。

【第11講】国内総生産の決定(2)

概要：国内総生産の決定について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【有効需要の原理、総需要、総供給】

詳細：物価が変動しないとき、国内総生産と国内総支出はどのように決定されるのか。45線を使った経済モデルの意味を理解する。

【第12講】経済の変動と安定化政策(1)

概要：国内総生産の変動について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【経済成長率、投資乗数、自発的失業、非自発的失業】

詳細：なぜ国内総生産は変動するのか。投資乗数の意味を理解する。

【第13講】経済の変動と安定化政策(2)

概要：経済の変動要因や安定化政策について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【完全雇用、財政政策、金融政策】

詳細：国内総生産の変動を小さくして完全雇用を維持するためには、どのようなマクロ経済の安定化政策を採用すればよいのか。1990年代以降、日本政府は財政支出を増加させてきたが、それはなぜか。どのような問題を生じているのかを理解する。

【第14講】経済成長

概要：経済成長要因を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【人肉資本、市場経済、計画経済、高度経済成長】

詳細：供給サイドからアプローチしたとき、経済はどのような要因によって成長するのか。経済成長はなぜ必要なのかを理解する。

【第15講】まとめ

概要：これまでの流れを復習する

事前学習しておくべき用語やポイント【GDP、経済成長、付加価値】

詳細：明治時代以降、日本はどのようにして経済成長を行ってきたのか。高度経済成長期の成長要因は何だったのか。諸君の生きた時代は、なぜ成長が続いてきたのか。これからの日本経済はどのようにあるべきかを学ぶ。

■教科書

岩田規久男『経済学への招待』新世社(2007年)

■参考文献

伊藤元重入門『経済学』日本評論社(2009年)正村公宏『経済学入門21世紀型文明をどう築くか』筑摩書房(1999年)

■評価方法

期末定期試験(80%)、出席(20%)

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

・高校時代以来には学んでなかった科目であるため、ややとっつきにくい内容であるかも知れない。積み重ねが大切な科目であるので、授業に休まず、分らないことは質問し、予習・復習を欠かさないように努めることが必要である。・2004年度以降の入学学生は、この科目の単位を修得しないと、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「日本経済論」(2011年度入学生まで)が履修できない。・2008年度以降の入学学生は、この科目の単位を修得しないと、「国際経済」、「社会経済政策」(2011年度入学生まで)が履修できない。・2010年度以降の入学学生は、この科目の単位を修得しないと、「金融論」、「経済統計学」が履修できない。

科目名 産業社会論入門Ⅱ(会計)〔Introduction to Accounting〕

担当教員 金子 邦博

■講義目的

【企業活動を描き出す会計情報とその活用法を学ぶ】

本講義は、会計学を初めて学ぶ人を対象に、財務会計の社会的な役割と、財務諸表の作成プロセス、公表されている財務諸表を利用した企業の財務分析について学ぶことで、産業社会における最も基本的な情報システムである会計学の基礎を身につけることを目的としている。また、企業の外部にいる人たちにとって企業の会計情報に接する場合、まず新聞情報が入り口になるので、ビジネスマンの多くが読んでいる日本経済新聞を読みこせるようにすることを目指して、講義日の新聞記事を使いながら日本経済新聞の読み方、使い方についても学んでいく。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

企業活動を描き出す会計情報の意義とその活用法についての基礎的な知識の習得すること。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無し〕

■講義の概要

〈第1講〉 会計入門(1)

概要：利益を獲得するための企業活動の本質を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)企業活動の本質である取引の意義を理解する。

〈第2講〉 会計入門(2)

概要：企業活動の成果である利益獲得の仕組みを学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)利益獲得のための簿計盤としての会計情報の必要性を理解する。

〈第3講〉 Ⅰ 会計の機能と制度

概要：会計の枠組みを学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)会計の定義、会計の種類などの諸概念を理解する

〈第4講〉 Ⅱ 利益計算の仕組み

概要：企業会計のシステムを学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)発生主義会計における利益計算の考え方を理解する。

〈第5講〉 Ⅲ 企業の営業循環

概要：企業の営業循環について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)企業が儲けを獲得するために行う営業循環の仕組みを理解する。

〈第6講〉 Ⅳ 資産と損益計算

概要：資産に関する会計処理を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)補助資産と固定資産の会計処理を理解する。

〈第7講〉 Ⅴ 資産運用と資金調達

概要：余剰資金の運用の会計処理と資金調達について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)金融資産の会計処理とキャッシュ・フロー計算書、企業の資金調達方法を理解する。

〈第8講〉 Ⅵ 決算と税金

概要：会計情報を確定させる決算と企業が負担する税金について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)決算の仕組みと剰余金の配当、企業が負担する税金を理解する。

〈第9講〉 Ⅶ 企業活動と財務諸表(1)

概要：貸借対照表の構造を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)貸借対照表の基本構造と表示ルールを理解する。

〈第10講〉 Ⅶ 企業活動と財務諸表(2)

概要：損益計算書の構造を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)損益計算書の基本構造と段階別の利益計算構造を理解する。

〈第11講〉 Ⅷ 企業経営と会計情報

概要：企業経営における会計情報の利用を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)業務上の意思決定や設備投資計画における会計情報の利用を理解する。

〈第12講〉 Ⅷ 財務諸表の体系と公開

概要：企業会計のディスクロージャー制度を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)会計情報の開示制度を理解する。

〈第13講〉 X 会計情報の分析(1)

概要：収益性分析を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)財務分析の体系、収益性の分析指標の使い方を理解する。

〈第14講〉 X 会計情報の分析(2)、XI 外貨建取引

概要：安全性分析を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)安全性の分析指標の使い方と外貨換算の仕組みを理解する。

〈第15講〉 総まとめ

概要：問題演習を通じてこの講義の総復習をする。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)計算問題の解き方理論問題に対する答えのつくりかたを理解する。

■教科書

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

■指定図書

[1]谷武幸・桜井久勝「1から会計」 碩学舎・中央経済社 [2]桜井久勝・須田一幸「財務会計・入門」 有斐閣 [3]上野清貴「財務会計の基礎」 中央経済社 [4]稲盛和夫「稲盛和夫の実学一経営と会計」 日本経済新聞社 [5]幸坂正記「知識ゼロからの会計入門」 文芸春秋 [6]大版工商会館所「ビジネス会計検定 公式テキスト3級」 中央経済社

■参考文献

[1]後 正英「あまりにやさしい会計の本」 ダイアモンド社 [2]山田英夫・山根聡「なぜ、あの会社は儲かるのか?」 日本経済新聞出版社 [3]山田英夫・山根聡「なぜ、あの会社は儲かるのか? ビジネスモデル編」 日本経済新聞出版社 [4]金子智樹「同じモノを持っているのに、儲かっている会社、儲かっていない会社」 クロスメディア・パブリッシング

■参考URL

<http://faculty.tama.ac.jp/kaneko/>

■評価方法

期末定期試験の成績により評価する(100%)。ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受講態度に問題があった者に対しては、期末定期試験の成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

期末定期試験の成績が上記のこの講義の到達目標に達したと判断された者に単位を付与し、期末定期試験の得点順に成績評価する。

相対評価

■事前履修科目等

この講義の受講に際して、特定の科目の単位取得は条件とはしないが、講義の受講にあたっては、「産業社会論入門Ⅰ(経済)」が履修済みであることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

講義のなかで随時計算演習を行うので、電卓ないしPCを持参すること。この科目は、2012年度までの入学者に対する科目のため、2013年度入学生は履修登録することができない。また、この科目は、「会計学基礎」の科目名変更の講義科目なので、「会計学基礎」の単位取得者は履修登録することができない。

科目名 システムデザイン[System Design]

担当教員 中村 有一

■講義目的

システム設計において重要なことは、与えられた問題(システム化の要求)を抽象化し、それを最もうまく処理するモデルを選択することである。本講義では、ビジネスアプリケーションによく用いられる(おもに部品としての)モデルを紹介し、それらを当てはめて要求仕様を満たす具体的なシステム設計を行い、それを仕様書として作成する手順および記述法を実習形式で学ぶ。

■講義分類

ビジネス ICT

■到達目標

システム設計の基本的な方法が理解されていること。DFD、ERD、流れ図などの従来の図的表現手法に加えて、オブジェクト指向の設計手法UMLにおける図的表現(ユースケース図など)が描けるようになること。

■講義形態

講義のみ[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉 コンピュータシステムとは

概要：システムの設計に入る前提として、その対象となるコンピュータシステムについて概観しておく。

詳細：一般的なシステムの概念について定義したのち、コンピュータシステムおよびシステム化について論ずる。システム開発の手順についても簡単に触れる。コンピュータシステムの発展の歴史を振り返りながら、身近なITシステムとして、販売流通システム、銀行システム、鉄道システムを取り上げる。組み込みシステムについてもここで概要を把握しておく。

予習用語：システム、コンピュータシステム、システム化、システム開発、ダウンサイジング、オープン化、POS端末、ATM、非接触型ICカード、組み込みシステム

〈第2講〉 システム開発の工程

概要：システム開発工程の全体的な流れを学ぶ。また開発モデルによる違いを理解する。開発の各段階における仕様書とテストの関係について理解する。

詳細：まずシステムの規模を把握したうえで、それに適した開発の形態を決める。システム開発工程は、一般に上流工程と下流工程に分かれる。上流工程では、まず要求仕様から要件定義を行い、外部設計、内部設計、プログラム設計へ移行。下流工程では、プログラム作成、テスト、運用テスト、運用という手順となる。開発工程をどのように実行するかを決めるのが、開発モデルである。ウォーターフォールモデル、プロトタイプモデル、スパイラルモデル、アジャイルソフトウェア開発などのモデルがあり、状況に応じて選択される。

予習用語：システム開発工程、上流工程、下流工程、要求仕様、要件定義、外部設計、内部設計、プログラム設計、プログラム作成、テスト、運用テスト、運用、開発モデル、ウォーターフォールモデル、プロトタイプモデル、スパイラルモデル、アジャイルソフトウェア開発

〈第3講〉 上流工程(要求仕様から要件定義まで)と業務の図的表現手法

概要：システム開発上流工程の話はいはいる。上流工程における仕様書の意味について学ぶ。ここでは要求仕様書と要件定義書がどのようなものであるか理解することに重点が置かれる。

詳細：上流工程の最初の部分である要求仕様から要件定義まで流れを詳しく見ていく。要求仕様書は、ユーザ側がシステム化してつてどのような要望を持っているかを記述したものである。これをシステム開発側が分析して、設計者向けに整理しなおしたものが要件定義書である。

データの流を記述する手法であるDFD(Data Flow Diagram)について学ぶ。次にデータの関係を記述するERD(Entity Relationship Diagram)の書き方を習得する。

オブジェクト指向開発の手法であるUML(Unified Modeling Language)の中から、ユースケース図とアクティビティ図を取り上げる。ユースケース図は、システムの持つべき機能を記述するもので、アクティビティ図は、システムの動作を記述するものである。またユースケース図に加えて、それを詳しく説明するものとして、ユースケースシナリオとユースケース記述を書くことがある。

予習用語：要求仕様書、要件定義書、DFD、ERD、UML、ユースケース図、アクティビティ図、ユースケースシナリオ、ユースケース記述

〈第4講〉 外部設計の詳細

概要：外部設計とは、ユーザ側の人を知っておく必要のある項目を設計する。出力設計、性能面の設計、コード設計など

が含まれる。

詳細：外部設計の段階では、ユーザが直接対面する端末画面や帳票などを設計する。また応答時間などの性能面の設計も行う。この段階でよく利用されるHPO(Hierarchy plus Input-Process-Output)と呼ばれる手法、また処理の流れを記述するHCPチャートと呼ばれる手法を取り上げる。

コード設計として、コードの意味、コードの種類、誤り検出と、コードに関連する話題を取り上げる。また外部設計の残りの項目として、出力設計、入力設計、論理アーク設計を簡単に取り上げる。

予習用語：外部設計、出力設計、コード設計、HPO、HCPチャート、誤り検出、論理アーク設計

〈第5講〉 内部設計の詳細

概要：外部設計がシステムを外側から見た利用者の立場で作れるのに対して、内部設計は、それをどのように実現するかの詳細を設計することである。

詳細：内部設計の意味、手順を理解したうえで、物理データ設計とUMLによる設計について学ぶ。UMLでは、クラス図とオブジェクト図について紹介する。クラス図など理解するには、オブジェクト指向の基礎的な考え方が必要になるが、それについては次項で詳しく述べる。

予習用語：内部設計、物理データ設計、UML、クラス図、オブジェクト図、クラス、オブジェクト、インスタンス、操作

〈第6講〉 オブジェクト指向の基礎

概要：システム設計の視点から、オブジェクト指向に関する最低限の知識を習得する。また、簡単な事例をオブジェクト指向的にモデル化する練習を行う。

詳細：クラス図とオブジェクト図を理解するうえで必要となるオブジェクト指向の基本的な考え方について解説する。クラス、オブジェクト、カプセル化、継承、多態性などの概念について、一通り理解した上で、いろいろなものをオブジェクト指向的に捉える練習をする必要がある。

予習用語：オブジェクト指向、クラス図、オブジェクト図、クラス、オブジェクト、カプセル化、継承、多態性

〈第7講〉 プログラム設計とレビューの手法

概要：プログラム設計はプログラムを作成する直前の段階であり、ここでも準備すればプログラミングに取り掛かれる。レビューの方法についても学ぶ。

詳細：プログラム設計の考え方を学ぶ。ここではプログラムを階層的に分割する手法、モジュールの独立性と強度、モジュール間の結合度について概観する。またUMLの手法の中から、シーケンス図、コミュニケーション図、タイミング図、ステートマシン図を取り上げる。レビューの手法については、机上レビュー、ウォークスルー、インスペクションについて簡単に触れる。

予習用語：プログラム設計、モジュール、独立性、強度、結合度、シーケンス図、コミュニケーション図、タイミング図、ステートマシン図、レビュー、机上レビュー、ウォークスルー、インスペクション

〈第8講〉 システム開発の下流工程

概要：プログラムのコーディング、単体テストから運用テストに至る一連のテスト工程、運用・保守の考え方などについて学ぶ。

詳細：システム開発の下流工程には、プログラム作成、テスト、運用・保守の3つの段階がある。プログラム作成の段階では、手続型の開発手法の場合、構造化プログラミングの考え方を理解することが重要である。またオブジェクト指向開発の場合には、クラス図、シーケンス図から自動的にプログラムの骨組みを作成することができる。

テストには、ブラックボックステストとホワイトボックステストという大きく分けて2つの考え方がある。また単体テスト、結合テスト、システムテスト、運用テストという階級ごとの区別もある。

予習用語：下流工程、コーディング、テスト、運用、保守、構造化プログラミング、ブラックボックステスト、ホワイトボックステスト、単体テスト、結合テスト、システムテスト、運用テスト、テストドライバ、スタブ

〈第9講〉 UMLによる開発例(1)・・・要件定義の記述

概要：仮想的に情報システムの事例を使って、UMLの開発手法を例示する。

詳細：第1段階として、アクティビティ図を使った業務分析を行う。つづいてユースケース図を使って要求分析を行う。その他、画面設計などを行う。

予習用語：UML、要件定義、アクティビティ図、ユースケース図、要求分析、画面設計

〈第10講〉 UMLによる開発例(2)・・・システム内部構造と機能の定義

概要：データの構造を把握し、データベースを設計する。ユースケースからクラスを抽出し、分析クラス図を作成する。さらに分析シーケンス図を作成する。

詳細：データ中心アプローチ(DOA)の考え方に従って、データベースの設計を行う。抽出された実体をリソースエンティティとイベントエンティティに分けて整理し、互いの関係を把握したうえで、データベースの設計を行う。一方で、ユースケース記述からクラスを抽出し、分析クラス図を作成する。さらに分析シーケンス図を作成する。

予習用語：データ中心アプローチ、リソースエンティティ、イベントエンティティ、ユースケース、ユースケース記述、分析クラス図、分析シークエンス図

〈第11講〉 Java言語の基礎知識

概要：Java言語については、C言語との類似性が高いが、それ自身を学んだことのある人は少ないだろう。ここでは、最低限のJavaの知識を他の言語と比較しながら学んでいくことにする。

詳細：C言語にオブジェクト指向などの機能を追加して拡張したものに、C++という言語があるが、これはかなり大規模で複雑な仕様となっており、初心者向けではない。また合理的でない仕様をC言語から受け継いでいるところも多い。これをシンプルにする方向で改良し、インターネット時代に対応させたものがJavaである。この最低限の知識を得ることが目的である。

予習用語：Java言語、C言語、C++、オブジェクト指向

〈第12講〉 UMLによる開発例(3)・・・プログラムの設計

概要：UMLとJavaのソースコードとの対応関係を理解する。

詳細：具体的には、クラス図、シークエンス図、アクティビティ図とJavaのソースコードとの関係を考える。また、オブジェクト指向設計においてよく利用されるデザインパターンを使った設計の例を示す。

予習用語：UML、Java、クラス図、シークエンス図、アクティビティ図、デザインパターン

〈第13講〉 UMLによる開発例(4)・・・プログラムの実装と試験

概要：システムの中で簡単に実装できそうな部分を取り上げ、実際にコーディングを行い、実行してみる。また、テバッグについて一般的な知識を習得する。

詳細：例で取り上げられたシステムをすべてコーディングすることは困難なので、簡単な部分を取り上げて、実際にJavaのコーディングの事例として示す。テバッグおよびテストの手法についても、より具体的に整理しておく。

予習用語：実装、コーディング、テバッグ、テスト、JUnit

〈第14講〉 演習問題の答え合わせと解説

概要：これまでの実施したミニテストやレポートを返却し、正答を示して解説する。

詳細：なし

予習用語：なし

〈第15講〉 期末テスト

概要：全体を通して期末テストを行う。

詳細：資料などをもう一度全体的に読み直し、疑問点は質問して解決しておく。用語の意味を確実に説明できるようにしておくこと。試験問題は持ち帰り、自分でもう一度解きなおしてみること。わからない点があれば質問して解決しておくこと。

予習用語：なし

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

[1] 松永俊雄、中村太一、亀田弘之「コンピュータシステム開発入門」オーム社(2008)

[2] 平澤 章「オブジェクト指向でなぜつくるのか 第2版」日経BP社(2011)

■参考 URL

<http://www.rye.tama.ac.jp/hiki/?Lecture>

■評価方法

学期末試験70% レポートなど平常点30%

■評価基準

相対評価

本講義は設計仕様書が書けるようになることを目標とする。したがって、講義の最後までにはまとまった仕様書が書けるようになることを期待する。必要に応じて、仕様書の提出を要求する場合がある。このときは提出物も評価の対象とする。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義の中では、プログラミング言語Javaを前提としたシステム設計の説明をするが、必要に応じて他の言語での記述法に

も触れるのでプログラム経験は必要であるが言語は問わない。予習としては、予習用語について調べておく。これにより、授業中の理解度が高まるだろう。また疑問点があれば、事前に調べておいてもよい。復習は、配布される資料などを見直し、疑問点がないか確認すること。疑問点はできるだけ授業中に質問して、解決しておこう。

科目名 システム分析概論〔Systems Analysis〕

担当教員 下山 智明

■講義目的

この講義における“システム”とは情報システムを指す。情報システムを構築(開発)する最初の段階であり、現状の問題解決案を作り出すという重要な位置づけにあるシステム分析について学ぶ。模擬的な事例を通してDFDやERDといった技法を実践的に使い、システム分析の実感を味わってもらう。

- (1) システム分析とはどのような作業なのかを理解する。
- (2) システム分析作業はどのようなプロセスをたどり、各プロセスではどのような技法を使うのかを学ぶ。
- (3) システム分析で使うDFD、ERDなどの表現を理解し、読み取れるようにする。
- (4) システムを抽象化し、論理的に把握する方法を学ぶ。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

- (1) システム分析ドキュメントを理解し、現行もしくはこれから構築する将来のシステムについて概要を把握できる。
- (2) システム分析において資料の作成や整理などの作業ができる。

■講義形態

講義 + GW・PR〔学外学習なし〕

■講義の概要

〈第1講〉システム分析とは

概要：講義の内容と進め方

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：最初にシステム分析とは何か、その目的は何かを明確にする。また、本講義を通してシステム分析の対象として使う仮想企業“〈株多摩事務機販売〉”(以下、タマハン)の概要を紹介する。

到達目標：システム分析の意味と講義の進め方を理解する。

〈第2講〉システムを表現する

概要：システムを分かり易く他人に説明する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔システム、受注業務〕

詳細：タマハンの受注業務の内容を説明し、他人が理解できるように発表する。資料の作成や発表はグループ単位で行う。発表内容については、聴衆者(他グループ)により採点を受け、コンテスト形式で評価する。

到達目標：システムを第三者に理解してもらうための方法を考える。

〈第3講〉データフローダイアグラム1

概要：情報の流れに注目してシステムをDFDで表現する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔DFD〕

詳細：業務を表現する技法の1つ、データフローダイアグラム(DFD)の基本的な書き方を学ぶ。業務手順ではなくデータの流れに注目してシステム全体を捉える。

到達目標：DFDで利用する記号の使い方を理解し、簡単なシステムをDFDで表す。

〈第4講〉データフローダイアグラム2

概要：ミニ仕様書を使って各機能の詳細を表現する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ミニ仕様書〕

詳細：具体的な事例を使ってDFDの詳細を説明する。また業務内容を具体的に記述するミニ仕様書を学ぶ。

到達目標：DFDで表された業務を理解する。

〈第5講〉データフローダイアグラム3

概要：色々な情報をデータ定義で表現する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔データ定義〕

詳細：DFDで使われるデータを詳細に表現するために、データの構造を表現する記法であるデータ定義を学び、DFDドキュメントの体系を理解できるようにする。

到達目標：データ定義とDFDドキュメント体系を理解する。

〈第6講〉現行物理モデル

概要：タマハンの業務をDFDで表現する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔タマハン業務内容〕

詳細：タマハンの現行の業務を表したDFDドキュメントについて学ぶ。タマハンの業務をDFDドキュメント(DFD+データ定義+ミニ仕様書)で表現する。

到達目標：タマハンの業務内容の詳細な理解とDFDとの対比ができる。

〈第7講〉システム分析推進ステップ

概要：システム分析の全体像を把握する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔論理モデル、物理モデル〕

詳細：現行システムを抽象化し、それを元に新しいシステムを作り出すまでの一連の流れを説明する。論理モデルと物理モデルの違いについて説明する。グループ学習を通して論理モデルと物理モデルの違いを発表する。

到達目標：システム分析の推進ステップを理解する。物理モデルと論理モデルの違いを理解する。

〈第8講〉ERDとデータの正規化1

概要：ERDを使って情報と情報の関連を表現する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ERD〕

詳細：業務で使われている情報を表現する技法としてERDを説明する。また、カーディナリティ、オプションリティの概念を説明する。

到達目標：基本的なERDを解釈し、カーディナリティ、オプションリティを正しく解釈できる。

〈第9講〉ERDとデータの正規化2

概要：情報を正規化することで複雑な情報を整理する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔正規化〕

詳細：ERDで使う“実体”を求める技法として正規化の手法を説明する。タマハンで使われている帳票を正規化することで、本質的に必要な情報(実体)を抽出する。

到達目標：データを第1正規形、第2正規形、第3正規形へと変換できる。

〈第10講〉現行論理モデル1

概要：タマハンの現行業務をスリム化して本質を理解する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔正規化〕

詳細：タマハン为例として使い、現行物理モデルを抽象化し導き出す現行論理モデルを説明する。全ての帳票類を正規化することで重複する情報を統合し、本質的では無い作業を取り除くことで、現行業務の本質を捉える。

到達目標：正規化の結果から導き出される実体を見つけERDとして描く。

〈第11講〉現行論理モデル2

概要：タマハンの現行業務をスリム化して本質を理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント[タマハン業務内容]
詳細：タマハン为例として使い、現行物理モデルを抽象化し導き出す現行論理モデルを説明する。重複する情報を統合し、本質的では無い作業を取り除くことで、現行業務の本質を捉える。

到達目標：タマハンの物理モデルと論理モデルを対比して、なぜ変化したのかを理解する。

〈第12講〉将来論理モデル1

概要：タマハンの新しい業務の概要を作る。

事前学習しておくべき用語やポイント[タマハン業務改善案]
詳細：業務改善案を取り入れた新しいシステムの論理モデルを説明する。タマハンの事例を使って、どの様に業務を改善すれば目標を達成し、かつ効率よく仕事することが出来るかを導き出す(前半)。

到達目標：現行論理モデルと業務改善案を取り入れた将来論理モデルの違いを理解する。

〈第13講〉将来論理モデル2

概要：タマハンの新しい業務の概要を作る。

事前学習しておくべき用語やポイント[タマハン業務改善案]
詳細：業務改善案を取り入れた新しいシステムの論理モデルを説明する。タマハンの事例を使って、どの様に業務を改善すれば目標を達成し、かつ効率よく仕事することが出来るかを導き出す(後半)。

到達目標：現行論理モデルと業務改善案を取り入れた将来論理モデルの違いを理解する。

〈第14講〉将来物理モデル1

概要：タマハンの新しい業務の具体案を作る。

事前学習しておくべき用語やポイント[論理モデルと物理モデル]

詳細：将来論理モデルを元に、現実の業務に即した最終案、将来物理モデルを作成する。どの様に作業を行えば良いのか、どの部分をコンピュータで実現し、どの部分を人間が行うのか、と言った具体的な仕組みを導き出す(前半)。

到達目標：論理モデルとそれから導かれる物理モデルの違いを理解する。

〈第15講〉将来物理モデル2

概要：タマハンの新しい業務の具体案を作る。

事前学習しておくべき用語やポイント[システム分析推進ステップ]

詳細：将来論理モデルを元に、現実の業務に即した最終案、将来物理モデルを作成する。どの様に作業を行えば良いのか、どの部分をコンピュータで実現し、どの部分を人間が行うのか、と言った具体的な仕組みを導き出す(後半)。

到達目標：一連のシステム分析推進ステップで、どのようにシステムの構造が変化し、それはどのような理由によるものかを理解する。

■教科書

適宜資料を配布して講義する。

■指定図書

なし

■参考文献

[1]「構造化分析とシステム仕様」Tom DeMarco 著 高梨智弘・黒田純一郎監訳 日経マグロウヒル 1986

[2]「情報システムの分析と設計」G. Cutts 著 浦昭二監訳 培風館 1995

[3]「情報資源管理の技法-ERモデルによるデータベース設計

-」酒井博敬著 オーム社 1987

[4]「データ中心システム設計」堀内一著 オーム社 1988

主としてDFDに関する参考書が[1][2]で、ERDに関する参考書が[3][4]である。[1]はDFDに関する古典的な書物、[2]はDFD・ERDを含み、英国が設定したシステム分析標準手法 SSADM(Structured Systems Analysis and Development Methodology)の解説書。[3]がERD中心に書かれているのに対し、[4]はERDに関連してデータの標準化や正規化に詳しい。DFDについては、この他ソフトウェア工学、システム分析、システム開発、ソフトウェア設計開発に関する書物が、またERDについては、データベース関係の書物が参考になる。

■評価方法

日常課題点(練習問題、ミニテスト、レポートなど)と期末試験の2つで評価する。成績は課題50%、期末試験50%とし、合格率60%(予定)で評価する。出欠点は考慮しない。過程よりも結果重視型である。

■評価基準

課題は次の点を中心に評価する。

(1) 講義内容を理解しているか。

期末試験は次の点を中心に評価する。

(1) 分析対象のシステムを適切に理解できているか。

(2) システム分析の各段階がどのような役割を持っているかを適切に理解しているか。

(3) 技法を適切に理解し、利用できるか。

相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

出欠は取らないが少なくとも8割程度は出席していないと講義内容を理解することは難しい。就職活動などで欠席の場合は、欠席した講義内容に関してテキスト・配布資料の復習、質問や講義メモを入手する等で理解しておく必要がある。

科目名 自然科学概論 I(Introduction to Natural Science I)

担当教員 山本 博聖

■講義目的

地球は生まれて46億年経過している。地球の理解を通して、私たちの地球について様々な面からの考える力を養う。具体的に、太陽紫外線の働き、成層圏オゾンの役割とその将来、オゾンホールやオーロラ、また地球上での生命の歩みについても取り上げ、「地球に優しい」について考える。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

よく語られる「地球に優しい」の表現が何を意味するのか。地球に住み始めて数十万年しかない人類と、誕生から46億年経過し多くの極限状況を生きて抜いてきた地球の関係から、自分の言葉でその表現が適切かどうかを語る。

■講義形態

講義のみ

■講義の概要

〈第1講〉宇宙の中の地球

概要：本講義全体の流れを説明し、宇宙の誕生から地球の今までを概説する。

事前学習しておくべき用語やポイント[宇宙、地球]

詳細：私たちの住む地球についてじっくりと考えてみる。私たちの地球が含まれている銀河系は宇宙に数多くある銀河系のひとつである。そこにある太陽系、そして太陽系惑星の一つの地球に住む私たちと地球の関係を捉えるためにこれからの講義を活用する。

〈第2講〉太陽系誕生と太陽

概要：超新星爆発の残骸から生まれた太陽系とこの地球。母なる星の太陽の輝きの度合いによっては私たちは生まれてくることはなかった可能性もある。

事前学習しておくべき用語やポイント[星の最後と誕生]

詳細：137億年前に誕生したこの宇宙において星はその輝く程度に応じて一生の長さが決まる。多くの星たちはすでにその寿命をまっとうし、星のサイズによっては最終段階で超新星爆発とよばれる最後を迎える。超新星爆発の残骸から太陽系は生まれた。中心に輝く太陽、その周りをとりまく惑星系において太陽からの距離が丁度よい地球の環境を概説する。また月の形成についても学ぶ。

〈第3講〉大気中の様々な現象

概要：青空や雨上がりに見える虹、気がつくと思わず木漏れ日の形など身近で起こる様々な現象の多くは太陽からの光が生み出している。

事前学習しておくべき用語やポイント[可視光線]

詳細：空を見上げると青い。宇宙から地球を見ると青く輝いている。これらはすべて太陽からの光によってうみだされている現象である。赤く見えるりんごや絵の具の色など身の回りで色を感じることができるのはどうしてか。これらの関連性をもとに身近で起きる様々な現象を太陽と地球の視点から理解する。

〈第4講〉太陽紫外線 1

概要：太陽は私たちに無限大とも思えるエネルギーを供給している。太陽から地球に届く光のうち私たちに大きな害を及

ぼし得るのは太陽からの紫外線である。2回にわたって紫外線について考える。また、その後に太陽紫外線と大気オゾンとの関係についても学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[太陽紫外線]

詳細：私たちは太陽がなければ生きて行くことはできない。太陽は表面温度6000度ととても高い温度で光っている。太陽が放出している光で最もエネルギーが大きいのは眼で見える可視光線であり、同時に紫外線と赤外線なども出している。人類は地球に届く太陽紫外線とうまくつきあって生きてきている。紫外線のうち極めて生物に危険なUVCは大気中に生まれたオゾンによってブロックされ、私たちの住む地表には届かない。生物が陸に上がってきたのはオゾン層が形成された後であり、それは大気中に酸素が生まれた結果である。身の回りに降り注ぐ太陽紫外線の強度はいつ強いのか、一日でどの時間帯に注意しなければいけないのか、季節は、など常識と知っていることで間違いは案外多い。実際の観測結果をもとに説明する。

〈第5講〉太陽紫外線2

概要：前回と同じ

事前学習しておくべき用語やポイント[太陽紫外線との付き合い]

詳細：私たちはこれまで無意識に上手に太陽からの有害な紫外線と付き合ってきた。近年人々の生活はこれまでの暮らししていた土地を離れて広く地球全体へと広がっている。その結果これまで意識して来なかった太陽紫外線の害を受けることになった。私たちが気をつけるべきことは何か。注意すれば防げることが数多くあることを学ぶ。

〈第6講〉大気オゾン

概要：地球大気には極めて微量であるがオゾンが含まれている。このオゾンが大気に存在することで生物は地球上で生存可能となる。

学習しておくべき用語やポイント[大気オゾンと酸素]

詳細：太陽系惑星の中で地球だけに酸素が豊富に存在している。酸素は常に呼吸などで消費されているがほぼ同量が生まれている。酸素の存在によって大気にはオゾンが生まれた。太陽紫外線とオゾンの関係を理解し、成層圏オゾンの破壊がもたらす生物への危険性について学ぶ。

〈第7講〉オゾンホール

概要：南極のある時期に発生し数ヵ月後に消滅するオゾンホールの実態を学び、その原因は何かについても学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[オゾンホール、フロン]

詳細：今から30年ほど前、南極の昭和基地で得られた大気オゾン量の結果は南極でのオゾン量が南極の春から大きく減少していることを示していた。ほとんど英国基地でのデータからも同様の報告があり、その減少が通常の30%以下にまでおちこむことから「オゾンホール」と名付けられた。発生原因として大気中に放出されてきた人工のフロンであることが特定され、多くの努力により国際的な対策が実行され、その減少に歯止めがかかっている。

〈第8講〉授業内テスト

概要：前半で学習したことについて復習をかねてテストを実施

施する。

事前学習しておくべき用語やポイント[前半で学んだこと]
 詳細：穴埋め的な問題ではなく、これまで学んだことについて問う。A4版用紙に多くても表と裏に納まる範囲で与えられた課題について自分の考えをこれまで学んだことを踏まえて展開する。

〈第9講〉プレートテクトニクス

概要：地球の大陸はゆっくりとではあるが移動している。ウェゲナーの大陸移動の考えは当初はまったく評価されなかった。彼の取り上げた証拠が省みられず、彼の死後になってその考えをもとにしたプレートテクトニクスが成立した。事前学習しておくべき用語やポイント[大陸移動説、ウェゲナー]

詳細：今からおよそ3億年前にはパンゲアと呼ばれる超大陸が存在した。その後パンゲアはゆっくりと分裂をはじめ、赤道地域にあった南極大陸も3000万年前に現在の極地に移動し、氷の大陸となった。現在、地球は表面を10数枚の固い岩盤(プレートと呼ぶ)で覆い尽くされている。プレートはお互いにゆっくりと動くとともに、地球奥深くのマントルから新たな岩盤がつけ加わっている。プレートテクトニクス理論を学び、改めて地球の持つ偉大さを知る。

〈第10講〉スノーボールアース

概要：地球は氷河期を幾度も経験してきた。もっとも過酷な状況がスノーボールアースと呼ばれる全地球凍結である。事前学習しておくべき用語やポイント[スノーボールアース]
 詳細：地球全土が氷河で覆われていた時代があった。なぜそれが起こったのか、どのように地球は回復したのか。またこのスノーボールアースによって地球に何がもたらされたのか。様々な証拠の蓄積から地球がすべて氷で覆われていた時代があったことが明らかになったのはきわめて最近のことである。

〈第11講〉カンブリア爆発

概要：アメーバの世界でしかなかったこの地球上に突然多種多様な生物が誕生した。起きた時期をもとにこの現象を「カンブリア大爆発」と呼ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[カンブリア紀]

詳細：スノーボールアースからの脱却の直後にカンブリア紀は位置する。スノーボールアースが地球上に複雑な生命体をもたらしたことはほぼ間違いない。しかし、カンブリア紀のわずかな期間に多種多様な生命体が生まれたのか、その少し前からゆっくりと進んでいたのか、など論争が続いている。

〈第12講〉恐竜絶滅の隕石衝突説

概要：1億5千万年以上にも渡って地球を支配していた歴史上もっとも強大な恐竜は突然この地球上から消え去ることになる。その理由と証拠をもとに考察する。

事前学習しておくべき用語やポイント[恐竜、隕石衝突]

詳細：三畳紀から1億数千万年以上にもわたり恐竜は地球を支配していた。恐竜がこの地球上に存在していたことの発見や恐竜化石の発掘の戦いなどを紹介し、突然絶滅したその原因を探る。

〈第13講〉人類の出現

概要：我々ホモサピエンスは地球上に存在する唯一の人類である。祖先が地球に誕生してほぼ700万年、しかし人類としての文明はわずか1万年である。その人類が地球と共存できるのか、その発生から探る。

事前に学習しておくべき用語やポイント[ホモサピエンス]

詳細：恐竜全盛時代をひっそりと生き抜いた人類の祖先はその後多くの進化を経てホモサピエンスにたどり着いた。ホモ

サピエンスの登場は15万年前で、一時期ホモネアンデルターレンシスと共存していた時期もあったが、なぜホモサピエンスだけになったのか確たる証拠はまだ見つからない。地球と我々との関係をじっくりと考えたい。

〈第14講〉オーロラ現象

概要：地球で最も美しい自然現象の一つにオーロラがある。その命名からの歴史を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[オーロラ]

詳細：オーロラはなぜ光るのか。オーロラはどの高さで光っているのか。従来からのオーロラ研究の歩みに沿って学び、現在最も妥当と考えられているオーロラ発光機構を紹介する。オーロラが見える場所はどのように決まっているのか、わが国でも見えるのか、空からおりてくるカーテンや北から迫ってくるオーロラの仕組み、また見える季節はいつかなど次回とあわせて幅広く学ぶ。

〈第15講〉授業内テスト2

概要：後半で学んだことを中心に問う。

事前学習しておくべき用語やポイント[後半の復習]

詳細：問いかけの範囲は後半に学んだ個所で、問いかけや解答の形式は第1回と同じ。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

授業内で提示する

■評価方法

毎回の授業後に提出するコメントカードで授業参加度を見る(50%)、小テスト2回で理解度を見る(50%)

■評価基準

絶対基準

A+ 授業内容について十分理解し、それらを関連付けて自分の考えをもとに的確にその内容を表現し伝えることができる。
 A A+までは到達しないが個々のテーマについての確に内容を伝えることができる。

B 内容把握は的確だが、その内容を十分伝えるまでには到達していない。

C 学んだ内容について十分に理解していない。

F 著しく理解が不十分である。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

授業環境を乱すような行動には厳しく対処する。

私語や携帯使用などは厳禁とし、即刻退室を言い渡すこともある。

15分を超えての遅刻は入室を許可しない。

科目名 自然科学概論Ⅱ〔Introduction to Natural Science Ⅱ〕

担当教員 今井 竹夫

■講義目的

自然科学の一分野である生命科学について、一般的な原理から応用まで概説する。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

生命科学の基本的原理および最近のトピックスについての理解

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

① ～④

概要 生命科学の分子基礎(1)～(4): 生命科学の成り立ちを分子を中心にして解説する。

事前学習しておくべき用語: NA、タンパク質、RNA、酵素

詳細: 生物の細胞で行われている種々の活動を、分子(DNA、タンパク質、酵素、遺伝子等)の言葉で説明できるようにする。

⑤代謝

概要 細胞内で行われている代謝について学ぶ。

事前学習しておくべき用語: ATP、生体エネルギー

詳細: 細胞内代謝の具体的な例について学ぶ。例えば解糖、クエン酸回路、電子伝達系など。また如何にして生体エネルギーであるATPを生成しているかについて学ぶ。

⑥極限環境生物

概要: ヒトが住めないような環境で生き生きと生活している生物のはなし。

事前学習しておくべき用語: 高温、低温、高pH、高圧力など

詳細: 高温でのみ生育する生物が存在する。その最高温度は122度である。生物はこのよ

うな過酷な環境で如何にして生育しているのかについて概説する。

⑦生命の起源

概要: われわれ人間のルーツをずっと探っていくと、約40億年前の単細胞の生命にいきつく。このような生命はいかにして誕生したのかについて触れる。

事前に学習しておくべき用語: 地球の誕生、化学進化

詳細: 地球上の生命で一番最初に誕生した生命はいかなるものか。多くの研究を総合しそのルーツを探る。

⑧変異

概要: 生命が進化するときに必要なことは遺伝子変異を起こすことである。どのような変異があるのか概説する。

事前に学習しておくべき用語: 変異、遺伝子、活性酸素、チンマイ、

詳細: 生命がもつ遺伝子は必ず変異を起こす。その変異によっていかなる生命活動が変化するのか。具体例を示しながら説明する。

⑨喫煙

概要: タバコを吸う人は日本人は特に多い。どのような害があるのかについて説明する。

事前に学習しておくべき用語: ニコチン、習慣性

詳細: タバコには習慣性がある。その習慣性によっていろいろな病気になり、他人にも害を及ぼす。そのメカニズムについても触れる。

⑩iPS細胞

概要: 2012年にノーベル医学生理学賞を与えられた山中伸弥博士はヒトiPS細胞を作成に

成功した。その業績について述べる。

事前に学習しておくべき用語: iPS細胞

詳細: ヒトiPS細胞は万能細胞の一種で、21世紀の医療にとってなくてはならないもので、多くの治療不能であった病気を治せる可能性がある。その可能性について

のべる。

⑪ヒトの病気

概要: ヒトはいろいろな病気にかかる。その病気の原因は最近の研究により明らかになってきた。その原因について述べる。

事前に学習しておくべき用語: 精神疾患、がん、アルツハイマー病

詳細: 人が患う病気はいろいろであるが、近年多くの日本人が患う病気には、がん、精神疾患、心臓病、脳疾患、アルツハイマー病などがある。これらの原因と治療法について概説する。

⑫こころ

概要: ヒトの心はどのように調節されているのだろうか。その概要を述べる。

事前に学習しておくべき用語: ドーパミン、セロトニン

詳細: ヒトの心は小さな化学物質でコントロールされている。ドーパミンやセロトニンなどが代表例であるが、これらがどのようにして働いているのか。分子レベルでの解説を試みる。

⑬知能

概要: ヒトの知能はどのような仕組みで成り立っているのだろうか。概説を試みる。

事前に学習しておくべき用語: IQ

詳細: 知能は環境か遺伝か? IQ遺伝子の存在が指摘され、IQの一部は遺伝により決まっているともいえる。それらの研究の成果について述べる。

⑭総合

総論①～⑬のまとめ

⑮期末試験

一部はマークシート、一部は記述で、①～⑬の中味について判断する。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■評価方法

出席(20%)、コメントの内容(10%)、期末試験(70%)を基本とする。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名 実践的事業経営特講〔Practical Business Management〕

担当教員 村山 貞幸

■講義目的

日本のさまざまなビジネス業界は、業界固有の課題と日々戦いながら、あらゆる問題解決に挑んでいる。講義では、各業界からゲストをお招きし、その生々しい状況をご説明いただく。リアルな最前線事例を聴くことを通じて、さまざまな業界を具体的に理解することを目的とする。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成

■到達目標

- (1) 業界の現状、将来性を理解する。
- (2) 自分のキャリアと結びつけて、業界を理解する。

■講義形態

講義、
パネルディスカッション、
質疑応答〔学外学習無〕

■講義の概要

毎回さまざまな業界の企業からゲストスピーカーを招き、業界の概要についてご説明いただく。業界の経済、技術、顧客、競争、流通などの環境は無論のこと、その業界で働くということはどういうことなのか、具体的なイメージがわくように、詳細をご紹介いただく。

サービス業、IT、金融、ヘルスケア、物流、製造業（部品メーカーなど）、不動産業など幅広い業界を視野に入れていく。また、多摩を含めた地域ビジネス、あるいはグローバルビジネスを展開している企業が含まれる予定。

詳しくは、第一回講義にて提示する予定。

■教科書

講師の配布資料

■指定図書

講義の中で紹介する。

■参考文献

講義の中で紹介する。

■評価方法

試験 100%

■評価基準

試験評価基準

- (1) 業界が正しく理解されているか。
- (2) 自分の将来と結びつけて、業界が理解されているか。

相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- (1) 外部講師を意識した行動をとること。マナーに反する学生は退室させることがある。
- (2) 授業中の私語、携帯電話、飲食等授業を妨げる行為は禁止する。
- (3) 遅刻は認めない。

科目名 社会経済政策〔Social and Economic Policy〕

担当教員 榎木 哲太郎

■講義目的

「ポスト産業社会」を生きたる市民の生活の質を高めいくためには、成熟した「持続可能な社会」を実現するための体系的な社会経済政策が不可欠である。経済社会を完全に制御できるような万能性を持ち合わせている訳ではないが、政策選択を誤った場合には災厄が待ち受けていることは歴史が教えてくれる。企業活動においても、自国のみならず各国政府の時代を先取りした政策展開を予想することが重要となっている。また、市民生活に直結する労働政策や教育政策は言うに及ばず、社会保障政策や環境政策、さらには文化政策までもが経済と産業のあり方を規定するのが現代である。そうした重層的取組に立ち、広い視野から社会経済問題解決の学としての活用方法を習得したい。本講座は「グローバルビジネス」の系列に位置づけられている。日本より先に「産業化以後」の課題に直面することとなった欧米諸国の社会経済政策から学ぶべきことは多い。制度改革等の社会的イノベーションについて、豊富な知見を提供してくれる。また、日本に域いて高齢化や少子化の進むアジア諸国の取り組みに対しても、現状分析を踏まえた積極的提言が必要とだろう。そして、社会保障政策や国土・都市政策、農業政策等の動向は、その国の医療、福祉産業、住宅・建設産業、農業等のあり方を大きく左右することとなる。どこに成長の余地があるのか、参入機会が存在するのか、ビジネスを通して社会的課題の解決を志す近年のトレンド、そして多摩大学の方針とも合致した講義と言えよう。福祉・介護・医療関連の仕事を目指す諸君にとっても必ずや有益な講義となるだろう。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／グローバルビジネス

■到達目標

経済成長政策と両立する社会保障政策を中心に幅広い社会経済政策を学ぶことによって、成熟した「持続可能な社会」を実現するための総合的な視点を身に付け、狭い利害に捉われることなく、地球市民、主権者たる日本国民として連帯し、高い志を持って積極的に行動・貢献することができるようになる。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉成熟社会と社会経済政策

概要：成熟社会の課題と、社会経済問題の解決を志向する「経世済民」の学としての社会経済政策の特徴を明らかにする。
事前学習しておくべき用語やポイント〔社会経済政策、非物質的価値、sustainability、国際公共財、ソーシャル・キャピタル、政策レーム〕
詳細：社会経済政策とは何か。成熟社会の政策的課題とは何か。我々の直面する「持続可能性の危機」とは何か。成熟社会にあては、なぜ「社会経済政策」が必要なのか。「経済」と「社会」の関係について考える。

〈第2講〉経済成長の意義と理論

概要：経済成長の意義と理論について考察を深める。
事前学習しておくべき用語やポイント〔成長会計、全要素生産性、イノベーション、新古典派成長理論、定常状態、内生的成長理論〕
詳細：成熟社会にあって高度成長は資源環境問題の点から論外であるが、一定の経済成長はなぜ必要とされるのか。経済学の提起した経済成長理論は、経済成長のメカニズムについてどこまで解明できているのか。新古典派成長理論、内生的成長理論について検討する。

〈第3講〉経済成長政策

概要：経済成長を促進するための経済政策について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント〔研究開発、スピンオフ、外部効果、産業集積〕
詳細：経済成長率を経済政策によって上昇させることは可能か。経済成長を促進するための経済政策に関して、重要とみなされる諸要因を検討し、効果的な成長政策の政策手段を探る。

〈第4講〉産業政策

概要：産業政策と経済成長の関係について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント〔産業政策、ターゲットング政策、租税特別措置、R&D減税、政策金融、官民ファンド、国力〕
詳細：産業政策とは何か。日本やアジア諸国の高度経済成長に産業政策はどれほど寄与したのか。各国の産業政策の実態と効果を検討する。ターゲットング政策は成長促進的な産業政策か？

〈第5講〉貿易・通商政策

概要：経済成長と貿易の関わり、貿易・通商政策について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント〔比較優位、要素価格均等化定理、直接投資、技術移転、幼稚産業保護論、戦略的貿易理論、WTO、FTA〕

詳細：経済成長と貿易の関わりについて考える。国際公共財としての貿易ルールについて考える。成長促進的な貿易・通商政策とは？自由貿易協定のあり方とは？自由貿易はあらゆる場合において望ましいのか。

〈第6講〉国際協力・開発援助政策

概要：地球社会が共存していくための国際協力、開発援助政策について考える。
事前学習しておくべき用語やポイント〔輸入代替政策、輸出指向政策、ODA、借款、構造調整政策、レミニマム開発目標、マイロフィアティナス、BPOビジネス〕
詳細：国際協力・開発援助政策とは？アジア諸国とアフリカ諸国の成長戦略の違いは何だったのか。途上国の経済成長に効果的な経済政策とは？農業政策をどう位置づけるか。日本（先進国）は国際協力において何をすべきか。

〈第7講〉農業政策

概要：先進産業社会における農業政策を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント〔生産調整、農業補助金、参入障壁、食料自給率、第二種農業農家、戸別所得補償〕
詳細：農業は多面的機能を持つ。環境安全や食料自給の観点からも重視されねばならないが、途上国の輸出産業である点も見逃せない。先進国に相応しい産業としての農業のあるべき姿とは？EUの農業政策は？日本農業改革の道筋は？

〈第8講〉金融システムとブルーテンズ政策

概要：経済成長の基盤となる国際公共財としての金融システムの健全維持について検討する。
事前学習しておくべき用語やポイント〔ブルーテンズ政策、マクロブルーテンズ政策、システミック・リスク、自己資本比率規制、バーゼルIII、預金保険制度、ペイオフ、金本位制、フレントゥス体制、マンテルの実現不可能な三角形〕
詳細：通常の金融政策、マネタリー政策では対応できない金融システム不安、金融危機にどう対処すべきか。事前的な政策、事後的な政策についてそれぞれ検討する。世界恐慌の原因は何か。なぜ金融危機と不況が深刻化したのか。世界恐慌からの政策的教訓は何か。それはその後の経済政策に十分に活かされてきたか。アジア通貨危機やリーマンショックからの教訓は？

〈第9講〉労働政策

概要：持続可能な社会に相応しい労働政策を検討する。
事前学習しておくべき用語やポイント〔ワークシェアリング、ワークライフバランス、ワークフェア、積極的労働政策、flexicurity、協同労働、ワーカースコップ、ティーンワーク〕
詳細：それぞれのライフステージにおいて多様な働き方を選択できる労働市場のあり方とは？オランダモデルとは？協同労働の可能性について考える。少子化や若年失業率の上昇が進む中で、依然として男性正社員中心の日本の労働政策について検討する。

〈第10講〉国土・都市政策

概要：良好な生活環境の創出につながる空間利用のあり方を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント〔国土計画、都市計画、容積率、コンパクト・シティ、サステナブル・シティ、景観法、ビークロード・プライシング〕
詳細：大きな外部効果を持つ空間の利用には、政策的対応（規制や自然環境・景観の保全と創出）が不可欠である。中央と地方、都市と農村、都心と郊外、それらの関係は？経済成長・生活の質（快適な環境）と不可分な都市政策のあり方を考える。

〈第11講〉社会保障政策（1）

概要：社会保障の創製、社会保障と経済成長の関係について考える。福祉レジーム論に依拠して欧米諸国やアジアの社会保障政策を検討する。
事前学習しておくべき用語やポイント〔ジニ係数、逆選択、社会支出、自由主義（アングロサクソン）レジーム、保守主義（大陸ヨーロッパ）レジーム、社会民主主義（スカンジナビア）レジーム〕
詳細：社会保障の役割とは何か。単なる弱者救済ではなく、広くリスクをシェアする社会的共同事業であることを理解する。社会保障と経済成長との関係を考察する。エスポニ・アンテルセンの福祉レジーム論を概観する。「人生前半の社会保障」について。

〈第12講〉社会保障政策（2）

概要：年金制度・医療政策・生活保護制度を中心に社会保障と経済成長の関係を考える。
事前学習しておくべき用語やポイント〔積立方式、賦課方式、負の所得税、給付付帯型給付、ワーキングプア、ベーシック・インカム、国民皆保険、診療報酬、出来払い方式、モラルハザード、ゲートキーパー制、プライマリーケア〕
詳細：「税と社会保障の一体改革」の必要性に関して年金制度を中心に検討する。持続可能な年金制度とは？医療制度の国際比較を眺める。生活保護制度について考える。フリードマンの提唱した「負の所得税」とは？医師不足問題や老人医療費

問題を検討する。日本の医療産業の成長を阻害する要因は何か？

〈第13講〉社会保険政策(3)

概要：介護と障害者福祉等、福祉政策について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント【ノーマライゼーション、社会的包摂、社会的企業】

詳細：社会福祉政策、地域福祉のあり方を考える。介護と障害者福祉のあり方を考える。福祉・医療ビジネスの直面する課題と可能性について考察する。社会的包摂を進めるためのEUの社会的企業育成政策を検討する。

〈第14講〉少子化対策・教育文化政策

概要：少子化政策、教育文化政策について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント【合計特出生率、女性労働力率、ワークライフバランス、ITテンマークの出版休業均等法、育児手当、公的教育支出】

詳細：少子化対策、人口政策はなぜ必要か。どのような政策が効果的か。成熟社会の教育政策とは？潜在能力を開花させ、キャリア形成につながる教育とは？「文化政策」の重要性について。

〈第15講〉社会経済政策の有効性

概要：成熟社会における社会経済政策の有効性について捉える。

事前学習しておくべき用語やポイント【経済成長政策と社会保険政策】

詳細：これまでの講義を踏まえ、途上国との関係を視野に入れた上で、成熟社会におけるトータルな社会経済政策の体系性、整合性を検討する。日本社会に必要なとされる社会経済政策を提言する。

※「持続可能性」の問題と地球環境政策は不可分である。幸い日本にはそうした問題を扱う講座が存在する上で、関心のある読者には聴講を進めたい。時間が許されれば、本講座でも是非検討してみたい。

履修者少数の場合は、授業時間内試験を行う。レポートに替える場合もある。

■教科書

使用しない。

■指定図書

水島治郎 (2012) 『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波書店

■参考文献

(日本経済論)も参照のこと

[1] イングー・カール/イザベル・グリンベルグ/マーク・A・スターン編[ASD]国際開発研究センター訳「1999」『地球公共財 グローバル時代の新しい課題』日本経済新聞社

[2] C.R. キンドルバーガー「吉野俊彦・八木甫訳」(2004)『熱狂、恐慌、崩壊 金融恐慌の歴史』日本経済新聞社(原著第4版:2000)

[3] 秋元英一(2009)『世界大恐慌』講談社学術文庫(原著:1999)

[4] 林敏郎(1988)『大恐慌のアメリカ』岩波新書

[5] 眞目雅人(2009)『世界恐慌と経済政策』日本経済新聞出版社

[6] 若田部昌彦(2009)『危機の経済政策 なぜ起きたのか 何を学ぶのか』日本評論社

[7] B・スノードン+H・R・ヴェイン(岡地勝二訳)(2001)『マクロ経済学はどこまで進んだか』東洋経済新報社(原著:1999)

[8] ミルトン・フリードマン+アンナ・シュワーツ「久保美恵子訳」(2009)『大恐慌1929-1933』米国金融史(第7巻)日経BP社

[9] ビーター・テミン「猪木武徳他訳」(1994)『大恐慌の教訓』東洋経済新報社

[10] 竹森俊平(2002)『経済論戦は終る』東洋経済新報社

[11] 竹森俊平(2006)『世界テフレは三度来る』(上・下)講談社

[12] 竹森俊平(2007)『1997年-世界を変えた金融危機』朝日新書

[13] 竹森俊平(2008)『資本主義は壊れていますか？それともマナーは世界を動かす』日本経済新聞出版社

[14] 竹森俊平(2010)『中央銀行は聞く:資本主義を救えるか』日本経済新聞出版社

[15] 翁百合(2010)『金融危機とブルーテンズ政策:金融システム、企業の再生に向けて』日本経済新聞出版社

[16] 若田部昌彦(2004)『昭和恐慌の研究』東洋経済新報社

[17] 高橋亀吉・森垣淑(1993)『昭和金融恐慌史』講談社学術文庫

[18] 星岳雄+A.カジャップ「魏淵賢訳」(2006)『日本金融システム進化論』日本経済新聞社

[19] 安達建司(2006)『脱テフレの歴史分析「政策レジーム」転換でたどる近代日本』藤原書店

[20] 田中隆之(2009)『金融危機にどう立ち向かうか？失われた15年の教訓』ちくま新書

[21] 黒田東彦(2009)『前次金融政策の成功と失敗』日本評論社

[22] 「世界銀行」白鳥正正監訳/海外経済協力基金開発問題研究会訳「(1994)『東アジアの奇跡 経済成長と政府の役割』東洋経済新報社

[23] ケン・B・カルダー「谷口智訳」(1994)『戦略的資本主義 日本型経済システムの本質』日本経済新聞社

[24] 二輪芳樹+J・マーク・ラムザイヤー(2002)『産業政策論の展開』東洋経済新報社

[25] 戸堂憲之(2008)『技術伝播と経済成長 グローバル化時代の途上国経済分析』勁草書房

[26] ミレヤ・ソリス+スパーバ・スターリング+片田直子「おりぬ」(2010)『アジア太平洋のFTA競争 Free Trade

Agreement』勁草書房

[27] 本間正義(2010)『現代日本農業の政策過程』慶應義塾大学出版会

[28] 斎藤修(2008)『比較経済発展論 歴史的アプローチ』岩波書店

[29] 黒崎卓・山形底史(2003)『開発経済学 貧困削減へのアプローチ』日本評論社

[30] 浅沼信男・小沢裕久(2007)『近代経済成長を求めて 開発経済学への招待』勁草書房

[31] 白井早由里(2005)『マクロ開発経済学 対外援助の新潮流』有斐閣

[32] 大塚啓二・櫻井武司(2007)『貧困と経済発展』東洋経済新報社

[33] 平野克己(2009)『アフリカ問題 開発と援助の世界史』日本評論社

[34] 八代尚宏(2009)『労働市場改革の経済学』東洋経済新報社

[35] 脇坂明(2011)『労働経済学入門 新しい働き方の実現を目指して』日本評論社

[36] 大沢真知子(2006)『ワークライフバランス社会へ、個人が主役の働き方』岩波書店

[37] 山口一男・樋口美穂(2008)『論争日本のワーク・ライフ・バランス』日本経済新聞出版社

[38] 山口一男(2009)『ワークライフバランス:実証と政策提言』日本経済新聞出版社

[39] イエスタ・エスピノーア・アンテルセン「大沢真監訳」(2011)『平等と効率の福祉革命 新しい女性の役割』岩波書店

[40] G. エスピノーア・アンテルセン「岡沢憲一・宮本太郎監訳」(2001)『福祉資本主義の三つの世界 比較福祉国家の理論と動

態』ミネルヴァ書房

[41] 清家豪・山田剛樹(2004)『高齢者就業の経済学』日本経済新聞社

[42] 小嶋隆士(2005)『社会保障の経済学(第3版)』日本評論社

[43] 鈴木木郎(2009)『なまれないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社

[44] 橋本健樹(2005)『消費税15%による年金改革』東洋経済新報社

[45] 正村公宏(2000)『福祉国家から福祉社会へ』筑摩書房

[46] 上村敏之(2009)『公的年金と財源の経済学』日本経済新聞出版社

[47] 鈴木木・八代尚宏編「(2011)『成長産業としての医療介護 少子高齢化と財源確保にどう取り組むか』日本経済新聞出版社

[48] 大泉啓一郎(2007)『老いてゆくアジア 繁栄の境目が変わる時』中公新書

[49] 加藤久和(2011)『世代間格差 ちくま新書

[50] 高橋孝明(2012)『都市経済学:有斐閣ブックス

[51] 前田卓(2010)『セミナール環境経済学入門』日本経済新聞出版社

[52] 植田弘和・岡崎弘・新澤秀樹(1997)『環境政策の経済学 理論と現実』日本評論社

[53] 植田弘士(2008)『資源循環型社会 制度設計と政策展開』慶應義塾大学出版会

[54] 天野明弘(2009)『排他取引』中公新書

■評価方法

評価は、期末試験の結果(70%)、レポート・小テスト・出席(30%)により行う。

■評価基準

試験範囲が十分学習され、理解できているか。答案に学習の形跡が十分認められるか。私が講義の中で力点を置いて説明した内容が十分理解できているか。グローバルな視点から社会経済政策をめぐめる論点を理解し、それらに対する自らの考え方を体系的に論じることができたか。データに基づいて論を進める習慣が身に付いたか。

相対評価

■事前履修科目等

2011年度入学生は「産業社会論入門(経済学入門)」、2008年度以降2010年度以前入学生は「経済学基礎」

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

履修者少数の場合には、試験をレポートに替える可能性がある。本講座は2010年度までの「経済学特講III」の内容と同一である。したがって、「経済学特講III」の単位を取得済みの諸君は本講座の単位を取得することとはできない。

2008年度以降2011年度以前の入学生は「産業社会論入門(経済学入門)」、「経済学基礎」の単位取得者に限り履修することができる。レポート作成にあたっては、MS Office、Excelを使いこなすことを目標とする。必ずExcelで作成したデータを1つ以上挿入すること。

科目名 社会心理〔Social Psychology〕

担当教員 近藤 隆雄

■講義目的

人間の社会関係を対象とし、その関係における個人の欲求、認知、感情、価値などの心理システムを分析し理解する。取り上げる社会関係は、個人を中心とする対人関係、集団、組織、社会などである。具体的事例を挙げて説明し、学生が社会心理学の基礎概念を理解し、それを知って実際の社会関係を分析できるようにすることを目的とする。

■講義分類

顧客理解／社会人力育成

■到達目標

①人間関係において、相手の気持ちを理解できるようにすること。②人間関係において、その状況に適切な態度を取ることができるようにすること。

■講義形態

講義のみ〔学外学習なし〕

■講義の概要

〈第1講〉社会心理学はどんな学問か（1）

概要：自分にとって人間関係はどんな意味をもっているかを考える。

事前学習しておくべき用語やポイント〔価値、行動〕

詳細：自分の判断を左右するものは何か、それは社会で成長する間に身につけた価値観である。

〈第2講〉社会心理学はどんな学問か（2）

概要：社会心理学の他学問との関係や位置、特徴

事前学習しておくべき用語やポイント〔科学、社会科学、行動科学〕

詳細：学問体系の中で社会心理学はどのように位置づけられるか。

〈第3講〉社会文化：ヒトはどうやって人間になるか。

概要：人間は自然に放置されれば人間にならない。

事前学習しておくべき用語やポイント〔野生児、社会化〕

詳細：何が人間を人間たらしめているか、の考察。社会の中で人が成長することによって、社会で適応的な行動が取れる人間となる。

〈第4講〉社会化のメカニズム

概要：社会化のメカニズムにはどんなものがあるか。

事前学習しておくべき用語やポイント〔条件付け理論、ジェンダー〕

詳細：人間が社会に適応的な行動を取れるようになるメカニズムの解明。複数のモデルを説明する。

〈第5講〉他者についての理解と判断

概要：他人を理解するうえでの認知枠組みの理解

事前学習しておくべき用語やポイント〔認知的均衡論、帰属理論〕

詳細：他者を理解するうえで、どのような要因が影響するのか、その枠組みの理解。

〈第6講〉欲求、性格、態度

概要：人間行動の原因となり、その行動の特徴を形作るのとは何か。

事前学習しておくべき用語やポイント〔欲求段階説、性格の分類〕

詳細：人間行動の底にあり、行動を引き起こすものは何か。その特徴や分類。

〈第7講〉動機付け理論

概要：行動を動機付けけるメカニズムの理解

事前学習しておくべき用語やポイント〔期待価値理論、二要因理論〕

詳細：人が一定の行動に動機付けられる仕組みを理解し、それを現実に応用し、活用できる段階を目指す。

〈第8講〉リーダーシップ論

概要：リーダーシップとは何で、どんなバターがあるのか。

事前学習しておくべき用語やポイント〔状況適応理論、民主的リーダーシップ〕

詳細：リーダーシップを発揮するにはどんな条件が必要なのか。それは状況の違いでどんな影響を受けるのか。

〈第9講〉コミュニケーション

概要：人が他人とコミュニケーションを取るとはどんなことか。

事前学習しておくべき用語やポイント〔チャンネル、メッセージ、ボディランゲージ〕

詳細：人はさまざまな方法で他人とコミュニケーションを取るが、それはしばしば意図とは異なる受け取り方をされる。

〈第10講〉マス・コミュニケーション

概要：マスコミの影響力の内容。その真実と影響する社会的要因。

事前学習しておくべき用語やポイント〔信頼性、世論〕

詳細：マスコミはその報道によって世論を形成する役割を持っているが、さまざまな要因が真実の報道を歪める作用を持っている。

〈第11講〉態度の変容

概要：態度とは何で、態度を変えるためにはどんな方法があるか。

事前学習しておくべき用語やポイント〔認知不協和理論〕

詳細：態度は人間の認知、感情、行動が複合したものだが、それはさまざまな条件で左右され、変化していく。

〈第12講〉対人魅力

概要：人を好きにさせる要素とその条件とは何か。

事前学習しておくべき用語やポイント〔好意の返報性、錯認帰属説〕

詳細：人が他人を好きになるにはさまざまな条件が作用し、その条件の働きを気づかない人が多い。

〈第13講〉援助行動

概要：他人を自発的に援助する行動はどういうメカニズムによって起こるか。

事前学習しておくべき用語やポイント〔援助の規範、他者存在の影響〕

詳細：援助行動はさまざまな条件によって、促進されたり阻害されたりする。それは本人の親切心や性格とは無関係に起こる。

〈第14講〉攻撃行動

概要：人が他人を攻撃するとはどんなことで、どんな状況で起こるか。

事前学習しておくべき用語やポイント〔欲求不満、攻撃の環境要因〕

詳細：他人を攻撃する場合、どんな理由が存在するか。それは本人の性格とは無関係に発生する。

〈第15講〉集団

概要：集団はその成員にどんな影響を与え、どんな行動を取らせるか。

事前学習しておくべき用語やポイント〔分類、フォーマル/インフォーマル、凝集性〕

詳細：集団はそのメンバーにさまざまな影響を与え、驚くような行動を取らせる場合がある。集団の影響力とは何で、それはなぜ力を発揮するのか。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

我妻洋『社会心理学入門（上）&（下）』講談社学術文庫

■参考文献

特になし

■評価方法

レポート 30%、出席 20%、期末テスト 50%

■評価基準

絶対評価

A+：社会心理の概念を正しく理解していて応用することができる。

A：社会心理の概念を正しく理解している。

B：社会心理の概念を授業で説明した半分程度は理解している。

C：社会心理の概念を部分的にしか理解していない。

F：社会心理の概念をほとんど理解していない。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名 社会調査士実習Ⅰ～Ⅱ〔practical training for social Researcher Ⅰ～Ⅱ〕

担当教員 酒井 麻衣子

■講義目的

社会調査を適切に用いるためには、問題の設定の仕方、調査設計、調査方法、分析方法、そして結果の解釈などの様々な専門知識を学習する必要がある。ただし、これらの知識を覚えたとしても、必ずしも効果的な調査が行えるとは限らない。これは、社会調査が現実の社会の問題を取り扱うものであり、基本を踏まえつつ柔軟に応用する力が必要となるためである。社会調査を学ぶ上で欠かすことのできない、実際にそれらの知識を関連させ、実際に調査しまとめるという調査に関する総合力を身につけることを目的とする。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人育成／ビジネスICT

■到達目標

社会調査に関連する知識を総合的に活用し、実際に社会調査の一連の流れを実施できるようになる。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

本講義は、調査設計から報告書の作成・発表までをグループ演習という形で学習する。

以下を予定している。

- ・グループワーク
- ・SRC (Students Reserch Conference) でのプレゼンテーション

■教科書

適宜資料を配付する。なお、以下の書籍を指定図書としておくので、必要に応じて参照すること。

■指定図書

- ・鮎戸 弘 (1987)『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社
- ・ティム・メイ (著), 中野正大 (訳) (2005)『社会調査の考え方—論点と方法』世界思想社
- ・谷岡一郎 (2000)『「社会調査」のウソリーサーチ・リテラシーのすすめ』文藝春秋
- ・石川淳志・佐藤健二・山田一成 (1998)『見えないものを見る力』 八千代出版
- ・苅谷剛彦 (2002)『知的複眼思考法』講談社

■参考文献

適宜指示する。

■評価方法

実習での取り組みと発表、および個人レポートにより総合的に判断する。

■評価基準

相対評価

- (1) 問題意識を調査可能な形に具体化し、適切な調査設計ができたか
 - (2) 調査設計に従い、適切な実査が行えたか
 - (3) 実査の結果を適切に分析し、解釈することができたか
 - (4) グループでの取り組みに積極的に参加し、他のメンバーと適切な協力体制を築くことができたか
- これら各点から、社会調査を実行する上で必要となるスキルが身についたかどうかを評価する。

■事前履修科目等

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・本講義を履修する場合は、ⅠおよびⅡを両方履修すること (片方のみの履修はできない)
- ・社会調査士認定科目 (G) に該当するため、資格を取得したい場合には、必ず履修すること。
- ・実習を効果的に行うため、他の社会調査士資格認定科目を修得し、ある程度の事前知識があることが望ましい。

注1) 選抜試験について

本科目は、実習科目のため、履修上限人数を20名とする。そのため、履修に際しては、選抜試験を実施し、その成績によって受講者を選抜する。選抜方法などについては、随時発表するので、掲示板などを確認すること。

注2) 社会調査士については、一般社団法人 社会調査協会 (<http://jasr.or.jp/>) を参照のこと。

科 目 名 消費心理〔Consumer Psychology〕

担当教員 浜田 正幸

■講義目的

ビジネスなしマネジメントは、顧客の創造である。中でも80％は、私たちにとても身近なビジネスであり、ビジネスの流れからとえば、一番川下に相当する重要な位置づけにある。その川下のマーケットの対象はわかれ消費者であるが、企業は、その消費者を深く研究している。そこで本講では、消費心理の把握（調査）の方法や分析方法を理解し、それらを活用した基本的かつ主要なファインディングズについて、理論やモデルを学ぶことを目的とする。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント

■到達目標

経営学における消費行動、消費心理、社会心理の基礎的な知識と研究方法を修得することが到達目標である。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR□

■講義の概要

〈第1講〉

概要：消費心理の範囲

事前学習しておくべき用語やポイント[社会心理学、マーケティング]

詳細：本講でとりあげる「消費心理」の領域について解説する。すなわち第1講はガイダンスである。社会心理学やマーケティング、大衆心理などとの関係を解説するとともに、具体的なテーマについても概観しておく。

〈第2講〉

概要：ブランドの心理

事前学習しておくべき用語やポイント[ブランド]

詳細：人はなぜブランド品を買うのだろうか？ ブランド品購入の消費心理を、因子分析によって抽出した心理因子で解説する。

〈第3講〉

概要：流行の心理

事前学習しておくべき用語やポイント[流行]

詳細：なぜ流行が発生するのだろうか？ 多くの消費者が流行に駆り立てられるのは、消費者間の相互作用が影響するからである。E.M.ロジャースの普及理論や同調行動などから流行の心理を読み取っていく。

〈第4講〉

概要：価格の心理

事前学習しておくべき用語やポイント[プロスペクト理論]

詳細：10万円のバッグが高いか安いのか？ これはもちろん人によって答えは異なる。フレーミング効果やプロスペクト理論を用いて、価格の心理を紐解いていく。

〈第5講〉

概要：化粧の心理①

事前学習しておくべき用語やポイント[化粧、鏡鑑]

詳細：人はなぜ化粧をするのか？ 化粧を、ジェンダーの問題や、儀式など文化人類学の側面、社会心理学や社会学の側面から考察する。さらに化粧の生理心理的な効果や臨床的应用に至るまで、幅広く言及する。

〈第6講〉

概要：化粧の心理②

事前学習しておくべき用語やポイント[同調行動、社会的役割行動]

詳細：化粧によって何が変わるのか？ 化粧する側の心理や生理的效果を確認する。さらに化粧を見る側の変化についても解説する。特に猫覚が大きな役割を持っていることと、心理的变化を理解する。

〈第7講〉

概要：消費心理のアプローチ方法

事前学習しておくべき用語やポイント[統計学、実験、方法論]

詳細：「心理」は見ることも触ることもできない。どのように「消費心理」を知ることができるのか？ 消費心理へのアプローチ方法を解説する。

〈第8講〉

概要：統計から読む消費心理

事前学習しておくべき用語やポイント[経済、景気、統計指標]

詳細：消費者の心理は目に見えるものではないが、統計データからある程度読み取ることが可能である。統計データ（数字）から消費心理を解説していく。

〈第9講〉

概要：広告の消費心理①

事前学習しておくべき用語やポイント[サプリメンタル効果、プラセボ効果]

詳細：私たちは広告にだまされている。だますといってもウソをついているわけではなく、企業は巧みな心理作戦で、消費者の心の中に入り込んでいるのである。その手法と人の深層心理について解説する。

〈第10講〉

概要：広告の消費心理②

事前学習しておくべき用語やポイント[サンクコスト、精緻化見込みモデル]

詳細：人の認知機能とその落とし穴を説明し、その落とし穴にはまる広告手法や効果を解説する。

〈第11講〉

概要：広告の消費心理③

事前学習しておくべき用語やポイント[認知的不協和理論、ビグマリオン効果、]

詳細：広告の技術（テクニク）は、広告主とそれを受け取る側のさまざまな交互作用を生み出している。社会心理や教育心理の理論や効果を、いかにして広告の技術としているか解説する。

〈第12講〉

概要：サービスと消費心理①

事前学習しておくべき用語やポイント[サービス、エンターテインメント]

詳細：サービスは物品の購入とは違い、無形である。クオリティの高いサービスとはどのようなものだろうか？ ティズニールゾートの事例から、テーマパークの消費心理を読み解く。

〈第13講〉

概要：サービスと消費心理②

事前学習しておくべき用語やポイント[サービス、エンターテインメント]

詳細：ティズニールゾートの事例をとりあげ、ハードとソフトの両面から、エンターテインメントと消費心理の関係を読み解く。

〈第14講〉

概要：小売業の消費心理

事前学習しておくべき用語やポイント[商品陳列、動線]

詳細：コンビニエンスストアは巧みに、人に関わる仕掛けをしている。私たち消費者はその作戦にまんまと掛かってしまっている。その心理策とは何か？

〈第15講〉

概要：講義内容理解確認のための試験

事前学習しておくべき用語やポイント[全講義の内容確認]

詳細：試験問題は講義内（一ヶ月程度前）で発表する。資料の持ち込みは可とし、事前に調べておかないと回答できない論述問題が出题される予定である。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

講義内に適宜紹介する

■評価方法

講義の最終回に試験を実施し、その答案の量と質で評価する。毎回ミニレポートを課す。その内容も評価に加味する。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

真摯な態度で講義にのぞむこと。

科目名

情報概論(オムニバス) [(Information Industry and Sciences)]

担当教員

中村 有一

■講義目的

20世紀後半からコンピュータと通信の技術が急速に発達し、情報技術が社会や産業に大きなインパクトを与えるようになってきた。さらに21世紀になって、それまで予測されていたことがほぼ現実のものとなり、本格的な情報社会が到来した。これに伴って、これまでの工業社会とは異なる考えかたやモラルが必要とされる時代となった。また個人の生活の中にもパソコンなどの情報機器が普及し、それらの原理や役割を正しく把握し、うまく利用することが求められるようになってきた。この講義の目的は、現代の情報社会で必要とされる知識やモラルを身につけ、情報産業などの分野で活躍できる基礎をつくることである。また、本講義によって情報通信の分野に、より興味をもってもらい、将来のゼミ選択や就職にも参考になるようにしたい。

■講義分類

ビジネス ICT

■到達目標

情報技術の概略を理解すること。情報化にともなう社会変化、産業構造の変化など、大きな流れを把握した上で、さまざまな課題を自分の頭で考えられるような能力を身につける。また情報社会で生きていくうえで必要なモラルについても習得する。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無し〕

■講義の概要

第1部 情報技術

(第1講) ハードウェア

概要：コンピュータのハードウェアについて、ミクロな仕組みとマクロな設計思想について学ぶ。

詳細：まず、全体を通して必要となる情報とは何かについて基本的な話をする。コンピュータで扱うデータの表現方法として、ビットや2進数などについて理解したうえで、論理回路などのコンピュータの基本的な動作原理を説明する。またコンピュータを構成する代表的な装置を取り上げ、その仕組みや機能などについて理解する。またコンピュータの全体的な構成について考察する。

予習用語：2進数、論理回路、半加算器、全加算器、階層構成

(第2講) ハードウェア

第1講と同じ

(第3講) ソフトウェア

概要：OSの仕組みと役割、代表的なアプリケーションソフトの要点について取り上げる。

詳細：ソフトウェアについては、基本ソフトウェアとアプリケーションソフトウェアに分けて考える。基本ソフトウェアの中では、特にオペレーティングシステム(OS)について、その必要性や機能などを解説する。また具体的なOSを取り上げ、その歴史や特徴について比較考察する。アプリケーションソフトウェアについては、代表的なものとして、日本語ワープロ、表計算ソフト、データベース管理ソフトなどについて解説する。

予習用語：基本ソフトウェア、OS、アプリケーションソフトウェア、日本語ワープロ、表計算ソフト、データベース管理ソフト

(第4講) ソフトウェア

第3講と同じ

(第5講) ネットワーク

概要：通信の基礎技術、コンピュータ同士をつなぐインターネットの仕組みなどについて話す。

詳細：コンピュータや人間をつなぐネットワークの仕組みについて基本的な事項を解説する。集中処理や分散処理の仕組みについても取りあげる。具体的な例としては、インターネットを構成するネットワーク技術について論じる。

予習用語：ネットワーク、アナログ通信、ディジタル通信、パケット交換、インターネット、TCP/IP

(第6講) ネットワーク

第5講と同じ

第2部 情報社会

(第7講) 情報化と社会生活の変化

概要：情報化によって社会がどのように変化してきたか、またその問題点は何かなどの点について考える。

詳細：情報化の現状を生活者の立場から考察していくことがこの講義の目的である。まず情報伝達手段の歴史的変遷について取り上げ、現在どのような情報化の段階にあるかを把握する。またコンピュータなどの情報処理機器についても利用者の視点で取り上げる。これをふまえて情報化が現代の社会生活にどのような影響を与えているかについて考える。

予習用語：情報化、情報社会

(第8講) 情報化と社会生活の変化

第7講と同じ

(第9講) 情報産業の発展

概要：情報化による産業構造の変化、および新しい情報産業の発展について考える。

詳細：情報化によって産業構造が大きく変化している現状を把握し、情報産業と社会の関わりについて考察する。またインターネット関連やマルチメディア関連などの新しい情報産業の事例を取り上げ、産業としての未来を展望する。

予習用語：産業構造、第3次産業、情報産業

(第10講) 情報産業の発展

第9講と同じ

(第11講) 情報産業の発展

第9講と同じ

(第12講) 情報社会におけるモラル

概要：情報化によって新しいモラルの考え方が必要になった。

詳細：情報化の進展に伴って、それに対応した社会人としてのモラルが重要になってきている。著作権やプライバシーの侵害、情報の不正な取得や虚偽など、様々な問題が発生しているが、これらについて正しく認識し、正しい行動がとれるようなモラルが必要となる。また対抗手段としての情報セキュリティ対策についても理解しておく必要がある。

予習用語：モラル、著作権、プライバシー、個人情報保護、不正アクセス、情報セキュリティ

(第13講) 情報社会におけるモラル

第12講と同じ

(第14講) 情報社会におけるモラル

第12講と同じ

(第15講) 期末テスト

概要：全体を通して期末テストを行う。

詳細：詳細については別途連絡する。

予習のポイント：講義ノートや各自が授業中にとったノートをもう一度体系的に読み直し、疑問点は質問して解決しておくこと。用語の意味を確実に説明できるようにしておくこと。2進数などの計算ができるようにしておくこと。

復習のポイント：試験問題は持ち帰り、自分でもう一度解きなおしてあること。わからない点があれば質問して解決しておくこと。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

授業内で適宜紹介する。

■参考URL

<http://www.rye.tama.ac.jp/hiki/?Lecture>

■評価方法

学期末試験70% レポートなど平常点30%

■評価基準

相対評価。情報社会を生きていく上で必要な知識やモラルが理解できているか、また自分なりに考える能力が身に付いているかなどの点を考慮して評価する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

予備学習のポイント：PowerPointの資料は、概略を示したものであるので、これだけを読んでも理解できないだろう。復習するときに、内容を整理するために使うといいだろう。授業中に適宜紹介する参考文献を読むことにより、授業内容をより深く理解できるようになることが望ましい。

科目名 情報工学概論〔Information Engineering〕

担当教員 増田 浩通

講義目的

ICTを基盤とした高度情報社会における実情やさまざまな問題を、社会との関係に重点をおいた視点で学ぶ。

講義分類

ビジネスICT

到達目標

高度情報化社会における問題と社会のかかわりについて、常識として知っておくべき事項を体系的に理解することを目標とする。

講義形態

講義のみ〔学外実習無〕

講義の概要

第1回 ガイダンスおよび情報化社会の問題点

第2回 情報が変わっていく社会

第3回 情報社会が抱える問題

第4回 情報倫理

第5回 ウイルスの問題とその対策

第6回 情報とコミュニケーション

第7回 中間テスト

第8回 コミュニケーションモデル

第9回 ヒューマンコンピュータインタラクション

第10回 インターネットの仕組み

第11回 WEBサービス

第12回 データベースの基本概念

第13回 データマイニングの基礎

第14回 情報システム

第15回 期末テスト

教科書

情報とネットワーク社会, 駒谷・山川・中西ら著, オーム社
http://www.amazon.co.jp/%EF%BC%A9%EF%BC%B4-%EF%BC%B4%EF%BD%85%EF%BD%98%EF%BD%94%EF%BC%88%E4%B8%80%E8%88%AC%E6%95%99%E8%82%B2%E3%82%B7%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%BA%EF%BC%89-%E6%83%85%E5%A0%B1%E3%81%A8%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E7%A4%BE%E4%BC%9A-IT-Text/dp/4274211215/ref=sr_1_1?ie=UTF8&qid=1360186219&sr=8-1

評価方法

授業内での評価 30%：積極的に授業に参加しているか否か。

中間テスト 30%：中間テストを受けていないものは、授業評価を不可(F)とする。

期末テスト 40%：期末テストを受けていないものは、授業評価を不可(F)とする。

就職活動等で中間テスト、期末テストを受けられなくなったときは、①就職活動の証明書類を用意し、②テスト前に増田宛(masuda@tama.ac.jp)に連絡をすること。①、②を満たさない場合は授業評価を不可(F)とする。

評価基準

相対評価

卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

留意点

教科書中心に講義を進めるので、第2回目の授業までに購入すること。

科目名 情報セキュリティ(Information Security)

担当教員 中村 純吾

■講義目的

企業や組織における情報セキュリティ技術者の重要性が高まっている。本講義では、IPAの情報セキュリティスキルマップを下敷きに、事例研究や演習を利用しながら、情報セキュリティプロフェッショナルに求められる知識を習得する。これにより、情報セキュリティに関連する問題を解決する能力を身に付けることを目標とする。

授業は、基本的に座学でおこなう。講義内容によっては、教室設置のPCや携帯機器を使用する場合もある。

■講義分類

社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

- (1) 情報セキュリティとは何かを説明できる
- (2) 情報セキュリティへの脅威を認識し、対策をすることができる

■講義形態

講義のみ

その他(PCや携帯を使用した実験も実施予定)

[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉情報セキュリティとは

概要：情報セキュリティの基本概念、情報セキュリティ侵害の現状の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[情報セキュリティ]

詳細：情報セキュリティの概念を学習した上で、今日のセキュリティリスク事例、コンピュータや携帯機器を日常的に使用しているときに発生しうる危険について習得し、情報セキュリティの脅威が身近に存在しうることを認識する。

〈第2-3講〉リスク要因

概要：外部／内部のリスク要因、情報リテラシーと情報倫理の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[リスク、インシデント]

詳細：情報セキュリティのリスク要因には外部からのものと内部からのものがあること、およびそれらの特徴について学習する。また、現代社会で情報を扱う上で必要な情報リテラシーと情報倫理についても理解する。

〈第4-5講〉個人レベルのセキュリティ対策(1)

概要：マルウェアの理解、共通の対策方法の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[マルウェア]

詳細：コンピュータに対する不正プログラムであるマルウェアについて、その特徴、感染原因、感染した結果などについて理解し、対策方法を習得する。

〈第6-7講〉個人レベルのセキュリティ対策(2)

概要：攻撃手法と対策の理解、無線LANのセキュリティの理解

事前学習しておくべき用語やポイント[無線LAN]

詳細：コンピュータに対する外部からの攻撃方法について、その特徴と対策を理解する。また、最近スマートフォンなどで利用が広がっている無線LANの特徴および脅威について学習し、デモを通じて無線LANのセキュリティの脅威を実際に確認する。

〈第8講〉組織のセキュリティ対策

概要：企業や組織でのセキュリティ対策の特徴、PDCAサイクルなどの理解

事前学習しておくべき用語やポイント[PDCA]

詳細：組織レベルでの情報セキュリティ対策の特徴を学習した上で、除法セキュリティマネジメントの必要性、PDCAサイクル、従業員としての心得、情報漏えい対策について習得する。

〈第9講〉情報セキュリティ関連の法規と制度

概要：情報セキュリティの国際標準、関連法規、関連制度の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[情報セキュリティマネジメント、知的財産、迷惑メール]

詳細：情報セキュリティに関連する国際標準、関連法規、関連制度について学習する。また、情報セキュリティを法的に規制・保護するときの特徴について習得する。

〈第10-11講〉セキュリティ技術：基礎

概要：インターネット通信の基礎、アカウント管理、通信データ閲覧のデモ事前学習しておくべき用語やポイント[TCP/IP、インターネット通信、パスワード]

詳細：情報セキュリティが実際の問題となる現在の通信技術であるTCP/IPの特徴について学習し、またセキュリティの基本であるアカウントの管理方法について習得する。デモを通じてTCP/IP通信の特徴とアカウントのセキュリティの脆弱性について実際に確認する。

〈第12-13講〉セキュリティ技術：基礎(2)

概要：攻撃手法、ルータ関連技術、暗号技術の理解

事前学習しておくべき用語やポイント[ポート、ファイアウォール、暗号化]

詳細：情報セキュリティの脅威となる攻撃手法の技術的手法、ネットワークを外部から防御するファイアウォール、データを保護する暗号化について学習する。

〈第14講〉復習

概要：これまでの講義内容の理解の確認

事前学習しておくべき用語やポイント[これまでの授業内容を復習しておく]

詳細：

〈第15講〉試験

概要：試験

事前学習しておくべき用語やポイント[これまでの授業内容を復習しておく]

詳細：

■教科書

「情報セキュリティ 読本 - IT時代の危機管理入門 - 三訂版」

(ISBN978-4-407-31800-5) 定価500円

(本体476円) 実教出版株式会社

毎回の講義時にレジュメ配布を予定

■評価方法

試験60% 平常点40% (就活が厳しい学生については申請があれば出席不足については考慮する)

出席確認は学生証をリーダーにかざす方法でおこなう

試験は講義の最終回に実施する予定

■評価基準

相対評価

情報セキュリティプロフェッショナルに求められる、基礎的な知識・スキルが身についているかどうかで判断する

科目名

情報探索法〔Information Serching Methods〕

担当教員

宮内 美智子

■講義目的

この授業は、大学の教養教育における、情報リテラシー教育の一環として、各種文献やインターネットを中心とするデジタル情報資源から、情報を検索するために必要な知識と技術を学習する。さらに、検索エンジンでは見つけ出すことのできない情報について、入手するための能力を身に付けることも目指す。

生涯学習の素地を基本から体得することを希望する。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成

■到達目標

1. メディア & インフォメーション・センター（多摩大学図書館）と各種図書館の活用能力
2. 資料・情報の収集力と読解力
3. デジタル情報資源の活用能力
4. 情報倫理と著作権法（改正著作権法）
5. レポート・論文の作成力と効果的なプレゼンテーション力

■講義形態

講義+GW+PR〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉

概要：1. 授業についてのオリエンテーション

2. 図書館の役割と活用
3. 学生の授業に対する質問・要望の調査

詳細：①多摩大学図書館（メディア&インフォメーション・センター）を見学し、利用体験を得る

②図書館の蔵書の特徴を理解し、活用力をつける。

③各種図書館（国立国会図書館・公共図書館・専門図書館）の特徴を理解し、活用力をつける。

〈第2講〉

概要：1. 情報リテラシーについての理解

2. 各種図書館のOPAC（オンライン利用者目録）についての理解

3. 資料情報の組織化についての理解

詳細：①資料・情報の探索と入手法、資料・情報の分析法、有効な情報の発信力・伝達力を向上させる。②各種図書館のOPACの特徴を活用して、いつでも必要情報を検索できる力をつける。

③資料・情報を迅速・的確に検索し収集するためのツールである目録、分類、件名、シソーラスについて、それぞれの特徴を理解し、活用力をつける。

〈第3講〉

概要：1. 検索の手順

2. 検索エンジンの使い方

詳細：①検索内容の明確化・情報資源の選択・キーワードの設定・検索結果の評価を検証する。

②主な検索エンジン・検索エンジンの弱点・検索エンジンの賢い活用方法をつける。

〈第4講〉

概要：データベース検索 1

多摩大学メディア&インフォメーション・センターの施設を

利用する。詳細：①朝日新聞オンライン記事データベース（聞蔵II ビジュアル）を学内で、常時活用する。②CiNii（国立情報学研究所の学術コンテンツ・ポータル）を理解し、活用方法をつける。③EBSCO（「EBSCO host（エビスコホスト）- Research Database」）を理解し、活用方法をつける。

〈第5講〉

概要：データベース検索 2

多摩大学メディア&インフォメーション・センターの施設を利用する。

詳細：①日経テレコン21（「日経テレコン21操作ガイド」を配布する）を学内で、常時活用する。

特に、記事検索（詳細検索、演算子の利用、各種コマンドの利用）、人事検索、企業検索、便利な機能、の活用方法をつける。

〈第6講〉

概要：インターネット上の情報源の多角的な活用

詳細：①サーチエンジンの種類と事象にあった上手な利用法を理解し、活用方法をつける。

② Google での効率的な検索法を理解し、活用方法をつける。

③ Search Desk の活用方法をつける。

〈第7講〉

概要：雑誌論文・雑誌記事の検索力と読解力詳細：①メディアとしての雑誌を理解する。②一般雑誌と学術雑誌の相違を理解する。③雑誌記事検索の留意点を理解し、活用方法をつける。④大宅壮一文庫の特徴を理解し、活用方法をつける。

⑥国内の学術論文の検索力と活用方法をつける。〈第8講〉

概要：新聞記事の検索力と読解力

詳細：①新聞記事を探す場合のツール〔形態：縮刷版・CD-ROM・オンラインデータベース〕を理解し、活用方法をつける。

②新聞の特性を理解する。③新聞記事検索の留意点を理解する。④新聞記事検索〔国内全国紙、国内地方紙、国内専門誌、海外紙〕の活用方法をつける。⑤日経新聞紙〔日経新聞朝刊・夕刊の構成、日経新聞週末版の構成等〕を理解し、活用方法をつける。

★〈第5講〉のデータベース検索2の「日経テレコン」の授業とも関連あり。

〈第9講〉

概要：資料・情報の活用と表現法

詳細：①レポート・論文作成の基本スキルの理解と実践力をつける。〔1〕テーマの選択、2) 事前調査、3) 仮アウトラインの作成、4) 関連文献・情報の調査、5) データベースの検索、6) 視聴覚・電子メディアの調査、7) アンケートとインタビュー、8) 文獻・情報の読解と執筆（最終アウトラインの作成と執筆）、9) 出典の表示、10) 仕上げ

②学生のレポート・論文作成の体験を発表し、次回の授業に生かす。

〈第10講〉

概要：伝達・発表の在り方

詳細：①情報整理法の基本スキル〔1〕収集と保管、2) 選択、3) 分類、4) 保存、5) 評価〕を理解し、実践力をつける。

②情報表現法の基本スキル〔1〕機器の活用、2) 発表内容、3) 構成、4) 発表資料の作成等〕を理解し、実

践力をつける。

③学生の今までの発表体験との相違を討議し、今後に生かす。

〈第11講〉

概要：著作権法の理解と実践力

詳細：①著作権法の沿革[1]日本、2)外国]を理解する。

②知的財産権・著作物の種類・著作者の権利[1]著作人人格権、2)著作権(財産権)、著作者の権利の保護期間・著作隣接権・外国の著作物の保護について理解する。

③著作物の利用手順と著作物を自由に使える場合の条件を理解する。

④個人情報保護法を理解し、日常生活において活用できるようにする。

〈第12講〉

概要：改正著作権法(平成24年に成立「著作権法の一部を改正する法律」)の理解と実践力

詳細：①いわゆる「写り込み」等に係る規定の整備

②国立国会図書館による図書館資料のインターネット送信(自動公衆送信)等に係る規定の整備

③公文書等の管理に関する法律

④著作権等の技術的保護手段に係る規定の整備

⑤違法ダウンロードの刑事罰化に係る規定の整備

〈第13講〉

概要：各種情報の検索の検証 1

詳細：①ニュース情報の検索

②一般的情報の検索

③よみかた情報の検索

④人物情報の検索

⑤地理・地図情報の検索

⑥団体・企業情報の検索

*学生の検索体験も紹介する

〈第14講〉

概要：各種情報の検索の検証 2

詳細：①法律情報の検索

②統計情報の検索

③政治情報の検索

④医療情報の検索

*学生の検索体験も紹介する

〈第15講〉

概要：〈第1講〉から〈第14講〉の総括(紙媒体の情報源の特徴も理解し、活用力をつける。)

詳細：①本の探し方[1]国内本、2)国外本、3)レファレンスツール、4)全集・叢書]

②新聞・雑誌の種類と所蔵館

③事実・事項調査に役立つ主要データベース

■教科書

宮内美智子著「情報探索法」(私家版、授業時に配布する)

■指定図書

講義の中で随時紹介すると共に、メディア&インフォメーション・センター(多摩大学図書館)で購入している資料等を十分に活用する。

■参考文献

[1]伊藤民雄著、実践女子大学図書館編『インターネットで文献検索2011年版』日本図書館協会

[2]川崎良孝[ほか]編『大学生と「情報の活用」情報探索入門 増補版』京都大学図書館情報学研究會

[3]日本図書館協会総合監修『情報の達人 第1・2・3巻』[DVD] 紀伊國屋書店

■評価方法

出席(15点)、レポート(35点)、期末テスト(50点)

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

飲食を禁止します。

科目名 情報通信と社会〔Advanced to Telecommunication〕

担当教員 諸橋 正幸

■講義目的

ICTを基盤とした高度情報社会における実情やさまざまな問題を、社会との関係に重点をおいた視点で学ぶこと。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／ビジネスICT

■到達目標

情報通信事業について、常識として知っておくべき事項を体系的に理解すること、および社会人として仕事をしていく上で必要になるデータ通信について理解を深めることを目標とする。国家試験を受けて資格がとれるレベルに到達することを目標とする。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉ガイダンス

概要：本講義のガイダンスを行う。

〈第2講〉情報が変わっていく社会

概要：情報社会の中でどのような変化が起きているのか、我々の身の回りにある道具、サービス、考え方の変化を概観し、情報社会が抱える問題について解説を行う。

〈第3講〉情報社会が抱える問題

概要：情報社会に生きる我々は、情報社会が抱える負の側面も認識しておく必要がある。本講義では、情報社会になることによって発生するさまざまな問題に焦点を当てる。

〈第4講〉情報倫理

概要：知的財産権とは何かを学び、著作権の意義と新しい流れに関する理解を深める。

〈第5講〉ウイルスの問題とその対策

概要：自分が被害を受けないためだけでなく、自分自身が加害者にならないようにするためにも、コンピュータウイルスにどのようなことを注意すべきかを学ぶ。

〈第6講〉情報とコミュニケーション

概要：情報行為は、コミュニケーション行為や言語行為を含む広い概念であり、情報社会では、人間の情報行為は情報システムの支援を受けていることを学ぶ。

〈第7講〉コミュニケーションモデル

概要：情報行為と深いかかわりを持つコミュニケーションの概念や重要性について学び、コミュニケーションモデルの意義について明らかにしておく。

〈第8講〉中間テスト

概要：講義前半のまとめと中間テストを行う。

〈第9講〉ヒューマンコンピュータインタラクション

概要：本講義では、人間とコンピュータのやり取りであるヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)について学ぶ。

〈第10講〉インターネットの仕組み

概要：日常生活においてインターネットは通信インフラとして欠かせないものになってきている。そこで本講義ではインターネットの仕組みの概要を学ぶ。

〈第11講〉WEBサービス

概要：インターネットを介して行われている商取引やサービスの概要について解説する。

〈第12講〉データベースの基本概念

概要：データベースの基本概念やデータベース管理の諸機能について学ぶ。

〈第13講〉データマイニングの基礎

概要：データベースの応用として、データベースから知識を発見するために重要な役割を果たすデータマイニング手法について学ぶ。

〈第14講〉情報システム

概要：本講義では、企業の活動において情報システムがどのように活用されているかを学ぶ。

〈第15講〉期末テスト

概要：講義全体のまとめをし、期末テストを行う。

■教科書

IT TEXT(一般教育シリーズ) 情報とネットワーク社会
駒谷・山川・中西ら著、オーム社

■評価方法

出席および小テスト40%、期末テスト60%で評価する。

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

科目名 情報と職業〔Information and Profession〕

担当教員 齋藤 S.裕美

■講義目的

本講義は、情報と職業についての関わり、情報に係る職業人(情報処理技術者、ネットワーク技術者など)の役割と責任について理解することを目的とする。現代の社会において、IT(情報技術)は必要不可欠な存在である。情報技術の進展によって生まれた産業の特徴や情報システムが一般社会生活のなかでどのように使われているかなど、情報技術の現状を把握するとともに、私たちの生活や既存の産業が受けた情報化の影響などについても学習する。また、情報システムを構築し運用する上で、情報処理技術者やネットワーク技術者が果たすべき役割や責任について理解し、情報技術の専門家に求められる勤労観や職業観を身につけることも目的のひとつである。さらに本講義によって、将来、情報に係る職業人を目指す高校生に対して、適切な教育指導が出来るようになることを目指す。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人教育

■到達目標

情報技術が産業社会や人々の生活に対して及ぼした影響を理解し、情報技術の専門家に求められる倫理観や職業観を身につけることをめざす。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉 情報社会までの歴史的変遷

情報社会までの歴史的変遷を狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会の順に追ひ、社会構造の転換の契機となった農耕の開始、産業革命の文脈から情報革命の意義を確認する。また、キャリア科目、教職科目としての「情報と職業」の目標についても確認する。

<予習・復習のポイント>

情報革命がもたらした社会構造の変化とはどのようなものであるか。

〈第2講〉 戦後の産業構造の変化

日本の戦後の産業構造の変化と情報化について、第一次石油ショックと第三次産業への転換、ブラザ合意と国際産業の空洞化を中心に概説する。特に、情報産業が誕生した背景について、産業構造の変化と情報技術の発達との二つの面から考察する。

<予習・復習のポイント>

情報革命がもたらした社会構造の変化とはどのようなものであるか。

〈第3講〉 情報社会における職業観

戦後から1990年前後までの職場・雇用環境について、主に終身雇用制と年功序列賃金、企業内教育を概観し、さらに1990年代以降の職場・雇用環境・就業形態の変化を第三次産業の特徴と合わせて考察することで、人々の職業生活に対する意識の変化について考える。

<予習・復習のポイント>

職場・雇用環境・就業形態が変化したことで、人々の意識はどのように変わったか。

〈第4講〉 情報社会と職業教育

社会構造と仕事の関係、知識の習得と伝達方法の違いを概説し、情報社会で学習すべき対象は何かを考える。さらに、キャリア開発と生涯学習、企業内教育の変遷について考え、求められる情報系人材のスキルがどのように変わってきたかを確認する。

<予習・復習のポイント>

これからの社会で求められる職業人としての素養やスキルは何か、なぜそのような素養やスキルが求められるようになったのか。

〈第5講〉 情報産業における職業教育と資格

情報系人材に求められるスキルと資格の関係について、資格取得の背景とその社会的認知、1990年代以降の社員教育のあり方の変化、資格の機能などの観点から概説する。

<予習・復習のポイント>

人々の資格取得の背景にはどのような心理が働いているのか、また情報系人材と資格との関わりはどのようなものであるか。

〈第6講〉 情報産業の誕生と発展

1960年代後半の情報処理技術者の誕生から新しい産業としての情報産業に発展するまでの経緯、発展の過程における様々な職種や職制への分化について概説する。

<予習・復習のポイント>

情報産業の発展の経緯と様々な職種との関係はどのようなものであるか。

〈第7講〉 情報産業の実像

情報産業の実像について、産業分類や資本系列、業態などから概観し、情報産業の特徴や情報産業に従事する技術者や従業員の仕事について概説し、技術者や従業員の意識についても考察する。

<予習・復習のポイント>

情報産業の特徴とはどのようなものか、そこで働く人々の仕事とそこから生じる職業意識や職業観とはどのようなものか。

〈第8講〉 企業における情報化

企業における情報化の実態を、情報技術への投資規模や要員規模などから概観し、業種による投資規模の違い、さらに大企業と中小企業との情報技術に対する期待や効果の相違などを考察する。

<予習・復習のポイント>

情報技術への投資規模はどのような要因で決定されるのか、また大企業と中小企業の相違はどのような要因によるものか。

〈第9講〉 情報技術と犯罪

情報技術に関わる犯罪について、1960年代から2000年代までの各時代における代表的な事例を紹介し、それら犯罪の特徴と法的・技術的対応について概説し、技術者に必要な倫理観とはどのようなものであるか考察する。

<予習・復習のポイント>

情報技術に関わる犯罪とそれに対する対応はどのようなものであるか、技術者に必要な倫理観とはどのようなものであるか。

〈第10講〉 情報技術とリスクマネジメント

システム障害など情報技術によるリスクとペリル、ハザードとの関係、リスクコントロールとリスクファイナンスについて

て概説し、事例からリスクマネジメントのあり方を考察する。

<予習・復習のポイント>

リスクマネジメントとはどのようなことであるか。

〈第11講〉 リスクマネジメントの背景

リスクマネジメントの背景として、企業不祥事を巡る世論形成、情報公開と説明責任の流れ、危機管理の変化、情報の資産価値の変化などを概観し、それらが雇用環境の変化や就業形態の変化とどのような関わりがあるかを確認する。

<予習・復習のポイント>

リスクマネジメントの背景にある社会状況の変化とはどのようなものであるか、またそれらが雇用環境・就業形態とどのような関係にあるか。

〈第12講〉 リスクマネジメントとCSR

リスクマネジメントとCSRとの関係を確認し、CSRを後押しする法整備の状況などを概説する。

<予習・復習のポイント>

CSRとはどのようなことか、個人情報保護法や不正アクセス禁止法、公益通報者保護法などどのようなものか。

〈第13講〉 CSRと企業の取り組み

CSRについて企業の取り組みを紹介し、それぞれの取り組みについて評価できる点と評価できない点を、その企業の商品やサービスを購入する顧客の立場、その企業で働く従業員の立場の両方から考察する。

<予習・復習のポイント>

取り組みを行う契機となったことからなどはあるか。

〈第14講・第15講〉 職業人として必要な倫理観

従業者としてのモラルとひとりの人間としてのモラルの対立を内部告発の事例から考察し、職業人として必要な倫理観とはどのようなものであるか、各自がどのような職業観を持って仕事をすべきかを考える。

<予習・復習のポイント>

職業人として必要な倫理観とはどのようなものであるか、個人の倫理的行動を後押しするものとして社会や企業にどのような制度が必要か、制度以外に必要なものは何か。また、職業人としてどのような職業観、心構えを持って働くべきか。

■教科書

授業の際にプリントを配布する。

■指定図書

田中朋弘・加藤尚武・立花隆著 『現代社会の倫理を考える<5> 職業の倫理学』 丸善

小国力著 『情報社会の基盤—基礎技術から職業、倫理まで』 丸善

斉藤武雄・田中喜美・依田有弘・佐々木 英一著 『ノンキャリア教育としての職業指導』 学文社

■参考文献

駒谷昇一・楠本範明・辰己丈夫著 『情報と職業』 オーム社
近藤勲著 『情報と職業』 丸善

■評価方法

期末試験45%、学期中のレポートや課題40%、出席状況15%を基本とし、授業への参加態度などを加味して総合的に評価する。

■評価基準

絶対評価

レポートや期末試験は、次の4点を中心に評価する。

(1)情報社会に至る産業社会の変遷を理解しているか。(2)情報社会における人々の勤労観や職業観を理解しているか。

(3)情報産業の特徴や技術動向を理解しているか。

(4)情報産業に関わる職業人としての役割や責任を理解し、必要な倫理観を身につけているか。

A+：上記評価方法で評価点95点以上

A：上記評価方法で評価点80点以上95点未満

B：上記評価方法で評価点70点以上80点未満

C：上記評価方法で評価点60点以上70点未満

F：上記評価方法で評価点60点未満

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する 但し、期末試験を受験していない履修生、出席回数が2分の1以下の履修生に対しては実施しない。

■留意点

特になし。

科目名 情報ネットワーク概論Ⅰ[Introduction to the Information Networking System Ⅰ]

担当教員 増田 浩通

■講義目的

コンピュータ、通信技術、通信網の発達とその融合によって、インターネットなどの通信ネットワークが急速に発達してきた。本講義では、情報ネットワークの概念と役割、基礎技術、LAN、インターネットの概要について学ぶ。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

本講義で説明する情報理論については、ビジネスパスポート等の情報技術者試験の問題を解くことができるレベルに到達することを目標とする。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ソフトウェア
- 第3回 オペレーティングシステム
- 第4回 通信ネットワークとは
- 第5回 LANの接続形態、種類、パケットやプロトコルなどについて
- 第6回 インターネットの利用や、TCP/IPプロトコルについて
- 第7回 IPアドレスとドメイン名の基礎について
- 第8回 中間テスト
- 第9回 情報化社会とは
- 第10回 情報リテラシー
- 第11回 情報倫理と知的財産権
- 第12回 情報セキュリティマネジメントシステム
- 第13回 セキュリティ技術
- 第14回 情報システムのライフサイクル
- 第15回 期末テスト

■教科書

図解 コンピュータ概論 ソフトウェア・通信ネットワーク
橋本・富永・松永著 オーム社
{http://www.amazon.co.jp/%E5%9B%B3%E8%A7%A3%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%94%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%BF%E6%A6%82%E8%AB%96%E3%82%BD%E3%83%95%E3%83%88%E3%82%A6%E3%82%A7%E3%82%A2%E3%83%BB%E9%80%9A%E4%BF%A1%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF-%E6%94%B9%E8%A8%82%E7%89%88-%E6%A9%8B%E6%9C%AC-%E6%B4%8B%E5%BF%97/dp/427420829X/ref=sr_1_2?s=books&ie=UTF8&qid=1360188311&sr=1-2}

■評価方法

授業内での評価 30%：積極的に授業に参加しているか否か。

中間テスト 30%：中間テストを受けていないものは、授業評価を不可(F)とする。

期末テスト 40%：期末テストを受けていないものは、授業評価を不可(F)とする。

就職活動等で中間テスト、期末テストを受けられなくなった

ときは、①就職活動の証明書類を用意し、②テスト前に増田宛(masuda@tama.ac.jp)に連絡をすること。①、②を満たさない場合は授業評価を不可(F)とする。

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義は教科書を中心に行うので、第2回の講義までに教科書を購入しておくこと。

科 目 名 情報ネットワーク概論Ⅱ[Introduction to the Information Networking System Ⅱ]**担当教員** 増田 浩通**■講義目的**

本講義は情報ネットワークの本質と全体像がわかるよう、過去から現在までの情報システム技術の発展経緯から今後の展開までを体系的に解説する。

■講義分類

ビジネス ICT

■到達目標

情報ネットワークの本質と全体像がわかるようになり、情報処理技術試験に対応できる基礎力を養うことを到達目標とする。

■講義形態

講義のみ [学外学習無]

■講義の概要

- 第1回 ガイダンスと課題の提示
- 第2回 情報化時代の到来
- 第3回 通信ネットワークとは
- 第4回 モバイル通信のネットワーク
- 第5回 コンピュータの歴史と将来
- 第6回 コンピュータの機能と装置
- 第7回 通信技術の概要
- 第8回 中間テスト
- 第9回 データネットワーク技術
- 第10回 ネットワークの接続形態
- 第11回 情報ネットワークの使われ方
- 第12回 インターネットの仕組み
- 第13回 ネットワークセキュリティ
- 第14回 情報化社会のルールとマナー
- 第15回 期末テスト

■教科書

はじめての情報ネットワーク

室本弘道著 森北出版

{http://www.amazon.co.jp/%E3%81%AF%E3%81%98%E3%82%81%E3%81%A6%E3%81%AE-%E6%83%85%E5%A0%B1%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF-%E4%B8%8A%E7%B4%9A%E-6%83%85%E5%A0%B1%E5%87%A6%E7%90%86%E5%A3%AB%E3%82%92%E3%82%81%E3%81%96%E3%81%99%E4%BA%BA%E3%81%AE%E3%81%9F%E3%82%81%E3%81%AB-%E5%AE%A4%E6%9C%AC-%E5%BC-%98%E9%81%93/dp/4627829612/ref=sr_1_1?ie=UTF8&qid=1360189703&sr=8-1}

■評価方法

授業内での評価 30%：積極的に授業に参加しているか否か。

中間テスト 30%：中間テストを受けていないものは、授業評価を不可(F)とする。

期末テスト 40%：期末テストを受けていないものは、授業評価を不可(F)とする。

就職活動等で中間テスト、期末テストを受けられなくなったときは、①就職活動の証明書類を用意し、②テスト前に増田宛(masuda@tama.ac.jp)に連絡をすること。①、②を満たさない場合は授業評価を不可(F)とする。

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義は教科書中心で行うので、第2回目までに教科書を購入しておくこと。

科目名 情報法〔Information Law〕

担当教員 石岡 克俊

■講義目的

この講義では、「知的財産」に関わる法制度全般を説明していきます。一口に「知的財産」と言っても、しばしば耳にするわりに、それがどんなものであるか案外知られていません。ましてや、何故これらを保護しなければならないのか、また、これらの保護のためにどのような仕組みが用意されているのかに至っては、ほとんど初耳でしょう。この講義では、知的財産に関する法制度の理解を深めていくことを目的としています。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネス創造／グローバルビジネス／ビジネスICT

■到達目標

この講義の到達目標としては、しばしば話題にのぼる知的財産の問題について自ら考えていくことができるようになることです。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

知的財産に関する法制度は、非常に多岐にわたります。一つの一つの法制度を解説するだけで、半年や一年は最低でも必要です。でも、ここでは思いっきり欲張って、知的財産制度全体を鳥瞰してみよう。そして、各法制度の特徴的な部分を大掘りしてみようと思います。

〈第1講〉

概要：ガイダンス

詳細：授業の進め方や評価の仕方、勉強に当たっての指針を説明する。

〈第2講〉

概要：知的財産（権）とは何か？

詳細：知的財産は、非常に多岐にわたる。現行法を前提にどのようなものがあるのかを解説し、知的財産には該当しても、現在わが国において保護されていないものについても説明していく。

〈第3講〉

概要：知的財産権の特徴

詳細：知的財産は、他の財産権と一体何がどのように違っているのか。その特徴について説明をする。

〈第4講〉

概要：新たな技術的成果を保護する特許制度

詳細：特許制度に関する原則と考え方について説明する。

〈第5講〉

概要：発明とは何か？

詳細：特許制度によって保護されるのは発明である。発明とは何か？発見と何が違うのか？発明の定義について説明する。

〈第6講〉

概要：特許の出願手続について

詳細：特許発明に該当しても、特許権は付与されない。出願登録手続が必須となる。現在わが国の特許制度はどのような出願登録に係る仕組みを有しているのか。その内容を説明する。

〈第7講〉

概要：特許の技術的範囲と特許権の差止請求及び損害賠償

詳細：特許を始めとする知的財産は、形が見えないものである。したがって、どこまでを特許の範囲とするのが難しい問題がある。これがきちんと確定されなければ、侵害という概念も現れてこない。ここでは、技術範囲の特許権のエンフォースメントと関係付

けて説明する。

〈第8講〉

概要：発明者にはどのような権利が認められるのか？

詳細：特許発明をした者には、どのような権利が付与されるか。いわゆる発明者権について説明する。

〈第9講〉

概要：実用新案と営業秘密

詳細：特許と関連付けられる実用新案制度についての説明と、ノウハウに代表される技術情報の保護手段について説明する。

〈第10講〉

概要：意匠制度とはどんなもの？

詳細：特許制度の一つの分岐であるデザインの保護の仕組みについて説明する。

〈第11講〉

概要：商標制度とはどんなもの？

詳細：産業秩序維持を目指し、いわゆる技術保護とは異なる性質を持つ知的財産権である商標制度について説明する。

〈第12講〉

概要：商標権を取得しなくても保護される場合がある。

詳細：商標権を取得しなくてもこれを保護する仕組みがある。主に不正競争防止法によるものだが、この保護の特質を整理し、この法律の内容について説明する。

〈第13講〉

概要：著作権とはどのような権利か？著作権によって保護される著作物とは？

詳細：創作保護法という意味で特許法と同様だが、その目的や保護の態様から全く異なる者として区別される著作権制度についての説明を行う。

〈第14講〉

概要：著作者となるのは誰か？著作者にはどのような権利が発生するのか？

詳細：英米法と異なり、著作者を中心に据える大陸法系の著作権法の重要概念である著作者についてその享受する権利とともに説明していく。

〈第15講〉

概要：著作権が制限される場合。著作権侵害。著作隣接権とはどのような権利か？

詳細：著作権の公共性に基づく制約、その侵害、その他講義の意味における著作権について整理し、説明する。

■教科書

特に指定しません。講義においてレジュメを配布します。

■指定図書

特に指定しません。講義においてレジュメを配布します。

■参考文献

講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

■評価方法

学期末試験のみで評価を行います。

■評価基準

相対評価

A+：

A：知的財産に関わる具体的な問題に関して解決の方向を自ら考えることができること

B：知的財産に関わる問題であることを適確に認識できること

C：知的財産法についての基礎的な知識の習得

F：

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名 初級簿記〔Introductory Level Bookkeeping〕

担当教員 金子 邦博

■講義目的

【簿記入門】

本講義は、産業社会において企業が行うさまざまな取引を会計情報として記録するための技法である「簿記」の基本原理を習得し、日本商工会議所が主催する簿記検定試験の3級(日商簿記3級)に合格できる知識と能力を習得することを目的とする。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

企業の経済活動を会計情報として記録するための技法である「簿記」の仕組みについての基礎的な知識を習得すること。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉(ガイダンス) 1.簿記の歴史・目的・種類 2.簿記の基礎概念

概要：簿記の基本事項を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：(復習のポイント)簿記簿記の意義と簿記の基礎概念を理解すること。

〈第2講〉3.仕訳のルール

概要：会計記録の仕組みである「仕訳」の仕方を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：(復習のポイント)問題文を都て「借方要素と貸方要素」に区分できるようにする。

〈第3講〉4.現金預金取引

概要：現金及び現金の受け払いに伴う取引について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：(復習のポイント)現金取引、預金取引があった場合の仕訳処理を習得する。

〈第4講〉5.商品売買

概要：販売・使用の商品の受け払いに伴う取引について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：(復習のポイント)商品を販売したとき、仕入れたとき仕訳処理を習得する。

〈第5講〉6.商品売買(続き) 6.手形取引

概要：商品の買戻しなどの特殊な処理と手形取引について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：(復習のポイント)商品の取引、返品があった際の仕訳処理と、手形取引の意義、手形取引があった際の仕訳処理を習得する。

〈第6講〉7.有価証券

概要：有価証券の受け払いに伴う取引について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：(復習のポイント)有価証券の売買取引に際しての仕訳処理を習得する。

〈第7講〉8.固定資産 9.租税公課 10.資本と引出金

概要：固定資産、税金、資本にかかわる取引について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：(復習のポイント)固定資産の購入、税金の支払い及び資本を引き出した場合の仕訳処理を習得する。

〈第8講〉11.その他の債権・債務

概要：各種の債権・債務の取引について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：(復習のポイント)各種の債権・債務が発生した場合の仕訳処理を習得する。

〈第9講〉12.総記のルール 13.帳簿

概要：仕訳により会計記録した情報を整理するための総記と帳簿の作成を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：(復習のポイント)会計情報を整理するための手法である「総記」の仕組みと帳簿の記入について理解する。

〈第10講〉14.伝票会計

概要：伝票を使った会計記録の処理を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：(復習のポイント)反復的に発生する取引を合理的に記録するための伝票会計の手法を習得する。

〈第11講〉15.試算表の作成

概要：全ての勘定記録の一覧表である「試算表」の使い方を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：(復習のポイント)記録された会計情報の間違い(集計されているのかを確かめるために作成する試算表の意義を理解する。

〈第12講〉16.決算整理の方法

概要：決算整理のための仕訳について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：(復習のポイント)会計期間の会計情報をとりよめるための処理である「決算」について、その手法を習得する。

〈第13講〉17.試算表の作成

概要：決算整理のワークシートである「試算表」の使い方を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：(復習のポイント)「試算表」の使い方を習得する。

〈第14講〉18.帳簿の締め切り

概要：決算の確定をするための帳簿の締め切りについて学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：(復習のポイント)会計期間の会計情報の確定を行う帳簿の締め切り方法を習得する。

〈第15講〉(総まとめ)

概要：総合問題の演習を行う。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：(復習のポイント)総合問題である試算表問題、帳簿問題の解き方を理解する。

■教科書

[1]福島三千代『サクとうかる日商3級商業簿記 テキスト』 ネットスクール

[2]福島三千代『サクとうかる日商3級商業簿記 トレーニング』 ネットスクール

■指定図書

[1]福島三千代『すいすい簿記マンガでGO!日商簿記3級』 ネットスクール

[2]桑原知之『日商簿記3級とあるテキスト 商業簿記』 ネットスクール

[3]桑原知之『日商簿記3級とあるゼミ 商業簿記』 ネットスクール

[4]ネットスクール(編著)『日商簿記検定 過去問題集3級 出題パターン解き方』 ネットスクール

[5]滝澤なみ『プラス8点のたのめ問題演習 日商簿記3級』 TAC 出版

■参考文献

堀川洋『日商簿記受験生のための電卓操作完ぺき自習帳-これこそ実用合格総得点20点アップのトラの巻』 といい書房

■参考 URL

<http://faculty.tama.ac.jp/kaneko/>

■評価方法

期末定期試験の成績により評価する(100%)。ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受動態度に問題があった者に対しては、期末定期試験の成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

期末定期試験の成績が上記のこの講義の到達目標に達したと判断された者に単位を付与し、期末定期試験の得点割合に成績評価する。相対評価

■事前履修科目目等

この講義の受講に際して、特定の科目の単位取得は条件ではないが、講義の受講にあたっては、「産業社会入門Ⅱ(会計)」ないし「会計学基礎」の科目が履修済みであることが望ましい。

■卒業生・次生対象再試験の実施

■留意点

1. この科目の単位取得のためには、宿題及び講義内容の復習を通じて知識の定着を図り、問題演習の積み重ねにより会計処理能力の向上をさせるなどの自主的な学習が必要である。2. 講義の際には、教科書のほか、必ず「電卓」を持参すること。なお、「電卓」に関しては、初回講義のなかで、選び方などを説明するので、初回講義前に事前に用意しておく必要はない。3. 講義の理解度合いを各自で確認してもらうことを目的に、講義では毎回ミニテストを実施する。4. 講義の資料については、適宜、ネット上で提示する。5. 本講義は、半期(15回の講義)で完結する講義を春学期と秋学期の年2回開講する。内容は全く同じなので学期に受講しても構わないが、この科目の発展科目である「中級簿記」は秋学期にしか開講しないので、連続して受講を希望する場合、「初級簿記」を春学期に履修することが望ましい。

(日本商工会議所の簿記検定については、下記のホームページを参照してください)

(<http://www.kentei.ne.jp/book/>)

科目名

数字力で語る[How Basic Mathematics apply to the World]

担当教員

今泉 忠

■講義目的

経営に関する問題解決を実行するためには、始めに様々な事象に関する「データ」を、客観的・主観的「数字情報」で語ることが求められる。

この「数字情報」化のための編集力を高める。

【到達目標】履修者は、以下のように能力を習得することを目標とする。

- 実際の経営に関する事象や社会を理解する
- ある問題を解決するために、比較や変化を、数字で捉えることができるようにする
- 目標設定と実際のギャップを数字により表し、評価することの重要性を理解できる

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / ビジネス創造 / ビジネスマネジメント / 社会人力育成 / グローバルビジネス / ビジネスICT / 地域ビジネス

■到達目標

履修者は、以下のように能力を習得することを目標とする。

- 実際の経営に関する事象や社会を理解する
- ある問題を解決するために、比較や変化を、数字で捉えることができるようにする
- 目標設定と実際のギャップを数字により表し、評価することの重要性を理解できる

■講義形態

講義 + GD・GW・PR[学外学習無]

■講義の概要

実施形態

基礎的な知識をもとに、社会での数字の使われた方、問題解決のための活用法を知る理解するために、経営情報学が密接に関係しているいくつかの分野での数字の使い方の理解と表現方法を理解する。1分野3回程度を予定する。

必要に応じて、グループディスカッションで問題解決案を提示させる。

〈第1講～第3講〉マーケティング：顧客獲得のための数字活用について

事前学習しておくべき用語やポイント：利益

マーケティングでの数字の活用について整理する。なぜ、数字を利用するかを説明できる

第1回 マーケティングセンスを上げる5つの視点

第2回 $1 + 1 = 2$ と考えない数字：ビジネスをシミュレーションから考える

第3回 計算しない数字：微分とマーケティング

〈第4講～第6講〉行動を評価する行動心理

心理学：データの裏に潜む数字を見つけるには

事前学習しておくべき用語やポイント：行動経済学

心理モデルや学習モデルでの数字で扱うことの利点とそのモデル化を整理する。また、功罪を整理する。

第1回 統計数字にだまされない

第2回 確率的なモノの理解

第3回 認知心理学から

〈第7講～第13講〉意思決定のための数字の活用について

事前学習しておくべき用語やポイント：データにもとづく課題解決

第1回 データの活用法について整理する

第2回 割引率かポイントか

第3回 定期券購入での選択

第4回 今日のリンゴ1個と明日のリンゴ2個の選択

第5回 おでんの売上と温度変化

第6回 温暖化の傾向を探る

第7回 まとめの演習

〈第14講～第15講〉

まとめのレポート作成

■教科書

各テーマ毎に配布する

■指定図書

「数字力の教室」久保憂希也、大和書房

■評価方法

各テーマでの数字活用について理解することが重要であるので、レポート、講義中の演習、出席率等で行う

■評価基準

理解度と自ら考える能力を見るためのレポートなどで評価する。

レポート：講義中の演習：出席＝4：3：3

■留意点

広いテーマ分野について理解する授業なので、毎回出席することが重要である。

科目名 スポーツI(Sports I)

担当教員 杉田 文章、他

■講義目的

スポーツに対して、今日次の二つの期待をし得ると考える。
①スポーツ文化を良く理解しその価値を享受することによって、自身の生活を豊かにする、という期待 ②スポーツと継続的にかかわることによって、社会との良好な関係を構築し、維持することができるようになる、という期待
この二つのスポーツの機能を生かすために必要な知識、技能、経験などを習得することが目的である。

言い換えれば、受講者が、「生涯にわたってスポーツとかかわっていくことによって、より人生の価値を高める」ことを可能にするための知識と能力を身につけることが、この講義の目的である。そのために、第一にスポーツの価値とのよい出会い方が必要である。第二にその価値に気づくことが必要である。第三に、長く関わっていくための資質(能力と知識)を身につけることが必要である。これらの要件が満たされるように意図して、本講義は展開される。

ここで要請されることが意図されている力は、広くは「人間力」ともいうべきものであり、職業上でも生活上でも、問題解決プロセスの根幹を成すものであることはいままでもない。そういった意識をもちつつ受講されることを希望している。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

一般的にスポーツは、健康の増進、成人病の予防、ストレスの解消、社会性の育成、人格形成といったわれわれのさまざまな側面にプラスの機能を果たしていると考えられている。しかしながら、これらの機能は、スポーツそのものが究極的にかけた目的ではない。多摩大学の「スポーツ」は、スポーツと関わること(自ら行うだけでなく、見る、聞く、読むなどの関わりかたも含めて)の本質的な意味を、「スポーツ文化の価値を享受する」という側面に見出そうとしている。おりから生涯学習社会の到来がさげばれ、労働時間は短縮され、自由時間が増大し、物質的な価値よりも精神的な価値や心の豊かさが重んじられる時代となってきた。このような状況の中で、私たちに望まれることの1つは、「いかに精神、肉体ともによいコンディションで過ごす能力を身につけるか」ということではないだろうか。この授業の中で養う「能力」は、スポーツのゲームの中で勝つための能力を最終的に意味しているのではない。それよりも、さまざまな価値体系を持ち、また関わった私たち自身のありよう示してくれる、文化としてのスポーツを十分に享受する能力の方がむしろ重要であると考えている。

生涯をかけてある種目と関わっていく。そしてその中で、スポーツ活動そのものやそこでのさまざまな社会関係などを通じて、自分自身をみつけ、あるいは見つけていく、さらにまた、自分自身をさがしていく。
このようなスポーツとの関わり方に欠かせない素養を作り上げていくステップとして、この授業は位置づけている。

◆授業の対象
この「スポーツI・II」の授業は、上記の通り、スポーツの文化的価値に気づき、これを享受する能力を開発しようとするものであるから、運動経験や技術レベルは基本的には問われない。また、高校時代までにトップアスリートとして競技生活をしてきた人でも、「スポーツ文化の享受能力」を十分に開発されていない人なら、この授業の対象となりうるであろう。

◆授業の対象
この「スポーツI・II」の授業は、上記の通り、スポーツの文化的価値に気づき、これを享受する能力を開発しようとするものであるから、運動経験や技術レベルは基本的には問われない。また、高校時代までにトップアスリートとして競技生活をしてきた人でも、「スポーツ文化の享受能力」を十分に開発されていない人なら、この授業の対象となりうるであろう。

◆授業の対象
この「スポーツI・II」の授業は、上記の通り、スポーツの文化的価値に気づき、これを享受する能力を開発しようとするものであるから、運動経験や技術レベルは基本的には問われない。また、高校時代までにトップアスリートとして競技生活をしてきた人でも、「スポーツ文化の享受能力」を十分に開発されていない人なら、この授業の対象となりうるであろう。

のであるから、運動経験や技術レベルは基本的には問われない。また、高校時代までにトップアスリートとして競技生活をしてきた人でも、「スポーツ文化の享受能力」を十分に開発されていない人なら、この授業の対象となりうるであろう。

■講義形態

その他(実技学習)[学外学習]

■講義の概要

授業内容

以下の種目を予定している。

詳細は年度開始時のオリエンテーション等にて示される。

スポーツI

バスケットボール

テニス

バドミントン

シェイプアップフィットネス

スポーツII

バスケットボール

テニス

ゴルフ

スポーツプレゼンテーション

■教科書

個々の授業の中で指示する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

個々の授業の中で指示する。

■評価方法

主に次の点で履修者の評価を行う。

- 1)出席状況および授業中の受講態度
- 2)授業内容の理解度
- 3)授業における課題の達成度

■評価基準

絶対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

これまでの実技の経験、運動部活動などの経験は、全く必要としない。知らないこと、下手であることは、何ら受講の妨げにはならない。むしろ、そのような経験に乏しいと自覚している学生が、将来の生活を充実させるための資質を獲得する場として、積極的に利用してもらいたい。

科目名 スポーツII(Sports II)

担当教員 杉田 文章、他

■講義目的

スポーツに対して、今日次の二つの期待をし得ると考える。
①スポーツ文化を良く理解しその価値を享受することによって、自身の生活を豊かにする、という期待 ②スポーツと継続的にかかわることによって、社会との良好な関係を構築し、維持することができるようになる、という期待
この二つのスポーツの機能を生かすために必要な知識、技能、経験などを習得することが目的である。

言い換えれば、受講者が、「生涯にわたってスポーツとかわかっていくことによって、より人生の価値を高める」ことを可能にするための知識と能力を身につけることが、この講義の目的である。そのために、第一にスポーツの価値とのよい出会い方が必要である。第二にその価値に気づくことが必要である。第三に、長く関わっていくための資質(能力と知識)を身につけることが必要である。これらの要件が満たされるように意図して、本講義は展開される。ここで要請されることが意図されている力は、広くは「人間力」ともいうべきものであり、職業上でも生活上でも、問題解決プロセスの根幹を成すものであることはいうまでもない。そういった意識をもちつつ受講されることを希望している。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

一般的にスポーツは、健康の増進、成人病の予防、ストレスの解消、社会性の育成、人格形成といったわれわれのさまざまな側面にプラスの機能を果たしていると考えられている。しかしながら、これらの機能は、スポーツそのものが究極的にかけた目的ではない。多摩大学の「スポーツ」は、スポーツと関わること(自ら行うだけでなく、見る、聞く、読むなどの関わりかたも含めて)の本質的な意味を、「スポーツ文化の価値を享受する」という側面に見出そうとしている。おりから生涯学習社会の到来がさげばれ、労働時間は短縮され、自由時間が増大し、物質的な価値よりも精神的な価値や心の豊かさが重んじられる時代となってきている。このような状況の中で、私たちに望まれることの1つは、「いかに精神、肉体ともよいコンディションで過ごす能力を身につけるか」ということではないだろうか。この授業の中で養う「能力」は、スポーツのゲームの中で勝つための能力を最終的に意味しているのではない。それよりも、さまざまな価値体系を持ち、また関わった私たち自身のありよう示してくれる、文化としてのスポーツを十分に享受する能力の方がむしろ重要であると考えている。

生涯をかけてある種目と関わっていく。そしてその中で、スポーツ活動そのものやそこのさまざまな社会関係などを通じて、自分自身をみつけ、あるいは見つめていく、さらにまた、自分自身をさがしていく。

このようなスポーツとの関わり方に欠かせない素養を作り上げていくステップとして、この授業は位置づけている。

◆授業の対象

この「スポーツI・II」の授業は、上記の通り、スポーツの文化的価値に気づき、これを享受する能力を開発しようとするも

のであるから、運動経験や技術レベルは基本的には問われない。また、高校時代までにトップアスリートとして競技生活をしてきた人でも、「スポーツ文化の享受能力」を十分に開発されていない人なら、この授業の対象となりうるであろう。

■講義形態

その他(実技学習)(学外学習有)

■講義の概要

授業内容

以下の種目を予定している。
詳細は年度開始時のオリエンテーション等にて示される。

スポーツI

バスケットボール

テニス

バドミントン

シェイプアップフィットネス

スポーツII

バスケットボール

テニス

ゴルフ

スポーツプレゼンテーション

■教科書

個々の授業の中で指示する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

個々の授業の中で指示する。

■評価方法

主に次の点で履修者の評価を行う。

- 1)出席状況および授業中の受講態度
- 2)授業内容の理解度
- 3)授業における課題の達成度

■評価基準

絶対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

これまでの実技の経験、運動部活動などの経験は、全く必要としない。知らないこと、下手であることは、何ら受講の妨げにはならない。むしろ、そのような経験に乏しいと自覚している学生が、将来の生活を充実させるための資質を獲得する場として、積極的に利用してもらいたい。

科 目 名 スポーツと健康〔Sports and Health〕**担当教員** 境 広志**■講義目的**

運動やスポーツは、アスリートだけでなく一般の幅広い年齢の人々が参加をし、健康の維持・向上や生活習慣病をはじめとした疾病の予防など、さまざまな目的を持って行われている。運動やスポーツを日常生活に習慣化して健康を維持・向上させていくことは、社会人基礎力を発揮して社会に貢献していくためにも大切であり、自分自身の生活の質の向上や豊かな人生へと導いてくれることへもつながっていく。本講義では、安全にそして効果的に運動やスポーツを実施するために必要な、身体の骨格筋や神経、呼吸・循環器系、ホメオスタシス、栄養・エネルギー、トレーニング、運動医学に裏付けられた運動処方についてなどの知識を学ぶことを目的としている。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

1. 筋肉の構造や収縮のしくみ、運動時の筋肉へのエネルギー供給、筋肉の働きを制御している神経の働きなどについて理解する。
2. 呼吸器の調節やガス交換などの呼吸の働き、運動強度、酸素摂取量、酸素借、酸素負債について理解する。
3. 心臓の構造や循環経路、運動と血圧、血流再配分、末梢循環などについて理解する。
4. ホメオスタシスに重要な浸透圧、pH、腎臓の機能、体温調節などについて理解する。
5. 栄養の働きと運動との関わり、体内のエネルギー代謝について理解する。
6. トレーニングの原理・原則、身体機能の適応、安全なトレーニング(ウォームアップとクーリングダウン)などについて理解する。
7. 生活習慣病に対する運動の効果、運動処方の実際について理解する。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■教科書

特に教科書は使用しない。毎回レジュメを配布する。

■指定図書

講義の中で紹介する。

■参考文献

講義の中で紹介する。

■評価方法

出席状況(態度・取組状況を含む)が20%、最終日に実施する筆記試験が80%を基本としつつ、事前学習への取組状況などの積極性をプラスに評価する。

■評価基準

出席状況(態度・取組状況を含む)については
 ・講義終了時に提出する小レポートによる出席状況の評価
 ・小レポートの記載内容により取組状況の評価
 筆記試験については
 ・毎回のテーマの概略を理解できているか
 ・キーワードを説明できるか
 以上が評価の基準となる。

相対評価**■事前履修科目等**

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

本講義での学習においては、運動生理学あるいは運動生化学で使用する専門用語がたくさん出てくる。講義内容を理解するためにも、「事前学習しておくべき用語やポイント」で挙げているキーワードを事前に調べて予習をしておくことを望みたい。

科目名 スポーツビジネス論Ⅰ(スポーツマーケティング論)(Sports Business I (Sports Marketing))

担当教員 広瀬 一郎

■講義目的

スポーツという概念の形成過程を理解する
 スポーツは身ながら存在するにも関わらず、必ずしも正確な認識を得ていない。我が国では明治時代以来、スポーツが体育と混同して考えられ、「スポーツとは何か?」という概念的な問いが確かなままで至っている。まず「スポーツとは何か?」を理解し、その価値を整理する必要がある。第一に歴史的な背景と流れを把握する。基本的な概念が完成された19世紀後半のビクトリア朝イングランドでは、近代(国民)国家の構成メンバー育成が社会的な要請であり、パブリックスクールがその機能を持っていた。社会や国家の形成といった文脈で、スポーツの発生と完成、及び普及を理解しておく必要がある。第二に、第二次世界大戦後、冷戦構造の中でテクノロジーの発達により、生産力の向上と情報化が急速に進む。そこで「ナショナルリズム」は東西双方が経済力と技術力を誇示しあう「冷たい闘い」になった。国力の誇示は、「軍事力」にとどまらず、経済競争に、そしてマスメディアの発展、普及と背景に、「スポーツの競技力」の増強にも向かう。この過程でスポーツは真に世界化を果たした。60~70年代の大量生産/大量消費の確立、大衆メディアとしてのTVの普及、経済のグローバル化と市場化を背景に、メディア価値を持つにいたり、その価値を利用し、事業化するスポーツマーケティングが誕生した。

■講義分類

ビジネスマネジメント / 社会人力育成 / グローバルビジネス

■到達目標

スポーツという概念が、地球上の小さなイングランドという場で誕生したローカルなものとして誕生したのに、なぜ世界化したのか、その必然性を理解し、スポーツマーケティングで扱う商品の価値を把握する

■講義形態

講義形式のみ。

映像素材をなるべく利用する。[特になし]

■講義の概要

〈第1講〉自己紹介/この講義の狙い/説明/スポーツマンシップについて

概要：講義全体の概観を知り、成果(到達点)のイメージを持つ

事前学習のポイント：学習の目的意識を明確化する。

詳細：「構造的把握」とは何か? 「構造的」とは何か?

〈第2講〉「近代」というパラダイム/合理的精神/「進化論」「啓蒙」

概要：近代スポーツは「近代」社会の産物である

事前学習のポイント：世界史の「近代」を予習しておく。

詳細：「近代」は「前近代」の否定によって誕生した。「前近代」とは何か?

〈第3講〉ロマン主義とナショナリズム(近代五輪の誕生)

概要：近代の現実にある基本構成要素(=日々の生活と思考の基盤)

事前：学習のポイント：「ナショナリズム」を予習。(ネットでもOK)

詳細：国民国家の原型的な構造

〈第4講〉近代スポーツの概念形成(産業革命の社会に与えた影響と価値観)

概要：産業革命により「社会」が誕生した

事前学習のポイント：「産業革命」の予習。(ワットの蒸気機関など)

詳細：「豊かさ」の誕生と社会

〈第5講〉スポーツマンシップと「パブリック・スクール」の役割

概要：初めて社会が成立した英国で、なぜスポーツが生まれたのか

事前学習のポイント：「パブリック・スクール」の予習。

詳細：「植民地政策」における人材育成と「パブリック・スクール」

〈第6講〉明治政府の「体育」導入政策

概要：「体育」≠「スポーツ」

事前学習のポイント：「体育」「知育」「徳育」の予習。

詳細：明治政府はなぜ「国民教育」に体育を採用したのか

〈第7講〉「大衆消費社会」の到来とモノの象徴化

概要：社会の生産力向上と供給過剰

事前学習のポイント：「大衆」「消費」と購入の違いを考えてみる。

詳細：モノの物神化(「消費社会の神話と構造」)

〈第8講〉TVメディアとスポーツ(東京五輪)

概要：東京五輪とスポーツのTV中継

事前学習のポイント：東京五輪の予習。

詳細：東京五輪で放送技術の開発が行われ、スポーツのメディア価値が向上した

〈第9講〉ナショナルリズムの変質とスポーツの世界化(東西冷戦と南北問題)

概要：第二次世界大戦で「帝国主義」は終焉し、ナショナルリズムは変容した

事前学習のポイント：第3講「ナショナルリズム」の復習。

詳細：ナショナルリズムの変容と「東西冷戦」構造は、スポーツの世界化、巨大化をもたらした

〈第10講〉「マーケティング」の時代(60~70年代)

概要：モノの供給過剰は、市場の論理を変えた

事前学習のポイント：「マーケティングとは?」「4Pとは?」

詳細：「人並み」から「差別化」に(「コブランディング」)

〈第11講〉イデオロギーとしてのアマチュアリズムの終焉(70年代)

概要：アングロ・サクソンのアマチュアリズム

事前学習のポイント：「アマチュア」とは?予習しておく。

詳細：スポーツの世界化=非アングロ・サクソニ化

〈第12講〉「スポーツマーケティング」の成立(ロス五輪と80年代)

概要：既アマチュアからスポーツの商品化へ

事前学習のポイント：ロス五輪に関する予習。(モスクワ五輪で日本がボイコットした理由)

詳細：ロス五輪のユベロス組織委員長が実施した「権利の商品化」

〈第13講〉スポーツというソフト(概念の商品化=「開発」普及と「決定」)

概要：「権利」という無体財産

事前学習のポイント：著作権/肖像権など知的財産権とTV放送権について予習。

詳細：知的財産権とスポーツマーケティング

〈第14講〉メディア価値の形成と利用

概要：スポーツの「メディア価値」とは何か

事前学習のポイント：なぜ人気スポーツにはスポンサーがつくのか? (何に対する対価か)

詳細：「メディア価値」とは、「消費を誘導する」力から生ずる

〈第15講〉試験

■教科書

広瀬一郎 「スポーツマーケティングを学ぶ」創文企画

■指定図書

特になし

■参考文献

広瀬一郎 「スポーツマンシップ立国論」 小学館

多木浩二 「スポーツを考える」 ちくま新書

バーバラ・シュミット 「アディダスとプーマ」 小学館

マイケル・ペイン 「オリンピックはなぜ、世界最大のイベントに成長したのか」 サンクチュアリ出版

■評価方法

期末筆記試験のみ

■評価基準

絶対評価

得点60%未満は不合格

60%~74%：C

75%~85%：B

85%~94%：A

■事前履修科目等

現代ビジネス論/履修が望ましい

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

構造的な理解に努める。スポーツという概念形成を理解するためには、近代史、特に産業革命以降の国民国=産業主義国家という制度を理解する必要がある。

科目名 スポーツビジネス論Ⅰ（スポーツマネジメント論）(Sports Business II (Sports Management))

担当教員 広瀬 一郎

■講義目的

高度情報化された社会で、スポーツのマーケットはどのように拡大したか。
20世紀になって生産力の向上により、マス社会が出現する。マスの生産力によるマスの消費を必要とする。マスの消費はマスの情報化がなければ達成は不可能である。マスメディアの発達した所以である。市場とスポーツのグローバル化は、メディアの発達による情報のグローバル化によって推進され、20世紀を通じてほぼ軌跡をにじみながら発達を遂げている。こうしてスポーツは市場の、つまりマーケティングの対象物(商品)としての内実を整えていったのであった。そして90年代以降、有料衛星TVの登場を契機にスポーツ産業がグローバル化し、今日の反動が現れ始めている。「市場」の商品化したことにより、「市場」は確かに拡大したが、「公共性」は失われて行きはしないか?公共性を担保するうえでユニバーサル・アクセス権の法制化は有効か。90年代以降、人気スポーツである「オリンピック」と「サッカー」の主要大会の変遷を辿ると、それぞれが全く独立した条件で変遷しているのだが、あたかも一人の神がシナリオを書いたかのように、見事に一つのプロットの存在を感じることができ。一言で言えば「グローバルイズム」である。スポーツビジネスの変遷から、グローバルイズムの本質(市場化/公共の圏界)を感じてもらおう。

■講義分類

ビジネス創造 / ビジネスマネジメント / 社会人力育成 / グローバルビジネス

■到達目標

20世紀末に、スポーツがTVのキーコンテンツとなり、莫大な放送権マネーがスポーツ市場に流入。いわゆる「スポーツバブル」を生じた。このことが、従来のスポーツビジネスのステークホルダーの関係を変容させる。過度な商業化の進みは、どのような現象として現れているか、構造的な把握をし、今後の展開、対応を検討する。ここで「単なるスポーツ好き」に終わることなく、スポーツのサステナビリティについて自分なりの意見を持つようになる。

■講義形態

講義のみ【特になし】

■講義の概要

〈第1講〉スポーツマーケティングを学ぶ意味。

概要：「学び」の意味を理解し、到達点(成果)のイメージを持つ。

事前学習ポイント：自己確認(自己客観化)

詳細：「スポーツマーケティング」を学ぶことで、得られることは何か。

〈第2講〉前期の復習

概要：前期学習した内容を整理し、後期学習のスタートラインにつく。

事前学習のポイント：前期の復習

詳細：「スポーツの誕生～世界化～メディア価値～商品化」

〈第3講〉前期の復習-II：マーケティングとは？

概要：構造的な理解とは、「スポーツ」と「マーケティング」という2つの要素を理解することが基本。

事前学習のポイント：第二次世界大戦後の、生産力の向上、「需給関係」の変化

詳細：供給過剰は、市場を「交換」の場から「競合」の場に変えた

〈第4講〉大衆化とスポーツのメディア価値

概要：社会の大衆化がスポーツに与えた影響

事前学習のポイント：「大衆」とは？(なぜ大衆は「TV」に誘導されるのか?)

詳細：「大衆」は「国民」が「消費者」として市場に組み込まれたことで誕生した。

〈第5講〉ロス五輪とISL

概要：スポーツの国際大会の大型化と経費上昇が、資金需要を生んだ

事前学習のポイント：スポーツの事業化

詳細：TVの普及により、スポーツはメディア価値を持つようになり、商品化が可能となった

〈第6講〉スポーツビジネスの産業化

概要：商品化された事業化されたスポーツが、産業化された意味

事前学習のポイント：スポーツイベントを支える仕事を予測調べ。

詳細：スポーツは「スポーツマーケティング」という産業化によって拡大再生産が可能になった。

〈第7講〉「マドック化」と「ユニバーサル・アクセス権」(公共性について)

概要：90年代のグローバルイズムとスポーツマーケティングの変化

事前学習のポイント：「公共性」について。(スポーツは公共的か?)

詳細：マドック化は「スポーツの公共性」を問う問題である

〈第8講〉概要：IT化とスポーツ：W杯USAと94年アトランタ五輪

概要：IT化はグローバルイズム(=世界の市場化)を支援する

事前学習のポイント：インターネットは誰がいつ作ったのか?

詳細：「IT」は世界をフラット化し、「市場」という名のフラット化を支えるツール

〈第9講〉リーグの誕生：線維とその意味(ミュンヘン五輪→IOC憲章改訂→プロ格闘)

概要：サッカービジネスの「市場化」と「リーグ」の誕生の関係

事前学習のポイント：リーグ誕生時(90年代初頭)の社会と世相。

詳細：グローバルイズムは「リーグ」の誕生に影響したか?

〈第10講〉リーグ誕生以降

概要：「失われた10年」に「リーグ」誕生(産業化の成功)

事前学習のポイント：「失われた10年」とは何か。

詳細：「市場化」の意味と「悪影響」(～スポーツバブルの崩壊)

〈第11講〉スポーツ・リーグ産業の特質とリスク (スポーツ・マネジメント)

概要：スポーツ産業の構造を把握する

事前学習のポイント：「マネジメント」とは何か?

詳細：産業の特質の理解とリスクの把握

〈第12講〉設備産業としてのスポーツ産業と指定管理者制度

概要：スポーツ産業は、「立地産業」であり「設備産業」である

予備学習のポイント：「指定管理者制度」(地方自治法第244条)

詳細：従来、日本の大型スポーツ施設は教育委員会の管轄下にあり、顧客思考という視点を欠いていた

〈第13講〉産業システムの確立と発展：「市場化」/資本の論理(上場)/ホームエージェンシー

概要：スポーツバブルの崩壊

事前学習のポイント：「市場」対「公共性」

詳細：スポーツ産業内の2層化とホームエージェンシー

〈第14講〉「スポーツ基本法」の成立と、スポーツ政策

概要：2011年に成立/施行された「スポーツ基本法」を理解する

事前学習のポイント：自分なりの疑問点の整理

詳細：基本法によって、日本のスポーツ産業はどう変えられるか

〈第15講〉総論

■教科書

広瀬一郎 「スポーツマーケティングを学ぶ」 創文企画

■指定図書

「スポーツマネジメント入門」(広瀬一郎/東洋経済新報社)
「サッカーで燃える国、野球で儲ける国」(アジンバリスト/ダイヤモンド社)
「ゴールは偶然の産物ではない」(Fソリアノ/アチーブメント出版)

■参考文献

List1アーチャー 「メディア買収の野望」 新潮文庫
幸坊治郎 「TVメディアの興亡」 集英社新書

■評価方法

期末の筆記試験のみで評価

■評価基準

絶対評価。

正答率が65%で単位取得可能。

■事前履修科目等

前期の

「スポーツマーケティングⅠ」が必修。

■留意点

マーケティングを学ぶとともに、「マーケット」(市場)という平準化された世界観の危険性、あるいはイデオロギー性にも目を配る。「拡大再生産」(善)というパラダイムは揺るがないのか。昨今の世界同時不況の中でスポーツはどのような価値を持ち、どのような市場を形成すべきか、形成し得るのか。GDPモデルの20世紀型経済モデルは、破たんしたと考えれば、スポーツの市場についても、21世紀型の新たなビジネスモデルを構築すべきであるが、それは一朝一夕にできることではない。まずは現在進行している過剰、崩壊の構造を見極める必要があるだろう。

科目名 多国籍企業I〔Multinational Corporations I〕

担当教員 飯田 健雄

■講義目的

国際経営の理解を深めるために、企業が多国籍化する過程を習得していきましょう。企業の国際化が、理解ができれば、次世代経営の発展に資しているでしょう。多国籍企業の定義、理論、研究開発、財務、マーケティングを理解していきます。講義はあくまで多岐にわたりますが、その本質には「たえず経営とは何か」が横たわっています。

■講義分類

グローバルビジネス

■到達目標

世界の多国籍企業の事業内容や国際展開を理解する。

■講義形態

講義のみ(学外学習無)

■講義の概要

2年次で学んだ国際経営の入門を3年および4年次では、世界的に有名な多国籍企業を通して学んでいます。特に、それら企業のケーススタディを通して、その業界内の経営戦略の実態にふれていきます。

〈第1講〉IT産業－ゲーム業界(SCE)

詳細：ここではバリューチェーンを学んでいます。SCE(ソニー・コンピュータ・エンタテインメント)のテレビゲーム戦略を通じて、なぜプレイステーション(PS)が数年で任天堂王国を破っていったかを探っていきます。

事前学習のポイント

1980年代・1990年代・2000年代の人気のあったゲーム機器をネット調べてみよう。講義後、ゲームソフト業界で日本で飛躍的に伸びた原因をネット調べてみよう。

〈第2講〉IT業界－シスコ・システムズ

詳細：ここではシスコ・システムズのビジネスモデルを考察しながら、シリコンバレーという事業風土を手がかりに、シスコが合併を繰り返しつつ、グローバル競争優位にたつ事業構造を構築していった課程を説明していきます。

事前学習のポイント

シスコ・システムズの機器がオフィスなどに利用されているかをネット調べてみよう。講義後、シスコ・システムズの企業成長を考察してみよう。

〈第3講〉IT業界－インテル

詳細：この講では、戦略転換と国際ビジネス環境を考察していきます。ケーススタディとして、インテルを取り上げます。インテルは世界のPCにおけるCPUをほとんど支配しています。どのように、インテルは国際独占を確ったかを考えていきます。

事前学習のポイント

インテル・インサイド・キャンペーンをネット調べてみよう。講義後、インテルに関する本を読んでみよう。

〈第4講〉IT業界－グーグル

詳細：グーグルの設立、そのビジネスモデルをみていきます。そのユニークな企業風土も研究しましょう。

事前学習のポイント

グーグルのサービスをネット調べてみよう。講義後、グーグルのビジネスモデルをもう一度考え、我々の日常生活や仕事にどのようにインパクトを与えているかを考えてみよう。

〈第5講〉IT業界－マイクロソフト

詳細：マイクロソフトは、その創業時に企業拡大の構図が隠されています。1980年代から1990年代にどのような戦略をとっていたのでしょうか。

事前学習のポイント

マイクロソフトのサービスをネット調べてみよう。講義後、ワードやエクセル、パワーポイントが将来も市場に残れるか考察の対象にしてみよう。

〈第6講〉IT業界－アップル

詳細：アップルはその創業者のスティーブ・ジョブズの経営戦略からうまれました。その数々の製品の奇跡からアップルの経営戦略をみていきます。

事前学習のポイント

アップルの歴史をネット調べてみよう。講義後、アップルとソニーの競争について考察してみよう。

〈第7講〉IT業界－オラクル

詳細：世界のアーチャー・ベースの大手企業と言われながら、その認知度は意外と低いものがあります。長くCEOを務めているラリー・エリソンに光をあてましょう。

事前学習のポイント

アーチャー・ベースの大手オラクルの事業をネット調べてみよう。講義後、創業者のラリー・エリソンの人柄をネット調べてみよう。

〈第8講〉IT業界－テルコンピュータ

詳細：テルコンピュータから文化を超えたマネジメント手法を学びましょう。

事前学習のポイント

テルコンピュータのサイトに入ってみよう。講義後、テルのビジネスモデルとSCMの関係をネット調べてみよう。

〈第9講〉世界のビール業界

詳細：ここでは競争のダイヤモンドを使用して業界分析を行っていきます。取り上げる企業はアサヒビールであり、日本のマーケットで、既存のビール大手企業(キリン、サッポロ、アサヒ、サントリー)、さらに、ウィスキー業界、日本酒業界、焼酎業界、ワイン業界と競合しながら、どのようなポジショニングをとっているか考えていきましょう。

事前学習のポイント

ビールと発泡酒、第3のビールの違いをネット調べてみよう。また、ギネス、ハイネケン、パドワイヤーの生産国も調べてみよう。講義後、若者のビール離れやキリンやサントリーの近未来戦略を考えてみよう。

〈第10講〉日本の商社活動

詳細：1970年代に「商社・冬の時代」といわれながら、2000年代に入って日本経済を牽引する企業群に成長しています。商社はどのようなビジネスで利益を伸ばしているのでしょうか。

事前学習のポイント

伊藤忠、丸紅、住友商事、三菱商事等の事業展開をネット調べてみよう。商社復活の原因を資源開発やインフラ設備の観点で考察してみよう。

〈第11講〉世界のファストフード業界

詳細：ファーストリテイリングの製品・販売を学びながら、競争優位に立つためのSCM戦略を学んでいます。

事前学習のポイント

SPAとは何かをネット調べてみよう。講義後、ナイキやギャップとの競合関係もみてみよう。

〈第12講〉世界の小売業界

詳細：ウォルグリーン、ウォルマート、コストコなど世界的に販売拠点をもつ小売業の実態をみていく。

事前学習のポイント

ウォルマートを検索してみよう。講義後、中国経済とウォルマートというマクロな視点で小売業の世界を考察してみよう。

〈第13講〉世界の製鉄業界

詳細：ここではアメリカのニューコアの事業戦略をみていきます。「数は国家なり」という表現は、産業界において19世紀から20世紀前半までの当然たる事実でした。21世紀になり、製鉄事業もその繁栄を過去のものとしています。オールドビジネスの再生について考えていきましょう。

事前学習のポイント

新日本製鐵を検索してみよう。講義後、製鉄業は日本にとってオールドビジネスかどうか考察の対象にしてみよう。

〈第14講〉特別講義

国際的に事業展開している企業の方をお招きして特別講義とします。

事前学習のポイント

事前に配布するプリントをみて講義の方向性をみておこう。講義後、パワーポイント用の資料をもう一度読んでみよう。

〈第15講〉前期のまとめ

事前学習のポイント

試験に備えて、配布されたコピーをチェックしよう。講義後、理解できない部分があったら積極的に先生に質問しよう。

■教科書

適時指示する。

■指定図書

適時指示する。

■評価方法

相対式評価

■評価基準

期末試験(60%)、小テスト(10%)、出席点(30%)(1) 多国籍企業の専門用語を理解したかどうか。(2) 国際経営の戦略を理解したかどうか。(3) 国際経営の成功例と失敗例を理解したかどうか。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名 多国籍企業Ⅱ〔Multinational Corporations Ⅱ〕

担当教員 飯田 健雄

■講義目的

多国籍企業Ⅰを踏まえて理解を具体的な産業にまで伸ばしていきます。アメリカの先端企業の多国籍化を理解することで、最先端の経営を学ぶことができます。M&A、アメリカ先端産業のビジネスモデル、日本経済と大きな関わりをもつ国際医療・物流・石油産業も講義の中で取上げていきます。

■講義分類

グローバルビジネス

■到達目標

巨大な多国籍企業の事業・業務部門をそれぞれ理解していく。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉 ビバレッジ業界

詳細：ビバレッジ業界の世界的動向、コカコーラとはどのような企業でしょうか。それに対して日本のメーカーはどのようなマーケティング戦略で生き残りをかけているのでしょうか。

事前学習のポイント

コカコーラのHPをみてみよう。講義後に、ミネラル・ウォーターを販売しているダノン・グループをネットで調べてみよう。

〈第2講〉家電・重電業界

詳細：パナソニックとGEに焦点をあてて講義します。

事前学習のポイント

家電と重電の違いをネットで調べ、それぞれの代表的企業も調べてみよう。講義後に、各製品別にGEと競合する企業を調べてみよう。

〈第3講〉石油・化学業界

詳細：BPとシェブロンについて述べていきます。これらの企業は世界経済・政治と大きな利害関係をもっています。

事前学習のポイント

石油産業の視野の広さをネットで調べてみよう。講義後に、他の巨大石油企業の事業展開をみてみよう。

〈第4講〉建設業界

詳細：パナソニック、鹿島建設などの海外インフラの事業に参入する大手の建設企業に光をあてています。

事前学習のポイント

日本の建設業のグローバルなインフラ作りをネットで調べてみよう。講義後に、日本の建設業とライバル関係にある欧米の建設企業を調べてみよう。

〈第5講〉製薬業界

詳細：ファイザー、ノバルティス、メルク、グラクソ・スミスクライン等の海外大手の製薬企業に光をあてています。

事前学習のポイント

世界の代表的製薬企業をネットで調べてみよう。講義後に、次世代の薬がどの程度開発されているかネットで調べてみよう。

〈第6講〉生保・損保業界

詳細：アクサ、アリアンツ等の世界の生保・損保業界に光をあてます。世界の大手生保・損保は日本国内でも、マーケット・シェアを確実に伸ばしています。

事前学習のポイント

世界の代表的生保・損保企業を調べてみよう。講義後に、欧米の生保・損保の商品をネットで調べ、日本の大手生保・損保との違いをネットで調べてみよう。

〈第7講〉食品・穀物業界

詳細：ネスレおよびカールビルという企業をみていきます。

事前学習のポイント

ネスレの製品をネットで調べてみよう。講義後に、チョコレート業界で日本市場の外資参入度を調べてみよう。

〈第8講〉銀行・証券業界

詳細：リーマン・ブラザーズ破綻以降の欧米の銀行・証券業界のトレンドをみていきます。

事前学習のポイント

世界の金融業界の代表的企業をネットで調べてみよう。講義後に、欧米の金融・証券業の日本市場での事業展開をネット

で調べてみよう。

〈第9講〉海運・航空貨物業界

詳細：FedEx、UPS、DHL、マースク等に企業に焦点をあてます。

事前学習のポイント

海運と航空貨物がどのような空港・港湾ハブで事業活動しているかネットで調べてみよう。講義後に、マースクと日本郵船・商船二井との事業展開の相違をネットで調べてみよう。

〈第10講〉航空業界

詳細：アメリカ・ヨーロッパの大手航空企業の競合状態を分析していきます。

事前学習のポイント

アメリカ航空の路線をネットで調べてみよう。講義後に、日本航空の事業再生を考えてみよう。

〈第11講〉アミューズメント・ティズニー

詳細：ティズニー創立から1945年までの活動を見ていきます。

事前学習のポイント

ウォルト・ティズニーの生い立ちをネットで調べてみよう。講義後に、ウォルト・ティズニーの起業家としての行動ノードにまとめてみよう。

〈第12講〉アミューズメント・ティズニーⅡ

詳細：ティズニーランド設立の経緯をみていきます。

事前学習のポイント

ティズニーランドにどのようなアミューズメント施設があるのかネットで調べてみよう。講義後に、ティズニーランドと顧客サービスについてノートにまとめてみよう。

〈第13講〉アミューズメント・ティズニーⅢ

詳細：ティズニーの多国籍展開をみていきます。

事前学習のポイント

ティズニーの国際事業展開を成功させたマイケル・アイズナーという人物をネットで調べてみよう。講義後に、ティズニー・チャンネルやティズニーの映画を数本みて、その特色を考察しよう。

〈第14講〉特別講義

詳細：国際的に事業展開している企業の方をお招きして特別講義とします。

事前学習のポイント

事前に配布されたプリントで講義される方のプロフィールをみておこう。講義後に、パワーポイントでの配布資料をもう一度読んでみよう。

〈第15講〉まとめ

事前学習のポイント

試験に備えて、配布されたコピーをチェックしよう。講義後、理解できない部分があったら積極的に先生に質問しよう。

■教科書

適時指示する。

■指定図書

適時指示する。

■参考文献

特になし。

■評価方法

相対評価

■評価基準

期末試験 (60%)、小テスト (10%)、出席点 (30%)。

(1) 国際経営の歴史性を理解したかどうか。

(2) 国際経営の多面性 (政治・経済・文化) を理解したかどうか。

(3) 国際経営の事業展開を理解したかどうか。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

適時、アドバイスする。

科目名 多摩学入門I(歴史) [(Tama Study-History)]

担当教員 大森 映子

■講義目的

地域の特徴を把握するには、その歴史的な経緯を知ることが不可欠である。また、歴史を探ることは将来を見通すための鍵になりうるであろう。国際化が重視されている昨今であるが、自らのよりどころを明確にしなければ、国際的な対応はむしろ困難であり、問題発見やその解決の手がかりを得ることはできない。ここでは、地域を知る手掛かりの第一歩として、多摩地域の歴史を辿りながら、地域に根ざした特性を明らかにする。

■講義分類

地域ビジネス グローバルビジネス

■到達目標

- (1) 多摩地域に対する理解を深め、地域的特性と密着した産業社会の実情を探る。
- (2) 現代を考える上で、歴史的考察が重要であることを認識する。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

〈第1講〉 オリエンテーション

概要：授業の方針、取り扱うテーマなどを紹介する。

事前学習しておくべき用語やポイント 【東京 多摩 武蔵】
多摩地域に対して関心を向ける。

詳細：「多摩」の姿を概括的に取り上げ、15回の授業方針と取り上げテーマの位置づけを明らかにする。また授業は、基本的には講義形式で行うが、後半にはグループ報告を取り入れる予定であること(7/8講の時間を予定)、授業時間外に学外施設の見学が必要であることを確認する。

〈第2講〉 多摩の地形

概要：有史以前から現代にいたる自然環境の変化に注目する。
事前学習しておくべき用語やポイント 【東京湾 貝塚 化石 多摩川】

日本・関東地方・東京都・多摩地域の地図と地形を確認する。
詳細：関東地域の自然環境は、数万年前はむろんのこと、2000年前くらいでも現在の状況からは想像もつかないほど変化している。気候変動によって地形は大きく変化し、東京湾も陸地化したり、海岸線が山手台地の奥深くにまで入り込んでいたりした。そのような自然環境と地形の変化を確認しながら、歴史の上に与えた影響について考える。

〈第3講〉 地名が語る歴史

概要：地域特性を考える手がかりとして、地名に注目する。
事前学習しておくべきポイント 【東京都23区 東京都の30市町村】
前回の復習をしながら、地域的特性を理解しておく。

詳細：地名の由来の中には、歴史に深く関わっているものが少なくない。はじめは多摩地域に限らず、日本諸地域における典型的な地名の具体例を紹介する。また現在の多摩地域の行政区画を確認し、それぞれの自治体のシンボルマークについてみていく。なお、多摩地域の地名については、いくつかのグループにわけ、歴史的に注目すべき地名についてはグループごとに調べることとし、その前提作業を行う。

〈第4講〉 多摩地域に残る古代の遺跡

概要：遺跡から明らかにしうる多摩地域の特徴について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント 【多摩ニュータウン】
多摩地域の地図を確認しながら、行政区画を確認する。
詳細：多摩ニュータウンの開発過程で、多数の遺跡が発見され、多摩丘陵が古代の人びとの居住地となっていたことが確認された。また多摩地域に古墳が出現するのは、6世紀以降と考えられているが、大陸文化との関係性をうかがわせる形のものがあることも特徴のひとつである。豊富な遺跡を通して、縄文時代～古墳時代の多摩の姿を紹介するとともに、「遺跡の保存問題と開発」についても考えてみたい。

〈第5講〉 古代における「東国」

概要：律令制下における関東地域、多摩地域の位置づけについて考える。

事前学習しておくべき用語とポイント 【東海道 東山道 武蔵国 国分寺】

前回の授業内容を復習・整理しておく。

詳細：7～8世紀頃の関東地方はどのように位置づけられていたのだろうか。律令国家の下で全国は60余りの国に編成され、畿内と七道にわけられた。多摩地域を含む地域は「武蔵国」とされ、当初は東山道に含まれる国として位置づけられた。国を治めるための中心地は、現在の府中市におかれたこともからも明らかのように、当時多摩は武蔵国の中心的存在であった。なお武蔵国は、のちに東海道へ編成替えされることになる。

〈第6講〉 中世における「東国」

概要：鎌倉～戦国期における歴史について検討する。

事前学習しておくべき用語とポイント 【鎌倉街道 分倍河原】

当該期の歴史を概観しておく。

詳細：中世までの関東地域を概観しながら、多摩地域の特質について考える。鎌倉の北側に位置する多摩地域は、政治的・軍事的にも重要な地位を占め、しばしば合戦の場ともなった。そのような中で台頭してきた中小規模の武士団は、多摩地域を特色づけるものとなる。中世における陸上交通、海上交通とも関連づけながら、戦国時代までを概観する。

*次回以降のグループ報告に先立ち、準備・時間等を含めて基本的な方針を確定する。

〈第7/8講〉 多摩地域の地名研究(1)(2)

概要：グループワークの成果発表

事前学習しておくべきポイント

グループ毎の発表準備(スライド、または配布資料の作成)

詳細：事前に割り振った分担に基づいて、グループごとの発表を行う。グループ発表には授業2回分をあてる予定。基本は口頭報告とするが、原則として報告内容にそった配布資料を準備する。

(なお発表時期は、履修者数その他の状況により第10/11講とする場合がある。)

〈第9講〉「江戸」の選択

概要：江戸を拠点とする政治都市の成立を明らかにする。

事前学習しておくべき用語とポイント 【北条氏 八王子城】
報告を含めた前回までの授業内容の復習し、時代的な流れを

理解する。

詳細:戦国時代までの多摩地域の位置づけを振り返りながら、あらためて「江戸」を中心とする政治体制の下で、多摩地域がどのように位置づけられていくことになるのかを検討する。それに先立ち、なぜ「江戸」が政治の中心地として選択されたのか。その歴史的経緯と江戸建設をめぐるエピソードなどを紹介しながら、江戸の町づくりにについてみていく。

*多摩地域における博物館、美術館等の展示諸施設について、事前に調査を指示する。

〈第10講〉 八王子の支配と千人同心

概要:江戸初期における多摩地域の位置づけについてみていく。

事前学習しておくべき用語とポイント [千人同心 久保長安 代官]

詳細:前回の授業を踏まえながら、江戸幕府が関東諸地域をどのように位置づけようとしていたかを明らかにする。とくに多摩地域には大きな大名領は設定されず、幕府の直轄領、あるいは旗本領とされた。また、八王子は軍事的拠点であると同時に、幕府の直轄地を支配する代官が集められ、民政の拠点ともなっていたことも特徴のひとつであった。

*展示施設見学予定を作成する。

〈第11講〉 江戸のインフラ整備

概要:街道と「水」の問題を考える。

事前学習しておくべき用語とポイント [五街道 玉川上水] 江戸時代の政治的な流れを把握しておく。

詳細:江戸の都市計画の中で重要な意味をもつ多摩川上水について紹介し、江戸中心部と多摩の総括的な関係について触れる。街道の整備は、多摩地域と江戸の中心部を結んで人や物、文化を運ぶことを可能とした。さらに多摩地域からは、土地の支配に精通した人材も多数現れ、幕府の政治改革の一翼を担うことにもなった。また少し変わった視点から、「鮎」・「鷹」・「犬」をめぐる多摩地域のエピソードを紹介する。

〈第12講〉 江戸の地域文化と産業

概要:多摩地域の産業と文化を取り上げる。

事前学習しておくべき用語とポイント [千人同心 八王子織物 在村文化]

詳細:多摩地域は、大消費都市である江戸を支える生産地域でもあった。とくに農作物や炭は江戸の町にとっては不可欠なものとなっていた。また、本来は江戸防衛の軍事組織として設定された八王子千人同心であったが、江戸後期になると千人同心の中には文化的な面で活躍する人びとが多数登場する。多摩地域の豪農層も多彩な文化活動に携わるようになり、江戸後期の文化的発展を支えることになった。

*施設見学に関するレポートを提出

〈第13講〉 幕末期の多摩

概要:新撰組の問題を含め、多摩地域の動きを概観する。

事前学習しておくべき用語とポイント [新撰組 尊皇攘夷運動]

幕末期の政治情勢を段階的に確認しておく。

詳細:幕末期の政治動向を踏まえながら、多摩地域の動きに注目する。とくにペリー来航時の状況、横浜開港との関係、海防問題と治安対策などについて検討する。また、新撰組局長近藤勇や、土方歳三など、隊士の中には多摩地域出身者が少なくない。そのことも含めて、農民や商人、また千人同心らの動きなどを総括的にみていきたい。

〈第14講〉 自由民権運動と多摩地域

概要:明治期における自由民権運動と多摩地域の関連をみる。

事前学習しておくべき用語とポイント [自由民権運動 五日市憲法]

自由民権運動とはどのようなものであったかを把握しておく。行政区域の時代的変遷を確認する。

詳細:多摩地域は自由民権運動とも深い関わりをもつ地域であり、多くの民権家を輩出している。とくに、国会開設に向けての動きのほかでは、全国で憲法草案が作成されるが、そのひとつである「五日市憲法」は特筆すべきものとされている。また、明治期には多摩地域の所管をめぐって、神奈川県と東京との間で紆余曲折の経緯があり、多摩は両者の間で揺れ動くことになる。いわゆる三多摩帰属の経緯を追いながら、その背景を検討する。

〈第15講〉 まとめ 近代における多摩―

概要:歴史的な経緯をふまえ、近代の状況を概観する。

事前学習をしておくべきポイント

授業内容を振り返る。

詳細:近代以降の問題として、いわゆる関東大震災以降の状況を概観しながら、特に軍事施設や軍需工場の拠点となっていく経緯を辿る。この問題も多摩地域の位置づけに大きく関わることを指摘する。

■教科書

とくに指定せず、必要な資料は適宜配布する。

■指定図書

授業内で、適宜指示する。

■参考文献

『多摩・武蔵野検定 公式テキスト』(ダイヤモンド社)

その他、授業内で適宜指示する

■評価方法

基本は、平常点(出席、および授業内で求める簡単なレポート)50%、および発表20%、中間・最終レポート30% とする。なお中間レポートは、学外の諸施設見学に関するレポートとする予定である。

■評価基準

相対評価

- (1) 授業内容を理解できているか。
- (2) 多摩地域の特性について、認識できるようになったか。
- (3) 解りやすい発表ができるか。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

初回オリエンテーションは、授業の方針を確認する重要な場であるので、できるだけ出席すること。

なお、受講者数によって順序の変更、あるいは内容の一部入れ替えをすることがある。

科目名 多摩学入門Ⅱ(社会経済) [(Tama Study-Social and Economic)]

担当教員 奥山 雅之

■講義目的

各地域は、各地域の「力」があります。その力の源泉は、地域にいたる人々の共通の記憶を継的に育んでいることです。多摩地域にあるこの大学で、私たちが一級一字で共通の経験から何を学ぼうとしているのか、場所の「力」によるものと良いものでないでしょうか。私たちの大学が立派している多摩地域にも、地域なりの「力」があります。その「力」の可能性について考えることが、この地域の活性化と発展につながります。本講義では、主に多摩地域を様々な産業の面から見ていくことで、多摩地域が持つ「力」について考えていきます。講義ではそれぞれの産業について分けて説明しますが、それを変えて、多摩の全体像を自分なりに構築し、日本から、あるいは世界から見た多摩の位置づけについて考えることをねらいとしています。

■講義分類

顧客理解/ビジネス環境理解/ビジネス創造/社会力育成/地域ビジネス

■到達目標

本講義のゴール(自問)は、次の3つとします。(1)自分なりの「多摩地域」の具体的なイメージを持ち、自分の言葉でその特徴と可能性を説明できること。(2)他の地域と比べて特徴や優位性を自分なりに見つけ出すこと。(3)多摩地域を自分なりに説明することにより、プレゼンテーション能力を高めること。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR[学外学習有]

■講義の概要

(第1講) オリエントーション

概要：なぜ「多摩」を学ぶのか？

事前学習しておくべき用語やポイント[多摩という言葉の由来]

詳細：なぜ今、なぜここで「多摩」を学ぶのかについて、自分と地域とのつながりを軸に考え、その意義と目的を明確化します。

(第2講) 多摩の鉄道

概要：多摩の鉄道から多摩地域の歴史を見る

事前学習しておくべき用語やポイント[国]川口、甲斐鐵道]

詳細：多摩地域には多くの鉄道が存在し、交通ネットワークを形成しています。多摩の鉄道の歴史をみていくことで、多摩発展の発展を確認するとともに、鉄道業とまわりの人の関わりについて確認していきます。

(第3講) 多摩の繊維業

概要：多摩の繊維業から、多摩の産業発展の礎を知る

事前学習しておくべき用語やポイント[ジャカード、絹の道]

詳細：多摩の産業を語る上、繊維産業の発展の礎がとて重要な役割を果たしてきました。現在でも、八王子の木の並木道や繊維工業団地など、その歴史を語る風景や地域が存在します。ここでは、多摩の繊維業から、多摩における産業発展の歴史をたどります。

(第4講) 多摩の機械工業

概要：軍需工場から大規模工場の進出まで

事前学習しておくべき用語やポイント[中島飛行機、日野五社]

詳細：多摩地域において、機械工業などの近代工業が盛んになるのは戦後の戦前からのことです。その後、戦後を経て、大工場が多摩地域に進出し、これが出発点となって、現在の多摩地域は、優れたものづくり企業が集まる地域となっています。多摩地域の機械工業の成り立ちについて確認していきます。

(第5講) 多摩の先端産業

概要：半導体、電子デバイスなど多くの先端技術に関わる多摩

事前学習しておくべき用語やポイント[製品開発、オンリーワン企業]

詳細：多摩地域は、大企業の研究開発部門に加え、大企業からベンチャー(独立開業)した中小企業が立ち、大企業の研究開発を支える存在となっています。こうした先端産業の現状と可能性についてみていきます。

(第6講) 多摩の宅地化と商業・商店街

概要：住宅地、商業集積地としての多摩

事前学習しておくべき用語やポイント[団地、多摩ニュータウン、大規模小売店]

詳細：多摩地域は、1950年代後半から、東京圏都市から西東京市にまたがる「ひばり丘団地」など各地域で住宅地が形成されたのをスタートとして宅地化が進み、これに伴い商業集積も充実しました。しかし、高齢化の進展により、多摩地域の住宅機能と商業機能は大きな転換期を迎えています。住宅地、商業地としての多摩の現状と課題を確認します。

(第7講) 多摩の金融業

概要：地域金融のあり方を見る

事前学習しておくべき用語やポイント[信用金庫、信用組合]

詳細：地方銀行、信用金庫、信用組合などの、いわゆる「地域金融機関」は、地域産業の発展を支える大きな役割を果たしています。多摩地域における地域金融機関の現状とその役割について考えていきます。

(第8講) 多摩の観光

概要：地域独自の観光資源による賑わいの創出

事前学習しておくべき用語やポイント[地産資源、産業観光、ニューツーリズム]

詳細：観光産業は12世紀の成長産業と呼ばれています。多摩地域の活性化のために観光振興は重要性を増しています。多摩地域において観光による賑わいを創出するにはどうすればいいと考えています。

(第9講) 多摩の農業

概要：都市農業の抱える課題

事前学習しておくべき用語やポイント[都市農業、6次産業化]

詳細：多摩地域の農業は、宅地によって農地面積は減少しているものの、付加価値の高い特産物がある農業者によって生み出されています。ここでは、こうした農産物について知ると同時に、今後の多摩地域における都市農業のあり方をみていきます。

(第10講) 多摩の林業・水産業

概要：豊かな自然が生み出す産業について考える

事前学習しておくべき用語やポイント[多摩産材、フユ・ヤマメ]

詳細：多摩地域は土地利用の4割が山林で、森林の多い地域です。また、多くの川が流れ、魚も魅力ある産業資源となっています。ここでは、多摩の豊かな自然が生み出す林業・水産業についてみていきます。

(第11講) 多摩のNPO・社会的事業

概要：地域課題を解決するビジネスについて知る

事前学習しておくべき用語やポイント[NPO、ソーシャルビジネス、社会起業家]

詳細：近年、地域の資源を活用したり、地域の課題やニーズにのめりこみ対応したような地域密着型のビジネスが注目されています。多摩地域におけるこうしたビジネスの事例を紹介します。

(第12講) 環境多摩学とは？ゲストスピーカーによる講義

概要：多摩の「今」を学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント]

詳細：多摩地域について一言一語で捉えている「多摩活性化のキーマン」から話を伺い、多摩の「今」を学びます。

※ゲストスピーカーの抱負または現地見学予定していますが、先方のスケジュールの都合で変更になる場合があります。

(第13講) プレゼンテーション(1)

概要：多摩の産業についての、自分の言葉で説明する(1)

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーション]

詳細：これまでの講義で多摩の全体像を自分なりに確立し、自分の言葉で多摩地域とはどのような地域なのかをプレゼンテーションします。また、他の人のプレゼンテーションを真剣に評価します。

(第14講) プレゼンテーション(2)

概要：多摩の産業についての、自分の言葉で説明する(2)

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーション]

詳細：これまでの講義で多摩の全体像を自分なりに確立し、自分の言葉で多摩地域とはどのような地域なのかをプレゼンテーションします。また、他の人のプレゼンテーションを真剣に評価します。

(第15講) まとめ、振り返り

概要：一学期の講義を振り返る

事前学習しておくべき用語やポイント]

詳細：一学期の講義を通して、「多摩地域」に対する見方がどのように変化したか、検証します。また、プレゼンテーションについての評価も行います。

■教科書

特にありません。レジュメを配布します。必要があれば適宜指示します。

■指定図書

特にありません。必要があれば適宜指示します。

■参考文献

社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩『タマケン。知のミュージアム 多摩・武蔵野検定公式テキスト』ダイヤモンド社、2008年4月。

■評価方法

出席40%、プレゼンテーション60%

■評価基準

相対評価 多摩地域の全体像について、どの程度イメージをつかめているか、理解できているかを評価のポイントとします。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

多摩地域の地理について基礎的な知識を備えるとともに、日頃から、多摩地域における大きなイベントなどについても興味を持ってチェックしてください。

科目名 地域活性化戦略論〔Management of Regional Development〕

担当教員 中庭 光彦

■講義目的

ある通学の風景。みなさんは朝起きたらスーパーやコンビニで買った食材を冷蔵庫から取り出し、キッチンで料理し、きれいな部屋で食事し、水洗トイレで用を足し、メールチェックし、家を出ます。自転車を駅に駐車し、電車に乗り、バスを乗り継いで大学に到着。こうした暮らしができるのは、地域を利用するために先人が地域を整えてきたからです。これを開発と呼びます。

ところが、みなさんの両親が若い頃にはうまくいっていた地域が、今とどんどん変わってきています。シャッター通りとなった商店街、子どもを生みたくなくなるような都市、まじめに農業をしても収益を得られない農地、大学を卒業しても働き口が無い地域、震災が起きると多数の死傷者が生まれる地域……。いま、日本では、地域社会における様々な問題解決が必要になっています。

本講義では、これまでまったく地域について考えたことがなかった1年生を対象に、地域の問題解決の世界に触れてもらいます。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／地域ビジネス

■到達目標

- (1) 地域を理解するための基本的視点・知識を身につける。
- (2) 新聞や雑誌記事が解釈できるようになる。
- (3) エクセルを利用したレポートを書けるようになる。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉オリエンテーション

概要：本講義の概要について説明を行う。

事前学習しておくべき用語やポイント〔地域活性化〕

〈第2講〉地域活性化の主体

概要：地域における企業、自治体、市民、それぞれの活動・関係について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔市場の失敗〕

〈第3講〉地域の特徴をつかむ

概要：指標から地域の特徴をつかむ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔比較の意味〕

〈第4講〉人口を増やす

概要：人口を増やす政策について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔都市と郊外〕

〈第5講〉仕事を増やす

概要：地方の仕事の現場を事例に、雇用を増やす政策について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔雇用〕

〈第6講〉中心市街地問題

概要：中心市街地問題の実態について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔中心市街地〕

〈第7講〉共有資源について考える

概要：共有資源管理の考え方を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔共有地の悲劇〕

〈第8講〉産業立地とクラスター戦略

概要：立地論について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔立地〕

〈第9講〉レポートの書き方

概要：データを用いたレポートの書き方を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

〈第10講〉ヒートアイランド問題と水循環

概要：都市の環境問題について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ヒートアイランド問題〕

〈第11講〉子育て支援

概要：子育て支援政策について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔子育て支援〕

〈第12講〉コミュニティ・ビジネス

概要：コミュニティ・ビジネスについて解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔コミュニティ〕

〈第13講〉企業のCSR活動

概要：企業のCSR活動について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔CSR〕

〈第14講〉地域マネジメントとビジネスの関係

概要：地域マネジメントの技術を、企業はどのように活かしているか解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔マネジメント〕

〈第15講〉地域マネジメントと行政の関係

概要：行政の役割について解説する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔行政〕

■教科書

適宜指示する。

■指定図書

適宜指示する。

■参考文献

(財)矢野恒太記念会編集・発行『日本国勢図会2012/13』

(財)矢野恒太記念会編集・発行『データでみる県勢2013』

岡田知弘・川瀬光義・鈴木誠・富樫幸一『地域経済学 第3版』有斐閣(2007)

中村剛治郎『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣(2008)

■評価方法

評価は出席(40%)、期末レポート(60%)で行う。

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名 地域観光とビジネス〔Tourism management〕

担当教員 松本 祐一

■講義目的

「観光をたぐひる多様な景色や建物、食事を買い物をしたりするものとしてとらえるのではなく、「地元の人とよそ者が会おう」として生まれる変化」地域の魅力を発見してビジネスにすること」地域の様々な産業の連携と考えたらどうでしょうか。本講義では、地元多摩の「観光開発」をテーマに地域の魅力を発見し、それを持続可能なビジネスに結びつける具体的な手法を学びます。今、「観光開発」は、元気を失った地域を立て直すための手段として注目を集めていて、地域社会でも、行政でも、企業でも「観光を通じた地域活性化」をビジネスとして組み立てることができる人材を求めています。本講義ではそのような人材に必要な事業開発力を、「道の駅」という地域連携拠点のビジネスプラン構築を通じて磨いていきます。

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / ビジネス創造 / ビジネスマネジメント / 社会人育成 / 地域ビジネス

■到達目標

- 1) 「観光による地域活性化事業」とは何かを自分の言葉でまとめることができる。
- 2) 事業開発の手法（シンプルストラテジー）を使って、事業プランを組み立てられる。
- 3) 自分の地域への関わり方についてのヒントを得る。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習あり〕

■講義の概要

〈第1講〉イントロダクション概要：講義の目的と内容を共有する。事前学習しておくべき用語やポイント〔特になし〕

詳細：講義の目的、進め方、アウトプット、評価方法を説明し、事例を紹介する。

〈第2講〉エンカウンター

概要：地域活性化を考える。

事前学習しておくべき用語やポイント〔地域活性化〕

詳細：本講義における地域活性化とは何か、ライフスタイルについて考える。道の駅という存在とのエンカウンター（出会い）を行います。

〈第3講〉観光の本質

概要：地域活性化と観光の関係を考える。事前学習しておくべき用語やポイント〔観光〕

詳細：観光とは何か。そもそも人間はなぜ旅をするのかを歴史から

考える。また、観光事業の概要・特徴を学ぶ。

〈第4講〉観光の本質②

概要：地域活性化と観光の関係を考える。事前学習しておくべき用語やポイント〔観光事業〕

詳細：第3講の続き。

〈第5講〉シンプルストラテジー

概要：事業開発のツールを手に入れる。事前学習しておくべき用語やポイント〔戦略〕

詳細：ビジネスプランを組み立てるための手法シンプルストラテジーとは何かを解説する。

〈第6講〉道の駅の概要

概要：道の駅の概要を理解する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔道の駅〕

詳細：構築するビジネスプランの対象である道の駅について、事例

から学ぶ。

〈第7講〉どうなるべきか？①概要：事業開発の「環境」について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント〔特になし〕

詳細：事業開発の「環境」となる社会、時代、市場、地域、顧客について、そのとらえ方を学ぶ。

〈第8講〉どうなるべきか？②

概要：事業開発の「環境」について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント〔特になし〕

詳細：第7講の続き。

〈第9講〉事業開発力とは

概要：社会に出てからの事業開発力について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント〔特になし〕

詳細：社会に出てからの事業開発力について、ゲスト講師の講演から考える。

〈第10講〉どうなるか？

概要：まちの「資源」を考える。

事前学習しておくべき用語やポイント〔資源〕

詳細：ビジネスの主体の能力に関わる「資源」のとらえ方を学ぶ。

〈第11講〉どうなるか？②

概要：競争力を考える。

事前学習しておくべき用語やポイント〔競争力〕

詳細：地域資源をビジネスの競争力にまで高めるためにはどうしたらよいかを学ぶ。

〈第12講〉志とコンセプト

概要：志とコンセプトを構想する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔コンセプト〕

詳細：志をどのように組み立てることができるか。検討して必要

要素を統合するコンセプトとは何か。コンセプトをつくるため

にはどうしたらよいかを考える。

〈第13講〉志とコンセプト②

概要：志とコンセプトを構想する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔コンセプト〕

詳細：第12講の続き

〈第14講〉仕組み

地域観光とビジネス〔Tourism Management〕

観光による地域活性化事業

概要：ビジネスの仕組みを考える。

事前学習しておくべき用語やポイント〔流通、利益〕

詳細：ビジネスを持続可能にする流通、プロモーション、収支モデルなどの仕組みを考える。

〈第15講〉講義のまとめ

概要：講義を振り返る。

事前学習しておくべき用語やポイント〔今までの講義内容〕

詳細：講義内容をダイジェストで振り返り、自分のものとする。

■教科書

なし（講義で説明する資料は配布しませんので、しっかり板書してください）

■指定図書

なし

■参考文献

高根正昭 『創造の方法学』 講談社現代新書（1979）

好井裕明 『「あたりまえ」を疑う社会学』 光文社新書（2006）

■評価方法

毎回提出してもらうワークシート（40%）、中間レポートの内容（20%）、最終レポート（40%）を評価する。

■評価基準

相対評価

テーマ設定、ビジネスプラン作成などを自分なりの視点で行えたか。グループワーク、フィールドワークに自主的・積極的に貢献したか。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義時間外に街をフィールドワークしたり、グループで作業したりする場合があります。各回の講義内容詳細は、履修者の数によって変更することがあります。

科目名 地域社会とビジネス(地域ビジネス入門)(Business in the Community)

担当教員 奥山 雅之

■講義目的

これからのビジネスも、そして私たちの生き方も、「グローバル」へと視野を広げる一方、足元に市場が広がる「ローカル(地域)」にもしっかりと目を向けるべきであります。特に、企業のビジネス展開(NPOなどの非営利組織の活動も含む)において、地域は競争環境であると同時に土地や人材等といった経営資源でもあります。顧客ニーズが多様化し、きめ細かな製品・サービスの生産、取引活動が要求されるようになり、こうしたニーズの変化への適応が急務となっています。また、中小製造業やサービス業が立地環境の変化に対してどのように適応していくのかについても、現在の大きな課題となっています。こうした問題意識に基づき、本講義では、「地域の人々の喜ぶ顔が見えるビジネス」や「多摩地域の魅力(資源)で、他の地域の人々の喜ばせるビジネス」のプランをグループワークで作成し、プレゼンテーションを行います。これらを通じて、「地域社会」や「ビジネス」に対する多面的な見方だけでなく、社会人として重要なプランニングの具体的な手法やコミュニケーション能力を養います。加えて、講義中には、地域社会とビジネスとのかわりについて、より具体的なイメージをもってもらうため、多摩地域を中心としたビジネス事例、ビジネスによる地域活性化事例等を数多く紹介します。

■講義分類

顧客理解/ビジネス環境理解/ビジネス創造/ビジネスマネジメント/社会人育成/地域ビジネス

■到達目標

本講義のゴール(目標)は、次の2つとします。

- (1) 自分の生活にとって地域とは何かということを、現実感を持ってイメージすること。
- (2) 自分の思い(「志」)をビジネスプランに表現し、わかりやすくプレゼンテーションすること。

■講義形態

講義+GD・GW・PR[学外学習有]

■講義の概要

<第1講> ガイダンス

概要:「地域と自分」を振り返る

事前学習しておくべき用語やポイント[地域とは何か]

詳細:自分の育った場所、あるいは今学生生活を送っている多摩地域について「①今まで地域から得たものは何か」「②今後、地域とどんなかわりを持ちたいか」を考え、グループで話し合います。

<第2講> 地域社会とビジネス

概要:「地域社会にとってビジネスとは何か」「ビジネスと自分」を考える

事前学習しておくべき用語やポイント[ビジネスの役割、「儲ける」と「儲かる」の違い]

詳細:地域社会にとっての地域産業(ビジネス)の意義を、ビジネスと私たちの生活の豊かさとの関係を見ることによって考えます。また、将来、どのようなビジネスのなかで活躍したいか、考え、グループで話し合います。ビジネスとは、単なるお金儲けの手段ではなく、我々の生活を豊かにする「社会のシステムの1つ」であると再定義します。

<第3講> 多摩地域の概要

概要:「多摩地域」を知る

事前学習しておくべき用語やポイント[多摩地域]

詳細:私たちの大学の名でもある「多摩」を地域社会の例として取り上げ、多摩地域の産業の特色、地域の課題について一緒に確認していきます。

<第4講> ビジネスによる地域活性化

概要:ビジネスによって地域を活性化することを考える

事前学習しておくべき用語やポイント[地域の活性化、ソーシャルビジネス]

詳細:近年、地域の資源を活用したり、地域の課題やニーズにきめ細かく対応したりする地域密着型のビジネスが目立っています。多摩地域におけるこうしたビジネスの事例を紹介しながら、第2講、第3講の内容を具体的に掘り下げていきます。

<第5講> 地域ビジネスについて

概要:ビジネスの「知恵」を出し合う

事前学習しておくべき用語やポイント[顧客、ビジネス]

詳細:多摩地域を舞台にした地域密着型のビジネスをグループで構想してもらうための準備を行います。グループワークのポイントは、「相手にわかるように話す」「よく聞く」「相手を見る」「否定しない」そして「楽しむ」です。事例問題を出しますので、それに対する解決策をグループで考えます。

<第6講> 地域資源、地域課題

概要:「地域の資源や課題」を見つけに行く

事前学習しておくべき用語やポイント[地域資源]

詳細:現状と志(=どのようにしたいのか)とのギャップからビジネスが生まれます。新聞や図書、web、多摩地域に関する様々な資料、あるいは自分の今までの体験などから、多摩地域の資源や課題を見つけ出し、グループで共有します。見つけ出す資源や課題は多ければ多いほど後で役に立ちます。

<第7講> ビジネスアイデア

概要:「新たなビジネスのアイデア」を発想する

事前学習しておくべき用語やポイント[顧客、ビジネス]

詳細:前講の議論を踏まえ、グループで取り上げたい資源や課題(現状)を絞り込み、現状と志とのギャップを埋めるビジネスアイデアをグループで検討し、まとめていきます。

<第8講> 中間発表(ビジネスアイデア発表)

概要:各グループでビジネスアイデアを発表する

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーション]

詳細:どうしたそのビジネスアイデアを出すのに至ったのか、その思いをグループごとに中間発表してもらうことにより、グループ同士の「学びあい」を実践します。

<第9講> 課題解決への道標

概要:「課題解決のコツ」を学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント[課題解決手法]

詳細:グループワークにおいて、課題から解決策を生み出すために有用な理論思考の手法(ロジックツリー、KJ法など)を学びます。理論思考の手法を使って、中間発表でのビジネスアイデアを再点検します。

<第10講> ビジネス展開

概要:「ビジネス展開のコツ」を学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント[参入、事業化、経営戦略]

詳細：アイデアをビジネスプランへと形にしていくなめには、顧客に対して「価値」を提供するとともに、ライバル企業との競争の中で自分なりの「立ち位置」を確立していかなければなりません。ビジネスとして成り立たせるにはどうしたらよいか、ビジネス展開の基本となる「顧客」と「競争」について考え、ビジネスプラン作成に活かしていきます。

〈第11講〉ビジネスの実際

概要：「多摩地域の企業」から「ビジネス」を学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：多摩地域の特徴の1つともいえる独自の先端技術やノウハウを持つ企業経営者から「ビジネス」を学びます。

※ゲストスピーカーの招聘または現地見学を予定していますが、先方のスケジュールの都合で変更となる場合があります。

〈第12講〉ビジネスプラン発表

概要：グループで作成したビジネスプランを発表する

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーション]

詳細：グループでつくり上げた「ビジネスプラン」を発表するとともに、自他のグループのプレゼンテーションを真剣に評価します。

〈第13講〉企業からみた「地域」の意味

概要：「企業(ビジネス)にとって地域とは何か」を考える

事前学習しておくべき用語やポイント[立地選択、産業集積]

詳細：第2講「地域社会にとってビジネスとは何か」とは逆に、「企業(ビジネス)にとって地域とは何か」を、企業立地の理論などを紹介しながら考察し、企業にとって地域のもつ意味を考え、共有します。

〈第14講〉多摩地域の企業

概要：「企業(ビジネス)からみた多摩地域の魅力と課題」を探る

事前学習しておくべき用語やポイント[立地選択、産業集積]

詳細：前講の議論をさらに深め、企業(ビジネス)からみた多摩地域の魅力と課題を探っていきます。また、今後、多摩地域は企業に立地し続けてもらうためには、地域としてどのような取組が必要となるのか、多摩地域の移転企業の事例なども織り交ぜながら検討します。

〈第15講〉まとめ、振り返り

概要：一年間の講義を振り返る

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：このカリキュラムを通じて、「地域社会」と「ビジネス」に対する見方がどのように変化したか、検証します。また、ビジネスプラン発表の評価結果も発表し、講評を加えます。

■教科書

特にありません。レジュメを配布します。また、必要があれば適宜指示します。

■指定図書

特にありません。必要があれば適宜指示します。

■参考文献

高橋徳行『起業学の基礎—アントレプレナーシップとは何か』勁草書房、2005年3月。

■評価方法

出席40%、プレゼンテーション60%

■評価基準

相対評価

課題解決力とともに、自分と地域とのかわりについて、具体性・現実性をもって理解できているかを評価のポイントとします。

■事前履修科目等

特にありません。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

日頃から、新聞の産業、企業関連の記事について興味を持ってチェックしてください。

科目名 地域政策マネジメント論〔Management of Public Policy for Local Governance〕

担当教員 中庭 光彦

■講義目的

「産業社会の問題解決の最前線に立つ人材(志士)を育てる」のが多摩大学の使命であるが、地域における「問題解決手法」の基礎として、「地域政策マネジメント論」を開講する。本講の目的は、地域政策マネジメントの考え方と基礎的な概念を理解することにある。

現代社会において問題解決とは、企業－行政－NPO等、更には個人とグループ、先輩といった「多元的な人々の連携」の下で進められる。問題特定－政策企画－政策実施－政策評価という一連の過程を、多元的な組織・個人で合意をしながら、円滑に問題解決を進めるための「術(art)の体系」。これが政策マネジメントである。

国が政策を立案し実行すればそれが全国に行き渡り問題が解決されたのが人口増加を前提とした成長経済の時代だった。しかし、これからは人口減少局面を前提にした政策を企画し、マネジメントしなければならない。多様な問題が現場で起こり、地域ごとに異なる解決方法で社会を変える。この考え方と方法実例を教えるのが本講義の狙いである。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／地域ビジネス

■到達目標

- (1) 基本的用語を理解する。
- (2) 自らの問題解決提案について、説明できるようにする。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

第1講 オリエンテーション：政策とは何か

キーワード 政策

第2講 これからどのような問題が発生するか：グローカル化が意味する人口増加と人口減少

キーワード 人口減少への移行

第3講 人口増加期の地域政策：国土・産業政策・労働・都市・住宅政策

キーワード 高度成長

第4講 成長管理政策から持続管理政策へ：地域共有資源を守るソーシャルキャピタル育成への転換

キーワード ソーシャルキャピタル

第5講 政策をつくる枠組み：PDCAサイクル、費用対効果、因果連鎖と政策企画

キーワード PDCA

第6講 よくある政策マネジメントのミス①複数の政策が統合されていない：中心市街地活性化政策

キーワード 中心市街地活性化

第7講 よくある政策マネジメントのミス②弱者だけを救おうとする：買い物弱者対策

キーワード 買い物弱者

第8講 よくある政策マネジメントのミス③将来のリスクを予想していない：住宅・都市・災害政策と合意形成

キーワード リスク

第9講 よくある政策マネジメントのミス④利益享受者が固定されてしまう：河川政策

キーワード ガバナンス

第10講 よくある政策マネジメントのミス⑤短期のニーズに囚われ長期の目的に合っていない：森林政策、教育政策

キーワード 政策プロセスとマーケティングの違い

第11講 公共政策から地域主体のパートナーシップマネジメントへ

キーワード 産官学連携

第12講 地域を変える政策企画①島を観光資源に「家島プロジェクト」

キーワード コミュニティデザイン

第13講 地域を変える政策企画②相互扶助を生むタイムバンキング制度

キーワード タイムダラー制度

第14講 地域を変える政策企画③「apカンパニー」に見る産地と顧客の関係デザイン

キーワード 流通チャンネル

第15講 地域を変える政策企画④女子が変わる農業改革「山形ガールズ農場」「国立ファーム」

キーワード 農業生産法人

■教科書

適宜指示する。

■指定図書

適宜指示する。

■参考文献

ユージン・バーダック『政策立案の技法』東洋経済新報社(2012)

箕祐介『地域を変えるデザイン』英治出版(2011)

佐藤寛、アジア経済研究所開発スクール編『テキスト社会開発』日本評論社(2007)

■評価方法

出席(40%)、最終レポート(60%)

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名

中級簿記〔Intermediate Level Bookkeeping〕

担当教員

金子 邦博

■講義目的

【株式会社で行われる商業簿記を学ぶ】本講義は、産業社会を支える最も基本的な情報システムである「簿記」の基本原理についての基礎的な理解を前提に、商業を営む株式会社における簿記についてその仕組みを習得し、商業簿記に関して日本商工会議所が主催する簿記検定試験の2級(日商簿記2級)に合格できる知識と能力を習得することを目的とする。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

企業の経済活動を会計情報として記録するための技法である「複式簿記」の仕組みについて、株式会社での日常の取引を会計処理できる知識を習得すること。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉(ガイダンス) 1.銀行勘定調整表

概要：銀行勘定調整表について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【なし】

詳細：(復習のポイント)預金取引に関連する修正仕訳の処理を習得する。

〈第2講〉2.手形

概要：特殊な手形取引について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【なし】

詳細：(復習のポイント)特殊な手形取引があった際の仕訳処理を習得する。

〈第3講〉3.有価証券

概要：有価証券にかかる会計処理について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【なし】

詳細：(復習のポイント)有価証券の売買取引の仕訳処理を習得する。

〈第4講〉4.固定資産

概要：固定資産にかかる会計処理について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【なし】

詳細：(復習のポイント)固定資産の購入に際しての仕訳処理を習得する。

〈第5講〉5.一般商品売買

概要：仕入取引、売上取引について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【なし】

詳細：(復習のポイント)売上取引、仕入取引の仕訳処理を習得する。

〈第6講〉6.特殊商品売買

概要：特殊な商品の引渡形態を伴う取引の会計処理を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【なし】

詳細：(復習のポイント)未商品売買、委託販売、受託販売、試商品売買、割賦販売などの特殊な商品売買の仕訳処理を習得する。

〈第7講〉7.株式の発行 8.合併

概要：資金調達のための株式発行と企業合併の会計処理を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【なし】

詳細：(復習のポイント)会社が出資を受け入れた際の仕訳処理と複数の会社が一つの会社になる合併の仕訳処理を習得する。

〈第8講〉9.剰余金の配当と処分 10.株式会社の税金

概要：剰余金の処分と税金にかかる会計処理について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【なし】

詳細：(復習のポイント)企業が獲得した剰余金の配当と処分の仕訳処理と株式会社の税金の仕訳処理を習得する。

〈第9講〉11.社債

概要：社債の発行に伴う譲渡引の会計処理について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【なし】

詳細：(復習のポイント)社債を発行して資金調達を行った場合の仕訳処理を習得する。

〈第10講〉12.引当金

概要：引当金の会計処理について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【なし】

詳細：(復習のポイント)引当金を計上する場合の仕訳処理を習得する。

〈第11講〉13.講義

概要：決算整理の総合問題の解き方学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【なし】

詳細：(復習のポイント)株式会社特有な会計処理を含めて、決算整理を行うためのワークシートである「精算表」の使い方を習得する。

〈第12講〉14.決算の締切り(英米式・大連式) 15.財務諸表の作成

概要：決算の確定方法と会計の報告書である財務諸表について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【なし】

詳細：(復習のポイント)決算処理の最終段階である確定の締切りの仕方を習得する。また財務諸表の表示項目を理解する。

〈第13講〉16.本店会計

概要：本店会計について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【なし】

詳細：(復習のポイント)支店に帳簿を設置した場合の会計処理を習得する。

〈第14講〉17.伝票会計

概要：伝票会計について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【なし】

詳細：(復習のポイント)伝票制の下での会計処理を習得する。

〈第15講〉18.帳簿組織

概要：特殊仕訳簿について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【なし】

詳細：(復習のポイント)補助記入帳を特殊仕訳帳にした場合の会計処理を習得する。

■教科書

[1] 福島三千代『サクッとわかる日商2級商業簿記 テキスト』 ネットスクール

[2] 福島三千代『サクッとわかる日商2級商業簿記 トレーニング』 ネットスクール

■指定図書

[1] 福島三千代『すいすい! 簿記マンガでGO! 日商簿記2級』 ネットスクール

[2] 桑原知之『日商簿記2級とあるテキスト 商業簿記』 ネットスクール

[3] 桑原知之『日商簿記2級とあるゼミ 商業簿記』 ネットスクール

[4] ネットスクール(編著)『日商簿記検定 過去問題集2級 出題パターン解き方』 ネットスクール

[5] 滝澤ななみ『プラス8点のための問題演習 日商簿記2級』 T A C出版

■参考文献

堀川洋『日商簿記受験のための電卓操作完ぺき自習帳-これだけ集計合格得点20点アップのトラの巻』 とりい書房

■参考URL

<http://faculty.tama.ac.jp/kaneko/>

■評価方法

期末定期試験の成績により評価する(100%)。ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受講態度に問題があった者に対しては、期末定期試験の成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

期末定期試験の成績が上記のこの講義の到達目標に達したと判断された者に単位を付与し、期末定期試験の得点順に成績評価する。相対評価

■事前履修科目等

この講義の履修登録には、「初級簿記」の単位が取得済みであることが必要である。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

1. この科目の単位取得のためには、検定試験に合格できる水準の知識と会計処理能力を身に付けることが求められる。講義を聴いているだけの漠然とした理解だけではその水準に達することは困難であり、単位取得のためには、宿題及び講義内容の復習を通じて知識の定着を図り、問題演習の積み重ねにより会計処理能力の向上をさせるなどの自主的な学習が必要である。

2. 講義の際には、教科書のほかには、必ず「電卓」を持参すること。3. 講義の理解度合いを各自で確認してもらうことを目的に、講義では毎回ミニテストを実施する。4. 講義の資料については、適宜、ネット上で掲示する。(日本商工会議所の簿記検定については、下記のホームページをご覧ください)

(<http://www.kentei.ne.jp/book/>)

科目名 中国語Ⅰ(ChineseⅠ)

担当教員 安田 峰俊

■講義目的

中国は日本の最大の貿易相手国であり、歴史的・文化的にも関係の深い国である。将来のビジネスシーンでの運用を目標に、中国語の基礎を習得する。具体的には、一人で中国旅行に行ける、中国人店員がいる飲食店で中国語で注文が取れるなど、実用で使える中国語力の養成を目指すことを、意欲的な授業参加を期待する。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／グローバルビジネス

■到達目標

客観的指標としては、1年後に中国語検定4級程度の実力をつけることを目標とする。

■講義形態

講義のみ〔なし〕

■講義の概要

〈第1講〉オリエンテーション

◆1回目 1回目

中国語とは何かを知る。言語の構造、使用されている文化圏、言語の成立過程、「普通話」とは何か、簡体字と繁体字の違い、ピンイン、声調、発音の性質などについて概説する。

また、講師及び、受講者氏名の中国語での読み方、教科書の「課堂用語(授業用語)」を確認する。

◆1回目 2回目

講師及び、受講者氏名の中国語での読み方、教科書の「課堂用語(授業用語)」を復習する。

また、最も簡単なあいさつ「こんにちは」「ありがとう」「数字」などを知る。

ほか、四声、ピンインの読み方についてガイダンスをおこなう。

※週の2回目の講義の宿題・次回単語の予習。以下同じ

〈第2講〉教科書：第1課 挨拶する

【発音】母音・子音・声調・輕声

【会話】挨拶・おわび・感謝の言い方

※週の1回目の講義で概要、2回目の講義で同内容の復習。以下同じ

※前回の内容について口頭で質問するので、準備しておくこと。以下同じ

〈第3講〉教科書：第2課 相手の状況についてたずねる

【発音】母音-a, o, e, i, u, 声調, 三声の変調

【会話】名前と国籍をいう

【文法】「是」のつかいかた、疑問詞を用いた疑問文

〈第4講〉教科書：第3課 場所について話す

※前回までの内容をまとめた小テスト

【発音】母音-an, en, ang, eng, ong 子音-g, k, h 兒化音

【会話】場所の言い方

【文法】疑問文の語法助詞「吗」、否定の副詞「不」、距離をあらわす前置詞「離」

〈第5講〉教科書：第4課 家族構成について話す

【発音】母音-ai, ie, iao, iou, an, ian, jiang, jiong, jue, uan, ün 子音-j, q, x 「一」の変調

【会話】家族構成について話す

【文法】量詞「個」、構造助詞「的」、疑問文の語法助詞「吗」

〈第6講〉教科書：第5課 年齢について話す

【発音】母音-ua, uo, uai, uei, uan, uen, uang, ueng 子音-zh, ch, sh, r 「不」の変調

【会話】年齢について話す 日にちについて話す

【文法】年月日の言い方、名詞述語文

〈第7講〉教科書：第6課 自己紹介をする

【発音】子音-z, c, s 発音総合練習

【会話】自己紹介をする

〈第8講〉復習&休憩&中間テストの時間

※他の教科書や、NHKの語学番組を見ることがあります

※教室に、誰かネイティブを呼んでくるかもしれません

※この週の2回目の講義で、口頭の中間テストをします(自己紹介をしても可い)

〈第9講〉教科書：第7課 近況をたずねる

【会話】細かな内容の挨拶をする

【文法】疑問文

〈第10講〉教科書：第8課 学校と専攻について話す

【会話】学校及び専攻について話す

【文法】「是」や「的」の使い方 「多」の使い方

〈第11講〉教科書：第9課 勉強について話す

【会話】勉強の状況について話す

【文法】「幾」と「多少」を使った質問 「是不是」を使った質問

〈第12講〉教科書：第10課 時間について話す

【会話】時間について話す

【文法】時刻の言い方 時間を表す言葉の使い方 「在+場所」「到+場所」

〈第13講〉教科書：第11課 曜日・日にちについて話す

【会話】日にちについて話す

【文法】曜日の言い方 「要」「幾」を使った文章 「還是」を使った質問

〈第14講〉教科書：第12課 学習経験を紹介する

【会話】自己紹介2

【文法】「好+ま?」を使った質問文

〈第15講〉新学期のまとめ

期末総合試験筆記試験及び口頭発表

■教科書

・『快樂学漢語・說漢語』初級中国語会話集 上巻 早稲田総研インターナショナル 2500円

・ほか、プリント配布

■評価方法

評価は、中間発表(20%)、期末試験(40%)、出席状況(15%)、予習状況＝毎週の課題(15%)により評価する。

■評価基準

絶対評価

中間発表及び期末試験の口述部分は、次の3点から評価する。

- (1) 発音の正確さ。
- (2) 文章(文法)の正確さ。
- (3) 対話の力。

期末試験の筆記は、総得点数で評価する。

尚、評価点100%のうち合計60%未満は、不合格とする。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

週の最初の講義の冒頭で、予習状況(＝毎週の宿題)を確認する。これは成績評価に関係する。

発声練習・及び発音記号の読み方の習得は、各自の予習と復習を歓迎する。

科目名 中国語Ⅱ〔ChineseⅡ〕

担当教員 安田 峰俊

■講義目的

中国は日本の最大の貿易相手国であり、歴史的・文化的にも関係の深い隣国である。将来のビジネスシーンでの運用を目標に、中国語の基礎を習得する。

具体的には、一人で中国旅行に行ける、中国人店員がいる飲食店で中国語で注文が取れるなど、実用で使える中国語力の養成を目指していきたいと思うので、意欲的な授業参加を期待する。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人育成／グローバルビジネス

■到達目標

客観的指標としては、年度末に中国語検定4級程度の實力をつけることを目標とする。

■講義形態

講義のみ〔なし〕

■講義の概要

〈第1講〉 オリエンテーション&前期の復習

【発音】前期の復習

【文法・会話】受講者のレベルを確認

週の2回目以降は教科書『快樂学漢語・説漢語』初級中国語会話集(下巻)に従い進める。

※講義の宿題…次回の単語の予習。以下同じ

〈第2講〉～〈第7講〉

教科書に準拠して講義を進める。前期と同じ方針につき詳細割愛。

※週の1回目の講義で概要、2回目の講義で同内容の復習。

以下同じ

※前回の内容について口頭で質問するので、準備しておくこと。以下同じ

〈第8講〉復習&休憩&中間テストの時間

※他の教科書や、NHKの語学番組を見てみることにしよう

※教室に、誰かネイティブを呼んでくるかもしれません

※この週の2回目の講義で、口頭の中間テストをします(内容未定、日記発表とするかも)

〈第9講〉～〈第14講〉

教科書に準拠して講義を進める。前期と同じ方針につき詳細割愛。

〈第15講〉秋学期のまとめ

期末総合試験筆記試験及び口頭発表

■教科書

・『快樂学漢語・説漢語』初級中国語会話集 上巻 早稲田総研インターナショナル 2500円

・『快樂学漢語・説漢語』初級中国語会話集 下巻 早稲田総研インターナショナル 2500円

・ほか、プリント配布

■評価方法

評価は、中間発表(20%)、期末試験(40%)、出席状況(15%)、予習状況＝毎週の課題(15%)により評価する。

■評価基準

絶対評価

中間発表及び期末試験の口述部分は、次の3点から評価する。

(1)発音の正確さ。

(2)文章(文法)の正確さ。

(3)対話の力。

期末試験の筆記は、総得点数で評価する。

尚、評価点100%のうち合計60%未満は、不合格とする。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

週の最初の講義の冒頭で、予習状況(＝毎週の宿題)を確認する。これは成績評価に関係する。

発声練習・及び発音記号の読み方の習得は、各自の予習と復習を歓迎する。

科目名 中国ビジネスコミュニケーション I [Chinese Business Communication I]

担当教員 バートル

■講義目的

この講義は、原則として「中国語(初級A)」と「中国語(初級B)」を履修した学生を対象にして行う。短い会話文を使って、ビジネスの読み方の復習及び単語の再トレーニングを徹底的に行い、会話を自然な形で表現できるようにする。中国の社会、文化、生活などの事柄を理解することとビジネス関係用語・表現の習得を目指す。なお、授業では文法と会話を原則的に交互に行うものとするが、いずれも実践性を重視し、自己表現力の向上に重点を置く。

1 会話

(1) 開好(挨拶) (2) 開時間、日期(年月日の言い方)

(2) 問姓名(名前を尋ねる) (6) 問住所、路、住址(場所・道・住所を尋ねる) (3) 紹介(紹介の仕方) (7) 邀請、拜訪(招待・訪問) (4) 談学校、家庭(学校、家庭について)

2 語法 (1) "補語"の総合的学習

(2) "能願動詞"の用法

(3) 連動文の作り方

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／グローバルビジネス

■到達目標

(1) 500～1,000の語彙を目指す。

(2) 中検準4級、4級に合格する。

■講義形態

講義のみ[学外学習無し]

■講義の概要

〈第1講〉挨拶

概要：基本的な挨拶

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：基本的な挨拶、お礼と謝罪の言葉や表現を学習する。

〈第2講〉名前を尋ねる、自己紹介

概要：出会いとコミュニケーション

事前学習しておくべき用語やポイント["是"の使い方、人称代名詞]

詳細：簡単な自己紹介の言葉と表現を学習する。

〈第3講〉疑問詞・指示代名詞

概要：疑問詞を使った疑問文

事前学習しておくべき用語やポイント["誰""何"の使い方]

詳細：簡単な会話形式を用いて疑問詞を使った文と指示代名詞を学習する。

〈第4講〉復習

概要：挨拶と自己紹介文、疑問詞を使った疑問文の復習とテスト

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：これまでの学習内容をまとめた上で、小テストを実施する。

〈第5講〉数の数え方

概要：数の数え方と量詞

事前学習しておくべき用語やポイント[数量詞]

詳細：数詞、量詞を使ったモノの数え方を学習する。

〈第6講〉年月日の言い方

概要：年月日・曜日・時刻

事前学習しておくべき用語やポイント[年月日・曜日・時刻]

詳細：年月日・曜日・時刻の表現方法を学習する。又、中国の祝祭日を把握する。

〈第7講〉学校・家庭について

概要：所有を表す表現

事前学習しておくべき用語やポイント["有""几"の使い方]

詳細：所有を表す表現"有""几"の使い方学校や家庭についての会話で学習する。

〈第8講〉存在を表す表現

概要：存在を表す表現

事前学習しておくべき用語やポイント["有""在"の使い方]

詳細：存在を表す"有""在"の使い方を具体的会話で学習する。

〈第9講〉復習

概要：これまでの学習内容を復習する。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：数の数え方、月日の言い方、所有と存在を表す表現を復習した上で、小テストを実施する。

〈第10講〉場所・道・住所を尋ねる

概要：場所・道・住所を尋ねる表現

事前学習しておくべき用語やポイント[介詞]

詳細：場所・道・住所を尋ねる表現を具体的な会話で学習し、「介詞」の使い方を習得する。

〈第11講〉招待・訪問

概要：招待・訪問の際の表現

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：招待・訪問の表現方法を具体的な会話形式で学習する。

〈第12講〉"補語"の総合的学習

概要：各種補語の表現方法の習得

事前学習しておくべき用語やポイント[副詞]

詳細：可能補語、方向補語、可能補語、可能補語を表す表現を会話形式で学習する。

〈第13講〉"能願動詞"と"連動文"

概要：能願動詞と連動文の使い方

事前学習しておくべき用語やポイント["会""能""可以""要""想"の使い方]

詳細：能願動詞"会""能""可以""要""想"と連動文の使い方を具体的な会話形式で学習する。

〈第14講〉復習

概要：これまでの学習内容の復習

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：補語の使い方や能願動詞と連動文の使い方を復習した上で、小テストを実施する。

〈第15講〉まとめ

概要：春学期の総まとめ

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：春学期で学習した内容を基に総合試験を実施する。

■教科書

学習用プリント配布

■指定図書

随時紹介、推薦する。

■参考文献

陸偉榮『中国語リスニング&スピーキング』(国際語学社、2012年)

■評価方法

評価は、小テスト(30%)と期末総合試験(50%)、出席状況(20%)で評価する。

■評価基準

相対評価 小テストは、次の3点から評価する。(1)発音の正確さ。(2)文章(文法)の正確さ。(3)対話の力。

期末総合試験は、総得点数により評価する。尚、評価点100%(小テスト30%+期末総合試験50%+出席20%)のうち60%未満は、不合格とする。

■事前履修科目等

中国語Ⅰ、中国語Ⅱ

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

予習、復習をしっかりとやること。

中国語検定試験の受験を前提とした対策を行う。

■参考 URL

日本中国語検定協会 HP : <http://www.chuken.gr.jp/tcp/test.html> 日本ビジネス中国語学会 HP : <http://www.toho-shoten.co.jp/business/>

科目名

中国ビジネスコミュニケーションⅡ〔Chinese Business Communication Ⅱ〕

担当教員

バートル

■講義目的

中国語(中級)では中国の社会・文化・生活・ビジネス上の慣習等に対する理解を会話文や短文を通して学習してきたが、本授業は、更に日本語または英語の表現と比較をしながら、中国の言語表現についての理解を深めていきたい。そして中級中国語の総合的語学力の完成、中国語検定試験3級程度の語学力の獲得を目指す。

1.会話

(1) 拜訪(訪問する)	(5) 天気、季節(天気、季節)
(2) 買東西(買い物をする)	(6) 打電話(電話をする)
(3) 乗車、換車(乗車、乗り換え)	(7) 在飯店(レストランで)
(4) 愛好、興趣(愛好、趣味)	(8) 生病、看医生(病気、医者の診察を受ける)

2.語法

- (1) 比較文の応用的学習
(2) 進行相・完了相の学習
(3) 形容詞の使い方

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／グローバルビジネス

■到達目標

- (1) 1,000～2,000の語量を目指す。(2) 中検3級にチャレンジする力を備える。

■講義形態

講義のみ〔外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉訪問

概要：訪問する際の表現

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：訪問に関する基本的な表現方法を具体的な会話形式で学習する。

〈第2講〉買い物

概要：買い物する際の表現

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：買い物する際の表現方法を具体的な会話形式で学習する。

〈第3講〉乗車、乗り換え

概要：乗車、乗り換えの際の表現

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：乗車、乗り換えの際の表現方法を会話形式で学習する。

〈第4講〉趣味・興味

概要：趣味や興味についての表現

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：趣味や興味についての表現方法を会話形式で学習する。

〈第5講〉復習

概要：これまでの学習内容の復習

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：これまでの学習内容を復習した上で、小テストを実施する。

〈第6講〉天気、季節

概要：天気、季節に関する表現

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：天気、季節に関する表現方法を会話形式で学習する。

〈第7講〉電話をする

概要：電話をする際の表現

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：電話をする際の表現方法を会話形式で学習する。

〈第8講〉食事する

概要：食事する際の表現

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：食事する際の表現方法を会話形式で学習する。

〈第9講〉病気、医者の診察を受ける

概要：病気、医者の診察を受ける際の表現

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：病気、医者の診察を受ける際の表現方法を会話形式で学習する。

〈第10講〉復習

概要：これまでの学習内容の復習

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：これまでの学習内容を復習した上で、小テストを実施する。

〈第11講〉比較文

概要：比較文の応用的学習

事前学習しておくべき用語やポイント[]〔比“一样”〕

詳細：比較を表す“比”“一样”の応用的学習を行う。

〈第12講〉進行相、完了相

概要：進行相、完了相の表現

事前学習しておくべき用語やポイント[]〔在“了”〕

詳細：進行相、完了相“在”“了”の表現を会話形式で学習する。

〈第13講〉形容詞

概要：形容詞を使った表現

事前学習しておくべき用語やポイント[]〔形容詞〕

詳細：形容詞を使った表現を会話形式で学習する。

〈第14講〉復習

概要：これまでの学習内容の復習

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：これまでの学習内容を復習した上で、小テストを実施する。

〈第15講〉まとめ

概要：秋学期の総まとめ

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：秋学期で学習した内容を基に総合試験を実施する。

■教科書

- (1) 学習用プリントを配布する。
(2) ビジネス用語学習用の教材を配布する。

■指定図書

随時紹介、推薦する。

■参考文献

陸偉榮『中国語 リスニング&スピーキング』(国際語学社、2012年)

■評価方法

評価は、小テスト(30%)と期末総合試験(50%)、出席状況(20%)により評価する。

■評価基準

相対評価

小テストは、次の3点から評価する。(1)発音の正確さ。(2)文章(文法)の正確さ。(3)対話の力。期末総合試験は、総得点数で評価する。尚、評価点100%(小テスト30%+期末総合試験50%+出席20%)のうち60%未満は、不合格とする。

■事前履修科目等

中国語Ⅰ、中国語Ⅱ

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

予習、復習、特に復習をしっかりとやること。中国語検定試験の受験を前提とした対策を行う。

■参考 URL

日本中国語検定協会 HP : <http://www.chuken.gr.jp/tcp/test.html> 日本ビジネス中国語学会 HP : <http://www.tohoshoten.co.jp/business/>

科目名 中小企業論 (志企業論)

担当教員 奥山 雅之

■講義目的

中小企業は、企業の99%、就業数約70%を占め、地域経済を支えるとともに、「社会をこうしたい」という志を持った多くの中小企業（＝志企業）が新しい発想やサービスを創るなど、「イノベーション」の担い手としても重要な役割を果たしています。私たちは、よくテレビCMを流しているような大企業の前で新聞内容はよく目にするが、中小企業がどのような企業活動を行っているか、知りや手段が十分に置っていないといえませんが、しかし、地域の中をよく見ると、情報がいずれと独自の技術を持って特定の製品で大きなシェア（占有率）を持つものづくりの中小企業や、行役の小さな店などを見ることが出来ます。中小企業は、1つのイメージでは語りつくせない、極めて多様性のある存在なのです。中小企業は、当然のことではありますが、大企業と比べて経営の基盤が弱い部分があり、また経営上の課題を抱える企業も多く存在します。こうした中小企業の問題性についてもしっかり目を向けいくことも必要ですが、中小企業を決してネガティブのみに捉えはらず、豊富な事例を交えながら、その強みや魅力、今後の発展にも触れていきます。「中小企業に対するイメージも一新されるはずです。」

■講義分類

顧客理解/ビジネス環境理解/ビジネス創造/ビジネスマネジメント/社会力育成/グローバルビジネス/地域ビジネス

■到達目標

本講義のゴール（目標）は、次の2つとします。（1）生活と中小企業とのつながりについて、現実感を持ってイメージすること。（2） 社会における中小企業の存在意義と今後の展望について、各自が各自の意見と考え方を持つこと。自分なりの「中小企業観」を持つことは、自分なりの「企業観」、ひいては「組織観」を持つことにつながります。

■講義形態

講義のみ（一部にGDあり）（学外学習無し）

■講義の概要

〈第1講〉ガイダンス

概要：この講義で学ぶこと

事前学習しておくべき用語やポイント【企業は何のためにあるのか】

詳細：この講義の意義、講義の進め方、目指すべき目標などについて確認していきます。

〈第2講〉中小企業とは何か

概要：中小企業の意義、特徴について

事前学習しておくべき用語やポイント【中小企業、中小企業基本法】

詳細：「中小企業」とひとことで言っても、いろいろな企業があり、多様です。そうした多様な存在でもある中小企業に共通した特徴についてみていきます。

〈第3講〉中小企業で働くこと

概要：中小企業で働くことの特徴

事前学習しておくべき用語やポイント【職場、キャリア】

詳細：我が国の雇用の約70%は中小企業によって生み出されています。雇用の増として重要な役割を果たす中小企業において「働く」ことの特徴について、大企業と働くこととの比較を交えて分析します。

〈第4講〉事業を起こす意義について

概要：起業の意義、「志」について

事前学習しておくべき用語やポイント【起業家、企業家精神】

詳細：中小企業だけでなく、大企業をはじめは事業を起こすことから発展しています。起業の事例を交えながら、「業を起こす」ということについて一緒に考えます。

〈第5講〉大企業と中小企業

概要：大企業と中小企業の比較

事前学習しておくべき用語やポイント【規模の経済、取引】

詳細：中小企業は発展の可能性と不安定さといった問題性を同時に抱える存在でもあります。大企業と中小企業との取引関係や競争関係の歴史的影響や現状を確認しながら、「中小企業問題」について考えます。

〈第6講〉中小企業発展の軌跡

概要：時代の変遷と中小企業の発展

事前学習しておくべき用語やポイント【環境適応、二重構造】

詳細：中小企業は時代とともに変化し、発展し、我が国の経済に大きな役割を果たしてきました。こうした中小企業の発展を時代とともに追っていき、今後の展望を検討します。

〈第7講〉ものづくり中小企業(1)

概要：ものづくり中小企業の現状

事前学習しておくべき用語やポイント【ものづくり、空洞化、基盤技術】

詳細：中小企業の中でも、ものづくりを行う企業を取り上げ、その特徴や今後の発展の可能性について考えていきます。

〈第8講〉ものづくり中小企業(2)

概要：ものづくり中小企業の経営

事前学習しておくべき用語やポイント【下請企業、自社製品】

詳細：中小企業が数多くあるように、その経営スタイルも多種です。ものづくりの中小企業の経営について、その特徴とポイントについて検討を加えます。

〈第9講〉小規模な流通(1)

概要：商店と商店会の現状

事前学習しておくべき用語やポイント【大型店、チェーンストア、商店街】

詳細：私たちの生活の隅には、大規模店舗やチェーン店だけでなく、小さなお店もたくさん存在しています。私たちの生活に身近な商店街など、中小企業の現状と課題について考えます。

〈第10講〉小規模な流通(2)

概要：商店と商店街の経営

事前学習しておくべき用語やポイント【品揃え、マーケティング】

詳細：お店を経営するということはどういうことなのか。顧客のニーズや環境の変化に対応する中小企業の経営の現状をみていきます。

〈第11講〉中小企業と立地・集積

概要：中小企業の立地選択と産業集積の意義

事前学習しておくべき用語やポイント【企業立地の要因、産業集積のメリット】

詳細：それぞれの中小企業は、何らかの理由で、それぞれの立地場所を決めています。こうした立地のメカニズムについて考えるときにも、企業が一定地域に集まること（集積）の意義について検討します。

〈第12講〉中小企業の金融

概要：中小企業の金融の現状と金融機関の役割

事前学習しておくべき用語やポイント【資金繰り、融資、保証】

詳細：企業は現金で工場や店舗を建て、材料や商品を入れ、人材を雇用し、ビジネスを実践します。企業活動を支える資金について、その役割と流れを考えていきます。

〈第13講〉中小企業の国際化

概要：中小企業の輸出・海外進出の現状と課題

事前学習しておくべき用語やポイント【貿易、現地生産、知財対策】

詳細：国際の一層の貿易の中で、大企業だけでなく、中小企業の中にも日本にとどまらず海外に営業所や工場を設けて進出する企業が多くあります。しかし、そこには多くの困難が待っているケースも少なくありません。こうした中小企業の国際化の現状と課題についてみていきます。

〈第14講〉多摩地域の中小企業

概要：多摩地域中小企業の現状と課題、今後の方向性

事前学習しておくべき用語やポイント【先端技術、産業連携、製品開発】

詳細：多摩地域に立地する中小企業も多様ですが、その特徴は、先端技術を持つ中小企業が多数存在することです。こうした多摩地域の中小企業の特徴について事例とともに検討を加え、多摩地域の経済の発展に中小企業がどのような役割を果たしているかを考えます。

〈第15講〉まとめ、振り返り

概要：中小企業の問題性と発展性をまとめる

事前学習しておくべき用語やポイント「」

詳細：講義の全体を振り返り、中小企業のイメージがどのように変わったかあるいは変わらなかったか、また、その問題性と発展性について全講で討論します。

■教科書

特にありません。レジュメを配布します。また、必要があれば適宜指示します。

■指定図書

特にありません。必要があれば適宜指示します。

■参考文献

渡辺 幸男、黒澤 直宏、小川 正博、向山 雅夫著『21世紀中小企業論－多様性と可能性を探る』有斐閣アルマ、2001年1月。加藤 秀雄『日本産業と中小企業－海外生産と国内生産の行方』新評論、2011年8月。

■評価方法

出席40%、小テスト20%、期末定期試験40%

■評価基準

相対評価 中小企業の強み・弱み、発展性と問題性について理解できているかを評価のポイントとします。

■事前履修科目等

特にありません。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

日頃から、新聞の産業、企業関連の記事（特に中小企業・ベンチャー企業関連の記事）について興味を持ってチェックしてください。

科目名 データ解析[Introduction to Data Analysis]

担当教員 岡太 彬訓

■講義目的

さまざまな分野での多様な問題に取り組むため、データ収集し、データを分析することはますます重要になってきています。この講義の目的は、データを分析することにより、データの中から情報を取り出すということの重要性を理解し、意思決定や問題解決のための資料の提供という観点から、データ解析という客観的な手順にしたがって取り出した情報の意味をどのように把握するのか、ということを理解することです。

■講義分類

顧客理解 / ビジネスマネジメント / 社会人力育成/ビジネスICT

■到達目標

データ分析に必要な統計学の考え方を理解します。データから情報を取り出すための方法、特に実際のデータ解析に必要な2つ以上の変数の関係を扱う諸手法(相関、回帰、クロス表、クラスター分析)を理解することです。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉

概要： 半年間の講義の目的と授業の予定を述べます。

事前学習しておくべき用語やポイント[データから情報を取り出すことの意味]

詳細：データから情報を取り出すために、データをどのように要約するのか、その目的と意義について、問題解決や意思決定にどのように役立てるのかを説明し、今後の講義の内容の概要を説明し、授業と試験の日程をお知らせします。レポートでは、適当な統計ソフトを用いて、データ分析の応用を通じた問題解決や意思決定などを扱います。

〈第2講〉

概要： データから情報を取り出すこととデータ分析の関係を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント[統計分析の役割、問題解決]

詳細：基礎的なデータ分析により、データからはどのような情報が得られるのかということ述べます。また、データ分析は、問題解決に対してどのように役立てられるのか、どのようにしたら有効に役立てられるのか、データ分析の結果の解釈と利用という観点から説明する予定です。

〈第3講〉

概要：多量のデータに潜む情報の記述をわかりやすく表現する方法を考え、表やグラフなどの使い方を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント[データの記述と情報]

詳細：多量のデータに含まれている情報をどのようにして分かりやすく記述するのかということ述べます。さまざまな種類の表やグラフなどを、データに含まれている情報の記述という意味合いからどのように用いるのかを説明し、それらをどのようにして求めればよいのかを述べます。

〈第4講〉

概要：データの記述としての基礎的な統計の指標の算出を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント[データに含まれている情報、分布の記述]

詳細：データに含まれている情報を表現する最も基本的な考えかたとして、分布を記述することを取り上げます。分布を記述するという意味を述べ、平均値や分散などの基本的な統計量をどのように用いるのかについて述べます。それらの基本的な統計量と分布との関係を考えます。

〈第5講〉

概要：多変量データのもつ意味を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント[多変量データ]

詳細：変数が複数ある多変量データのもつ意味を考え、多変量データの統計分析における扱い方を考えます。多変量データを分析する統計分析であるさまざまな多変量解析の概要を説明します。データの分布と変数の関連について、また、多変量データをどのように記述するのかについて概要を述べます。

〈第6講〉

概要：多変量データと多変量解析の対応を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント[多変量データの情報と扱い方]

詳細：多変量データ分析で用いられるいくつかの代表的な多変量解析の方法の概要を述べ、それらを利用する目的という観点から、どのように分類するのかについて述べます。多変量データから情報を取り出すために使われるいくつかの統計分析の関係を理解し、方法の違いと取り出す情報を考えます。

〈第7講〉

概要：多変量データにおいて、変数の間の関連をどのように記述するかを扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント[変数間の関連の記述、クロス表]

詳細：多変量データにおいて、それぞれの変数についての記述だけではなく、複数の変数の間の関係を記述することにより、有益な情報が得られることを説明します。そのために用いられる、さまざまな考え方や方法、例えば、相関係数の算出と評価を理解し、相関係数の問題点、クロス表の意味を理解します。

〈第8講〉

概要：回帰分析の意味、回帰分析で得られる結果の読み取り方を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント[回帰、相関と回帰の違い]

詳細：回帰分析の概念を説明し、その必要性を述べます。ある変数から別の変数を予測するという観点から、回帰分析を考えます。相関分析と回帰分析の共通点と異なるについて述べ、データ分析という意味から、回帰分析によりどのような情報が得られるのか、ということ説明します。

〈第9講〉

概要：データの記述について理解を深めます。

事前学習しておくべき用語やポイント[分布の記述、変数間の関連]

詳細：第1回の試験を行う予定です。筆記試験を行います。筆記試験の範囲は、第1講から第8講で扱い、授業中に随時

に演習で扱った内容について行う予定です。データの中に含まれている情報を統計分析によって取り出すために、これまでに扱ってきた様々な考え方や分析方法を自分自身で確認するための機会とします。

〈第10講〉

概要：筆記試験の問題の解説を行います。

事前学習しておくべき用語やポイント [データ分析と問題解決, 分布の記述]

詳細：筆記試験の問題の解説を行います。筆記試験で解いた問題を各自で考察し、理解が不十分な点や不完全な点を補います。データからデータ分析により情報を取り出して、それらを問題解決に用いるということの意味を考えます。そのための具体的な方法の理解を深めます。

〈第11講〉

概要：分類について、また、クラスター分析法の考え方を扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント [分類, クラスター分析法]

詳細：分類がデータ分析あるいは意思決定において果たしている役割の重要性について述べます。動物や植物あるいは、図書の分類でとられている考え方について述べ、クラスター分析法における分類は、これら従来の分類とどのように違うのか、どのように進歩したのかを述べます。

〈第12講〉

概要：階層クラスター分析法の考え方、非階層クラスター分析法との違いを扱います。

事前学習しておくべき用語やポイント [階層構造、階層クラスター分析法]

詳細：階層構造について、その意味を考えます。階層構造に基づいたクラスター分析法である階層クラスター分析法を紹介し、階層構造を用いないクラスター分析法である非階層クラスター分析法との違いを理解します。階層クラスター分析法の考え方とクラスター構成の原理を理解します。代表的な階層クラスター分析法である、最大法、最小法を理解します。

〈第13講〉

概要：線形計画法についての演習

事前学習しておくべき用語やポイント [ウード法、クラスターによる分類]

詳細：階層クラスター分析法の代表的な方法の1つであるウード法を説明します。ウード法の考え方、クラスター構成の手順を理解します。階層クラスター分析の結果に基づいて分類を行い、それによってデータから情報を取り出すことの意味を理解します。ウード法など階層クラスター分析のさまざまな方法の違いを理解し、その長所と短所を理解します。レポートを提出して貰います。

〈第14講〉

概要：クラスター分析法、特に階層クラスター分析法の概念、手順、クラスター分析法に基づく分類について理解を深めます。

事前学習しておくべき用語やポイント [階層クラスター分析法、分類]

詳細：第2回の試験を行う予定です。筆記試験を行います。試験の範囲は、第11講から第13講で扱い、授業中に随時演習で扱った内容について行う予定です。データの中に含まれている情報を統計分析によって取り出すために、これまでに扱ってきた様々な考え方や分析方法を自分自身で確認するための機会とします。

〈第15講〉

概要：筆記試験の問題の解説を行います。

事前学習しておくべき用語やポイント [分類と情報、階層クラスター分析法、意思決定]

詳細：筆記試験で解いた問題を各自で考察し、理解が不十分な点や不完全な点を補います。クラスター分析法が問題解決に用いられる背景を理解し、分類するというのが、データの中から情報を取り出すという点において果たしている役割を考えます。一部のレポートについて、発表して貰います。

■教科書

岡太彬訓・中井美樹・元治恵子 「データ分析入門—基礎統計—」 共立出版(2012)

■指定図書

岡太彬訓・都築誉史・山口和範 「データ分析のための統計入門」 共立出版(1995)

■参考文献

岡太彬訓・守口剛 「マーケティングのデータ分析」 朝倉書店(2010)

■評価方法

講義への出席状況 (10%)、講義中におけるあるいは質問用紙への質問の良さ (10%)、2回の試験 (各30%) とレポート (20%) を総合して評価します。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

予習と復習を必ず行うこと。

科目名 データベース〔DataBase System〕

担当教員 深沢 弘美

■講義目的

産業社会における問題解決において、データは重要な役割を果たす。そのため、コンピュータ上で正しくデータを管理するための技術を得る必要がある。これはあらゆる業種、分野において大変重要となる。本講義は、リレーショナルデータベースを中心としたデータベースの基礎概念について学習し、これを活用したデータ管理の仕組みが構築できるようになることを目的とする。講義は演習と課題制作を含む。最終課題では各自テーマを設定しデータベースマネージメントシステム(DBMS)を設計・開発する。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスICT

■到達目標

①リレーショナルデータベースの基本概念を理解し、正しいデータベースを設計できるようになること(E8図、正規化などの理解) ②データベースマネージメントシステム(DBMS)を構築することができるようになること(Microsoft Accessの基本操作)

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

(第1講)

概要：コンピュータ上のデータ管理の基礎を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔データベース、リレーショナルデータベース、関係データベース、データベースの可能性や有用性〕

詳細：リレーショナルデータベースを中心にデータベースの基礎的な概念を学ぶ。リレーショナルデータベースとは、表でデータを扱う管理する仕組みである。リレーショナルデータベースの技術を活用するにあたり、基本的な考えや用語、表計算ソフトとの違いについて理解する。

(第2講)

概要：住所録、名簿など、1つの表から成るもっともシンプルなデータベースを作成する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔リレーショナルデータベース、DBMS〕

詳細：データベースの最も基本的な形として、1つの表からなるデータベースの作成を通して基礎概念を習得する。Microsoft Accessの基本操作を通して、データベースのもっともなる表を実際に作成し、リレーショナルデータベース技術によるデータ管理の基礎を学ぶ。

(第3講)

概要：データベース専務の手帳を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔Accessの起動方法、終了方法、表の作成などの基本的な操作方法の復習〕

詳細：データベースは、複数のユーザーや組織がデータ共有を実現するための技術である。複数のユーザーが安心して安全にデータを活用するために、は正しいデータベースの設計が重要である。テーブルの設計、フィールドの定義、プロパティの設定、データ入力などや開発手順を理解し、データベースシステム構築法を習得する。

(第4講)

概要：データの抽出と並べ替えについて学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔Accessの復習、クエリの手習い〕

詳細：表形式によりまとめられた情報を活用する手法を学ぶ。クエリの概念を習得し、必要なデータを抽出したり、並べ替えたりすることにより情報を整理する方法を学ぶ。クエリ(Query)とは、問い合わせを意味し、データベースの分野では重要なキーワードである。

(第5講)

概要：リレーショナルデータベースの基礎を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔表の作成、フィールドの定義、リレーションシップ、クエリ〕

詳細：2つ以上の表から成るデータベースを作成し、リレーショナルデータベースの基礎を学ぶ。リレーションシップの設定により、2つの表がつながり、データの重複入力や不整合をなくすることができることを理解する。また、クエリについてもさらに理解を深め、複数の表をまたがって、必要なデータを抽出する。

(第6講)

概要：リレーショナルデータベースの設計(1)

事前学習しておくべき用語やポイント〔E8図、正規化〕

詳細：リレーショナルデータベースにおけるE8モデルと正規化の基本について学ぶ。データベースを設計する際に活用されるツールとして、E8モデルによる設計図(E8図)を用いて、管理すべきデータの構造を考える。

(第7講)

概要：リレーショナルデータベースの設計(2)

事前学習しておくべき用語やポイント〔E8図、正規化〕

詳細：第3正規型から第3正規型について学び、リレーショナルデータベースの基礎を理解する。第3正規型は完全な形を作ることが要件となる。また、第3正規型では完全従属が要件となる。これらの要件を理解して正しいデータ構造を設計する方法を学ぶ。

(第8講)

概要：リレーショナルデータベースの設計(3)

事前学習しておくべき用語やポイント〔正規化、従属関係、完全従属〕

詳細：第3正規型およびリレーショナルデータベースの演習問題を学ぶ。第3正規型の要件は、推移従属ではないことである。さらに多価従属と特殊な場合についても学び、正規化された表の作成方法を習得する。また、表結合の順、構、構などの演習方法についても学ぶ。

(第9～10講)

概要：正規化に着目したデータベースの設計

事前学習しておくべき用語やポイント〔E8図、正規化、リレーションシップ〕

詳細：正規化の理解をもとに、各自データベースを設計する。テーマは各自設定し、開発目的、メリットなどを明確にしたうえで具体的なデータベース構造を設計する。設計のツールとしては、E8図等を用いて視覚的に表現し、グループ内での発表やディスカッションなどに活用する。

(第11講)

概要：フォーム・レポートの利用

事前学習しておくべき用語やポイント〔Access基本操作の復習、表の設計〕

詳細：入力画面〔フォーム〕や出力形式〔レポート〕を活用して、使いやすく実用的なデータベースシステムを作成する方法を学ぶ。データはコンピュータ内に管理するだけでなく、有効に活用することが重要であり、見やすく整理したり、目的に合わせて集計したり、適切なデータベースが構築できているかも検証する。

(第12講)

概要：クエリの利用

事前学習しておくべき用語やポイント〔クエリ〕

詳細：複数のテーブルからひとつの表を作成するなど、クエリの機能を活用し情報を整理する方法を学ぶ。クエリを基にしたフォーム、レポートの作成方法も習得し、実用的なデータベース管理システムの構築を目指す。

(第13～14講)

概要：課題制作

事前学習しておくべき用語やポイント〔リレーショナルデータベース、Accessの操作、クエリ、フォーム、レポート〕

詳細：これまでに習得した基礎知識をもとに、実際に関係データベースシステムを構築する。データベースの設計、データの収集などデータベース開発の実際を、課題制作を通して学ぶ。課題制作の過程では、各自の設計したデータベースの内容を発表する場を設け、互いに議論すること、チームで作業することも体験する。

(第15講)

概要：まとめ

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：プロジェクトデータベースの知識をもとに、オブジェクト指向データベースや演習データベース、マルチメディアデータベース、ネットワークにおける分散データベース等のデータベースシステムの動向、最新事例、Webデータベースへの応用などについて学び、まとめる。

■教科書

資料を配布します。

■参考文献

[1] 実教出版編修部「30時間でマスター Access2010—Windows7対応」,実教出版

[2] 牧村あき「Accessはじめてのデータベース」,技術評論社

[3] 高橋麻奈「ここからはじめてのデータベース」,日本実教出版

■評価方法

評価は、期末試験(50%)、最終レポート(30%)、出席・授業内課題等平常点(20%)により行う。

■評価基準

総合評価

期末試験および最終レポートは、以下の点を中心に総合的に評価する。・データベースに関する基本的な概念を理解しているか。

・リレーショナルデータベースの概念を理解し、正規化されたデータベースを設計できるか。・Microsoft Accessの基本操作を理解しているか。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

演習形式で学習を積み上げていくので、欠席をしないこと。欠席した場合は、授業内容を確認し各自事前学習を行うこと。「Webプログラミング」では、本講義の知識、能力を必要とするため、履修を希望する場合は本科目を履修すること。

科目名 統計〔Statistics〕

担当教員 今泉 忠

■講義目的

高度情報化により、問題解決のためにはデータを収集して、それをもとに考えることが多い。これに伴い、これをどのような目的のために編集した情報として、活用するかが重要となってきた。この講義ではデータを活用するための基本力の習得を目指し、統計的データ分析の入門を取り扱う。具体的には、データの要約と因果関係の検証のためのデータ分析を内容とする。このようなスキルは、共通のスキルであるので、受講しておくことをすすめる。なお、講義では実際に検討し、理解を深める事が重要であるので、コンピュータソフトを用いてデータ分析の基礎をも習得する。適宜、グループレポートなどを作成する。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／ビジネスICT／地域ビジネス

■到達目標

- (1) データについて視覚化できる
- (2) データの主要な傾向とバラツキを測る事ができる
- (3) 2つのグループの違いを調べられる
- (4) 結果を他者に分かり易く伝えられる

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉イントロダクション データ分析概要

事前学習の用語とポイント：データとは
統計で扱うデータとヒストグラムについて説明する
〈第2講〉データ分析(1):集計データからわかる特徴
事前学習の用語とポイント：EXCELを活用できること
EXCELなどの表計算ソフトを用いて作成したヒストグラムからの特徴に講義する。

〈第3講〉データ分析(2):集計データからわかる特徴2

事前学習の用語とポイント：集計ヒストグラムを作成していること

ヒストグラムからの特徴から読み取り、2つのヒストグラムを視覚的に比較することについて学ぶ

〈第4講〉データ分析(3):集計データからわかる特徴の図示

実際のデータからヒストグラム作成についてP D C Aサイクルでの演習を行う

〈第5講〉データを集計・要約する 集計前データの記述統計

事前学習の用語とポイント：中央値、平均、最頻値
記述統計としての要約値、特に、代表値について講義する
〈第6講〉データのばらつき・集計前データの記述統計
事前学習の用語とポイント：中央値、平均値、最頻値
データのばらつきとしての四分位範囲や標準偏差について講義する。

その特徴を理解するために表計算ソフトなどを活用する

〈第7講〉要約値の表現

事前学習の用語とポイント：箱ひげ図、ダイヤモンド図
要約値を用いた図示化について講義する。2つの群からのデータの比較についても講義する

〈第8講〉データの要約 演習

事前学習の用語とポイント：ヒストグラム、ダイヤモンド図、箱ひげ図

データについて要約する事について演習を行う。実際のデータを表計算ソフトなどを用いて集計して、比較する。

〈第9講〉データの要約 演習II

事前学習の用語とポイント：第8講での演習を整理しておくこと

データについて要約し、まとめることを行う

〈第10講〉誤差:平均値の変化

事前学習の用語とポイント：誤差

データの平均値は変わることを理解する。

表計算ソフトなどを用いてシミュレーションなどを行う。

〈第11講〉特性要因図

事前学習の用語とポイント：誤差の理解、原因と結果の表現
比較のための基本的な表現としての特性要因図について講義する。

〈第12講〉平均値の比較

事前学習の用語とポイント：ダイヤモンド図
平均値で比較する場合の方法について講義する

〈第13講〉散布図

事前学習の用語とポイント：変数と変量の違い、相関関係

2変数の関係を探るための散布図について講義する。

EXCELなどの表計算ソフトを用いて散布図を作成し、さまざまな関係について理解する。

〈第14講〉相関 2変量の線形関係の度合いを示す指標である相関係数について講義する

事前学習の用語とポイント：線形関係

〈第15講〉単回帰分析

事前学習の用語とポイント：原因と結果の表現、特性要因図
因果に関してのもっとも単純な線形モデルである単回帰について講義する。

■教科書

統計学基礎 東京図書

■指定図書

小島 寛之「完全独習 統計学入門」ダイヤモンド社

西内 啓「統計学は最強の学問である」ダイヤモンド社

■参考文献

適宜、講義資料を配布する。

■参考URL

<http://stat.tama.ac.jp>

■評価方法

統計的なデータ分析が理解して行えるかについて評価する。
レポート30%、定期レポート30%、最終レポート40%

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

EXCELやWORDなども使用するので、利用できるようになっていることが求められる。

科目名 統計学Ⅰ(StatisticsⅠ)

担当教員 今泉 忠

■講義目的

高度情報化により、情報の数量として扱われるデータを扱う必要性はますます高まっています。本講義では、データに基づく課題解決や問題解決に必須の統計学に関して、その基礎概念の理論的な理解を深め、社会現象を確率モデル・統計モデルとして扱うために必要な統計的方法を活用できることを目標としています。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント
／社会力育成／グローバルビジネス／ビジネスIC／地域ビジネス

■到達目標

- (1) 基礎的な確率分布について理解し、適用できる
- (2) 標本抽出について理解できる
- (3) 平均の推定問題が理解でき、適用できる
- (4) 検定問題が理解でき、適用できる

■講義形態

講義 + GD・GW・PR[学外学習無し]

■講義の概要

データをどのようにとらえ、そして扱うかに関して統計学の基礎的な概念を把握した上で、1次元のデータからデータの処理方法について、客観的な判断基準ということから理論的側面を数理的に扱う。次に、確率の概念を理解し、確率変数、確率分布に関する理解を深め、標本分布について理解する。特に正規分布に関しては十分な理解ができるよう講義を行う。また標本分布の理解から推定・検定に関して概念の理解と方法論の理解の両面を充実させる。最後に回帰分析に関して回帰分析だけでなく、回帰診断も含め解説を行う。

データ分析をいならぬ講義であるので、PCやタブレット端末やスマートフォンなどで統計分析環境を用意すること。

〈第1講〉統計学の基礎

事前学習のポイントと用語：母集団と標本とデータ

統計での知識をもとにデータの統計的扱いについて講義する。

〈第2講〉データの整理：平均と標準偏差

事前学習のポイントと用語：代表値

平均と標準偏差の意味について講義する

〈第3講〉平均のバラツキ

事前学習のポイントと用語：標準誤差

平均を確率変数と考えた場合の標本平均のバラツキについて講義する

〈第4講〉確率分布の期待値

事前学習のポイントと用語：離散分布

確率分布での平均値と分散の定義について講義する

〈第5講〉離散確率分布について

事前学習のポイントと用語：分布での平均

二項分布などの基礎的な離散確率分布について講義する

〈第6講〉正規分布

事前学習のポイントと用語：確率密度関数

もっとも使用される正規分布について講義する

〈第7講〉2つの確率変数の和と差

事前学習のポイントと用語：正規分布

和の分布と差の分布は、実際の事象を表現するのに重要である。

正規分布をしている2つの確率変数について、その和と差について講義する

〈第8講〉母集団の平均値と分散の推定

事前学習のポイントと用語：大数の法則

母集団の平均と分散の推定について講義する。また、変数の標準化についても講義する

中心極限定理とその応用についても講義する

〈第9講〉平均値の区間推定と仮説検定

事前学習のポイントと用語：標準正規分布

平均値を区間推定する場合と仮説を設けて検定する場合について講義する。

〈第10講〉平均値の差の検定

事前学習のポイントと用語：分散分析、t検定

2つの母集団からの平均の差について検定する場合について講義する

〈第11講〉因果分析のための単回帰モデル

事前学習のポイントと用語：応変変数と説明変数

単回帰モデルについて説明する

〈第12講〉単回帰分析での決定係数

事前学習のポイントと用語：分散分析

決定係数と誤差が正規である場合のF比などについて講義する

〈第13講〉単回帰での係数の検定予測

学習のポイント：単回帰モデル、正規分布

単回帰モデルでの係数の仮説検定について講義する

〈第14講〉残差分析

事前学習のポイントと用語：誤差の等分散性と正規性

単回帰分析での残差の分析について講義する

〈第15講〉まとめ

事前学習のポイントと用語：平均値の区間推定、単回帰モデル

因果関係としての平均値の差や単回帰モデルについて説明する。

■教科書

日本統計学会編 統計学基礎 東京図書

■指定図書

[1] 田畑吉雄 『やさしい統計学』	現代数学社
[2] 西内 啓『統計学は最強の学問である』	ダイヤモンド社
[3] 藁谷千鳳彦 『統計学入門』	東京図書

■参考文献

[1] 小島 寛之「完全独習 統計学入門」	ダイヤモンド社
[2] 中村美枝子、綿谷 『統計学へのステップ』	共立出版株式会社
[3] 永田靖 『入門統計解析法』	日科技連
[4] 永田靖 『統計的方法のしくみ』	日科技連

■参考URL

<http://stat.tama.ac.jp>

■評価方法

講義中の小テスト(50%)、期末試験(50%)により行う。統計的な基本概念が理解できたかについて評価する。授業ごとに出題する課題を理解できているかが評価のポイントとなる。統計的なものの考え方・データの処理の仕方ができているかどうかを評価する

■評価基準

相対評価

■留意点

本講義は、毎回の講義の内容を前提として講義を行うため、1回目の講義から欠席せずに受講すること。

本講義は、「経営情報数学Ⅰ・Ⅱ」、「統計」、等の授業と深く関連している。

特に「統計」は事前履修していること

また、「統計学Ⅱ」、「経営科学Ⅰ」、「経営と意思決定」、「データ解析」の履修には本講義を履修しておくことが望ましい。

科目名 統計学Ⅱ(Statistics II)

担当教員 今泉 忠

■講義目的

高度情報化により、問題解決のためにはデータを収集して、それをもとに考えることが多い。これに伴い、これをどのような目的のために収集した情報として、活用するか重要となっている。この講義ではデータを活用するための基本力の習得を目指し、統計的データ分析の入門を取り扱う。具体的には、データの要約と因果関係の検証のためのデータ分析を内容とする。このようなスキルは、共通のスキルであるので、受講しておくことをすすめる。なお、講義では実際に検討し、理解を深める事が重要であるので、コンピュータソフトを用いてデータ分析の基礎をも習得する。適宜、グループレポートなどを作成する。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造 / ビジネスマネジメント／社会人育成／グローバルビジネス／ビジネスICT／地域ビジネス

■到達目標

- (1) 基礎的な離散分布と連続分布について理解し、現実の場面で活用できる。
- (2) 平均の区間推定や仮説が行える。実際の問題解決問題を、統計的な枠組みで表現し分析できる。
- (3) 分散分析や重回帰モデルを適切に活用できる。因果関係について推測できる。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉二項分布再入門

事前学習の用語とポイント：ベルヌイ試行
離散型でもっとも基本的な二項分布に関して講義する。

〈第2講〉幾何分布とポアソン分布

事前学習の用語とポイント：二項分布
この2つの分布についてその特徴を学習する。
二項分布、幾何分布およびポアソン分布についてシミュレーションを行うので、Excelなどの表計算ソフトを利用する。

〈第3講〉正規分布再入門

事前学習の用語とポイント：平均と分散、ベル型
連続型分布で、かつ、もっとも用いられる正規分布について講義する。
実際のデータに関して平均などの性質を調べ、統計的問題解決を行うのでPCなどを利用する。

〈第4講〉 χ^2 分布とF分布

事前学習の用語とポイント：正規分布
正規分布と関係している2つの分布について講義する。
クロス表などの集計を行うのでPCなどを利用する。
特に有名なジブソンのパラドックスなどの例についても説明する。

〈第5講〉一元配置分散分析 I

事前学習の用語とポイント：正規分布
複数の母集団からの平均値に差を調べるための一元配置分散分析について講義する。
特に一般化線型モデルの枠組みについても講義する。

〈第6講〉一元配置分散分析 II

事前学習の用語とポイント：自由度
変動の分解とその自由度について講義する。
〈第7講〉分散分析モデル 演習
事前学習の用語とポイント：一元配置分散分析
実際の問題解決での分散分析の利活用に関しての演習を行う。PCなどを活用すること。

〈第8講〉重回帰モデル

事前学習の用語とポイント：分散分析表
科学的分析でもっとも用いられることが多い説明変数が2個以上の場合の重回帰モデルについて講義する。
特性要因図の作成についても復習を行う。
〈第9講〉重回帰モデルでのパラメータの推定

事前学習の用語とポイント：行列表記、誤差の分布、t検定
重回帰モデルでのパラメータの推定と検定について講義する。

〈第10講〉重回帰分析 モデルの選択

事前学習の用語とポイント：決定係数、F比
重回帰分析でのモデルの選択について講義する。

〈第11講〉重回帰分析 残差の評価

事前学習の用語とポイント：正規分布、散布図
重回帰分析モデルでの残差の評価について講義する

〈第12講〉重回帰モデル 演習

事前学習の用語とポイント：重回帰分析
重回帰分析に関する演習を行う

〈第13講〉二元配置分散分析

事前学習の用語とポイント：一元配置分散分析
要因が2つの場合の二元配置分散分析(主効果モデル)について講義する
〈第9講〉二元配置分散分析 演習 二元配置分散分析に関する演習を行う
事前学習の用語とポイント：二元配置分散分析
〈第13講〉まとめ

事前学習の用語とポイント：分散分析モデルと重回帰モデル
線形モデルについて講義する

■教科書

日本統計学会編 統計学基礎 東京図書

■指定図書

[1] 田畑吉雄 『やさしい統計学』	現代数学社
[2] 藁谷千凰彦 『統計学入門』	東京図書

■参考文献

[1] 岩崎学 『統計的データ解析のレシピ』	日本評論社
[2] 中村美枝子、綿谷 『統計学へのステップ』	共立出版株式会社
[3] 永田靖 『入門統計解析法』	日科技連
[4] 永田靖 『統計的方法のしくみ』	日科技連

■参考 URL

<http://stat.tama.ac.jp>

■評価方法

相対評価
講義中の小テスト(50%)、期末試験(50%)により行う。

■評価基準

統計的な基本概念、特に測定誤差を含む因果関係を扱う場合が理解できたかについて評価する。授業ごとに出題する課題を理解できているかが評価のポイントとなる。統計的なものの考え方・データの処理の仕方ができているかどうかを評価する

■事前履修科目等

本講義は「経営情報数学I・II」、「統計」、「統計II」、「データ解析」等の授業と深く関連している。事前に「統計学I」の履修を前提とする。

また、「経営科学I」、「経営と意思決定」の履修には本講義を履修しておくことが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講義は、毎回の講義の内容を前提として講義を行うため、1回目の講義から欠席せずに受講すること。

科目名 TOEIC I〔TOEIC I〕

担当教員 石川 晴子, 中村 その子

■講義目的

English Expression と並行してまたはその後、英語力を継続的に高め、TOEIC の点数アップをめざす学生のための授業である。英語の総合的な力が上がればTOEIC の点数も、もちろん上がっていくはずであるが、特徴のある能力資格試験なので、どのような傾向の問題がどんな形で出題されるのか、といった予備知識や技術的な訓練、慣れも大切な要素となる。この講義ではTOEIC の得点を少なくとも現在の自分の点数から100点は上げることをめざし、リスニングリーディング両セクションで確実に点数を取ることに加えて、語彙、文法、読解力の増強をはかる。ただ、TOEIC の点数を上げるだけが英語を学ぶ目的ではないので、単なるノウハウに終わらせるとなく、最後には、TOEIC の勉強をしたことが一人一人の英語コミュニケーション能力を総合的に高める結果につなげたい。

■講義分類

英語検定試験準備／自己表現・英語コミュニケーション

■到達目標

授業履修前のTOEIC 得点より100点アップした実力をつける。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

以下の項目を基礎力を中心に講義する。

〔第1講〕

TOEIC の概要と構成

TOEIC の概要と構成について説明し、全体をしっかりと把握する。

〔第2講〕

TOEIC の出題傾向

TOEIC にどのような問題が出題されるのか→傾向と対策

リスニング問題およびリーディング問題がどのようなものかをパート別に説明する。

〔第3講〕

TOEIC の点数を効率よくアップさせるには。

TOEIC の点数を効率的に上げるために、まず、特に押さえておく語彙や慣用語彙は何か、について解説する。また抽出問題を観察分析することにより、それらの語彙や表現が実際の試験にどのように出てくるかを確認する。

〔第4講〕

リスニング問題で心がけること。

リスニング問題は問題文が印刷されているわけではない＝音として流れて来るものをその場で聞き取って理解しなければならず、一瞬の勝負となる＝ので、問題形式や流れに慣れ聞き取る力をつける。仮にすべて聞き取れなくても、どこかの部分に特に注意を向けて聞いたらよいから、というリスニング問題に答えるためのコツをつかむ。

〔第5講〕

英語の音のクセをつかむ。リズム、イントネーション、連続、同化、短縮、破裂、脱落など。

英語の音のつらなりは、日本語とはまったく異なるものであり、日本語には起こらないような音の連続や同化、短縮、脱落などが起こる。日本語に慣れている「日本語耳」はそれらの現象をとらえにくいので、たまた、英語を聞き続けているだけではなかなか得点アップに結び付かない。上記の現象を説明して英語の聞き取りのポイントを押さえ、「英語耳」を養うことを心がける。

〔第6講〕

TOEIC は授業以外の家で自分の学習が大きな要素・効果的な学習とは。

TOEIC の得点アップには、教室でいろいろな活動に加えて、教室外での心構えと学習態度、学習が大きな意味を持つ。一人でTOEIC の学習に取り組むときに大切なことを講義する。

〔第7講〕

TOEIC の勉強をすることによって自分を光らせるような英語センスを磨く。

TOEIC の勉強の目標は、TOEIC の点数を上げることだけではなく、それによって英語コミュニケーション力を上げることである。TOEIC の600点を持っていて、ネイティブと円滑にコミュニケーションできないのでは意味がない。この授業でのこれまでの学習項目を実際のコミュニケーションにどのように生かすかについて講義する。一例としてはTOEIC によく出題される英語の会話表現を実際用いて、教室で疑似オフィスミーティングなどを行う。

〔第8講〕

聞き取ると同時に自分の発音もよりよいものに。

第7講と同じように、TOEIC のリスニング力を高めるためにこの授業で行ってきたトレーニングに併せて、発音練習

も行い、スピーキングテストに対する準備をする。

〔第9講〕

ここであらためて、よく出題される語彙、文法問題を押さえ、模擬試験に挑戦する。

TOEIC には頻りに出題される特定のビジネスの場面があるので、そのような場面で頻出す語彙、文法問題を中心に扱う。

〔第10講〕

reading 問題の特徴を知り読解力を高める。

TOEIC のリーディング問題には、問題文で用いられる語彙や表現が、質問文ではパラフレーズされる（英語の別の表現に言い換えられる）という特徴がある。TOEIC では、英文和訳は出題されないで、リーディング問題の攻略にはこのパラフレーズを理解し、見破れるかが大きな要素となる。リーディング問題の傾向と特徴を解説するとともに、TOEIC の（パラフレーズについて説明する。

〔第11講〕

読解の時に必要な文法事項を復習する。（現在分詞、過去分詞、関係代名詞を中心に）

reading part の点数を上げるためにどんなものを日ごろ読んだらよいかを講義する。特に最近はお金を出して本を買わなくてもインターネット上に多くの題材が無料で提供されているのでそれらの題材の利用法についても取り上げる。教員が紹介するインターネットサイトへアクセスし、そのサイトの教材を実際に読んでみる。

〔第12講〕

最近のTOEIC の出題傾向を把握する。

最近のTOEIC では、あたりまえのこともかもしれないが、11 講関係のトピックに関する問題が多く出題される。その傾向について講義する。

〔第13講〕

英語の定書表現、決まり文句を今一度TOEIC の視点から見直して復習する。

〔第14講〕

速読の技法を身に付ける。

TOEIC I 受験はある意味時間との勝負である。できるだけ問題を片づけるコツを身につける。また模擬試験を受け、2 時間というテスト時間の中のペース配分を身につける。

〔第15講〕

期末試験および総括

■教科書

プリントを配布

■参考 URL

<http://blog.goo.ne.jp/sonobuta66>

■評価方法

評価は、期末テスト、授業内課題や活動、小テスト、宿題の提出を等分の割合で評価する。

■評価基準

期末テスト、授業内課題、教室活動、小テスト、宿題が一定の基準に達しているかを判定する。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

この科目は原則30 人の人数制限がある。履修希望者が30 人を上回った場合は、初回の授業に出席した学生を優先し、加えて初回の授業で選抜に関する説明や授業の進め方に関して重要な指示を出すので、初回の授業に必ず出席すること。上記理由で初回の授業に欠席した場合履修できないことがある。

科目名 TOEIC II(TOEIC II)

担当教員 中村 その子, 石川 晴子

■講義目的

English Expression と並行してまたはその後、英語力を継続的に高め、TOEICの点数アップをめざす学生のための授業である。英語の総合的な力が上がるにはTOEICの点数も、もちろん上がって行くはずであるが、特徴のある能力資格試験なので、どのような傾向の問題がどんな形で出題されるのか、といった予備知識や技術的な訓練、慣れも大切な要素となる。この講義ではTOEICの得点を少なくとも現在の自分の点数から100点は上げることをめざし、リスニングリーディング両セクションで確実に点数を取ることに加えて、語彙、文法、読解力の増強をはかる。ただ、TOEICの点数を上げるだけが英語を学ぶ目的ではないので、単なるノウハウに終わらせることなく、最後には、TOEICの勉強をしたことが一人一人の英語コミュニケーション能力を総合的に高める結果につなげたい。

■講義分類

英語検定試験準備／自己表現・英語コミュニケーション／

■到達目標

授業履修前のTOEIC得点より100点アップした実力をつける。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR[学外学習無]

■講義の概要

以下の項目を応用力、難易度の高い問題をを中心に講義する。

〈第1講〉

TOEICの概要と構成

TOEICの概要と構成について説明し、全体をしっかり把握する。

〈第2講〉

TOEICの出題傾向

TOEICにはどのような問題が出題されるのか→傾向と対策

リスニング問題およびリーディング問題がどのようなものかをパート別に説明する。

〈第3講〉

TOEICの点数を効率よくアップさせるには。

TOEICの点数を効率的に上げるために、まず、特に押さえておく語彙や慣用表現は何か、について解説する。また頻出問題を観察分析することにより、それらの語彙や表現が実際の試験にどのような形で出てくるかを確認する。

〈第4講〉

リスニング問題で心がけること。

リスニング問題は問題文が印刷されているわけではない＝音として流れて来るものをその場で聞き取って理解しなければならず、一瞬の勝負となる＝ので、問題形式や流れに慣れて聞き取る力をつける。仮にすべてが聞き取れなくても、この部分に特に注意を向けて聞いたらよい、というリスニング問題に答えるためのコツをつかむ。

〈第5講〉

英語の音のクセをつかむ。リズム、イントネーション、連結、同化、短縮、破裂、脱落など。英語の音のつらなりは、日本語とはまったく異質のものであり、日本語には起こらないような音の連結や同化、短縮、脱落などが起こる。日本語音に慣れている「日本語耳」はそれらの現象をとらえにくいので、ただ、英語を聞き続けているだけではなかなか得点アップに結び付かない。上記の現象を説明して英語の聞き取りのポイントを押さえ、「英語耳」を養うことを心がける。

〈第6講〉

TOEICは授業以外の家ででの自習が大きな要素・効果的な自習とは。

TOEICの得点アップには、教室でのいろいろな活動に加えて、教室外での心構えと学習態度、自習が大きな意味を持つ。一人でTOEICの学習に取り組むときに大切なことを講義する。

〈第7講〉

TOEICの勉強をすることによって自分を光らせるような英語センスを磨く。

TOEICの勉強の目標は、TOEICの点数を上げるだけでなく、それによって英語コミュニケーション力を上げることである。TOEIC600点を持っていて、ネイティブと円滑にコミュニケーションできないのでは意味がない。この授業でのこれまでの学習項目を実際のコミュニケーションにどのように生かすかについて講義する。一例としてはTOEICによく出題される英語の会話表現を実際用いて、教室で疑似オフィスミーティングなどを行う。

〈第8講〉

聞き取ると同時に自分の発音もよりよいものに。

第7講と同じように、TOEICのリスニング力を高めるためにこの授業で行ってきたトレーニングに併せて、発音練習も行い、スピーキングテストに対する準備をする。

〈第9講〉

ここであらためて、よく出題される語彙、文法問題を押さえて、模擬試験に挑戦する。

TOEICには頻繁に出題される特定のビジネスの場面があるので、そのような場面で頻出する語彙、文法問題を中心に扱う。

〈第10講〉

reading問題の特徴を知り読解力を高める。

TOEICのリーディング問題には、問題文で用いられた語彙や表現が、質問文ではパラフレーズされる(英語の別の表現に言い換えられる)という特徴がある。TOEICでは、英文和訳は出題されないで、リーディング問題の攻略にはこのパラフレーズを理解し、見破れるかが大きな要素となる。リーディング問題の傾向と特徴を解説するとともに、TOEICのパラフレーズについて説明する。

〈第11講〉

読解の時に必要な文法事項を復習する。(現在分詞、過去分詞、関係代名詞を中心に)

reading partの点数を上げるためにどんなものを読んだらよいかを講義する。特に最近はお金を出して本を買わなくてもインターネット上に多くの題材が無料で提供されているのでそれらの題材の利用法についても取り上げる。教員が紹介するインターネットサイトにアクセスし、そのサイトの教材を実際に読んでみる。

〈第12講〉

最近のTOEICの出題傾向を把握する。

最近のTOEICでは、あたりまえのこともかもしれないが、IT関係のトピックに関する問題が多く出題される。その傾向について講義する。

〈第13講〉

英語の音の表現、決まり文句を今一度TOEICの視点から見直して復習する。

〈第14講〉

速読の技法を身に付ける。

TOEIC受験はある意味時間との勝負である。できさきと問題を片づけるコツを身につける。また模擬試験を受け、2時間というテスト時間の中のベース配分を身につける。

〈第15講〉

期末試験および総括

■教科書

プリントを配布

■参考URL

<http://blog.goo.ne.jp/sonobuta66>

■評価方法

評価は、期末テスト、授業内課題や活動、小テスト、宿題の提出を等分の割合で評価する。

■評価基準

期末テスト、授業内課題、教室活動、小テスト、宿題が一定の基準に達しているかを判定する。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

この科目は原則30人の人数制限がある。履修希望者が30人を上回った場合は、初回の授業に出席した学生を優先し、加えて初回の授業で選抜に関する説明や授業の進め方に関して重要な指示を出すので、初回の授業に必ず出席すること。上記理由で初回の授業に欠席した場合履修できないことがある。

科目名 特別講座Ⅰ～Ⅱ〔Consideration revolution Ⅰ～Ⅱ〕

担当教員 金 美徳、他

■講義目的

寺島実郎学長が提唱してきた「世界潮流と日本の進路」を軸に、国際情勢、経済、国内行政、IT、歴史等各分野における精鋭の専門家を講師として招き、通年の体系的なプログラムを開催する。

現代世界は、単なる同時不況、経済危機を超え、本質的な意味での構造転換に直面している。「外は広く、内は深い」このことを知るだけで人間の重心は下がる。鈴木大拙の言葉のごとく、より広い視野で世界を見渡し、より深く自らの立脚点を見つめる視座が求められている。

この連続講義では、我々が生きている時代を的確に把握し認識するために、世界から見た日本、また日本国内の諸問題について複数回にわたり多面的に取り上げることで、問題意識の提起と深化を目指す。時代に発信する識者の生の声を聞いて現代世界を生きるヒントを得てもらいたい。

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解/ビジネス創造 / ビジネスマネジメント / 社会人力育成/グローバルビジネス/ビジネスICT/地域ビジネス/

■到達目標

自分自身が生きている時代を把握し認識するために、連続講座を通じて提起される数々の問題解決について自身なりの問題意識を持つ。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

別途、パンフレットを配布する。

■教科書

『世界を知る力』（寺島実郎、PHP新書、2010年）

『世界を知る力 日本創生編』（寺島実郎、PHP新書、2011年）

■指定図書

『二十世紀から何を学ぶか(上)(下)』（寺島実郎、新潮選書、2007）

『脳力のレッスンⅡ 脱9.11への視座』（寺島実郎、岩波書店、2007）

『時代との対話 寺島実郎対談集』（寺島実郎、ぎょうせい、2010）

『新しい世界観を求めて』（寺島実郎、毎日新聞社、2010）

『問いかけとしての戦後日本と日米同盟－脳力のレッスンⅢ』（寺島実郎、岩波書店、2010）

『大中華圏・ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』（寺島実郎、NHK出版、2012年）

■参考文献

特になし

■評価方法

①学生自身がどれだけ真剣に取り組み、連続講座で提起された諸問題から各自のテーマを発掘し、問題意識の進化を図ることができたかを講義メモ、中間レポート、最終レポートにて確認する。

②講義メモは、必ず講義を通して気づいたことを記入すること。5点満点で採点する。尚、講義に出席をしても12回の講義メモの累積評価が低い場合、不合格になる

ことがある。

③中間レポート(前半6講義)と最終レポート(後半6講義)は、それぞれ2つ以上の講義の共通点や関連性をまとめること。レポートは、寺島学長が採点する。

■評価基準

相対評価

出席70%(講義メモ含む)、中間および最終レポート30%

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

①第1回目のガイダンスに出席しない場合は、履修できない。

②地域住民をはじめとする一般参加者300名(有料)と一緒に外部講師の講演を聴講するため、受講ルールを厳守すること。(携帯電話・パソコン使用や私語・帽子着用・飲食の禁止、遅刻および途中退室の厳禁など)

③001教室の座席は、事前に指定された席に着席すること。受講態度は、座席番号でチェックする。

④自分自身の生きている時代と社会を見つめ、自分はどう生きるべきかを思索し、発見するための講義としたい。講義で学んだ内容は、就職活動や社会生活などで自信を持って話せるようにしてもらいたい。情熱を持って参加して欲しい。

科 目 名 特別語学研修Ⅰ～Ⅱ〔Special Language Programs in Foreign Countries Ⅰ～Ⅱ〕**担当教員** 中村 その子**■講義目的**

原則として、T-sapもしくは大学の認定した留学プログラムに参加した学生が、留学先で取得した単位を多摩大学の正規の単位として読み替えるための科目である。

また、語学力強化(留学準備)、異文化体験、自己表現力アップのための集中講義などが実施された場合、その講義に参加して教員の認定を受けた学生の単位認定にも用いられる場合がある。

■講義分類

グローバルビジネス／語学・コミュニケーション

■到達目標

- (1) 自分たちの意見、考え方、アイデアをしっかりとした形で伝え、提案できる = 発信
- (2) 相手からの発信を正確に理解し、状況に応じて的確な処理が行える = 受信
- (3) 自分が必要な情報(WEB/論文をはじめとする資料や文献など)を検索し、内容を読み取って利用できる = 情報理解
- (4) 社会の課題をビジネスの現場で解決していく力の一つとして英語でのコミュニケーション能力を身につける
- (5) グローバリズムに対する正しい知識と、地球人として自分の志を実現するための社会における人間力を留学を通して身につける。

■講義形態

その他(海外への留学またはそれに相当する活動)〔学外学習無〕

■講義の概要

多摩大学T-sap いずれも夏休み、または春休み
☆オーストラリア ケアンズ 英語研修とインターンシッププログラム

☆アメリカ合衆国 シアトル 語学・ビジネス研修

☆アメリカ合衆国 ソルトレイクシティ ティーチャーアシスタント in USA

!!!注意!!!

上記、または上記以外の留学プログラムに参加希望の学生は、遅くとも留学の3カ月前には担当教員中村その子 sonoko-n@tama.ac.jp に必ずコンタクトを取ってください。留学前の3ヶ月間教員と充分に相談をし、入念な準備をする必要があります。このコンタクトがない場合は留学プログラムに参加することはできません。オリエンテーションや留学準備のための授業がない代わりに、教員との最低3ヶ月間の事前相談、準備が必須となります。

言い換えると、たとえば夏休みの留学プログラムに参加したい場合、夏休み直前に、急に参加したいと言っても参加することはできません。

■評価方法

留学先教育機関での単位認定を多摩大学の単位として読み替えます。

■評価基準

留学先教育機関の単位認定制度に原則として準じます。

■事前履修科目等

English Expression
Basic Office English

Practical English Conversation

TOEIC

を履修することが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

留学を希望する学生は、留学に行く少なくとも3カ月前には担当教員 中村その子 sonoko-n@tama.ac.jp に連絡を取ってください。この連絡がない場合は留学プログラムに参加することはできません。

科目名 日本経営史I〔Business History of Japan I〕

担当教員 常見 耕平

■講義目的

近代日本の企業経営の歴史を理解する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

近代日本の企業経営の歴史を理解する。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

明治から昭和前期までの近代日本の企業経営について学ぶ。理解の必要上、江戸期の経営についてもふれる。授業は文章を読み、内容を理解することを中心においてすすめる。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。ちなみに、2012年度の単位取得率は37.6%（93名中35名）である。なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

〈第1講〉近代経営史を学ぶ

概要：経営史（ひいては歴史）を学ぶ意味を考える。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第2講〉江戸期の経営（その1）

概要：江戸期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第3講〉江戸期の経営（その2）

概要：江戸期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第4講〉明治期の経営（その1）

概要：明治期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第5講〉明治期の経営（その2）

概要：明治期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第6講〉明治期の経営（その3）

概要：明治期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第7講〉明治期の経営（その4）

概要：明治期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第8講〉大正期の経営（その1）

概要：大正期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第9講〉大正期の経営（その2）

概要：大正期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第10講〉昭和前期の経営（その1）

概要：昭和前期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第11講〉昭和前期の経営（その2）

概要：昭和前期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第12講〉昭和前期の経営（その3）

概要：昭和前期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第13講〉昭和前期の経営（その4）

概要：昭和前期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第14講〉講義の振り返り

概要：これまでの講義の振り返りを行う。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第15講〉最終試験

概要：講義内容に基づく試験を実施する。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

必要に応じて講義中に指示する。

■評価方法

相対評価

評価方法

合否（単位取得）は、試験成績のみで判定する。

講義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。試験は、2013年7月18日（木）第2時限に実施する予定である。但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。掲示等は行わない。

■評価基準

講義を通して得た知識や理解を基に論理的な解答ができているか。

講義を通して日本経営史の基本的な知識を習得できているか。試験の得点が、60%以上であれば、合格（単位取得）となる。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

秋学期開講科目「日本経営史Ⅱ」との連続を前提に講義を進める。

科目名 日本経営史Ⅱ〔Business History of Japan Ⅱ〕

担当教員 常見 耕平

■講義目的

現代日本の企業経営の歴史を理解する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

現代日本の企業経営の歴史を理解する。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

昭和後期から平成までの現代日本の企業経営について学ぶ。理解の必要上、明治以降、昭和前期の企業経営についてもふれる。授業は文章を読み、内容を理解することを中心においてすすめる。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。ちなみに、2012年度の単位取得率は48.4% (62名中30名)である。なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

〈第1講〉昭和前期の経営(その1)

概要：昭和前期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第2講〉昭和前期の経営(その2)

概要：昭和前期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第3講〉昭和前期の経営(その3)

概要：昭和前期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第4講〉昭和後期の経営(その1)

概要：昭和後期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第5講〉昭和後期の経営(その2)

概要：昭和後期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第6講〉昭和後期の経営(その3)

概要：昭和後期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第7講〉昭和後期の経営(その4)

概要：昭和後期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第8講〉昭和後期の経営(その5)

概要：大正期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第9講〉昭和後期の経営(その6)

概要：昭和後期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第10講〉昭和後期の経営(その7)

概要：昭和後期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第11講〉平成期の経営(その1)

概要：平成期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第12講〉平成期の経営(その2)

概要：平成期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第13講〉平成期の経営(その3)

概要：平成期の企業経営について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第14講〉講義の振り返り

概要：試験結果に基づき、講義の振り返りを行う。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第15講〉最終試験

概要：講義内容に基づく試験を実施する。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

必要に応じて講義中に指示する。

■評価方法

相対評価

評価方法

可否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。講義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。試験は、2014年1月16日(木)第2時限に実施する予定である。但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。掲示等は行わない。

■評価基準

講義を通して得た知識や理解を基に論理的な解答ができているか。講義を通して日本経営史の基本的な知識を習得できているか。試験の得点が、60%以上であれば、合格(単位取得)となる。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

春学期開講科目「日本経営史Ⅰ」との連続を前提に講義を進める。但し、日本経営史Ⅰの単位取得を、受講登録の条件とはしない。

科目名 日本経済史Ⅰ(Economic History of Japan Ⅰ)

担当教員 常見 耕平

■講義目的

近代日本の経済の歴史を理解する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

近代の日本経済史について理解する。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

明治から昭和前期までの近代日本の経済について学ぶ。理解の必要上江戸期の経済についてもふれる。授業は文章を読み、内容を理解することを中心にすすめる。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。ちなみに、2012年度の単位取得率は27.3% (44名中12名)である。なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

〈第1講〉経済史(歴史)を学ぶ

概要：経済史(ひいては歴史を学ぶ意味を考える。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第2講〉江戸期の経済(その1)

概要：江戸期の経済について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第3講〉江戸期の経済(その2)

概要：江戸期の経済について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第4講〉明治期の経済(その1)

概要：明治期の経済について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第5講〉明治期の経済(その2)

概要：明治期の経済について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第6講〉明治期の経済(その3)

概要：明治期の経済について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第7講〉明治期の経済(その4)

概要：明治期の経済について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第8講〉大正期の経済(その1)

概要：大正期の経済について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第9講〉大正期の経済(その2)

概要：大正期の経済について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第10講〉昭和前期の経済(その1)

概要：昭和前期の経済について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第11講〉昭和前期の経済(その2)

概要：昭和前期の経済について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第12講〉昭和前期の経済(その3)

概要：昭和前期の経済について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第13講〉昭和前期の経済(その4)

概要：昭和前期の経済について学ぶ。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第14講〉講義の振り返り

概要：これまでの講義の振り返りを行う。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

〈第15講〉最終試験

概要：講義内容に基づく試験を実施する。

事前学習しておくべき用語 特になし

詳細：講義中に指示・解説する。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

必要に応じて講義中に指示する。

■評価方法

相対評価

評価方法

合否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。

講義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。試験は、2013年7月18日(木)第1時限に実施する。但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。掲示等は行わない。

■評価基準

講義を通して得た知識や理解を基に論理的な解答ができているか。

講義を通して日本経済史の基本的な知識を習得できているか。試験の得点が、60%以上であれば、合格(単位取得)となる。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

秋学期開講科目「日本経済史Ⅱ」との連続を前提に講義を進める。

科目名 日本経済史Ⅱ[Economic History of Japan Ⅱ]

担当教員 常見 耕平

■講義目的

現代日本の経済の歴史を理解する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

現代日本の経済の歴史を理解する。

■講義形態

講義のみ[学外学習無]

■講義の概要

昭和後期から平成までの現代日本の経済について学ぶ。理解の必要上、明治以降の近代経済についてもふれる。
授業は文章を読み、内容を理解することを中心においてすすめる。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。ちなみに、2012年度の単位取得率は37.1% (62名中23名)である。なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。
〈第1講〉昭和前期の経済(その1)

概要：昭和前期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語 特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

〈第2講〉昭和前期の経済(その2)
概要：昭和前期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語 特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

〈第3講〉昭和前期の経済(その3)
概要：昭和前期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語 特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

〈第4講〉昭和後期の経済(その1)
概要：昭和後期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語 特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

〈第5講〉昭和後期の経済(その2)
概要：昭和後期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語 特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

〈第6講〉昭和後期の経済(その3)
概要：昭和後期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語 特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

〈第7講〉昭和後期の経済(その4)
概要：昭和後期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語 特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

〈第8講〉昭和後期の経済(その5)
概要：大正期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語 特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

〈第9講〉昭和後期の経済(その6)

概要：昭和後期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語 特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

〈第10講〉昭和後期の経済(その7)

概要：昭和後期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語 特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

〈第11講〉平成期の経済(その1)

概要：平成期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語 特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

〈第12講〉平成期の経済(その2)

概要：平成期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語 特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

〈第13講〉平成期の経済(その3)

概要：平成期の経済について学ぶ。
事前学習しておくべき用語 特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

〈第14講〉講義の振り返り

概要：試験結果に基づき、講義の振り返りを行う。
事前学習しておくべき用語 特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

〈第15講〉最終試験

概要：講義内容に基づく試験を実施する。
事前学習しておくべき用語 特になし
詳細：講義中に指示・解説する。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

必要に応じて講義中に指示する。

■評価方法

相対評価

合否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。
講義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。

試験は、2014年1月16日(木)第1時限に実施する予定である。
但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。
掲示等は行わない。

■評価基準

講義を通して得た知識や理解を基に論理的な解答ができてるか。講義を通して日本経済史の基本的な知識を習得できているか。
試験の得点が、60%以上であれば、合格(単位取得)となる。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

春学期開講科目「日本経済史Ⅰ」との連続を前提に講義を進める。
但し、日本経済史Ⅰの単位取得を、受講登録の条件とはしない。

科目名 日本経済論(Japanese Economy)

担当教員 椎木 哲太郎

■講義目的

日本経済を分析対象とし、経済学的視点、歴史的視点、社会経済システム論的視点からアプローチする。さらに産業、貿易、労働、金融、財政、社会保障といった各分野毎の切り口からも接近を試みる。それによって、日本経済の現状と課題をトータルに把握したい。その上で、経済政策の果たした役割についても具体的事例に即して検討し、日本経済を取り巻く大きな環境変化に対応して、国民生活の質を高めていくための「問題解決策」として、制度改革も含めた経済政策のあり方を考える。グループワークによる調査・報告(プレゼンテーション)と討論(ディスカッション)を中心に進めていく予定である。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／グローバルビジネス

■到達目標

経済学の理論を援用して日本経済の現状・因果連関を分析し、環境変化に伴って解決すべき課題を明らかにする中で、企業活動と市民生活に不可欠な日本経済に関するトータルな認識を深め、「問題解決」に通じる望ましい経済政策を考えることができる。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉日本経済論の課題

概要：日本経済が直面する諸課題と、本講座全体を貫く「問題意識」を明確にする。

事前学習しておくべき用語やポイント[日本経済をめぐる諸問題]

詳細：日本経済の諸課題を概観し、それらの相互関連性について仮説を立ててみる。本学第二代学長中村秀一郎先生の提唱された「中堅企業」・「ベンチャービジネス」概念を例に、社会研究(科学)において新概念を構築することの意義を考える。
最後「第4週以降の発表希望週を書いてもらい、登壇、報告担当案案を提示する。」

〈第2講〉日本経済へのアプローチ

概要：日本経済にアプローチするための三つの視点を提呈する。

事前学習しておくべき用語やポイント[経済システム、制度、IS/バランス、経済成長、マクロ経済学；産業社会論入門(経済学)の後半部分を復習しておくこと]

詳細：経済システム、経済制度の果たす役割は何か？マクロ経済学「IS/バランス」の視点から見るとはどういうことか。「需要サイドから見ると」「供給サイドから見ると」は？急速な人口減少や高齢化の進展は、日本経済にどのような影響を及ぼすのか。

〈第3講〉世界経済の中の日本経済

概要：第二次世界大戦後の世界経済の展開の中における日本経済の史的試みを試みる。

事前学習しておくべき用語やポイント[ブレントン・ウッズ体制、流動性のディレンマ、石油危機、変動相場制、スタグフレーション、プラザ合意、グローバル市場経済化、WTO、アジア通貨危機、リーマンショック、欧州債務危機、バゼルIII]

詳細：第二次世界大戦後の日・米・欧を中心とした西側諸国の経済成長は、何によってもたらされたのか。経済の安定成長を阻害した諸要因とはどのようなものであったか。日本経済はいかなる形で世界経済の影響を受け、また他方でのようにして世界経済に影響を及ぼしたのか。新興国の台頭で世界経済と日本経済はどのような変化したのか。

〈第4講〉日本型経済システムの起源と展開

概要：日本型経済システムの遠くない起源とその後の展開過程、課題を明らかにする。

事前学習しておくべき用語やポイント[近代経済成長、日本型経済システム、歴史的経路依存性、制度補償性、1940年体制論、日本型経済]

詳細：協同的民間関係や長期雇用慣行、企業統制や企業間関係等に特徴づけられる日本型経済システムは、いつ、どのような歴史的背景の中で形成されたのか。第二次世界大戦は、その形成にどう影響を及ぼしたのか。「1940年体制論」は正しいか。戦前と戦後では何が異なるのか。近代経済成長の実現に経済システムはどのように貢献したのか。

〈第5講〉高度経済成長とその終焉

概要：1955年から1973年にかけての非西欧諸国で最初の高高度経済成長とその終焉の過程・要因について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[高度経済成長、産業政策、貿易・為替自由化、特定産業振興法案、オイルショック、スタグフレーション、減量経営、行政改革、臨調路線]

詳細：高度経済成長の要因は何か。高度成長は日本経済にどのような構造変化や新たな課題をもたらしたのか。高度成長終焉の要因は何か。G5諸国の中で、日本はなぜ最早スタグフレーションから脱却できたのか。

〈第6講〉バブル経済とその崩壊

概要：「バブル経済」の発生と崩壊の原因、その影響を中心に1980年代以降の日本経済を考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[買値摩擦、バブル経済、(逆)資産効果、総量規制、住専処理、不良債権]

詳細：「バブル経済」の発生・崩壊の原因は何か。バブルの時代とはどのような時代であったのか。1980年代以降の経済政策はどのようなものであったのか。どこに問題があったのか。バブル崩壊前後数年間の経済政策を検証し、金融政策のあり方に焦点を当てて考える。

〈第7講〉長期デフレ不況といわゆる「構造改革」

概要：1990年代以降の長期デフレ不況の原因と、いわゆる「構造改革」の成果について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[デフレ不況、構造改革、信用収縮、ブルーメンタス政策、量的緩和政策、インフラ・ターゲットینگ政策、リフレ派]

詳細：「失われた10(15? 20?)年」と呼ばれる長期デフレ不況の実態を明らかにする。1990年代以降の経済政策を検証する。グローバル市場経済化、情報化という環境変化の中で、日本経済に求められた改革の方向性はどのようなものであったのか。小泉内閣の「構造改革」とは? いくらかの影響を及ぼしたのか。大胆な金融緩和政策を出発点とした安倍内閣の経済政策は経済成長へとつながっていくのか。

〈第8講〉日本の貿易と直接投資

概要：日本の貿易収支・貿易構造、対内・対外直接投資について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[貿易・サービス収支、所得収支、比較優位、貿易依存度、非関税障壁、FTA、TPP、直接投資]

詳細：日本の貿易収支、貿易構造・相手国・貿易依存度等はどうに変化したきたのか。FTA競争とも言える状況の中で、日本の通商政策はどうあるべきか。直接投資の水準・内容・対象国はどう変化したきたのか。他の先進諸国と対比して、対内直接投資に対する政策はどうあるべきか。

〈第9講〉日本の産業構造

概要：日本の産業構造といわゆる「リーディング産業論」、産業政策について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[産業構造、リーディング産業、産業政策、ターゲットینگ政策、産業集積、規制緩和、特区、構造調整政策]

詳細：日本の産業構造はどのように変化したきたのか。成熟社会の産業構造とは? 自動車・電機産業は、今後もリーディング産業であり続けるのだろうか。先進国型サービス産業とは? 産業政策は有効か? 衰退産業に対する構造調整政策のあり方は? 規制の多い医療や産業のあり方は?

〈第10講〉日本の労働市場

概要：日本の労働市場の特徴・問題点を明らかにし、改革の方向性について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[内部労働市場、長期雇用慣行、年功賃金、ワークライフバランス、非正規雇用、ワーキングプア]

詳細：男性正社員と長期雇用・年功賃金・長期労働といった雇用慣行を基盤に成立してきた日本の労働市場は、非正規労働者の増加、生産年齢人口の減少に伴って多くの課題に直面している。若い世代の就業問題はどのように解決すべきか。女性の働きやすい労働市場のあり方は? 外国人労働者問題などを考えるか。多様な働き方が尊重される労働市場改革の方法を探る。

〈第11講〉日本の金融

概要：日本の金融システムと現状と課題について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[直接金融、間接金融、日本版金融ビッグバン、システミック・リスク、コミットメント、マイクロ・ファイナンス、ベンチャーキャピタル]

詳細：高度成長期に確立された日本型金融システムの特徴は何か。なぜ、どのようにして金融自由化、金融制度改革が進められたのか。「市場型金融システム」が円滑に機能するためには、どのような点が重要となるのか。日本の金融産業をどう評価すべきか。リスク・マネーの供給はどうなっているのか。「育てる金融」の役割に新たな試みとは?

〈第12講〉日本の財政

概要：日本の財政の現状と課題について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[プライマリー・バランス、中立的命題、国民負担率、課税自主権]

詳細：財政の現状とは何か? 日本の財政は持続可能か。持続可能な財政構造を維持するためには、何が必要とされるのか。

財政規模は小さいといえるのか。」「どこ過ぎる政府に問題はないのか。国と地方の財政のあり方は?小泉内閣の「三位一体改革」とは?

【第13講】日本の税制

概要：日本の税制の現状と制度改革の方向性を考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[シャブ税制、租税負担率、直接税と間接税、世代間公平、水平的公平、納税者番号制度、課税ベース、所得控除と税額控除、累進税率、資産課税、消費税、所得税、法人税、地方税、環境税、相続税制、寄付税制]

詳細：日本の税は誰が負担しているのか。少子・高齢化社会、さらにグローバル化やストック経済化の進展に相応しい税制のあり方は?

【第14講】日本の社会保障と経済

概要：日本の社会保障制度の概要を知り、経済との関係を考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[社会支出、年金制度、積立方式、賦課方式、医療制度、診療報酬、介護保険、税と社会保障の一体改革]

詳細：社会保障と経済成長の関係は?日本の社会保障の特徴は?所得再分配効果が低いのはなぜか。年金・医療・介護(福祉)制度のあり方は?税制改革や労働政策と一体となった所得再分配政策の必要性を考える。政府と民間の役割分担のあり方は?福祉・医療サービス産業の現状と課題を明らかにする。

【第15講】日本経済の全体像

概要：歴史的分析と各論からのアプローチを踏まえて日本経済の全体像を考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[講義・報告全体のまとめ]

詳細：世界的な環境・構造変化の中で、どのような社会をめざすべきか。そのためにはいかなる制度改革・経済政策が必要か。

■教科書

使用しない(資料を配布する)。

■指定図書

今年度：なし

■参考文献

- [1]浅子和美・篠原総一編(2011)『入門日本経済』(第4版) 有斐閣
- [2]小嶋隆夫・村田啓子(2012)『最新日本経済入門』(第4版) 日本評論社
- [3]中村隆英(1990)『日本経済』(第3版) 東京大学出版会
- [4]正谷公弘(1990)『戦後史』(上・下) ちくま文庫(原書:1985)
- [5]西香集(1981)『高度成長の時代』 日本評論社 (日経ビジネス人文庫)
- [6]岡崎哲二(1997)『工業化の軌跡(20世紀の日本⑤)』読売新聞社
- [7]吉川(1997)『高度成長(20世紀の日本⑥)』読売新聞社 (中公文庫)
- [8]落木武彦(2009)『戦後世界経済史 自由と平等の視点から』中公新書
- [9]大来洋一(2010)『戦後日本経済論 成長経済から成熟経済への転換』 東洋経済新報社
- [10]本村明・長谷川信・宮島英昭・廣藤直(2011)『現代日本経済』(第3版) 有斐閣アルマ
- [11]橋本寿朗(2000)『現代日本経済史』 岩波テキストブックス
- [12]橋本俊昭編(2003)『戦後日本経済を検証する』 東京大学出版会
- [13]宮本又郎(1999)『企業家たちの挑戦(日本の近代11)』 中央公論新社
- [14]小宮隆太郎(1980)『現代日本経済 マクロ的展開と国際経済関係』 東京大学出版会
- [15]企業行動研究グループ編(1995)『日本企業の適応力』 日本経済新聞社
- [16]村松純夫・奥野正寛編(2002)『平成バブルの研究』(上・下) 東洋経済新報社
- [17]奥村洋彰(1999)『現代日本経済論』 東洋経済新報社
- [18]田中隆之(2002)『現代日本経済～バブルとポスト・バブルの軌跡』 日本評論社
- [19]岩田規久男・宮川秀隆(2003)『失われた10年の真因は何か』 東洋経済新報社
- [20]浜田卓一・堀内明義・内閣府経済社会総合研究所編(2004)『論争日本の経済危機』 日本経済新聞社
- [21]小川一夫(2009)『失われた10年の真実』 東洋経済新報社
- [22]小嶋隆夫(2006)『日本経済の構造変動』 岩波書店
- [23]深尾京司(2012)『失われた20年』と日本経済 構造的な原因と再生への原動力の解明(日本経済新聞出版社)
- [24]豊光太郎(2006)『日本の経済システム改革 失われた15年を超えて』 日本経済新聞社
- [25]瀬田秀次郎・財務省財務総合政策研究所編(2009)『グローバル化と日本経済』 勁草書房
- [26]鹿野真昭(2006)『日本の金融制度』 東洋経済新報社
- [27]白川方明(2008)『現代の金融政策:理論と実際』 日本経済新聞出版社
- [28]植田和男(2005)『ゼロ金利との闘い:日銀の金融政策を総括する』 日本経済新聞出版社
- [29]田中隆之(2008)『失われた15年』と金融政策 日銀は何をいって何をわなかったか』 日本経済新聞出版社
- [30]池尾人(2006)『開発主義の暴走と偽善:金融システムと平成経済』 NTT出版
- [31]鎌信茂樹(2010)『日本の税制 何が問題か』 岩波書店

[32]林文夫編(2007)『経済制度の実証分析と設計 第1巻 経済停滞の原因と制度』 勁草書房

[33]林文夫編(2007)『経済制度の実証分析と設計 第2巻 金融の機能不全』 勁草書房

[34]林文夫編(2007)『経済制度の実証分析と設計 第3巻 経済制度設計』 勁草書房

[35]内閣府経済社会総合研究所企画・監修(深尾京司編)(2009)『バブル/テフレ期の日本経済と経済政策1 マクロ経済と産業構造』 慶応義塾大学出版会

[36]内閣府経済社会総合研究所企画・監修(吉川洋編)(2009)『バブル/テフレ期の日本経済と経済政策2 テレ経済と金融政策』 慶応義塾大学出版会

[37]内閣府経済社会総合研究所企画・監修(伊藤元重編)(2009)『バブル/テフレ期の日本経済と経済政策3 国際環境の変化と日本経済』 慶応義塾大学出版会

[38]内閣府経済社会総合研究所企画・監修(池尾和人編)(2009)『バブル/テフレ期の日本経済と経済政策4 不景気と金融危機』 慶応義塾大学出版会

[39]内閣府経済社会総合研究所企画・監修(井堀利宏編)(2010)『バブル/テフレ期の日本経済と経済政策5 財政政策と社会保障』 慶応義塾大学出版会

[40]内閣府経済社会総合研究所企画・監修(鎌田義雄編)(2010)『バブル/テフレ期の日本経済と経済政策6 労働市場と所得分配』 慶応義塾大学出版会

[41]内閣府経済社会総合研究所企画・監修(寺西重郎編)(2010)『バブル/テフレ期の日本経済と経済政策7 構造問題と規制緩和』 慶応義塾大学出版会

■評価方法

評価は、最終レポートの結果(70%)・報告・小レポート・出席(30%)により行う。

■評価基準

講義中の報告は、次の3点を中心に評価する。

- (1) テーマに関して適切な問題提起ができているか。
- (2) 文献・資料やデータが十分参照されているか。
- (3) 分かりやすい説明ができたか。

最終レポートは次の3点から評価する。

- (1) 日本経済の課題解決につながる内容となっているか。
- (2) 文献・資料やデータが十分参照されているか。
- (3) 報告の際の質疑内容が反映されているか。

相対評価

■事前履修科目等

2011年度入学生は「産業社会論入門(経済学入門)」 2010年度以前入学生は「経済学基礎」

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

報告に際しては、何冊かの指定図書・参考文献を読んで戴く。第1～3回の講義で分担を決定するので、必ず出席すること。この間の講義に出席しなかった(分担決定に参加しなかった)諸君は、履修を許可しない。

レポート作成にあたっては、MS Office、Excelを使いこなすことを目標とする。必ずExcelで作成したデータを挿入すること。

科目名

日本語講座(初級) [(Japanese Language Beginners Course)]

担当教員

TIJ 東京日本語研修所

■講義目的

留学生が日本で生活するための日常会話、友達と交流するための会話、また大学の職員、教師とコミュニケーションするための会話、社会から情報を得るための会話能力をつけると同時に、そのために必要な文法、語彙、表現を学ぶ。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／地域ビジネス

■到達目標

- (1) 日常生活や大学生活の中で話されている会話がほぼ理解できる。
- (2) 日常生活や大学生活の中で自分が言いたいことを大体伝えることができる。
- (3) 自分の経験や夢、希望などをスピーチ形式で発表できる。

■講義形態

GD・GW・PR

その他(ペアワーク・スピーチ・ドリル)[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉4月10日(水)

概要：ブレスメントテスト

事前学習しておくべき用語やポイント []

詳細：現在の日本語力をテストする

〈第2講〉4月12日(金)

概要：家族構成、家族の住んでいるところ、仕事について話す。

事前学習しておくべき用語やポイント [～ています(て形)]

詳細：教科書9課1, 2

「家族はどこに住んでいますか。」「何か仕事をしていますか。」などの表現

〈第3講〉4月17日(水)

概要：日本でしたいこと、将来したいことを話す。

事前学習しておくべき用語やポイント [～たい]

詳細：教科書9課3, 4

「行きたいところがたくさんあります。」「将来どんなことをしたいですか。」などの表現

〈第4講〉4月19日(金)

概要：タクシーの運転手に道を指示する。友達に許可を求める。

事前学習しておくべき用語やポイント [～てください。～てもいいですか。]

詳細：教科書8課1, 2

「小岩まで行ってください。」「CDを聞いてもいいですか。」などの表現

〈第5講〉4月24日(水)

概要：パーティーの準備の指示を求める。何をしている人が言う。

事前学習しておくべき用語やポイント [～ましょうか。～ています。]

詳細：教科書8課3, 4

「何を手伝いましょうか。」「ワインを飲んでいる人です。」などの表現

〈第6講〉4月26日(金)

概要：写真やポスターを見てそれがどこか考える。旅行について相談する。

事前学習しておくべき用語やポイント [～と思います、普通形]

詳細：教科書10課1, 2

「あれは日光だと思います。」「紅葉は10月下旬がきれいだと思います。」などの表現

〈第7講〉5月1日(水)

概要：旅行の詳しい計画について話す。旅館に電話して、その結果を友だちに伝える。

事前学習しておくべき用語やポイント [普通形、～そうです]

詳細：教科書10課3, 4

「ビールは何本ぐらい飲むでしょうか。」「おふろがついているそうです。」などの表現

〈第8講〉5月8日(水)

概要：統計を調べて比較する。日本の生活や物が自分の国と比べてどうか言う。

事前学習しておくべき用語やポイント [～より～のほうが～、～は～より～]

詳細：教科書11課1, 2

「どっちのほうが多いですか。」「私の国よりたいへんです。」などの表現

〈第9講〉5月10日(金)

概要：世界一、日本一はどこかクイズに答える。世界一のものについてどうしてか理由を考える。

事前学習しておくべき用語やポイント [～で一番～、～から]

詳細：教科書11課3, 4

「世界で一番小さい国はどこでしょうか。」「世界で一番平均寿命が長いそうです。」などの表現

〈第10講〉5月15日(水)

概要：体の調子、けがについて話す。調子の悪い友だちにアドバイスをする。

事前学習しておくべき用語やポイント [～んです、～ほうがいいです]

詳細：教科書12課1, 2

「頭が痛いんです。」「早く帰ったほうがいいですよ。」などの表現

〈第11講〉5月17日(金)

概要：学校・職場の人に事情を話して早退する。いい病院をきく。医者に気を付けることをきく。

事前学習しておくべき用語やポイント [～んですが、～てもよろしいでしょうか。～ないでください。]

詳細：教科書12課3, 4

「頭が痛いんですが、早く帰ってもよろしいでしょうか。」「お風呂に入らないでください。」などの表現

〈第12講〉5月22日(水)

概要：目上の人や初めて会った人に自己紹介をする。趣味をきく。

事前学習しておくべき用語やポイント [敬語、お～になる]

詳細：教科書13課1, 2

「いつ日本へいらっしゃいましたか。」「よく映画をごらんになりますか。」などの表現

〈第13講〉5月24日(金)

概要：電話をかける。目上の人への訪問を受け、もてなしをする。

事前学習しておくべき用語やポイント [敬語、お～になってください]

詳細：教科書13課3, 4

「田中先生、いらっしゃいますか。」「どうぞお入りになってください。」などの表現

〈第14講〉5月29日(水)

概要：アルバイトの面接の時間や場所について指示を受ける。自分ができることを言う。

事前学習しておくべき用語やポイント [可能形、～なら]

詳細：教科書14課1, 2

「あした、来られますか。」「簡単なことなら理解できます。」などの表現

〈第15講〉5月31日(金)

概要：日本語で何をすることが難しいか話す。日本語が上手になるための方法を話し合う。

事前学習しておくべき用語やポイント [～のは～、～といいです]

詳細：教科書14課3, 4

「日本人の話を聞き取るのは難しいです。」「アニメを見るといいですよ。」などの表現

〈第16講〉6月5日(水)

概要：おいしいものを食べた経験を話す。食べ方を言う。

事前学習しておくべき用語やポイント[～たことがある、～たり～たり]

詳細：教科書 15 課 1, 2

「食べたことがありますか。」「にたり焼いたりして食べます。」

〈第17講〉6月7日(金)

概要：簡単な料理の作り方を言う。健康・美容のために気をつけていることを話す。

事前学習しておくべき用語やポイント[～て～て、～ようにしている]

詳細：教科書 15 課 3, 4

「さとうを入れてませます。」「やさいを食べるようにしています。」などの表現

〈第18講〉6月12日(水)

概要：今日の休みにすることを話す。準備としてする必要があることを言う。

事前学習しておくべき用語やポイント[～うと思っている、意志形、～なくちゃいけない]

詳細：教科書 16 課 1, 2

「富士山へ行こうと思っています。」「チケットを買わなくちゃいけません。」などの表現

〈第19講〉6月14日(金)

概要：持っていくべきもの、するべきことをアドバイスする。友だちを強く誘う。

事前学習しておくべき用語やポイント[～は、は形、親しい友だちとの話し方]

詳細：教科書 16 課 3, 4

「うきわがあれば、速くまで行けます。」「いっしょに行こうよ。」などの表現

〈第20講〉6月19日(水)

概要：友だちに贈り物をする。心に残る贈り物について話す。

事前学習しておくべき用語やポイント[～をあげる、～をもらう]

詳細：教科書 17 課 1, 2

「恋人にチョコレートあげます。」「母にもらったんです。」などの表現

〈第21講〉6月21日(金)

概要：出身国のおいわいの習慣を紹介する。行事などでタブーになっていることを言う。

事前学習しておくべき用語やポイント[～と、～、～てはいけないことになっている。]

詳細：教科書 17 課 3, 4

「3さいになるとおいわいをするんです。」「きくの花をあげてはいけないことになっています。」などの表現

〈第22講〉6月26日(水)

概要：人のためにしてあげること、人がしてくれたことを話す。自分でできないことを人に頼む。

事前学習しておくべき用語やポイント[～てあげる、～てもらう、～ていただく]

詳細：教科書 18 課 1, 2

「しょうかいしてあげるよ。」「手伝ってもらえませんか。」などの表現

〈第23講〉6月28日(金)

概要：部屋や建物の様子を言う。準備すること、準備ができていることについて話す。

事前学習しておくべき用語やポイント[自動詞、～ている、～ておく、～てある]

詳細：教科書 18 課 3, 4

「あの電気がついている部屋です。」「飲み物を買っておきます。」などの表現

〈第24講〉7月3日(水)

概要：知人のさそいに対して、先約があることを説明し、どんな場合に行けるか言う。知人のうちを訪問するとき、手みやげに何を持っていか、友だちと何時に待ち合わせるか話し合う。

事前学習しておくべき用語やポイント[～ことになっている、～かどうか、～たら、～ていく]

詳細：教科書 19 課 1, 2

「日が変わられたら、行きます。」「ワインを買っていこうと思っています。」などの表現

〈第25講〉7月5日(金)

概要：待ち合わせの時間に遅れたとき、謝って理由を言う。道をさく。道を教える。

事前学習しておくべき用語やポイント[～てくる、～てしまう、～と]

詳細：教科書 19 課 3, 4

「時間がかかってしまったんです。」「まっすぐ行くと左側にあります。」などの表現

〈第26講〉7月10日(水)

概要：お客様にいていぬいに話す。どうしてほしいか指示を出す。

事前学習しておくべき用語やポイント[謙譲語、お～する、～たら、～ておく]

詳細：教科書 20 課 1, 2

「お席にご案内します。」「つくえの上においておいてください。」などの表現

〈第27講〉7月12日(金)

概要：時間がないときは、どんな工夫をしているか話す。日本にからてから生活がどう変わったか話す。

事前学習しておくべき用語やポイント[～ながら、～ようになる、～なくなる]

詳細：教科書 20 課 3, 4

「CDをききながらご飯を食べます。」「自分で料理をするようになりました。」などの表現

〈第28講〉7月17日(水)

概要：スピーチの原稿を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[どんなことについてスピーチしたいか考えておく]

詳細：7月26日にするスピーチの原稿を書く。

〈第29講〉7月19日(金)

概要：期末テスト。スピーチの練習。

事前学習しておくべき用語やポイント[今学期勉強したことを復習しておく]

詳細：ペーパーテスト、聴解テスト、7月26日にするスピーチの練習をする。

〈第30講〉7月26日(金)

概要：今学期のまとめとして、スピーチをする。

事前学習しておくべき用語やポイント[スピーチの練習をしておく]

詳細：修了スピーチをする。

■教科書

はじめよう日本語初級2メインテキスト

同 ドリルと文法

(スリーエーネットワーク・TJ東京日本語研修所)

コピー教材

■評価方法

評価は、出席 (30%)、授業中の活動 (30%)、期末テスト (40%) により行います。

■評価基準

絶対評価

A+ : 95%～

A : 85%～

B : 70%～

C : 60%～

F : 60%未満

※期末テストはペーパーテスト(文法、語彙、表現)、聴解テスト、スピーチを行います。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座は外国人留学生のための講座です。日本人学生が履修しても単位は授与されません。

水曜日第3時限と金曜日第3時限の両方合わせて一講座となりますので、両方を履修してください。

科目名 日本語講座(中級I)〔Japanese Language (Intermediate Course I)〕

担当教員 TJJ 東京日本語研究所

■講義目的

留学生在日本で生活するための日常会話だけでなく、大学の授業を聞くため、また授業に積極的に参加するため、及び社会から情報を得るため、また社会に参加し問題解決するための日本語会話能力、聴解能力をつけると同時に、そのために必要な文法、語彙、表現を学ぶ。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／地域ビジネス

■到達目標

- (1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話がほぼ理解できる。
- (2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことをほぼ伝えることができる。
- (3) 社会の問題について、自分が考えたことが発表できる。

■講義形態

GD・GW・PR

その他(ディベート・スピーチ)[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉4月10日(水)

概要：プレースメントテスト

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：現在の日本語力をテストする

〈第2講〉4月12日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第3講〉4月17日(水)

概要：今住んでいるところについて話しましょう。

事前学習しておくべき用語やポイント[～たら、～つもり]

詳細：教科書1課1「いいアパートが見つかったら、引っ越すつもりです。」などの表現

〈第4講〉4月19日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第5講〉4月24日(水)

概要：日本や母国の人の考え方や物事のやり方について話す。事前学習しておくべき用語やポイント[少しぐらい～ても、～しか、～も]

詳細：教科書1課2「少しぐらい狭くても通学に便利どころがいいです」「通学に5分しかかかりません」「通学に1時間半もかかるんです」などの表現

〈第6講〉4月26日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第7講〉5月1日(水)

概要：引っ越し先を決めるときに心配なことを相談する。

事前学習しておくべき用語やポイント[～たらどうですか]

詳細：教科書1課3「台所が使いにくそうだったり、まわりが夜うるさそうだったりして、気に入らないんです」、「もう少し範囲を広げて探してみたらどうですか」などの表現

〈第8講〉5月8日(水)

概要：住まいについてスピーチする。

事前学習しておくべき用語やポイント[～にとって、～たらいいと思います]

詳細：教科書1課4「初めて一人暮らしをしたアパートは私にとってお城でした」「将来、できれば庭のある一戸建てに住めたらいいなと思います」などの表現

〈第9講〉5月10日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第10講〉5月15日(水)

概要：よく利用している乗り物について話す

事前学習しておくべき用語やポイント[交通関係の語彙、～し～し、何より～ところがいいです]

詳細：教科書2課1「地下鉄は本数が多いし、乗り換えも便利だし、何より時刻表通りに走るところがいいです」などの表現

〈第11講〉5月17日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第12講〉5月22日(水)

概要：旅行で利用した乗り物について話す

事前学習しておくべき用語やポイント[～しようか～しようか迷っている、～れる(尊敬)]

詳細：教科書2課2「飛行機で行こうか、寝台特急にしようか迷っています」「～さんはどうされましたか」などの表現

〈第13講〉5月24日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第14講〉5月29日(水)

概要：交通標語や道路標識の意味について話す

事前学習しておくべき用語やポイント[～しろ、～するな、～っていう意味です]

詳細：教科書2課3「この標識はここで止まらなければならない」という意味です」などの表現

〈第15講〉5月31日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第16講〉6月5日(水)

概要：交通事情についてスピーチする

事前学習しておくべき用語やポイント[～ために、～べきだ]

詳細:教科書 2 課 4「危険な事故をなくするために、飲酒運転を絶対に許してはいけない」という意識を持つことが大切だと思います」などの表現

〈第17講〉6月7日(金)

概要:短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細:ニュース、新聞記事

〈第18講〉6月12日(水)

概要:自分のしたい仕事について話す

事前学習しておくべき用語やポイント[職業に関する語彙、～のは、～ば]

詳細:教科書 3 課 1「ファッション関係の仕事につきたいと思っています」「看護婦になれば、人の役に立てると思います」などの表現

〈第19講〉6月14日(金)

概要:短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細:ニュース、新聞記事

〈第20講〉6月19日(水)

概要:面接試験を受ける

事前学習しておくべき用語やポイント[～たり～たりする仕事、～ないと困る]

詳細:教科書 3 課 2「お客さんの注文を聞いたり、それを調理場に伝えたりする仕事です」「日本語のメニューが読めないと困るのですが、大丈夫ですか」などの表現

〈第21講〉6月21日(金)

概要:短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細:ニュース、新聞記事

〈第22講〉6月26日(水)

概要:仕事の経験について話す

事前学習しておくべき用語やポイント[～んじゃないかと思っていた、～のに]

詳細:教科書 3 課 3「日本語で話すチャンスが多いんじゃないかと思っていたんですが、そうでもないんです」「長い間働いているのに、時給がぜんぜん上がらないのは納得できません」などの表現

〈第23講〉6月28日(金)

概要:短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細:ニュース、新聞記事

〈第24講〉7月3日(水)

概要:仕事を選ぶ時大切だと思うことについてスピーチする事前学習しておくべき用語やポイント[～かどうかということを考えます、～ても]

詳細:教科書 3 課 4「仕事を決めるとき一番大切なのは、世の中の役に立つかどうかだと思います」「自分の好きなことができて、世の中の役に立たない仕事では、やりがいがないと思います」などの表現

〈第25講〉7月5日(金)

概要:短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細:ニュース、新聞記事

〈第26講〉7月10日(水)

概要:教科書を復習する。

事前学習しておくべき用語やポイント[教科書全体を復習しておく]

詳細:教科書全体の復習

〈第27講〉7月12日(金)

概要:短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細:ニュース、新聞記事

〈第28講〉7月17日(水)

概要:修了スピーチの原稿を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[何についてスピーチするか考えておく]

詳細:7月26日にするスピーチの原稿を書く。

〈第29講〉7月19日(金)

概要:期末テスト、スピーチの練習。

事前学習しておくべき用語やポイント[今学期勉強したことを復習しておく]

詳細:ペーパーテスト、聴解テスト、7月26日にするスピーチの練習をする。

〈第30講〉7月26日(金)

概要:今学期のまとめとして、スピーチをする。

事前学習しておくべき用語やポイント[スピーチの練習をしておく]

詳細:修了スピーチをする。

■教科書

はじめよう日本語中級(T I J 東京日本語研修所)

コピー教材

■評価方法

評価は、出席(30%)、授業中の活動(30%)、期末テスト(40%)により行います。

■評価基準

絶対評価

A+: 95%～

A : 85%～

B : 70%～

C : 60%～

F : 60%未満

※期末テストはペーパーテスト(文法、語彙、表現)、聴解テスト、スピーチを行います。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座は外国人留学生のための講座です。日本人学生が履修しても単位は授与されません。

水曜日第4時限と金曜日第4時限の両方合わせて一講座となりますので、両方を履修してください。

科目名 日本語講座(中級II)[Japanese Language (Intermediate Course II)]

担当教員 TIJ 東京日本語研究所

■講義目的

留学生が日本で生活するための日常会話だけでなく、大学の授業を聞くため、また授業に積極的に参加するため、及び社会から情報を得るため、また社会に参加し問題解決するための日本語会話能力、聴解能力をつけると同時に、そのために必要な文法、語彙、表現を学ぶ。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／地域ビジネス

■到達目標

- (1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話がほぼ理解できる。
- (2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことをほぼ伝えることができる。
- (3) 社会の問題について、自分が考えたことが発表できる。

■講義形態

GD・GW・PR

その他(ディベート・スピーチ)[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉9月20日(金)

概要：プレースメントテスト

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：現在の日本語力をテストする

〈第2講〉9月25日(水)

概要：社会で起きている変化について話す。

事前学習しておくべき用語やポイント[～てくる、～ていく]

詳細：教科書4課1「結婚しない人が増えてきました」などの表現

〈第3講〉9月27日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第4講〉10月2日(水)

概要：日本や母国の人の考え方や物事のやり方について話す
事前学習しておくべき用語やポイント[～べきだ、～べきではない]

詳細：教科書4課2「親は子どもにもっと厳しくするべきだと思います」などの表現

〈第5講〉10月4日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第6講〉10月9日(水)

概要：科学技術の発達で以前と変わったことを言う。

事前学習しておくべき用語やポイント[～なくても、～とい]

詳細：教科書4課3「将来は掃除をしなくてもロボットがしてくれるようになるでしょう」「家事をしなくてもよくなると思います」などの表現

〈第7講〉10月11日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第8講〉10月16日(水)

概要：科学技術が発達したために起こってきた問題についてスピーチする。

事前学習しておくべき用語やポイント[～てから、～ために]

詳細：教科書4課4「だれでもパソコンを使うようになってから、人々の生活は便利になりました」「店や銀行へ行かなくてもよくなったために、人と顔を合わせてコミュニケーションすることが減ってきたと思います」などの表現

〈第9講〉10月23日(水)

概要：災害とその対策について話す

事前学習しておくべき用語やポイント[災害関係の語彙、～たびに、～たり～たりします]

詳細：教科書5課1「洪水が起きるたびに、建物が押し流されたり、農作物に被害が出たりします」などの表現

〈第10講〉10月25日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第11講〉10月30日(水)

概要：災害のときに大切なことについて話す

事前学習しておくべき用語やポイント[～するのが一番です、]

詳細：教科書5課2「大地震が起きたら、まず何かを頭にかぶってゆれが収まるのを待つのが一番です」などの表現

〈第12講〉11月1日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第13講〉11月6日(水)

概要：災害のための対策について話す

事前学習しておくべき用語やポイント[～には～が載っています、～ておくといいと書いてあります]

詳細：教科書5課3「支援が来るまで自力で生活できるように、水や食料を買っておくといいと書いてあります」などの表現

〈第14講〉11月8日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第15講〉11月13日(水)

概要：災害が起きたときの対策についてスピーチする

事前学習しておくべき用語やポイント[～ば～ほど、]

詳細：教科書5課4「災害が大きければ大きいほど救助はなかなか来ません」「水や食料があれば助けを待っていられますが、何もなかったら困ってしまいます」などの表現

〈第16講〉11月15日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第17講〉11月20日(水)

概要：環境問題について考える

事前学習しておくべき用語やポイント[環境問題に関する語彙、～のために、]

詳細：教科書6課1「車の排ガスや工場の排煙のために、空気が汚れているんです」「車に乗らないようにしようと呼びかけています」などの表現

〈第18講〉11月22日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第19講〉11月27日(水)

概要：日本や自分の町や近くの町で起っている問題について話す

事前学習しておくべき用語やポイント[～ようです、～ても、～限り]

詳細：教科書6課2「あいかわらずゴミが増えていることが問題になっています」「自治体がいろいろ対策を立てても、市民一人ひとりがゴミを減らさない限り、この問題はなくならないと思います」などの表現

〈第20講〉11月29日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第21講〉12月4日(水)

概要：最近の犯罪や事件について話す

事前学習しておくべき用語やポイント[～という～、～しかない]

詳細：教科書6課3「通り魔事件は、だれでもいいから殺したかったというところが普通の犯罪と違ってこわいです」「犯罪を減らすためには、一人ひとりを大切に社会を作るしかないんじゃないですか」などの表現

〈第22講〉12月6日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第23講〉12月11日(水)

概要：世界のあちこちで起っている問題についてスピーチする

事前学習しておくべき用語やポイント[～ては～できない、]

詳細：教科書6課4「それぞれが自分の国の利益だけを考えていては、環境問題は解決できません」「地球環境をどうやって守っていくかが、今、人類全体の課題です」などの表現

〈第24講〉12月13日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第25講〉12月18日(水)

概要：教科書を復習する。

事前学習しておくべき用語やポイント[教科書全体を復習しておく]

詳細：教科書全体の復習

〈第26講〉12月20日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第27講〉1月8日(水)

概要：修了スピーチの原稿を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[何についてスピーチするか考えておく]

詳細：1月24日にするスピーチの原稿を書く。

〈第28講〉1月10日(金)

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ニュース、新聞記事

〈第29講〉1月15日(水)

概要：期末テスト、スピーチの練習。

事前学習しておくべき用語やポイント[今学期勉強したことを復習しておく]

詳細：ペーパーテスト、聴解テスト、1月24日にするスピーチの練習をする。

〈第30講〉1月24日(金)

概要：今学期のまとめとして、スピーチをする。

事前学習しておくべき用語やポイント[スピーチの練習をしておく]

詳細：修了スピーチをする。

■教科書

はじめよう日本語中級(T・J)東京日本語研修所

コピー教材

■評価方法

評価は、出席(30%)、授業中の活動(30%)、期末テスト(40%)により行います。

■評価基準

絶対評価

A+：95%～

A：85%～

B：70%～

C：60%～

F：60%未満

※期末テストはペーパーテスト(文法、語彙、表現)、聴解テスト、スピーチを行います。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座は外国人留学生のための講座です。日本人学生が履修しても単位は授与されません。

水曜日第3時限と金曜日第3時限の両方合わせて一講座となりますので、両方を履修してください。

科目名 日本語講座(上級) [(Japanese Language An Upper Course)]

担当教員 TIJ 東京日本語研修所

■講義目的

留学生が日本で生活するための日常会話だけでなく、大学の授業を聞くため、また授業に積極的に参加するため、及び社会から情報を得るため、また社会に参加し問題解決するための日本語会話能力、聴解能力をつけると同時に、そのために必要な文法、語彙、表現を学ぶ。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／地域ビジネス

■到達目標

- (1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話が理解できる。
- (2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことを伝えることができる。
- (3) 社会の問題について、自分が考えたことが発表できる。
- (4) 調べたこと、研究したことなどをプレゼンテーションでできる。

■講義形態

GD・GW・PR

その他(ディベート・スピーチ)[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉9月20日(金)

概要：プレースメントテスト

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：現在の日本語力をテストする

〈第2講〉9月25日(水)

概要：自己紹介をする。ニュースを聞いて、討論する。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：初めて会った人とのように挨拶し、自己紹介をしたらよいか、実際にやってみる。時事ニュース

〈第3講〉9月27日(金)

概要：新聞を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：新聞記事

〈第4講〉10月2日(水)

概要：ニュースを聞いて、討論する。アンケート調査の結果を読む。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：時事ニュース、アンケート調査結果を材料に、ディベート・プレゼン時のデータや調査結果に関する表現を学ぶ。

〈第5講〉10月4日(金)

概要：新聞を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：新聞記事

〈第6講〉10月9日(水)

概要：ニュースを聞いて、討論する。次回のディベートのための準備をする。

事前学習しておくべき用語やポイント[ネット恋愛について調べておく]

詳細：ディベート準備「ネット恋愛に賛成？反対？」、時事ニュース

〈第7講〉10月11日(金)

概要：新聞を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：新聞記事

〈第8講〉10月16日(水)

概要：ニュースを聞いて、討論する。ディベートをする。

事前学習しておくべき用語やポイント[ディベートの練習をしておく]

詳細：ディベート「ネット恋愛に賛成？反対？」、時事ニュース

〈第9講〉10月23日(水)

概要：ニュースを聞いて、討論する。次回のディベートのための準備をする。

事前学習しておくべき用語やポイント[原子力発電について調べておく]

詳細：ディベート準備「原子力発電に賛成？反対？」、時事ニュース

〈第10講〉10月25日(金)

概要：新聞を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：新聞記事

〈第11講〉10月30日(水)

概要：ニュースを聞いて、討論する。ディベートをする。

事前学習しておくべき用語やポイント[ディベートの練習をしておく]

詳細：ディベート「原子力発電に賛成？反対？」、時事ニュース

〈第12講〉11月1日(金)

概要：新聞を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：新聞記事

〈第13講〉11月6日(水)

概要：ニュースを聞いて、討論する。次回のディベートのための準備をする。

事前学習しておくべき用語やポイント[代理母出産について調べておく]

詳細：ディベート準備「代理母出産に賛成？反対？」、時事ニュース

〈第14講〉11月8日(金)

概要：新聞を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：新聞記事

〈第15講〉11月13日(水)

概要：ニュースを聞いて、討論する。ディベートをする。

事前学習しておくべき用語やポイント[ディベートの練習をしておく]

詳細：ディベート「代理母出産に賛成？反対？」、時事ニュース

〈第16講〉11月15日(金)

概要：新聞を読んで、討論し、感想を書く。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：新聞記事

〈第17講〉11月20日(水)

概要：ニュースを聞いて、討論する。ディベートをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[能力別授業について調べておく]

詳細：ディベート「能力別授業に賛成？反対？」、時事ニュース

〈第18講〉11月22日(金)

概要：新聞を読んで、討論し、感想を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：新聞記事

〈第19講〉11月27日(水)

概要：今回のプレゼンテーションのための準備をする。
事前学習しておくべき用語やポイント[住宅事情について調べておく]

詳細：プレゼンテーション準備「住宅事情」、

〈第20講〉11月29日(金)

概要：プレゼンテーションをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションの練習をしておく]

詳細：プレゼンテーション「住宅事情」

〈第21講〉12月4日(水)

概要：今回のプレゼンテーションのための準備をする。
事前学習しておくべき用語やポイント[結婚事情について調べておく]

詳細：プレゼンテーション準備「結婚と女性の社会進出」

〈第22講〉12月6日(金)

概要：プレゼンテーションをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションの練習をしておく]

詳細：プレゼンテーション「結婚と女性の社会進出」

〈第23講〉12月11日(水)

概要：今回のプレゼンテーションのための準備をする。
事前学習しておくべき用語やポイント[高齢化社会について調べておく]

詳細：プレゼンテーション準備「高齢化社会」

〈第24講〉12月13日(金)

概要：プレゼンテーションをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションの練習をしておく]

詳細：プレゼンテーション「高齢化社会」

〈第25講〉12月18日(水)

概要：今回のプレゼンテーションのための準備をする。
事前学習しておくべき用語やポイント[教育事情について調べておく]

詳細：プレゼンテーション準備「教育」

〈第26講〉12月20日(金)

概要：プレゼンテーションをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションの練習をしておく]

詳細：プレゼンテーション「教育」

〈第27講〉1月8日(水)

概要：プレゼンテーションの原稿を書く。
事前学習しておくべき用語やポイント[何についてプレゼンテーションするか考えておく]

詳細：1月24日にするプレゼンテーションの原稿を書く。

〈第28講〉1月10日(金)

概要：プレゼンテーションの原稿を完成する。
事前学習しておくべき用語やポイント[原稿を推敲しておく]

詳細：1月24日にするプレゼンテーションの原稿を推敲して書きなます。

〈第29講〉1月15日(水)

概要：プレゼンテーションの練習。

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションの練習をしておく]

詳細：プレゼンテーションの練習をする。

〈第30講〉1月24日(金)

概要：今学期のまとめとして、プレゼンテーションをする。
事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションの練習をしておく]

詳細：まとめの発表をする。

■教科書

コピー教材

■評価方法

評価は、出席 (30%)、授業中の活動 (40%)、宿題の提出 (30%) により行います。

■評価基準

絶対評価

A+ : 95%～

A : 85%～

B : 70%～

C : 60%～

F : 60%未満

※期末テストはプレゼンテーションを行います。

■事前履修科目等

日本語講座(中級)

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座は外国人留学生のための講座です。日本人学生が履修しても単位は授与されません。

水曜日第4時限と金曜日第4時限の両方合わせて一講座となりますので、両方を履修してください。

日本語講座上級を履修するためには、それ以前に日本語講座中級を履修していることが前提条件となる。

科目名 日本語表現法Ⅰ(Japanese for StudentsⅠ)

担当教員 樋口 裕一

■講義目的

産業社会で活躍し、問題発見、問題解決に不可欠な文筆力を養成する。現代の志望として、将来のビジネスに直結する文筆力養成する。そのために、論理的文章、エッセイ、企画書など様々なタイプの文章を書き、豊かに表現することのできるようになることをめざす。また、口頭による意見発表、質問などの仕方についても学ぶ。こうすることによって、社会や人間に対する関心も高め、社会基礎力を高め、自らの志を明確にすることにもなる。

■講義分類

☐ 顧客理解 ☐ ビジネス環境理解／☐ ビジネス創造
☐ ビジネスマネジメント ☐ 社会人力育成／☐ グローバルビジネス ☐ ビジネスICT

■到達目標

600字から800字程度の論理的文章や楽しい文章、生き生きした文章を書く練習をし、同時に、日本語の語彙やさまざまな表現を身につける。そして、志望理由書、自己PR書などを自在に書ける力を養う。

■講義形態

☐ 講義のみ ☐ 講義＋GD・GW・PR ☐ GD・GW・PR
☐ その他(講義＋文章作成＋PR) GD:グループディスカッション GW:グループワーク PR:プレゼンテーション(☐ 学外学習有 ☐ 学外学習無)

■講義の概要

(第1講)

概要: オリエンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント[第2講で書く課題について資料を集める。]

詳細: 方針・授業ルール説明。文章の書き方の基本の説明。

(第2講)

概要: 第1回課題答案作成

事前学習しておくべき用語やポイント[第1回課題について資料を集める]

詳細: 実際に論理的な短い文章(第1回課題)を書く。終了後、課題について解説。

(第3講)

概要: 課題復習

事前学習しておくべき用語やポイント[小論文の「型」について復習]

詳細: 前回書いた文章を添削して返却。よい文章、悪い文章について解説。前回の文章を書きなおす。

(第4講)

概要: 部分練習

事前学習しておくべき用語やポイント[前回返却答案を見直す]

詳細: 問題提起の作り方、第2段落の書き方。

(第5講)

概要: 第2回課題答案作成

事前学習しておくべき用語やポイント[第2回課題について資料を集める]

詳細: 実際に600字程度の論理的文章(第2回課題)を書く。

(第6講)

概要: 第2回課題解説

事前学習しておくべき用語やポイント[第2回課題について資料を整理]

詳細: 前回書いた課題の解説。文章を書くためのトレーニングをする。裏づけの仕方について。

(第7講)

概要: エッセイの書き方

事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読んでおく]

詳細: エッセイの書き方の説明。表現力アップのためのトレーニング。

(第8講)

概要: 第3回課題を書く

事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]

詳細: 実際にエッセイ(第3回課題)を書く。

(第9講)

概要: 課題解説

事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]

詳細: 前回書いた文章を添削して返却。課題解説。文章テクニック、表現力アップのためのトレーニング。

(第10講)

概要: トレーニング

事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]

詳細: 表現力アップのためのトレーニング(語彙・言い換えなど)

(第11講)

概要: 第4回課題作成

事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]

詳細: 実際にエッセイ(第3回課題)を書く。

(第12講)

概要: その他の文章の書き方

事前学習しておくべき用語やポイント[有名なエッセイを読む]

詳細: 志望理由書・自己PR書・レポートの書き方。その練習。

(第13講)

概要: 第5回課題作成

事前学習しておくべき用語やポイント[志望企業について調べておく]

詳細: 実際に志望理由書・自己PR書(第5回課題)を書く

(第14講)

概要: 第5回課題解説

事前学習しておくべき用語やポイント[志望企業について調べておく]

詳細: 就活に必要な文筆力・表現力。

(第15講)

概要: これからの勉強法

事前学習しておくべき用語やポイント[これまでの自分の作成した答案を見直す]

詳細: 新聞活用法。本の読み方。総復習。

■教科書

なし

■指定図書

『ホンモノの文筆力』 集英社新書

『大人のための文章道場』 角川文庫

■参考文献

なし

■評価方法

出席が3分の2に満たないものは不合格にする。授業中に合計5〜6回、小論文を書いてもらい、1点〜5点で採点して返却する。平均2点を超すものについては原則として合格とみなす。なお、書き直して提出した場合、必ず加点する。授業中の発言についても加点する。

■評価基準

☐ 相対評価

☐ 絶対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

☐ 実施する ☐ 実施しない

■留意点

授業中の私語禁止。そのほか、飲食(ただし飲みもの摂取は許す)・ガム・帽子着用・寝る姿勢を整えての居眠り・無断退出・イヤホンの着用・教員に対する暴言など、授業を害する行為についても禁止する。目に余るものは退出させ、欠席とみなす。服装を増やし、表現技術を身につけても日本語の表現力が増えない。発信したい内容を持つことによって表現力も増す。それゆえ、多くの時間を、単に表現法ではなく、思考法、社会的知識を身につけることに費やす。

科目名 日本語表現法Ⅱ〔Japaese for StudentsⅡ〕

担当教員 樋口 裕一

■講義目的

産業社会で活躍し、問題発見、問題解決に不可欠な文筆力を養成する。現代の志望として、将来のビジネスに直結する文章力養成する。そのために、論理的文章、エッセイ、企画書など様々なタイプの文章を書き、豊かに表現することができるようになることをめざす。また、口頭による意見発表、質問などの仕方についても学ぶ。こうすることによって、社会や人間に対する関心も高め、社会人基礎力を高め、自らの志を明確にすることにもなる。

■講義分類

☐ 顧客理解 ☐ ビジネス環境理解 ☐ ビジネス創造
☐ ビジネスマネジメント ☐ 社会人力育成 ☐ グローバルビジネス ☐ ビジネスICT ☐ 地域ビジネス

■到達目標

600字から800字程度の論理的な文章や楽しい文章、生き生きした文章を書く練習をし、同時に、日本語の語彙やさまざまな表現を身につける。そして、志望理由書、自己PR書などを自在に書ける力を養う。

■講義形態

☐ 講義のみ ☐ 講義 + GD・GW・PR ☐ GD・GW・PR
☐ その他(講義+文章作成+PR) GD:グループディスカッション GW:グループワーク PR:プレゼンテーション
☐ 学外学習有 ☐ 学外学習無

■講義の概要

〈第1講〉

概要：オリエンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント〔第2講で書く課題について資料を集める。〕

詳細：方針・授業ルール説明。文章の書き方の基本の説明。

〈第2講〉

概要：第1回課題答案作成

事前学習しておくべき用語やポイント〔第一回課題について資料を集める〕

詳細：実際に論理的な短い文章〔第1回課題〕を書く。終了後、課題について解説。

〈第3講〉

概要：課題復習

事前学習しておくべき用語やポイント〔小論文の「型」について復習〕

詳細：前回書いた文章を添削して返却。よい文章、悪い文章について解説。前回の文章を書き直す。

〈第4講〉

概要：部分練習

事前学習しておくべき用語やポイント〔前回返却答案を見直す〕

詳細：問題提起の作り方、第2段落の書き方。

〈第5講〉

概要：第2回課題答案作成

事前学習しておくべき用語やポイント〔第二回課題について資料を集める〕

詳細：実際に600字程度の論理的な文章〔第2回課題〕を書く。

〈第6講〉

概要：第2回課題解説

事前学習しておくべき用語やポイント〔第2回課題について資料を整理〕

詳細：前回書いた課題の解説。文章を書くためのトレーニングをする。裏づけの仕方について。

〈第7講〉

概要：エッセイの書き方

事前学習しておくべき用語やポイント〔有名なエッセイを読んでおく〕

詳細：エッセイの書き方の説明。表現力アップのためのトレーニング。

〈第8講〉

概要：第3回課題を書く

事前学習しておくべき用語やポイント〔有名なエッセイを読む〕

詳細：実際にエッセイ〔第3回課題〕を書く。

〈第9講〉

概要：課題解説

事前学習しておくべき用語やポイント〔有名なエッセイを読む〕

詳細：前回書いた文章を添削して返却。課題解説。文章テクニック、表現力アップのためのトレーニング。

〈第10講〉

概要：トレーニング

事前学習しておくべき用語やポイント〔有名なエッセイを読む〕

詳細：表現力アップのためのトレーニング〔読書・言い換えなど〕

〈第11講〉

概要：第4回課題作成

事前学習しておくべき用語やポイント〔有名なエッセイを読む〕

詳細：実際にエッセイ〔第3回課題〕を書く。

〈第12講〉

概要：その他の文章の書き方

事前学習しておくべき用語やポイント〔有名なエッセイを読む〕

詳細：志望理由書・自己PR書・レポートの書き方。その練習。

〈第13講〉

概要：第5回課題作成

事前学習しておくべき用語やポイント〔志望企業について調べておく〕

詳細：実際に志望理由書・自己PR書〔第5回課題〕を書く

〈第14講〉

概要：第5回課題解説

事前学習しておくべき用語やポイント〔志望企業について調べておく〕

詳細：就活に必要な文筆力。表現力。

〈第15講〉

概要：これらの勉強法

事前学習しておくべき用語やポイント〔これまでの自分の作成した答案を見直す〕

詳細：新聞活用法。本の読み方。総復習。

■教科書

なし

■指定図書

『ホンモノの文章力』 集英社新書

『大人のための文章道場』 角川文庫

■参考文献

特になし

■評価方法

出席が3分の2に満たないものは不合格にする。授業中に合計5〜6回、小論文を書いてもらい、1点〜5点で採点して返却する。平均2点を超えるものについては原則として合格とみなす。なお、書き直して提出した場合、必ず加点する。授業中の発言についても加点する。

■評価基準

☐ 相対評価

☐ 絶対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

☐ 実施する ☐ 実施しない

■留意点

授業中の私語禁止。そのほか、飲食（ただし飲み物の摂取は許す）・ガム・帽子着用・寝る姿勢を整えての居眠り・無断退出・イヤホン・教員に対する悪言など、授業を書く行為についても禁止する。目に余るものは退出させ、欠席とみなす。語彙を増やし、表現技術を身につけても日本語の表現力が増えない。発信したい内容を持つことによって表現力も増す。それゆえ、多くの時間を、単に表現法ではなく、思考力、社会的知識を身につけることに費やす。

科目名 日本政治史(Political history of Japan)

担当教員 大森 映子

■講義目的

対外政策を軸としながら、日本の政治史を概観する。主として江戸時代の問題を扱うが、一応、古代から近代までを視野に入れて検討する。前近代の対外関係を考える時、中国や朝鮮半島をはじめ、アジア諸地域との密接な結びつきを無視することはできない。この点は現代社会にも通じるところであり、アジアの中の日本という立場からの歴史認識は、政治的・経済的・国際的な諸問題を解決に導く糸口となるものであろう。このような側面に注目しながら、前近代における日本の対外政策および海外認識について検討する。

■講義分類

地域ビジネス グローバルビジネス 社会人育成

■到達目標

- (1) 日本の対外認識について理解する。
- (2) 江戸時代および明治期における外交政策が、現代日本に及ぼした影響について考える。
- (3) 現代社会を考える上で、歴史的認識が大切であることを認識する。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉 オリエンテーション

概要：授業の方針、取り扱うテーマの紹介。

事前に学習しておくべきポイント

高校の日本史の教科書、あるいはそれに類した日本史の文献を確認する。

詳細：15回の授業の中で取り扱うテーマの基本的な位置づけを示す。とくに周辺諸地域との結びつきに注目しながら、アジアの中における日本の立ち位置を歴史的に考える場であることを確認する。その第一段階として、考古学的な成果をもとに、日本と大陸との関係について触れる。

〈第2講〉 古代における国際関係

概要：考古学的成果からみた大陸との交流

事前に学習しておくべき用語とポイント 〔弥生時代 邪馬台国論争 遣隋使〕

詳細：中国文献、考古学的遺物を手がかりとして、「倭」と称されていた地域と大陸との交流について概観する。予想をこえる人的交流や物流があったこと、また九州や近畿地方ばかりでなく、そのほかの地域においても大陸との関係を窺わせる考古学的資料があることを指摘する。また、歴史上よく知られている遣隋使について中国側と日本側の史料を比較し、その違いについて検討する。

〈第3講〉 大仏建立の背景と国際環境の変化

概要：東大寺の大仏建立の問題とその後の国際環境の変化について

事前に学習しておくべきポイント 〔大仏建立 聖武天皇 遣唐使 渤海〕

詳細：8世紀の半ば、奈良の東大寺で巨大大仏の建立が試みられる。いわゆる奈良の大仏として現在でも親しまれているが、これは単なる文化事業ではなく、当時の国際関係、国際戦略とも深く結びついていたものであったことを検証する。また、9世紀には遣唐使の派遣が中止されることになるが、これは

大陸との関係の断絶を意味するわけではなく、むしろ複合的な交流ルートが成立していたことを指摘する。

〈第4講〉 中世社会の諸相 一対外政策を中心に一

概要：武家政権の対外政策について。

事前に学習しておくべきポイント 〔日宋貿易 鎌倉幕府〕

詳細：日本と中国(宋)との間には、国家間の交流はなかったが、活発な民間貿易が展開しており、大量の日常物資が輸入される体制ができあがっていた。あらたに台頭してきた元は、周辺諸地域への侵略を繰り返すようになるが、日本史の中で「元寇」として取り上げられるこの問題を、世界史の中に位置づけることを試みる。とくに朝鮮半島への侵攻や東南アジアへの遠征との関連づけながら、元寇の問題をあらためて検討する。また、元の文化的特質とその影響についても言及してみたい。

〈第5講〉 中世の交易ルート

概要：明の成立とアジア世界における国際秩序

事前に学習しておくべき用語とポイント 〔朝貢貿易 海禁政策 日明貿易 琉球〕

詳細：14世紀に中国を統一した明を中心に、東アジア世界の国際秩序が確立し、日本もその傘下に加わることになった。その下で展開されたのが、日明貿易(勘合貿易)である。当時の諸地域の結びつきを、世界的な観点から見通しながら、海で結ばれたアジア世界の状況を確認する。また、貿易立国としての琉球の位置づけについて触れながら、繁栄の背景をさぐる。

〈第6講〉 ヨーロッパ勢力と東アジア世界

概要：ポルトガル勢力のアジア進出

事前に学習しておくべき用語とポイント 〔ザビエル 宣教師 南蛮貿易 鉄炮〕

詳細：ポルトガルの日本来航の問題を、当時のヨーロッパ史と関連づけながら検討する。とくにヨーロッパの中におけるスペイン・ポルトガル勢力の特質を確認した上で、日本との関係を考える。ポルトガル人にとって注目すべき日本の物資は銀であり、当時、世界有数の銀産出国として日本が認識されていたことを指摘する。また、当時製作された世界地図に描かれた日本の状況を確認し、日本がどのように認識されていたのかを検証する。

〈第7講〉 豊臣秀吉の朝鮮侵略

概要：秀吉の侵略戦争の実態

事前に学習しておくべき用語とポイント 〔文禄・慶長の役〕

詳細：全国統一を果たした豊臣秀吉は、対外的にも積極策をうちだし、日本人の海外渡航を積極的に援助する一方、中国征服を試み、朝鮮半島に軍勢を送った。二度にわたる朝鮮への出兵は、朝鮮国土を荒廃させ、朝鮮民衆に大きな犠牲を強いることになった。ここでは朝鮮侵略の実態と、その後の対外関係の課題について考える。

〈第8講〉 徳川政権の確立と幕藩関係

概要：徳川政権の権力確立過程について検討

事前に学習しておくべき用語とポイント 〔関ヶ原合戦 大坂の陣 武家諸法度〕

詳細：秀吉のあとを次いで政権を握ることになったのは、徳川家康である。しかし関ヶ原合戦(1600)に勝利したからとい

って、ただちに徳川政権が絶対的な立場をえられたわけではなかった。ここでは関ヶ原合戦以降の状況、とくに将軍と大名との関係、あるいは朝廷との関係に注目しながら徳川政権の確立過程についてみていきたい。

〈第9講〉 江戸時代初期の対外関係

概要：徳川家康の外交方針。

事前に学習しておくべき用語とポイント 【朱印船貿易 糸割符制度】

詳細：徳川家康も対外政策においては積極的であった。海外に赴く商人たちには朱印状を賦与し、その活動を援助した。かれらは東南アジア諸地域へ進出し、日本町を形成するまでに至っている。また来日外国人も、ポルトガルだけでなく、オランダ、イギリス、スペインも参画してくるようになった。また悪化した朝鮮との関係修復にも積極的であった。このような状況から、なぜ鎖国といわれるような方向に向かうことになったのか、鎖国とはどのような体制であったのかを考える。

〈第10講〉 江戸幕府の外交政策（1）

概要：いわゆる「鎖国」体制に至る経緯。

事前に学習しておくべき用語とポイント 【鎖国 キリスト教】

詳細：江戸時代の対外政策は、一般に「鎖国」と呼ばれているが、実際にはどのような体制であったのかを検討する。たしかにヨーロッパとの関係については、オランダに限定されていくことになるが、アジアとの関係はどうだったのであろうか。とくに貿易と宗教双方の側面から検討を試みる。また、江戸時代までは、琉球（沖縄）と蝦夷（北海道）は日本の領域外として扱われていたことも確認する。

〈第11講〉 江戸幕府の外交政策（2）

概要：いわゆる「4つの口」について。

事前に学習しておくべき用語とポイント 【四つの口】

詳細：江戸時代の対外的な窓口は4ヶ所であるという認識に基づき、それぞれの地域における対外的な関係を明らかにする。4ヶ所のうち、長崎以外の3ヶ所、対馬・薩摩・松前の諸地域は、それぞれの地域権力（大名）が対外関係を担っていたことを前提に、江戸時代の対外関係を総体として見なおすことを試みる。またオランダとポルトガルの対立を視野に入れたら、オランダ側の戦略という観点から検討する。

〈第12講〉 参府する外国人と国際認識

概要：江戸時代における外国使節の実態。

事前に学習しておくべき用語とポイント 【朝鮮通信使 琉球使節】

詳細：江戸時代、朝鮮からの使節、琉球からの使節、また長崎に滞在していた東インド会社のオランダ商館長は、何度も江戸將軍の下を訪れている。それぞれの使節の立場を明らかにするとともに、異国風の大規模な行列の存在を目の当たりにした江戸庶民の意識を検討する。庶民にとって、「閉ざされた国」という意識はあったのだろうか。

<第13> 江戸時代の海外情報と日本の技術

概要：江戸幕府による海外認識

事前に学習しておくべき用語とポイント 【オランダ風説書 産業革命】

詳細：江戸時代には、どこまで西洋文化に触れる機会があったのだろうか。また、海外情報をどこまで知ることができたのだろうか。「情報」の扱いを考えながら、日本の技術や文化について検討する。また特な発展をとげた日本文化に注目しながら、その背景として日本の文化のあり方の特色について

て検討する。

〈第14講〉 近代日本の問題点

概要：開国以来、急速な欧米化を目指した日本の問題点を明らかにする。

事前に学習しておくべき用語とポイント 【文明開化 殖産興業 廃仏毀釈】

詳細：明治以降の日本は、急速な欧米化を目指すことになる。そのことは日本社会の飛躍的な経済的發展を促すことになるが、急ぎすぎた近代化はさまざまな形で問題点を残すことになる。また欧米文化との出会いは、従来の日本文化を軽視する傾向が現れることになった。いくつかの事例を取り上げながら、明治期における「近代化」の負の部分を取り上げてみたい。

〈第15講〉 周辺諸地域と日本

概要：最終的なまとめを兼ねて、周辺諸地域に対する近代日本の政策を検討する。

事前に学習しておくべき用語とポイント 【征韓論 琉球処分 韓国併合 満州国】

概要：急速な近代化を目指す日本は、周辺諸地域に対してどのような方針をとったのであろうか。江戸時代においては、日本の外とみなしていた蝦夷地については北海道として囲い込み、琉球についても強引に琉球藩として取り込みを図り、最終的には沖縄県として位置づけることになる。さらに朝鮮半島、大陸への進出・侵略を繰り返すことになった経緯を概観し、脱亜入欧を目指した日本のあり方について考える。

■教科書

とくに指定しないが、下記の指定図書は入手することが望ましい。

■指定図書

五味文彦・鳥海靖編「もう一度読む 山川日本史」(山川出版社)

その他の図書については、授業内で適宜指示する。

■参考文献

授業内で適宜指示する。

■評価方法

平常点(出席、および授業内で求める簡単なレポート)50%、中間・最終レポート50%を原則とする。ただし受講者数によっては、2回のレポートのうち1回を授業内試験とする場合がある。

■評価基準

相対評価

- (1) 授業内容を理解できているか。
- (2) 日本対外関係について、自分なりの意見がもてるようになったか。
- (3) 歴史分析の手法を理解できたか。

■事前履修科目等

「歴史と文化」および「比較文化論」を履修していることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

初回オリエンテーションは、授業の方向性を確認する重要な場であるので、必ず参加すること。

なお、受講者数によって一部内容の変更をすることがあるので、注意すること。

科目名 認知心理〔Cognitive Psychology〕

担当教員 大森 拓哉

■講義目的

認知心理学は、人間の心しくみを学ぶ心理学の一分野である。人間が外部の環境や刺激をどう感じ、どう理解しているのかといったしくみを様々な角度から考察する。講義中に自分自身についても当てはめ、実験演習も行う。

■講義分類

顧客理解/ビジネス環境理解/ビジネス創造/ビジネスマネジメント/社会人育成ビジネスICT

■到達目標

この授業で学んだことを日常世界の中においても理解・応用できるか、経済・経営活動においてこの知識を応用・適用できるか。

■講義形態

講義のみ(外学習無)

■講義の概要

(第1講)

概要：概論

事前学習しておくべき用語やポイント[認知、認知心理学]

詳細：心理学における認知心理学の立場、心理学とは何か、認知とは何か、日常生活と認知心理学のかかわり等を包括的に学ぶ。

(第2講)

概要：記憶と忘却

事前学習しておくべき用語やポイント[記憶、短期記憶・長期記憶]

詳細：記憶の仕組み、符号化、貯蔵、検索、記憶の区分、感覚記憶、短期記憶のメカニズム、長期記憶のメカニズム、記憶系、想起、忘却、顕在記憶と潜在記憶、等を学ぶ。

(第3講)

概要：知覚と認識

事前学習しておくべき用語やポイント[錯覚]

詳細：図と地の分化、主観的輪郭、錯視、運動の知覚、知覚の情報処理、パターン認知、文脈効果、注意、カクテルパーティ効果、両耳分離聴実験、等を学ぶ。

(第4講)

概要：顔表情の認識と感情表出

事前学習しておくべき用語やポイント[顔の表情の認知]

詳細：顔の認識、顔の表情、相対失認、感情表出と表情、6つの基本的感情、表情の生得性、表情の文化差、等を学ぶ。

(第5講)

概要：概念と言語

事前学習しておくべき用語やポイント[概念]

詳細：概念と言葉、概念とは？、概念の構造、概念の構造の3つの理論、定義的特性理論、プロトタイプ理論、理論ベースの概念理論、概念の獲得、語の認知過程、言語の獲得、動物の言語、言語の脳部位の測定、言語をつかさどる部位、脳の機能、大脳皮質の役割、等を学ぶ。

(第6講)

概要：知識と表象

事前学習しておくべき用語やポイント[表象]

詳細：知識としての記憶、意味記憶とは、意味の表象、文章の真偽判断課題、階層型ネットワークモデル、特性比較モデル、活性化拡散モデル、プライミング効果、より高次の表象、手続的知識、プロダクションシステム、等を学ぶ。

(第7講)

概要：イメージと空間の情報処理

事前学習しておくべき用語やポイント[空間認知]

詳細：画像的記憶、二重行合脱読、空間の認知、認知地図、認知地図の歪み、認知地図の異文化、整理効果、等を学ぶ。

(第8講)

概要：認知の制御過程

事前学習しておくべき用語やポイント[認知の制御]

詳細：注意、焦点的注意、注意の分割、理の自発性、アクションスリップ、バグ、メタ認知、メタ認知の種類、等を学ぶ。

(第9講)

概要：文章理解

事前学習しておくべき用語やポイント[文章理解]

詳細：統語論的処理、意味論的処理、格文法と選択制限、語用論的処理、会話の公理、等を学ぶ。

(第10講) 概要：推論

事前学習しておくべき用語やポイント[推論]

詳細：推論の種類、帰納的推論、概念形成における帰納的推論、帰納的推論における誤り、数式的帰納法、演繹的推論、演繹推論における誤り、主観性効果と思考の偏他固有性、演繹推論と条件文解釈、確率判断、等を学ぶ。

(第11講)

概要：問題解決

事前学習しておくべき用語やポイント[方略]

詳細：問題空間、方略、方略の手続きによる分類、GPS(General Problem Solver)、プロダクションシステム、プロトコル分析、創造性の育成法、類推による問題解決、等を学ぶ。

(第12講)

概要：意思決定

事前学習しておくべき用語やポイント[意思決定、効用、主観確率]

詳細：意思決定とは何か、規範的理論と記述的理論、効用、多属性効用理論、現実の意思決定、緊急時の意思決定、不確実な状況での意思決定、主観的確率の誤り、プロスペクト理論、等を学ぶ。

(第13講)

概要：日常生活と認知心理学(I)

事前学習しておくべき用語やポイント[進化心理学]

詳細：認知進化心理学、心理療法・カウンセリング、人工知能、確率推論・ベイジアンネットワーク、等を学ぶ。

(第14講)

概要：日常生活と認知心理学(II)

事前学習しておくべき用語やポイント[リスク認知]

詳細：環境リスク認知、犯罪場面における認知、認知的不協和理論、等を学ぶ。

(第15講)

概要：まとめ

事前学習しておくべき用語やポイント[経営と心理学]

詳細：この講義での知識が日常生活や経営の場面で有効に活用することができるかどうかを考える。

■教科書

森敏昭・井上鋭・松井孝雄著『グラフィック認知心理学』サイエンス社(1995)

■指定図書

道又爾他『認知心理学』有斐閣アルマ

繁樹算男・丹野義彦編著『心理学の謎を解く』医学出版

下條信輔『サブリミナル・マインド』中公新書

下條信輔『サブリミナル・インパクト』ちくま新書

下條信輔『＜意識＞とはなんだろうか』講談社現代新書

戸田正直他編『認知科学選書』全24巻 東京大学出版会

乾敏郎他編『認知心理学』全5巻 東京大学出版会

広田すみれ他著『心理学が描くリスクの世界』慶應義塾大学出版会

■参考文献

講義中に紹介する。

■評価方法

出席を前提とし、期末定期試験(100%)により評価する。

■評価基準

相対評価 認知心理学の基本概念が理解できたかについて評価する。自分自身の思考や経験と照らし合わせて、自分なりの考察ができたかどうかを重視する。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講義は、幅広い心理学のうちの一分野である。「消費心理」、「社会心理」などの他の心理学の講義も聴講するとよりいっそう理解が深まる。また、「経営と意思決定」の講義にも関連がある。講義途中で心理実験やそのレポート提出を求めることがあるので、毎回の出席は必須である。私語、飲食、授業と関係のないPC操作、携帯電話操作、帽子・サンダス着用等禁止する。

科 目 名 比較文化論Ⅰ(Comparative Culture Ⅰ)

担当教員 濱田 英作

■講義目的

21世紀の世界潮流の中では、アジアが国際的な産業社会の上で最も成長して重要な地位を占めることは疑いない。特に東アジアの隣国である中国は、世界の覇者であった米国と、あらゆる意味で拮抗する勢力になりつつある。そしてその中国と日本は、歴史的に深い関係を持ってきており、今後は政治経済面でも一層の接触が避けられない。本講義では、中国の文化的特質について、その歴史的形成を辿りつつ、世界から見た中国の姿すなわちその位置づけを知り、他方では中国から見た世界像を考えることによって、中国をどう理解するかについて考察することを目的とする。

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解/ビジネス創造/ビジネスマネジメント/社会人力育成/グローバルビジネス /地域ビジネス

■到達目標

世界の中での中国の文化形成と、世界潮流中の位置づけについて一定の知識と概念を得ること。異文化理解と交流について積極性を持つに至ること。

■講義形態

講義のみ[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉

概要：科目オリエンテーション

用語：ノート整理法

詳細：この講義の概要、その目的とするところ、授業の方針と進め方、講義中に参考にする図書および資料、試験の内容、実施方法、採点と評価の基準などについて、具体的に例を挙げながら説明し、履修登録に当たっての指針を学生に与える。

到達目標：クラスとして授業方針、受講方針について共通理解を得る。

〈第2講〉

概要：文化の定義

用語：文化、Culture、文明

詳細：文化ということばは、英語Cultureの訳語である。ここでは、そのことばの原義にさかのぼって考え、このクラスにおける「文化」という概念を定義する。

到達目標：用語と定義、概念についての共通理解を得る。

〈第3講〉

概要：文化・民族・言語の定義と関係性

用語：文化、民族、言語、われわれ、エスニシティ

詳細：共通の言語によって文化を共有しているという自覚を持つ社会的集団が、民族である。ここでは、文化・民族・言語の関係について触れ、また国家との関係についても考える。

到達目標：用語と定義、概念についての共通理解を得る。

〈第4講〉

概要：歴史という概念を考える

用語：歴史、History、物語、先史、時間、鏡

詳細：「歴史」「History」ということばの双方の原義にさかのぼって考えると、歴史もまた、人類の文化のひとつの現われであることがわかる。他方、歴史をどのように使い、歴史から何を学ぶかということも問題である。

到達目標：用語と定義、概念についての共通理解を得る。ものごとを時間軸で鳥瞰する観点を身につける。

〈第5講〉

概要：麦作混合農業の生活相

用語：ユーラシア、三大文明、穀物、麦作

詳細：麦作混合農業は、ユーラシア三大文明を生み出した。それはシルクロードを通じて、中国文明を生み出した。ここでは、その成立、生活相、そしてその伝播と変容について考える。

到達目標：麦作混合農業と、その生み出す文明について知識と理解を得る。

〈第6講〉

概要：シルクロード・オアシスの道

用語：シルクロード、オアシス

詳細：氷河を頂く高山からの雪解け水を水源として形成されたオアシスを人間が開発し、隊商組織による交易を基盤として経済的に発展した。ここでは、オアシスの道を、中国地域の形成と関連付けて考える。

到達目標：オアシスの成立過程について知識と理解を得る。

〈第7講〉

概要：四川省・横断山脈の道

用語：四川省、西北シルクロード、西南シルクロード、チベット族、チャン族

詳細：ここでは、中国と他のユーラシア世界とを結ぶ、西北シルクロードと西南シルクロードについて検討する。また、この両者を結び、中国地域形成に重大な役割を果たした、四川省・横断山脈の道について触れる。

到達目標：横断山脈の道についての概念を得る。

〈第8講〉

概要：中国文明の形成とシルクロード

用語：黄河文明、長江文明、西北シルクロード、西南シルクロード

詳細：中国文明は、北方の黄河文明と南方の長江文明が融合して成立した。これが現在でも、北中国と南中国の特徴を形作っている。ここでは、両者の形成とシルクロードとの関わりについて考える。

到達目標：中国地域形成とシルクロードの関わりについて理解を得る。

〈第9講〉

概要：絹と中国

用語：絹、シルク、玉、月氏、ソグド人

詳細：シルクロードの名の起りともなった「絹」。この名称について検討することは、中国とユーラシアの比較文化論の上で興味深い。ここではそのことを、中国文化の形成とも関わらせて検討する。

到達目標：シルクロードとユーラシアの文明論について関心を持つ。

〈第10講〉

概要：中国文化生成論1(中国の地理条件)

用語：黄河、長江、麦、雑穀、稲、気候、亜湿潤アジア、乾燥アジア、湿潤アジア

詳細：中国の地理を概観する。ここでは、黄河と長江という

二大河川、西高東低の地形、生産基盤となる穀物、生活文化などに着目し、中華世界観の成立について考える。

到達目標：中国地域の形成条件について知識と理解を得る。

〈第11講〉

概要：中国文化生成論2(中国文化の源流)

用語：黄河、長江、麦、雑穀、稲、民族、クレオール

詳細：ここでは、中国文化の起源を、黄河と長江という二大河、そして麦作と稲作と雑穀作の三つの文化、そして多民族の混合に求めて考える。

到達目標：中国地域と民族の形成について知識と理解を得る。

〈第12講〉

概要：中国文化論3(中華意識の形成)

用語：夏、夷、蛮、狄、戎、中華

詳細：中国中原に文明を築いた人々は、しだいにみずからを優れた「夏華」、そして周辺地域の人々を野蛮な「夷」として区別して認識するようになった。ここでは、この「夏夷世界秩序」観の成立について考える。

到達目標：中華意識の萌芽について理解を深める。

〈第13講〉

概要：中国文化論4(世界国家と中華国家)

用語：五胡十六国、仏教、ヘレニズム、セリンティア

詳細：この夏夷世界観を新たに変容させたのが、ヘレニズム世界宗教である仏教だった。ここでは、東アジアへの仏教伝来について考え、日本への影響についても考える。

到達目標：仏教伝来の意義について理解と識見を深める。

〈第14講〉

概要：中国文化論5(中華国家観の成立)

用語：中華、漢民族

詳細：唐代以後の中国は、宋～元～明～清という流れの中で、「中華国家」と「世界国家」の姿を交互に取っていく。ここでは、その中で、現代につながる「中国民族文化」が確立されていった経緯を振り返る。

到達目標：中華意識の確立とその世界性について識見を深める。

〈第15講〉

概要：まとめと復習

用語：ノート整理、復習、質問

概要：この時間には、授業全体の復習をする。要点をまとめ、質問に答え、話し足りなかった部分、あるいは授業の中で新たに触れた部分などを補足し、学生諸君のノート整理と試験準備の便とする。

到達目標：試験に対する十分な準備を整える。

■教科書

濱田英作 『中国漢代人物伝』 成文堂

■指定図書

- [1] 長澤和俊 『シルクロード』 講談社学術文庫
- [2] 松田寿男 『砂漠の文化』 岩波同時代ライブラリー
- [3] 『講談社 新シルクロードの旅 1・2・3』 講談社
- [4] 長澤和俊編 『シルクロードを知る事典』 東京堂出版
- [5] 三浦信行編 『21世紀アジア学』 成文堂
- [6] 和辻哲郎 『風土』 岩波文庫(青144-2)
- [7] ヘーゲル 『歴史哲学講義 上下』長谷川宏訳 岩波文庫
- [8] A.J. トインビー 『現代が受けている挑戦』 吉田健一訳 新潮文庫
- [9] 梅棹 忠夫 『文明の生態史観』 中公文庫
- [10] 梅棹 忠夫 『狩猟と遊牧の世界 自然社会の進化』 講談社学術文庫

■参考文献

折に触れ紹介する。また授業中に資料(プリント)を配布する。

■参考 URL

<http://www.aurora-net.or.jp/doshin/silkroad>; <http://news.searchchina.ne.jp/topic/277.html>

■評価方法

評価は、期末試験(100点満点)および出席調査(持ち点)を合計する。ただし双方の合計点の最高は100点までとする。

■評価基準

相対評価

試験答案については：

1. 世界と中国について知識と理解を得たか。
2. 文化論と異文化理解について識見を得たか。
3. 十分な表現力と説明能力を得たか。

以上の三点を中心に評価する。

■事前履修科目等

在学中に「北東アジア論」「現代中国論入門」「現代中国論」「近現代史」「歴史と文化」等を併せて履修すると参考になると思います。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

学生としてのマナー(遅刻をしない、私語をしない、飲食をしない、携帯・スマートフォンを使わない)を実行しているか否かを平常点として見る。なお本講義では「板書を手で書きとめつつ、同時に聴いたことをまとめる」ことがプレゼンテーション能力にも関わる重要な知的トレーニングであると考えるので、たとえ検索目的であれ、授業中のパソコン使用は認めない。

科目名 比較文化論Ⅱ〔Comparative Culture Ⅱ〕

担当教員 濱田 英作

■講義目的

21世紀の世界潮流の中では、アジアが国際政治と産業社会の中で最も成長し、最も重要な地位を占めることは疑いない。特に東アジアの隣国である中国は、世界の覇者であった米国と、あらゆる意味で拮抗する勢力になりつつあって、その動静は変転常なく、予測を許さない。そしてその中国と日本は、文化的・歴史的に深い関係を保ってきた。本講義では、日本の文化的特質について、その歴史的形成の軌跡を、特に中国を中心とする東アジア世界と関連付けて辿りつつ比較し、世界から見た日本の姿すなわちその位置づけと、日本から見た世界像、とくに日本文化の揺籃としての中国をどう理解するかについて考察することを目的とする。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／社会人育成／地域ビジネス

■到達目標

日本の文化形成とその特質に関して、中国地域との関わりの中で理解し、今後の世界潮流中の位置づけについて、一定の知識と見識を得ること。地域文化に理解と関心を持つに至ること。

■講義形態

講義のみ〔屋外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉

概要：科目オリエンテーション

用語：ノート整理法

詳細：この講義の概要、その目的とするところ、授業の方針と進め方、講義中に参考にする図書および資料、試験の内容、実施方法、採点と評価の基準などについて、具体的に例を挙げながら説明し、履修登録に当たっての指針を学生に与える。

到達目標：クラスとしての授業方針、受講方針について共通理解を得る。

〈第2講〉

概要：文化の定義

用語：文化、Culture、文明

詳細：文化ということばは、英語 Culture の訳語である。ここでは、そのことばの原義にさかのぼって考え、このクラスにおける「文化」という概念を定義する。

到達目標：用語と定義、概念についての共通理解を得る。

〈第3講〉

概要：文化・民族・言語の定義と関係性

用語：文化、民族、言語、われわれ、エスニシティ

詳細：共通の言語によって文化を共有しているという自覚を持つ社会的集団が、民族である。ここでは、文化・民族・言語の関係について触れ、また国家との関係についても考える。

到達目標：用語と定義、概念についての共通理解を得る。

〈第4講〉

概要：歴史という概念を考える

用語：歴史、History、物語、先史、時間、鏡

詳細：「歴史」「History」ということばの双方の原義にさかのぼって考えると、歴史もまた、人類の文化のひとつの現われであることがわかる。他方、歴史をどのように使い、歴史から何を学ぶかということも問題である。

到達目標：用語と定義、概念についての共通理解を得る。ものごとを時間軸で鳥瞰する観点を身につける。

〈第5講〉

概要：日本文化生成論1(日本文化の源流)

用語：縄文時代、弥生時代、考古学、環境生態学

詳細：日本列島の文化は、きわめて多様で豊富な文化の流入と、混合と、変容の末に形成されたものである。ここでは、縄文時代から弥生時代への移行を、中国地域との関連を見ながら概観する。

到達目標：日本列島における縄文時代、弥生時代の概念を理解し身につける。

〈第6講〉

概要：日本文化生成論2(政治体制の成立)

用語：古墳時代、飛鳥時代、奈良時代、五胡十六国、北方文化

詳細：中国の五胡十六国時代から隋唐帝国成立に対応して、日本列島もまた古墳時代から奈良時代へと政治体制を整える。ここでは、倭国から最初期日本国における政治体制の成立について概観する。

到達目標：ユーラシア北方文化と日本列島との関わりについて知識を得る。

〈第7講〉

概要：日本文化生成論3(日本文化とシルクロード・仏教伝来の道)

用語：奈良時代、シルクロード、北伝仏教、神仏混淆

詳細：日本列島への道は、シルクロードの東端の接続路のひとつである。ここでは、日本文化と精神性の源流の一つであり、その形成にとって極めて重大な役割を果たした「北伝仏教」とその伝来の経緯について触れる。

到達目標：日本における仏教と神道の成立について基本的な知識を得る。

〈第8講〉

概要：日本文化生成論4(日本文化の成立)

用語：平安時代、鎌倉時代、国風文化、仮名文学、鎌倉新仏教

詳細：公家文化の国風化の後、武家が公家文化と新来の禅宗の影響のもとに武家文化を成立させる。ここでは、日本民族文化の萌芽的成立の経緯について、当時のアジア世界との関連も見ながら考察する。

到達目標：東アジア世界の変化と文化の国風化との関わりについて知識と理解を深める。

〈第9講〉

概要：日本文化生成論5(日本文化の確立・付：沖縄と北海道)

用語：戦国時代、安土桃山時代、江戸時代、町衆、蝦夷、アイヌ、沖縄、琉球、歴史の地平線

詳細：戦国から江戸時代にかけて町衆が登場して経済力を握り、消費文化が発達する。ここでは、日本民族文化の確立が江戸時代であることを、当時のユーラシア世界との関わりの中で論証してみる。

到達目標：ユーラシアを横断的に見ることで、世界の変動を理解する。

〈第10講〉

概要：日本文化生成論6(日本国民文化の胎動)

用語：江戸時代、豪農、豪商、朱子学、平田国学、農本思想、幕末、廃仏毀釈

詳細：農業・産業の発展とともに豪農・豪商が登場し、地域経済・地域振興に携わる中で地域・民族に根付いた理念としての国学を生み出す。ここでは幕末を準備した民族文化の胎動を見ている。

到達目標：民族国家確立への胎動期としての江戸時代について目を開く。

〈第11講〉

概要：日本文化生成論7(幕末から明治へ)

用語：明治維新、自由民権運動、国権論

詳細：国学は明治維新を生んだが、それは同時に、中央集権に反対し地域発展を求める自由民権と、国民国家の発展を求める国権論・国家主義への流れを、同時に含むものとなった。はたしてどちらが、日本の好ましい道のりだったか。ここでは、その二つを概観する。

到達目標：明治近代化について知識と理解とを得る。

〈第12講〉

概要：日本文化生成論8(津々浦々の文化)

用語：津々浦々、湊、河岸、廻船網、河川流通、地域共存

詳細：日本文化は重層的なものであり、以前の文化は住み分け、互いに影響しあいながら存在し、それらは廻船網と河川交通網によって全国「津々浦々」に広まった。ここでは、そうした日本文化のダイナミズムを見る。

到達目標：日本文化形成のダイナミズムについて目を開く。

地域振興やマネジメントの新たなヒントを得る。

〈第13講〉

概要：日本文化生成論9(日本の原風景)

用語：里山、奥山、棚田、谷地、谷戸、谷津田、武蔵野、宮澤賢治、国木田独步

詳細：日本人は、風土の中で、いかに生活を育んできたか、ここでは、里山、棚田などの地形、谷地、谷戸、谷津田などの地名、そして宮澤賢治や国木田独歩の美しい文章に親しみながら、その手がかりを掴んでみる。

到達目標：日本の風土に対する感性を磨く契機を掴む。

〈第14講〉

概要：日本文化生成論10(多摩の歴史)

用語：多摩、きぬのみち、自由民権運動、新選組、北村透谷

詳細：多摩大学があるこの多摩の地域は、南北には相模～武蔵～上野～下野を結び、東西には甲斐から武蔵から下総を結び、いわば関東の交通の要衝に当たり、古代より高い文化を誇った場所である。また多数の河川を利用して、江戸時代からは流通経済、新田開発そして養蚕業が盛んになり、関東の「絹の道」沿いに豪農・豪商が栄えた。それは廻船ネットワークで日本全国とつながることによって国学などの新思想を広め、明治維新を準備し、自由民権の思想をも生む揺りかごとなった。新選組もまたこの地から京都へ赴いた。まさに多摩の地が、日本の歴史を動かした時期があったのである。地域振興と地方分権、そして地域マネジメント技術の必要性が叫ばれる現在、多摩大学と地域とが共生するためにも、こうした多摩の歴史や地域的「コンテクスト」を、あらためて振り返ってみたい。これは多摩学とも関連する講義となる。

到達目標：多摩に関する知識と理解とを深め、愛着を持つ。

〈第15講〉

概要：まとめと復習

用語：ノート整理、復習、質問

概要：この時間には、授業全体の復習をする。要点をまとめ、質問に答え、話し足りなかった部分、あるいは授業の中で新たに触れた部分などを補足し、学生諸君のノート整理と試験準備の便とする。

到達目標：試験に対する十分な準備を整える。

■教科書

濱田英作『中国漢代人物伝』 成文堂

■指定図書

- [1] 三浦信行編『21世紀アジア学』 成文堂
- [2] 和辻哲郎『風土』 岩波文庫(青144-2)
- [3] 鈴木理生『江戸の川・東京の川』井上書院
- [4] 松岡正剛『日本という方法 おもかげ・うつろいの文化』 NHK ブックス
- [5] 松岡正剛『17歳のための 世界と日本の見方』 春秋社
- [6] 国木田独步『武蔵野』 新潮文庫
- [7] 色川大吉『新編・明治精神史』 筑摩書房
- [8] 鈴木理生『江戸の川・東京の川』井上書院
- [9] 松浦 玲『新選組』 岩波新書855
- [10] 宮澤賢治『宮澤賢治全集』 筑摩書房
- [11] 島崎藤村『夜明け前』 新潮文庫

■参考文献

中島利一郎『武蔵野の地名』 新人物往來社
その他、折に触れ紹介する。また授業中に資料(プリント)を配布する。

■参考URL

<http://news.searchina.ne.jp/topic/277.html>

■評価方法

評価は、期末試験(100点満点)および出席調査(持ち点)を合計する。ただし双方の合計点の最高は100点までとする。

■評価基準

相対評価

試験答案については：

- 1.日本文化生成について知識と理解を得たか。
 - 2.文化論について識見を得たか。
 - 3.十分な表現力と説明能力を得たか。
- 以上の三点を中心に評価する。

■事前履修科目等

在学中に「現代中国論」「近現代史」「歴史と文化」「多摩学入門」等を併せて履修すると参考になると思います。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

学生としてのマナー(遅刻をしない、私語をしない、飲食をしない、携帯・スマートフォンを使わない)を実行しているか否かを平常点として見る。なお本講義では「板書を手で書きとめつつ、同時に聴いたことをまとめる」ことがプレゼンテーション能力にも関わる重要な知的トレーニングであると考えるので、たとえば検索目的であれ、授業中のパソコン使用は認めない。

科目名 ビジネスコミュニケーション入門I(読解力)(Introduction to Business Communication I)

担当教員 出原 至道

■講義目的

本講義は、さまざまなデータや情報、意見を正確に読み取る能力を身につけることを目的とする。その過程で、社会で必須となるネットワークサービスについて、その利用スキルを学ぶとともに、ネットワークサービスのリテラシーを身につけることも目的とする。

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / ビジネス創造 / ビジネスマネジメント / 社会人育成 / グローバルビジネス / ビジネス ICT / 地域ビジネス

■到達目標

- ・インターネット、新聞、図書、論文などの特徴を理解し、使い分けられる。
- ・他者の意見を正確に読み取ることができる。
- ・データを加工して必要な情報が取り出せる。
- ・基本的なネットワークサービスの仕組みと利用方法・利用上の注意点を理解し、使いこなせる。
- ・既存ネットワークサービスを利用した効率的なグループ作業の手法を理解し、実践できる。
- ・既存ネットワークサービスを利用した意見集約の手法を理解し、実践できる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR[学外学習無(予定)]

■講義の概要

〈第1講〉

概要：ネットワークサービス利用の基礎

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ネットワークサービス利用の基礎を学ぶ。大学アカウントを配布する。無線LAN接続を行う。

〈第2講〉

概要：電子メール

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：電子メールの送受信を行う。

〈第3講〉

概要：ドキュメント共有・カレンダー管理

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ネットワーク上でのドキュメントの共有を行う。また、カレンダー管理を体験する。

〈第4講〉

概要：検索

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：インターネット上で情報検索を行う。また、情報の信頼性について理解する。

〈第5講〉

概要：図書検索

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：インターネット上で図書検索を行い、興味のある図書を借り出す。

〈第6講〉

概要：中間試験

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：

〈第7～9講〉

概要：論説文の読解

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：新聞の社説を題材に、論拠の正確な読み取りを反復して行う。

〈第10～12講〉

概要：データ処理による情報抽出

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：単にデータを眺めているだけでは得られない情報を、簡単なデータ処理によって抽出する。それを論拠として、レポートを組み立てる練習を行う。

〈第13～15講〉

概要：レポート作成

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：大学で必要になるレポート作法について、実際にレポートを作成して学ぶ。また、Google Drive を利用した共同作業を行い、共同レポートを作成する。

■参考URL

<http://discovery.tama.ac.jp/>

■評価方法

原則として80%以上の出席を前提として、平常点(40%)、中間テスト(20%)、最終レポート(40%)により評価する。ただし、平常点が著しく低いものは、最終レポートの成績によらず、不可とする。

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義で手を動かすことが重要な科目であり、欠席については本人の責の有無を問わない。すべて出席することが前提であり、不測の事態を迎えてもお欠席を20%以下にすることを求める。

科目名

ビジネスコミュニケーション入門II(伝達力)(Introduction to Business Communication II)

担当教員

豊田 裕貴

■講義目的

ビジネスでは考えを相手に上手く伝えなければならないことが多い。本講義では、「伝達力」に特化し、スキルアップを目的とする。

具体的には、資料作成能力(パワーポイントならびにE X C E Lによる図表資料)、プレゼンテーション用の原稿作成能力(ストーリー構築力を含む)、プレゼンテーションでの表現力などを、講義と演習を通じて学習する。

■講義分類

社会人育成

■到達目標

本講義では、伝達力に関する講義に加え、全員が最低一回プレゼンテーションをするなどの演習を取り入れ、今の段階での伝達力と伸ばすべきスキルの確認を行う。

その上で、最低限、パワーポイントの作成やシナリオの作成、そしてプレゼンテーションを一通り行えるようになることが到達目標となる。

■講義形態

講義＋レポート＋演習〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉オリエンテーション

ビジネスコミュニケーション(伝達力)の全体像の説明と履修方法などのオリエンテーション

※以下、第2講から第14講に共通する〈予習、復習のポイント〉
本講義の最も重要なポイントは、解説されるスキルや演習を通じて、各自が伝達力を高めることにある。したがって、予習よりはむしろ復習が重要であり、知識の応用の仕方考えることに力点が置かれる。

〈第2講〉ビジネスプレゼンテーション入門

実際のビジネスのプレゼンテーションを見ることによって、ビジネスでの伝達力とは何かについてまずは学習する。

〈第3－5講〉パワーポイント入門

パワーポイントはプレゼンテーションで多用されるソフトであるが、その使い方を学んでも伝達力は上がらない。分かりやすいプレゼンテーション資料とは何かを考えながら、それを作るために必要なパワーポイントのスキルを習得する。

〈第6－8講〉ビジネス・スクリプト入門

経験を積むことによって、原稿を用意しないでプレゼンテーションを行うことが可能になるが、まずはしっかりと話すべき内容を原稿として作成することが有効である。その際、正しい原稿(プレゼンテーションスピーチ)をするための文章力強化を行うのが、6－8校目の目的である。

〈第9－11講〉プレゼンテーション演習

受講者各自がプレゼンテーション資料とスクリプト(原稿)を作成し、プレゼンテーションを行う演習をする。全員がプレゼンテーションを経験するために、ビデオによるプレゼンテーション録画を予定している。

〈第12－14講〉レポート作成入門

伝達力は、事前に用意したプレゼンテーションだけではなく、自分が聞いた話を他者に伝えるという際にも重要になる。実際のプレゼンテーションや商品説明などを聞き、それを要約

するレポートを作成するという演習を通じて、人から聞いた内容をさらに人に伝えるという伝達力の習得を目指す。

〈第15講〉全体のまとめ

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

特になし

■評価方法

「講義への出席」と「講義内課題」および「期末課題」などにより評価する。

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・新規開講科目のため、受講希望者は、第一回目の講義に出席し、オリエンテーションを受けることを強く推奨する。
- ・全回出席を前提とする(何回まで休んでも良いかというような愚問をしないこと)。
- ・伝達力ということで、実際に課題に取り組むことが多く、途中からの出席では理解できなかったり、演習に参加できないことがあるため、遅刻をしないこと。遅刻は減点対象とし、10分以上の遅刻入室も認めない(10分後施錠します)。

科目名 ビジネス数学基礎(Practical Mathematics)

担当教員 大森 拓哉、他

■講義目的

経営情報学部においては、複合領域での知識や技術の修得が必要となる。このような複合領域を対象とする分野で必要になるデータを扱う数学的手法の基礎について、演習と講義により身につけることが本講義の目的である。この講義は必修科目である。演習の積み重ねを通して技術が身に付く構成になっているので、欠席しないこと。

本講義では、課題を解決するためにどのようなデータの取り扱いをするとよいか、中学から高校1年程度の数学を基点として、問題解決方法の理解とそれを応用した問題解決演習を行い、産業社会において必要な数理技能の基礎を完全習得する。

■講義分類

ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人育成／ビジネスICT

■到達目標

経営情報学部で学ぶ上で最低限の数学の能力が身についているか。

■講義形態

講義＋演習〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉

概要：1次・2次方程式

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：1次・2次方程式が完全に解けるかどうか。

〈第2講〉

概要：連立方程式・その他の方程式

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：連立方程式が完全に解けるかどうか。

〈第3講〉

概要：不等式

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：不等式が完全に解けるかどうか。

〈第4講〉

概要：関数とグラフ

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：関数による表現の理解とグラフの描画ができるかどうか。

〈第5講〉

概要：図形

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：図形における計算ができるかどうか。

〈第6講〉

概要：論理問題

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：論理問題の理解・解答ができるかどうか。

〈第7講〉

概要：確率

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：確率問題の計算・解答ができるかどうか。

〈第8講〉

概要：認定テスト

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：これまでの講義内容についてのテストを行う。不合格であった場合は、後半の授業に出席し、学期末の認定テストを受験しなければならない。

〈第9～14講〉

グループ学習

〈第15講〉

まとめ

■教科書

特になし

■指定図書

中学・高校の数学の教科書

『社会科学系の数学入門』若尾良男、水谷昌義共著 ムイスリ出版

『高校数学がまるごとわかる』間地秀三著 ベレ出版

『文系数学超入門』大川隆夫他著 学術図書出版社

『経済学と数学がイッキにわかる』石川秀樹著 学習研究社

『計算力が身に付く数学基礎』佐野公朗著 学術図書出版社

『まんがDE入門経済数学』西村和雄著 日本評論社

■参考文献

特になし

■評価方法

成績評価は、80%以上の出席を単位取得の条件とし、その上で試験(90%)、平常点(10%)により評価する。

注)遅刻・早退は欠席扱いとする。電車の遅延や病欠などの際には、遅延証明書・診断書を提出すること。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

クラスは自分が割り当てられたクラスを確認の上、そのクラスで履修すること。

授業中の私語、飲食、携帯電話操作、ノートPC操作、帽子・サングラス着用等禁止する。

科目名 ビジネススキル基礎Ⅰ〔Business Skills Basic Ⅰ〕

担当教員 井上 良弘

■講義目的

国際的に通用する真の意味での「交渉力」強化の必要性が増大しています。にもかかわらず、日本ではこの研究が遅れています。実利より精神の高尚さを重んじる「武士は食わねど高楊枝」的な風土や、士農工商以来の「商売」に対する蔑視感情があるのかもしれません。

経済のグローバル化に伴ってその必要性がますます高まっています。また、日常を楽しく生きるうえでも、問題解決力や課題達成力としての交渉術は必要なのです。

（授業内容）

（１）VTRを見たり、学生同士で実際に交渉したりしながら学習します。

（２）交渉のプロセスを８つの要素に分解して理解します。

1) ゴール設定、2) ニーズ創出、3) 価値ポジショニング、4) 期待値調整、5) 駆け引き、6) 合意形成、7) 自己演出、8) 人脈形成。

■講義分類

交渉力／プレゼンテーション力／問題解決力／提案力／顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／社会人育成／

■到達目標

「相手を出し抜く技としての交渉術」というネガティブなものではなく、自分方と相手方の双方が満足できる着地点を見出し、問題を解決する力としての交渉ができるようになる。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習なし〕

■講義の概要

〈第1講〉オリエンテーション。授業の進め方について。

（予習、復習のポイント）

復習：問題と課題の違いを理解する。

〈第2講〉社会人基礎力について。

（予習、復習のポイント）

復習：社会人基礎力の「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」について理解する。

〈第3講〉交渉力について。

（予習、復習のポイント）

復習：交渉力の必要性と「交渉の基本概念」について理解する。

〈第4講〉ケース研究Ⅰ 交渉の体験。

（予習、復習のポイント）

復習：ケース研究Ⅰを思い出し、交渉力の8つの構成要素の①「ゴール設定」②「ニーズ創出」について理解する。

〈第5講〉質問技法。

（予習、復習のポイント）

復習：状況質問・問題質問を、限定質問と拡大質問で作成できるようにする。

〈第6講〉ケース研究Ⅱの①「ゴール設定」。

（予習、復習のポイント）

復習：ケース研究Ⅱの①を思い出し、状況質問・問題質問によって得られた情報を整理する。

〈第7講〉ケース研究Ⅱの②「ニーズ創出」。

（予習、復習のポイント）

復習：ケース研究Ⅱの②を思い出し、ニーズに対する提供物を整理する。

〈第8講〉ケース研究Ⅱの③「提案書の作成とプレゼンテーション」。

（予習、復習のポイント）

復習：ケース研究Ⅱの③を思い出し、交渉のシナリオと結果を味わう。

〈第9講〉交渉力の8つの構成要素。

（予習、復習のポイント）

復習：交渉力の8つの構成要素の①「ゴール設定」②「ニーズ創出」③「価値ポジショニング」④「期待値調整」⑤「駆け引き」⑥「合意形成」について理解する。

〈第10講〉ケース研究Ⅲの①「ゴール設定」。

（予習、復習のポイント）

復習：ケース研究Ⅲの①を思い出し、状況質問・問題質問によって得られた情報を整理する。

〈第11講〉ケース研究Ⅲの②「ニーズ創出」。

（予習、復習のポイント）

復習：ケース研究Ⅲの②を思い出し、ニーズに対する提供物を整理する。

〈第12講〉ケース研究Ⅲの③「提案書の作成とプレゼンテーション」。

（予習、復習のポイント）

復習：ケース研究Ⅲの③を思い出し、交渉のシナリオと結果を味わう。

交渉力の8つの構成要素の①「ゴール設定」②「ニーズ創出」③「価値ポジショニング」④「期待値調整」⑤「駆け引き」⑥「合意形成」⑦「自己演出」⑧「人脈形成」について理解する。

〈第13講〉交渉の体験。または「交渉に臨む心構え」を作成。

（予習、復習のポイント）

復習：作成物に対するコメントを参考に修正・加筆しておく。

〈第14講〉発表会・提出、総復習。

（予習、復習のポイント）

復習：自分の発表や他人の発表を思い出しながら、再度味わう。テストに備えて、交渉のイメージや8つの要素、状況質問・問題質問、限定質問・拡大質問などをおさらいしておく。

〈第15講〉テスト。

（予習、復習のポイント）

復習：テストを振り返り、交渉のイメージや8つの要素、状況質問・問題質問、限定質問・拡大質問などをおさらいし、今後の交渉に備える。

■教科書

テキストや教材は配布する。

■指定図書

なし。

■参考文献

ロジャー・フィッシャー ウィリアム・ユリー 『ハーバード流 交渉術』

三笠書房・知的生きかた文庫

■評価方法

評価基準を踏まえて総合的に相対評価する。

■評価基準

(1) 作成物と発表の品質（４０％） (2) 出席（３０％） (3) テスト（３０％）

相対評価

■事前履修科目等

なし。

■卒業年次生対象再試験の実施

なし。

■留意点

ゲーム感覚のケーススタディによってスキルが身につくように工夫されていますので、積極的に参加すること。「わかった」だけでなく「できるようになった」をめざす。

科目名 ビジネススキル基礎Ⅱ(Business Skills Basic Ⅱ)

担当教員 井上 良弘

■講義目的

私たちはいろいろな問題に直面し、それを解決しながら生きている。問題を認識し、原因を見つけ、対策案を考える。いくつかある案の中から1つを選ぶ意思決定をする。それを何気なくやっている。失敗することも多い。

それを合理的にやる方法はないのだろうか。失敗をできるだけ防ぐ方法はないのだろうか。実は、ある。それをマスターして、快適な人生にしよう。

VTRを見たり、モデル事例を解いたりしながら学習します。

(例)

- 1)「今、私がやらなければならないことは何だろうか」
- 2)「マイカーを購入しようとしている。最適な車種は何だろうか」
- 3)「同じような生活をしているのにA君は、いつもいい成績をとる。どうしてだろうか」
- 4)就職するにあたって、私はどういう会社を選択したらいいのだろうか」
- 5)「好きな人を射とめたい。どうしたらいいだろうか」

■講義分類

問題解決力／意思決定力／プレゼンテーション力／提案力／顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／社会人育成／

■到達目標

自分の問題の状況分析や問題分析、決定分析、リスク分析が、ワークシートを活用して効率的にできるようになる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習なし〕

■講義の概要

〈第1講〉オリエンテーション。 問題解決・意思決定の概要(1)(VTR、解説)。

〈予習、復習のポイント〉

復習：問題と課題の違いを理解する。

〈第2講〉社会人基礎力について。問題解決・意思決定の概要(2)(VTR、解説)。

〈予習、復習のポイント〉

復習：社会人基礎力の「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」について理解する。

〈第3講〉決定分析の解説。

〈予習、復習のポイント〉

復習：決定分析のワークシートの作成の仕方を見る。

〈第4講〉決定分析の研究。

〈予習、復習のポイント〉

復習：ケーススタディ「志望校の決定」の自分の作成物とサンプルを味わいながら、決定分析ができるようになる。

〈第5講〉状況分析の解説。

〈予習、復習のポイント〉

復習：状況分析のワークシートの作成の仕方を見る。

〈第6講〉状況分析の研究。

〈予習、復習のポイント〉

復習：ケーススタディ「学生生活の重要課題」の自分の作成物とサンプルを味わいながら、状況分析ができるようになる。

〈第7講〉問題分析の解説。

〈予習、復習のポイント〉

復習：問題分析のワークシートの作成の仕方を見る。

〈第8講〉問題分析の研究。

〈予習、復習のポイント〉

復習：ケーススタディ「白い航跡」の自分の作成物とサンプルを味わいながら、問題分析ができるようになる。

〈第9講〉リスク分析の解説。

〈予習、復習のポイント〉

復習：リスク分析のワークシートの作成の仕方を見る。

〈第10講〉リスク分析の研究。

〈予習、復習のポイント〉

復習：事例「富士山登山」や「ビジネスコンテスト」を味わいながら、リスク分析ができるようになる。

〈第11講〉状況分析・総合研究。

〈予習、復習のポイント〉

復習：ケーススタディ「樹庵の重要課題」の自分の作成物とサンプルを味わいながら、状況分析ができるようになる。状況分析と他の3つの分析の関連を理解する。

〈第12講〉4つの分析課題の復習。

〈予習、復習のポイント〉

復習：状況分析・問題分析・決定分析・リスク分析の事例を味わいながら、4つの分析の手順を完全に理解する。

〈第13講〉実務適用。

〈予習、復習のポイント〉

復習：実務適用作成物に対するコメントを参考に修正・加筆しておく。

〈第14講〉発表・提出、総復習。

〈予習、復習のポイント〉

復習：自分の発表や他人の発表を思い出しながら、再度味わう。テストに備えて、4つの分析のプロセスとワークシートの作成方法をおさらいしておく。

〈第15講〉テスト。

〈予習、復習のポイント〉

復習：テストを振り返り、4つの分析のプロセスとワークシートの作成方法をおさらいし、今後の「問題解決」に備える。

■教科書

テキストや教材は配布する。

■指定図書

なし。

■参考文献

- 1) 飯久保廣嗣 『日本流・ロジカル思考の技術』 PHP ビジネス新書
- 2) 飯久保廣嗣 『問題解決力』 日経ビジネス人文庫
- 3) クイン・スピッツァー ロン・エバンス 『問題解決と意思決定』 ダイアモンド社

■評価方法

評価基準を踏まえて総合的に相対評価する。

■評価基準

- (1) 作成物と発表の品質 (40%)
- (2) 出席 (30%)
- (3) テスト (30%)

相対評価

■事前履修科目等

なし。

■卒業年次生対象再試験の実施

なし。

■留意点

ゲーム感覚のケーススタディによってスキルが身につくように工夫されていますので、積極的に参加すること。「わかった」だけでなく「できるようになった」をめざす。

科目名

ビジネス戦略Ⅰ[Business StrategyⅠ]

担当教員

志賀 敏宏

■講義目的

産業社会におけるビジネス戦略の実際を知り、それを経営戦略理論及びマネジメント理論で分析・理解し、将来直面するビジネス課題について、上記理論に基づき解決できる人材となる道を歩み出すこと。

社会に出て5年後くらいには、事業・企業を成立させるために、企業の内外部環境に対していかに行動すべきかの作戦計画が立てられるようになることを目指す。すなわち、受講生のキャリア開発に直結する。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

産業社会における実際のビジネス、最前線事例を観察して、そこに存する経営戦略、マネジメント上の課題を抽出し、妥当な選択肢の候補を複数提案し、その提案理由を理論に基づき説明できること。

実際のビジネスにおける企業行動につき、その経営戦略、マネジメント上の判断につきき、理論的に妥当性を評価し、その理由を述べることができるようになるための、(自己)学習を本格化できること。

加えて、ビジネス戦略、ビジネス創造の背景にある企業家の「志」に敏感になること。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR(学外学習無)

■講義の概要

第1～11講は、主に経営戦略理論(企業がアウトプットすべき成果に向けての計画・行動能力とそのための外部環境[産業社会]の理解、第12、13講は、主にマネジメント理論(経営戦略でアウトプットすべきものを実現するための企業の内部環境整備)に関わる内容を取り扱う。

※以下、演習と記すのは、その回の講義全体が演習であることでなく、直前の部分が演習、受講生の能動的活動であることを示す。

(第1講)

概要：需要創造(基礎)

事前学習しておくべき用語やポイント[「ビジネス戦略入門」での検討事例ごとの「需要」の内容と「いかにしてそれを確保・創造したか」の復習]

詳細：事業成立の根本要件は需要の確保である。そのために、顧客のニーズを捉える、あるいは、需要を創造するための基本的な理論を学ぶ。ニーズは複数要素の集まりであること、誰が顧客であるかの認識が重要であること等、理論の出発点を学ぶ。

ニーズが果であることを説明する事例、需要を、顕在するニーズを超えた高次の機能で理解することに意味がある事例等を受講生自ら発見することを求める(演習)。

(第2講)

概要：需要創造(応用)

事前学習しておくべき用語やポイント[ターゲットのセグメンテーション。以下、原則として各回とも教科書1)の予習箇所を指示する]

詳細：顧客ニーズは、顧客ごとに多様であり、経時的に大きく変化しうること、それに対する対応の選択肢は複数あること、その選択が戦略意図、経営判断となること等を学ぶ。

加えて、顧客ニーズには相互作用があることも学ぶ。

これら顧客ニーズの特徴を具備する事例を受講生自ら発見することを求める(演習)。

(第3講)

概要：需要創造(発展と陥穽)

事前学習しておくべき用語やポイント[顧客ニーズを読み解いた事例例示]

詳細：前二講をまとめ、顧客ニーズの捉え方、需要創造に関する方法論を学び、市場の不確実性に応じた選択可能な方法論を考える。関連事例を探究(演習)。

合わせて、顧客・市場のニーズの見取りの類型とその結果、それを選別するための留意点を学ぶ。

現存する製品・サービス・事業について、顕在前にいかしてその需要の存在を洞察したかを想像、推測する(演習)。

(第4講)

概要：競争優位(基礎)

事前学習しておくべき用語やポイント[競争優位、差別化]

詳細：競争優位を考える出発点として、競争相手が誰かを考える必要があることから知る。競争相手には、顕在する相手、潜在する相手、また、企業家が選択する側面があることも理解する。関連知識として、ポーターのファイブフォース・モデルを紹介する。

身近な商品、現存する商品について、多面的に競争相手を想像、想定する(演習)。

(第5講)

概要：競争優位(応用)

事前学習しておくべき用語やポイント[四つの差別化]

詳細：差別化の方法とその武器を学ぶ。製品、価格、サービス、ブランド差別化とその方法、武器、優劣について学ぶ。また、そのサイクル等略系列においていかに考えるべきかを検討する。

差別化のための武器、資源投入についての知見も修得する。

身近な商品、現存する商品について、差別化の方法・武器を想像、想定する(演習)。

(第6講)

概要：競争優位(発展と陥穽)

事前学習しておくべき用語やポイント[ビジネスシステム]

詳細：差別化を有効、効率的に継続するためには、それは仕組化(ビジネスシステム)とする必要がある。ビジネスシステムによる差別化の実現を学ぶ。

加えて、差別化に対する競争相手の反撃に対する対応策について考える。

ビジネス戦略入門で検討した老舗等について、そのビジネスシステム構築の意義を考える(演習)。

さらに、競争に加重に陥倒すること内在する危険―顧客満足軽微や短期収益の過剰評価についても触れる。

(第7講)収益確保(基礎)

概要：収益確保を考える際の基本となる損益分岐点分析と学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント[損益分岐点]

詳細：いかに需要を確保し、競争優位を構築しても、収益を確保できなければ、事業を継続することは不可能である。収益確保に関し、極めて基本的な概念である損益分岐点、固定費、変動費について、他者に説明できるレベルまで理解・納得し、実践でそれを応用できるよう修得する。

事業事例を想定し、損益分岐点を求め、できれば、その分岐点に達する方法を検討する(演習)。

なお、様々な投入に関する生産性概念についても理解を醸成する。

(第8講)収益確保(応用)

概要：収益確保と並行して検討すべきビジネスシステムについて学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント[ビジネスシステム]

詳細：収益を確保するためのビジネスの流れ―企業内部活動の流れと外部との価値交換の仕組み、すなわち、ビジネスシステムについて、その考え方を修得する。

ビジネスに関する役割分担、自ら何をすべきかの引きが大切であることを学ぶ。

一見、同じ製品・サービスを事業化しているのを見てもビジネスシステムと収益源が全く異なることがあることも学ぶ。

現存するビジネスについて、そのビジネスシステムの図式化を行う(演習)。

(第9講)収益確保(発展と陥穽)

概要：ビジネスシステムとの意義

事前学習しておくべき用語やポイント[学習、資源の多重利用可能性]

詳細：ビジネスシステムを学識にすることにより、従業員・経営者の学習内容が定まり、資源の多重利用可能性等が確立されうること学ぶ。斯くして、ビジネスシステムの明確化が企業の長期的発展に重要な意義を持つことを知る。

加えて、過去のビジネスモデルの淘汰が、企業の衰退の要因となり、あるいは再生の足かせとなることを学ぶ

現存するビジネスについて、そのビジネスシステムが規定する学習、資源の多重利用性、生じる可能性のある弊害について想像する(演習)。

(第10講)

概要：戦略立案に資する手法の学び

事前学習しておくべき用語やポイント[SWOT分析、PPM分析]

詳細：外部環境、内部資源の長短を分析するSWOT(Strength, Weakness, Opportunities, Threats)分析、製品の誕生から衰退に及んだ対応を考える製品のライフサイクル戦略、多角化事業に及んだ収益期待と投資戦略を立案するPPM(Product Portfolio Management)について学ぶ。

身近な製品、例えば、スマートフォンにおいて当初とるべき戦略とはほぼ普及しつくするに取るべき戦略について検討する(演習)。

(第11講)

概要：戦略立案に資する近時の重要概念

事前学習しておくべき用語やポイント[ネットワーク外部性、製品アーキテクチャー]

詳細：戦略立案のために、特に現在の製品・市場・競争環境において理解活用することが重要となっている概念として、ネットワーク外部性、標準化、知的財産論、及び製品アーキテクチャーを学ぶ。

消費者としての受講生の商品選択等に直結していることを理解し、受講生自身による事例分析を行う(演習)。

(第12講)

概要：動機づけについて学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント[内発的動機づけ]

詳細：組織が機能するための必須の条件である動機づけについて学ぶ。内発的動機づけの理論、動機づけ－衛生理論等を学び、その実態・原因とあるべき姿を考える。

かつソニーで愛玩ロボットAIBOやCD規格開発のリーダーであった土井忠利や東芝で日本語WP開発リーダーであった元常務取締役森健一の事例から学ぶ。

(第13講)

概要：リーダーシップについて学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント[リーダーシップ]

詳細：はじめに、リーダーシップの責務、リーダーとしての行動論、メンバーに働きかける行動論、リーダーによる仕組みづくり(管理構造)の理論について理解する。

続いて、実際のリーダーの行動として、日本で最後の四輪自動車の本格製造企業を起こした本田宗一郎、メモリからMPU企業への転換を果たしたアンドリュージュロップ等のリーダーとしての発言・行動を学ぶ。

合わせて、リーダーシップと密に関連する、企業理念・文化についての意義を理解する。

(第14講)

概要：いくつかの戦略論の特徴、位置づけを学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント[可能なら、2)参考文献の第1部を予習のこと。]

図1-5を概ね理解できることを目指す]

詳細：経営戦略論の類型：戦略計画学派、創発戦略学派、ポジショニング・ビュー、リソース・ベースト・ビュー、ゲーム論的アプローチを学ぶ。ビジネス戦略論の歴史性や多様性を知り、実践をベースとしつつビジネス戦略の理論を学ぶ楽しさや意義を体感できるとある。

(第15講)

概要：まとめと今後の学びの羅針盤

事前学習しておくべき用語やポイント

[本講義全体から理解しにくかった点、深掘りしたい点を抽出しておく]

詳細：本講全体の要点とその関係のまとめを講義する。また、残った疑問に関する質疑を行い、受講生の疑問を解消する。

合わせて、ビジネス戦略入門との繋がりを確認し、本講義での学びを深めるための関連科目や参考書を紹介する。

さらに、ビジネス戦略Ⅱの概要を説明し、今後の学びへの誘いとする。

■教科書

1) 伊丹 敬之 (2012) 『経営戦略の論理 第4版』, 日本経済新聞出版社

適宜、補足・追加資料を紹介・配付する

■指定図書

特になし

■参考文献

伊丹 敬之他 (2012) 『ケースブック 経営戦略の論理 全面改訂版』, 日本経済新聞出版社

2) 沼上 幹 (2009) 『経営戦略の考え方』, 日本経済新聞出版社

■評価方法

(1)通常点 (授業中の積極的発言、演習への参画と結果発表等 :40点)

+ 期末試験 :60点 = 計100点。詳細は第一回目講義にて説明。

※受講者数等、諸状況により期末試験を期末レポートまたは

複数回のミニレポートにて代替する可能性あり。その場合は、学期半ばまでにそれを授業中に伝達する。

メ切を過ぎたレポート未提出者に対して、督促せず得点を0とすることがあるので、十分留意すること。期末レポートのメ切を守れない場合は、極力事前にメールにて連絡すること。(2)期末試験受験またはレポート提出に加え、以下が単位取得に関する条件である。

5回以上の欠席で、原則として評価はF(遅刻は20分まで、それ以降は欠席扱い)。

※交通機関の遅れ(過半数が影響するような大規模な乱れを除く)や体調不良による場合も遅刻扱いとするので、余裕を持って受講すること。

※病気による長期欠席等、特段の事情がある場合には、可能な時点で極力早期にメールにて連絡すること。事情によって対応を考える。

■評価基準

相対評価

①積極的発言

授業内容に関する不明点の質問等、特段に高度な内容に限らず評価します。ただし、自分なりの回答を全く考えようとしない場合は評価できません。もちろん、ユニークなアイデア、自らの情報収集に基づく授業内容を補足する有効な情報提供や意見、他の受講生に対するアドバイス等を高く評価します。

②演習への参画と発表

目的意識を持って取り組んでいること。演習がGWの場合は、適宜リーダーシップを持ってグループワークに参加していること。演習結果の発表において、目的意識や検討結果を積極的に発表すること。

③期末試験

講義内容の基本的知識や理論を理解していること。さらにそれを応用できることを評価します。知識や理論がどんな事例のどのような経緯・判断と結びついているか等の思考を特に重視します。

④レポート

期末試験の評価基準に加え、自主的な情報収集・学習状況、日本語の文章力(語彙の選択、分かり易い構文、全体の論理構成、項番・見出し・段落分け等読みやすさへの配慮他)を評価します。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

欠席した場合には、友人から必要な情報・資料収集を行うこと。どうしてもそれが困難で必要と判断した場合には、担当教員に相談のこと(原則メールにて)。

科目名 ビジネス戦略Ⅱ(Business Strategy Ⅱ)

担当教員 志賀 敏宏

■講義目的

産業社会におけるビジネス戦略に関し、ビジネス戦略Ⅰでの個別ビジネス創造に加える議論として、全社における事業構造転換、イノベーション、事業のグローバル展開について、その実態の概要を知り、関連理論の要点を学ぶ

将来、企業・社会における中堅層以上となった場合に、企業・社会の継続発展、存続のために、変化を利用する、変化を起こすことができる人材となるために重要な科目である。すなわち、受講生の中長期的なキャリア開発のために必須の内容となる。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス

■到達目標

全社の事業構造転換の必要性和実現のための課題、及びその克服の実態を知る。環境変化に適應、あるいは、環境創造に資する製品や事業構造のイノベーションの実態と理論を知る。日本企業のグローバル展開に関する近時の動向の一端を知る。加えて、事業構造転換、イノベーション、グローバル展開等の困難な変化を主導するリーダーの「志」の気高さを理解すること。

これらについて、事実を引用しながら、自らの言葉で大学入学者に語れるレベルを目指す。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR[学外学習無し]

■講義の概要

第1～3講は事業構造転換、第4～8講はポスト産業資本主義とイノベーションの理論と実践、第9～12講は日本における大型イノベーション事例、第13、14講は日本企業のグローバル展開に関わる内容を取り扱う。

※以下、演習と記すのは、その回の講義全体が演習であることでなく、直前の部分が演習、受講生の能動的活動であることを示す。

〈第1講〉

概要：事業構造の検討(理論)

事前学習しておくべき用語やポイント[多角化]

詳細：企業が全体として環境変化に適應・超越して生き残り、成長するために必要となる事業構造の構築・転換に関する理論を学ぶ。範囲の経済、リスク分散、選択と集中、PPM、「企業の境界書き換え」等の理論とその意義を理解する。

受講生自ら、多角化、事業構造転換の成功/失敗事例を見出すことを求める(演習)。

〈第2講〉

概要：事業構造の検討(事例研究1)

事前学習しておくべき用語やポイント[GE、ジャック・ウェルチ]

詳細：事業構造転換の典型事例として、日本の電機企業(日立、ソニー等)、GE、インテルの多角化や事業構造転換の経緯と意思決定、構造転換に伴う障害とその克服の実態を知る。また、日本における業界を超えた事業構造転換事例として、富士フイルムの事例を学ぶ。

いずれについても、経緯を知り、意思決定とその結果を知るだ

けでなく、企業家の認識、意思決定、行動等から受講生各々が教訓を得ることを重視する(演習)。

〈第3講〉

概要：事業構造の検討(事例研究2)

事前学習しておくべき用語やポイント[インテル、戦略転換]

詳細：第2講の継続。

〈第4講〉

概要：ポスト産業資本主義を学ぶ(理論)

事前学習しておくべき用語やポイント[(ビジネス・経営における)差異化]

詳細：1960年以降の日本の経済成長と停滞を振り返り、日本が産業資本主義時代からポスト産業資本主義時代に移行していることを知る。加えて、ポスト産業資本主義時代のビジネス活動に求められる活動の原則―差異化のあり方を学ぶ。

なお、産業資本主義国とポスト産業資本主義国において、経済、社会に存在する違いを受講生自身が見出すことを求める(演習)。

〈第5講〉

概要：ポスト産業資本主義時代に適應した企業を知る

事前学習しておくべき用語やポイント[シリコンバレー]

詳細：グーグル、アップル、その他シリコンバレーにある企業、韓国企業、中国企業、日本企業を比較することにより、ポスト産業資本主義にある環境に適應、環境を創造する企業とそうでない企業の違いを学ぶ。

受講生自身に、「日本企業がポスト産業資本主義に適應するためには、どうした変化が必要か」を発想することを求める(演習)。

〈第6講〉

概要：イノベーションとは何か(理論とモデル)

事前学習しておくべき用語やポイント[不確実性]

詳細：教科書1)に基づき、イノベーションの意義及びその中核をなすのはいかなるプロセスかを学ぶ。ここでは、担当教員の考え方である二元論に基づくイノベーションモデルを説明する。また、このモデルにおけるプロセスの実行の際に直面する不確実性とその克服について理解を進める。

受講生による興味深いイノベーション事例の抽出及び抽出理由の説明を求める(演習)。

〈第7講〉

概要：イノベーション事例研究(1)

事前学習しておくべき用語やポイント[ペニシリン、トランジスタ]

詳細：同前1)に基づき、ペニシリン、電導性ポリマー、トランジスタ、高分子質量測定イノベーション事例を検討する。第6講で示したイノベーションモデルでの理解・説明の意義を示す。

受講生によるイノベーション事例の本モデル(イノベーションダイアグラム)を用いた記述を求める(演習)。

〈第8講〉

概要：イノベーション事例研究(2)とマネジメントへの示唆
事前学習しておくべき用語やポイント[ウォークマン、ポストイット]

詳細：第7講と同様に、ウォークマン、ポストイット、イン

テルのMPU企業化、CD-R、東芝フラッシュメモリの事例を検討する。

加えて、事例研究から帰納できるマネジメントへの示唆を検討する。

受業生によるイノベーション事例の本モデル（イノベーションダイアグラム）による記述を求める（演習）。

〈第9講〉～〈第12講〉

概要：日本における大型イノベーションから学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント〔下記事例の概要を把握しておくこと〕

詳細：東海道新幹線、VHS-VTR、アリエント、iモード、アイボ、LINE(開発企業はNHN Japan)等の事例から、イノベーションのプロセス、障害・抵抗やその克服、実行資源調達、成功/失敗要因、成功確率、リーダーシップ、組織マネジメント、経済・社会的意義等を学ぶ。

受講生自ら教訓を抽出し、他者に自分の言葉で、事例も合わせて説明できるようになることを求める（演習）

〈第13講〉

概要：日本企業におけるグローバル展開（1）

事前学習しておくべき用語やポイント〔海外直接投資〕

詳細：グローバル展開の動機、ビジネス要素の国際移動、国のポर्टフォリオ選択、経営資源の移転と空洞化・摩擦、経営の政治化と為替変動への対応等の論点の存在とその意味を知る。

受講生自ら、論点とその概要を列挙できるようになることを求める（演習）。

〈第14講〉

概要：日本企業におけるグローバル展開（2）

事前学習しておくべき用語やポイント〔ブラザー工業、コマツ、ダイキン工業〕

詳細：トヨタ自動車、ブラザー工業、コマツ、ダイキン工業、セブンイレブン・ジャパン、ヤマト運輸等のグローバル展開を知る。それらの経緯や第13講で学んだ論点での分析を行う。受講生自ら、各論点で分析、説明を試みることを求める（演習）。

〈第15講〉

概要：まとめと今後の学びの羅針盤

事前学習しておくべき用語やポイント

〔本講義全体から理解しにくかった点、深掘りしたい点を抽出しておく〕

詳細：本講義全体の要点とその関係のまとめを講義する。また、残った疑問に関する質疑を行い、受講生の疑問を解消する。合わせて、ビジネス戦略論入門、ビジネス戦略論Ⅰを含めた本講義の体系全体の要点をレビューする。

さらに、大学における今後の学び、加えて、社会で活躍するために必要となる本講義の延長線上にある課題や学びのガイドラインを述べる。

■教科書

1) 志賀敏宏 (2012) 『イノベーションの創発プロセス研究』, 文真堂

■指定図書

特になし

■参考文献

岩井克人 (2009) 『会社はこれからどうなるのか』, 平凡社
アンドリュース・S・グロブ (1997) 『インテル戦略転換』, 七賢出版

伊丹敬之・加護野忠男 (2003) 『ゼミナール 経営学入門 第3

版』, 日本経済新聞社

■評価方法

(1) 通常点 (授業中の積極的発言、演習への参画と結果発表等 :40点)

十期末試験 :60点＝計100点。詳細は第一回目講義にて説明。

※受講者数等、諸状況により期末試験を期末レポートまたは複数回のミニレポートにて代替する可能性あり。その場合は、学期半ばまでにそれを授業中に伝達する。

メ切を過ぎたレポート未提出者に対して、督促せず得点を0とすることがあるので、十分留意すること。期末レポートのメ切を守れない場合は、極力事前にメールにて連絡すること。

(2) 期末試験受験またはレポート提出に加え、以下が単位取得に関する条件である。

5回以上の欠席で、原則として評価はF (遅刻は20分まで、それ以降は欠席扱い)。

※交通機関の遅れ (過半数が影響するような大規模な乱れを除く) や体調不良による場合も遅刻扱いとするので、余裕を持って受講すること。

※病気による長期欠席等、特段の事情がある場合には、可能な時点で極力早期にメールにて連絡すること。事情によって対応を考える。

■評価基準

相対評価

①積極的発言

授業内容に関する不明点の質問等、特段に高度な内容に限らず評価します。ただし、自分なりの回答を全く考えようとしていない場合は評価できません。もちろん、ユニークなアイデア、自らの情報収集に基づく授業内容を補足する有効な情報提供や意見、他の受講生に対するアドバイス等を高く評価します。

②演習への参画と発表

目的意識を持って取り組んでいること。演習がGWの場合は、適宜リーダーシップを持ってグループワークに参加していること。演習結果の発表において、目的意識や検討結果を積極的に発表すること。

③期末試験

講義内容の基本的知識や理論を理解していること。さらにそれを応用できることを評価します。知識や理論がどんな事例のどういう経緯・判断と結びついているか等の思考を特に重視します。

④レポート

期末試験の評価基準に加え、自主的な情報収集・学習状況、日本語の文章力 (語彙の選択、分かり易い構文、全体の論理構成、項番・見出し・段落分け等読みやすさへの配慮他) を評価します。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

欠席した場合には、友人から必要な情報・資料収集を行うこと。どうしてもそれが困難で必要と判断した場合には、担当教員に相談のこと (原則メールにて)。

科目名 ビジネス戦略入門〔Business Strategy Principle〕

担当教員 志賀 敏宏

■講義目的

産業社会におけるビジネス創造、ビジネス活動の実際を、身近なものとしてイメージできるようになること。合わせて、ビジネス創造の基本である、需要確保、競争優位、収益確保の意義とその方法論の原則・基礎を学ぶ。

ビジネス創造の背景にある企業家の「志」を知る。志に基づくビジネス創造を興味深く感じられるようになること。

社会人基礎力のさらに基礎ともなる。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／地域ビジネス

■到達目標

- ①ビジネスにおけるバリューチェーン（活動の価値連鎖）を理解し、提示されたビジネスに関してバリューチェーンの概要を描けるようになる。
 - ②ビジネス創造の三つの条件が(i)需要確保、(ii)競争優位、(iii)収益確保であることを理解し、その意義とビジネスにおける実態を理解する。
 - ③需要確保に関する、パラダイム（土俵）転換・創造と顧客満足（顧客第一主義）及び顧客創造の実態を理解し、その具体的方法論について思考体験を持つ。
 - ④収益確保に関する、損益分岐点、生産性、ビジネスモデル（仕組・方法）の創造・転換の実態を理解し、その具体的方法論について思考体験を持つ。
- なお、競争優位については、主としてビジネス戦略Ⅰの課題とする。

■講義形態

- ・講義＋GD・GW・PR
- ・その他（レポート作成）〔学外学習無〕

■講義の概要

※以下、演習と記すのは、その回の講義全体が演習であることでなく、直前の部分が演習、受講生の能動的活動であることを示す。

〈第1講〉

概要：ビジネス活動の概要を知る－イントロダクション

事前学習しておくべき用語やポイント〔バリューチェーン〕

詳細：産業社会におけるビジネス活動を記述・分析するための、バリューチェーン＝ビジネス活動の価値連鎖の考え方を説明する。続いて製造業（自動車、エレクトロニクス等）、小売業（スーパー、コンビニエンスストア、ショッピングモール等）、サービス業（旅客輸送、宅配便、警備保障等）に関して、受講生がバリューチェーンを描く演習（個人/GW・PR）を行う。

〈第2講〉

概要：ビジネス創造の三条件－需要、競争、収益を考える

事前学習しておくべき用語やポイント〔損益分岐点、ビジネスモデル〕

詳細：ドラッカーは「企業の目的は顧客の創造である」1)とした。すなわち、需要確保（創造が理想）がビジネスの究極要件である。加えて、(ii)競争優位、(iii)収益確保がビジネス創造の三条件であることを理解する。逆にそれらが成立しなければ、ビジネスはどうなるかを考える（演習）。続いて、需要確保のための論点－パラダイム転換・創造と顧客満足・顧客創造、及び収益確保のための論点－損益分岐点、生産性、ビジネスモデルを学ぶ。さらに先回バリューチェーンを描いたビジネスの需要と収益を考える（演習）。

〈第3講〉

概要：ヤマト運輸の宅急便事例を学ぶ（1）

事前学習しておくべき用語やポイント〔宅急便 業務概要、小倉昌男『経営学』2)の指定箇所〕

詳細：ヤマト運輸の宅急便におけるビジネス創造の経緯を学ぶ。宅急便開始前の状況、ビジネス創造にあたっての小倉の「志」、宅急便開発の実務、宅急便の展開ビジネス（サービス多様化・進化）を時系列に把握する。合わせて、ビジネス創造の三条件に関する論点抽出とその内容検討を行う（演習）。

〈第4講〉

概要：ヤマト運輸の宅急便事例を学ぶ（2）

事前学習しておくべき用語やポイント〔ハブアンドスポーク、同前2)の指定箇所〕

詳細：第3講の続き。

〈第5講〉

概要：ビジネス創造の三条件を考える－宅急便事例検討（1）

事前学習しておくべき用語やポイント〔顧客満足（顧客第一主義）、全員経営〕

詳細：宅急便における、継続的に三条件を成立せしめる工夫とビジネス創造全体における成功要因のポイント、そこから得られるビジネス創造の要点についてグループワークを行う（演習）。

〈第6講〉

概要：ビジネス創造の三条件を考える－宅急便事例検討（2）

事前学習しておくべき用語やポイント〔サービス多様化、事業進化・深化〕

詳細：第5講の続き。

〈第7講〉

概要：ビジネス創造の三条件の検討結果発表（1）

事前学習しておくべき用語やポイント〔プレゼンテーションの方法論〕

詳細：5, 6講のグループワークの結果のプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションのために、要点の抽出、要点の順序づけ、読み上げでない発表方法、想定される質疑への対応準備等を身につけることも学ぶ。

〈第8講〉

概要：ビジネス創造の三条件の検討結果発表（2）

事前学習しておくべき用語やポイント〔プレゼンテーションの聞き方の方法論〕

詳細：5, 6講のグループワークの結果のプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションを有効に聞くために、問題意識の持ち方、因果の理解、意義の理解、質問方法、表現方法から教訓を得ることも学ぶ。

〈第9講〉

概要：セコムのセキュリティ事業を学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント〔事業環境、飯田亮『世界の…』3)の指定箇所〕

詳細：セコムにおけるセキュリティ事業におけるビジネス創造の経緯を学ぶ。ビジネス創造にあたっての飯田の「志」、セキュリティア事業企図の経緯、セキュリティ事業開始、セキュリティ事業の展開を時系列に把握する。合わせて、ビジネス創造の三条件に関する論点抽出とその内容検討を行う（演習）。

〈第10講〉

概要：ビジネス創造の三条件を考える－セキュリティ事業の事例検討

事前学習しておくべき用語やポイント〔機械警備〕

詳細：セキュリティ事業における、三条件を成立せしめる工夫とビジネス創造全体での成功要因とその継続的成長・展開のポイント、そこから得られるビジネス創造の要点について検討と発表を行う（演習）。

〈第11講〉

概要：徳島県上勝町のいりどり（葉っぱ）ビジネスを学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント〔事業機会〕

詳細:徳島県上勝町におけるいとりビジネス開発の経緯を学ぶ。ビジネス創造にあたってのリーダー横石の「志」、いとりビジネス企図の経緯、ビジネス開始、ビジネス展開を時系列に把握する。合わせて、ビジネス創造の三条件に関する論点抽出とその内容検討を行う(演習)。

〈第12講〉

概要: ビジネス創造の三条件を考えるーいとりビジネスの事例検討

事前学習しておくべき用語やポイント [POS: Point of Sales]

詳細: いとり事業における、三条件を成立せしめる工夫と事業開発全体の成功要因とその継続的成長・展開のポイント、そこから得られるビジネス創造の要点について検討と発表を行う(演習)。

〈第13講〉

概要: Apple の iPod 事業開発を学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント [ユーザーエクスペリエンス]

詳細: Apple における iPod 開発の経緯を学ぶ。iPod 企図の経緯、ハードウェア製品化、iTunes Music Store の展開等を時系列に把握する。合わせて、ビジネス創造の三条件に関する論点抽出とその内容検討を行う(演習)。

〈第14講〉

概要: ビジネス創造の三条件を考えるーiPod の事例検討

事前学習しておくべき用語やポイント [ネットワーク外部性]

詳細: iPod 事業における、三条件を成立せしめる工夫と事業開発全体の成功要因とその継続的成長・展開のポイント、そこから得られるビジネス創造の要点について検討と発表を行う(演習)。

〈第15講〉

概要: まとめと今後の学びの羅針盤

事前学習しておくべき用語やポイント

[本講義全体から理解しにくかった点、深掘りしたい点を抽出しておく]

詳細: 本講全体の要点とその関係のまとめを講義する。また、残った疑問に関する質疑を行い、受講生の疑問を解消する。合わせて、本講義での学びを深めるための関連科目や参考書を紹介する。

さらに、ビジネス戦略論Ⅰ、Ⅱの概要を説明し、今後の学びへの誘いとする。

■教科書

2) 小倉昌男 (1999) 『経営学』, 日経 BP 社

3) 飯田亮 (2007) 『世界のどこにもない会社を創る』, 草思社

■指定図書

特になし

■参考文献

1) P・F・ドラッカー (2008) 『マネジメント 上/中/下』, ダイアモンド社

高杉 良 (2000) 『挑戦つきることなし 小説ヤマト運輸』, 講談社文庫

小倉 昌男 (2007) 『[新装版]「なんてだろう」から仕事は始まる!』, PHP 研究所

横石知二 (2007) 『そうだ、葉っぱを売ろう!』, ソフトバンククリエイティブ

スティーブン・レヴィ (2007) 『iPodは何を変えたのか?』, ソフトバンククリエイティブ

■参考 URL

<http://www.kuronekoyamato.co.jp/company/30th/index.html>

■評価方法

(1) 通常点 (授業中の積極的発言、演習への参画と結果発表等 :40点)

+ 期末試験 :60点 = 計100点。詳細は第一回目講義にて説明。

※受講者数等、諸状況により期末試験を期末レポートまたは複数回のミニレポートにて代替する可能性あり。その場合は、学期半ばまでにそれを授業中に伝達する。

×切を過ぎたレポート未提出者に対して、督促せず得点を0

とすることがあるので、十分留意すること。期末レポートの×切を守れない場合は、極力事前にメールにて連絡すること。
(2) 期末試験受験またはレポート提出に加え、以下が単位取得に関する条件である。

5回以上の欠席で、原則として評価はF(遅刻は20分まで、それ以降は欠席扱い)。

※交通機関の遅れ(過半数が影響するような大規模な乱れを除く)や体調不良による場合も遅刻扱いとするので、余裕を持って受講すること。

※病気による長期欠席等、特段の事情がある場合には、可能な時点で極力早期にメールにて連絡すること。事情によって対応を考える。

■評価基準

相対評価

①積極的発言

授業内容に関する不明点の質問等、特段に高度な内容に限らず評価します。ただし、自分なりの回答を全く考えようとしていない場合は評価できません。もちろん、ユニークなアイデア、自らの情報収集に基づく授業内容を補足する有効な情報提供や意見、他の受講生に対するアドバイス等を高く評価します。

②演習への参画と発表

目的意識を持って取り組んでいること。演習がGWの場合は、適宜リーダーシップを持ってグループワークに参加していること。演習結果の発表において、目的意識や検討結果を積極的に発表すること。

③期末試験

講義内容の基本的知識や理論を理解していること。さらにそれを応用できることを評価します。知識や理論がどんな事例のどういう経緯・判断と結びついているか等の思考を特に重視します。

④レポート

期末試験の評価基準に加え、自主的な情報収集・学習状況、日本語の文章力(語彙の選択、分かり易い構文、全体の論理構成、項番・見出し・段落分け等読みやすさへの配慮他)を評価します。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

欠席した場合には、友人から必要な情報・資料収集を行うこと。どうしてもそれが困難で必要と判断した場合には、担当教員に相談のこと(原則メールにて)。

科目名 ビジネスソフトウェア活用(Business Software)

担当教員 トランスコスモス

■講義目的

現代社会においてはビジネス・日常の場を問わず、Excel(表計算ソフトウェア)の利用シーンが増加しており、社会人としていまや必要不可欠な知識・スキルとなりつつある。
本科目では、実務に即したデータを使用し、テキストに沿って操作演習を行いながら、Excel2010の操作スキルを習得する。

■講義分類

ビジネス ICT

■到達目標

- (1)企業での業務において、実践的に活用できるExcel2010の操作スキルを身につける
- (2)MOS(Microsoft Office Specialist) Excel2010スペシャリスト(一般)レベル※に相当するExcel2010の操作スキルを身につける
※Excel 2010 スペシャリスト(一般)レベル: 数式や基本的な関数の作成、セルの書式設定、グラフ作成など、Excelの基本的な操作を理解している

■講義形態

講義＋演習〔外学学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉Excel環境の管理

概要: ワークシート内を移動する/ワークシートやブックを印刷する/Backstageを使用して環境をカスタマイズする

事前学習しておくべき用語: 名前ボックス、クイックアクセスツールバー、リボン、インポート・エクスポート

詳細: 名前やショートカットキーでのワークシート内の移動、部分印刷などのワークシートやブックの印刷、バックステージビューを使ったコマンド登録やデータのインポート・エクスポート、ブックのプロパティ設定など、Excel環境の管理について学習する

〈第2講〉セルデータの作成

概要: セルのデータを作成する/オートフィルを適用する/ハイパーリンクを適用する、操作する

事前学習しておくべき用語: 貼り付けのオプション、形式を選択して貼り付け、オートフィル、ハイパーリンク

詳細: 形式を選択して貼り付けやオートフィルを使ったセルデータのコピー、ハイパーリンクの設定など、セルデータの作成について学習する

〈第3講〉セルやワークシートの書式設定①

概要: セルの書式を適用する、変更する/セルを結合する、解除する/列や行の見出しを作成する

事前学習しておくべき用語: セルの表示形式、セルの結合・結合解除、ヘッダー・フッター

詳細: セル内のデータの配置やセル結合、セルの表示形式、行列番号やヘッダー・フッターなどのページ設定について学習する

〈第4講〉セルやワークシートの書式設定②

概要: 列や行を表示する、非表示にする/ページ設定のオプションを操作する/セルのスタイルを作成する、適用する

事前学習しておくべき用語: ページ設定、セルのスタイル

詳細: 列や行の表示・非表示、セルのスタイルの適用などについて学習する

〈第5講〉ワークシートやブックの管理

概要: ワークシートを作成する、書式設定する/ウィンドウの表示を操作する/ブックの表示を操作する

事前学習しておくべき用語: 作業グループ、シート見出し、ブックの整列、表示モード、ユーザー設定のビュー

詳細: ワークシート名の変更、ワークシートの移動やコピー、作業グループ、ワークシートの分割、ブックの整列や表示モードの切り替えなど、ワークシートやブックの管理について学習する

〈第6講〉数式や関数の活用①

概要: 数式を作成する/優先順位を正しく理解する/数式にセル参照を適用する

事前学習しておくべき用語: 演算記号、計算の優先順位、相対参照と絶対参照

詳細: 優先順位を理解した数式の作成、修正、数式の相対参照や絶対参照について学習する

〈第7講〉数式や関数の活用②

概要: 数式に条件付き論理を適用する/数式に名前付き範囲を適用する/数式にセル範囲を適用する

事前学習しておくべき用語: 関数、名前の定義

詳細: 基本的な関数や条件付き論理の適用、名前付き範囲の適用について学習する

〈第8講〉視覚的なデータの表示①

概要: ワークシートのデータを使用してグラフを作成する

事前学習しておくべき用語: グラフの種類、グラフの要素

詳細: グラフの作成、修正について学習する

〈第9講〉視覚的なデータの表示②

概要: 図を適用する、操作する/画像編集機能を使用して画像を作成する、修正する/スパークラインを適用する

事前学習しておくべき用語: SmartArt、スクリーンショット、スパークライン

詳細: クリップアートやSmartArtグラフィックの挿入・変更、画像の編集、スパークラインの適用などについて学習する

〈第10講〉ワークシートのデータの共有 データの分析と整理①

概要: Backstageを使用してブックを共有する/コメントを管理する/データを抽出する

事前学習しておくべき用語: SkyDrive、コメント、データベース機能、フィルター

詳細: 電子メールやSkyDriveを使ったブックの送信、異なるバージョンのブックの保存、PDFファイル・XPSファイルの保存、コメントの挿入・編集・削除などワークシートのデータ共有について学習する

また、データの抽出や並べ替えについて学習する

〈第11講〉データの分析と整理②

概要: データを並べ替える/条件付き書式を適用する

事前学習しておくべき用語: 並べ替え、条件付き書式、データバー、カースケール、アイコンセット

詳細: データの並べ替え、条件付き書式の適用など、データの分析と整理について学習する

〈第12講〉総合演習①

模擬試験プログラムを利用して、習熟度の把握ならびに理解定着を図る

〈第13講〉総合演習②

模擬試験プログラムを利用して、習熟度の把握ならびに理解定着を図る

〈第14講〉総合演習③

模擬試験プログラムを利用して、習熟度の把握ならびに理解定着を図る

〈第15講〉期末定期試験

■教科書

『Microsoft Office Specialist Microsoft Excel2010 対策テキスト & 問題集』富士通エフ・オー・エム株式会社著 FOM 出版

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■評価方法

評価は、出席率70%以上の者に対し、期末定期試験(100%)

により行う

注)遅刻・早退は欠席扱いとする。電車遅延の際は遅延証明書を提出すること

■評価基準

絶対評価

期末定期試験100点満点中40点以上を合格とする絶対評価とする

A+ : 95点以上

A : 90点以上

B : 70点以上

C : 40点以上

F : 40点未満

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

私語、飲食、授業と関係のないPC操作、携帯電話操作、帽子・サングラス着用、その他履修態度としてふさわしくない行為を禁止する。また著しく履修態度の悪い者にはその後の出席ならびに期末試験の受験資格を認めないことがある。

科目名 ビジネス入門Ⅰ(Business Principle Ⅰ)

担当教員 小林 英夫

■講義目的

本講義は、多摩大学経営情報学部におけるキャリア形成科目の一つに位置付けられている。その目的は「職業観の醸成」である。

職業観がどのように醸成されるのかはケースバイケースであり、また、それは就学期全体を通して、また就業後も継続して形成されていくものであると考える。

本講義は、職業観が醸成される過程における主要な要素を、①「知識」 ②「能力」 ③「意思=志」の3点としてとらえ、これらの要素の基礎を学生諸君に伝えることを目的とする。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマナジメント／社会人力育成

■到達目標

- ・ビジネスとは何かを理解すること
- ・社会人としての基本的なビジネスの知識と能力を、学生生活を通じて身に付けていくための土台を築くこと
- ・自らが持つ職業観を理解し、学生生活での学習の方向性に対する指針を得ること

■講義形態

- ・講義 + GD・GW・PR
- ・その他(パネルディスカッション、ゲストスピーチ)(学外学習無)

■講義の概要

〈第1講〉イントロダクション

概要：働くことの意味と学生時代の意義

事前学習しておくべき用語やポイント[自分は学生生活で何を身に付けたか]

詳細： 職業の意味とその必要性について学ぶとともに、学生時代が持つ意義について考える。また、ビジネス社会で活躍するために必要となる能力とはどのようなものであるのかについて学び、本講義の狙いを理解する。

〈第2講〉ビジネス知識 1

概要：会社とは何か

事前学習しておくべき用語やポイント[自分の知人はどのような会社に勤めているか]

詳細： ビジネスを遂行する基本的主体である会社の定義、種類、経営の仕組み、組織の仕組みなどを学ぶ。また会社に雇われる労働者である従業員の種類やその違いについても学び、働き方について考える。

〈第3講〉ビジネス知識 2

概要：仕事にはどのようなものがあるか

事前学習しておくべき用語やポイント[自分の知人はどのような仕事をしているか]

詳細： 職業の種類やその内容にはどんなものがあるか、特に会社組織における部門や仕事、役職などによる業務の違いについて学ぶ。

〈第4講〉ビジネス知識 3

概要：業界にはどのようなものがあるか

事前学習しておくべき用語やポイント[自分の知人はどのような業界に関係しているか]

詳細： 会社はその事業内容により業種や業界といった分類

がなされる。どのような業界が存在し、それぞれの業界にはどのような特徴があるのかについて学ぶ。

〈第5講〉ビジネス知識 4

概要：ビジネス社会における常識

事前学習しておくべき用語やポイント[学生と社会人は何が違うか]

詳細： ビジネス社会においては「ビジネスマナー」と呼ばれる一般常識が存在する。その意味や具体的内容を学ぶことを通じて、自分が接する相手に対する思いやりの心を身に付ける。

〈第6講〉ビジネス知識 5

概要：会社の利益と社員の処遇

事前学習しておくべき用語やポイント[自分は年収幾らぐらいなら満足できるか]

詳細： 会社はどのように利益をあげているのか、社員はどのような人事制度のもとで働いて給料やその他の報酬を得ているのかについて学ぶ。

〈第7講〉ビジネス知識 6

概要：情報技術社会と現代病

事前学習しておくべき用語やポイント[SNSとは何か、炎上とはどういうことか]

詳細： 高度に情報通信技術が発達した現代はネット社会とも呼ばれる。少し前までは考えられなかったソーシャルネットワークが育ちビジネスが生まれる一方で、個人情報の漏洩や不意な情報発信といった社会問題も発生している。また社会環境は就労環境に起因する現代病も生まれている。これらについて学ぶ。

〈第8講〉ビジネス能力 1

概要：モチベーションと対自己能力

事前学習しておくべき用語やポイント[自分のやる気スイッチはどこにあるか]

詳細： モチベーションとは何か、その源泉はどこにあるのかを知り、自己の動機づけについて学ぶ。そして、自らの感情を制御し、自信を生み出し、行動を持続する力を身に付け、対自己能力を高められるようにする。

〈第9講〉ビジネス能力 2

概要：コミュニケーションと対人能力

事前学習しておくべき用語やポイント[試食すると買ってしまふことが多いのは何故か]

詳細： グループワークを通して、意見が分かれる問題に対する集団での意思決定のあり方や影響力の与え方を学ぶ。そしてビジネスにおけるコミュニケーションをめぐる課題を理解する。

〈第10講〉ビジネス能力 3

概要：思考力と対課題能力

事前学習しておくべき用語やポイント[男性用・女性用以外に何用シャンプーがあるか]

詳細： 論理的思考とは何かを学ぶとともに、実際のグループワークを通して与えられた課題に対して論理的に結論を導き、結果を説得することを行う。これにより、処理力・思考力・対課題能力を学ぶ。

〈第11講〉ビジネス能力 4

概要：ネットワークとソーシャルキャピタル

事前学習しておくべき用語やポイント[コネに頼ることは良いか悪いか]

詳細： 人と人とのネットワークに関する考え方と、それが生み出す社会的価値としてのソーシャルキャピタルについて学び、ビジネスにおいて人のつながりを保つことがどのような意義を持つのかについて考える。

〈第12講〉ビジネス能力5

概要： リーダーシップと飛躍的成長経験

事前学習しておくべき用語やポイント[今までに自分が成長したと思える経験は何か]

詳細： ビジネスにおける機能としてのリーダーシップについて理解し、自らの能力としてリーダーシップをどのように身に付けていくかについて考える。また、人間的成長が何からもたらされるかについて学び、自らの成長機会の創出を意識できるようにする。

〈第13講〉意思＝志1

概要： 国際社会と日本

事前学習しておくべき用語やポイント[日本製品と中国製品で思い浮かぶイメージは何か]

詳細： 日本という国は世界の中でどのような位置づけになるのか、それは過去どのように変わってきて現在どうなろうとしているのかを、為替や国際経済の仕組みと合わせて学ぶ。その上で、自らがその環境の下でどのような志を持って生きていくのかを考える。

〈第14講〉意思＝志2

概要： 日本型雇用慣行と職業志向

事前学習しておくべき用語やポイント[会社で定年まで勤めたいか、出世したいか]

詳細： 日本型雇用慣行というものはどのようなもので、それはどのように変わろうとしてきているのかを学ぶ。同時に、自身の職業志向について考え、ビジネス社会で自らがどのような志を持って生きていくのかを考える。

〈第15講(スケジュールが最終回にならない場合もある)〉意思＝志3

概要： ゲストによる講演

事前学習しておくべき用語やポイント[自分はどんな社会人になりたいか]

詳細： 社会において確固たる志を持った生き方をしている方をゲストスピーカーとして招き、その生き方を学ぶことを通じて、自らがこれからの世の中でどのような志を持って生きていくのかを考える。

* 講演日はゲストのスケジュールによるので、確定次第講義内で案内する。他の14回の講義スケジュールは、ゲスト講演の日程により変更される場合がある。

■教科書

特になし。

■指定図書

特になし。

■参考文献

講義内で適宜紹介する。

■評価方法

出席・授業貢献(50%)、期末定期試験(50%)

■評価基準

絶対評価

A+：90点以上

A：80点以上90点未満

B：70点以上80点未満

C：60点以上70点未満

F：60点未満

授業へ出席する事に加え、授業に臨む態度や建設的な意見・質問による講座の品質向上への貢献を評価する。グループワークやパネルディスカッションにおける発表者・発言者に対しては、内容を評価した上で加点を行う。

期末試験では、ビジネスに関する知識、能力の習得度とともに、ビジネス社会で活動していくことに対する意思が築かれつつあるかを評価する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名 ビジネス入門Ⅱ(Business Principle Ⅱ)

担当教員 金子 邦博

■講義目的

【儲けるを科学する「企業会計」を学ぶ】

本講義は、企業の会計の仕組みを初めて学ぶ人を対象に、企業活動の成果としての「儲け(利益)」を計算する「企業会計」の仕組みを学ぶことで、産業社会の実践的場において企業の儲けに結びつく行動を考えられるようになる実践的知識の獲得を目的としている。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

企業活動を営み出す会計情報の意義とその活用法についての基礎的な知識の習得すること。

■講義形態

講義のみ(学外学習無し)

■講義の概要

〈第1講〉 会計入門(1)

概要：利益を獲得するための企業活動の本質を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)企業活動の本質である取引の意義を理解する。

〈第2講〉 会計入門(2)

概要：企業活動の成果である利益獲得の仕組みを学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)利益獲得のための簿記としての会計情報の必要性を理解する。

〈第3講〉 I 会計の機能と制度

概要：会計の枠組みを学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)会計の定義、会計の種類などの諸概念を理解する

〈第4講〉 II 利益計算の仕組み

概要：企業会計のシステムを学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)発生主義会計における利益計算の考え方を理解する。

〈第5講〉 III 企業の営業循環

概要：企業の営業循環について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)企業が儲けを獲得するために行う営業循環の仕組みを理解する。

〈第6講〉 IV 資産と損益計算

概要：資産に関する会計処理を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)棚卸資産と固定資産の会計処理を理解する。

〈第7講〉 V 資産運用と資金調達

概要：余剰資金の運用の会計処理と資金調達について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)金融資産の会計処理とキャッシュ・フロー計算書、企業の資金調達方法を理解する。

〈第8講〉 VI 決算と税金

概要：会計情報を確定させる決算と企業が負担する税金について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)決算の仕組みと剰余金の配当、企業が負担する税金を理解する。

〈第9講〉 VII 企業活動と財務諸表(1)

概要：貸借対照表の構造を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)貸借対照表の基本構造と表示ルールを理解する。

〈第10講〉 VII 企業活動と財務諸表(2)

概要：損益計算書の構造を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)損益計算書の基本構造と損益割の利益計算構造を理解する。

〈第11講〉 VII 企業経営と会計情報

概要：企業経営における会計情報の利用を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)業務上の意思決定や設備投資計画における会計情報の利用を理解する。

〈第12講〉 IX 財務諸表の体系と公開

概要：企業会計のディスクロージャー制度を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)会計情報の開示制度を理解する。

〈第13講〉 X 会計情報の分析(1)

概要：収益性分析を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)財務分析の体系、収益性の分析指標の使い方を理解する。

〈第14講〉 X 会計情報の分析(2)、XI 外貨建取引

概要：安全性分析を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)安全性の分析指標の使い方と外貨換算の仕組みを理解する。

〈第15講〉 総まとめ

概要：問題演習を通じてこの講義の総復習をする。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：(復習のポイント)計算問題の解き方論議問題に対する答えのつくりかたを理解する。

■教科書

桜井久勝 『財務会計講義』 中央経済社

■指定図書

- [1] 谷武幸・桜井久勝 『1からの会計』 碩学舎・中央経済社
- [2] 桜井久勝・須田一幸 『財務会計・入門』 有斐閣
- [3] 上野清貴 『財務会計の基礎』 中央経済社
- [4] 稲盛和夫 『稲盛和夫の実学―経営と会計』 日本経済新聞社
- [5] 幸坊正記 『知識ゼロからの会計入門』 幻冬舎
- [6] 大阪商工会議所 『ビジネス会計検定 公式テキスト3級』 中央経済社

■参考文献

- [1] 後 正武 『あまりにやさしい会計の本』 ダイアモンド社
- [2] 山田英夫・山根節 『なぜ、あの会社は儲かるのか?』 日本経済新聞出版社
- [3] 山田英夫・山根節 『なぜ、あの会社は儲かるのか? ビジネスモデル編』 日本経済新聞出版社
- [4] 金子智朗 『同じモノを売っているのに、儲かっている会社、儲かっていない会社』 クロスメディア・パブリッシング

■参考URL

<http://faculty.tama.ac.jp/kaneko/>

■評価方法

期未定期試験の成績により評価する(100%)。ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受講態度に問題があった者に対しては、期未定期試験の成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

期未定期試験の成績が上記のこの講義の到達目標に達したと判断された者に単位を付与し、期未定期試験の得点順に成績評価する。相対評価

■事前履修科目等

この講義の受講に際して、特定の科目の単位取得は条件とはしない。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

この科目は、2013年度入学生に対する新設科目のため、2012年度以前の入学生は履修登録することができない。

科目名

Practical English ConversationI(Practical English Conversation I)

担当教員

チェン リサ ウェイイン

■講義目的

Using English in daily situations

日常生活に英語を使って

Topics covered:

introduction

jobs

shopping

family

exercise

hobbies

トピック:

自己紹介

仕事

買い物

家族

運動

趣味

■講義分類

communication / コミュニケーション

■到達目標

students will be able to role-play various practical situations in English

生徒が英語で各種実用的な状況をロールプレイすることができます

■講義形態

interactive, partner, group discussion

対話

パートナー

グループディスカッション[none]

■教科書

1. Student book "Interchange fourth edition" by Jack C. Richards

2. Work book "Interchange fourth edition" by Jack C. Richards

■指定図書

Student book "Interchange fourth edition" by Jack C. Richards

■参考文献

none

■評価方法

attendance 出席 20%

homework 宿題 20%

chapter test チャプターテスト 20%

attitude 態度 10%

speech 演説 10%

final test 最終試験 20%

■評価基準

上記要素を合算した100%を100点に換算し、

60点～69点 C

70点～79点 B

80点～89点 A

90点～100点 A+

■事前履修科目等

basic english knowledge

基本的な英語の知識

科目名

Practical English ConversationII(Practical Conversation II)

担当教員

チェン リサ ウェイイン

■講義目的

Using English in daily situations

日常生活に英語を使って

topics:

people

past experiences

places

health

ordering at restaurants

countries

トピック:

人

過去の経験

場所

健康

レストランでの注文

国

■講義分類

communication / コミュニケーション

■到達目標

students will be able to role-play various practical situations in English

生徒が英語で各種実用的な状況をロールプレイすることができます

■講義形態

interactive

partner

group discussion

対話

パートナー

グループディスカッション

□

■教科書

1. Student book "Interchange fourth edition" by Jack C. Richards

2. Work book "Interchange fourth edition" by Jack C. Richards

■指定図書

Student book "Interchange fourth edition" by Jack C. Richards

■評価方法

attendance 出席 20%

homework 宿題 20%

chapter test チャプターテスト 20%

attitude 態度 10%

speech 演説 10%

final test 最終試験 20%

■評価基準

上記要素を合算した 100% を 100 点に換算し、

60 点～69 点 C

70 点～79 点 B

80 点～89 点 A

90 点～100 点 A+

■事前履修科目等

basic english knowledge

基本的な英語の知識

科目名 プログラミング言語I(Programming Language I)

担当教員 中村 有一

■講義目的

本講義は、Java 言語によるプログラミングの入門コースである。将来SEなどを目指し、職業的なプログラミング技術を身につけたい学生には、この科目を受講することを強く勧める。Java 言語は、最近広く普及しているプログラミング言語であり、この言語を一通り習得していると、さまざまな場面に役に立つ。また「情報処理技術者試験」などの資格試験を受ける場合にも有効である。

授業は、基礎的なプログラミングの構造の説明と、その演習の繰り返しで行っていく。単元ごとにレポートの提出を求めるため、各自、空き時間にはしっかりと復習をすることが必要である。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

Java 言語を一通り使いこなせるようになることが最終目標である。

■講義形態

講義のみ〔外学学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉 Java 言語入門

概要：プログラム・プログラミング・プログラミング言語についての基礎知識を得る。

詳細：プログラムとは何か、なぜ必要かなど、プログラミングの基本となる考え方について説明する。プログラムを記述するための手段であるプログラミング言語について、一般的な知識を与える。また、プログラミング言語の1つである Java 言語について、その歴史的な発展の経過や、ほかの言語と比較した場合の特徴などについて論ずる。

予習用語：プログラム、プログラミング、コンパイル、コンパイラ、デバッグ、エラー、ウォーニング

〈第2講〉 開発環境の整備

概要：Java の開発環境を整備し、使い方を学ぶ。

詳細：Java の開発環境として、コンソールベースのものと、統合開発環境について、基礎的な知識を得る。コンパイル、中間言語などの概念についても理解する。各自のパソコンに環境を整備し、簡単なプログラムを作って、動かしてみる。

予習用語：開発環境、コンパイル、コンパイラ、インタプリタ、エディタ、中間言語

〈第3講〉 入出力と変数

概要：入力と出力について取り上げる。また変数の概念、変数名のつけ方、変数の型について理解する。

詳細：プログラムを作る上で最も基本的な概念である入力と出力について、いくつかの例題を通して説明していく。変数とは何か、その使い方について説明する。この週以降は、演習として、実際にプログラムを書き、実行してもらうことを随時行う。

予習用語：入力、出力、標準入出力、変数、型、宣言、変数名

〈第4講〉 四則演算と代入

概要：足し算、引き算、掛け算、割り算のいわゆる四則演算の仕方を学ぶ。また計算式の書き方、代入のしかたも取り上

げる。

詳細：数学的な問題を解くために必要な四則演算と代入の機能について解説する。Java 言語では、これらはすべて演算子であり、通常の数式を書くように記述することができる。ここでは演算子の種類と使い方、変数の型と範囲などについて学ぶ。

予習用語：四則演算、代入文、剰余演算子、実行時のエラー、自動型変換、演算子の優先順位

〈第5講〉 枝分かれ

概要：枝分かれの仕組みと、その使い方を学ぶ。if 文と switch 文の違いについても理解する。

詳細：枝分かれ文とは、指定した論理式が正しいかどうかによって、処理を制御する構文の一つである。論理式には、式の大小を判断させる関係演算子が使われるが、これらについても解説する。このほか、演算子の優先順位、流れ図(フローチャート)の書き方についても講義の進捗にあわせて説明を行う。

予習用語：枝分かれ、if 文、switch 文、入れ子構造、ネスト、関係演算子、論理演算子

〈第6講〉 for 文による繰り返し

概要：for 文によって、回数が決まっているような規則的な繰り返しを行う方法を示す。漸化式の扱いにも慣れておく必要がある。

詳細：for 文は、規則的な繰り返し処理を記述する構文である。特に、ある範囲の中で変数の値を1つずつ増やしながら、同じ処理を繰り返して実行するような例について学習する。さらに、for 文の基礎を理解した上で、複利計算などについての応用を行う。

予習用語：for 文、インクリメント、デクリメント、漸化式

〈第7講〉 while 文、do while 文による繰り返し

概要：while 文、do while 文の使い方を学ぶ。これらは条件が成り立っているあいだ繰り返しを行う構文である。

詳細：繰り返しには、ある条件が成り立っている間繰り返しを行うもの、ある条件が成り立つまで繰り返し返すものがある。繰り返しの条件判断が、繰り返しの前に置かれるか後に置かれるかで動作が異なる場合があり、その使い分けを学ぶ。

予習用語：while 文、do while 文、無限ループ

〈第8講〉 配列

概要：配列は、規則的に並んだデータを扱う場合に使われるデータ構造である。この使い方を習得する。

詳細：配列とは、同じ型の変数が規則的に並んだもので、全体として1つの名前を持ち、その要素は添字と呼ばれる番号で識別される。配列は表の形をしたデータ処理には不可欠なものである。このほか数学的な応用としては、ベクトル、行列の処理に使われる。ここでは、例題として、与えられたいくつかのデータの合計、平均などの統計的データの算出や、大きい順に並び替えるソートの問題の扱う。

予習用語：配列、添字、最大値、最小値、棒棒グラフ、頻度分布、スタック、スタックポインタ、プッシュ、ポップ、ソート、単純選択法

〈第9講〉 関数

概要：関数はひとまとまりの処理に名前を付けて、部品とし

て呼び出せるようにしたものである。

詳細：関数の呼び出し方、定義の仕方、数学関数の使い方を学ぶ。再帰的定義についても理解する。この応用としてクイックソートのアルゴリズムを取り上げる。

予習用語：関数、関数宣言、関数定義、再帰的定義、クイックソート

〈第10講〉 GUIの利用

概要：GUI(Graphical User Interface)の機能を使ったプログラミング手法を取り上げる。

詳細：GUIのための部品であるボタン、テキストボックス、ラベルなどを使って、初心者にも使いやすいプログラムを作るための手法を身に付ける。画面設計についても取り上げる。

予習用語：GUI, ボタン、テキストボックス、ラベル、画面設計

〈第11講〉 グラフィクスとイベント処理

概要：Javaにおけるグラフィクスとイベント処理の機能を取り上げる。

詳細：グラフィクスは、画面上に長方形や円を座標を指定して描く機能である。またイベント処理ではマウスの動きやキーボードの動作を感知して、プログラムの動作に反映させることができる。このような機能を利用することでより魅力的なプログラムの作成が可能となる。

予習用語：グラフィクス、イベント、イベント処理

〈第12講〉 オブジェクト指向入門

概要：オブジェクト指向の基本的な概念を理解する。

詳細：オブジェクト指向の基本であるクラス、オブジェクト(インスタンス)、カプセル化、継承、多態性などの概念を理解する。このほかにもメンバー変数(メンバー)、メンバー関数(メソッド)など様々な用語が一度に出てくるので、理解するのは大変であるが、具体的な例を通して学習していく。

予習用語：オブジェクト指向、クラス、オブジェクト(インスタンス)、カプセル化、継承、多態性、メンバー変数(メンバー)、メンバー関数(メソッド)

〈第13講〉 Javaとオブジェクト指向

概要：Javaでオブジェクト指向の機能を実現するにはどのように表現すればよい理解する。

詳細：Javaは、オブジェクト指向を前面に出して開発されたプログラミング言語であり、オブジェクト指向のさまざまな機能が備わっている。これをどのように利用するか例題を通して理解する。またクラスライブラリについても取り上げる。

予習用語：オブジェクト指向、クラス、オブジェクト(インスタンス)、カプセル化、継承、多態性

〈第14講〉 レポート作成

概要：今までの知識を総動員して、ある程度の大きさの実用的なプログラムを作成する。

詳細：目標を決めてプログラミングを行う練習として、各自テーマを決めて、プログラミングを行う。結果は最終レポートの形にまとめる。

予習用語：なし

〈第15講〉 期末テスト

概要：全体を通して期末テストを行う。

詳細：資料などをもう一度全体的に読み直し、疑問点は質問して解決しておくこと。例題はすべて自分で打ち込んで、動作を確認しておくこと。用語の意味を確実に説明できるようにしておくこと。

試験問題は持ち帰り、自分でもう一度解きなおしてやること。わからない点があれば質問して解決しておくこと。

予習用語：なし

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

授業の中で適宜紹介する。

■参考URL

<http://www.rye.tama.ac.jp/hiki/?Lecture>

■評価方法

学期末試験50% レポートなど平常点50%

■評価基準

相対評価

プログラミング言語の学習においては、演習が重要な位置を占める。演習を通じて実際に動くプログラムを作り、動作を見ながらプログラミング言語の理解を深めることが重要である。このような観点から、演習を中心とし、学期末試験の結果も踏まえて評価する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

2012年度までは、「プログラミング言語」という科目があり、C言語を使ってプログラミングの基礎を学習するものであった。2013年度からは、使用する言語がJavaに変わり、「プログラミング言語Ⅰ」となった。またJavaの応用編である「プログラミング言語Ⅱ」という科目が追加された。

「プログラミング言語Ⅱ」を履修するためには、「プログラミング言語Ⅰ」の単位を取っていることが必須条件である。

プログラミング言語の学習においては、面倒がらずに自分でプログラムを打ち、実行して確認していくことが重要である。いろいろなエラーを経験すること、つまり失敗することが、成功すること以上に意味を持っている。わからないことは、できるだけ授業中に質問して解決するように心がけよう。

授業には、毎回各自のノートPCを必ず持ってくる。

科目名

プログラミング言語Ⅱ〔Programming Language Ⅱ〕

担当教員

田中 雄

■講義目的

オブジェクト指向のプログラミング言語〔JAVA〕は、サーバ制御・Androidなどの携帯端末、さらには組み込み系など、様々な場面で活躍しているプログラミング言語である。開発効率がが高く、フリーの優秀なフレームワークや開発環境が揃っているため、採用している企業も多い。将来SEなどを目指し、職業的なプログラミング技術を身につけたい学生には、この科目を受講することを強く勧める。

本講義では、ソートやサーチといった代表的なアルゴリズムを学習して、基本情報処理技術者試験の言語問題に対応できるレベルのプログラミング力を身につけることを目指す。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

情報処理技術者試験の午後問題に出題されるようなアルゴリズムを理解すること。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉

概要：開発環境の確認と入出力

事前学習しておくべき用語やポイント：プログラミング言語の復習

詳細：JAVAの開発環境の使い方を再確認して、簡単なプログラムを動かす。

到達目標：課題のプログラムを作成する。

〈第2講〉

概要：プログラミング言語Iの復習

事前学習しておくべき用語やポイント：プログラミング言語Iの復習

詳細：変数、計算、分岐、繰り返し、配列などの前期の内容を復習して、課題のプログラムを作成する。

到達目標：JAVA言語の基本的な使い方を思い出す。

〈第4講〉

概要：簡単な並べ替えと検索

事前学習しておくべき用語やポイント：バブルソート、リニアサーチ、バイナリサーチ

詳細：データを並び替える代表的なアルゴリズム「バブルソート」と、データの検索を行う「リニアサーチ」「バイナリサーチ」のプログラムを作成する。作成したら、どの程度のデータ量を処理できるかを試みて、ビッグデータ問題の一端を垣間見る。

到達目標：バブルソート、リニアサーチ、バイナリサーチのプログラムを動かす。

〈第5講〉

概要：再帰呼び出し

事前学習しておくべき用語やポイント：再帰呼び出し、再帰関数

詳細：関数が自分自身を呼び出す「再帰呼び出し」について学習する。自分自身を呼び出すとはどういうことか、どのような振る舞いをするのか、プログラムの流れを丁寧に追って明らかにする。再帰呼び出しが理解できれば、プログラムの流れを追う力が付いたと思ってよい。

到達目標：再帰呼び出しのプログラムを読んで、結果を予想できる。

〈第6講〉

概要：高度なソート

事前学習しておくべき用語やポイント：クイックソート、マージソート

詳細：再帰呼び出しを使って、バブルソートよりも効率のよい並び替えアルゴリズムを実装し、速さの違いを体感する。

到達目標：クイックソート、マージソートのプログラムを動かし、データの数によってどのぐらい計算時間が違うかを測定する。

〈第7&8講〉

概要：リスト

事前学習しておくべき用語やポイント：単方向リスト、双方向リスト

詳細：いくつあるか分からないようなデータを扱う時に便利な「リスト」について学ぶ。クラスに応用することで、柔軟に複数のオブジェクトを扱うことができるようになる。

到達目標：リストを使ったプログラムを作成する。

〈第9～11講〉

概要：エイト・クイーン問題を解く

事前学習しておくべき用語やポイント：エイト・クイーン問題、ツリー構造、バックトラック法

詳細：これまでの学習内容をもとに、エイト・クイーン問題というバズルゲームをコンピュータに解かせる。バズルゲームをコンピュータに考えさせる時の手法の一つである「バックトラック法」を実装して、これまでの学習内容の理解を深める。

到達目標：エイト・クイーン問題を解くプログラムを作成する。

〈第12,13講〉

概要：15パズルを解く。

事前学習しておくべき用語やポイント：15パズル、ハッシュ

詳細：昔ながらのバズルゲーム15パズルをコンピュータに解かせる。

〈第14講〉

概要：復習と練習問題。

詳細：ここまでやった内容の総まとめと、期末試験に向けた練習問題を実施。

到達目標：不明点を明らかにして復習する。

〈第15講〉

概要：期末テスト。

事前学習しておくべき用語やポイント：練習問題をよく復習する。

詳細：詳細については別途連絡する。

■教科書

別途指定する。

■指定図書

別途指定する。

■参考文献

紀平拓男・春日伸弘 『プログラミングの宝箱 アルゴリズムとデータ構造』 ソフトバンクパブリッシング

中山 清喬・国本 大悟 『スッキリわかるJava入門』 インプレスジャパン

■評価方法

評価は、学期末試験50% ミニテスト・レポートなど50%により行う。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

プログラミング言語I

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・プログラミング言語Iの単位を取得していることを前提とする。

・講義を聞いているだけでは理解することはできない。手を動かし、自分の頭で考えて、自ら気付くことで、はじめて理解できる。

・試験結果を重視するので、出席しているだけでは単位の取得は難しい。

・一度身につければ、プログラミングの世界ではとても役に立つ内容である。頭が柔らかく、ガッツがあるうちに、頑張りて身につけよう。

科目名 プログラミング言語入門Ⅰ(Introduction to Programming Language I)

担当教員 田中 雄, 彩藤 ひろみ

■講義目的

この講義は、プログラミング言語初心者を対象に、コンピュータプログラミングの面白さや基本的な考え方を伝えることを目的とする。Word, Excel, PowerPointといったオフィス系のソフトウェアのうち、Excelに重点を置いて、プログラミングから処理する方法を学ぶ。後半では、秋学期のプログラミング言語2につながる内容を学ぶ。

■講義分類

社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

コンピュータ言語修得用教材を使い、基本的な考え方を学ぶ。Excelを自由自在に使えるようにし、「マクロ」と呼ばれる簡単なプログラミングを学ぶ。コンピュータを使えるビジネスパーソンになるための第1歩となる。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉

講義の流れの説明。コンピュータ言語の単語数は多くない。その構成が大切。生活すべて、ビジネスすべてにコンピュータが関わってくる。プログラミングできる、ビジネスパーソンを目指してもらいたい。積み重ねを大切にすること。

〈第2講〉

Excelのマクロとは何か、作業登録や自動計算を実際に体験する。

〈第3講〉

Excelによるグラフ作成の意味を理解する。ビジネスパーソンに求められる必須のスキルとして身につけていく。MOS試験等も視野にいれていく。

〈第4講〉

インターネットの理解を深める。メールによる書類添付の方法を習得する。Word書類のpdf化、暗号化等を理解する。正しいレポートの書き方について学ぶ。

〈第5講〉

図書館検索を学び、必要な本を借りる練習をする。情報検索を行い、必要なデータをExcel等で整理する方法を学ぶ。

〈第6講〉

Excelのマクロを通じて、簡単なVB(ビジュアルベーシック言語)を学ぶ。順次処理、繰り返し処理、分岐処理の概念について学ぶ。

〈第7講〉

VBについて理解を深める。問題を解く。

〈第8講〉

中間考査

〈第9講〉

プログラミング学習用教材ロボットBeauto Racer (ビュートレーサー)をパソコン上で動かすことのできるソフトウェア、ビュートビルダーR (http://vstone.co.jp/products/beauto_

racer/)を利用して、プログラミングとは何かを学ぶ。紹介WEBサイトの学習用教材(パワーポイント)を使い、コンピュータで制御されているものを探す。ビュートビルダーRをパソコンにインストールし、動かす方法を学ぶ。順次処理、繰り返し処理の原理を学ぶ。簡単な練習問題で、ビュートレーサーを動かし、決められたコースをクリアすることを目指す。〈第10講〉

順次処理と繰り返し処理のドリルを解く。自分の作成したプログラムでロボットの行動がどう変化するかよく研究する。分岐処理とは何か学ぶ。ビュートビルダーRで分岐処理を実行するためには、どのようにすればいいのかを学び、進度が早いものは、新しいドリルに挑戦する。

〈第11講〉

分岐処理について徹底的に理解する。

ドリルの全問正解を目指す。

〈第12講〉

ビュートレーサー(学習用ロボット)実機を使って、プログラミング練習を行う

〈第13講〉

VisualC#の利用による、プログラミング。コンポーネントの考え方の修得。ボタンの配置と基本的なプログラミング。ビュートビルダーで行っていたプログラミングと基本的な考え方は同じ。見かけに惑わされないように、基本をしっかり抑えていくことが必要。

〈第14講〉

変数の理解。変数の型の理解。

(例)言葉を入力し、返事を出力する。あるいは、西暦と年号を交換する

〈第15講〉

最終考査

■教科書

授業時間内に指定する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

授業内で必要に応じて指示する。

■評価方法

原則として80%以上の出席を前提として、授業で出される課題(20%)、レポート(20%)、授業内試験(2回予定)(60%)により評価する。欠席状況に応じて減点する。

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

配布されたノートパソコンを毎回必ず持ってくる。電源コードも持ってくるほうがよい。

科目名

プログラミング言語入門Ⅱ[Introduction to Programming Language II]

担当教員

増田 浩通, 田中 雄

■講義目的

この講義は、プログラミング言語初心者を対象に、コンピュータプログラミングの面白さや基本的な考え方を伝えることを目的とする。

■講義分類

社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

各自の発想を、プログラミング言語を用いて表現し、自他のアイデアについて、客観的・論理的に討議できる。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR[学外学習なし]

■講義の概要

〈第1講〉

概要：開発環境の整備

事前学習しておくべき用語やポイント [Visual C# の起動・プロジェクトの作成]

詳細：開発環境の整備を行い、基本的な入出力の確認を行う。

〈第2講〉～〈第3講〉

概要：古いプログラムの設計と実装

事前学習しておくべき用語やポイント []

詳細：サンプルプログラムを元に、独自の古いプログラムの基本設計を行い実装する。データの入力～処理～出力の流れをつかむ。

〈第4講〉

概要：古いプログラムの相互評価・改良

事前学習しておくべき用語やポイント [試作品完成]

詳細：古いプログラムを相互評価し、その評価に基づき改良を加える。

〈第5講〉

概要：古いプログラムプレゼンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント [古いプログラムを完成させておく]

詳細：改良された古いプログラムについて、プレゼンテーションを行い、相互に評価する。

〈第6講〉～〈第7講〉

概要：アドベンチャーゲームの設計と実装

事前学習しておくべき用語やポイント []

詳細：サンプルプログラムを元に、独自のアドベンチャーゲームの設計を行い、実装する。状態遷移の考え方を見につける。

〈第8講〉

概要：アドベンチャーゲームの相互評価・改良

事前学習しておくべき用語やポイント [試作品完成]

詳細：プログラムを相互に評価し、その評価に基づき改良を加える。

〈第9講〉～〈第11講〉

概要：アドベンチャーゲームプレゼンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント [アドベンチャーゲームを完成させておく]

詳細：アドベンチャーゲームのプレゼンテーションを行い、相互評価する。

〈第12講〉～〈第14講〉

概要：リバーシアルゴリズムの設計と実装

事前学習しておくべき用語やポイント []

詳細：サンプルプログラムを元に、独自のリバーシアルゴリズムを設計・実装する。ネットワーク上での対戦を通じて、改良を加える。

〈第15講〉

概要：リバーシ大会

事前学習しておくべき用語やポイント [独自のリバーシアルゴリズムを完成させておく]

詳細：ネットワーク上でリバーシプログラムを利用した大会を開催する。

■評価方法

原則として80%以上の出席を前提として、プレゼンテーションなどの平常点(40%)、レポート3回(60%)により評価する。欠席状況に応じて減点する。

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義で手を動かすことが重要な科目であり、欠席については本人の責の有無を問わない。すべて出席することが前提であり、不測の事態を迎えてもお欠席を20%以下にすることを求める。

科目名 文章伝達入門〔Introduction to Communication in Writing〕

担当教員 樋口 裕一

■講義目的

産業社会で活躍し、問題発見、問題解決に不可欠な文章力を養成する。現代の志望として、将来のビジネスに直結する文章力養成。同時にそれは、分析的に思考し、的確に判断する力を養うことにもなる。また、社会や人間に対する関心も高め、社会人基礎力を高め、自らの志を明確にすることにもなる。

■講義分類

☐顧客理解 ☐ビジネス環境理解／☐ビジネス創造
☐ビジネスマネジメント ☐社会人力育成／☐グローバルビジネス ☐ビジネスICT ☐地域ビジネス
 ／

■到達目標

社会についての関心を高め、社会問題について600字から800字程度の論理的な文章を、自在に書ける力を養う。

■講義形態

☐講義のみ ☐講義＋GD・GW・PR
☐GD・GW・PR？その他(講義＋文章作成＋PR)
 GD: グループディスカッション
 GW: グループワーク
 PR: プレゼンテーション
☐学外学習有 ☐学外学習無

■講義の概要

〈第1講〉

概要: オリエンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]

詳細: 方針・授業ルール説明。文章の書き方の基本の説明。

〈第2講〉

概要: 第1回課題答案作成

事前学習しておくべき用語やポイント[第1回課題について資料を集める]

詳細: 実際に論理的な短い文章(第1回課題)を書く。終了後、課題について解説。

〈第3講〉

概要: 課題復習

事前学習しておくべき用語やポイント[小論文の「型」について復習]

詳細: 前回書いた文章を添削して返却。よい文章、悪い文章について解説。前回の文章を書きなおす。

〈第4講〉

概要: 部分練習

事前学習しておくべき用語やポイント[前回返却答案を見直す]

詳細: 問題提起の作り方、第2段落の書き方。

〈第5講〉

概要: 第2回課題答案作成

事前学習しておくべき用語やポイント[第2回課題について資料を集める]

詳細: 実際に600字程度の論理的な文章(第2回課題)を書く。

〈第6講〉

概要: 第2回課題解説

事前学習しておくべき用語やポイント[第2回課題について資料を整理]

詳細: 前回書いた課題の解説。文章を書くためのトレーニングをする。裏づけの仕方について。

〈第7講〉

概要: 文章を読んで論じる

事前学習しておくべき用語やポイント[テキスト予習]

詳細: 文章の読み取り。読みとった上での問題提起の仕方。論じ方。

〈第8講〉

概要: 第3回課題

事前学習しておくべき用語やポイント[テキスト予習]

詳細: 実際に論理的な文章(第3回課題)を書く。

〈第9講〉

概要: 第3回課題解説

事前学習しておくべき用語やポイント[テキスト予習]

詳細: 第3回課題解説。その後、読みとり練習。

〈第10講〉

概要: 読みとり練習

事前学習しておくべき用語やポイント[テキスト予習]

詳細: 難しめの文章の読みとり。

〈第11講〉

概要: 第4回課題答案作成

事前学習しておくべき用語やポイント[第4回課題について調査]

詳細: 第4回課題を書く

〈第12講〉

概要: 第4回課題解説

事前学習しておくべき用語やポイント[テキスト予習]

詳細: 第4回課題解説を行い、不足分を練習する。

〈第13講〉

概要: トレーニング

事前学習しておくべき用語やポイント[テキスト予習]

詳細: グラフ・表の読みとり練習。

〈第14講〉

概要: 第5回課題答案作成

事前学習しておくべき用語やポイント[課題内容について資料を集める]

詳細: 第5回課題(グラフ・表を読みとって論じる問題)を書く

〈第15講〉

概要: 第5回課題解説

事前学習しておくべき用語やポイント[テキスト予習]

詳細: 第5回課題解説後、今後の勉強法など。

■教科書

「多摩大学 文章伝達入門テキスト」(5000円)

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■評価方法

出席が3分の2に満たないものは不合格にする。授業中に合計5～6回、小論文を書いてもらい、1点～5点で採点して返却する。平均2点を超すものについては原則として合格とみなす。なお、書き直して提出した場合、必ず加点する。授業中の発言についても加点する。

■評価基準

☐相対評価

☐絶対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

☐実施する ☐実施しない

■留意点

授業中の私語禁止。そのほか、飲食(ただし飲みものの摂取は許す)・ガム・帽子着用・寝る姿勢を整えての居眠り・無断退出・イヤホンの着用・教員に対する暴言など、授業を書ける行為についても禁止する。目に余るものは退出させ、欠席とみなす。文章力だけを身につけても読める文章を書くことはできない。発信したい内容を持つことによって表現力も増す。それゆえ、多くの時間を、単に表現法ではなく、思考法、社会的知識を身につけることに費やす。

科目名

Basic Office EnglishⅠ～Ⅱ〔Basic Office EnglishⅠ～Ⅱ〕

担当教員

ガイ・ローズ

■講義目的

授業名を見てもわかるように、下記の項目を基礎的なところから易しく導入していくので、English Expression 終了後、また English Expression を履修していなくても、将来必要な英語力を少しでも身につけたいと思う学生は（上級科目だと思って躊躇せずに）ぜひ履修してほしい。下記3の項目も、特に後半は難しそうに見えるが、本当に基礎的なところから導入していくので、このクラスはビジネスの知識と英語力を無理なく高めていける大変いいチャンスになる。英語に興味のある学生に履修を強く勧める。産業社会の最前線事例や問題解決シミュレーションなども積極的に取り入れる。到達目標と予習復習のポイントを含めた学習項目は以下の通り。

■講義分類

語学・コミュニケーション

■到達目標

- 1 日本と外国のビジネス成功例を学ぶ
- 2 社会でいろいろな仕事に就き、自分の志を実現、問題解決を行うのに必要な基礎的な英語表現力を養う。
- 3 オフィス(会社)での基礎的な英会話や通信文のやりとりを学ぶ。項目は以下の通り。
挨拶、自己・他人紹介、携帯電話のマナー、オフィスでの日常会話、ビジネス通信、ビジネスでの外食、ミーティング・会議での英語表現、人とモノの売り込み、企業モラル、出張、電話表現、ビジネストレンドを語る、IT 関連表現
- 4 英語力を高めることにより、自律的に責任感を持って仕事にあたるような能力を身に付ける。
- 5 グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーションなどが重視され、中間テスト、期末テスト時だけでなく、授業内でも恒常的に行われる。
- 6 ほぼ毎週小テストが行われる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉

挨拶、自己、他人紹介

〈第2講〉

携帯電話のマナー、オフィスでの日常会話

〈第3講〉

ビジネス通信、ビジネスでの外食

〈第4講〉

ミーティング・会議での英語表現

〈第5講〉

人とモノの売り込み、オファーと交渉

〈第6講〉

企業モラル、出張

〈第7講〉

電話表現

〈第8講〉

Midterm Exam

〈第9講〉

ビジネストレンド

〈第10講〉

インターネット、IT 関連表現

〈第11講〉

就職活動を見据えた英語トレーニング

〈第12講〉

これまで学んだことの総復習

〈第13講〉

Performance Skits (video-taped)

〈第14講〉

Final Speech Test

〈第15講〉

Final Exam

■教科書

授業内で指示

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■評価方法

出席	20%	授業内小テスト	20%
宿題	20%	中間テストおよび期末テスト	40%

■評価基準

上記要素を合算した100%を100点に換算し、
 60点～69点 C
 70点～79点 B
 80点～89点 A
 90点～100点 A+
 とする。

■事前履修科目等

なし

■留意点

English Expression を履修していなくても当科目を履修できます。

詳細は第一回目の授業でお知らせします。

科目名 法学(憲法)〔Jurisprudence (including Constitution Law)〕

担当教員 石岡 克俊

■講義目的

本講義は、法ないし法的な考え方のエッセンスをできるだけわかりやすく解説していく。最近では、法科大学院(ロースクール)をはじめとする専門職大学院の設置に世間の目が集まり、わが国でも専門家教育のためのカリキュラムが整いつつある。しかし、いうまでもないのだが、法は弁護士など一部専門家のものではなく、われわれ社会を構成する市民一人ひとりのものである。われわれが、身近なトラブルに見舞われたとき、その解決に法的素養は不可欠である(トラブルの解決を担う公的な機関は、法をよりどころに判断し、その役割を果たしているからである)。また、昨今制度化され、近い将来実施に移される裁判員制度は、一定の法的判断を司法が行う場合にも、一般市民がその判断に基礎として関与する仕組みである。社会を構成するわれわれは、社会の問題を他人事としてではなく、わが事として考え、その判断や決定に参加することが期待される。このような公共的性質を有する判断や決定の際にも、法的素養を欠くことはできない(法は社会を成立させている基本的なルールであり、偏見や思い込みを伴った判断や決定は他者を誤得する力を欠くからである)。このように、法は自分自身の利益ないし必要と、他者や社会全体の利益・必要とを折り合わせるための拠り所であり、法を学ぶことは、自らの自由を享受しつつ、他者を意識した適切・妥当な判断ないし決定を促すことであり、また、公共的な判断や決定に参画するための作法を身につけることである。ここに、専門家教育のための法学とは異なる、いわゆる「教養としての法学」の必要性が存在する。本講義では、「教養としての法学」の意義を踏まえ、法律家(法学者や裁判官、弁護士などの法曹)と呼ばれる人々の基本的な思考や発想を理解することを目的とする。そして、いくつかの具体的な事例を参照しつつ、さまざまな問題に対してどのような考え方や方法で解決を導いているのか(導いてきたのか)見ていることにしたい。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成

■到達目標

法や法律に関する基本的な知識や国や行政の仕組みに関する基本的な知識を身につけ、これらの背後にある基本的な発想ないしは思想を適確に理解すること、その上で、法律家と呼ばれる人々の思考や発想の端緒に気づくことを目的とする。

■講義形態

講義のみ〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉

概要：ガイダンス

詳細：講義の進め方や評価の方法など、この授業を聞くにあたっての基本的事項についての説明を行う。

〈第2講〉

概要：法／法律のイメージについて

詳細：まず、法と法律とは有意に区別するところから出発し、法／法律にはどんなものがあり、何を要素とし本質としているのか?について説明する。

〈第3講〉

概要：法学のイメージについて

詳細：法学とは何をとする専門分野なのか?その役割や対象について説明する。

〈第4講〉

概要：法律家・弁護士のイメージについて

詳細：専門職としての法律家とはどんな人々で、何をしているのか?について説明する。

〈第5講〉

概要：法的思考とは何か? (1)：法学を学ぶ意味、法的思考の特徴

詳細：法律家と考ええるように考える、つまり法的思考とは何か。どんな点に特徴があり、なぜそういった作法が生まれたのか?について説明する。

〈第6講〉

概要：法的思考とは何か? (2)：法の解釈(法意思説／立法者意思説)、利益衡量論

詳細：解釈学としての法学について考えてみる。まずは、テキストの解釈として考えられる二つの考え方、すなわち法意思説と立法者意思説、その内容と限界、そして、利益衡量という考え方について説明する。

〈第7講〉

概要：法に期待される役割と背景にある思想(1)：民法法の役割

詳細：近代市民法の典型例である、民法法、殊に民法と商法を中心にその機能や背景に控えている思想について説明する。

〈第8講〉

概要：法に期待される役割と背景にある思想(2)：刑事法の役割

詳細：多くの人によって法律の典型例とならなれる刑事法。その固有の思想や考え方について説明する。

〈第9講〉

概要：法に期待される役割と背景にある思想(3)：社会法・経済法の役割

詳細：資本主義の発達にしたがって、私法や公法から分化する形で現れてきた社会法。社会法が何を目的としてどういった理念のもと考えられてきたかについて説明する。

〈第10講〉

概要：法に期待される役割と背景にある思想(4)：憲法・行政法の役割

詳細：国家を形作る憲法及び行政法に見られる固有の原理および考え方について説明していく。

〈第11講〉

概要：憲法の基本概念を学ぶ

詳細：

〈第12講〉

概要：自由(人権)と国家

詳細：わが国を含め、多くの国々の憲法では、基本的人権の尊重という大原則の下、さまざまな権利や自由というものを保障している。これは、リベラリズムの考え方を基本に据えた近代立憲主義思想の産物である。よく「権利」とか「自由」という言葉をさまざまな生活の場面で使うが、憲法の枠組みにおいてこうした権利とか自由とはいったいどのような意味か。権利・自由の考え方が、現代においてどのように展開してきたのかを見ていく。

〈第13講〉

概要：「自由」と秩序

詳細：個人が自由を享受するには、秩序が不可欠であり、その秩序は法によって形成され、あるいは、一定の秩序というものが法を形成することとなる。この法と秩序の相互関係について説明をしていく。

〈第14講〉

概要：法による支配

詳細：近代市民社会において、いかにして個人の自由を維持・確保して行くか、あるいはどうしてきたかについて、考えてきた。個人が自由を享受することができるということは、秩序があるからであり、その秩序は法によって形成され、あるいは、一定の秩序というものが法を形成することとなります。近代あるいは現代の国家において、法の形成と執行は、政府の主要な役割となっている。個人の自由を維持・確保するために、これらの政府の役割がどのような形で具体化しているのかをその筋から眺めていく。

〈第15講〉

概要：自由を守るための制度：権力分立

詳細：単に権力分立ないしは三権分立といっても、多くの皆さんが感じているよりもずっと複雑なかたちでそれぞれの機関が関連し合い存在していることに気づくことと思います。また、わたしたちは、これまで学んだ制度が現代のさまざまな問題を解決するために十分に機能を果たしているか、また、果たし得るかについても考えていかなければなりません。

■教科書

中山竜一『ヒューマニティーズ法学』(岩波書店・2009年)

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■評価方法

学期末に行われる試験にて評価を行う(100%)

■評価基準

相対評価

A+：

A：法律家と呼ばれる人々の思考や発想の端緒への気づき

B：法や法律の背後にある基本的な発想ないし思想の理解

C：法や法律に関する基礎的な知識等の習得

F：

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名 マーケティング入門〔Marketing Principle〕

担当教員 村山 貞幸

■講義目的

マーケティングの仕事を知り、その面白さを知ることで、志の視野を広げる。

企業のマーケティングに関する問題解決に必要な基本的な概念を、さまざまな企業の最前線事例を通じて学び、マーケティング思考力、問題解決力を鍛えることで、実践的知識・能力を獲得することを目指す。

講義では、インタラクションを重視し、ディスカッションやプレゼンテーションを組み込んで学んでいく。

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / ビジネス創造
/ ビジネスマネジメント / 社会人力育成

■到達目標

- (1) マーケティングの仕事を知り、将来のキャリアについて考えるベースをつくる。
- (2) マーケティングの基本的な概念を理解する。
- (3) その概念を、将来ビジネスの現場で使いこなし、さまざまな問題解決につながるような実践的知識・能力を獲得する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

〈第1講〉プロフェッショナル・マーケターとは

概要：講義の概要、受講姿勢、評価方針、その他注意点などを確認する。

詳細：受講生に目指してほしいプロフェッショナル・マーケターの定義、その意義、そしてそのようなビジネスパーソンになるための方法を説明する。目標設定の回。プロフェッショナル・マーケターを目指すか？目指すならば、そのために何をするか？ 今後の学生生活の再設計にチャレンジしよう！

〈第2講〉マーケティングと社会

概要：マーケティングの実社会に対する影響の強さを知り、その面白さを確認する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔プロフェッショナル・マーケター〕

詳細：日々あふれるように浴びせかけられる情報を精査、その中からマーケティング情報を選び分け、その影響度を探る。マーケティングがいかに一般消費者に影響を与えているかを確認する。情報を手の上で転がしながら、プロレベルの生活を送ろう！

〈第3講〉プロフェッショナル・マーケターのこだわり

概要：マーケターのこだわりをPVの中で確認し、マーケティングの面白さを知る。

事前学習しておくべき用語やポイント〔プロモーション、マーケティング・コミュニケーション〕

詳細：マツダのプロモーションビデオを鑑賞し、それがどのような意図で、どのように創られたかを考察。優れたPV制作に不可欠な要素を解説し、マーケティング活動の難しさと魅力を確認する

〈第4講〉マーケティングの本質

概要：マーケティングとは何か、その本質を確認する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔身の回りの面白いマーケティング事例を確認し、マーケティングの影響を分析してみよう〕。

詳細：六本木における新規開店戦略を作成することを通じ、マーケティングの重要性を確認する。そして、マーケティング活動におけるニーズマネジメントの重要性を理解する。関心のある商品、サービスを選択し、それがどのようなニーズをとらえているかを考察する。

〈第5講〉市場分析1

概要：顧客ニーズには構造があることを理解する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ニーズ〕 普段から、何で自分はこの商品を買うのだろうか？何でこのお店、映画、小説に引き付けられるのだろうか？と考える癖をつけよう！

詳細：ユニークな経営で市場に参入したきりしまフラワールの事例を分析する。同ビジネスが、誰の、どのようなニーズを、どのようにとらえているかを理解することで、ニーズの構造を把握することの重要性を再確認する。

〈第6講〉市場分析2

概要：潜在ニーズを理解する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ニーズの構造〕 世の中で充足されていないニーズを探し出す。それを充たす商品やサービスを創れないか？考えてみよう！

詳細：吉本興業、ジャニーズ事務所のケースを分析することで、ニーズには、顕在しているニーズだけでなく、潜在しているニーズがあることを確認する。

〈第7講〉市場分析3

概要：ニーズが顧客により違う場合と同じ場合があることを確認する

事前学習しておくべき用語やポイント〔ニーズ〕 ユニークニーズをとらえた商品、サービスの具体例をさがしてみよう！

詳細：カフェのケースを分析することで、ニーズは人により同じ場合と異なる場合があることを確認。セグメンテーション、ターゲティングの方法を解説する。

〈第8講〉競合分析1

概要：

事前学習しておくべき用語やポイント〔競争〕 さまざまな商品・サービスの競争手を検討する。その商品、サービスの競争力を評価しよう！

詳細：携帯電話などの分析を通じてポジショニングの基本を理解する。さらに、トヨタ、アサヒビール、スターバックスなどのポジショニングを通じて、優れたポジショニングの考え方を学ぶ。

〈第9講〉競合分析2

概要：セグメンテーション→ターゲティング→ポジショニングの流れを確認する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔ポジショニング〕 優れたポジショニングの事例を探す。ポジショニングの失敗例を挙げ、リポジショニングによる改善を検討する。自分を売り込む際にも、自分のポジショニングを考えることは有効だ。やってみよう！

詳細：青山フラワーマーケットを分析することで、セグメンテーション→ターゲティング→ポジショニングの流れを確認

認する。

競争の範囲、持続性、相対性など、競争戦略の重要なポイントを理解する。

〈第10講〉 競争分析3

概要：競争力の違いによる戦い方について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[競争戦略] 関心のある商品、サービスがどのように競合と戦っているか探ってみよう。アイディアを駆使して面白い戦い方をしている商品がたくさんあるはずだ！

詳細：商社の成長戦略を、これまで確認してきた市場分析、競合分析を駆使しながら検討、競争地位に応じた戦略定石を学ぶ。

特定の業界内のプレーヤーを分析、それぞれの競争地位を確定後、定石をベースに戦略を評価する。応用力を鍛えるためにも、まずは定石をしっかり頭に叩き込もう！

〈第11講〉マーケティング戦略立案1

概要：マーケティング戦略の立て方を学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント[マーケティング戦略] 特定の商品・サービスをブランドレベルで選択、そのマーケティング戦略を戦略立案プロセスに沿って考察する。これまで学んできた全ての概念が、戦略立案プロセスのどこに位置づけられるかを確認する。いよいよまとめの段階に入ってきた。わからない場合は、過去の講義に立ち戻り、基本を復習しよう。

詳細：ソニーの事例を通じてマーケティング戦略立案の全体像を把握。

〈第12講〉 マーケティング戦略立案2

概要：マーケティング戦略立案プロセスの理解を深める。

事前学習しておくべき用語やポイント[マーケティング戦略] 最終レポートに向けて、与えられた課題の環境分析を行う。その際、すべてに裏付けデータを添えることを心がける。必要に応じて調査をかける。レポートを作成することにより、これまでの講義が理解できていたかが確認できる。このプロセスは手を抜かず、しっかり挑戦していこう！

詳細：危機に陥った医療法人等の立て直しを検討することで、マーケティング戦略立案 プロセスを理解する。中でも環境分析に力を入れ、市場、競合、自社分析の理解を深める。

〈第13講〉マーケティング戦略立案3

概要：マーケティング戦略を立案する。

事前学習しておくべき用語やポイント[マーケティング戦略] レポートの作成。環境分析に基づき、競争優位性のある戦略を立案しよう！マーケティングの醍醐味が感じられる大切なフェーズだ！

詳細：ホンダのケースを検討することで、マーケティング戦略立案プロセスを再確認。戦略立案において環境整合性のみならず、戦略間整合性の重要性を理解する。

〈第14講〉マーケティング戦略立案4

概要：マーケティング戦略において、顧客の不満にも配慮する必要性を理解する。

事前学習しておくべき用語やポイント[マーケティング戦略] レポートの作成。マーケティング戦略部分を、環境との整合性、戦略間整合性に充分配慮しながら仕上げる。説得力のある企画書になるよう、内容のみならず、表現にもこだわろう！

詳細：日本航空の航空機内対応を評価することで、顧客満足だけでなく顧客不満足にも 視野を広げ、対応することの重要性を理解する。

〈第15講〉 まとめ

概要：講義のまとめと質疑応答。

事前学習しておくべき用語やポイント[マーケティング戦略] レポートの仕上げ。読み手(顧客と同じ)の立場になり、その内容、表現に魅了されるか(ニーズを充足)、最終チェックを行う。自分たちが読んで魅力的だと思わないものが、他人の心を動かすことはない！の視点で厳しくチェックしよう！
詳細：講義をまとめると同時に、他のマーケティング、戦略関連科目との関連を解説、 今後の履修への流れをつくる。

講義全体を振り返り、自分なりのプロフェッショナル・マーケットター像を創り、それを目指す計画を考える。

■教科書

グロービス・マネジメント・インスティテュート『改訂3版グロービスMBAマーケティング』

(『新版MBAマーケティング』も可) ダイアモンド社

■評価方法

レポート100%

■評価基準

マーケティングの基本的な概念が適切に利用されているか。

-必要な情報が網羅的に把握されているか。

-環境分析から適切な市場機会・課題を抽出しているか。

-市場機会・課題に整合的な戦略が提示されているか。

相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

履修人数などにより講義の構成は変わる可能性がある。

科目名 マーケティングの為のWeb解析技法(Web Analysis)

担当教員 トランスコスモス

■講義目的

今や企業の広告やプロモーションなどすべてのマーケティングプロセスはインターネット上のインフラ、システム、デバイス(PC・モバイルなど)を活用して行われているといっても過言ではない。その中でも「ウェブ」や「アプリ」は消費者が生活で最も利用する「コミュニケーションツール」として欠かせないものとなっている。このように、現在の社会ではすべてのマーケティングに関わる人々がこの事を十分に理解し使いこなしていく知識とスキルが求められている。これからのマーケティング活動にとって一番重要なことはこれらの「データを読む力」だと考える。本講座では、マーケティングの中心的役割を担う「Web(ウェブ)」を取り上げ、実際のビジネスWebサイトを題材にしながらデータを読むことの意義と、ツールを活用したデータ計測とその分析までの具体的な手法を教授する。

■講義分類

ビジネス ICT／顧客理解／グローバルビジネス

■到達目標

- (1) 企業のマーケティング目的を理解できる
- (2) Webサイトの目的を理解できる。
- (3) Webサイトアクセスデータの種類と指標を理解できる。
- (4) アクセスデータの取得設定ができる。
- (5) アクセスデータに基づいて課題抽出を行うことができる。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR[学外学習無し]

■講義の概要

(第1講)

概要：デジタルマーケティング概論Ⅰ（企業のマーケティング目的とインターネット）

事前学習しておくべき用語やポイント[過去1年間の間で、自分が注目した広告やキャンペーンを幾つかピックアップしておく]

詳細：企業のマーケティング活動の目的を整理し、インターネット活用の実態を理解する。

(第2講)

概要：デジタルマーケティング概論Ⅱ（ウェブサイトの目的・役割）

事前学習しておくべき用語やポイント[学生自身が注目したり、気に入ったウェブサイトを幾つかピックアップしておく]

詳細：ウェブサイトの様々な目的を整理し、企業のマーケティング活動での位置づけを理解する。

(第3講)

概要：Webアクセス解析概論（アクセス解析データ基礎、解析ツール、KPI）

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：Webアクセス解析の目的と、計測するために必要な環境やツールを理解する。

(第4講)

概要：アクセス解析技法Ⅰ（Googleアナリティクスとは）

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：世界で最も普及し利用されているアクセス解析ツールである「Googleアナリティクス」の概要を理解する。

(第5講)

概要：アクセス解析技法Ⅱ（ディメンションと指標、各メニュー概要）

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：アクセス解析データ理解であるディメンションと指標について理解し、Googleアナリティクスのレポート内容を理解する。

(第6講)

概要：アクセス解析技法Ⅲ（設定と分析① トラッキングコード、アカウントの管理）

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：データ計測の仕組みと、ツールのアカウント管理について理解する。

(第7講)

概要：アクセス解析技法Ⅳ（設定と分析② 広告キャンペーン計測）

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：広告キャンペーンからのサイト訪問を計測する仕組みと設定、分析方法を理解する。

(第8講)

概要：アクセス解析技法Ⅴ（設定と分析③ 目標設定、フィルタ）

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ウェブサイトの目的・KPIの計測設定方法と分析を理解する。

(第9講)

概要：アクセス解析技法Ⅵ（設定と分析④ 複数ドメイン、Eコマース）

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：ドメイン計測と、EC売上データの計測設定と分析を理解する。

(第10講)

概要：アクセス解析技法Ⅶ（設定と分析⑤ サイト内検索、バーチャルPV、イベントトラッキング）

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：サイト内検索の役割と検索ユーザー行動の計測設定と分析を理解する。

(第11講)

概要：アクセス解析技法Ⅷ（設定と分析⑥ セグメント分析）

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：計測データのセグメント方法と分析を理解する。

(第12講)

概要：アクセス解析&分析実習Ⅰ（ワーク・音楽ビジネスサイトの分析）

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：音楽ビジネスのウェブサイトのアクセス解析を行い、サイトの課題を抽出する。

(第13講)

概要：アクセス解析&分析実習Ⅱ（ワーク・音楽ビジネスサイトの分析）

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：前講で抽出した課題を解決するためのアイデアをまとめる。

(第14講)

概要：アクセス解析&分析実習Ⅲ（発表）

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：グループワークのプレゼンテーション（発表）

(第15講)

概要：まとめ（マーケティングにおけるデータマネジメント）

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：これまでの講義や実習を通じて理解した、マーケティングにおけるデータの重要性をおさらいし、最新事例を使ってデータマネジメントの重要性を理解する。

■教科書

「Google Analytics/バーフェクトガイド Ver.5対応版」山浦直宏著 ソフトバンククリエイティブ

■指定図書

特に無し

■参考文献

特に無し

■評価方法

評価は、出席率70%以上の者に対し、期末定期試験(100%)により行ふ注)遅刻・早退は欠席扱いとする。電通遅延の際は遅延証明書を提出すること

■評価基準

絶対評価

期末定期試験100点満点中40点以上を合格とする絶対評価とする A+ : 95点以上 A : 90点以上

B : 70点以上 C : 40点以上

F : 40点未満

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

私語、飲食、授業と関係のないPC操作、携帯電話操作、帽子・サングラス着用、その他履修態度としてふさわしくない行為を禁止する。また著しく履修態度の悪い者にはその後の出席ならびに期末試験の受験資格を認めないことがある。

科目名 マーケティングマネジメント論〔Marketing Management〕

担当教員 趙 佑鎮

■講義目的

マーケティングマネジメント論とは、マーケティングをマネジメントの観点から捉える「システムの」、「全体最適」思考からの論である。そして、問題解決における手段と思考の多くが、マーケティングに通じるものである。この講義では、マーケティングマネジメントを行う人にとって必要な知識、概念、理論、手法、発想、技術、思考などを学ぶことで、その実行と問題解決の手がかりを得ることを目的とする。実際のマーケティングにおける企業を中心とした最前線事例をできるだけとりあげて、現実のマネジメントに適用可能になるよう説明する。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／グローバルビジネス

■到達目標

マーケティング・マネジメント・プロセスの基本を理解し、マーケティング企画・マーケティングマネジメントを行う際の重要概念の修得をめざす。中小企業診断士試験レベルの問題解説を目指す。

■講義形態

講義のみ

その他(マーケティングの事例を扱ったビデオ・視聴覚教育)
[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉オリエンテーション

概要：マーケティングマネジメントの概要

詳細：マーケティングをマネジメントの観点から捉えること、マーケティング・コンセプトを理解する

〈第2講〉戦略計画

概要：戦略とは？ 戦略の構想、ビジョン策定

詳細：マーケティング・マネジメント・プロセスと戦略計画の関係を理解する

〈第3講〉マーケティング環境分析(1)

概要：マーケティング環境の性格

詳細：マーケティング・マネジャーの洞察力、マクロ/ミクロ環境分析を理解する

〈第4講〉マーケティング環境分析(2)

概要：SWOT分析、マイクروتrend

詳細：市場機会/課題抽出を理解する

〈第5講〉STP(1)

概要：市場細分化するための基準

詳細：ターゲット・マーケティングのメリットを理解する

〈第6講〉STP(2)

概要：ポジショニング成功の鍵

詳細：製品差別化とポジショニングの関係及びポジショニングのガイドラインを理解する

〈第7講〉コンセプト・メイキング

概要：コンセプトとブランド・マネジメントの関係

詳細：新製品開発プロセス、ブランドとは何か、物語マーケティングを理解する

〈第8講〉製品

概要：サービス(プロダクト)

詳細：製品のレベルと分類、サービスの特徴、経験マーケティングを理解する

〈第9講〉価格(プライシング)

概要：価格と価値

詳細：価格設定の手順や新製品価格設定を理解する

〈第10講〉チャネル(流通経路)

概要：大規模小売商業(流通小売企業)

詳細：チャネルの長さ・管理形態・幅の設定をいかに行うか、流通のチャネルパワーを理解する

〈第11講〉コミュニケーション(プロモーション)

概要：広告、販売促進、人的販売、パブリシティ

詳細：コミュニケーション手段のメリットとデメリットを考慮した上でのマネジメントを理解する

〈第12講〉マーケティングマネジメントの実例

概要：日本企業のマーケティング

詳細：実際の日本企業の最前線事例を通してマーケティングマネジメントを行う際の問題解決を理解する

〈第13講〉マーケティングマネジメントに必要な発想法と思考法の諸々

概要：マーケティング・パラダイムの変遷

詳細：マーケティング行動モードの認識モデルを理解する

〈第14講〉実社会のブランドマーケティングの専門家、またはマーケティングマネジャーのゲスト講義

概要：マーケティング企画の実例

詳細：職業としてのマーケティングマネジャーを実感すると共に企画の実例をより理解する

〈第15講〉総括

概要・詳細：これまでの配布資料に基づいたおさらいと総括

※ 講義の順列は、学生の理解度と進捗度によって前後、変更する可能性があることを留意されたい

■教科書

随時、プリント資料を配布

■指定図書

・フィリップ・コトラー『コトラーのマーケティング・マネジメント・ミレニアム版』ピアソン・エデュケーション社
・趙佑鎮編著『奇跡を呼びこむ、人－イノベーションの起点、韓国と日本と松下イズム』悠雲舎

■参考文献

授業ごとに提示

■評価方法

・期末試験(筆記試験・100%) + 出席(加算点としての α)
+ 授業態度(加算点としての α)
・詳細はオリエンテーション時に提示

■評価基準

相対評価

・上記の総合評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・授業態度における私語、携帯電話(をいじること)、本授業とは無関係のパソコン使用、途中退室は絶対に不可であり、熾烈に厳しく注意する。これらの注意は学生の社会人としての常識涵養のための不可避なもの(教員個人的には極めて不本意)であるが、このような注意と授業態度を静粛に保つ教員の姿勢がいやであれば、本講義の履修は絶対的に勧められない。この点は、何度も強調したいものであり、講義のスタートから徹底することを約束する。

科目名

マーケティングモデリング〔Marketing Modeling〕

担当教員

豊田 裕貴

■講義目的

ビジネスを考える上では、売上やシェア、認知率、利益など各種の目標を設定し、いかにその目標を達成するかという思考が必須である。そのためには、原因と結果の構造をモデル化できる力は非常に有効である。本講義は、これらの観点からマーケティングテーマをモデル観点から検討し、各自がモデルを作れる力を習得することを旨とする。なお、モデリングといっても数式を中心にするのではなく、図解によるモデリング等を含わせて解説する。また、Excelなどのソフトを使う演習を取り入れ、使える知識としての学習を目指す。

■講義分類

顧客理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

マーケティング・モデリングは、単にスキルの習得でなく、知識の暗記でもない。新しく学習する各種知識を、現実のマーケティングと対応づけられる力が必要である。したがって、本講義では、学習内容をそれぞれの関心に従い、マーケティングへ応用できることを目標とする。

■講義形態

その他（講義＋レポート）〔学外学習無〕

■講義の概要

（注：講義の進捗などによって変更する場合がある。HPにて変更点などを確認すること。）

〈第1講〉イントロダクション：マーケティングならびにモデリングの基礎

概要：モデリングの全体像の説明と履修方法などのオリエンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント①

詳細：まずはマーケティングをモデリングの観点から解説し、全体像の把握を目指す。とくに、学習には必要がない、マーケティングとは何かについて、各自が意見を持って受講することが望ましい。

※以下、第2講から第14講に共通する（序章、復習のポイント）

本講義の最も重要なポイントは、モデリングのフレームで、現実のマーケティングの問題を整理し、どのように応用するかを考えることにある。したがって、学習にはむしろ復習が重要であり、知識の応用の仕方考えることに力点が置かれる。

各回の内容を講義で用いたものとは異なる事例によって、各自が説明できるようにすることが、復習の目安である。

〈第2講〉視覚化によるモデリング(Ⅰ)：コンセプトモデルの考案方

〈第3講〉視覚化によるモデリング(Ⅱ)：コンセプトモデルの作成・演習

概要：視覚化によるモデリングの基礎を学び、それぞれの興味関心に応用する方法を学習する。

事前学習しておくべき用語やポイント②[各自の興味関心ある領域を事前に考えてく]

詳細：各自の興味関心あるテーマについて実際にモデリング演習をし、モデリングの全体像を理解する。

〈第4講〉ゴールセッティングとモデリング(Ⅰ)

〈第5講〉ゴールセッティングとモデリング(Ⅱ)

概要：モデリングのy（結果系）に何を設定すべきかについてビジネス事例を元に学習する。

事前学習しておくべき用語やポイント③[会場で学習で学ぶ知識の定義式を調べてく]

詳細：ゴールをサブゴールに分解する方法について学習する。

〈第6講〉価格決定とモデリング(Ⅰ)

〈第7講〉価格決定とモデリング(Ⅱ)

概要：モデリングの解析方法として、回帰分析を使い、またその応用方法について学習する。

事前学習しておくべき用語やポイント④[回帰分析]

詳細：EXCELによる演習を行うため、PCの用意が必要である。

〈第8講〉モデリングとシミュレーション(Ⅰ)

〈第9講〉モデリングとシミュレーション(Ⅱ)

〈第10講〉モデリングとシミュレーション(Ⅲ)

概要：モデリングの応用として、シミュレーションを学習する。

事前学習しておくべき用語やポイント⑤[シミュレーション、分布]

詳細：EXCELによる演習を行うため、PCの用意が必要である。

〈第11講〉人の好みを測定する(Ⅰ)：コンジョイント分析の基礎

〈第12講〉人の好みを測定する(Ⅱ)：コンジョイント分析の実践

概要：モデリングの応用として、シミュレーションを学習する。

事前学習しておくべき用語やポイント⑥[シミュレーション、分布]

詳細：EXCELによる演習を行うため、PCの用意が必要である。

〈第13講〉セグメントごとのブランドの好みをモデル化する

概要：モデリングの応用として、対象の分類を学習する。

事前学習しておくべき用語やポイント⑦[セグメンテーション、クラスタリング、多母集団]

詳細：EXCELによる演習を行うため、PCの用意が必要である。

〈第14講〉シチュエーションの違いで広告効果の変化を分析する：交差項の活用

概要：モデリングの応用として、条件によるモデルの変化について学習する。

事前学習しておくべき用語やポイント⑧[交互作用、交差項]

詳細：ビジネスでモデルを用いる際に重要となる条件によるモデルの変化について事例と演習を元に学習する。

〈第15講〉まとめ

■教科書

特になし

■指定図書

（随時、紹介するが、まずは以下の五冊を指定図書とする）

・朝野照彦 『入門多変量解析の実際 第二版』 講談社 (2000)

・片平秀貴 『マーケティング・サイエンス』 東京大学出版会 (1987)

・木戸茂 『広告マネジメント』 朝倉書店 (2004)

・古川一郎、守口剛、阿部誠 『マーケティングサイエンス入門』 有斐閣アルマ (2003)

・守口剛 『プロモーション効果分析』 朝倉書店 (2002)

■参考文献

講義時に随時紹介する

■評価方法

通常点（レポートおよび講義内課題：40点）＋期末試験：60点＝計100点（その他、授業内外での取り組みに対する加点有り）。詳細は第一回目講義にて説明。

■評価基準

絶対評価評価

・本講義は、絶対評価により成績評価を行う。

・評価基準は、単なる知識を暗記したか否かではなく、各種知識について自分らの解釈・意見を持ち、表現（レポートや期末試験の論述問題）でできるかを重視する。

・とくに、自身でモデルを考えられるようになることが必要である（なお、ここというモデルを考えられる力は、数学的にモデルを表記することではなく、原因と結果との関係を構造化できる力をさす）。

・したがって、事に試験前に他者のプリントやノートを見ればどうなる科目ではなく、受講しながら考える姿勢を評価の基本にする。

■事前履修科目等

特に指定なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する（ただし履修状況や期末試験などの成績による）

■留意点

・もちろん出席は前提であるが、全日出席をとるとはしない（出席をとった場合は、上記「授業内外の取り組み加点」として加味する。なお、基本的には出席は取らないが、教科書を指定していないため、講義に出ずに自習のみで単位を取ることは難しい。出席を前提にしない場合を履修しないこと。通常点は、レポート一回というのではなく、講義内での課題を含む。そのため、出席は取らないが、休んだ日に講義内課題が出た場合には、その分の点数が得られないことになることを留意しておくこと。

・平等に評価するため、特定個人から依頼によって試験終了後に教務処置としての追加レポートなどは実施していない。4年生は特に注意の上、履修すること。

科目名 マーケティングデータ分析I〔Marketing Data Analysis I〕

担当教員 酒井 麻衣子

■講義目的

IT化が進んだ現在、企業活動の現場には多くのデータが溢れている。これからの企業人には、そのデータから価値ある情報を読み取り、活用する能力が必須となる。

本講義では、データの入力・加工方法、集計やグラフ化による基本的なデータの特徴の捉え方、データ間の関連性を統計的に明らかにする方法を学ぶ。同時に、企業で広く導入されている専門的な統計解析ソフト IBM SPSS Statistics (旧 SPSS for Windows) の操作方法を身につける。

企業のマーケティング活動においてはさまざまなデータが取得され、活用されるようになっている。みずからデータを取り扱い、データに基づいた判断ができるようになることは、企業人として大きな武器となるだろう。

講義と IBM SPSS Statistics による演習を中心に、以下のような内容について学ぶ。演習は可能な限り他の受講者とのディスカッションや共同作業によって行う。

■講義分類

顧客理解／社会人力育成／ビジネス ICT

■到達目標

データの入力・加工方法、集計やグラフ化による基本的なデータの特徴の捉え方、データ間の関連性を統計的に明らかにする方法を習得する。同時に、企業で広く導入されている専門的な統計解析ソフト IBM SPSS Statistics (旧 SPSS for Windows) の操作方法を身につける。

■講義形態

講義 + GD + GW + PR〔学外学習無〕

■講義の概要

〔第1・2・3講〕

概要：正しいデータの作り方

事前学習しておくべき用語やポイント〔参考図書「SPSS完全活用法 データの入力と加工(第3版)」該当章の予習・復習を勧める〕

詳細：

データにはどのような種類があり、どのように取り扱わなければならないのかを、実際にSPSSにデータを入力しながら理解する。

〔第4・5・6・7講〕

概要：データの要約と視覚化

事前学習しておくべき用語やポイント〔参考図書「SPSS完全活用法 データの視覚化とレポートの作成」該当章の予習・復習を勧める〕

詳細：

データの表す特徴を捉える方法は、データの種類によって異なる。

顧客リストの男性と女性の人数を比較する場合に適したグラフと、日々の売上高の推移を表す場合に適したグラフは、それぞれどんなグラフだろうか？

データの種類に適した集計方法や見るべき基礎統計量、グラフの描き方などを理解し、そこからどのように特徴を読み取れるかを学ぶ。

〔第8・9講〕

概要：仮説検定の考え方

事前学習しておくべき用語やポイント〔「仮説検定」「母集団と標本」「帰無仮説と対立仮説」「有意水準と有意確率」〕

詳細：

講義の後半ではデータ間の関係を探え、統計的にその関係性を明らかにする方法を学ぶ。その基礎となる仮説検定の考え方について理解する。

〔第10・11・12・13・14講〕

概要：変数間の関係を探える

事前学習しておくべき用語やポイント〔「相関係数」「偏相関係数」「カイ2乗検定」「検定」「分散分析」〕

詳細：

講義前半では単独の変数の特徴を捉える方法を学んだ。後半では、変数間の関係を探える方法を学ぶ。

関係を見るデータの種類の組み合わせによって、その関係性を探える方法は異なる。

「顧客の年代によって購入金額は異なるだろうか？」

「商品Aの売上推移と商品Bの売上推移には関連性があるだろうか？」

この2つの疑問を明らかにするには、それぞれどんな要約や視覚化を行い、どんな統計的手法を行えばよいだろうか？

さまざまなデータの組み合わせのパターンごとに、適した集計方法やグラフの描き方、さらにデータ間の関連性を明らかにする統計的手法を学ぶ。

〔第15講〕

概要：総合演習

事前学習しておくべき用語やポイント〔上記〕

詳細：本講義の重要ポイントについて総括、復習する。

■教科書

講義時に資料を配付する。なお、以下の書籍を指定図書とするので、必要に応じて参照すること。

■指定図書

酒井麻衣子（2011）『SPSS完全活用法 データの入力と加工(第3版)』 東京図書

酒井麻衣子（2004）『SPSS完全活用法 データの視覚化とレポートの作成』 東京図書

石村貞夫（2004）『SPSSによる統計処理の手順 第4版』 東京図書

■参考文献

適宜指示する。

■参考 URL

<http://faculty.tama.ac.jp/maiko/index.html>

■評価方法

期末試験により評価する。

なお、講義期間中に数回のレポート提出の機会を設ける。レポート内容に関連する講義について一定の出席回数を満たす受講者に限りレポートの提出を認め、採点のうえ返却する。ただし出席とレポート提出有無は評価に加味しない。

■評価基準

相対評価

- ・正しくデータの種類を見極められるか
- ・データの種類に適した要約と視覚化を行い、特徴を把握できるか
- ・仮説検定の考え方を理解し、適切な統計手法を選択し、分析結果を読み取れるか
- ・統計解析ソフト IBM SPSS Statistics の基本的操作法を身に付けているか等
- ・なお評価は期末試験受験者の相対評価により行う

■事前履修科目等

- ・「マーケティング・データ分析II」を履修する場合は、本講義の単位取得を前提とする。
- ・基本として統計の知識は前提としないが、情報サービスII（シミュレーション）「統計」「リサーチ入門」等で学習した基礎統計量についてあらかじめ復習しておくことを勧める。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・本講義は統計処理ソフトを用いてデータを分析するという専門性を身に付けるものである。毎回の演習の積み重ねで習得していくので、主体的な受講態度を重視する。関心と意欲をもって取り組める学生を対象とする。
- ・本講義は、社会調査士取得のための認定科目(C)に該当する。

科目名

マーケティングデータ分析II[Marketing Data Analysis II]

担当教員

酒井 麻衣子

■講義目的

「多変量解析」というと、何となくとも難解なもののように聞こえてしまうかもしれない。しかし、読んで字のごとく「複数の(多)データ(変量)を扱う手法(解析)」であり、扱う変数が多い場合に行うデータ分析と考えればよい。扱う変数が多くなればなるほど、そこに含まれる関係性を明らかにするには複雑な数式的処理が必要となる。しかし、分析手法の基本的な仕組みを理解し、必ず確認しなくてはならないポイントと、気を付けなければならないポイントをわかっていれば、正しく分析を行い、結果を解釈することが可能になる。

本講義では、多変量解析の中でも代表的な分析手法に焦点を当て、その理論的基礎を理解するとともに、実際のデータに対して目的に即した分析を実施し、正しくその結果を読み取れるようになることを目的とする。データが溢れる現代において、企業のマーケティング活動においてもさまざまなデータが取得され、活用されるようになっている。膨大なデータの後ろに隠れた関係性を明らかにする多変量解析は、強力な武器となつてさまざまな意思決定に役立つことになるだろう。講義とIBM SPSS Statistics (旧SPSS for Windows) による演習を中心に、以下のような内容について学ぶ。演習は可能な限り他の受講者とのディスカッションや共同作業によって行う。いずれもマーケティングデータ分析Iで学んだ変数間の関係性の捉え方および仮説検定の考え方を理解していることが前提となるので、しっかり復習した上で講義に進むこと。また、各講の予習・復習に際しては、以下に記したキーワードを参考にとすること。

■講義分類

顧客理解／社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

多変量解析の中でも代表的な3つの分析手法(回帰分析・クラスター分析・因子分析)について、その理論的基礎を理解するとともに、実際のデータに対して目的に即した分析を実施し、正しくその結果を読み取れるようになる。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR[学外学習無]

■講義の概要

(第1・2・3・4講)

概要：クラスター分析

事前学習しておくべき用語やポイント「階層モデルと非階層モデル」「 dendrogram」「値の標準化」「距離の測定方法」「クラスタ化の方法」

詳細:

さまざまな商品の購買傾向から、顧客を「デザイン重視」「機能重視」といったいくつかのグループに分類できるのではないか?

クラスター分析は、「似たもの同士をグルーピングする」ことができる分析手法である。ただしクラスター分析に「正解」はない。分析の結果得られたグループを、分析者がみずから特徴づけなくてはならない。多くの多変量解析の手法において、得られた結果をどのように解釈し活用するかは、分析者のセンスにかかっている。そこがデータ分析の醍醐味でもある。実際のデータに対して正しく分析を実施し、自分なりの解釈を行う一連の流れを、講義と演習により学ぶ。

(第5・6・7・8・9講)

概要：回帰分析、判別分析

事前学習しておくべき用語やポイント「従属変数と独立変数」「決定係数・乗率・R2乗値」「偏回帰変数と標準化偏回帰係数」「タミー変数」「ステップワイズ法」「多重共線性」「実測値と予測値」

詳細:

「売上高の変動にはどんな要因がどれくらい影響を与えているのだろうか?」

「商品Aを貰うか貰わないかはどんな要因の組み合わせで予測できるだろうか?」

回帰分析や判別分析は、こういった「要因探索」や「予測」を行うことができる代表的な分析手法である。扱えるデータの種類や分析上の注意点を理解し、実際のデータに対して分析から結果の解釈までを正しく行えるよう講義と演習を行う。

※判別分析については、講義の進度によっては制度する場合がある。

(第10・11・12・13・14講)

概要：因子分析、主成分分析

事前学習しておくべき用語やポイント「因子抽出法(代表例:主因子法・最大法)」「因子回転法(代表例:バリマックス回転・プロマックス回転)」「固有値」「累積寄与率」「スクリープロット」「因子の命名」「因子負荷量」「信頼性係数(の係数)」「固有値点」

詳細:

因子分析は、多数のデータの背後にはいくつかの少数の要因があるのではないかという仮定し、その要因を抽出する分析手法

である。

例えば、顧客アンケートで店員に関する多くの評価項目に得点を付けてもらったデータからは、「礼儀」「対応能力」「信頼性」という3つの評価軸があることが分かるといったものである。一方、主成分分析は、多数のデータをまとめた、少数の総合指標として表す分析手法である。例えば、企業に関するさまざまな財務データから、財務総合力を表すような指標を作るといったものである。

さまざまな分野でよく使用される手法なので、講義と演習により基本をしっかりと理解する。これらの手法を使用することを前提として、適切なデータを取得する方法についても学ぶ。

※主成分分析については、講義の進度によっては制度する場合がある。

(第15講)

概要：総合演習

事前学習しておくべき用語やポイント[上記]

詳細:本講義の重要ポイントについて総括、復習する。

■教科書

講義時に資料を配付する。なお、以下の書籍を指定図書とするので、必要に応じて参照すること。

■指定図書

朝野熙彦 (2000)『入門 多変量解析の実際 第2版』講談社サイエンティフィク
石村貞夫 (2011)『SPSSによる多変量データ解析の手順 第4版』東京図書

■参考文献

適宜指示する。

■参考URL

<http://faculty.tama.ac.jp/maiko/index.html>

■評価方法

期末試験により評価する。

なお、講義期間中に数回のレポート提出の機会を設ける。レポート内容に関連する講義について一定の出席回数を満たす受講者に限りレポートの提出を認め、採点のうえ返却する。ただし出席とレポート提出有無は評価に加味しない。

■評価基準

相対評価

・各分析手法の基本的な仕組みが理解できているか

・各分析手法を実施する上での重要ポイントや留意点をしっかりと把握しているか

・実際のデータに対し分析を正しく実施し、結果をレポートとして適切に表現することができるか等

・なお評価は期末試験受験者の相対評価により行う

■事前履修科目等

・本講義を履修する場合は、「マーケティング・データ分析I」(07年度までの名称は「データ分析I」)の単位取得を前提とする。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・本講義は統計処理ソフトを用いてデータを分析するという専門性を身に付けるものである。毎回の演習の積み重ねで習得していくので、主体的な受講態度を重視する。関心と意欲をもって取り組める学生を対象とする。

・本講義は、社会調査士取得のための認定科目(E)に該当する。

科目名 マーケティングリサーチ〔Marketing Research〕

担当教員 豊田 裕貴

■講義目的

様々なマーケティングの課題の検討では、データ(定量・定性)に基づいた判断が必要とされることが少なくない。「マーケティング課題」に対してデータを用いた知見を提供することがマーケティング・リサーチの目的である。この点から、本講義では、マーケティングに関わるいくつかのリサーチテーマ(2013年度はとくにブランドポジショニング)を元、「調査設計」、「調査実施方法」ならびに「調査データの整理・分析の仕方」を中心に解説する。

なお、マーケティング・リサーチは、単なるリサーチではなく、マーケティングというきわめて実践的な分野を前提とした科目である。したがって、単に手法を勉強すればマスターできるものではない。そこで講義では、適宜演習や個人が考える課題を取り入れ、実践的な形式の講義を採用する。

■講義分類

顧客理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／ビジネス ICT

■到達目標

マーケティング・リサーチの習得は、単にスキルの習得でなく、知識の暗記でもない。新しく学習する各種知識を、現実のマーケティングと対峙づけられる力が必要である。したがって、本講義では、学習内容をそれぞれの関心に従い、マーケティングへ応用できることを目標とする。

■講義形態

その他(講義＋レポート)(学外学習無)

■講義の概要

(注：講義の進捗などによって変更する場合がある。HPにて変更点などを確認すること)。

第1講) イントロダクション：マーケティングとリサーチ

概要：マーケティング・リサーチの全体像の説明と履修方法などのオリエンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：マーケティング・リサーチが、単にリサーチスキルの習得ではないことを理解することが目標。そのために、学習では、各自が「マーケティング・リサーチとは何か」を自分なりに考えておくこと。復習ではどんなマーケティング課題が、リサーチ視点からアプロウチしうるかにについて考えておくこと。この回のポイントである。

第2講) なぜ今はそれを選ぶのか：ニーズの把握と手段目的連鎖モデル

概要：ニーズの構造的理解を手段目的連鎖モデルから考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[手段目的連鎖モデル]

詳細：学習では、「手段目的連鎖モデルとは何か」を調べておくことよい。復習では、手段目的連鎖モデルを、自分の興味がある分野(製品やサービス)に応用し、ニーズを階層的に理解することをおすすめする。

第3講) ヒアリング調査演習：ラダリングによるニーズの把握する

概要：手段目的連鎖モデルの応用としてラダリングというヒアリング手法を学習する。

事前学習しておくべき用語やポイント[ラダリング]

詳細：学習では、「ラダリングとは何か」を調べておくことよい。復習では、誰かに協力してもらい、ラダリングを実践してみることをおすすめする。

第4講) 潜在ニーズリサーチ：満足度とニーズの充足度

概要：顧客満足度調査ならびに潜在ニーズのリサーチについて学習する。

事前学習しておくべき用語やポイント[潜在ニーズ]

詳細：学習では、「潜在ニーズとは何か」を調べておくことよい。復習では、興味のある分野について、未だ充足されていないニーズを検討することをおすすめする。

第5講) ニーズと商品評価、そして競合関係を検討する：ポジショニングマッピング(1)

第6講) ニーズと商品評価、そして競合関係を検討する：ポジショニングマッピング(2)

第7講) セグメントごとのブランド評価を検討する：ポジショニングマッピング(3)

概要：ブランドポジショニングマップの作りならびに応用の仕方について学習する。

事前学習しておくべき用語やポイント[ポジショニングマップ]

詳細：5-7講では、EXCELなどを用いたデータ分析についても解説する。この期間は、予習よりむしろ復習に重きを置き、実際に各自がEXCELなどで分析を行うことを強くおすすめする。なお、予復習用のデータについては、WEBを通じて配布する予定である。

第8講) ブランドを理解するための調査と質問紙法

第9講) 実験調査(実食として解明)

第10講) 実験調査(分析)

概要：実験の調査のかけ方を中心に解説。演習を行う。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：8-10講では、実際に各自が調査設計をする演習を予定している。事前に指定されるテーマについて、十分な準備をして講義にのぞむ必要がある。予復習によって行った作業を、講義内課題として提出することで、通常点として評価する予定である。

第11講) 店舗内行動をリサーチする POS データの利用、観客法の利用

第12講) 価値感にアプロウチする：価格に関するリサーチ

概要：店舗内行動ならびに価格に関するマーケティング・リサーチを学習する。 事前学習しておくべき用語やポイント[価格、店舗内行動]

詳細：11-12講は、店舗内行動や価格について具体的なテーマを用いた解説になる。予習よりは、復習に力点を置き、各自が講義で学んだ知見が実際の店舗ではどう応用されているかを確認し、さらに問題点などがあるかを考えることをおすすめする。

第13講) マーケティング・リサーチ事例紹介(1)

第14講) マーケティング・リサーチ事例紹介(2)

概要：事例による学習事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：13-14講は、実際の事例を元、マーケティングとマーケティング・リサーチとの関係をより具体的にイメージできることを目指す。したがって、これまでの12回で何を学んできたかを一通り復習の上、講義にのぞむことを期待する。

第15講) まとめ(受講人数によっては、期末試験)

■教科書

・豊田裕貴「ブランドポジショニングの理論と実践」講談社サイエンティフィック(2013)

■指定図書

(随時、紹介するが、まずは以下の七冊を指定図書とする)

- ・新野昭彦(1996)『入門多変量解析の実例』講談社
- ・新野昭彦(2000)『マーケティング・リサーチ工学』朝倉書店
- ・新野昭彦(2000)『魅力工学の実例』海文堂
- ・上田大一郎(2002)『マーケティングの極意書』共立出版
- ・上田拓治(1999)『マーケティングリサーチの論理と技法』日本評論社
- ・片平孝彦(1987)『マーケティング・サイエンス』東京大学出版会
- ・鎌原猛・宮下博・大野木裕明・中澤潤(1998)『質問紙法』北大路書房

■評価方法

通常点(レポートおよび講義内課題:40点)＋期末試験:60点＝計100点(その他、授業内外での取り組みに対する加点有り)。詳細は第一回目講義にて説明。

■評価基準

絶対評価

- ・本講義は、絶対評価により成績評価を行う。
- ・評価基準は、単なる知識を暗記したか否かではなく、各種知識について自分なりの解釈・意見を持ち、表現(レポートや期末試験の論述問題)でできるかを重視する。

- ・したがって、単に試験前に他者のプリントやノートを見ればどうにかなる科目ではなく、受講しながら考える姿勢を評価の基本にする。

■事前履修科目等

マーケティングメトリクスを履修しておくことを強く推奨する

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する(ただし履修状況や期末試験などの成績による)

■留意点

- ・もちろん出席は諸君が、毎回出席をすることはしない出席をとった場合は、上記授業外の取り組み(加点)として加味する。
- ・なお、基本的な出席は取らないが、教科書を指定していないため、講義に出ずに自習の単位を取ることは難しい。
- ・通常点は、レポート一回というものではなく、講義内の課題を含む。そのため、出席は取らないが、休んだ回に講義内課題が出た場合には、その分の点数が得られないことになることを留意しておくこと。
- ・平等に評価するため、特定個人から依頼によって試験終了後に取消処理としての追加レポートなどは実施していない。4年生は特に注意の上、履修すること。

科目名 マクロ経済学[Macroeconomics]

担当教員 椎木 哲太郎

■講義目的

「産業社会学」のメカニズムを解明するために不可欠なマクロ経済学の原理を学び、実態経済への適用を志向する。マクロ経済の動向が我々の生活と深い結びつきを持っていることを理解し、その健全な運営に努める「問題解決の学」としての活用方法を身に付ける。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／グローバルビジネス

■到達目標

マクロ経済学の理論を学び、企業活動の前提となるマクロ経済、諸変数の動向と因果関係に関する理解を深め、生活者・市民として望ましいマクロ経済政策を構想することができる。

■講義形態

講義のみ[学外学習無し]

■講義の概要

〈第1講〉マクロ経済学を学ぶ

概要：経済問題の解決を志向する「経世済民」の学としてのマクロ経済学の特質を明らかにし、よりよい社会の構築に向けた「志」の必要性を説く。

事前学習しておくべき用語やポイント[マクロ経済学、産業社会論入門(経済学入門)の後半部分、失業率、インフレ率、為替レート、経済成長率、オウクンの法則、フィリップス曲線]

詳細：マクロ経済学の特質、経済安定化の社会的意義について理解する。マクロ経済学を学ぶことは、どう「役に立つ」か。マクロ経済を「需要サイドから見る」、「供給サイドから見る」とはどのようなことか。抽象的概念である生産物市場、金融市場、労働市場、経済成長等のイメージを持つ。

〈第2講〉経済体制

概要：マクロ経済の土台とも言える経済体制・経済制度とその変化について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[経済体制、NPO、サード・セクター、重商主義、アダム・スミス、自由放任型資本主義、ケインズ革命、福祉国家、管理通貨制度]

詳細：経済体制・経済制度とは何か。交換・強制・贈与の原理について理解する。アダム・スミス以降の時代の古典的資本主義が、1929年に始まった世界恐慌を経てどのように変貌したのかを明らかにする。

〈第3講〉「資本主義」の変貌とマクロ経済学の進化

概要：第二次世界大戦後の「混合経済」とケインズ派マクロ経済学が、1980年代以降のグローバル市場経済化、情報化の進展によってどのように変化を遂げたのかを考える。「資本主義」の変貌とマクロ経済学の変遷について大まかなイメージを持つ。

事前学習しておくべき用語やポイント[混合経済、新古典派経済学、ケインズ経済学、スタグフレーション、合理的期待形成理論、金融自由化、新自由主義、収束増進]

詳細：「資本主義」に対するケインズ、シュンペーター、ハイエクの見方の違いを知る。1980年代以降の「資本主義」の変貌と、フリードマン以降のマクロ経済学の発展過程の概略を理解する。

〈第4講〉SNA/GDP/国際収支/国力・豊かさ・幸福度

概要：一国のマクロ経済のパフォーマンスを体系的に測る統

計上の指標SNAについて、GDPを中心に説明する。GDPの意義、豊かさや幸福についても考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[SNA、フローとストック、GDP、総固定資本形成、投資、GDPデフレーター、名目と実質、国際収支、経常収支、産業社会論入門(経済学入門)の後半部分]

詳細：GDPを中心とした諸概念とそれらの相互関係について理解する。三面等価、総固定資本形成、投資と消費、GDPデフレーター、名目値と実質値等について理解する。国際収支表の見方と日本の国際収支の変化について考察する。

〈第5講〉物価指数と有効需要の原理、ISバランス

概要：物価指数の概念と有効需要の原理、ISバランスの考え方等について理解する。

事前学習しておくべき用語やポイント[CPI、総供給、総需要、有効需要の原理、セイの法則、事前と事後、ISバランス]

詳細：GDPデフレーターと消費者物価指数の概念を検討する。マクロ経済の総供給と総需要が等しいという需給均衡条件は、貯蓄と投資が等しいということを意味している。マクロ経済にISバランスからアプローチする見方、経済理論上の短期と長期の区別について理解する。マクロ経済学全体の理論構造、今後の講義の展開過程を頭に入れる。

〈第6講〉消費関数と投資関数

概要：消費や投資の水準の決定要因について考える。貯蓄率の動向を考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[消費関数、ケインズ型消費関数、可処分所得、限界消費性向、恒常所得仮説、ライフサイクル仮説、投資関数、資本の限界生産性、資本の使用者費用]

詳細：ライフサイクル仮説、恒常所得仮説について理解する。日本の貯蓄率の動向を分析する。投資関数について検討する。

〈第7講〉国民所得の決定

概要：総需要の構成要因の変化が、マクロ経済全体として国民所得(GDP)にどのような影響を与えるのかを考える。

事前学習しておくべき用語やポイント[乗数理論、投資乗数、完全雇用GDP、デフレギャップ、インフレギャップ、「産業社会論入門(経済学入門)」後半部分の復習]

詳細：国民所得決定理論、45度線分析について理解する。「インフレギャップ」、「デフレギャップ」の概念を理解する。

〈第8講〉貨幣市場の均衡

概要：現金通貨と預金通貨を合わせた通貨(貨幣)の需要と供給について理解する。

事前学習しておくべき用語やポイント[ワルラス法則、マネーストック、信用創造、貨幣需要関数、取引需要、資産需要、流動性選好、貨幣数量説、ケンブリッジ方程式、マーシャルのk]

詳細：通貨に対する需要は何に影響されるのか。貨幣市場と財・サービス市場の関係は？

〈第9講〉金融政策

概要：金融政策の役割、目標、手段、波及経路等について理解する。

事前学習しておくべき用語やポイント[ハイパワード・マネ

一、通貨乗数、政策金利、コールレート、短期金融市場、公開市場操作、テ일러・ルール、資産効果、フィッシャー方程式、実質利子率]

詳細：金融政策の意義、中央銀行の役割、新しい金融政策について理解する。中央銀行はマネーストックをどこまでコントロールできるのか。金融政策の限界は？

〈第10講〉IS-LM分析

概要：IS-LM分析を通じて財政金融政策の理論的フレームワークを理解する。

事前学習しておくべき用語やポイント [IS 曲線、LM 曲線、クラウディングアウト、投資の利子率非弾性、流動性の罫、マンテル＝フレミングモデル]

詳細：IS-LM 分析の意義と限界、マンテル＝フレミングモデルについて考える。不況期のマクロ経済政策はどうあるべきか。

〈第11講〉財政政策

概要：安定化政策としての財政政策について考える。財政赤字と累積債務の問題を考える。

事前学習しておくべき用語やポイント [ビルトイン・スタビライザー、政府支出乗数、租税乗数、均衡予算乗数、国債の中立命題、非ケインズ効果]

詳細：裁量政策の問題点、国債の中立命題、非ケインズ効果等について考える。なぜ日本の国債価格は暴落しないのか。

〈第12講〉AD-AS 分析とインフレ・デフレ

概要：AD-AS 分析とインフレ・デフレについて考察する。

事前学習しておくべき用語やポイント [労働供給曲線、労働需要曲線、AD 曲線、AS 曲線、インフレーション、デフレーション]

詳細：AD-AS 分析とは何か。インフレーションやデフレーションはどのような原因で生じるのか。どのような弊害をもたらすのか。

〈第13講〉労働市場

概要：労働市場と失業について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント [自発的失業、摩擦的失業、非自発的失業、(フィリップス曲線)、自然失業率仮説、貨幣錯覚、ベバレッジ曲線、(オークンの法則)]

詳細：失業はなぜ生じるのか。インフレと失業の関係は？日本の失業率はなぜ低かったのか。なぜ1990年代半ば以降急上昇したのか。

〈第14講〉経済成長理論入門

概要：経済成長とその理論について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント [成長会計、TFP、新古典派成長理論、定常状態、内生的成長理論、スビルオーバー]

詳細：経済成長の源泉は何か。経済成長理論はどのように発展してきたのか。新古典派成長理論と内生的成長理論の違いは何か。世界各国の経済成長に関するデータを分析し、経済成長について考える。

〈第15講〉マクロ経済学の有効性

概要：マクロ経済学は現代の経済現象を分析するのにどこまで有効かを考える。

事前学習しておくべき用語やポイント [ルークス批判、]

詳細：恐慌、バブル経済、インフレーション、デフレーション、若年者失業、債務危機等のマクロ経済現象は、マクロ経済学によってどこまで分析できているのか。

＊履修者少数の場合は、授業時間内試験を行う。

■教科書

一応なし(ただし、下記から少なくとも1冊を選び、読破して

頂きたい。講義の予習・復習に欠かせない。)

■指定図書

[1] 福田慎一・照山博司(2011)『マクロ経済学・入門』(第4版)有斐閣アルマ

[2] ヨラム・パウマン[山形洪生訳](2012)『この世で一番もしろいマクロ経済学』ダイヤモンド社

■参考文献

[1] 福田慎一・照山博司(2009)『演習式マクロ経済学・入門』有斐閣

[2] 吉川洋(2009)『マクロ経済学』(第3版)岩波書店

[3] 伊藤元重(2012)『マクロ経済学』(第2版)日本評論社

[4] 飯田泰之・中里透(2008)『コンパクト マクロ経済学』新世界社

[5] 脇田成(2012)『マクロ経済学のナビゲーター』(第3版)日本評論社

[6] 中谷巖(2007)『入門マクロ経済学』(第5版)日本評論社

[7] N・グレゴリー・マンキュー(2011) [足立英之・地主敏樹・柳川隆訳]『マンキューマクロ経済学Ⅰ 入門篇』(第3版)東洋経済新報社

[8] N・グレゴリー・マンキュー(2012) [足立英之・地主敏樹・中谷武・柳川隆訳]『マンキューマクロ経済学Ⅱ 応用篇』(第3版)東洋経済新報社

[9] 斎藤誠・岩本泰志・太田総一・柴田章久(2010)『マクロ経済学』有斐閣

■評価方法

評価は、期末試験[持込み不可]の結果(70%)、小テスト・レポート・出席(30%)により行う。

■評価基準

試験範囲が十分学習され、理解できているか。答案に学習の形跡が十分認められるか。私が講義の中で特に力点を置いて詳説した(4から5点の)内容が、十分に説明できるか。マクロ経済学の基礎理論について理解できているか。それに基づいて経済現象を説明することができるか。

相対評価

■事前履修科目等

「産業社会論入門(経済学入門)」[2010年度以前入学者は「経済学基礎」]の単位取得者に限り履修することができる。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目の特徴として、一度欠席すると講義についていけなくなる危険性が高い。毎回の講義の理解・復習、積み重ねが不可欠な科目であることを十分心得おかれたい。教科書(指定図書・参考文献の中のもの少なくとも1冊)や配布資料に対する理解は欠かせない。従って、一度も出席せずして、(あるいは教科書を購入せずして)単位を取得することは不可能であろう。

講義の中で最新の経済ニュースを取り上げ、分析して頂くので、新聞やネットで日々チェックしておくことが必要とされる。

講義の中で求める「課題レポート」の作成にあたっては、MSOffice、Excelを使いこなすことを目標とする。

科目名

マネジメントデザイン論I(図解表現) [Management Design Theory I]

担当教員

久恒 啓一

■講義目的

どのような経営体にも経営資源がある、それはヒト、モノ、カネ、時間、情報、システム、技術、人脈、ブランド、理念、歴史などである。ビジネスにおいてはこれらの経営資源をコミュニケーション活動によって活性化させ商品やサービスをつくりだし、それを外部に販売する。そして売った商品に対して、CS(顧客満足)活動によって苦情や意見を消費者から受け取り、再び経営資源を活性化させ、商品を改良し、新商品につなげていく。ビジネスとはこういったコミュニケーション活動の一連の流れのことである。この講義では、上述の観点からビジネスにおけるコミュニケーションと情報に焦点をあて、今までの文章と箇条書きを中心とした情報処理の欠陥を克服するため、図を用いたコミュニケーションの理論と技術を学ぶ。毎回、産業社会の現場の最前線のテーマを題材に実習を行い「図解コミュニケーション」という新しい問題解決の武器を身に付けてもらう。

■講義分類

ビジネスマネジメント／グローバルビジネス

■到達目標

新聞社説等による個人ワーク、グループでのプレゼンテーションやディスカッションをふまえ、「日本の論点」(文春)の中の一流論者の時事論文をパワーポイントを用いて一枚の図に要約する技術を身につける。|・自身で作成した図解を用いて大人数を対象に自信を持ってプレゼンテーションができるようになる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR [学外学習無]

■講義の概要

<第1講>

概要：講義「マネジメントと図解コミュニケーション」

事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]

詳細：オリエンテーション・マネジメントの本質はコミュニケーション活動・インフラと情報・図解コミュニケーション

<第2講>

概要：講義「ビジネスと経営」・実習

事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]

詳細：オリエンテーション・図解解説(図で考える人は仕事ができる・箇条書きから図解へ。寺島一郎の21世紀世界潮流)・自己紹介図の実習・プレゼン実習

<第3講>

概要：>講義「コミュニケーションと情報」・実習

事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]

詳細：リレー講座の寺島学長講義の図解解説・図解の基本技術の説明・私の大学生活-この一年-を図解・話し合い

<第4講>

概要：講義と実習「ビジネスに関するトピックス」

事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]

詳細：リレー講座の講義の図解解説・図解の基本技術の説明・新聞社説を図解する

<第5講>

概要：講義と実習「ビジネスに関するトピックス」

事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]

詳細：リレー講座の図解解説・新聞社説を図解する・グループでのプレゼンとディスカッション

<第6講>

概要：講義と実習「マネジメントに関するトピックス」

事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]

詳細：リレー講座の講義の図解解説・新聞社説を図解する・グループでのプレゼンとディスカッション

<第7講>

概要：講義と実習「コミュニケーションに関するトピックス」

事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]

詳細：リレー講座の図解解説・図解文章法の解説・図解文章法の実際

<第8講>

概要：講義と実習「コミュニケーションに関するトピックス」

事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]

詳細：ビデオ「企画とプレゼンのための図解の技術」鑑賞

<第9講>

概要：講義と実習「コミュニケーションに関するトピックス」

事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]

詳細：リレー講座の講義の図解解説・多摩の志企業の社長挨拶を図解実習・グループでのプレゼンと全体プレゼン

<第10講>

概要：講義と実習「経営情報に関するトピックス」

事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]

詳細：リレー講座の講義の図解解説・図解広告の実習・グループでのプレゼンと全体プレゼン

<第11講>

概要：講義と実習「経営情報に関するトピックス」

事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]

詳細：トレーニング本から図解・寺島学長講演の図解解説・

社説比較図解実習・グループでのプレゼンとディスカッション

<第12講>

概要：講義と実習「商品に関するトピックス」

事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]

詳細：リレー講座の講義の図解説・トレーニング本から図解説・商品説明の図解とグループプレゼンと全体プレゼン

<第13講>

概要：講義と実習「時事に関するトピックス」

事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]

詳細：リレー講座の講義の図解説・「日本の論点」の論文を図解①

<第14講>

概要：講義と実習「時事に関するトピックス」

事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]

詳細：リレー講座の講義の図解説・「日本の論点」の論文を図解②・グループディスカッション

<第15講>

概要：講義「経営情報とマネジメントデザイン」

事前学習しておくべき用語やポイント[日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。]

詳細：リレー講座の講義の図解説・「日本の論点」の論文を図解③・まとめ

■教科書

「図で考える技術が身につくトレーニング30」(PHP研究所・久恒啓一)

■指定図書

「図解の極意」(アスキー出版・久恒啓一)|「図解で身につく！ドラッカーの理論」(中経の文庫・久恒啓一)|「図で考えれば文章がうまくなる」(PHP文・久恒啓一)

■参考文献

「日本の論点2013」(文芸春秋社)

■参考URL

<http://www.hisatune.net/>

■評価方法

- 1.出席 50点
- 2.提出する図 25点
- 3.毎回の授業に関するレポートの内容 25点

■評価基準

相対評価

出席を重視した評価を行う

提出図とレポートは、提出枚数とレベルを勘案し評価する

■事前履修科目等

文章伝達入門(樋口先生)を履修するのが望ましい

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

毎回実習(作図・プレゼン・ディスカッション)を行うことで力をつけていくので、毎回出席することが望ましい。

科目名 マネジメントデザイン論II(Management Design Theory II)

担当教員 小林 英夫

■講義目的

ビジネスはコミュニケーション活動によって成り立っており、その活動を担うのは人である。経営資源を束ねる人的資源の重要性はますます高まっている。今後はキャリア形成を含むライフマネジメントの視点から人的資源の活性化を考えながら、組織や経営やビジネスについて考察することが求められる。本講義では、組織のマネジメントとそれを支える行動規範としてのアントレプレナーシップについて包括的に学ぶとともに、現在活躍中の企業家や事業家の生き方を知ることを通じて、自らのライフマネジメントについて考える。また自らの志を実現するためのアイディアを考え、グループワークを通じてそれを精緻化していくことにより、事業ビジネスに取り組むことの楽しさと困難を知る。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

・マネジメントは何か、企業家という存在とは何かを理解することを通して、自らのキャリアデザインを考えられるようになる。・事業の立ち上げや発展に必要な知識を習得し、事業創業や急成長時に特有の課題や戦略を理解する。・立志につながるアイディアの種を発見し、チーム活動を通じてそれを具体化せられるようになる。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR|その他(クラスティスカッション、ゲストスピーチ) (学外学習無)

■講義の概要

<第1講> マネジメント 1

概要：マネジメントとは何か

事前学習しておくべき用語やポイント[ドラッカー、リーダー、マネジャー]

詳細：マネジメント・システムをどう捉えるか。その中で、本講座が狙うものは何かについて知る。

<第2講> マネジメント 2

概要：企業と経営

事前学習しておくべき用語やポイント[企業の機能、企業統治、企業理念、経営戦略]

詳細：会社を経営することというのは具体的にどのようなことを指すのか、会社は社会とどのように関わっているのか、会社は誰がどのように動かしているのか、その方針はどのように決められているのかについて知り、会社組織とはどのようなかを理解する。

<第3講> マネジメント 3

概要：組織と人材

事前学習しておくべき用語やポイント[人的資源、モチベーション、リーダーシップ]

詳細：会社組織はどのような構造をしており、それはどのように決まっていくのか、その中で社員はどのように働いているのか、個々人と会社組織はどのように関わっていくのかを知り、会社組織を通じたキャリア・マネジメントについて考えられるようにする。

<第4講> アントレプレナーシップ 1

概要：企業家とベンチャー|事前学習しておくべき用語やポイント[企業家精神、起業家、ベンチャー企業]

詳細：経済を活性化して成長を導くためにベンチャーの果たす役割は大きい。ベンチャーの定義と意義や現状、その活動を支える企業家精神の考え方を学ぶ。

<第5講> アントレプレナーシップ 2

概要：起業プロセスと事業計画

事前学習しておくべき用語やポイント[起業機会、ビジネス・プラン]

詳細：起業プロセスにおいては、アイディアだけでなく、事業機会、動機、ビジョン、戦略、マーケティング、財務、人材など、多くの要素が絡み合う。これらを統合し、起業の基本となる事業計画書とは何かを学ぶ。

<第6講> アイディアコンテスト 1

概要：立志アイディアの個人発表

事前学習しておくべき用語やポイント[各自が自身のアイディアの発表準備をしてくる]

詳細：前回までの講義を通じた知識をもとに、一人ひとりが自らの志を社会で実現するためのアイディア(新しいビジネスの種となるようなものを想定)を考えてきて、それを発表する。

<第7講> アントレプレナーシップ 3

概要：経営チームと資本戦略

事前学習しておくべき用語やポイント[企業家チーム、融資、出資、VC]

詳細：神話的なカリスマ起業家に眼を奪われがちであるが、実際の起業プロセスは経営チームとして遂行されている。また、ビジネスには資本が欠かせず、起業にあたってはどのような資本戦略を採るかが重要である。これらの事項の基本的知識を学ぶ。

<第8講> アントレプレナーシップ 4

概要：企業成長とEXIT

事前学習しておくべき用語やポイント[インキュベーション、IPO、M&A]

詳細：ベンチャーを成長させるのは、インキュベーターとよばれる様々な支援者の存在が欠かせない。そしてベンチャーの創業者や支援者は株式上場や事業売却といった形で成長から収獲を得る。本講では初期のベンチャーの成長を支える外部の支援者やベンチャーからの脱皮について学ぶ。

<第9講> アイディアコンテスト 2

概要：立志アイディアの選択

事前学習しておくべき用語やポイント[第6講で発表されたアイディアを評価してくる]

詳細：第6講において各自が発表したアイディアから幾つかを選択し、グループ作業を通じてそのアイディアを実現するための方策について検討する。

<第10講> アントレプレナーシップ 5

概要：三木谷浩史と柳井正

事前学習しておくべき用語やポイント[楽天、ユニクロ]

詳細：現代を代表する企業家として、楽天の三木谷浩史とユニクロの柳井正を取り上げる。その生い立ち、起業あるいは第二創業に至る経緯、経営者としての行動を知り、その志を

学ぶ。

<第11講>アントレプレナーシップ6

概要：外部講師講演(予定)

事前学習しておくべき用語やポイント[ゲストに関連する項目、講義内で別途指示する]

詳細：社会で活躍する企業家や事業家をゲストとして招き、対話を通じてその生き方を学び、自らの志を考える。(*外部講師の都合によりスケジュール変更の可能性がある)

<第12講> アイディアコンテスト3

概要：立志アイディアの精緻化

事前学習しておくべき用語やポイント[第9講で選択したアイディアを膨らませてくる]

詳細：第6講および第9講で検討したアイディアを、グループ作業を通じて精緻化し、ビジネスとして実行するための課題と対策を検討する。

<第13講> アントレプレナーシップ7

概要：孫正義と千本倅生

事前学習しておくべき用語やポイント[ソフトバンク、KDDI、ウィルコム、イー・モバイル]

詳細：現代を代表する企業家として、ソフトバンクの孫正義とKDDI/ウィルコム/イー・アクセス/イー・モバイルの千本倅生を取り上げる。その生い立ち、起業に至る経緯、経営者としての行動を知り、その志を学ぶ。

<第14講> アントレプレナーシップ8

概要：企業家チームと追隨的企業家

事前学習しておくべき用語やポイント[共同創業者、創業メンバー、番頭、補佐役]

詳細：初期のベンチャーの経営を担うのは孤高の英雄ではなくチームである。ベンチャーの創業者に巻き込まれてチームを組み、その成長を牽引する存在としての追隨的企業家に注目し、その存在意義を学ぶ。

<第15講> アイディアコンテスト4

概要：立志アイディアのグループ発表

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーションを準備してくる]

詳細：第6講、第9講、第12講を通じて煮詰めたアイディアを、グループ・プレゼンテーションにより発表する"

■教科書

特になし。講義用資料を適宜配布または紹介する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

講義内で適宜紹介する。

■評価方法

出席・授業貢献(30%)、アイディアコンテスト(30%)、期末定期試験(40%)

■評価基準

相対評価

授業に臨む態度や建設的な意見や質問による講座の品質向上への貢献を評価する。

アイディアコンテストは、グループでアイディアを具体化させていく活動の成果とプレゼンテーションを評価する。

期末試験では、経営組織に関する知識の習得度とともに、組織を通じたキャリア形成イメージが描けるようになっているかを評価する。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名 マルチメディア実践〔Multi-media Design〕

担当教員 彩藤 ひろみ

■講義目的

自己表現をする手段として、PCを自由に使いこなすことを目標とする。特にビジュアル表現をPCを使ってどうすればよいのかを重点に学ぶ。ベクトルデータによるイラスト作成、3DCGソフトウェア入門、(グループによる)実写ムービーの編集を体験することが目的である。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

ベクトルデータを利用したイラスト作成。基本の理解と作品完成。
Excelを利用したビジュアルなグラフ作成。
キャラクター調べと創造。3DCGソフトウェア入門。
実写編集の基本。作品完成。

■講義形態

講義 + GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

1-1. 講義の流れの説明

この講義には、3つの大きな課題がある。
一つ目は、パソコンによる画像作成。まず、題材について調べ、手描きレポートを提出する。Excelを使ってビジュアルなグラフを描くことも範疇に在る。これらの作品を大学内ホームページにアップする方法も学ぶ。
二つ目は、パソコンによる3DCGキャラクターの作成。Doga〔<http://doga.jp/>〕という3DCGを簡単に作れるソフトウェアまたは、SculptrisというPC上で粘土のように操作するソフトウェアを利用し、3次元キャラクターを作る。
三つ目は、グループで組んだ、実写映像の作成である。シナリオの作成、絵コンテの作成、ビデオ撮影、パソコンによる映像編集、できあがったムービーのDVD書き出しまでが求められる。
毎年テーマが変わるが、今年度は「出身県の特産物」をテーマにする。

1-2. ソフトウェアの利用

「Inkscape」ソフトを利用して、マウスあるいはタッチパッドを使ってどれぐらいの絵が描けるか練習してみる。ほかのフリーウェアやシェアウェアのソフトを使ってもよい。ダウンロードからインストールまで理解し、実際におこなってみる。

〈予習、復習のポイント〉

予習：パソコンに入っている「ペイント」というソフトウェアで遊んでみる。出身県をテーマにするので、基本データなどを押さえておくことよい。

復習：イラスト系ソフトウェアの練習。説明を受けたテーマに従って、手描きレポートの準備。

〈第2講〉

2-1. オフィス系ソフトウェアの利用

Excel, Word, Powerpoint を利用してビジュアルな資料をつくる

2-2. ソフトウェアの使い方

ペイント系ソフトのいくつかを選び、使い方を説明する。ツールとしては、ブラシ、消しゴム、グラデーションなどをメ

インに練習する。概念としては色、レイヤー、データ形式などを中心に伝える。

先に作成したポスターをペイントソフトで再現してみる。

〈予習、復習のポイント〉

予習：県の情報をながめ、ポイントとなりそうな部分(特産物)を基本データとしてまとめておく

復習：ペイントソフトの習熟。レポートの提出準備。

〈第3講〉

3-1. グラフィカルデザイン

直線、円、四角、多角形などの基本図形や、パターン、スタンプなどのブラシを利用して、自由な発想で絵を組み立ててみる。テーマにした県の特徴、特産物などを表現してみよう。

3-2. ソフトウェアの使い方

基本図形の使い方とブラシやスタンプなどの使い方を伝える。先に表現した絵をパソコンを使って再現してみる。

第2講で作成した図とあわせて新しいイメージが表出できな

いか試してみる。

レイヤーの重ね合わせとモードについて練習する。

〈予習、復習のポイント〉

予習：テーマとした県の特徴、特産物を調べて心に留めておく。

復習：パソコンで絵を描く練習。

〈第4講〉

レポート1の提出。

4-1. デジタル作品を提出するまで

ネットワーク接続概念。大学内ファイルサーバー概念の理解。接続とアップロードの方法。データ形式の理解。提出練習。

詳細は、{<http://pub.edu.tama.ac.jp/hiro/>}

にある、授業用ホームページを利用して伝える。

〈予習、復習のポイント〉

予習(レポート課題1)：手描きレポート「テーマとした県の特産物について。グラフとイラストで表現するポスター案」を提出準備する。

復習：データ提出方法

〈第5講〉

モチーフを形にするまで。

デザイン練習。

〈予習、復習のポイント〉

予習：ポストカード、ポスターなどをたくさん見て、自分が面白いと思うもの、心惹かれるデザインについて心に留めておく。

復習：第1デジタル作品作成(ポストカードかポスター)

〈第6講〉

第1デジタル作品提出日

確実に提出できたかどうかの確認。

{<http://pub.edu.tama.ac.jp/>}(自分のID)/multi/kadai1.html}

へアクセス。

〈予習、復習のポイント〉

作品を完成させること。提出を自分で確認すること。

〈第7講〉

7-1. 第2課題の説明

県の特産物を表現する「ゆるキャラクター」を創造し、3DCG

で作成してみる。

7-2. Doga-L3またはsculptrisのインストールと利用
{<http://doga.jp/> より、Doga-L3}というソフトウェアをダウンロード、インストールする。3Dシーンの使い方をサンプルキャラクターを使って説明する。

〈予習、復習のポイント〉

ゆるキャラのデザインをしておく。

〈第8講〉

8-1. 絵コンテの描き方

実際のアニメの絵コンテを参考に、絵コンテに書き込む内容を伝える。必ずしもマスターする必要はないが、自分が作ろうとしている作品を表現してみよう。

8-2. Doga-L3またはsculptrisでキャラクターを作る

〈予習、復習のポイント〉

全国のゆるキャラ調べ。第2レポートの作成。

〈第9講〉

第2レポート提出。

県の特産物宣伝用ポスター(ゆるキャラクターつき)を提出

〈予習、復習のポイント〉

作品作成に時間をかける。

〈第10講〉

第2デジタル作品完成と提出に向けての作業。

余裕がある人はアニメーションを作成する。

〈予習、復習のポイント〉

作品作成。

〈第11講〉

第2デジタル作品の提出。

〈予習、復習のポイント〉

作品作成と提出の確認。

〈第12講〉

第3課題の説明

グループミーティング。

ビデオカメラの扱い方。

編集方法。

〈予習、復習のポイント〉

テーマについての予備知識整理。

〈第12講〉

グループミーティング。シナリオ作成。

〈予習、復習のポイント〉

役割分担と作品作成に向けての作業。

〈第13講〉

絵コンテ提出と仮発表。

〈予習、復習のポイント〉

作品作成に向けての作業。

〈第14講〉

ムービー編集。

〈予習、復習のポイント〉

作品完成。

〈第15講〉

実写ビデオ作品発表。できあがったムービーを教室のスクリーンに映写して、見どころ、工夫した点などを発表する。

〈予習、復習のポイント〉

ムービーの編集方法。ムービーの書き出し方法。DVD-RまたはCD-Rへのデータ焼きこみ方法。美しいレポート作成。

■指定図書

特になし

■参考文献

特になし

■評価方法

3つの作品における、技術点、芸術点評価。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

初回からパソコンと電源を持参すること。マウス、ペンタブレットなどを使ってもよい。

■教科書

特になし

科目名 ミクロ経済学〔Microeconomics〕

担当教員 下井 直毅

■講義目的

この講義ではミクロ経済学について学ぶ。ミクロ経済学は、産業社会の中で資源配分がどのように行われているのか、あるいはないのかといった、メカニズムを明らかにすることを主たる目的にしている。限られた生産資源である労働や資本などをいかに効率的に生産にまわすのか(配分するの)かという問題を扱う。また、企業や産業を取り巻く社会問題についても経済学の発想で分析し、問題把握を行う。

■講義分類

ビジネス環境理解／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

できる限り現実の産業社会における経済現象に関心を持ち、それを分析するための経済学を学び、その基本的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義のみ〔外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉需要と供給

概要：需要と供給の関係について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

[需要曲線、供給曲線、均衡、均衡価格、超過供給、超過需要、完全競争]

詳細：需要曲線とは何か。供給曲線とは何か。完全競争市場とはどのような世界かを学ぶ

〈第2講〉需要曲線の傾斜と消費者の行動

概要：需要曲線と消費者の行動について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

[需要曲線、需要の価格弾力性、需要曲線のシフト、外生変数、内生変数、消費者余剰、二部料金制]

詳細：需要曲線はどういう場合にシフトするのか。消費者余剰とはどういった概念なのかを学ぶ

〈第3講〉費用曲線と企業の行動

概要：費用曲線と企業の行動について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

[供給曲線、供給の価格弾力性、供給曲線のシフト]

詳細：供給曲線はどういう場合にシフトするのかを学ぶ

〈第4講〉企業の利潤最大化行動と供給曲線

概要：企業の最適行動について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

[総費用、固定費用、可変費用、平均費用、限界費用、利潤最大化行動、生産者余剰]

詳細：どのような費用が存在するのか。生産者余剰とはどういった概念なのかを学ぶ

〈第5講〉消費者行動の理論

概要：消費者行動について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

[効用、無差別曲線、効用最大化仮説、効用関数、限界代替率、予算制約]

詳細：効用とは何か、無差別曲線とは何か、消費者の行動原理は何かを学ぶ

〈第6講〉消費者行動理論の展開

概要：様々な財について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

[エンゲル係数、上級財(正常財)、下級財(劣等財)、需要の所得弾力性]

詳細：上級財や下級財と呼ばれる財にはどのようなものがあるのかを学ぶ

〈第7講〉企業の生産関数と費用最小化行動

概要：様々な生産関数を理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

[規模に関して収穫一定・収穫逓増・収穫逓減、費用最小化行動、等量曲線]

詳細：企業の行動原理は何かを学ぶ

〈第8講〉一般均衡と資源配分

概要：一般均衡の概念を理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

[交換の利益、一物一価の法則、パレート最適、ボックス・ダイアグラム、資源配分の効率性]

詳細：効率的な資源配分とはどのようなものかを学ぶ

〈第9講〉独占の理論

概要：独占とは何かを理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

[平均収入曲線、総収入曲線、限界収入曲線、独占利潤]

詳細：独占市場における価格や生産量はどのように決まるのかを学ぶ

〈第10講〉独占競争の理論

概要：独占的競争とは何かを理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

[製品の差別化、独占的競争、製品の多様化]

詳細：独占的競争市場とはどのような市場なのかを学ぶ

〈第11講〉ゲームの理論

概要：戦略的思考について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

[囚人のジレンマ、繰り返しゲーム、空母し]

詳細：囚人のジレンマというのはどういったゲームなのか。繰り返しゲームになると何が違うのかを学ぶ

〈第12講〉市場の失敗I

概要：市場の失敗の事例を理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

[外部効果、私的限界費用、社会的限界費用、ビゲー税、正の外部効果、負の外部効果]

詳細：市場が失敗するとはどういうことを学ぶ

〈第13講〉市場の失敗II

概要：市場の失敗の身近な事例について理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

[費用逓減産業、限界費用曲線形成原理、ネットワークの外部性、公共財、フリーライダー]

詳細：市場の失敗にはどのようなものがあるのかを学ぶ

〈第14講〉不確実性と経済現象

概要：不確実性とは何かを理解する

事前学習しておくべき用語やポイント

[モラルハザード、同時効用最大化仮説、セントペテルスブルクの仮説、危険回避行動]

詳細：リスクと不確実性の違いは何か。モラルハザードとはどういう現象なのかを学ぶ

〈第15講〉まとめ

概要：これまでの内容を復習する

事前学習しておくべき用語やポイント

[需要と供給、完全競争、不完全競争、ゲーム理論、一般均衡、市場の失敗]

詳細：講義では何を扱ってきたのかを振り返る

■教科書

伊藤元重『入門経済学』(第3版) 日本評論社(2009)

■指定図書

特になし

■参考文献

伊藤元重『ミクロ経済学』(第2版) 日本評論社(2003)

西村和雄『ミクロ経済学入門』(第2版) 岩波書店(1995)

倉澤資成『入門 価格理論』(第2版) 日本評論社(1988)

■評価方法

期末テスト(70%)・出席および小テスト(ないしは課題)(30%)

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

2010年度以前の入学生は、「経済学基礎」の単位修得者に限り、また2011年度以降の入学生は、「産業社会入門(経済)」の単位修得者に限り、履修登録ができる。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

科 目 名 問題解決学総論(入門) [(Introduction to Complex Problem Solving)]**担当教員** 豊田 裕貴、他**■講義目的**

実学志向の多摩大学経営情報学部では、産業社会の問題解決の最前線に立つ力の育成を重視している。そのためには、各種講義や演習で学ぶ知識を組み合わせ、様々な問題にどう挑み、解決するかを修得する必要がある。

この目的から、この科目では毎回異なる教員が様々な分野のテーマを取り上げ、そのテーマに関して「問題はどこにあるか(解くべき問題は何か)」「なぜ問題となっているか」「その問題をどのように解決するか」などを、事例や方法論の立場から解説する。

※担当者：A：出原、中庭、B：下井、豊田の4教員をコーディネーターとし、毎回異なる教員が講義を行うオムニバス形式を採用する。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人育成／グローバルビジネス／ビジネスICT／地域ビジネス

■到達目標

様々なテーマの問題解決事例を学び、①それぞれのテーマに自分ならばどのようなアプローチをするか。また、②その事例の問題解決に用いられた方法が、自分の興味がある問題にいかに応用出来るかを考えられることを目標とする。

■講義形態

講義＋レポート〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉オリエンテーションおよび問題解決学基礎

概要：問題解決学総論の受講の仕方の説明ならびに問題解決学とは何かについて解説する事前学習しておくべき用語やポイント〔問題発見、問題解決〕

詳細：2回目以降の受講ルールなどを説明するため、必ず出席すること。

〈第2講から第14講〉問題解決ケーススタディ：事例と視点

概要：毎回異なる教員がそれぞれのテーマを元に、問題解決事例を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔該当回の前の回に事前に連絡する〕

詳細：各回のテーマのスケジュール一覧については、第一回目の講義で配布する。

〈第15講〉まとめ

概要：まとめ

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

特になし

■評価方法

出席および毎回講義の最後に提出するレポート（講義レポート）と期末レポートによる。

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・前回出席を前提とする（何回まで休んでも良いかというような愚問をしないこと）。

・ケースの解説とそれらについてのレポート作成を行うため講義スタイルのため、途中入場では内容が理解できない。遅刻をしないこと。遅刻は減点対象とし、10分以上の遅刻入室も認めない(10分後施設します)。

科目名 問題解決学実践I[Complex Problem Solving I]

担当教員 彩藤 ひろみ、他

■講義目的

実学志向の多摩大学経営情報学部では、産業社会の問題解決の最前線に立つ力の育成を重視している。そのためには、各種講義や演習で学ぶ知識を組み合わせ、様々な問題にどう挑み、解決するかを修得する必要がある。

この講義に先立ち、春学期に問題解決学総論(入門)が開講されているが、本講義はその発展である。

この目的から、この科目では毎回異なるゲストが様々な分野のテーマを取り上げ、そのテーマに関して「問題はどこにあるか(解くべき問題は何か)」「なぜ問題となっているか」「その問題をどのように解決するか」などを、事例や方法論の立場から解説する。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／ビジネスICT／地域ビジネス

■到達目標

様々なテーマの問題解決事例を学び、①それぞれのテーマに自分ならばどのようなアプローチをするか。また、②その事例の問題解決に用いられた方法が、自分の興味がある問題にいかに応用出来るかを考えられることを目標とする。

■講義形態

講義＋レポート[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉オリエンテーション

問題解決学実践の受講の仕方の説明ならびに問題解決学とは何かについて解説する。2回目以降の受講ルールなどを説明するため、必ず出席すること。

〈第2講から第14講〉問題解決ケーススタディ：事例と視点

毎回異なるゲストがそれぞれのテーマを元に、問題解決事例を学ぶ。各回のテーマのスケジュール一覧については、第一回目の講義で配布する。

〈第15講〉まとめ

概要：まとめ

■評価方法

出席および毎回講義の最後に提出するレポート（講義レポート）による。

■評価基準

絶対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・全回出席を前提とする(何回まで休んでも良いかというような愚問をしないこと)。

・ケースの解説とそれらについてのレポート作成を行うため講義スタイルのため、途中入場では内容が理解できない。遅刻をしないこと。遅刻は減点対象とし、10分以上の遅刻入室も認めない(10分後施錠します)。

・受講希望者が多数になる場合には、問題解決学総論(入門)の単位取得状況などにより、受講制限がかかる可能性があります。第一回目に詳細を説明するため、受講希望者は第一回目に必ず出席すること。

科目名 余暇マネジメントⅠ[Management of Leisure Life & Leisure Society Ⅰ]

担当教員 杉田 文章

■講義目的

- (1) 以下三点について知り、自分なりの知見を有することに資する ①「余暇」の歴史、概念、現状、意義
- ②「余暇市場」の構造、現状、背景 ③「余暇製品」産業の使命、マーケティング方法の中枢
- (2)「余暇をマネジメントする」概念を理解することによって、問題発見・解決の切り口を与えること。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

本講義における「余暇」「レジャー」の概念と意義について十分理解し、たとえばあるレジャー製品(財もしくはサービス)について、そのマーケティングの在り方について論じることができるようになること。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR GD: グループディスカッション GW: グループワーク PR: プレゼンテーション[学外学習無]

■講義の概要

【第1講】余暇とは何か

「余暇」には、通常「レジャー」の訳語として理解されているが、他の多くの言葉と同様に、非常にあいまいに使用されることが多い言葉であるし、また使用する人によって意味付けられることの多い言葉でもある。

この「レジャー」「余暇」とはそもそも何なのか、その本質はどこにあるのか。本講義の第一回目、まずこのことについてはっきりしておきたい。

レジャーの定義「レジャー」の歴史「レジャー」の質量

(予習、復習のポイント)

講義概要をよく読み、講義の方向性やテーマ、論点となる社会的情勢について、把握しておくこと。

高度経済成長から今に至るまでの、社会・経済的な変遷についても大まかに理解しておくことが望ましい。

【第2講】余暇と社会

余暇のありかたは、その時代、その社会の経済的特徴、社会的特徴、価値観と密接にかかわっていることがよくわかる。ここでは、ダニエル・ベルやヨゼフ・アベラーなどの考察をもとに、余暇のありかたについて社会的側面との関連を考察し、今日および将来の余暇のありかたについて考えてみる。

(予習、復習のポイント)

ダニエル・ベル「後工業社会の到来」、ヨゼフ・アベラー「余暇と市民」などの著述の概要について把握しておくこと。講義後は、その指摘するところの意義について、さらに理解を深めることを求めたい。

【第3講】あそびとは何か

余暇のありかたを考えた上で欠くべからざる対象として、「遊び」という現象があるであろう。「遊び」ということは自体「自由であること」「強制されていないこと」「無駄であること」あるいは「ゆとり」「ゆるみ」といった意味合いが込められている。ここではヨハン・ボイジンガやロジェ・カイヨワなどの遊戯社会論、プレイ論等を通して、我々が労働や学業の合間に「遊ぶ」とのこむねを積極的な意義について考える。

(予習、復習のポイント)

ロジェ・カイヨワ「遊びと人間」やヨハン・ボイジンガ「ホモ・ルーパス」などの、遊びや余暇に関する著作の概要と、その社会的意義について、あらかじめ概要を把握するよう求めること。

【第4講】スポーツ現象を見る、「遊び」の制度化と商品化

レジャー産業、余暇産業は、まさに人々の「遊び」をマーケティングの対象とした娯楽行為であるといえることができる。ここでは「スポーツ」を「遊び」文化の一側面として扱い、社会変遷とのかわりの中でスポーツがどのように制度化し、また、娯楽活動の中に取り込まれてきたか、について論じ、その影響について考えてみる。

(予習、復習のポイント)

①「スポーツ」と呼ばれるものが包含していると思われるあらゆる「価値」を、すべて書き出してみること。

②その中で、各時代において、どのような価値が顕性を持っていたのかについて考察しておくこと。

【第5講】プロスポーツの現状と課題

スポーツ文化の経済へのとりこみ一つの根拠が、プロスポーツの出現であるといっているであろう。しかし今日、スポーツの商品化による市場の発展はもはや普遍的なものではなく、むしろ大幅に利益変更を余儀なくされている。ここでは、スポーツのプロ化とは何を意味していたか、どこに問題点があるのか、今後、社会のあり方とのかわりから見てどのような発展を目指すべきか、などについて、いろいろなスポーツイベントや、プロスポーツ興行、行政のコミュニティづくり政策などを参考にしながら考える。

(予習、復習のポイント)

こんなことのスポーツを問う問題を、各自ブレーストリングの手法を用いて、列挙してあること、新聞記事などを用いてもよい。それらを、自分なりに加工加工し、どのような問題なのかを表す指針を与えてあること。さらに、それらの「問題」は、どのような背景をもとに生じた問題であるのかを分析すること。

【第6講】レジャー産業の市場構造

「レジャー産業」を定義することともに、カイグス、宮澤らの産業組織論の枠組みを参考に、レジャー産業の市場構造について見ていく。

(予習、復習のポイント)

「産業」「市場」の概念について、今般経済学、経営学的な概念定義について確認しておくこと。

市場経済についての所論論議についての概要を、把握しておくこと。

【第7講】産業政策から見たレジャー産業の市場構造

わが国を例に、産業政策の発展がもたらした自由競争市場、自由競争市場の増大とそれとともなってクロスアップされたレジャー市場の背景を探る。また、通産省(当時)の「生活実証・産業モデルとしてのレジャー産業政策について」を紹介する。

(予習、復習のポイント)

戦後の我が国における国民所得の増大、GDPの推移について、概要を把握しておくこと

【第8講】産業政策から見たレジャー産業の市場構造

第7講と同じ

【第9講】レジャー産業の業態と市場構造

レジャー産業概念を、レジャー製品(leisure time goods)、レジャーサービス(leisure time services)、レジャースペース(leisure time spaces)の3つの視点から、また業態からどういったスポーツ産業、ホビー産業、娯楽ゲーム産業、観光文化産業の4つの視点から検討する。

(予習、復習のポイント)

「レジャー・白書2009」財団法人日本生体本部

<http://activity.jpcc-net.jp/detail/yoka/activity/000329.html> などから、レジャー市場の概要について全体を把握しておくこと。

【第10講】社会変動からみたレジャー産業市場構造

総理府の、「国民生活に関する世帯調査」によれば、わが国の国民の主体的性は「(1)物の豊かさ」「重視・追及から」「心の豊かさ」「重視・追求へと移行し、また(2)生活の第一の目的が、「労働生活」から「レジャー・余暇生活」へと移行したことについて、リズマン、ベル、フロムなどの理論を交えながら、解説する。

(予習、復習のポイント)

デビッド・リズマン「脱職の弊害」、エーリッヒ・フロム「生きるとのこと」などの著作についての概要を把握し、こゝにちの労働と余暇の関係性の視点からその意義について考察しておくこと。

【第11講】社会変動からみたレジャー産業市場構造

第10講と同じ

【第12講】社会変動からみたレジャー産業市場構造

第10講と同じ

【第13講】まとめ

まとめ

これまでの講義から、今後社会においてどのような問題論議に取り組むべきかについての知見を抽出することを求める。

【第14講】まとめ

まとめ

第13講と同様とする。

【第15講】講義全体の理解を確認するためのディスカッション、質疑応答を実施する予定。

■教科書

特に指定しない

■指定図書

「スポーツ産業論」松田義幸

■参考文献

講義内で指示する。

■評価方法

合否は期末テストのみによって行う。合格の場合、出席、授業内レポートを若干加味する場合がある。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

科目名

余暇マネジメントII〔Management of Leisure Life & Leisure Society II〕

担当教員

杉田 文章

■講義目的

(1) 以下三点について知り、自分なりの知見を有することに資する①「余暇」の概念、歴史、現状、意義②「余暇市場」の構造、現状、背景③「余暇製品」産業の使命、マーケティング方法の中核(2)「余暇をマネジメントする」概念を理解することによって、問題発見・解決の切り口を与えること。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

本講義における「余暇」「レジャー」の概念と意義について十分理解し、たとえばあるレジャー製品(財もしくはサービス)について、そのマーケティングの在り方について論じることができるようになること。

■講義形態

講義+GD・GW・PR GD:グループディスカッション GW:グループワーク PR:プレゼンテーション〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉 ガイダンス

「現代社会におけるレジャーを巡る課題とは何か?」必需品市場製品が、「生きるため」の課題に対応する製品であるとすれば、レジャー市場製品は、「よりよく生きる」課題に対応しているといえることができる。一般的に経済的な豊かさが国民の幸福観に貢献するのはある水準までであり、その水準を超えて経済的に豊かになっても、必ずしも幸福度は上昇しないことが指摘されている。この講座においてレジャーを考察するにあたり、こういった課題点に対して余暇をマネジメントする視点からどうアプローチするのか、という問題提起を行う。(予習・復習のポイント)「幸福」に関する知見を、ある程度自分なりに抑え、意見をまとめておくことが望ましい。

〈第2講〉

「レジャー産業と「公益」」(1)

我が国バブル期におけるレジャー産業、なかでも、ゴルフ会員権市場ビジネスを例に、我が国レジャー関連企業の立ち位置について考察する。(予習・復習のポイント)バブル経済の概要について調べ、把握・理解しておくことが望ましい。

〈第3講〉

「レジャー産業と「公益」」(2)

前回の講義を踏まえて、レジャー企業が担う二つの目的について考察し、PR(パブリックリレーション)やCIについて考え、企業によるレジャーやスポーツ文化支援の実態とあるべき姿についても考える。

(予習・復習のポイント)

前講に同じ。くわえて、プロ野球や、プロサッカーの成り立ちなどについても調べ、見解をまとめておくことがのぞましい。

〈第4講〉

「余暇の価値」

レジャー政策およびレジャー産業企業が担うべき「レジャーの価値」とは、いかなるものか。ここでは、レジャーが、市場拡大の標的としてレジャーが位置づけられ、結果としてレジャーの価値そのものの「陳腐化」「コモディティ化」現象が起きているとの見方から市場を観察し、課題の所在について考察する。

〈第5講〉

「レジャー製品のマーケティング上の力点」

レジャー製品市場が、プライマリデマンドの開発に力点をおくべき性質を持っているという点に焦点をあてた上で、ジョン・ラスキン、池上淳の文化経済学の枠組みを紹介し、文化の持つ有効価値を具現化する方法について考察していく。また、須賀由紀子氏によるレジャー文化価値享受能力開発モデルについて学び、スポーツをはじめとするいろいろな分野の価値を十全に受け止めることができる社会づくりについて、その具体的方法を考察する。

〈第6講〉

「レジャーにおける製品政策」

レジャー製品に対するニーズの多様性、曖昧性を踏まえ、製品制作のポイントについて考察する。フィリップ・コトラーの製品三次元の考え方などに従って、製品あるいは、一連のレジャー製品群の価値の構造について考察する。これにより、スポーツや個別のレジャー分野の市場成長に結びつく製品企画の基礎概念について学ぶ。

〈第7講〉

「「遊び」の中心価値」(1)

前回の講義を踏まえ、「遊び」の価値構造について考える。その際、春学期にも触れたロジェ・カイヨワやヨハン・ホイジンガの理論を踏まえて、「遊び」製品の価値構造について考察する。また、あらたな遊び開発などの基礎アイデアを考える。

〈第8講〉

「「遊び」の中心価値」(2)

レジャー4分野のさまざまなレジャー行動の中にどのような価値とその充足が見られるかについて、具体的に検討する。製品政策として企業が設定している価値と、消費者の充足状況とが合ったものになっているかどうか、ミスマッチがあれば、それは何に起因して起こっているか、などについてレジャー製品の具体例を挙げて検討する。

〈第9講〉

「「スポーツ」の価値構造の可視化によるマーケティング事例の検討」

スポーツ市場において、後発でありながら世界の大手企業に成長したナイキ社をテキストに、新たなスポーツの価値を構築しマーケティングに成功した事例を検討する。

(予習・復習のポイント)

松田義幸著「スポーツブランド」(大修館)などにより、あらかじめナイキについて調べておくこと。

〈第10講〉

「レジャー分野のブランド政策」

一般的なブランド戦略の概要について確認したうえで、レジャーブランドの実態について考察する。企業や製品の銘

柄としてのブランドに加え、観光地全体も一つのブランドとして考えることができるし、また、スポーツ種目などもその普及の視点から見れば、ブランドと考えることに有効性があると考えられる。これらをどのようにプロモートすればよいのか、実際にはどのように扱われてきているか、問題はどこにあるのか、について考察していく。

〈第11講〉

「レジャー産業の価格政策」

不況時代に入って、レジャー市場は価格競争の波に飲み込まれた。

マーケティングの一般理論にたがわず、いかに価値づけして価格についての合理性を作り、維持するか、という視点から、これまでのレジャー市場における価格政策について振り返り、今後のレジャー産業経営の在り方について考えていく。

(予習・復習のポイント)

価格の一般理論についても触れるが、あらかじめ価格政策に関して概観しておくことが望ましい。

〈第12講〉<第13講〉

「政府によるレジャー政策、リゾート政策について考える」
ここでは、まず我が国が法的環境も整備しながら、レジャー分野の拡充を図ってきた経緯について振り返る。結果からいえば、「失われた20年」と連動してレジャー政策も行きづまることになる。ここに、これまで学んできた余暇のマネジメントの視点から、この一連のプロセスを検証し、今後の観光立国などの政策方針の在り方について議論していきたい。

〈第14講〉

「レジャー産業のミッション」

本講座の「まとめ①」として、レジャー企業の公益性の立場から、レジャー産業企業のミッションについて考察する。我が国の経済状況だけでなく、文化やスポーツの状況をとらえ、そのうえで、レジャー産業がどのように貢献しているのかについて考える。

〈第15講〉

「総まとめ」

これまで考察してきたことを総括し、かつ、余暇のマネジメントを学んだことは、いろいろな分野でどのように生かせるのかについて考えてみたい。

■教科書

特に指定しない

■指定図書

「スポーツ産業論」松田義幸

■参考文献

講義内で指示する。

■評価方法

合否は期末テストのみによって行う。合格の場合、出席、授業内レポートを若干加味する場合がある。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

科目名 ライフデザイン〔Life Design〕

担当教員 梅澤 佳子

■講義目的

現在、日本人の平均寿命は概ね80歳と考えられています。世界的にも恵まれた長寿社会の一方で、少子化も進んでおり、人口減少と高齢化は、私たちに「新たなライフデザインの創造」という課題をつきつけています。

21世紀において中心的役割を果たす学生の皆さんと共に、これからの暮らし、地域、コミュニティのかたち、その根底を流れるものの見方・考え方・心の習慣について考えることを目的としています。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

1. 暮らしについて多角的なものの見方・考え方が出来るようになる
2. 暮らし、地域、コミュニティの現状を理解する
3. 暮らし、地域、コミュニティの課題をみつけ解決のためのデザインを考える
4. 自分自身のライフデザインを考える

■講義形態

講義＋グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション〔フィールドワーク〕

■講義の概要

第 1 回 講義の概要、履修上の注意等に関する説明

講義の目的、概要、講義方法、評価方法、履修上の注意事項についての説明。

第 2 回 今、なぜ、ライフデザインが必要なのか

急激に変化する人口構造とライフスタイルの変化をさまざまなデータ、資料を参考に客観的に認識する。社会の変化とハビタス・メンタリスの変遷について理解する。

第 3 回 伝統的な暮らしとコミュニティ

農業を中心とした日本人の伝統的な暮らしと地域社会のかたち、生き方とは

第 4 回 日本の近代化における暮らしの変化とコミュニティ

第 5 回 第二次大戦後の暮らしの変化とコミュニティ

第 6 回 共に考えるこれからのライフデザイン

第 7 回 まとめ

■教科書

なし

■指定図書

① NPO 法人一新塾編『「根っこ力」が社会を変える - 志と共に市民の時代を生きる』ぎょうせい。2011。

② 永井一史・山崎亮・中崎隆司編『幸せに向かうデザイン - 共感とつながりで変えていく社会』日経 BP 社。2012。

③ 山崎亮『コミュニティデザイン - 人がつながるしくみをつくる』学芸出版社。2011。

④ 藻谷浩介・山崎亮『藻谷浩介さん、経済成長がなければ僕たちは幸せになれないのでしょうか?』学芸出版社。2012。

⑤ エレン・ラプトン他『WHY DESIGN NOW? - なぜデザインが必要なのか、世界を変えるイノベーションの

最前線』英治出版。2012。

⑥ グリーンス編『ソーシャルデザイン - 社会をつくるグッドアイデア集』朝日出版。2012。

⑦ ミハエル・エンデ『モモ』岩波書店。1976。

⑧ 小林司『「生きがい」とは何か - 自己実現への道』NHK ブックス。1989。

⑨ 鮎戸弘・松田義幸編『「ゆとり」時代のライフスタイル - 7 タイプにみる生活意識と行動』日経マーケティング。1989。

⑩ 内山節『共同体の基礎理論 - 自然と人間の基層から』農文協。2010。

⑪ 結城登美雄『地元学からの出発 - この土地を生きた人々の声に耳を傾ける』農文協。2009年。

⑫ 植木力・川本卓史『小さな企業のソーシャルビジネス - 京都発ソーシャル行』文理閣。2011年。

■参考文献

上記の指定図書に加え、講義の進捗状況にあわせ適宜紹介します。

■評価方法

出席、提出物、グループ発表、学期末レポートにて総合的に判断します。

出席は評価のための前提条件です。

■評価基準

絶対評価方法に基づいて評価します。

■事前履修科目等

出来れば「ライフデザイン入門」を履修していることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施します

科 目 名 ライフデザイン入門[Introduction to Life Design]**担当教員** 梅澤 佳子**■講義目的**

現在、日本人の平均寿命は概ね80歳と考えられています。世界的にも恵まれた長寿社会の一方で、少子化も進んでおり、人口減少と高齢化は、私たちに「新たなライフデザインの創造」という課題をつきつけています。

講義ではライフデザインの潮流について学びます。

■講義分類

社会人力育成、地域ビジネス

■到達目標

1. ライフ、デザインなど言葉の語源や意味を自ら調べ理解することの面白さに気づく
2. ライフデザインの潮流について理解する
3. 自らの暮らし、地域、コミュニティに興味と関心を向けることができるようになる

■講義形態

講義+グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション[フィールドワーク]

■講義の概要

第 1 回 講義の概要、履修上の注意等に関する説明

講義の目的、概要、講義方法、評価方法、履修上の注意事項について説明を行う。

第 2 回 今、なぜ、ライフデザインが必要なのか①

急激に変化する人口構造とライフスタイルの変化をさまざまなデータ、資料を参考に客観的に認識する。社会の変化とハビタス・メンタリスの変遷について理解する。

第 3 回 今、なぜ、ライフデザインが必要なのか②

ライフ、デザインが本来持つ意味、現在、ライフデザインという言葉がどのように使われているかについて理解し、自分を活かすライフデザインについて考える。

第 4 回 私たちを支えるライフデザイン- 問題解決のデザイン最前線①

暮らしの中にある問題を身近なところから解決するデザイナーたちの活動から学ぶ：国内編

第 5 回 私たちを支えるライフデザイン - 問題解決のデザイン最前線②

暮らしの中にある問題を身近なところから解決するデザイナーたちの活動から学ぶ：海外編

第 6 回 私たちを支えるライフデザイン- 問題解決のデザイン最前線③

ソーシャルデザイン、コミュニティデザインの潮流

第 7 回 まとめ

■教科書

なし

■指定図書

① NPO 法人「新塾編『「根っこ力」が社会を変える - 志と共に市民の時代を生きる』ぎょうせい、2011。

② 永井一史・山崎亮・中崎隆司編『幸せに向かうデザイン - 共感とつながりで変えていく社会』日経 BP 社、2012。

③ ミハエル・エンテ『モモ』岩波書店、1976。

④ 小林司『「生きがい」とは何か - 自己実現への道』NHK ブックス、1989。

⑤ 藻谷浩介・山崎亮『藻谷浩介さん、経済成長がなければ僕たちは幸せになれないのでしょうか?』学芸出版社、2012。

⑥ エレン・ラプトン他『WHY DESIGN NOW? - なぜデザインが必要なのか、世界を変えるイノベーションの最前線』英治出版、2012。

⑦ 鮑戸弘・松田義幸編『「ゆとり」時代のライフスタイル - 7 タイプにみる生活意識と行動』日経マーケティング、1989。

■参考文献

講義の進捗状況にあわせて紹介します。

■評価方法

出席、提出物、学期末試験で総合的に判断します。

出席は評価のための前提条件です。

■評価基準

絶対評価に基づいて評価します。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施します

科目名 ▶▶ リサーチ入門[Introduction to research]

担当教員 ▶▶ 豊田 裕貴

■講義目的

大学での勉強・研究は、単に知識の暗記やまとめ方ではなく、自分自身が「知りたい」と思うことを見つけ出し、その「知りたいこと」にアプローチし、知見を導き出すというものである。「リサーチ」とは調査、研究などと訳されることが多いが、まさにこの過程がリサーチである。ただし、リサーチ対象となるテーマは多岐にわたるため、単に講義を聴いたり本を読んだりして、何か手法を覚えればそれで身に付くというものではない。さまざまなリサーチ事例に触れ、かつ、参加することでもしかリサーチのセンスは身に付かない。

本講義で考える必要なリサーチセンスは、次の4つである。

1)何を調べる？と意味のあるリサーチになるかといったテーマ設定のセンス

2)テーマについて適切な仮説設定を行えるセンス

3)考えた仮説やアイデアを主張するために必要なリサーチ結果にたどり着くセンス

4)得られた結果を提案という形に結びつけるセンス

これらの4つのセンスを習得するために、可能な限り受講者自身がリサーチについて「考える」きっかけを提供し、かつ、演習する機会を確保する。ただし、講義時間が90分という制約から、講義時間内のみで、全ての演習や考えをまとめることは難しい。講義時間外にも各自がそれぞれの興味関心に応じて振り返り、実践することを必要とすることを理解の上、履修すること。

■講義分類

顧客理解／ビジネス創造／社会力育成／ビジネスICT

■到達目標

リサーチ力の習得は、単にスキルの習得でなく、知識の暗記でもない。新しく学習する各種知識を、現実の問題と対応づけられる力が必要である。したがって、本講義では、学習内容をそれぞれの関心に従い、応用できることを目標とする。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR

GD: グループディスカッション

GW: グループワーク

PR: プレゼンテーション

〔学外学習無〕

■講義の概要

〔注：講義の進捗などによって変更する場合がある。HPにて変更点などを確認すること。〕

※本講義は、演習や事例を考えることを通じ、リサーチの考え方を習得することを目指す。したがって、予習よりは、復習に力点が置かれる。したがって、以下の各講義の＜予習・復習のポイント＞は、①講義で学んだ知識を、自分の関心領域に置き換えて再考すること、②それを他者に説明し、相手が理解できる説明ができるか否かによって、自身の理解度をかくにんすること、がポイントである。

〈第1講〉イントロダクション:事例からみるリサーチの全体像

概要：リサーチの全体像の説明と履修方法などのオリエンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント[リサーチとは何かに

ついて調べてみる]

詳細：事例を元にリサーチを理解する。

〈第2講〉ライブに顧客を集めるためのリサーチ:問題発見と問題解決

概要：事例による問題発見と問題解決例を学習する

事前学習しておくべき用語やポイント[問題発見、問題解決]

詳細：事例を元に問題の発見方法と解決方法について学習する。

〈第3講〉顧客満足度をリサーチする:データの要約と変数の組み合わせ

概要：アンケート調査を利用した顧客満足度リサーチについて

事前学習しておくべき用語やポイント[顧客満足、アンケート]

詳細：アンケートによる現状把握とそのデータの分析方法について学習する。

※補足

第1講から第3講は、リサーチ的な思考の基礎を中心に解説する。この段階では、予習よりも復習が中心になる。復習は、講義で学んだ視点で、自分の興味があるテーマに応用してみることを試みて欲しい。

〈第4講〉自分のアイデアの妥当性をリサーチする(1):仮説と検証

〈第5講〉自分のアイデアの妥当性をリサーチする(2):仮説の検証とデータ分析1

〈第6講〉自分のアイデアの妥当性をリサーチする(3):仮説の検証とデータ分析2

概要：第4講から第6講は、ビジネスで必須となる仮説思考を中心に取り扱う。

事前学習しておくべき用語やポイント[仮説構築、仮説検証、仮説検定]

詳細：仮説の立て方からその検証の方法までを図解とデータ分析とから学習する。

〈第7講〉リサーチ事例紹介(1)

〈第8講〉なぜそれを選ぶのか(1):ニーズの構造と製品アイデアの立案

〈第9講〉ニーズ視点でビジネスの工夫をチェックする(手段目的連鎖の視点)

〈第10講〉消費者を理解するための基礎リサーチ:既存資料(二次データ)を利用する

概要：第7講から第10講は、消費者行動をテーマに、他のマーケティング系の専門科目にもつながるようなリサーチ視点を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[ニーズ、手段目的連鎖モデル、レビュー]

詳細：消費者理解のためのリサーチの考え方は非常に重要なポイントであるため、講義内課題を含め、演習を取り入れながら学習する。

〈第11講〉リサーチとプレゼンテーション、レポート(1)

〈第12講〉リサーチとプレゼンテーション、レポート(2)

概要：第11講から第12講は、リサーチ入門のまとめとして、プレゼンテーションやレポートの仕方などを解説

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーション、レポート]

詳細：ストーリー展開やプレゼンの構成について事例と演習を元に学習する。

〈第13講〉リサーチ事例紹介(2)

〈第14講〉優秀レポートのプレゼン

〈第15講〉まとめ

概要：第13講から第15講は、リサーチ入門のまとめとして、プレゼンテーションの実践（優秀レポート提出者のプレゼンとそのプレゼンに対する評価演習）やまとめを行う。

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：全体の総復習にあたる。

■教科書

特になし

■指定図書

(参考としてまずは以下の二冊を指定図書とする)

・谷岡一郎 『「社会調査」のウソーリサーチ・リテラシーのすすめ』 文春新書(2000)

・石川淳志、佐藤健二、山田一成 『見えないものを見る力』 八千代出版(1998)

■評価方法

1)通常点(レポートおよび講義内課題など:40点)＋期末試験:60点＝計100点(その他、授業内外での取り組みに対する加点有り)。詳細は第一回講義にて説明。

2)上記基準で総合的に判断するが、期末試験の受験と以下の出席条件を単位取得の必須条件とする。

3)5回以上の欠席で評価はFに確定。原則遅刻は20分までとして、それ以降は欠席扱いとする。

※もちろん、「4回まで休んでいい」ということではなく、基本はもちろん全回出席が前提である。

※各人の事情(電車の遅れ(過半数が影響するような大規模な乱れを除く)や体調不良も含む)による欠席も上記4回の欠席に含まれるため、常に余裕を持って受講すること。

■評価基準

・内容理解、リサーチ視点の修得、各種課題への取り組み、積極的な参加姿勢を評価基準とする。

・評価基準は、単なる知識を暗記したか否かではなく、各種知識について自分なりの解釈・意見を持ち、表現(レポートや期末試験の論述問題)できるかを重視する。

相対評価

■事前履修科目等

特に指定なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・入門科目と言うことで試験1回での評価ではなく、普段の取り組みも重視して評価する。

・特に一年生、まずは第一回目の講義(詳細なオリエンテーション)に出席し、履修するか否かを判断することを強くおすすめする。

科目名 立志人物論

担当教員 久恒 啓一

■講義目的

ビジネスはコミュニケーション活動によって成り立っており、その活動を担うのは人である。経営資源を束ねる人的資源の重要性はますます高まっている。今後はキャリア形成を含むライフマネジメントの視点から人的資源の活性化を考えながら、組織や経営やビジネスについて考察することが求められる。

この講義においては、近代日本をつくった明治期を中心とするわが国の偉人の生涯(経営者・政治家・芸術家・作家・ジャーナリスト、)を題材に、いくつかの切り口――仰ぎ見る師匠の存在、敵との切磋、友との琢磨、持続する志、怒涛の仕事量、修養・鍛錬・研鑽、飛翔する構想力、日本への回帰――を用いて今日の産業社会で生きるための問題解決の知恵について学び、自らの志とライフマネジメントについて深く考えてもらう。

■講義分類

ビジネスマネジメント／グローバルビジネス

■到達目標

自身のロールモデルを発見し、最終レポートとしてパワーポイントを用いて「私のロールモデル○○○○の人生鳥瞰図」を作成し、ワードを用いて「私のロールモデル○○○○から学んだこと」をレポートできる力を身につける。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉

概要：講義「近代日本のわが国の偉人たちのライフマネジメント」

事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]

詳細：立志人物論の位置づけ・「本物の条件」の7つの共通項を紹介・エニアグラム

〈第2講〉

概要：講義「仰ぎ見る師匠の存在Ⅰ」

事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]

詳細：阿久悠の映像・エニアグラム9つのタイプ

〈第3講〉

概要：講義「仰ぎ見る師匠の存在Ⅱ」

事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]

詳細：横山大観・白洲正子・渡辺華山・昭和天皇・高杉晋作・渋沢栄一・森鷗外

〈第4講〉

概要：講義「敵との切磋、友との琢磨」

事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]

詳細：岡本太郎・正岡子規・夏目漱石・秋山真之・司馬遼太

郎

〈第5講〉

概要：講義「持続する志」

事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]

詳細：正岡子規・武者小路実篤・三木武夫・北大路魯山人

〈第6講〉

概要：講義「怒涛の仕事量Ⅰ」

事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]

詳細：太宰治・寺山修司・松本清張・樋口一葉・与謝野晶子

〈第7講〉

概要：講義「怒涛の仕事量Ⅱ」

事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]

詳細：手塚治虫・石ノ森章太郎・藤子不二夫F・藤子不二夫A・赤塚不二夫

〈第8講〉

概要：講義「修養・鍛錬・研鑽」

事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]

詳細：安岡正篤・新渡戸稲造・二宮尊徳・野口英世・小泉信三・サトウハチロー・佐野常民・星野富弘・朝倉文夫・本田静六

〈第9講〉

概要：講義「飛翔する構想力」

事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]

詳細：後藤新平・松下幸之助・宮崎駿・辻村寿三郎・水戸光圀・棟方志功・福沢諭吉・宮脇俊三・横山大観・高田屋嘉兵衛・手塚治虫・石ノ森章太郎

〈第10講〉

概要：講義「日本への回帰」

事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]

詳細：司馬遼太郎・柳田國男・梅棹忠夫・岡倉天心・東山魁夷・小野道風・古賀政男・柳宗悦・村野四郎・加茂真淵

〈第11講〉

概要：講義「事業家・経営者の記念館」

事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]

詳細：鈴木常司・小林一三・原三溪富太郎・岩崎弥之助・根津嘉一郎・亀井文蔵・菊池寛実・安宅英一・粉川忠・山本為三郎・住友吉左衛門・大倉喜八郎・喜七郎

〈第12講〉

概要：講義「一徹の人びと・多摩の人物記念館」

事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]

詳細：岡田紅陽・小池邦夫・北原照久・武者小路実篤・水木しげる・中里介山・土方歳三

〈第13講〉

概要：講義「人物モデルの人生鳥瞰図作成Ⅰ」

事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]

詳細：ロールモデルの事例図の紹介・人生鳥瞰図作成実習

〈第14講〉

概要：講義「人物モデルの人生鳥瞰図作成Ⅱ」

事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]

詳細：ロールモデルの人生鳥瞰図作成実習

〈第15講〉

概要：講義「人物モデルの人生鳥瞰図作成Ⅲ」

事前学習しておくべき用語やポイント[取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。]

詳細：：ロールモデルの人生鳥瞰図作成実習

・講義で興味を持った人物の自伝や伝記を読んでほしい。

■指定図書

「遅咲き偉人伝―人生後半に輝いた日本人」(PHP・久恒啓一)

■参考文献

取り上げた偉人の自伝、伝記など。

■参考URL

<http://www.hisatune.net/>

■評価方法

- 1.出席 50点
- 2.毎回の提出アンケート 25点
- 3.最終レポート 25点

■評価基準

相対評価

出席を重視した評価を行う。

提出アンケートと最終レポートは、提出枚数とレベルを勘案し評価する。

■事前履修科目等

立志系科目を履修するのが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

次回に取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心がけてもらいたい。

講義で興味を持った人物の自伝や伝記を読んでほしい。

科目名

立志論I(スポーツマンシップ立国論)〔Aspiration Theory I〕

担当教員

広瀬 一郎

■講義目的

スポーツが現在のような形式を整えた歴史的背景を理解する。それは我々が生きている現代の背景にある「近代」のロジックを理解することであり、近代社会の構成メンバーとして、「善く生きる」とことはどういうことかを理解することでもある。これらを理解した「市民」が、本来「公共性」を形造る基盤となるはずである。「スポーツマン」とは「良き市民」の別称である。(オクスフォード辞典ではSportsman=Good Fellow)となっている。良き市民を欠いては、良き社会の実現は不可能である。特に良きリーダーの育たない社会におけるリスクは、東日本大震災で十分に理解されたはずである。欧米では、スポーツはリーダーシップを習得する機会であることが常識である。では、日本はどうか？そもそも、「リーダーシップを学ぶ」必要性がコンセンサスとして定着しているのか？「突出」を許さない土壌で、リーダーシップは育つはずがない。この国では、いまだに「KY」などという符牒で、周りと調和を第一にし、突出を許さない無言の圧力、文化的な暴力を維持している。この状況を理解した上で、個人として「志」を持つ意味と能力を考え、その習得を目指す。

Key Wordは：志、キャリア

課題発見、問題解決、実践的知識獲得、
問題解決のための理論、問題解決のための方法
社会人基礎力

最近特に問題となっている「体罰」だが、あれは確かに根深い問題だが、所詮は全体の中の一事象でしかない。本質は、旧日本陸軍に兵士を提供するための軍事教練を主とした戦前の「体育」が現在も残ったままである点にある。「組織への忠誠心」を「組織への盲従」と勘違いし、極めて抑圧的な空間を再生産している現代の日本の体育教育では、「責任感」「判断力」「勇気」といったリーダーに不可欠な素養を習得しにくい。根本的な解決を目指すなら、「体育」を「スポーツ」に変えるしかない。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

Goals 本講義は、「スポーツマンシップ」の理解を通じ、「志」を持って生きる意味を考える機会を提供する。「志」と「夢」、あるいは「したいこと」「やいたいこと」「目標」とは同じものではない。「志」とは極めて社会的な意味を持った目標設定のことである。スポーツマンとは、「尊重する能力」「自己客観化」「論理的思考」などの社会的な能力を習得した者であり、これらの能力は「志」を持つ上で不可欠である。「スポーツが持つ社会的な意味」を理解し、「善く生きる」「善き市民となる」ことが大学で学ぶこととどのように結び付いているのか、自分なりの解答を得る。講義の成果を定義するならば、「スポーツマンシップとは何か？」という質問に対して、適切に答えられるようになることである。即ち、

1. スポーツとは何か？
2. なぜスポーツが世界中に普及したのか？
3. スポーツとは何か？を理解せずにスポーツはできるのか？

4. スポーツをするうえで、スポーツマンになろうという努力は不要なのだろうか？不可欠なのだろうか？
 5. 不可欠だとすると、それは何故なのだろうか？
 6. 運動能力が高い者をスポーツマンと呼ぶのだろうか？
 7. スポーツマンシップを理解せずにスポーツをすることは可能だろうか？
 8. スポーツマンシップを理解しないままで、スポーツをする意味はあるのだろうか？
 9. スポーツマンシップを理解せずにスポーツマンになれるのだろうか？
 10. あなた自身はスポーツを理解したスポーツマンだろうか？
- 以上の質問に適切に答えることができるのであれば、この講義を受ける必要はない。

■講義形態

講義

↓

課題レポート

↓

提出されたレポートについて、
グループ・ディスカッション

↓

講義

↓

課題レポート
と循環していく形式(時になし)

■講義の概要

第1講：「スポーツマンシップを理解する」意味と、本講義の成果の定義

概要：受講の意義を理解する

事前学習のポイント：自分にとって「大学で学ぶ」意味を事前に考えてくこと。

詳細：「志」と「願望」と「希望」「夢」は違う。

第2講：「スポーツマンシップを学ぶ」「当事者性」(本講義の「受講資格」)

概要：受講の「覚悟」を自問する(「当事者意識」は受講の当事者能力の前提)

事前学習のポイント：自分にとって「スポーツマンシップを学ぶ」意味を事前に考えてくこと。

詳細：本講義には、受講者の「向き／不向き」がある。自己客観化して判断する

第3講：スポーツマンの定義：小学生用「スポーツマンシップ授業」を観てディスカッション

概要：「スポーツマン」の定義を試みる

事前学習のポイント：スポーツ／スポーツマンについて自分なりの定義をしておくこと。

詳細：自分なりの「定義」にどれほどの一般性があるか、確認する

第4講：「当事者意識」と「当事者性」

概要：「スポーツマンシップ」を理解せずにスポーツするのは可能か

事前学習のポイント：自分が当事者として問題解決にあたったという経験を整理しておくこと。

詳細：今日まで「スポーツマンシップ」を理解せずにいたことは、問題が無いのか

第5講：「近代」社会の論理 ～「原理／原則」と「ルール／規則」「法律」

概要：「近代」「社会」の誕生と、「スポーツ化」の関係

事前学習のポイント：「国民国家」成立に関する基礎的な歴史的事実の復習と整理。

詳細：社会誕生以前の「スポーツ」には、スポーツマンシップが存在しなかった。なぜだろう？

第6講：これまでの整理（学生の質問を検討する）

概要：「良き社会人」とスポーツマンの関係は歴史的な文脈で整理する
事前学習のポイント：前回までの講義で、抱いた疑問、異なった意見を整理しておくこと。

詳細：これまでの講義で、抱いた疑問をここで解消する

第7講：身体と頭脳の可逆的因果関係

概要：スポーツマンシップは、思考や倫理でなく、行動が伴う

事前学習のポイント：身体と頭脳の関係について考えてみる。「脳生理学」とは何か、調べておく。

詳細：「思考」と「行動」の統合はなぜ必要か

第8講：「役に立つ」となぜ気分がいいか？～「自己満足」についての考察～

概要：現在の人類に共通な遺伝子の特異性

事前学習のポイント：「役に立つ」となぜ気分がいいか？考えておくこと。

詳細：「公共性」という言葉の意味と、身の回りの「公共的な事柄」を考える。

第9講：スポーツにおけるルールの存在意義（なぜルールはあるのか？）

概要：スポーツでルールを学ぶ意味

事前学習のポイント：第5講の復習をしておくこと。

詳細：スポーツのルールには守りにくい条項が存在する。なぜか？

第10講：スポーツの世界化（国民国家と国民教育とナショナリズム）

概要：スポーツの世紀「20世紀を振り返る」

事前学習のポイント：ナショナリズムとは何か？考えておくこと。

詳細：19世紀にイングランドで完成された「スポーツという思想」は、なぜ世界化したのか

第11講：スポーツの大衆化（大衆社会の出現とスポーツの社会化）

概要：スポーツの大衆化とは何か？

事前学習のポイント：「産業革命」「労働と余暇の分離」「大衆の誕生」について基礎的な理解をしておく。

詳細：スポーツは大衆化したことで何が変わったのか？「大衆化」と「スポーツマンシップ」の関係

第12講：スポーツの大衆化-2「世界化とナショナリズム」

概要：ナショナリズムの20世紀にスポーツが世界化した理由

事前学習のポイント：「なぜ我々はWカップや五輪に熱狂するのか？」考えておくこと。

詳細：ナショナリズムの変容と、スポーツの世界化との関係

第13講：自分にとっての「スポーツマンシップ」（プレゼンテーション&ディスカッション）

概要：スポーツマンシップは自分の「志」達成に必要な

事前学習のポイント：「スポーツマンシップのエピソード」を調べ、プレゼンの準備をしておくこと。

詳細：「立志」でスポーツマンシップを学ぶ意味を再確認し、自分の生き方を再定義する

第14講：スポーツマンシップと「尊重(Respect)」

概要：自分の「志」で社会は良くなるか？

事前学習のポイント：これまでの講義を整理し、スポーツマンシップを再定義しておくこと。

詳細：「スポーツマンシップ」を学ぶ、（個人的でなく）社会的な意味を確認し、講義の成果を評価する

第15講：試験

予備学習のポイント：試験の準備

■教科書

広瀬一郎 「スポーツマンシップ立国論」小学館(2010年4月刊)

■指定図書

Readings 広瀬一郎 「10年後、仕事で差がつく戦略思考」 東洋経済新報社

多木浩二 「スポーツを考える」 ちくま新書

■参考文献

ベネディクト・アンダーソン 「想像の共同体」
エリアス・ダニング 「スポーツと文明化」 法政

大学出版局
E.J.ボブスボーム 「ナショナリズムの歴史と現在」大月書店

■評価方法

レポート全提出者は30点の持ち点を与える。

一つ出さないと20点。

以下、1つ減るごとにマイナス5点。

未提出が5回以上になると持ち点は「0」である。

筆記試験は、残りの70点を配分する。

（論理的には、レポートを1度も提出せずとも、筆記で満点であれば、単位取得は可能）

■評価基準

講義中の態度は、次の3点を中心に評価する。

(1)課題の「内容」と「意味」を理解しているか

(2)自分で考えているか

(3)積極的に発言しようとしているか

レポートは次の3点から評価する。

(1)課題の「意味」と「意義」を理解しているか。（「志」との関係を意識しているか）

(2)自分の問題として考えられているか（一般論ではなく）。

(3)論旨が明確で、矛盾が無い

筆記試験は絶対評価

以上の「総合点」が65%をクリアすると合格

■事前履修科目等

前期の「現代ビジネス論」の履修が望ましい

■留意点

まずは、学生諸君にはスポーツについての理解が浅いという自覚をしてもらうところからスタートする。

理解は「欠落」を自覚させることで、より実効があがるからだ。その欠落部分を構造的に整理し、把握することにより、当該の問題／課題と個人との関係を認識させることになり、それが当事者意識を醸成することにつながる。それこそが、真の理解のスタートになる。

自分の弱点を直視するのは、かなりのエネルギーがいることを覚悟しておくこと。

読書の嫌い／苦手な者はつらいだろう。気持の弱い者にもおススメはしない。相当な覚悟をしないと途中で脱落する恐れがある。

科目名 立志論Ⅱ(立志事業家論)〔Aspiration TheoryⅡ〕

担当教員 長田 貴仁

■講義目的

最大目的：就職活動に成功する「体質改善プロジェクト」

景気が上向けば「就職氷河期」は終わるでしょう。いや、就職戦線は、ますます厳しくなっています。君たちのタイパは多摩大学の学生ではありません。他大学の学生だけでなく、採用が急増しつつある外国人(留学生)なのです。多摩大学の雰囲気、価値観がすべて社会で通じると思っていただろ大きな勘違いです。大失敗します。「希望の会社へ就職できないのは準備不足の学生に責任がある。皆、甘過ぎる」就職を決めた君たちの先輩が、「甘過ぎる多摩大の後輩」を前にスピーチしたときの言葉です。本講義の目的は、すばり「就職できる精神」を鍛錬し、情報・理論武装することです。就職できるかどうかは、君たちにとって当面の重要課題かもしれませんが、「心がけ」は人生を大きく左右します。就職できたとしても、「志」が貧弱であれば成長しません。多くの著名経営者と交遊してきた長田が、ビジネス社会の厳しさと喜びを話します。受験生が表裏的に理解するのではなく、若い大人の味をおいしく感じられるようにするには目的達成です。

具体的には、すでに大人となった偉大な経営者だけでなく、現在、活躍しているトップの素顔に迫ります。ここで取り上げる経営者を知らないようでは「大学で経営学を勉強しました」とは言えません。卒業後、必ず社会で恥をかきます。「仕事とは何か」を深く考えながら受験すれば、あなた自身の人生について自問自答するきっかけを得ることができます。特に、就職活動(動機)の人、これから社会人になるという人にとっては有意義な人間味あふれる講義になることでしょう。

事前に言っておきますが、「大人の味」が分らないければ、経験、情報、知識の不足や抱極な感情が渦を巻いたり、がっかりする人が少なくなります。その中には「私はすべての大学を落ちてここに来た」といった過去を大きな傷手であるかのように言う人がいます。それがどうしたと言いたい。それくらい落ち込んでいては、これからの山あり谷ありの人生を生きていくというのでしょうか。この話を企業数社の人事部長たちにも、いずれも「甘ったっているのもいい加減にしろ」と言っていました。それが社会一般の見方です。人の話を聞いてすぐに「やる気なくした」と言う学生に共通して見られる欠点は、言葉を表面的にしか理解しようとしていない(できない)、人はいつもおだててくれるのと思い込んでおり、そうしてくれる教師が最悪だと勘違いしている—などです。よほど甘やかされた環境で育ったとしか考えられません。少なくとも自分を甘やかしています。このような人の中には、のうのうと期末試験を受けて来た単位だけをえろ者もいます。それこそ、甘ったれています。この講義の内容を聞いてください、やる気なくしては、社会に出れば使いものにならないどころか、就職もできません。幸い、この講義を最後まで受講した学生はほぼ全員、「意識が変わり、まだまだ実力が足りないという気持ちになった」、「自分の無知を痛感した」と口を揃えたように言い、半年間で大きな成長を遂げます。自分の「足るを知る」、そして書き返しのために普段の努力をすることこそ成長の原動力になるのです。「来に染まりは赤くなるといふ諺の通り、私はこのように大変な学生に迎合するつもりは一切ありません。「やる気のある学生」「やる気になろうとしている学生」のみを相手に、応援します。本筋を十分理解せず、話の流れの中で機械的な言葉のあやを拾い上げ、鬼の首をとったように文句をいう学生、私語、居眠りをする学生は絶対に受講しないで下さい。受講したとしても落とします。なぜなら、彼らが授業環境を悪化させるからです。実際、やる気のある学生から、「彼らを教室から追い出してくれ」という声が多く出ています。多摩大学の先生にもいろいろなタイプの方がいらっしゃいます。が、それだけの個性を尊重しつつ、敬えて見てくれるスタンスを明確にしています。「きらい」とは言いません—社会の厳しい現実をそのまま突きつけます。「あなたの知識(常識)不足、根性の無さ、甘ったれ具合を堂々と指摘します」—自分を卑下してはいませんが、謙虚になって下さい。「学生の二機取りはしません—アンケートなどで発する機嫌かつ非常識な学生の「戯言」は無視します。「やる気のある学生を高(評価)します—」最後まで受講しない、この授業の価値は分かりません。毎年、250人近くの学生が受講しています。大教室が一瞬にぎやかです。目録の長い「目録」だけを期待しているような人は受講しないで下さい。そのようなことが得意な先生は、他にいらっしゃるでしょう。そちらを受講して下さい。選択は学生の自由ですが、この講義をとった学生のほうがビジネス人生の充実度が高くなることを確信しています。奮起して取り組んでくれた人は絶対に自分を高めることができます。はつきり言っておきます。この講義に学びを促していくのは将来大成しません。私について来られる人だけについて来て下さい。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス

●到達目標

- (1)どのような仕事に就くか、いかに社会に貢献していくか、明確な「志」を立てる。
- (2)著名な企業家(経営者)の生き方と理念を学ぶ。
- (3)自分の長所と短所を冷静に自問自答できるようにする。
- (4)甘い考えに別れを告げ、厳しいビジネス社会の現実を直視できるようにする。
- (5)就職できる人、リーダーになれる人、起業できる人になる。

■講義形態

講義のみ(学外学習無)

■講義の概要

〈第1講〉「事業家の志」を学ぶ意義

概要：あなたは、現実を見据えた「志」を持っていますか。

事前学習しておくべき用語やポイント【グローバル化 就職氷河期 大学進学率】

詳細：あなたを取り巻く環境は激変しています。日本、世界、企業は「激変」を迎えています。もはや、「これまでどおり暮らせればいい」といった甘ったっている現状維持志向では「これまでどおり暮らせません」決してあなたを見下しているわけではない。成功した経営者にはインテリゲンシアの人が少ないありません。コンプレックスがあるとすれば、それはバネになります。逆に「上には上がある」という気持ちで先走れば、極端になり成長は止まります。

〈第2講〉名経営者は皆「死」に上手だった

概要：あなたは、叱られて最悪であった経験がありますか。

事前学習しておくべき用語やポイント【バネソニック、松下幸之助】

詳細：あなたは叱られたことがあるでしょうか。「…に怒られた!」「…に叱られた!」の思いを認識できますか。叱られたとき、どういう気分になり、その後どのような行動をしていますか。あなたが「大人」であれば、今回の講義の内容を納得納得できます。「子供」のままであれば疑問に感じたり、腹を立てたりするでしょう。名経営者は皆、死に上手でした。どのように死ったのでしょうか。経営において重要な「人を動かす」意義を学びます。

〈第3講〉地獄から這い上がった経営者

概要：あなたは、地獄を見たことがありますか。

事前学習しておくべき用語やポイント【シャープ、早川徳次】

詳細：経営者の中には顔に影があつてきた人が少なくありません。今回取り上げる経営者は、いわば「成金」と呼ばれる類の人とは違いますが、苦勞を苦勞とも思わず、常に前向きに生きます。イノベーションを起こし、利益を上げた人並み外れた努力をしました。それだけではなく、社会貢献に私財を投じた人です。こうした話を聞くだけで、自分だけがたけなわいた環境に置かれているのが実態です。「それなのに今の自分は…」と自身に問題提起できれば、今回の授業を受けた価値があります。

〈第4講〉

概要：JALを再建した男の「志」

事前学習しておくべき用語やポイント【JAL、稲盛和夫、京セラ】

詳細：京セラを創出し、破産したJAL(日本航空)を再建した稲盛和夫氏とは、どのような人物なのでしょう。貧困、病に苦み、受験、就職、転職はいずれも失敗、だが、発明、起業—この奇跡だけを聞いても、いかに、稲盛氏が前金断絶した人生を生んだかが分かります。人生に安定など無いのです。あなたたちが、これからの時代に「安定」を求め、「無難」に暮らそうと思っているとしたら大きな勘違いです。それでは、この厳しい世の中で「無難」にも到達できません。「—でもなるかというといった職業選択は愚事です。そうであれば、あまりにも世の中を舐めている。

〈第5講〉日本初の情報処理学会「セコム」を創った男

概要：過去になかったビジネスをデザインする重要性。

事前学習しておくべき用語やポイント【セコム、飯田亮】

詳細：社会の新しいインフラとなる「社会システム産業」を目指すセコムは、2015年3月期には連続売上高1兆円、連結営業利益1500億円を計画しています。20代に同社を創業した飯田亮氏から直接聞いた話をとくに、「(わ)く(る)る生き方」を紹介します。コメディアンを取次ぐ一若さの飯田氏は最近の若者と付き合えないことと話していましたが、逆に20歳を前にした飯田氏と話しているとき若さを感じます。チャレンジは健康にいい。

〈第6講〉経営者は策士である

概要：東芝・西田厚康会長、コマツ・坂根正弘会長の思考、行動、そして表現

事前学習しておくべき用語やポイント【東芝・西田厚康、コマツ・坂根正弘】

詳細：「東芝」と「コマツ」は主に何を製造・販売している会社ですか。多摩大学の教室で聞く、一人として正確に答えることができますでした。現在の大学生は、あまりにも企業に対する知識が欠如しています。そのような知識レベルでは就職も到底不可能です。今回ばかり知っているという会社を説明するだけではなく、会長を務める西田氏、坂根氏という人がサラリーマンからどのようにしてキャリアアップしてきたかを探ります。その最大の武器は、思考力、行動力、そして表現力です。

〈第7講〉「ビジネス士」たちの権威

概要：一代で小さな組織から大企業に急成長させた創業者たち

事前学習しておくべき用語やポイント【ダイエー、日本電産、ソフトバンク、ファーストリテイリング、楽天】

詳細：前項で挙げた企業、その業績を知らない会社がある、あるいはあなたにも知識が不足です。焦って下さい。知

ていても社会人として当然です。自慢にもなりません。この回は、近年、日本で注目される存在となった企業とその創業者に焦点を当てます。その中にはダイエーのように一旦破綻した企業も含まれます。しかし、中内氏などは再評価の価値が高まっています。それはなぜでしょうか。金のためだけの起業はないということです。

《第8講）たかが「起業」、されども「起業」

概要：起業は誰でもできるが…。

事前学習しておくべき用語やポイント【ベンチャー企業、事業計画】

詳細：現在、具体的なビジネスプランがなくとも、この授業を受けた後、ビジネスプランのアイデアが生まれ、実際に起業につながることを目指しています。しかし、いわゆる「起業本」に書いてあるような起業テクニックだけを伝授する授業ではありません。そのようなテクニックについてはたくさん本が出ています。それよりも、自ら起業するだけでなく企業内でニュービジネスを立ち上げる時、真に役立つ広義の実践経営学を教授します。

《第9講）注目されている「ソーシャルビジネス」の本質

概要：生息しにくい「社会貢献」。

事前学習しておくべき用語やポイント【買川豊彦、生活協同組合（コープ神戸）】

詳細：「社会に役に立つ仕事がないーこんなセリフを簡単に口にしています。今回は、世界的に有名な日本の社会運動家（社会企業家）買川豊彦を事例にして、ソーシャルビジネスとは何かにについて説明します。社会に貢献する事業が生息しものないことが理解できるでしょう。ソーシャルビジネスと志、経営戦略、ホスピタリティの関わりについても論じます。社会貢献の大前提は自立（自律）であることを忘れてはなりません。

《第10講）「ファミリービジネス（同族企業）」は悪か

概要：血液型別のように企業を判別してはいけません。

事前学習しておくべき用語やポイント【ファミリービジネス、コーポレートガバナンス】

詳細：「ファミリービジネス」に就職する気はありますか。実はあながた、そのような会社で働く可能性は十分あります。こうした話の真意さえ分らないのであれば、この講義を聞き、さらに自修しなくてはなりません。とはいえ、今回は単なる「ファミリービジネス論」、「同族企業論」、「世襲経営論」ではありません。いかなる経営、会社がベストな解か、それを導き出すため、ファミリービジネスの要素を持つ企業を取り上げます。

《第11講）「社会の評価」

概要：どのような会社を選ぶべきか。

事前学習しておくべき用語やポイント【レピュテーション・マネジメント、マスコミ】

詳細：企業経営において、事実と思われる情報は無知ではありません。マスコミが発信する情報が経営者に左右させます。従業員士の気高まり、低下させたりします。消費者の選択や株主の意思決定に影響を及ぼすだけでなく、新入社員の採用にも「会社の評判」がよい悪いかで応募者が変動しかねません。さらにはインターネットの出現により新たな口コミ現象が見られるようになってきました。このような中であなたの会社選びは。

《第12講）「経営者」知らずして、「敵法」は成功しない

概要：ひと口にトップと言ってもさまざま。

事前学習しておくべき用語やポイント【創業者、専門経営者、CEO、委員会等設置会社】

詳細：「経営者」とは聞きなれた言葉ですが、あなたが「詳しく（説明して下さい）」と尋ねるとどう答えますか。何となく「社長」「イメージ」でできるだけは。近年頻りに使われている「イメージ」で物事を語るほど恐ろしいことはありません。そこで、第1講では「経営者の条件」について話します。彼らはどのような志を基に経営をしているのでしょうか。まずは、自分が経営者についてどれほど知っているかを確認して欲しいと思います。

《第13講）経営者が求める「人材」

概要：「大卒」というだけでは仕事に就けない現実

事前学習しておくべき用語やポイント【大卒、大学】

詳細：大学は過去10年間で12校増え、2010年現在、17校を数えます。国立大学は合併により29校減少したものの、公立大学は22校増加、私立大学も4年制大学に加え、大学院大学、私立総合大学などの新設が相次ぎました。これに伴い「外人」を含む日本の（4年制）大学進学率は、1990年の24.6%から、20年後の10年度には50.9%へ増えています。学生数も2000年度から10年間で274万人から284万人に増えています。さて、この現実をどう読みますか。

《第14講）「奢り」を捨てて

概要：なぜ、あんなに不遜に謙が立つのですか。

事前学習しておくべき用語やポイント【就職率、外国人採用、リストラ】

詳細：あなたは、人から何か指摘されれば、すぐに「腹が立つ」とか「むかつく」と言っていますか。では聞きます。あなたはそれでは「優秀な人間」なのでしょうか。謙遜に自分を認めてみましょう。上に上がることを知るのが大人の第一歩です。「就職氷河期」と言われて久しいですが、大学生に「非」はないのでしょうか。あなたは今、何ができるか。数年後、何ができるようになっていくか。「アセットマップ」を作ってください。

《第15講）まとめ

概要：理解度、目標達成度を確認する

事前学習しておくべき用語やポイント【これから授業で話した固有名詞や経営用語】

詳細：これまで、長田の話をどれだけ真剣に講義せず聞いてきたかを調べます。また、授業だけでなく、自ら研究した経営者に関する内容を紹介します。したがって、講義に出席さえしていれば十分という発想は捨てて下さい。毎回するのは

当たり前のこと。この授業をきっかけにして、とれだけ「自分の思考と志」を確立できたとを確認します。自主的研究（自修）の成果を発揮するときは。今回を欠席すると無条件に単位を落とすと、健康管理には留意して下さい。

■教科書

講義内で指示する。

「日本経済新聞」（朝・夕刊）―毎日読んで下さい。購読を前提に授業を行います。

■指定図書

長田貴仁「セコム その経営の真髄」（ダイヤモンド社）2012

■参考文献

平田誠二（長田貴仁）編著、「ソーシャル・ビジネスの経営学」（中央経済社）2012

■参考 URL

http://tgs.tama.ac.jp/modules/teacher/index.php?fc=photo&p=15

■評価方法

評価は、何回もチェックする授業態度（30%）＝、毎回提出する「今日の学び」＝ミニ・ペーパーと指定図書に関するレポート（30%）、テスト（40%）により行う。

■評価基準

相対評価

出席と受講態度。社会人として求められる真摯な姿勢を最も重視します。

分り易い言ひ又は、「態度・感じの悪い」、「研究（自修）しない受動的学修態度の人」、「論議、説得力のない意見しや言えない未熟な自分を顧みず不満だらけの人」はテスト、レポートの内容が良くて落としても、受講態度については、いかに注意させますが、出席率と講義参加判断し毎回、何回も（チェックします。逆に、レポートの内容が多少悪くても、「態度の良い人、積極的な人は高く評価します。

私語、遅刻、遅出席、居眠り、など受講態度の悪い者、教員、受講生に失礼な言動をした者は減点します。なお、講義中の私語が「失礼な言動」に当たります。逆に就いて積極的な受講態度を見せた者に対しては加算します。

要するに、すべて自己責任で目と目見して下さい。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

「不満」を口にする昨年度履修生の意見を真に受けるような人は登録しないで下さい。なぜなら、その受講生はこの授業の「大人の味」が分らなかった人、単位を落としたりした人だからです。教壇からは、君たちの顔と態度は良く見えます。前に面接官が言っていて受講して欲しい。私語、前伏せ状態の意識的な居眠り、腕組み、頭つ、頬をつ、その他不適切な言動など「社会人として相応しくない姿勢」を見せた学生は、その人への罰則を与えます。社会人であれば、解雇、減給に相当すると思って下さい。加えて、以下に該当する人は絶対に受講しないで下さい。教える側、教えられる側ともお互いに不愉快で不幸です。1.歴史観を持たず、経営者論を聞いても「単なる結果論」と受け取ってしまう読みが浅い人。2.何でも「傾向と対策」で片づけようとする薄っぺらな「ハワウー思考」の人。3.知識・経験不足な自身の足らなさを謙遜に認めず不満だらけを持ち、ふてぶてしい態度をとる。未だに「反抗期の子供」。4.少ない情報しかないのに思い込みが激しく柔軟に考えられない人。5.他者がだれであらうと尊敬できない人（授業中寝ている人は教員、私語をしている人は仲間、受講生に対して尊敬の念を持たず、失礼をしていることになります）。6.教員を「上司」と認識できず、指示に従えない人。講義を有意味なものにするには、自ら楽しく聞こうとする工夫が必要です。一昨年度、昨年度と本講義の最初は、私語が多「これでも大勢か」という状況でした。しかし、こちららに注意するだけでなく、ある工夫をすることで静かになりました。今年も「ある工夫」を守って下さい。簡単に。席を一人分ずつ空けて座るのです。その上、できるだけ知り合いから遠ざかるようにして下さい。これで物理的に会話が減ります。昨年度は、静かな講義が実現でき、まじめな学生には大変好評を得ました。この講義では「パソコン、携帯など、原則的に情報機器の使用を認めません。聴き取る力、書き取る力、そして感動する力を磨いてください。ITの時代だからこそ、機械に頼らず感動を伝える（ライブ・トゥー・ショー）です。良き「観察」（受講生は、後者（教員）の演技（講義）をより一層引き立たせます。その効果を最大化する上でも、読書による知識武装は講義との相乗効果を発揮することでしょう。少なくとも、「日本経済新聞」をはじめとする、経済・経営メディアに日々目を通し、グローバル化の現実を注視しておくことが重要です。ときどき意見を求めます。今日までの自分はダメでも、明日から変われば良い。若者の特徴は、「変化」できることです。大きく（成長したいという「青春の志」を持つ人）の受講を望みます。

科目名

立志論III(立志起業家論)〔Aspiration Theory III〕

担当教員

趙 佑鎮

■講義目的

規模が小さくても良いサービスと製品を世に提供することでイノベーションを起こし、成長速度が早い企業のことをベンチャー企業という。この「ベンチャー」という言葉を最初日本で広めたのは多摩大学2代目学長である中村秀一郎教授であり、彼はアントレプレナーシップのことを「単なる営利欲ではなく、それを突き抜けた達成動機と人間の気風」といっている。要は、ベンチャーの経営者は単なる金儲けだけではなく、アントレプレナーシップを以って社会に貢献し、歴史を前進させる役目があるということを強調しているのである。起業家とベンチャーの経営者は、ほぼ同義語だと理解してよからう。この「立志論III」では将来、ビジネスを起こしたいと考えている学生、大企業や中小企業の中でコーポレート・ベンチャーを手掛けたと思う学生、金融機関などで支援側に立ちたいと思う学生等がその実践に生かせる手がかりを学ぶことを科目の目的とする。この場合の「手がかり」とは、起業家に必要な最低限の「知識」すなわち、ビジネス・プラン、戦略、組織、ファイナンス、マーケティング等のことであり、さらにはビジネスを立ち上げようという「志」、「やる気、思い」である。この授業では、理論を中心とした部分と共に志・実践に役立つ部分を強化している。趙が講義した内容と対応するあたりに、非常勤講師として本学に招いたベンチャー業界の実務家(産業界で活躍し名声を得ている起業家、インキュベーターマネジャー、メンター)は、起業経営の現実と最前線事例のダイナミクスを学生諸君に感じさせるであろう。将来何をしたいのか漠然としている学生にとっても実務家の体験談を交えた講義は志・キャリア設計の参考のうえで有意義であると思われる。趙は非常勤講師の講義にコーディネーターとして毎回参加し、司会、質疑応答の進行をつとめる。また、総論の講義は、これまで日本の数多くの起業家を支援してきた野田一夫多摩大学初代学長(現名誉学長)が行う予定である。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

・ビジネスの立ち上げとビジネスプラン作成に必要な知識習得、起業経営特有の戦略、組織、ファイナンス、マーケティングを理解する・自分にとって経営(学)を他強する意味を含む志・人生設計及び問題解決を考えさせるきっかけづくり

■講義形態

講義のみ

その他(ベンチャー企業の事例を扱ったビデオ・視聴覚教育)(学外学習無)

■講義の概要

〈第1講〉なぜ起業家・ベンチャーか

概要：ベンチャー企業とは何か、アントレプレナーシップとは何か

詳細：日本における起業家・ベンチャー企業の意義を窺む

〈第2講〉個人事業と会社設立における手順とルール

概要：会社設立のメリット

詳細：会社設立の手続きを理解する

〈第3講〉起業家としての志と勇気ある生き方(外部講師講演)

概要・詳細：ベンチャー起業家のメンターとして活躍している外部講師の講演予定

〈第4講〉地域イノベーションシステム(RIS)

概要：世界各地の地域振興の事例とイノベーションの関係

詳細：地域イノベーションシステムに関連する理論及びベンチャー企業生態を理解する

〈第5講〉ベンチャー企業経営論のフレームワーク

概要：ベンチャー企業特有の戦略論

詳細：ベンチャー企業の成功失敗事例から導き出された経営モデルを理解する

〈第6講〉インキュベーター事業経験からみた成功する起業家、失敗する起業家(外部講師講演)

概要・詳細：長らくサイエンスパークでインキュベーターマネジャーを歴任した外部講師の講演予定

〈第7講〉事業計画とビジネスプラン

概要：事業機会の発見・評価とビジネスモデル構築

詳細：ビジネスプランの作成と評価ポイントについて理解する

〈第8講〉ベンチャー企業の組織マネジメント

概要：ピラミッド集権型組織VSネットワーク分散型・インフラ型組織

詳細：組織と個人の関係の理解、ベンチャー企業特有の組織論とリーダーシップについて理解する

〈第9講〉ベンチャー企業の新価値創造と組織のあり方(外部講師講演)

概要・詳細：上場企業のベンチャー起業家の講演予定＝非常識な組織づくりが会社を強くする！

〈第10講〉提携戦略

概要：限りある自社資源の限界を超えるための他社の経営資源活用

詳細：ベンチャー企業のパートナーリング・ネットワークキングのメリットを理解する

〈第11講〉21世紀の起業家・ベンチャー育成の世界的潮流

概要：ベンチャー企業のグローバル化の意義

詳細：ベンチャー企業のグローバル化戦略とベンチャー育成の世界的潮流を理解する

〈第12講〉ベンチャー・ファイナンス

概要：日本の銀行とベンチャーキャピタル、公的資金活用

詳細：起業における資金調達と株式公開について理解する

〈第13講〉起業家・ベンチャー企業のマーケティング

概要：マーケティングの神話とイノベーションの関係、ブルーオーシャン戦略

詳細：ベンチャー企業特有のマーケティングをマーケティング・パラダイムの変遷の新格から理解する

〈第14講〉日本の起業家・ベンチャー企業の変遷と志ある経営(外部講師講演)

概要・詳細：数多くの起業家を支援してきた多摩大学野田一夫名誉学長の特別講演予定

〈第15講〉総括

概要・詳細：これまでの趙の講義配布資料に基づいたおさらいと総括

※ 講義の順序は、学生の理解度と進捗度によって前後、変更する場合がありますことを留意されたい。また、外部講師の講義日もスケジュール状況によって変更になることがあり得る。

■教科書

資料配布

■指定図書

趙佑鎮編著『奇跡を呼びこむ、人ーイノベーションの起点、韓国と日本と松下イズム』悠雲舎

■参考文献

講義中に随時紹介

■評価方法

・期末試験(ペーパーテスト70%)＋レポート(3本・30%)＋出席(加算点としての＋α)＋授業態度(加算点としての＋α)

・期末試験は趙の講義内容、レポート3本は外部講師の内容を中心に行う・レポート3本は、MS Officeを用いた課題作成提出であり、パワーポイントと表計算ソフトのExcelを用いる工夫も好ましい・詳細はオリエンテーション時に提示

■評価基準

相対評価

・上記の総合評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・授業態度における私語、携帯電話(をいじること)、本授業とは無関係のパソコン使用、途中退室は絶対に不可であり、熾烈に厳しく注意する。これらの注意は学生の社会人としての常識涵養のための不可避なもの(教員個人としては不本意)であるが、このような注意と授業態度を静粛に保つ教員の姿勢がいやであれば、本講義の履修は絶対的に勧められない。この点は、何度も強調したいものであり、講義のスタートから徹底することを約束する。

科目名 流通論〔Study of Distribution System〕

担当教員 中庭 光彦

■講義目的

人口が減少する中、生産者と消費者を結ぶ「流通の世界」が大きく変化しつつある。現実のビジネスは単なる市場取引ではなく、様々な流通のしくみが機能している。それらしくみは、時々の問題解決の結果として生まれてきたものでもある。本講義では、生の流通の現場で起こる問題解決を念頭に置き、その解決のしくみがどのように進化してきたのか辿ることにする。主に2年生を対象とする。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／ビジネスICT / 地域ビジネス

■到達目標

- (1) 流通論の基本的な考え方を理解する。
- (2) 日経流通新聞や経済雑誌の流通系記事を正確に理解できるようにする。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉

概要：オリエンテーション：流通の世界

詳細：講義概要を説明する。

〈第2講〉流通の主体、流通業界

概要：多様な流通業界を説明する。

〈第3講〉19世紀の商業

概要：前近代の商業スタイルを理解する。

〈第4講〉大量生産品をいかに多くの人に届けるか①

概要：車、家電、衣料品などを例に、生販分離や小売チェーン展開などを解説する。

〈第5講〉大量生産品をいかに多くの人に届けるか②

概要：百貨店、スーパーマーケットの進化について解説する。

〈第6講〉社会の成熟期にいかに多様な商品を届けるか①

概要：コンビニエンスストアとPOSシステムについて解説する。

〈第7講〉社会の成熟期にいかに多様な商品を届けるか②

概要：ネット販売、流通における情報化の影響について解説する。

〈第8講〉食品流通について 大手食品メーカーよりゲスト講師予定

概要：食品卸売り、小売や外食チェーンについて解説する。

〈第9講〉立地論について

概要：商店街とロードサイドショップの対比を通じて立地論の概要を学ぶ。

〈第10講〉インストア・マーチャンダイジング

概要：店舗内部のつくりかたについて理解する。

〈第11講〉サプライチェーンについて考える

概要：物流とサプライチェーンについて解説する。

〈第12講〉問屋は生き残るか？

概要：仲介業の重要性について考える。

〈第13講〉小売国際化

概要：小売国際化の動向について解説する。

〈第14講〉生販一体化に向けた新たな動き

概要：需要縮小に向けた流通の新たな動きについて解説する。

〈第15講〉流通とまちづくり

概要：流通振興とまちづくりの関係について解説する。

■教科書

適宜指示する。

■指定図書

適宜指示する。

■参考文献

原田英生・向山雅夫・渡辺達朗『ベーシック流通と商業 新版』有斐閣、2002

流通科学研究会『流通の世界』千倉書房、2011

笠井清志『ビジュアル図解コンビニのしくみ』同文館出版、2007

■評価方法

出席 (40%)、期末レポート (60%)

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名 歴史と文化〔History and Culture〕

担当教員 大森 映子

■講義目的

歴史を学ぶことは、過去の事実を明らかにするだけでなく、現代社会を客観化することでもある。ここでは、過去の日本社会の特質を振り返りながら、歴史的なものの見方を学ぶ中から現代社会がかかえている矛盾点を明らかにし、問題解決の方法を探る糸口を考える。今年度は主に次の2点に注目する。ひとつは、先端技術に支えられた文化の復元である。近年はCG技術の応用などにより、これまで漠然と「思い込み」で理解されてきた日本文化の実像が明らかにされてきている。その具体例を紹介しながら、文化的特質を再検討する。また二つめは、自然への対応のあり方を歴史的に辿ることである。自然災害に対して、過去の日本はどのように向き合ってきたのか。日本社会のあり方を歴史的に再認識することによって、現代の価値観を問い直してみたい。

■講義分類

社会人育成 グローバルビジネス 地域ビジネス

■到達目標

- (1) 過去の事実を知ることの重要性を理解する。
- (2) 歴史認識は、現代社会の矛盾点を浮き彫りにするものであることを理解する。
- (3) 歴史を踏まえて、自分なりの意見をもてるようにする。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔外学学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉 オリエンテーション

概要：授業の方針、取り扱うテーマなどを紹介

事前学習しておくべきポイント

日本の歴史および文化に対して関心をもつ。

詳細：「日本的」という表現はしばしば耳にするところであるが、果たしてその認識は正しいのであろうか。日本文化や伝統に対するイメージ、あるいは文化的特質については、「思い込み」による部分も少なくない。第1回目には、原点に立ち返ることを基本としながら、授業方針と取り上げるテーマの位置づけについて示す。

〈第2講〉 古代の都 ―発掘調査とCGによる復元の試み―

概要：飛鳥京の発掘とCG技術

事前学習しておくべきポイント

日本の古代史を復習し、7世紀頃の時代像を明らかにしておく。

詳細：奈良県飛鳥地方の発掘は、昭和30年代から行われていたが、1990年代以降の本格的な発掘調査の成果によって、その都のイメージは一変した。調査結果に基づき、CG技術を駆使して復元された飛鳥の都は、高度な土木技術に裏付けられ、中国や朝鮮半島の都とは異なる特徴を持ち、すぐれた都市機能に支えられていたことが確認された。自然との調和を目指した古代の都の発想は、現代でも学ぶべき点が少ないことを明らかにする。

〈第3講〉 絵画からみた平安時代 ―平安人の自然観―

概要：源氏物語絵巻の復元事例などを紹介しながら、復元の意義を考える。

事前に学習しておくべき用語とポイント [源氏物語 絵巻物 貴族文化]

平安時代の政治史的な流れを把握する。

詳細：現在、我々が目することができるとする芸術作品は、歳月の経過によって、退色・剥落・変形など、さまざまに変化している。そのこと自体

はいわば造形物の宿命であり、歳月を経たとはいっても「本物」であることは紛れもない事実である。しかし、その変化によって作者の意図が誤解されている可能性はないだろうか。絵画資料の修復、あるいはその他の文化財の復元事例を通して、製作当初の原状を確認し、あらためてその時代的特質を考えてみたい。また日本における事例ばかりでなく、海外における事例についても触れながら、「思い込み」の危うさを指摘する。

〈第4講〉 寺院の修復と復元 ―平安時代の寺院のイメージ―

概要：平等院鳳凰堂の修復と再現された色彩から平安時代の特質を考える。

事前に学習しておくべき用語とポイント [浄土思想 平等院鳳凰堂]

平安時代の歴史を学び、時代像を確認しておく。

詳細：「原状」確認の重要性を、建造物について検討する。取り上げる事例は、平等院鳳凰堂。創建以来すでに1000年近い年月を経た堂宇は、創建当初はどのような姿だったのだろうか。何度かの修復と調査の結果に基づく創建当初の状況が、CGによって視覚化された。現在の状況からは想像もできなかったような「原状」を紹介するとともに、日本文化、寺院建築のイメージを再検討する。また再現された建造物から、その時代背景を読み取ることを試みる。

〈第5講〉 沈没船の調査 ―水中考古学の世界―

概要：朝鮮半島沖で引き上げられた沈没船の積み荷を通して、当時の物流を考える。

事前に学習しておくべき用語とポイント [鎌倉幕府 日宋関係 宋銭]

鎌倉時代の歴史を学び、当時のアジア社会との関係を概観しておく。

詳細：近年、技術の進歩によって沈没船の引き上げなどが可能となり、当時の物流の実態が明らかにされた。取り上げるのは、鎌倉時代の末に朝鮮半島の沖で沈没した船の調査記録である。引き上げられた船の積み荷は、物流のあり方を物語るばかりでなく、人的な交流、国際的な結びつきなどを如実に示すものであった。これらをともに、当時の日本社会とアジア世界との密接な関連性について、あらためて検討する。

〈第6講〉 安土城の復元 ―信長の居城―

概要：安土城の発掘を紹介し、復元をめぐる論争を取り上げる。

事前に学習しておくべき用語とポイント [安土城 織田信長 楽市楽座]

戦国時代の時代的特徴を学ぶ。

詳細：安土城は織田信長の居城として有名であるが、城は築城から3年後に焼失した。この城をめぐるのは、発掘調査や関連史料などから復元が試みられているが、その実態は必ずしも明らかではない。ここでは、CGによる文化財の復元問題を取り上げると同時に、その問題点について指摘する。CGによる復元は、イメージを具体化する上では有効であるが、あくまでも「可能性」にとどまることも認識しておくべきであろう。しかし、発掘調査の結果は、やはり信長の時代が日本の歴史の上で大きな転換点であったことを示している、といえるだろう。

〈第7講〉 消滅した城の復元 ―朝鮮侵略の前線基地―

概要：豊臣秀吉が朝鮮侵略のために築城した肥前名護屋城（佐賀県）について紹介する。

事前に学習しておくべき用語とポイント [文禄・慶長の役 肥前名護屋城]

15世紀後半の歴史的な流れを把握する。

詳細：全国統一を果たした豊臣秀吉は、大陸侵略構想の第一歩として朝鮮への派兵を試みる。その前線基地として築かれたのが肥前名護屋城である。現在も調査が進められているが、当時の名護屋城は大坂城にも匹

敵するような巨大な城であったという。なぜそのような城が必要だったのか。名護屋城の規模や特質を明らかにすることは、当時の対外関係、あるいは秀吉と諸大名との関係を考える上でも見逃せない材料である。

〈第8講〉CG技術の限界

概要：前半の授業のまとめを行う。

事前に学習しておくべきポイント

第1～7講までの授業内容を整理しておく。

詳細：前半の授業のまとめを兼ねて、授業内で簡単な小テストを実施する。これまで紹介してきたように、CGの技術は、考古学の成果や文献史料などをもとにイメージを具体化するという点では大きな成果をあげているが、どのような点に注意しなければならないのか、あるいは復元の上で重視すべき点はどこにあるのかを考える。

〈第9講〉日本の世界遺産と自然災害

概要：世界遺産に指定された日本の遺産について検討する。

事前に学習しておくべき用語とポイント【世界遺産】

現在、世界遺産に登録されている物件を把握する。

詳細：「世界遺産とは何か」を明らかにした上で、日本国内の登録遺産について概観する。それぞれの物件について、どのような点が評価されたのかを確認しながら、日本文化の特質をさぐる。日本における文化遺産の特徴のひとつは、「木造」である点であろう。世界遺産の基準を変えたとされる日本諸遺産の特質について触れながら、我々自身も見逃してしまいがちな日本文化の特質について検討する。

〈第10講〉世界遺産と自然災害 一 台風・水害一

概要：文化財と台風被害との関係について、厳島神社(広島県)を素材に検討する。

事前に学習しておくべき用語とポイント【厳島神社 平清盛 地震】

詳細：台風被害は、その通り道となっている日本列島では避けることのできない問題である。しかし大きな被害を繰り返し受けながら、厳島神社と台風災害との間には、興味深い関係があることが明らかとなった。2004年の台風による被害状況をレポートした映像を紹介しながら、日本建築の基礎となっている発想について考える。また経験的に蓄積された手法は、現代の建造物にも応用されおり、自然とのつきあい方においては、歴史的に学ぶところが少なくないといえるだろう。

〈第11講〉世界遺産と自然災害 一 地震一

概要：文化財と自然災害との関係について、五重塔を例に考える。

事前に学習しておくべき用語とポイント【地震災害の歴史】

前回の授業を復習し、自然への対応のあり方を確認する。

詳細：文化財と地震の問題を考える。日本は大きな地震を何度も経験しているが、その中で、地震によって倒壊したという記録がないのが五重塔である。一見不安定な構造物に見えるが、なぜ地震によって倒壊したことがないのか、実験などを通して明らかになった点を紹介する。現代の科学ではなお解明できない点を残しながらも、このような五重塔の耐震構造は、現代の高層ビルなどにも取り入れられている。その意味では、過去の経験的手法の重要性はあらためて見なおす必要がある。

〈第12講〉木造建造物の修復事例

概要：日本の木造建造物の維持方法について、日光東照宮(栃木県)を例に考える。

事前に学習しておくべき用語とポイント【日光東照宮】

詳細：木造建築を維持するには修復が不可欠であり、数十年に一度大規模な修復を行わなければならない。日光東照宮は1999年に世界遺産登録されたが、その登録の根拠となったのは、単に崩れた建造物であるという側面ばかりではなかった。「修復」とは、単に失われた色を補ったり、壊れた部分を直したりするだけのものではなく、常に「原状」に戻すことが意識されていたのである。そのためには何が必要なのか。日光東照宮を例として、復元の技術と情報について紹介する。

〈第13講〉近世城郭の修復事例

概要：日本の木造建造物の維持方法について、姫路城(兵庫県)を例に考

える。

事前に学習しておくべき用語とポイント【姫路城】

詳細：姫路城の天守は、現在、平成の修復を行っている最中である。昭和30年代にも大規模な修復が行われているが、その時の基本方針は、築城当時の姿に戻すことであった。世界遺産として評価されたのも、「原型」を重視するという姿勢であり、400年前の姿を現在に伝えている点であった。昭和30年代の大規模な修復とあわせて、現在進行形の修復の模様を紹介しながら、あらためて文化継承の基本理念とその意味を検討する。

〈第14講〉自然災害と日本列島

概要：火山噴火と大地震について、江戸時代の事例を紹介する。

事前に学習しておくべき用語とポイント【富士山 浅間山 大地震】
災害の歴史を概観する。

詳細：火山国日本の宿命の一つが、火山噴火による被害である。ここでは江戸時代の記録をもとに、18世紀の富士山の噴火と浅間山の噴火、元禄大地震、安政大地震などを取り上げ、具体的な状況を紹介する。あわせて自然災害による社会的・経済的影響に注目し、当時の政府の対応のあり方、民衆の受け止め方について検討する。

また最終回のディスカッションに向けて、準備すべきポイントを指示する。

〈第15講〉まとめ

概要：15回の講義内容のまとめ

事前に学習しておくべきポイント

1～15回までの講義内容を把握し、まとめておく。

詳細：授業内容を通して、認識が変わった点を具体的に確認しながら、ディスカッションを行う。

■教科書

とくに指定せず、必要な資料は適宜配布する。

■指定図書

授業内で適宜指示する。

■参考文献

『もういちど読む 山川日本歴史』 山川出版社

『よみがえる源氏物語』 NHK出版

そのほかの文献については、授業内で適宜指示する。

■評価方法

基本は、平常点(出席、および授業内で求める簡単なレポート)50%、および最終回のディスカッションへの参加10%、中間小テスト20%、最終レポート20%、を原則とする。

■評価基準

相対評価

- (1) 授業内容を理解できているか。
- (2) 日本社会や日本文化について、自分なりの意見がもてるようになったか。
- (3) 歴史分析の手法を理解できたか。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

画像資料、映像資料を多用する関係から、人数制限をする場合があるので、初回オリエンテーションには必ず参加すること。なお、受講者数によって一部順序の入れ替え、内容の変更などを行うことがある。

科目名 プレゼミナール[Pre Seminar]

担当教員 専任教員

■講義目的

- ① 大学におけるキャリア形成を踏まえた、自己認識の端緒とすること。
- ② 大学へのソフトランディング
- ③ ディスカッションやゼミナール活動を通じた主体的学びの態度を習得すること。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

上記「講義目的」に照らし、学生の側から見れば、

- ① 就業意識に基づいた4年間の学修イメージが確立されること
 - ② 自分が中心的に学ぶテーマが発見されること
 - ③ ②の学びの成果に対する現実的期待を抱くことができるようになること
- が、本講義の目標となるであろう。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR[学外学習有]

■講義の概要

多摩大学では、大学に入学した時点での学生諸君は、「大学一年生」ではなく、「社会人マイナス四年生」である。それは、諸君が4年後に、社会人になることを前提としているからである。したがって、社会から要求されるものを身につけることが、大学4年間の、諸君のミッション(使命)である。

では、「社会から求められるもの」とは何か。

多摩大学は、これを総称して「問題解決力」と定義する。つまり、社会とは「問題」の塊そのものであって、社会で役割を担うこと(つまり就職ということ)は、「問題を解決すること」だと考えている。

多摩大学のすべての授業は、諸君の「社会における問題解決力」を伸ばすことのためにある、と言っても過言ではない。問題解決力養成は、講義だけで達成することはできない。そこで用いられるのが、「ゼミ形式による学び」である。この「ゼミ」という学びのスタイルには、いくつかの核心的な意味が隠されている。

1) 具体的な問題を認識し、問題構造を明確にし、解決方法を模索し、実行する、という実際の問題解決に挑む活動のプロセスによってこそ、有効な学びがある、ということ。

2) 同じ問題に、自分だけではなく複数の人間(仲間)で取り組むことによって、問題発見ー解決プロセスの糸が、より網の目のように重なることを体験し、互いに知恵を出し合い、協業して問題解決に当たる基本的能力が身に付く、ということ。

3) 解決に役立つ情報は、この世界のいたるところに転がっている。したがって、無数の無駄な情報の中から、必要・有効なものを見つけ出し、とり出し、加工したり組み合わせたりすることによって、新たな知を作り出していくということこそが、諸君が身につけなければならないのだ、ということ。この、「有用な情報」を手に入れるという教科書のない作業こそが、諸君にとって必要である、ということ。

こういった考え方から、本学は「ゼミ中心大学」を標榜し、さまざまな取り組みを行っている。したがって、まずは諸君自身がこういった大学の考え方を理解し、取り組んでもらうこ

とが重要である。これは、大きな教室で講義を聴くことによってだけでなく、諸君自身が活発に積極的に、能動的に考え、話し、そして行動する、ということの意味している。先生の言うことをよくきき、ノートをしっかりととり、暗記し、答案を書くという営みは、諸君にとって重要ではあるが、十分とは言えない。そのもう一歩先の、「みずから学びをつかみ取る」姿勢こそ、最も大切なものであるということを、われわれはまず伝えたい。

この「プレゼミナール」は、諸君のこうした今までにあまりなかったであろう「学び」の「学び方を学ぶ」ためにある。

この授業で諸君に求められることは、

- 1) 緊張感のある主体的意識、当事者意識を持って参加すること
 - 2) 先生や仲間に対し、可能な限り積極的に「情報発信」をすること
 - 3) 考えることと物事を進めることを、同時に行うのを厭わないこと
- これらを通じて、
- 4) 経営情報学を学び、問題解決能力を身につける4年間の道筋の全体像を把握すること
- ・・・である。

■教科書

担当する教員の指示に従うこと

■指定図書

担当する教員の指示に従うこと

■評価方法

1) まず、下記の条件を満たすことが、単位取得のために必要である。

① すべてに出席することがこの科目単位取得の前提である。理由の如何にかかわらず、3分の2以上の出席ができない場合は、単位を取ることはできない。

また、定刻に遅れた場合は、欠席となる可能性がある。

② 積極的に参加する受講態度。(これが、一定水準以下と判断された場合、それだけで不合格となることがあるので注意されたい)

③ 最終レポートの提出。(これが未提出であると、それだけで不合格となるので注意されたい。)

2) そのうえで、上記①②③の総合評価によって、成績評価を決定する。

※なお、特に優れた評価を受けた者は、1年次秋学期に実施されるホームゼミ選抜の際、その情報をホームゼミ担当者に伝え、選抜に際して加味するように進言するものとしている。

■評価基準

絶対評価

P

F

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

1) 特段の理由がない欠席はあり得ないものとする。すべての回に必ず出席すること。2) かならず配布されたパソコンを持参すること。それ以外の持参物や、予習等については、各担当教員の指示に従うこと。

科 目 名 プレホームゼミナール[Pre Home Seminar]

担当教員 専任教員

■講義目的

エンターションや指定されたレポートの提出を行う。

1) 各ゼミナールについて各担当教員から説明されるゼミ説明会へ参加する。聴講した複数のゼミナールについてまとめて提出する。レポートはMSOfficeを用いて作成する。

2) ゼミナール教育を経験するために、複数のゼミナールを経験する。経験するゼミナールについては、原則として大学側が指定する。

3) 決定したゼミナールでのオリエンテーションや指定されたレポートの提出を行う。

1) 各ゼミナールについて各担当教員から説明されるゼミ説明会へ参加する。聴講した複数のゼミナールについてまとめて提出する。レポートはMSOfficeを用いて作成する。

2) ゼミナール教育を経験するために、複数のゼミナールを経験する。経験するゼミナールについては、原則として大学側が指定する。

3) 決定したゼミナールでのオリエンテーションや指定されたレポートの提出を行う。

■講義分類

顧客理解 ビジネス環境理解 ビジネス創造 ビジネスマネジメント 社会人力育成 グローバルビジネス ビジネスICT 地域ビジネス

■到達目標

2年次から履修するホームゼミナールでの学びの接続性を考慮して、ホームゼミナールとのミスマッチなどを最小にするとともに、教員の専門分野などを踏まえて、自分から学ぶゼミナール教育を体験する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■講義の概要

1) 各ゼミナールについて各担当教員から説明されるゼミ説明会へ参加する。聴講した複数のゼミナールについてまとめて提出する。レポートはMSOfficeを用いて作成する。

2) ゼミナール教育を経験するために、複数のゼミナールを経験する。経験するゼミナールについては、原則として大学側が指定する。

3) 決定したゼミナールでのオリエンテーションや指定されたレポートの提出を行う。

1) 各ゼミナールについて各担当教員から説明されるゼミ説明会へ参加する。聴講した複数のゼミナールについてまとめて提出する。レポートはMSOfficeを用いて作成する。

2) ゼミナール教育を経験するために、複数のゼミナールを経験する。経験するゼミナールについては、原則として大学側が指定する。

3) 決定したゼミナールでのオリエンテーションや指定されたレポートの提出を行う。

1) 各ゼミナールについて各担当教員から説明されるゼミ説明会へ参加する。聴講した複数のゼミナールについてまとめて提出する。レポートはMSOfficeを用いて作成する。

2) ゼミナール教育を経験するために、複数のゼミナールを経験する。経験するゼミナールについては、原則として大学側が指定する。

3) 決定したゼミナールでのオリエンテーションや指定されたレポートの提出を行う。

■教科書

担当教員により適宜配布する

■評価方法

出席やレポート提出で行う。 出席：レポート＝7：3

■評価基準

絶対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科 目 名 ▶ ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔Seminars Ⅰ～Ⅵ〕

担当教員 ▶ 飯田 健雄

■講義目的

コミュニケーション能力を鍛錬するために、コーチングを学んでいく。1年、2年生は、コーチングの原理を理解できる段階まで達するようにする。3年生は、コーチングに認知療法や交渉の方法、意思決定の原理をとり入れたアプローチを学ぶ。4年生は卒論のために各自が独自のロール・プレイのためのスクリプトを作成していく。

■到達目標

全員が効果的なリーダーシップ・テクニックやコミュニケーション・テクニックを学び、就職できるようにする。企業が学生の就職活動の際、彼らに求める最大の要件は「コミュニケーション能力」である。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習有〕

ゼミでは近隣の小学校や中学校と連携して『親と子のコーチング』を開催し、雲雀祭でその成果を発表する。

〕

■講義の概要

コミュニケーション能力を鍛錬するために、コーチングを学んでいく。1年、2年生は、コーチングの原理を理解できる段階まで達するようにする。3年生は、コーチングに認知療法や交渉の方法、意思決定の原理をとり入れたアプローチを学ぶ。4年生は卒論のために各自が独自のロール・プレイのためのスクリプトを作成していく。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

特になし

■評価方法

絶対評価

P :

F :

■評価基準

絶対評価

P :

F :

■留意点

授業に参加すること

科 目 名 **ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔Seminars Ⅰ～Ⅵ〕****担当教員** **石川 晴子****■講義目的**

石川ゼミは、「英語」、「社会活動・ボランティア活動」をキーワードにコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力(文章作成、口頭発表、ディスカッション、ディベート)、情報収集・整理能力、論理的思考の向上を図ります。また、他者と協力して課題に取り組む体験を通して、客観的な物の捉え方、適応力、物事の本質について考える力を育てます。具体的なテーマや活動の詳細は、参加する学生がそれぞれ考え、話し合いののち決定します。人生の楽しみである「学び」や「新しい発見」を自主的に探し、共有できる仲間を育てるゼミにしたいと考えています。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

ゼミ内で行う様々な活動を通して、社会人に必要なリサーチスキル、論理的思考能力、コミュニケーション能力の基礎およびマナーを身につけます。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要**〈第1講〉**

概要：自己紹介・オリエンテーション

詳細：お互いの顔と名前を覚える。目標の確認と共有。

〈第2講～第14講〉

概要：下記①～⑤の内容を順次取り扱う予定

(取り扱うテーマにより順番・内容が変更する場合がある。)

事前学習しておくべき用語やポイント〔ゼミ内で指示する。〕

基本的にその回で取り扱うテーマに関することとなる。]

詳細：

- ①リサーチとは&リサーチ・メソッドについて
- ②効果的な口頭発表の方法
- ③発表資料の種類と作り方
- ④文章作成のポイント、レポートの書き方
- ⑤ディスカッション・ディベートのやり方
- ⑥英語力の強化

〈第15講〉

概要：最終発表

詳細：学生による成果発表

■教科書

授業内で指示

■指定図書

必要に応じて指示

■参考文献

必要に応じて指示

■評価方法

出席および課題への取り組み(リサーチ、グループワーク、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなど)、提出物(レポートや発表資料など)を評価の対象とします。

■評価基準

絶対評価

P ：

F ：

上記の「評価方法」の内容を総合的に評価
積極的、自発的な活動を高く評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

毎回の出席を原則とします。

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕

担当教員 出原 至道

■講義目的

このゼミナールは、社会に出て通用するシステム構築能力を身につけることを目的とする。ゼミナール開始時のスキルは特に必要としないが、未知の領域に対する旺盛な好奇心、自発的学習能力、平均的な社会性・コミュニケーション能力については既に身につけていることを求める。

2年次では、まず、手法を指定して機能を実現する練習を行い、その後、オリジナルなアイデアを自力で組み上げる段階に進む。その後3年次で、各自が選択した社会的な意義をもつテーマについて、データ解析手法の理論を学んだ上で、プログラミングによって実際にシステムを構築する。次に、このシステムの改良・運用を通して得られる知見について、4年次に各自が論文としてまとめる。

講義時間は週1回であるが、この時間は基本的に、それまでに行った研究の発表の場である。作業時間は各自が別に確保すること。発表の場では、成果を全体で共有し、次回までの目標を明確にすることが求められている。作業はそれ以外の時間に各自行うことになる。

基本的に、研究テーマについては個人の希望する方向性を尊重しつつ、実現可能性・社会的意義などを検討して決定していく。

積極的に外部に成果を応募・発表することを奨励する。目標とする代表的な場として、IVRC(日本)、Laval Virtual(フランス)、SIGGRAPH(アメリカ)、SIGGRAPH ASIA(日中韓など)がある。

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / ビジネス創造 / ビジネスマネジメント / 社会人力育成 / グローバルビジネス / ビジネスICT / 地域ビジネス

■到達目標

プロジェクトベースでシステム開発能力を持つ社会人として、社会性・人間性を含めて評価される。「大学で何を勉強したか」ではなく「大学で何を生み出したか」を語ることができる。単に「コンピュータが使える」だけの人材とはどこが違うか自分で説明できる。共通の目的を持つ他国の学生との交流を通じて、単なる言語や文化的興味にとどまらない、高いレベルの国際意識を身につける。

このうち、ホームゼミ1では、大学において実現する目標の計画を立て、必要なスキルを明確化する。特に、ホームゼミ選抜において研究計画を提出することなくゼミに割り当てられた学生は、ホームゼミ1終了時点で、単位の可否とは別に継続の可否について審査する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■参考文献

- [1] R.E.Crandall 『サイエンス・プログラミング』 シュブリンガー・フェアラーク東京(1998)
- [2] J.Antonakos/K.Mansfield 『C/C++ アルゴリズム入門』ピアソンエデュケーション(2000)

■参考URL

<http://iis.edu.tama.ac.jp/>

■評価方法

平常点(60%)・期末レポート(40%)(絶対基準)。ただし、期末レポートへの取り組みに応じて、期末レポートの評価の一部を平常点によって評価することがある。

■評価基準

絶対評価

P : F以外

F : 無断欠席。自主的な取り組みが見られない場合。その他信義に反する場合。

平常点については、以下の点を中心に評価する。

- ・明確な課題意識を持っているか。
- ・定期的な発表で基礎を固めているか。

期末レポートについては、以下の点を中心に評価する。

- ・明確な課題意識を持っているか。
- ・既存研究の中での位置づけがはっきりしているか。
- ・独創的な視点を持っているか。
- ・課題に対して成果をあげているか。

■事前履修科目等

特になし。(選択言語でプログラミングを履修している必要はない)

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

3年次生以降は、年2回のStudent Research Conference(SRC)で研究成果を一般に公開する。特段の事情がある場合を除き、2回連続してSRCの発表を回避するか、発表を許可されなかった場合、単位を認めない。

科 目 名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕

担当教員 今泉 忠

■講義目的

近年、ビジネスでは、定量的な問題解決は必須になってきている。また、当然、コンピュータを利用する場面が多くなってきている。それに伴い、情報処理に関する能力が必要とされてきている。本演習では、これを、「データ(もの)」という観点から見た場合のデータ分析法やモデル構成法について学ぶ。定量的データ処理能力および統計的分析手法を習得することを目標とする。

主に行動科学における統計的データ解析やデータマイニングや意思決定問題について学ぶ。最終的には卒論の提出を行う。基礎知識の習得については履修者全員に必須とする。

■到達目標

卒業時には、以下の手法について理解し、説明でき、活用できるようにすることを目標とする。

・統計的データ解析

主として、多変量解析の分野での手法を学ぶ。回帰分析、主成分分析、判別分析について習得する。

・データマイニング

大量のデータから、ある目的に応じた結果をえることは容易であるが、それを外部からの評価にも耐えられるようにすることは困難である。このような分析手法について実際のデータを用いながら学ぶ。

・意思決定問題

ベイズ統計の観点から意思決定の数理的側面について学ぶ。以下の順序に演習を行う予定である。

- 1) 基礎知識の習得・学習するのに必要と考えられる基礎を学習する。
- 2) 各人の専攻したい分野について、おおまかに決定する。その後、その分野について各自が作成した資料をもとに説明することを行いながら、その分野での基礎的な事柄の習得を図る。この時、説明用資料を必ず用意することにする。教材については、各人の専攻したい分野(ただし統計、データ解析の分野またはその関連分野)をもとに決める予定である。
- 3) 卒論を書くテーマに関して、卒論計画書を作成し、必要と考えられる文献などをもとに演習を行う。
- 4) 卒論の作成 統計、データ解析の分野またはその関連分野でのテーマについて卒論を作成する。

【2年生ゼミ】

基本的な事項について学習する

データ分析基礎 PDCAで分析を行う過程について修得する。
数学素養 数学について、実際に使える事を目的に復習を行う

統計基礎 統計データ分析の基礎について学ぶ

SRC冬では、グループ別に発表を行う

【3年生ゼミ】

統計的な問題解決力を育成する

定量分析 データを定量的に分析するための手法に学ぶことを通じて、問題解決力を修得する

統計学基礎 講義での復習を兼ねて、実際のデータに適用する

データ解析 統計的な問題解決のために、統計的データ解析について学ぶ。統計分析手法について学習する

SRC夏では、グループ別に発表を行う

SRC冬では、個人別に発表を行う

【4年生ゼミ】

ビジネス上の問題について、統計的データ分析を用いて解決するための方法を修得する。

各人が、自己のテーマ毎に発展させる。

統計的データ分析の手法に修得
レポート・論文として書く事により、問題分析と解決案の提案を行う

SRC夏では、個人別に発表を行う

SRC冬では、個人別に発表を行う

■講義形態

□

■教科書

統計学基礎 日本統計学会編 東京図書

Head First データ解析 オライリー

統計学は最強の学問である 西内 啓, ダイヤモンド社
よくわかる最新ベイズ統計の基本と仕組み 松原望 秀和システム

■参考文献

『理系のための作文技術』 中公新書

■評価方法

演習時間中の発表(40%) ゼミ外での発表(20%) 学習(40%) 時間外活動(10%)

■評価基準

演習時間中の発表では、適当な演習課題への取り組みとその成果発表を評価する。

ゼミ外での発表ではSRCなどでの発表を評価する。

学習では、関連した分野を含めた学習に関して評価する。

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarⅠ～Ⅵ〕

担当教員 梅澤 佳子

■講義目的

このゼミナールは、これからのクオリティ・オブ・ライフについて考え、そのための生活環境（環境、サービス、プログラム）を創造することを目的としています。具体的には、レジャー、余暇、祭り、観光、生活文化、生涯学習など自由（裁量）時間に関係する内容について学び、同時に、今日の私たちの暮らしの中にある問題を発見し、問題解決のための方法を探り、実際に行動することによって本来の目的を達成していくものです。企画構想力、実践力

■講義分類

社会人力育成 / 地域ビジネス／レジャービジネス / 生活文化研究

■到達目標

地域プロジェクトを含むゼミ活動を通じて企画構想力、交渉力、実践力を身につけます。ホームゼミナールⅠ・Ⅱでは、①レポートの書き方、グループワーク、プレゼンテーションなどの基礎的能力を身につけること、②「特別講座」をテーマに現代社会の諸問題について理解を深めること③ゼミの継続地域プロジェクト活動を行いながら、自分でプロジェクトを企画立案します。そのことで、身近な地域社会を客観的に分析する視点を身に付けます。特にⅡでは、これまで学んだ自由裁量時間に関する知識をもとに、暮らしの中にある身近な問題を取り上げて議論できる力を身につけることを目標とします。Ⅲでは、各自が企画立案した地域プロジェクトを実施、秋のSRCに向けて活動を行いながらさまざまな調査方法について学びます。Ⅳでは、SRCに向けて発表の準備を仕上げます。Ⅴでは、卒業研究に向けて各自の研究テーマについてさらに掘り下げて研究を進めます。Ⅵでは、SRCでの発表を含め卒業研究の仕上げを目指します。

■講義形態

□

■講義の概要

■ゼミナールの趣旨（詳細）

私たちは心豊かに精神的ゆとりある生活を営むために、自由時間がいかにあるべきか、あるいはいかに重要であるかという点については、遥か二千年以上昔から議論されてきました。ヨーロッパには「レジャーは文化の基礎である」という考えがあります。現在、日本は長寿社会を迎え自由時間は増えています。しかしながら、現代に生きる日本人はなぜか忙しく、いつも時間に追われて、ゆとりを感じられないようです。実際に、自由時間は生涯生活時間において3割以上あるにも関わらず、その自由時間を十分に活かできていません。歴史上これまでない自由な時間を持ちながら、無意識の内に時間を潰したり、レジャー産業に遊ばされていたり、無為に過ごしてしまっています。このゼミナールでは、ゼミ生の皆さんとレジャーとは何か、過去に生きた人々はレジャーをどのように考えていたのか、生活におけるレジャーの重要性について考え、現状を分析し、これからの私たちの暮らしについて提案をします。自由時間をどのように生きるか、人生の中でどのように配分するか、どのようなサービスや教育プログラムが自由時間を充実したものにするために必要なのかということについて考えていきます。そして、現代社会

にひそむ問題を冷静に分析し、問題の解決方法を見出し、プロジェクトを通じて自ら実践することが私たちのゼミ活動です。

■予備学習のポイント

毎回、ゼミナールの進捗状況にあわせて次週のゼミ活動に向けて課題（予備学習課題）を出します。1週間かけてしっかりと準備をしてください。

社会福祉法人 時の会、NPO法人あしたや共働企画、多摩市諏訪名店街、多摩市永山公民館、多摩グリーンボランティア森木会、多摩市立諏訪小学校、聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会

■指定図書

寺島実郎『世界を知る力』PHP新書No.646(2010)
アーネ・リンドクウィスト、ヤン・ウェステル『あなた自身の社会』新評論(1997)
河合隼雄『神話の心理学 - 現代人の生き方のヒント』大和書房(2006)
小林 司『「生きがい」とは何か - 自己実現への道』NHKブックス(1989)
辻 信一『GNH？もうひとつの“豊かさ”へ、10人の提案』(2008)
辻 信一『「ゆっくり」でいいんだよ』ちくまプリマー新書(2006)
ミハエル・エンテ『モモ』岩波書店(1976)
ヨゼフ・ビーバー『余暇と祝祭』講談社学術文庫(1988)
ヨハン・ホイジンハ『ホモ・ルーテンス』中央公論(1971)

■参考文献

サミュエル・スマイルズ『自助論』三笠書房(1998)
大江正章『地域の力』岩波新書(2008)
その他、ゼミの進捗状況にあわせて随時紹介します。

■評価方法

グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、地域プロジェクト、学内・学外の活動を通じてゼミへの参加貢献度（発言が有益であり議論の助けになっている、積極的に地域プロジェクトを運営していく活動意欲など）、提出物、出席で評価します。

■評価基準

ゼミ発表(30%)、提出物(30%)、ゼミへの参加貢献度(40%)。尚、出席は評価のための前提条件とします。

■事前履修科目等

■関連する講義科目

余暇マネジメントⅠ・Ⅱ（ゼミ必修）、地域ビジネス系講義（推奨）

■留意点

3年生からSRCでの発表、4年生では卒業研究を必ず行ってもらいます。

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅴ〔SeminarsⅠ～Ⅴ〕

担当教員 大森 映子

■講義目的

歴史を学ぶということは、ただ過去の事象を明らかにするだけではなく、現代社会を相対化・客観化してとらえる視点を養うことでもある。一見、全く無縁と思われるような歴史的事象も、考え方によっては現代社会と深く結びついていることが少なくない。ちょっとした関心や興味を出発点として、過去の歴史事象を吟味・分析し、さまざまな可能性を考えながら、理論化を試み、その上で現代社会の本質に迫ってみたい。このような能力を養うことにより、社会に出てからも物事を表面的に捉えるのではなく、その本質を見極める力をつけることを目指す。

また、毎回「ゼミ参加記録」の記載を義務づける。ゼミへの参加を通して、その都度何が問題とされたのか、あるいは自分の疑問がどの時点で解決されたのか、などをできるだけ記録として残していく習慣を身につける。

内容の詳細については、授業開始後に参加者と相談しながら確定するが、当面は次のようなテーマについて話題を提供する。・歴史的に見た自然災害への対応

・自然現象(日食・月食)に対する江戸の人びとの関心

・資源リサイクルに対する江戸時代の意識

ゼミの進め方については、次の3つを併用する。

(1)テキストを決め、輪読と討論を行う。(テキストは授業開始後に決定)(2)各自が興味あるテーマを設定し、それぞれのテーマに基づく調査・分析・報告を軸としながら理解を深める。(3)時事問題について、関心ある記事を示しながら問題提起し、討論を行う。

■講義分類

社会人力育成 地域ビジネス

■到達目標

(1)現代社会を考えるにあたって、歴史的分析の重要性を認識する。(2)現代の諸問題を客観的に捉えられる視点を養う。(3)ディスカッションの中で、自分の意見をまとめ、全体を統括することができる。(4)自らの問題意識に基づき、テーマを設定し、卒業論文としてまとめる。(5)報告資料の作成を通じて、OFFICEソフトが活用できるようにする。

■講義形態

〔学外学習有〕

■講義の概要

〈第1講〉 オリエンテーション

概要：ゼミの方針を確認し、読み合わせのためのテキストを決定する。

〈第2講〉 個別報告について

概要：報告テーマについて検討する。

事前に学習しておくべき語やポイント

自分の関心のあるテーマについて簡単な発表ができるように準備する。

詳細：テキストについて、報告担当を定め、報告日程、報告の準備(レジュメの作成)の仕方について具体的に検討する。

〈第3講〉～〈第6講〉 〈第10講〉～〈第11講〉 テキストの輪読

概要：報告者による発表と質疑応答

事前に学習しておくべき語やポイント

報告者は、分担部分について規定時間にみあったレジュメ、またはスライドを準備する。

報告者以外は、輪読部分を事前に読み込み、疑問点や問題点を抽出する。

詳細：報告者による発表を受けて、ディスカッションを行う。なお、レジュメやスライドの作成にあたっては、OFFICEソフトが使いこなせるようにすることを心がける。

〈第7～9講〉 時事問題の検討

概要：新聞記事などをもちより、論評する。

事前に学習しておくべきポイント

事前に関心をもった新聞記事などをコピーする。

新聞などに目を通す習慣をつける。

詳細：担当者をさだめ、記事のコピーを配布して読み合わせる。担当者からのコメントを受けて、ディスカッションを行う。

〈第12講〉～〈第14講〉 個別報告

概要：それぞれが設定したテーマに基づき、報告を行う。

事前に学習しておくべき用語やポイント

報告者は、事前に発表の補助となるレジュメやスライドを準備する。

詳細：報告者による発表を受けて、ディスカッションを行う。

〈第15講〉 半期の成果のまとめ

概要：半期のゼミについて総括する。

事前に学習しておくべき用語やポイント

各自それぞれに半期の内容を振り返り、まとめておく。

報告の発表とディスカッションを経て、最終レポートをまとめる。

詳細：半期の成果について、ディスカッションを行い、今後の課題を確認する。

■教科書

授業開始後に決定する。

■指定図書

必要に応じて適宜指示する。

■参考文献

必要に応じて適宜指示する。

■評価方法

ゼミへの参加(60%)。ただし「参加」とは出席しているだけではなく、参加姿勢を伴うものである。授業時の報告やレポート(40%)。

4年次には卒業論文作成を義務づける。

■評価基準

(1)積極的、意欲的な参加姿勢を高く評価する。

(2)レポートに対する真摯な取組と成果を評価する。

■事前履修科目等

「日本政治史」「歴史と文化」を履修していることが望ましい。

■留意点

学生の主体性を重視する。またこの授業を通して「文献」の重要性も学んで欲しい。

また見学旅行なども実施する予定であるので、積極的な参加を期待する。

なお、出席者の興味・関心などによって内容を変更することがある。

科目名 ホームゼミナール VI(Seminars VI)

担当教員 大森 映子

■講義目的

3年間のゼミの集大成として、卒論の作成をめざす。
卒論の作成を通じて、半年から1年にわたって1つのテーマを継続して追求することの重要性を学ぶ。
ゼミの内容は、卒論作成のための作業や指導が中心となる。

■講義分類

社会人力育成 地域ビジネス

■到達目標

- (1) 自らの問題意識に基づき、テーマを設定し、卒業論文としてまとめる。
- (2) 卒論作成を通じて、パソコンを活用出来るようにする。

■講義形態

[学外学習有]

■講義の概要

〈第1講〉 卒論作成の予定

卒論の仕上げにむけて、時間配分を意識しながら計画をたてる

〈第2/3講〉 個別報告

これまでの成果と今後の見通しについて報告する。

〈第4～14講〉 卒論作成にむけての作業

卒論関連の文献の整理や調査などを軸に、作業を行う。
ゼミとしての活動と、個別指導を織りまぜながら卒論を完成させる。

〈第15講〉 卒論提出

卒論提出と、1年間の記録を完成させる。
(なお秋学期中に、合同ゼミの場で卒論構想発表を行う予定である。 時期未定)

■教科書

なし

■指定図書

必要に応じて適宜指示する。

■参考文献

必要に応じて適宜指示する。

■評価方法

ゼミへの参加50%、卒論50%

■評価基準

- (1) 積極的、意欲的な参加姿勢を高く評価する。
- (2) レポートに対する真摯な取組と成果を評価する。

■事前履修科目等

「日本政治史」「歴史と文化」を履修していることが望ましい。

科 目 名 **ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕****担当教員** **大森 拓哉****■講義目的**

生活する社会の中で、情報を的確に収集・分析することは必要不可欠である。本講義では人間行動の調査の方法の習得・データの収集・分析といった一連の流れを経験し、体得することを目的とする。同時に、人間行動のシミュレーションを各自がプログラムを作成することによって行う。最終的には、心理学、統計学、プログラミングの知識と技法を体得し、人間行動の理解とモデリング全般が行えることを目標とする。

■講義分類

顧客理解 ／ビジネス環境理解／ビジネス創造
 ／ビジネスマネジメント ／社会人育成／ビジネスICT

■到達目標

人間行動全般の理解と、情報の処理方法、および物事の客観的な判断・意思決定ができること。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

概要：心理学・データ分析関連の話題を題材とし、実験演習を通して人間行動の理解を深める。

事前学習しておくべき用語やポイント〔心理学〕

詳細：各学期ごとに大きなテーマを決め、そのテーマに関連する事柄について、グループワークを中心に、実験・調査演習を行う。扱うテーマは心理学関連である。データを収集し、分析を行うことにより、客観的な論理の展開を行う能力を身につける。各学期末にはSRCにて成果を発表する。4年時には一人一テーマの卒業論文を執筆する。

■教科書

特に指定なし。講義ごとに紹介する。

■指定図書

長谷川勝也 『ゼロから始めてよくわかる多変量解析』 技術評論社

谷岡一郎 『「社会調査」のウソ』 文春新書

鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

堀洋道監修 『心理測定尺度集』 サイエンス社

心理学実験指導研究会編 『実験とテスト＝心理学の基礎』実習編・解説編 培風館

■参考文献

特に指定なし。講義ごとに紹介する。

■評価方法

出席50%、課題50%

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

情報系科目全般

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義は各回が連続しており、欠席すると次回講義ではフォロー

ーできないため、毎回の出席が必須である。無断欠席は即退ゼミとなる。また、正規の時間外にもゼミの活動を行うので、留意すること。

科目名 ホームゼミナールⅠ(SeminarsⅠ)

担当教員 奥山 雅之

■講義目的

地域産業の活性化、地域ビジネスの起業について学ぶゼミナールです。産業は、私たちに必要な商品やサービスを生み出すという役割だけでなく、雇用を生み出す役割、行政サービスの財源となる税を生み出す役割、仕事を通じて人材を育成する役割など、様々な効果を地域社会に生み出す存在です。私たちの大学が立地する「多摩」を舞台として、より良い産業が地域に根付くにはどうしたらよいか、地域の課題をビジネスや政策実行のチャンスと捉え、あるべき姿とそれに向かうための方法を共に考えることで、「地域」「ビジネス」「課題解決」を学びます。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／地域ビジネス

■到達目標

- (1)「発見力」を高めます
皆さんは普段の生活から、何か疑問を感じたことはありませんか。新しいビジネスの種や仕事上の課題を発見することが上手い人の共通点は、「発見力(アンテナ)」が高いということです。何気ない日常生活からも、「ここはちょっとおかしいのではないか」といった「疑問」や、「こうなればいいのに」という「あるべき姿」を発見することができますようにします。
- (2)「創造性」を高めます
なかなか解決できそうにない課題に直面しても、物事を様々な角度から見ていくことで、皆さんの中にある「創造性(クリエイティビティ)」が発揮され、課題解決の糸口がつかめるようになります。
- (3)「チームワーク」を高めます
言うまでもなく、ゼミは教師一人が創るものでなく、学生一人が創るものでもありません。教師と学生がチームとなつてつくる上げるものです。ゼミの運営の中で、「チームワーク」を高めていきます。

■講義形態

GD・GW・PR[学外学習有]

■講義の概要

〈第1講〉オリエンテーション(1)

概要：ゼミの概要・進め方についての説明、自己紹介

事前学習しておくべき用語[地域の課題、ソーシャルビジネス]

詳細：ゼミ運営の準備として、ゼミの概要・進め方についての説明、自己紹介を行います

〈第2講〉オリエンテーション(2)

概要：ゼミの役割決め、当面のテーマ・スケジュールについて

事前学習しておくべき用語やポイント[地域の課題、ソーシャルビジネス]

詳細：ゼミの役割、当面のテーマ・スケジュールについて決めていきます。

〈第3講〉基礎学習(1)

概要：地域と生活について

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：ゼミ学習に必要な多摩地域についての基礎知識、地域概念についての理解、産業と地域とのかかわりなどについて議論していきます。

〈第4講〉基礎学習(2)

概要：産業と生活について

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：ゼミ学習に必要な多摩地域についての基礎知識、地域概念についての理解、産業と地域とのかかわりなどについて議論していきます。

〈第5講〉基礎学習(3)

概要：地域と産業について

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：ゼミ学習に必要な多摩地域についての基礎知識、地域概念についての理解、産業と地域とのかかわりなどについて議論していきます。

〈第6講〉現場見学(その1)

概要：現場見学(多摩地域のターミナル駅前の賑わい(予定))

事前学習しておくべき用語やポイント[大型店、商店街]

詳細：現場見学の第一弾として、多摩の主要なターミナル駅に出向きます。

〈第7講〉現場見学(その1)についての討論

概要：討論(多摩地域のターミナル駅前の賑わい(予定))

事前学習しておくべき用語やポイント[現場見学で感じたことをまとめておく]

詳細：複数のターミナル駅前の賑わいを比較検討します。

〈第8講〉基礎学習(4)

概要：ビジネスのつくり方について

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：ゼミ学習に必要な多摩地域についての基礎知識、地域概念についての理解、産業と地域とのかかわりなどについて議論していきます。

〈第9講〉基礎学習(5)

概要：地域課題について

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：ゼミ学習に必要な多摩地域についての基礎知識、地域概念についての理解、産業と地域とのかかわりなどについて議論していきます。

〈第9講〉基礎学習(6)

概要：地域ビジネス起業の事例について

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：ゼミ学習に必要な多摩地域についての基礎知識、地域概念についての理解、産業と地域とのかかわりなどについて議論していきます。

〈第10講〉現場見学(その2)

概要：現場見学(工場(予定))

事前学習しておくべき用語やポイント[多摩の製造業]

詳細：現場見学の第二弾として、多摩の工場の見学を実施します。

〈第11講〉現場見学(その2)についての討論

概要：討論(工場(予定))

事前学習しておくべき用語やポイント[現場見学で感じたことをまとめておく]

詳細：工場見学で感じたこと、工場見学を通じた多摩のものづくりの特徴・課題について討論します。

〈第12講〉研究テーマ設定

概要：研究テーマをみつけたす

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：後期を含めた研究テーマについて議論して決定していきます。

〈第13講〉情報収集(1)

概要：研究テーマについての情報収集

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：後期を含めた研究テーマについて、研究の基礎となる資料を収集していきます。

〈第14講〉情報収集(2)

概要：研究テーマについての情報収集

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：後期を含めた研究テーマについて、研究の基礎となる資料を収集していきます。

〈第15講〉中間発表

概要：研究テーマの中間発表

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：後期を含めた研究テーマについて、研究の基礎となる資料を収集した成果を中間発表します。

■教科書

特にありません。必要があれば適宜指示します。

■指定図書

特にありません。必要があれば適宜指示します。

■参考文献

特にありません。必要があれば適宜指示します。

■評価方法

出席(50%)、積極的な発言を含めたゼミ活動への貢献度(50%)

■評価基準

相対評価

ゼミ活動内の発言や行動について、「発見力」「創造性」「チームワーク」をどれだけ発揮できたかによって評価します。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・ホームゼミは教師と学生が力を合わせて運営します。「他人ごと」ではなく、主体性を持ってゼミに参加することを望みます。

・ゼミの仲間は「一生モノ」です。仲間を自分の力としてください。自分も仲間の力になってください。

科目名 ホームゼミナールⅡ〔SeminarsⅡ〕

担当教員 奥山 雅之

■講義目的

地域産業の活性化、地域ビジネスの起業について学ぶゼミナールです。

産業は、私たちに必要な商品やサービスを生み出すという役割だけでなく、雇用を生み出す役割、行政サービスの財源となる税を生み出す役割、仕事を通じて人材を育成する役割など、様々な効果を地域社会に生み出す存在です。

私たちの大学が立地する「多摩」を舞台として、より良い産業が地域に根付くにはどうしたらよいか、地域の課題をビジネスや政策実行のチャンスと捉え、あるべき姿とそれに向かうための方法を共に考えることで、「地域」「ビジネス」「課題解決」を学びます。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会力育成／地域ビジネス

■到達目標

(1)「発見力」を高めます

皆さんは普段の生活から、何か疑問を感じたことはあります。新しいビジネスの種や仕事上の課題を発見することが上手い人の共通点は、「発見力(アンテナ)」が高いということです。何気ない日常生活からも、「ここはちょっとおかしいのではないか」といった「疑問」や、「こうなればいいのに」という「あるべき姿」を発見することができるようにします。

(2)「創造性」を高めます

なかなか解決できそうにない課題に直面しても、物事を様々な角度から見ていくことで、皆さんの中にある「創造性(クリエイティビティ)」が発揮され、課題解決の糸口がつかめるようになります。

(3)「チームワーク」を高めます

言うまでもなく、ゼミは教師一人が創るものでなく、学生一人が創るものでもありません。教師と学生がチームとなつてつくる上げるものです。ゼミの運営の中で、「チームワーク」を高めていきます。

■講義形態

GD・GW・PR[学外学習有]

■講義の概要

〈第1講〉オリエンテーション(1)

概要：ホームゼミⅡの進め方についての説明

事前学習しておくべき用語[地域の課題、ソーシャルビジネス]

詳細：ホームゼミⅡの概要・進め方について決めていきます。研究発表の内容である政策提言またはビジネスプランのまとめ方についても説明します。また、ゼミの人数によっては適宜「グループ分け」もしていきます。

〈第2講〉オリエンテーション(2)

概要：前期(ホームゼミⅠ)の振り返り

事前学習しておくべき用語やポイント[地域の課題、ソーシャルビジネス]

詳細：ホームゼミⅠでの成果について振り返ります。

〈第3講〉討論(1)

概要：研究テーマについての討論

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、

起業]

詳細：研究テーマについて、討論して理解を深めます。

〈第4講〉討論(2)

概要：研究テーマについての討論

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：研究テーマについて、討論して理解を深めます。

〈第5講〉討論(3)

概要：研究テーマについての討論

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：研究テーマについて、討論して理解を深めます。

〈第6講〉フィールドワーク(その1)

概要：研究テーマに関するフィールドワーク(場所未定)

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：研究テーマに関わりフィールドワークを実施します。

※フィールドワーク先のご都合などによりスケジュールは変更となる場合があります。

〈第7講〉フィールドワーク(その1)についての討論

概要：研究テーマに関するフィールドワークについての討論(予定)

事前学習しておくべき用語やポイント[フィールドワークで把握したことをまとめておく]

詳細：研究テーマに関するフィールドワークについて討論し、通理解を深めます。

〈第8講〉討論(4)

概要：研究テーマについての討論

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：研究テーマについて、討論して理解を深めます。

〈第9講〉フィールドワーク(その2)

概要：研究テーマに関するフィールドワーク(場所未定)

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：研究テーマに関わりフィールドワークを実施します。

※フィールドワーク先のご都合などによりスケジュールは変更となる場合があります。

〈第10講〉フィールドワーク(その2)についての討論

概要：研究テーマに関するフィールドワークについての討論(予定)

事前学習しておくべき用語やポイント[フィールドワークで把握したことをまとめておく]

詳細：研究テーマに関するフィールドワークについて討論し、通理解を深めます。

〈第11講〉発表に向けた準備(1)

概要：研究テーマについての発表に向けての準備

事前学習しておくべき用語やポイント[現状、課題、解決策、理論の立て方]

詳細：データ整理、分析、資料作成など、研究テーマについての発表に向けての準備を行います。

※発表の場や方法は今後決定していきます。以下、発表の方法やスケジュール等によって変更となる場合があります。

〈第12講〉発表に向けた準備(2)

概要：研究テーマについての発表に向けての準備

事前学習しておくべき用語やポイント[現状、課題、解決策、プレゼンテーションの方法]

詳細：データ整理、分析、資料作成など、研究テーマについての発表に向けての準備を行います。

〈第13講〉研究発表

概要：研究テーマについての発表、プレゼンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント[現状、課題、解決策、プレゼンテーションの方法]

詳細：研究テーマの発表、プレゼンテーションを行います。

ゼミ生はそれぞれの役割を担います。

〈第14講〉研究発表の振り返り

概要：研究テーマについての発表、プレゼンテーションの成果、課題をまとめる

事前学習しておくべき用語やポイント[]

詳細：研究テーマの発表、プレゼンテーションについての振り返りを行います。

〈第15講〉まとめ

概要：ホームゼミIIのまとめと、個人テーマについてのコミュニケーション

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

詳細：ホームゼミIIのまとめと、卒業論文作成に向けた個人個人の研究テーマについての話し合いを行います。

■教科書

特にありません。必要があれば適宜指示します。

■指定図書

特にありません。必要があれば適宜指示します。

■参考文献

特にありません。必要があれば適宜指示します。

■評価方法

出席(50%)、積極的な発言を含めたゼミ活動への貢献度(50%)

■評価基準

相対評価

ゼミ活動内の発言や行動について、「発見力」「創造性」「チームワーク」をどれだけ発揮できたかによって評価します。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・ホームゼミは教師と学生が力を合わせて運営します。「他人ごと」ではなく、主体性を持ってゼミに参加することを望みます。

・ゼミの仲間は「一生モノ」です。仲間を自分の力としてください。自分も仲間の力となってください。

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔Seminars Ⅰ～Ⅵ〕

担当教員 金子 邦博

■講義目的

本ゼミナールは、ビジネスにおける意思決定に際して、会計情報を活用することができる人材の育成を目的に、会計学を本中心に「儲ける」というビジネスの基本を如何に実現していくのかを学んでいく。そのため、本ゼミナールでは、将来のビジネスシーンで直面する解決策が明確でない課題に対して、会計情報を活用して適切な判断、指示が行えるようになるために必要な、財務会計、管理会計、経営学の基本的な思考方式と、説得的な表現が行える論理力を身につけることを目指して計画的に演習により学習し、産業社会での社会人基礎力を高め、卒業後の就業力を培っていく。具体的には、2年次には会計学の基礎知識を固めることを目指し、3年次にはそれを発展させて企業や事業手法の現状を分析する学習を行い「いい企業」とはどのような経営を行っている会社なのかを検討し、4年次にはそれまでに身に付けた知識、能力を社会の実践のなかで活かせるようにOUTPUTの能力を高めるとを意図して、情報収集能力と自らが収集した情報を利用した問題解決能力の向上を図るためのフィールドワークや論文作成を指導していくことを予定している。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

(ホームゼミナールⅠ：2年春)日本商工会議所の簿記検定3級に合格すること。
(ホームゼミナールⅡ：2年秋)株式会社の会計(日商簿記2級程度)を理解すること。
(ホームゼミナールⅢ：3年春)財務会計の分析手法を理解すること。
(ホームゼミナールⅣ：3年秋)プレゼンテーション能力とチームに対する対応能力を高めること。
(ホームゼミナールⅤ：4年春)卒業レポートとしてまとめる「課題」についての理解を深めること。
(ホームゼミナールⅥ：4年秋)卒業レポート作成のための考察を通じて問題解決力を高め、レポートにまとめることを通じて文章伝達力を高めるコミュニケーション能力の向上を図る。

■講義形態

GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

(ホームゼミナールⅠ：2年春学期)

〈第1講〉～〈第15講〉

日商簿記検定2級(商業簿記)の問題演習及び3年生のゼミ発表の聴講

<予習、復習のポイント>

講義時間内で演習した問題について類似問題を解けるようになること

(ホームゼミナールⅡ：2年秋学期)

〈第1講〉～〈第15講〉

日商簿記検定2級(商業簿記・工業簿記)の問題演習及び3年生のゼミ発表の聴講

<予習、復習のポイント>

講義時間内で演習した問題について類似問題を解けるようになること

(ホームゼミナールⅢ：3年春学期)

〈第1講〉～〈第15講〉

財務諸表分析の基本書を精読する。担当者は、事前に指定された箇所を勉強し、レジュメをまとめたゼミ員の前で発表を行い、そこで勉強した論点について全員でディスカッションを行う。

<予習、復習のポイント>

財務会計の理論を理解すると共に、財務分析の考え方とその手法を理解すること。

(ホームゼミナールⅣ：3年秋学期)

〈第1講〉～〈第15講〉

3人程度のチームに分かれ、企業が公表している財務情報等に基づき3企業間比較を行い、各チームが分析したデータをプレゼンテーションし、「いい企業」とはどのような経営がされている企業なのかディスカッションを行う。この分析を、4週間を1サイクルにして、4回程度行う。

<予習、復習のポイント>

財務分析の結果を吟味し、相対的な比較からいい企業を選び出せるようになること。

(ホームゼミナールⅤ：4年春学期)

〈第1講〉～〈第15講〉

3年生までに学んだ会計理論、財務分析手法を前提に、各自がより深めて学びたいと思って選んだ課題について、調査・研究を行い、その中で発見したことを順次、ゼミ員の前でプレゼンテーションし、それに対する質疑を通じて、さらに研究を深めていく。

<予習、復習のポイント>

自らが選んだ課題についての理解を深めること。

(ホームゼミナールⅥ：4年秋学期)

〈第1講〉～〈第15講〉

春学期の調査・研究で得られた成果をレポートとしてまとめる。研究の成果については、順次、中間報告(プレゼンテーション)を行い、報告に対するディスカッションで得た意見を踏まえ、最終的に提出する卒業レポートをまとめる。

<予習、復習のポイント>

調査・研究で得られた知見を文章にまとめることを通じて問題解決力を高め、さらに第三者によりよく伝えることが出来る報告技術(コミュニケーション能力)を習得すること。

■教科書

- [1] 桜井久勝 『財務諸表分析』 中央経済社
 - [2] 桜井久勝 『財務会計講義』 中央経済社
 - [3] 野中郁次郎ほか 『流れを経営する』 東洋経済新報社
 - [4] 三富正博 『目的別7ステップ財務分析法』 税務経理協会
- その他、演習の各段階で指示する。

■指定図書

- [1] 兼重日奈子 『幸せな売場のつくり方』 商業界
- [2] ティビッド・メッキン 『財務マネジメントの基本と原則』 東洋経済新報社
- [3] 池田新介 『自滅する選択』 東洋経済新報社
- [4] 三宅秀道 『新しい市場のつくりかた』 東洋経済新報社
- [5] 田村耕太郎 『君は、こんなワクワクする世界を見ずに死ねるか！？』 マガジンハウス

■参考文献

演習の各段階で指示する。

■参考URL

<http://www.asb.or.jp/>

■評価方法

出席、課題、グループワーク、発表、研究報告書、ゼミ運営の貢献などにより総合的に評価する。

■評価基準

出席については、ゼミに参加し積極的に発言しているか。課題ないし発表、研究報告書については、問題内容を正しく理解して論理的な論証が出来るか。また、グループワークないしゼミ運営については、チーム員との協働の状況と、その成果である報告内容等を基準に評価する。

絶対評価

P：ゼミ活動の到達目標に概ね達している。

F：ゼミ活動への参加が不十分でゼミ活動の到達目標に達していない。

■事前履修科目等

ゼミの参加に際して、特定の科目の単位取得は条件とはしないが、「産業社会論入門Ⅱ(会計)」ないし「会計学基礎」が履修済みであることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- (1) 正当な理由なしにゼミ活動を欠席する者には単位を付与しない。
- (2) 本ゼミナール参加者は、原則として財務・会計領域の全ての科目を履修すること。

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕

担当教員 金 美徳

■講義目的

21世紀は、まさしくアジア・ユーラシアダイナミズム時代である。アジア経済は、巨大な市場規模や豊富な天然資源など潜在性が高いことから、世界経済を牽引する。世界経済に占めるアジア経済の割合は、現在の27%から2050年には52%になると予測されている。また、アジア域内では国境を超えた経済連携が深化する一方、欧米など世界各国がアジアシフトを強めている。

日本も、より一層アジアとの共存共栄を図るべく経済連携を推し進めるであろう。したがって今後、日本の企業やビジネスパーソンにとって、アジアの経済やビジネスの情報・知識・理論が必要不可欠となることは言うまでもない。

当ゼミでは、アジア情報を活用し、アジア市場の開拓、アジア戦略の策定、アジアの消費者や企業の誘致を行う所謂「アジア・グローバル人材」の育成を目指す。

運営方法は、「学生による文献調査＋レポート作成＋ゼミ報告＋ディスカッション」である。ただ、運営方法は学生のアイデアを積極的に取り入れる。

また、ビジネスパーソンや外国人研究者との交流、セミナー参加、企業・工場見学、海外視察などのフィールド調査を行う。寺島文庫塾アジアユーラシア研究会と連携し、ネットワーク化を図っている。2011年度実績は韓国視察(国会議事堂、韓国三井物産、朝鮮半島38度線)やビジネスパーソン・外国人研究者との交流、コリアンタウン視察(新大久保)。2012年度は、台湾視察(台湾三井物産、新竹サイエンスパーク、中華大学)、ビジネスパーソン・外国人研究者との交流、国際学生セミナー(20大学・54名が集い東アジアについて一泊二日で議論)、合宿(三浦半島で一泊二日)。

就職指導方針は、アジア進出を強化している日本企業(サービス業・製造業)や日本に進出しているアジア企業を推薦・紹介する。また、アジア専門家やグローバルビジネスパーソンを目指す学生に大学院への進学指導を行う。

■講義分野

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会力育成／グローバルビジネス／ビジネスICT／地域ビジネス

■到達目標

- ①2年時は、アジアの基礎的な知識・理論を習得し、アジア発の国際情報の収集・分析・発信力を身に付ける。
- ②3年時は、アジアの問題点・課題を発見し、経営戦略・ビジネスモデル・起業などを通じて解決策をまとめる。
- ③4年時は、地政学的知や新時代の国際感覚を養う。

■講義形態

GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

- ①2年時は、アジアティリーニュース(毎日、当番制)やアジア政治経済概況(ゼミ毎、当番制)の作成と発信・報告。2年時後半には、卒業論文のテーマを決定し、関連する文献や情報を収集する。
- ②3年時は、卒業論文の作成進捗状況を報告する。また、就

職や大学院進学などの進路指導を行う。

- ③4年時は、卒業論文を推敲し、完成させる。

■教科書

『韓国企業だけが知っている日本企業没落の真実-日本再浮上27核心-』(金美徳、中経出版、2013年)

『図解 韓国四大財閥早わかり』(金美徳、中経出版、2012年)

『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか-新興国ビジネス最前線-』(金美徳、PHP新書、2012年)

■指定図書

『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK出版、2012年)

『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP新書、2011年)

『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年)

■参考文献

随時、関連資料を配布する。

■評価方法

評価は、出席(35%)、報告およびディスカッション(35%)、学年毎のレポート(30%)により行う。

■評価基準

出席と報告およびディスカッションを重視(35%+35%=70%)する。

論文(30%)は、2年時はアジアティリーニュースとアジア政治経済概況、3時は卒業論文の作成、4年時は卒業論文の完成。卒業論文は、就職先企業・業界や進路・人生設計に合わせてアジア戦略をテーマに20頁以上を目安に作成する。

■事前履修科目等

当ゼミの履修にあたり世界潮流およびグローバルビジネス系統の科目を履修すること。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕

担当教員 清松 敏雄

■講義目的

本ゼミナールは、会計を中心とした知識をもとに、応用的課題に対して深い思考を巡らせることができる高い思考能力を身につけるとともに、自らの問題意識をもとに課題とその解決策を見出していく能力を育むことをその目的とするものである。

会計学の領域は多岐に渡り、財務会計・管理会計の領域だけでもさまざまな伝統的論点および現代的諸課題が存在している。また、ファイナンス理論・ミクロ経済学・組織論等とも接している。

本ゼミナールでは、伝統的な論点を習得していく中で、必要に応じて近接する領域の論点も織り交ぜ、表面的理解だけでなく本質的理解を得ることを目指していく。また、将来的に会計専門家等として就職していくことを考慮し、身につけた知識や理解した内容をアウトプットする能力を高めるべく、演習を行っていくことを予定している。

■講義分類

ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

さまざまな取引等について、会計的にどのように考え、そしてどのように処理するかを習得する。また、日商簿記検定3級および2級等の資格取得もひとつの目標とする。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

第1講～第15講すべてについて、ゼミ生との対話の中で内容を決定していくが、少なくとも、日商簿記検定3級の取得のための学習指導は行う。

■教科書

必要に応じて指示する。

■指定図書

必要に応じて指示する。

■参考文献

必要に応じて指示する。

■評価基準

絶対評価

出席については、ゼミに参加し積極的に発言しているか、課題ないし発表については、問題内容を正しく理解して論理的な論証が来ているか、また、グループワークないしゼミ運営については、チーム員との協働の状況と、その成果である報告内容等を基準に評価する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

なし

科 目 名 **ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕****担当教員** **小林 英夫****■講義目的**

本ゼミの目的は、ゼミ活動を通じゼミ生のキャリアの礎を築いていくことである。

本ゼミは「組織マネジメント」を対象領域とする。その中で、「組織行動」と「企業家精神」の2つの分野を基本の研究対象としているが、人が社会で生きていく限り様々な組織との繋がりは欠かせないものであり、何らかの創造的活動を行っている。従って研究テーマはゼミ生の関心に応じて幅広く設定することを可能とするが、設定したテーマに対しては真剣に取り組みことを要求する。

また、大学時代は人格形成においても人間関係形成においても非常に重要な時期である。ゼミはコミュニティとしての役割を果たすものであり、社会活動を学ぶ場としても位置付けられる。

大学生活、ゼミ活動、設定したテーマに対する取り組みを通じて、良き人生を送るための土台を築くことを本ゼミの狙いとする。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人育成／グローバルビジネス／ビジネスICT／地域ビジネス

■到達目標

- ・社会人としての仕事をしていく際に大切な常識と物事に対する真摯な取り組み姿勢を身に付ける。
- ・社会人として、課題を発見し問題解決を行っていくための方法、理論、科学を身に付ける。
- ・キャリア選択の判断基準ともなり、その選択肢を広げることにも役立つ知識を身に付ける。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

はじめにゼミ生の希望と教員の助言により、各自のゼミでの活動の目標と計画を立案する。以降はその目標に向けての知識の習得や実践的活動を行い、ゼミはその活動の実施と相互支援の場とする。

「組織行動」分野は、組織や社会の中で個人や集団がどのように行動するかを研究する。会社の立場から社員にどのように働いてもらい成果を上げてもらうか、個人がどうやって生きていくかを対象とする。前者は「リーダーシップ」と「モチベーション」が、後者では「キャリア・マネジメント」をキーワードとする。

「企業家精神」分野は、自ら会社を興すことやベンチャー企業に参画して急成長の担い手となることについて研究が中心であるが、それだけでなく、どのような組織におけるものであるかを問わず創造的なことを実現する行動について研究する。ゼミ活動においては、机上の空論や狭い世界での視野にとどまることの無いように、ビジネスの現場に触れることや学外での活動を行う機会を積極的に取り入れる。

■教科書

特になし。講義内で適宜指示する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

講義内で適宜紹介する。

■評価方法

出席(30%)、ゼミ活動への貢献(40%)、ゼミ発表(30%)

■評価基準

絶対評価

上記配点により、ゼミへの出席、ゼミ活動への積極的な取り組み姿勢と建設的な意見や質問によるゼミの品質向上への貢献、ゼミにおける発表内容の質を評価する。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名

ホームゼミナールⅠ～Ⅱ〔SeminarsⅠ～Ⅱ〕

担当教員

齋藤 S. 裕美

■講義目的

現代社会において、情報倫理にかかわる問題の解決は急務の課題となっている。企業の保有する様々なコンテンツや顧客データ、営業秘密など重要な情報を保護するために、かつてはウィルス対策や不正アクセス対策などIT部門によって技術的な対策がとられてきた。しかし、近年ではシステム障害や情報漏えいなどが企業活動の継続に大きな妨げとなる事件などが相次ぎ、企業が保有する様々な情報の保護は事業継続管理や内部統制など経営上の課題と捉えられるようになってきたといえる。さらに、情報公開の仕方や不祥事の際のメディア対応などによって企業イメージが大きく左右されることも多いため、このゼミでは、情報モラルやセキュリティ、メディアについて、知識の修得、問題意識の醸成と問題の発見・分析、問題解決方法の考察を行うことを通じて、各個人の知能的判断に基づいて内制規制・自己統制が行なえるようにすること、すなわち知能論に基づき判断能力を習得できること、情報社会に必要な倫理的態度とは何かを理解することを目標とする。また、ゼミを進めていく際に用いるグループディスカッションやブレインストーミング、KJ法、アンケート調査、資料調査、データ分析、レポート作成などを通して、社会に出て必要となる基礎的理論や考える手法、文筆力を身につけることも目標のひとつである。具体的に、1)著作権、2)プライバシー権、3)個人情報保護、4)情報モラル、5)メディアリテラシーなどの範囲を扱う。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

- ① 情報倫理の分野に関する知識の修得。
- ② 情報倫理の分野に関する問題意識の醸成、問題発見・分析、問題解決方法の考察。
- ③ グループディスカッションやブレインストーミング、KJ法、アンケート調査、資料調査、データ分析、論述ができる。

■講義形態

その他(ゼミ形式)〔学外学習有〕

■講義の概要

〈第1講〉ゼミの概要説明

ゼミで扱う分野や到達目標などゼミで学ぶことは何かを確認する。またゼミ生相互のコミュニケーションを図る。

<予習・復習のポイント>

テキスト(福井健策著「著作権とは何か—文化と創造のゆくえ」集英社刊)/変更の可能性あり)の「はじめに」を読んでくる。

〈第2講>～<第9講> 著作権とは何か

前半:テキストの各章を2に分割し、それぞれに報告者を割り当て、各講2名ずつ報告を行う(テキスト輪読)。

後半:各章の要約文作成と添削。論述文の書き方について理解する。

<予習・復習のポイント>

次回報告分の章を読んでくる。報告者はレジュメ作成。講義内で添削された要約文の手直しをし、完成させる。

〈第10講>～<第15講> 著作権に関する意識調査

著作権に関する意識をテーマに、グループで調査を行うための準備を行う。質問紙の作り方として、質問文の作成、回答の方法とそれぞれの相違点、選択式の場合の選択肢の配列とそれぞれの相違点などを理解する。また、データ分析として、表の種類とグラフの種類、それらの使いなどを理解する。

<予習・復習のポイント>

前期中にアンケート調査を終えるよう質問紙の準備を行う。アンケート収集。表やグラフの作成。

<夏季合宿> 調査結果の中間報告

〈第16講〉 調査結果報告会、レポートの書き方

調査結果の報告を行う。

また、レポートの書き方について理解し、調査結果からレポート作成を行う。

<予習・復習のポイント>

レポート作成。

〈第17講>～<第18講〉 レポート作成

各自のレポートを相互に添削し、わかりやすい論述文とはどのようなものかを理解する。

<予習・復習のポイント>

レポートの手直し。

〈第19講>～<第26講〉 プライバシーと個人情報の保護

前半:テキスト(仲正昌樹著『「プライバシー」の哲学』ソフトバンク刊/変更の可能性あり)の各章を2～3に分割し、それぞれに報告者を割り当て、各講2名ずつ報告を行う(テキスト輪読)。

後半:各章のポイントの図解作成と添削。図解の方法について理解する。

<予習・復習のポイント>

次回報告分の章を読んでくる。報告者はレジュメ作成。講義内で添削された図解の手直しをし、完成させる。

〈第27講>～<第30講〉 個人情報流出経路と図解

個人情報流出事故を題材に、データ分析のための図解を行う。流出経路や流出データの種類、流出元などを整理・分析するための方法として図解の活用を理解する。

■教科書

授業内で指示する。

■指定図書

和田英夫・他著 『情報の法と倫理』

北樹出版

佐伯胖・他編 『岩波講座 現代の教育8 情報とメディア』

岩波書店

山下栄・他著 『新版 情報化社会と人権』

明石書店

松浦康彦著 『デジタル世紀のプライバシー・著作権』

日本評論社

サラ・バース著 『IT社会の法と倫理 第2版』

ピアソン・エデュケーション

越智貢・水谷雅彦・土屋俊著 『情報倫理学-電子ネットワーク社会のエチカ』 ナカニシヤ出版

■参考文献

辰巳丈夫著 『情報がひろく新しい世界3 情報化社会と情報倫理』 立出版 情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ編 『インターネットの光と影』 北大路書房

■評価方法

期末レポート50%、期中のレポートや課題、発表50%に出席状況などを加味して総合的に評価する。

■評価基準

絶対評価

・演習に積極的に参加し、意欲的に学んでいるか

・課題、レポートの内容および記述方法

P:上記評価方法で評価点60点以上

F:上記評価方法で評価点60点未満

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

特になし。

科目名 ホームゼミナールⅢ～Ⅳ〔SeminarsⅢ～Ⅳ〕

担当教員 齋藤 S. 裕美

■講義目的

現代社会において、情報倫理にかかわる問題の解決は急務の課題となっている。

企業の保有する様々なコンテンツや顧客データ、営業秘密など重要な情報を保護するために、かつてはウィルス対策や不正アクセス対策などIT部門によって技術的な対策がとられてきた。しかし、近年ではシステム障害や情報漏えいなどが企業活動の継続に大きな妨げとなる事件などが相次ぎ、企業が保有する様々な情報の保護は事業継続管理や内部統制など経営上の課題と捉えられるようになってきたといえる。さらに、情報公開の仕方や不祥事の際のメディア対応などによって企業イメージが大きく左右されることなどもある。

このゼミでは、情報モラルやセキュリティ、メディアについて、知識の修得、問題意識の醸成と問題の発見・分析、問題解決方法の考察を行うことを通じて、各個人の知的な判断に基づいて内的規制・自己統制が行なえるようにすること、すなわち知的論理に基づく判断能力を習得できること、情報社会で必要な倫理的態度とは何かを理解することを目標とする。

また、ゼミを進めていく際に用いるグループディスカッションやブレインストーミング、KJ法、アンケート調査、資料調査、データ分析、レポート作成などを通じて、社会に出て必要となる基礎的理論や考える手法、文章力を身につけることも目標のひとつである。

具体的には、1)著作権、2)プライバシー権、3)個人情報保護、4)情報モラル、5)メディアリテラシーなどの範囲を扱う。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

- ① 情報倫理の分野に関する知識の修得。
- ② 情報倫理の分野に関する問題意識の醸成、問題発見・分析、問題解決方法の考察。
- ③ グループディスカッションやブレインストーミング、KJ法、アンケート調査、資料調査、データ分析、論述ができる。

■講義形態

その他(ゼミ形式)[学外学習有]

■講義の概要

〈第1講〉ゼミの概要説明

ゼミで扱う分野や到達目標などを確認する。

<予習・復習のポイント>

特になし。

〈第2講>～<第9講〉メディア・リテラシー

前半：テキスト(井上泰浩著『メディア・リテラシー—媒体と情報の構造学』日本評論社刊/変更の可能性あり)の各章を2～4に分割し、それぞれに報告者を割り当て、各講2名ずつ報告を行う(テキスト輪読)。

後半：各章の要約文作成と添削。論述文の書き方について理解する。

<予習・復習のポイント>

次回報告分の章を読んでくる。報告者はレジュメ作成。講義内で添削された要約文の手直しをし、完成させる。

〈第10講>～<第14講〉メディア・リテラシーに関する調査
メディア・リテラシー、リサーチ・リテラシーに関する題材をひとつ選び、その題材における情報の偏向、その要因、より正確な捉え方とその根拠などをグループで調査し、報告を

行うための準備を行う。

<予習・復習のポイント>

データ収集。表やグラフ、図の作成。

〈第15講〉調査結果の報告

調査結果の報告を行う。

<予習・復習のポイント>

レポート作成。

<夏季合宿> 内容未定。

〈第16講〉後期の概要説明

卒業論文の研究テーマについて、テーマ設定の仕方(テーマの絞り方)などについて理解する。

<予習・復習のポイント>

特になし。

〈第17講>～<第30講〉研究テーマに関連する報告

各回1名ずつ各自の研究テーマに関して調査・研究した内容の報告を兼ねた模擬講義を行う。

<予習・復習のポイント>

報告者は講義資料(レジュメ)作成。

■教科書

授業内で指示する。

■指定図書

和田英夫・他著 『情報の法と倫理』

北樹出版

佐伯胖・他編 『岩波講座 現代の教育8 情報とメディア』

岩波書店

山下栄・他著 『新版 情報化社会と人権』

明石書店

松浦康彦著 『デジタル世紀のプライバシー・著作権』

日本評論社

サラ・バース著 『IT社会の法と倫理 第2版』

ピアソン・エデュケーション

越智貢・水谷雅彦・土屋俊著 『情報倫理学-電子ネットワーク社会のエチカ』 ナカニシヤ出版

■参考文献

辰巳丈夫著 『情報がひらく新しい世界3 情報化社会と情報倫理』 共立出版

情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ編 『インターネットの光と影』 北大路書房

■評価方法

期末レポート50%、期中のレポートや課題、発表50%に出席状況などを加味して総合的に評価する。

■評価基準

絶対評価

・演習に積極的に参加し、意欲的に学んでいるか

・課題、レポートの内容および記述方法

P：上記評価方法で評価点60点以上

F：上記評価方法で評価点60点未満

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

特になし。

科目名 ホームゼミナールV～VI〔Seminars V～VI〕

担当教員 齋藤 S. 裕美

■講義目的

現代社会において、情報倫理にかかわる問題の解決は急務の課題となっている。

企業の保有する様々なコンテンツや顧客データ、営業秘密など重要な情報を保護するために、かつてはウィルス対策や不正アクセス対策などIT部門によって技術的な対策がとられてきた。しかし、近年ではシステム障害や情報漏えいなどが企業活動の継続に大きな妨げとなる事件などが相次ぎ、企業が保有する様々な情報の保護は事業継続管理や内部統制など経営上の課題と捉えられるようになってきたといえる。さらに、情報公開の仕方や不祥事の際のメディア対応などによって企業イメージが大きく左右されることなどもある。

このゼミでは、情報モラルやセキュリティ、メディアについて、知識の修得、問題意識の醸成と問題の発見・分析、問題解決方法の考察を行うことを通じて、各個人の知的な判断に基づいて内的規制・自己統制が行なえるようにすること、すなわち知的論理に基づく判断能力を習得できること、情報社会で必要な倫理的態度とは何かを理解することを目標とする。また、ゼミを進めていく際に用いるグループディスカッションやブレインストーミング、KJ法、アンケート調査、資料調査、データ分析、レポート作成などを通じて、社会に出て必要となる基礎的理論や考える手法、文章力を身につけることも目標のひとつである。

具体的には、1)著作権、2)プライバシー権、3)個人情報保護、4)情報モラル、5)メディアリテラシーなどの範囲を扱う。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人育成／ビジネスICT

■到達目標

- ① 情報倫理の分野に関する知識の修得。
- ② 情報倫理の分野に関する問題意識の醸成、問題発見・分析、問題解決方法の考察。
- ③ グループディスカッションやブレインストーミング、KJ法、アンケート調査、資料調査、データ分析、論述ができる。

■講義形態

その他(ゼミ形式)[学外学習有]

■講義の概要

<第1講>～<第30講>

卒業研究の進捗状況の報告、卒業論文執筆の進捗状況の報告、卒業論文の添削など、各講2～3名の発表を中心に各自の研究と論文の指導を行う。

<予習・復習のポイント>

発表者は、進捗状況報告書、研究に関連する成果物、卒業論文等、卒業研究の進捗に応じた成果物を準備すること。

■教科書

授業内で指示する。

■指定図書

和田英夫・他著 『情報の法と倫理』

北樹出版

佐伯胖・他編 『岩波講座 現代の教育8 情報とメディア』

岩波書店

山下栄・他著 『新版 情報化社会と人権』

明石書店

松浦康彦著 『デジタル世紀のプライバシー・著作権』

日本評論社

サラ・バース著 『IT社会の法と倫理 第2版』

ピアソン・エデュケーション

越智貢・水谷雅彦・土屋俊著 『情報倫理学-電子ネットワーク社会のエチカ』 ナカニシヤ出版

■参考文献

辰巳丈夫著 『情報がひらく新しい世界3 情報化社会と情報倫理』 共立出版

情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ編 『インターネットの光と影』 北大路書房

■評価方法

卒業論文の中間報告100%に出席状況などを加味して総合的に評価する。

■評価基準

絶対評価

・演習に積極的に参加し、意欲的に学んでいるか

・課題、レポートの内容および記述方法

P：上記評価方法で評価点60点以上

F：上記評価方法で評価点60点未満

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

特になし。

科 目 名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕**担当教員** 彩藤 ひろみ**■講義目的**

マルチメディアのコンテンツクリエイターとして、PCを利用した様々なコンテンツを作りつつ、それを地域に還元するための方策を考え実施する。主に3DCG(3次元コンピュータグラフィックス)を中心にスキルを身につける。その上で、コミックやムービー、イラスト、WEB、ゲームアプリへの応用も見据える。

フランスの3DCG専門大学ESCMにて学ぶチャンスがあるので、英語および3DCGを徹底的に身につけてほしい。卒業後のイメージは、イベント企画者、プロジェクト管理者、ゲームクリエイター、イラストレーター、アニメーター、システムエンジニア、ネットワーク管理者、プログラマー、Webデザイナー等である。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネス創造 / 社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

社会人としてのマナーと礼儀の習得。

3DCG技術の習得とその応用としての地域活性化への適用が企画できること。

世界を相手に勝負しているという気概をもって活動すること。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

Blender,Unity3Dの利用と応用。地域プロジェクト応用への企画。

■教科書

必要に応じて指示する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

必要に応じて指示する。

■参考URL

<http://cat.tama.ac.jp/>

■評価方法

学期ごとに2回の発表会があり、そこでの作品発表を重視する。

普段からのゼミ参加は必須で、無断欠席は許可しない。

ホームゼミナールⅥについては卒業論文または卒業設計を提出しないものは不可とする。

■評価基準

絶対評価

P：目標に沿って、よく努力したかどうか

F：

■事前履修科目等

マルチメディア実践 の履修が望ましい(条件ではない)。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・履修希望人数が多い場合には面接の上、適当な評価基準を設けて選抜することもある。

・普段から積極的にパソコンに親しみ、表現することが好き

な人。使う楽しみを知っている人を求める。

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕

担当教員 酒井 麻衣子

■講義目的

本ゼミナールは、マーケティング・データ分析(リサーチ、データマイニング、統計)および知的プロフェッショナルスキル(ロジカルシンキング、コミュニケーション、ドキュメンテーション、プレゼンテーション)を身に付け、ビジネスの現場でデータに基づいた判断・企画・実践ができる人材を育てることを目的とする。

IT(情報技術)の発展により、大量のデータを蓄積し分析できるようになったため、企業活動の現場には多くのデータが溢れている。これからの企業人には、そのデータから価値ある情報を読み取り、活用する能力が必須となる。特に企業のマーケティング活動においてはさまざまなデータが取得され、活用されるようになっていく。みずから正しくデータを取り扱い、膨大なデータの背後に秘められた関係性を明らかにし、データに基づいた意思決定ができるようになることは、企業人として大きな武器となるだろう。

本ゼミナールにおける3年間で、データ・ハンドリング能力と基本的なビジネス・スキルを有した、社会に出て即戦力となる人材を目指してもらいたい。

本ゼミナールでは年に1つないし2つ、企業との共同研究プロジェクトを立ち上げる。グループワークにより、その企業の持つ実際の課題解決に取り組むことを基本とする。

■到達目標

マーケティング・データ分析(リサーチ、データマイニング、統計)および知的プロフェッショナルスキル(ロジカルシンキング、コミュニケーション、ドキュメンテーション、プレゼンテーション)を身に付け、ビジネスの現場でデータに基づいた判断・企画・実践ができる人材を目指す。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

3年間を通して、以下のような内容を予定している。

・基礎知識の習得

…統計、多変量解析、リサーチ、データマイニング、マーケティングの基礎を、関連講義と連携しながら学ぶ。

・基本的なビジネス・スキルの習得

…ゼミ活動において、頻繁にディスカッション、ドキュメント作成、プレゼンテーション等を行い、日常的な指導を通して、社会人としての基本的なマナーやビジネス・スキル(知的プロフェッショナル・スキル)を身につける。

・ビジネスの理解(企業活動におけるマーケティング・データ分析活用の実践について理解を深める)

…企業との共同研究、社会人向けセミナー参加、ビジネスインターンなど。

・マーケティング・データ分析の実践(統計解析ツール・データマイニングツールの操作方法を習得し、実際の企業の課題解決を目的として実践する)

…統計解析ツール・データマイニングツール(IBM SPSS Statistics、IBM SPSS Modelerなど)の習得。データ分析・リサーチの実習、企業との共同研究による実践など。

各年次での中心内容と目標は以下のとおりである。適宜グループワークを想定している。

・2年次:基礎知識の習得を中心に行う。

<目標>基礎的なデータ分析を確実に行えるようになる。

リサーチの一連の流れを身につける。

ビジネスにおけるマーケティング・データ分析の実践について自分なりのイメージをつかめるようになる。

・3年次:ビジネスの理解を深め、より高度なマーケティング・データ分析の実践経験を積む。

<目標>ビジネスにおけるマーケティング・データ分析の応用について、より具体的な発想をもてるようになる。

2年次に習得した基礎知識を背景に、より実践的なリサーチ・データ分析を行えるようになる。

・4年次:下級生の指導を通し、2年間で学んだ知識・経験をより確実に定着させる。

<目標>あらゆる課題・データに対して、ビジネスでの活用を視野に入れた創造的なマーケティング・データ分析を実践できるようになる。

■教科書

ゼミナール中に適宜指示する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

適宜指示する。

■参考URL

<http://faculty.tama.ac.jp/maiko/index.html>

■評価方法

出席50%、課題や発表50%程度の割合で、総合的に評価する。

■評価基準

・ゼミ活動に積極的・自主的に参加し、意欲的な態度で臨んでいるか

・各年次に定めた目標水準に達しているか

・創意工夫を試み、創造的な発想ができるか

・社会人として必要なマナーなど基本的なビジネス・スキルを身に付けているか など

■留意点

・次の関連講義を必ず受講すること。

「統計」「リサーチ入門」「マーケティング・データ分析Ⅰ・Ⅱ」

「マーケティング・リサーチ」「マーケティング・モデリング」

「文章伝達入門」「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」

・合同ゼミ「アンケート調査実践」「データマイニング実践」を必ず受講すること。

・プロジェクトゼミナール「実践 知的プロフェッショナルゼミナール」は3年生時までの受講を強く推奨する。

科目名 ホームゼミナールⅠ(SeminarsⅠ)

担当教員 榎木 哲太郎

■講義目的

経済的豊かさを実現した日本では、「(環境・福祉・教育を重要な要素とする)社会」や「文化」の重要性が高まっている。本演習では、社会経済政策、近現代史の視点から現代の経済・社会を分析し、直面する諸課題の解決に向けての方途を模索する。日本経済(社会)、社会経済政策、政治、社会経済システム、歴史、社会経済思想、国際関係、市民活動NPO等を主たる分析対象とし、各自その範囲内でテーマを設定して卒業論文の作成に取り組む。方法論としてはテキストの輪読、報告・討論の形式を中心とするが、できれば学外調査も行いたい。「文献とフィールドワーク」(寺島学長)であり、まず沢山の本を読み込んで頂く。進展とともに卒論に向けた報告を織り交ぜ、各自の構想を肉付けして「作品」へと高めていく。毎週のゼミでは、経済、産業・企業分析、時事・政治問題を中心として、プレゼンテーションと討論を通じたコミュニケーション能力の向上に主眼を置き、小レポートの添削により文章表現力強化を図る。ゼミ生の数が増えれば、年度末に議論・調査の成果を小論文集にまとめて発刊したい。以上を通じて、経営にとっての外部環境たる社会経済変動に対する洞察力と、問題解決のための提言能力を養う。学生と教員の対話を重視し、(就職面接でも物怖じしないだけの)社会人と十分議論できるプレゼンテーション・コミュニケーション能力、さらに実社会を生き抜くための知的構想力を磨きたい。

■講義分類

ビジネス環境理解／ 社会人育成／ グローバルビジネス

■到達目標

社会的企業やNGO・NPO、行政機関への就職、政治家等の進路を視野に、社会経済政策、近現代史等に精通し、経済学をはじめとした社会科学諸学を用いて現代社会・経済を根源的に分析し、よりよい未来の創造に向けた総体的な政策提言を行うことのできるソシオ・エコノミストの眼を身に付ける。

■講義形態

講義＋GD＋GW＋PR[学外学習無]

■講義の概要

〈第1講〉年間計画を立てる 社会研究の方法論について
「実際性」の真の意味を理解する
〈第2講〉現代の社会経済問題を掘り上げる
〈第3講〉近現代史と現代社会概説
〈第4講〉経済学理論の復習と隣接諸学の概説
〈第5講〉現代の社会経済問題(1)
〈第6講〉調査・文献利用の方法論の習得
〈第7講〉現代の社会経済問題(2)
〈第8講〉現代の社会経済問題(3)
〈第9講〉構想の発表と討論
〈第10講〉報告に向けた調査(1)
〈第11講〉報告に向けた調査(2)
〈第12講〉プレゼンテーションと討論(1)
〈第13講〉プレゼンテーションと討論(2)
〈第14講〉論文・レポート指導(1)
〈第15講〉論文・レポート指導(2)
尚、ゼミ生自らの設定した研究テーマに沿った展開となることが想定される。2013年度は日本近現代史、日本経済論、ス

スポーツと社会、多摩地域研究等を検討している。

■教科書

開講時に紹介する。

■指定図書

演習単独では特に挙げないが、私の担当科目の指定図書・推薦図書は読んでほしい。

■参考文献

演習の中で随時紹介する。

■評価方法

平常点を中心に総合的に評価する。報告の内容、討論への参加に加えて、4年生は卒業論文、2・3年生には進級レポートの作成に取り組んで戴く。まずは楽しく出席することが重要である。

■評価基準

- (1)積極的に演習に参加し、発言を行い、協力して共同作業や学外調査(グループワーク)に取り組んだか。
- (2)報告に際して十分に準備し、自分の言葉で説得力ある問題提起を行い、議論を深めることができたか。
- (3)文献を十分に読み込み、理解し、そこから有益な論点を導き出すことができたか。
- (4)学生生活の結晶とも言える「作品」としての進級レポート、卒業論文の制作に取り組んだか。

■事前履修科目等

参加希望者は、1年春学期に「産業社会論入門(経済学入門)」の単位を取得済みで、合計20単位を取得していること。また、2年秋学期に「近現代史：世界と日本」を履修することが望ましい。

■留意点

入ゼミ志願者には面接を行った上で参加を認めるので、揭示に注意すること。面接の際には、卒論を視野に入れ、「何を掘り下げてみたいか」について語っていただきたい。
参加希望者は、1年春学期に「産業社会論入門(経済学入門)」の単位を取得済みで、合計20単位以上取得していること。または2年秋学期に「近現代史：世界と日本」を履修することが望ましい。ゼミは連帯意識に基づいた共同作業の場でもある。「上昇志向の強すぎる野心家」よりも、「謙虚な気持ちで明るく堅実に勉強する人、協調性のある人」を期待する。「本(専門書)を読むのが嫌いな人」、「議論に参加しようとしていない人」、「学問を単なる金儲けの手段と考えている人」には不向きであることは間違いない。知的探求心旺盛な諸君の参加を願っている。

科目名 ホームゼミナールⅡ～Ⅵ〔Seminars Ⅱ～Ⅵ〕

担当教員 椎木 哲太郎

■講義目的

経済的豊かさを実現した日本では、「(環境・福祉・教育を重要な要素とする)社会」や「文化」の重要性が高まっている。本演習では、社会経済政策、近現代史の視点から現代の経済・社会を分析し、直面する諸課題の解決に向けての方途を模索する。日本経済(社会)、社会経済政策、政治、社会経済システム、歴史、社会経済思想、国際関係、市民活動NPO等を主たる分析対象とし、各自その範囲内でテーマを設定して卒業論文の作成に取り組む。方法論としてはテキストの輪読、報告・討論の形式を中心とするが、できれば学外調査も行いたい。「文献とフィールドワーク」(寺島学長)であり、まず沢山の本を読み込んで頂く。進展とともに卒論に向けた報告を織り交ぜ、各自の構想を肉付けして「作品」へと高めていく。毎週のゼミでは、経済、産業・企業分析、時事・政治問題を中心として、プレゼンテーションと討論を通じたコミュニケーション能力の向上に主眼を置き、小レポートの添削により文章表現力強化を図る。ゼミ生の数が増えれば、年度末に議論・調査の成果を小論文集にまとめて発刊したい。以上を通じて、経営にとっての外部環境たる社会経済変動に対する洞察力と、問題解決のための提言能力を養う。学生と教員の対話を重視し、(就職面接でも物怖じしないだけの)社会人と十分議論できるプレゼンテーション・コミュニケーション能力、さらに実社会を生き抜くための知的構想力を磨きたい。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成

■到達目標

社会的企業やNGO・NPO、行政機関への就職、政治家等の進路を視野に、社会経済政策、近現代史等に精通し、経済学をはじめとした社会科学諸学を用いて現代社会・経済を根源的に分析し、よりよい未来の創造に向けた総体的な政策提言を行うことのできるソシオ・エコノミストの眼を身に付ける。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

- 〈第1講〉年間計画を立てる
- 〈第2講〉現代の社会経済問題を掘り上げる
- 〈第3講〉近現代史と現代社会
- 〈第4講〉経済学理論の復習
- 〈第5講〉現代の社会経済問題(1)
- 〈第6講〉現代の社会経済問題(2)
- 〈第7講〉現代の社会経済問題(3)
- 〈第8講〉構想の発表と討論
- 〈第9講〉報告に向けた調査(1)
- 〈第10講〉報告に向けた調査(2)
- 〈第11講〉報告に向けた調査(3)
- 〈第12講〉プレゼンテーションと討論(1)
- 〈第13講〉プレゼンテーションと討論(2)
- 〈第14講〉論文・レポート指導(1)
- 〈第15講〉論文・レポート指導(2)

■教科書

開講時に紹介する。

■指定図書

演習単独では特に挙げないが、私の担当科目の指定図書・推薦図書は読んでほしい。

■参考文献

演習の中で随時紹介する。

■評価方法

平常点を中心に総合的に評価する。報告の内容、討論への参加に加えて、4年生は卒業論文、2・3年生には進級レポートの作成に取り組んで載く。まずは楽しく出席することが重要である。

■評価基準

- (1)積極的に演習に参加し、発言を行い、協力して共同作業や学外調査(グループワーク)に取り組んだか。
- (2)報告に際して十分に準備し、自分の言葉で説得力ある問題提起を行い、議論を深めることができたか。
- (3)文献を十分に読み込み、理解し、そこから有益な論点を導き出すことができたか。
- (4)学生生活の結晶とも言える「作品」としての進級レポート、卒業論文の制作に取り組んだか。

■事前履修科目等

参加希望者は、1年春学期に「産業社会入門(経済学)」の単位を取得済みであること。また、2年秋学期に「近現代史」を履修することが望ましい。

■留意点

入ゼミ志願者には面接を行った上で参加を認めるので、掲示に注意すること。面接の際には、卒論を視野に入れ、「何を掘り下げてみたいか」について語っていただきたい。参加希望者は、1年春学期に「産業社会入門(経済学)」の単位を取得済みであること。または2年秋学期に「近現代史」を履修することが望ましい。ゼミは連帯意識に基づいた共同作業の場でもある。「上昇志向の強すぎる野心家」よりも、「謙虚な気持ちで明るく堅実に勉強する人、協調性のある人」を期待する。「本(専門書)を読むのが嫌いな人」、「議論に参加しようとなない人」、「学問を単なる金儲けの手段と考えている人」には不向きであることは間違いない。知的探求心旺盛な諸君の参加を願っている。

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅱ〔SeminarsⅠ～Ⅱ〕

担当教員 志賀 敏宏

■講義目的

志を実現し、幸せに生きる人間となる。意欲、知識、能力、体験のバランスに基づいて、志を実現する人間となる。21世紀半ばに向けてそれを可能とするキャリアを築くために、「イノベーション-価値ある革新」を理解し、それに参画する素養、意欲を身につける。社会に必要とされつつも、社会に飲み込まれない「志」の高い人間となる。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

産業社会を深く理解し、環境とその変化を機会と捉え、機会を活かしたイノベーションを通じて社会の幸福を増す人材となる準備をすること。あらためて、自分、社会、幸福とは何かを考えていくことが必要となる。その上で、環境を含め、幸福を創造しうる人材となることを究極の目標とする。粘り強く考える、工夫する人材、活動的な人材と目されるようになることである。

■講義形態

- ・講義 + GD・GW・PR
- ・その他(ゲストスピーカーの講演)〔学外学習有〕

■講義の概要

Ⅰ～Ⅵ(2～4年次)を通じて、ゼミ活動の柱は3本です。

- ①学び：今という時代(産業社会)、イノベーションに関する学び
 - ②能力育成：問題発見力、問題解決力、コミュニケーション力等の強化
 - ③実践：最前線事例の現場での行動体験(フィールドワーク)による教訓の獲得
- これらは、当然に社会人基礎力の中核ともなり、皆さんのキャリア開発に繋がります。以下に①～③に関し、各年次での実施予定を記します。

【2年次(Ⅰ、Ⅱ)】

- ①学び：産業社会及びポスト産業資本主義の理解、典型的なイノベーション事例、イノベーション入門に関する図書の輪読。
- ②能力育成：オフィシャルなメール、議事録、レポート作成等の実践。問題発見、問題解決のための時系列/因果思考、図解思考、ロジカルシンキング、ティベート(討論)、フィンランドメソッド等。
- ③実践：サービス・商業、食(農業含)、工業・研究開発等に関する最前線事例の見学と最前線事例での本格実践(3年次以降)のテーマ探索・決定。

【3年次(Ⅲ、Ⅳ)】

- ①学び：イノベーション理論、複雑なイノベーション事例に関する図書の輪読。
 - ②能力育成：論文作成、ロールプレイング、就活文書作成・面談能力育成等。
 - ③実践：企画、実働支援、マーケティング・プロモーション等に関する最前線事例での本格実践活動開始・遂行。
- ※秋学期後半から就活が並行することを前提に、極力春学期～夏休みに高密度に活動。

【4年次(Ⅴ、Ⅵ)】

- ①学び：以上の学びを踏まえた、各自の産業社会と時代環境に関する認識、及びイノベーション論の構築。
- ②能力育成：問題解決のための理解力、思考力、表現力の集大成、プレゼンテーション。
- ③実践：最前線事例での本格実践の継続、その集大成としての活動記録作成(方法は、HP/blog/SNSのページ/プロモーション資料/パンフレット冊子/卒論等から選択)。

■教科書

- ①学びに関して
志賀敏宏(2001)『イノベーションの創発マネジメント研究』, 文真道
- ②能力育成に関して
久恒啓一(2012)『図で考える技術が身につくトレーニング

30』, U-CAN

- ③実践に関して
特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

- ①学びに関して
岩井克人(2009)『会社はこれからどうなるのか』, 平凡社
一橋大学イノベーション研究センター(2001)『イノベーションマネジメント入門』, 日本経済新聞社
P.F.ドラッカー(2007)『イノベーションと企業家精神』, ダイアモンド社
- ②能力育成に関して
上大同メ、池谷裕二(2008)『のうだまーやる気の秘密』, 幻冬舎
メルヴィ・バラレ他(2007)『フィンランド国語教科書 小学5年生』, 経済界
渡邊健介(2007)『世界一やさしい問題解決の授業』, ダイアモンド社
- ③実践に関して
特になし

■評価方法

出席(概ね40%)：無断欠席(事後連絡もなし)、あるいは出席率8割以下(就活による欠席[連絡必須]を除く)の場合は、出席率は0となる可能性があります。
参画態度(概ね60%)：常に目的意識、問題意識を持っていること、あるいは持とうと模索すること。結果につながらない場合でも工夫・努力、試行錯誤すること。
具体的には、輪読及びその準備、グループワーク・グループディスカッション・フィールドワークへの参画(参加ではない)、レポート・議事録の作成等に関する状況を評価します。
さらに、下記留意点(ii)に示す、リーダーシップを発揮することも必要です。なお、学外のアidataコンテストに参加する等、学外への積極的活動も高く評価します。
心配は無用、ひとむきさど工夫は必要。

■評価基準

絶対評価

P：上記の出席と参画態度が十分である
F：上記の出席と参画態度が不十分である(この可能性がある場合は、学期半ばに本人メールアドレス宛に連絡します。単位取得を望む場合には、対応のこと)
※「十分」とは、卒業時に到達目標に達するように工夫・努力・成長していること。

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- フィールドワーク等のため、講義時間以外にも活動時間が必要となります。
- (ii) ①～③とも、指示、与えられたことを「こなす」ゼミではありません。何をするかを決める、それはなぜか(目的)をはっきりさせる、そこにもセミの重要な意義があります。そのために志賀を活用する、という考え方でいて下さい。活用の価値がなければ私はクビです。
- (iii) グループ、チームでの活動の仕方を身につけることも重要な狙いです。気は使っても、遠慮することなく、意見を出し合って、ものごとを決めて下さい。そのために、交代で司会を務める等、お互いにリーダーシップを発揮して下さい。

科目名

ホームゼミナールⅠ・Ⅲ・Ⅴ〔SeminarsⅠ・Ⅲ・Ⅴ〕

担当教員

下井 直毅

■講義目的

この講義では、産業社会における基礎的な政治経済について学ぶ。その際、時事的な経済問題を取りあげ、経済学的に捉えて理解することをめざす。この演習を通じて、経済の表面的な動きに惑わされることなく、変化の本質を見る目が育ち、物事を考える力がついて問題解決ができるようになることをめざす。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人育成／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

経済学的なものの考え方の修得をめざす。
word、excel（マクロ関数を含めて）等のソフトを活用できるようになることをめざす。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR
GD: グループディスカッション
GW: グループワーク
PR: プレゼンテーション〔学外学習有〕

■講義の概要

・この演習を通じて、経済の表面的な動きに惑わされることなく、変化の本質を見る目が育ち、物事を考える力がついて問題解決ができるようになることをめざす。

・取り上げるテーマ

①日本経済

②世界経済

〈第1講〉

概要：日本経済の歩み (I)

〈第2講〉

概要：日本経済の歩み (II)

〈第3講〉

概要：日本経済の成長 (I)

〈第4講〉

概要：日本経済の成長 (II)

〈第5講〉

概要：日本の経済政策 (I)

〈第6講〉

概要：日本の経済政策 (II)

〈第7講〉

概要：世界経済の歩み (I)

〈第8講〉

概要：世界経済の歩み (II)

〈第9講〉

概要：世界経済の成長 (I)

〈第10講〉

概要：世界経済の成長 (II)

〈第11講〉

概要：演習（「考える力」をつける）(I)

〈第12講〉

概要：演習（「考える力」をつける）(II)

〈第13講〉

概要：演習（発表）(I)

〈第14講〉

概要：演習（発表）(II)

〈第15講〉

概要：総括

■教科書

講義中に紹介する

■指定図書

講義中に紹介する

■参考文献

講義中に紹介する

■評価方法

ゼミへの出席

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科 目 名

ホームゼミナールⅡ・Ⅳ・Ⅵ〔Seminars Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ〕

担当教員

下井 直毅

■講義目的

この講義では、産業社会における基礎的な政治経済について学ぶ。その際、時事的な経済問題を取りあげ、経済学的に捉えて理解することをめざす。この演習を通じて、経済の表面的な動きに惑わされることなく、変化の本質を見る目が育ち、物事を考える力がついて問題解決能力を身につけることをめざす。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

経済学的なものの考え方の修得をめざす。
word、excel（マクロ関数を含めて）等のソフトを活用できるようになることをめざす。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR
GD: グループディスカッション
GW: グループワーク
PR: プレゼンテーション〔学外学習有〕

■講義の概要

・この演習を通じて、経済の表面的な動きに惑わされることなく、変化の本質を見る目が育ち、物事を考える力がついて問題解決ができるようになることをめざす。

・取り上げるテーマ

①日本経済

②世界経済

〈第1講〉

概要：日本経済の歩み (I)

〈第2講〉

概要：日本経済の歩み (II)

〈第3講〉

概要：日本経済の成長 (I)

〈第4講〉

概要：日本経済の成長 (II)

〈第5講〉

概要：日本の経済政策 (I)

〈第6講〉

概要：日本の経済政策 (II)

〈第7講〉

概要：世界経済の歩み (I)

〈第8講〉

概要：世界経済の歩み (II)

〈第9講〉

概要：世界経済の成長 (I)

〈第10講〉

概要：世界経済の成長 (II)

〈第11講〉

概要：演習（「考える力」をつける）(I)

〈第12講〉

概要：演習（「考える力」をつける）(II)

〈第13講〉

概要：演習（発表）(I)

〈第14講〉

概要：演習（発表）(II)

〈第15講〉

概要：総括

■教科書

講義中に紹介する

■指定図書

講義中に紹介する

■参考文献

講義中に紹介する

■評価方法

ゼミへの出席

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕

担当教員 杉田 文章

■講義目的

この演習の目的として、2つのことをかけたい。

第1は、レジャーやスポーツ分野の職業を志望する学生を前提に、これらの分野で提供される製品(財やサービス)のうちの何を大切にすべきか、またそのためには、レジャー産業に関わるためにはどのような能力や知識が必要かについての全体的認識を育ててもらうことである。

第2は、レジャー産業分野における経営を一つの社会現象と捉え、経済現象の一つのケーススタディとして、学習していくことである。

これらの目的を達成するために、以下のような方法、内容によって演習を行う。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造 / 社会人力育成

■到達目標

ビジネスに従事する人として社会に対する行為的な態度と理解を持ち、社会に貢献する意欲や能力を持って社会に出ることが、最終的な到達目標である。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR

〔学外学習有〕

■講義の概要

(Ⅰ)・Ⅱ(2年春・秋学期)

(1)(スキルトレーニング)

情報収集とその整理、問題点の抽出と、これらをプレゼンテーションする能力の開発のための練習を行う。

(2)(啓発、問題意識の醸成)

「余暇マネジメントⅠ・Ⅱ」の内容をふまえ、さらに特化した事例を研究することによって、余暇社会およびレジャー産業の問題点、課題、解決の方向性について、考察していく。

(2)Ⅲ・Ⅳ(3年春・秋学期)

(1)(レジャー体験と考察)

文献の検索等だけでなく、できるだけレジャーの世界を実体験するようにつとめる。

(2)(自分のテーマの探究)

体験と学習にもとづいて、各人が、この演習における自分のテーマと、その追求方法を確定し、課題を発見する。

(3)Ⅴ・Ⅵ(論文へのまとめ)

ここまで蓄積したものをまとめ、また、調査の技法や研究方法を学び、自分の思考と問題意識を構造化し、論文作成へとつなげていく。その過程で、先人の論文にもあたり、参考とする。

(最終発表)

プレゼンテーションによって、自分自身の研究を完結する。

(4)ⅠからⅥを通じて

ⅠからⅥを通じて、通常の演習の時間のほかに、合宿などの機会を設け、中間および最終の発表を行う。(年2回。全員必須。)この発表には、すべてに優先して参加してもらう。

■参考URL

<http://faculty.tama.ac.jp/sugita/index.html>

■評価基準

絶対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

(1)ホームゼミナールⅠからⅥを通じ、一貫してゼミに参加すること。

(2)「余暇マネジメントⅠ」、「余暇マネジメントⅡ」の単位を3年次秋までに取得すること。

この演習においては、学生諸君に対して、学習教材としての文献等の指示や、あるいはプレゼンテーションの指導等はするが、自主研究テーマについては、あくまでも自分で発見し、かつ追求してもらうことになる。「与えられるのを待つ」のではなく、「自ら求める」姿勢で取り組むことが要求されるので、銘記されたい。

科 目 名 ホームゼミナールⅠ～Ⅱ〔SeminarsⅠ～Ⅱ〕**担当教員** 趙 佑鎮**■講義目的**

中国古典の戦国策に「智者は未萌にみる」という言葉がある。知恵(先見力)のある者は、ものが形になる前に(まだ芽が出ないとき)、その兆しを察して有効な手を打つという意味である。このことは経営／経営者にとっても大事であり、若き日の孫正義(ソフトバンク会長)等が代表的ケースともいえる。経営者は、「マーケティング」や「経営戦略」的な発想を土台にして、常に変化している「環境」から、未来にとって意味のあるメッセージを読み取って「実践」していかなければならない。

本演習では「マーケティング」、「経営組織論」、「ベンチャー企業経営」を中心テーマとして「環境と戦略」の具体的なケースを扱いながら企業経営の現実を理解することを目的とする。最前線事例としての具体的なケースをもとにグループディスカッション及び問題解決に関連するプレゼンテーションを通じて、経営における「智者は未萌にみる」とは何かを互いに意識できること(学生も教員に気づきを与える)を期待するものである。

本ゼミナールを履修するにあたって、経営基礎、マーケティング入門、特別講座(リレー講座)の単位取得が好ましい。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

- ・「環境と経営」の総合的理解
- ・学生と教員、ゲスト講演者(経営者等)との活発な発言、ディスカッションを通じてのコミュニケーション力の向上

■講義形態

講義のみ

講義＋GD・GW・PR

その他(マーケティングの事例を扱ったビデオ・視聴覚教育)

GD: グループディスカッション

GW: グループワーク

PR: プレゼンテーション

〔学外学習有〕

■講義の概要

本演習の方法は大きく4つに大別できる。①具体的なケースを扱った教材を読み込んだ後、それをどう分析し対処していくのかをディスカッションする。②具体的現実を理解するために必要な「マーケティング」、「経営組織論」、「ベンチャー経営」、「イノベーション」に関連するいくつかの基本的知識は講義を通じて習得する。③具体的現実を理解するうえで参考になる経営者を招待して講義とディスカッションを行う④指定図書の輪読と発表を行う。

〈第1講〉～〈第10講〉

概要: オリエンテーション、ケーススタディーのやり方習得、身近で分かりやすいケーススタディー2本を学習

詳細: ケース・スタディーの予習とグループワーク、指定図書のレポート発表準備

〈第11講〉～〈第20講〉

概要: 組織人事・経営戦略に関係するケーススタディー3～4本とこれに関連する教員講義、ゲスト講師講義

詳細: ケース・スタディーの予習とグループワーク、指定図書のレポート発表準備

〈第21講〉～〈第30講〉

概要: マーケティング・ベンチャー経営に関係するケーススタディー2～3本とこれに関連する教員講義

詳細: ケース・スタディーの予習とグループワーク、指定図書のレポート発表準備

■教科書

オリエンテーションの際に提示

■指定図書

オリエンテーションの際に提示

■評価方法

出席＋授業態度(グループディスカッションとプレゼンテーション)＋小テスト＋レポート

■評価基準

絶対評価

・上記の総合評価

■事前履修科目等

本ゼミナールを履修するにあたって、経営基礎、マーケティング入門、特別講座(リレー講座)の単位取得が好ましい。

■留意点

特に出席が重要であり無断欠席は絶対に許さない

科目名

ホームゼミナールⅢ〔SeminarsⅢ〕

担当教員

趙 佑鎮

■講義目的

本ゼミの中心テーマは「流通」と「マーケティング」である。商品流通のための社会的仕組みである流通システムの構成要素は、流通構造、流通行動、流通制度の3つからなる。本講義では流通をシステムとして捉えることで現代流通のダイナミクスを体系的に把握させゼミ生の流通に対する興味と理解を深めてもらうのが狙いである。例えば、外部環境の変化(国際化、情報化、業態化、法的規制緩和、消費者ニーズの多様化等)のもとで、流通制度と流通構造にそれぞれ直接・間接に規定される流通行動が、今後、どう変貌するかを論じる。流通業(卸小売業)は多摩大学学生の就職先の産業別構成から見て毎年30%以上を占めており、学生にとって流通関連の知識習得は大きな意味がある。授業後半期には、現実の流通問題(流通チャネル管理、大規模小売業の経営問題、中小小売商業問題等)を学習することとする。経営上、有意義な話が聞けるゲスト・スピーカー(他大学教員や企業経営者)が本学にきた際には、ゼミ生に対し正規の講義時間外の自主的な勉強会参加を呼びかける場合もある。

本ゼミナールを履修するにあたって、マーケティングマネジメント論、立志起業家論、特別講座(リレー講座)の単位取得が必要である。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント論／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

- ・「流通システム」と「流通企業」の総合的理解
- ・流通企業の就活面接時に「流通とは何か」を問われた際に、自分なりの答えがいえること

■講義形態

講義のみ

講義＋GD・GW・PR

その他(マーケティングの事例を扱ったビデオ・視聴覚教育)

GD: グループディスカッション

GW: グループワーク

PR: プレゼンテーション

〔学外学習有〕

■講義の概要

本演習の方法は大きく4つに大別できる。①具体的な流通業のケースを扱った教材を読み込んだ後、それをどう分析し対処していくのかをディスカッションする。②流通に関連するいくつかの基本的知識は講義を通じて習得する。③具体的な現実を理解するうえで参考になる流通業の経営者を招待して講義とディスカッションを行う④教科書、指定図書の輪読と発表を行う。回ごとにレポーターを決め、教科書を予習してレジュメを作成、発表、グループディスカッションの形式をとる。随時、レポートを課す予定である。

〈第1講〉～〈第20講〉

概要: オリエンテーション、流通をテーマとした教科書・指定図書の輪読と発表

詳細: 流通システムの予習、復習とグループワーク、指定図書のレポート発表準備

〈第21講〉～〈第30講〉

概要: 組織人事・経営戦略・流通に関係するケーススタディー3～4本とこれに関連する講義、ゲスト講師講義

概要: ・ケース・スタディーの予習とグループワーク、指定図書のレポート発表準備

■教科書

- ・原田英生、向山雅夫『ベーシック流通と商業ー現実から学ぶ理論と仕組み(新版)』有斐閣 2010年
- ・上記以外の図書は、随時提示する予定

■指定図書

- ・原田英生、向山雅夫『ベーシック流通と商業ー現実から学ぶ理論と仕組み(新版)』有斐閣 2010年
- ・渡辺達朗編著『流通論をつかむ』有斐閣 2008年
- ・松岡真宏、中林恵一編著『流通業の「常識」を疑え-再生へのシナリオ』日本経済新聞社 2012年

■評価方法

- ・出席＋授業態度(グループディスカッションとプレゼンテーション)＋小テスト＋レポート

■評価基準

絶対評価

- ・上記の総合評価

■事前履修科目等

本ゼミナールを履修するにあたって、マーケティングマネジメント論、立志起業家論、特別講座(リレー講座)の単位取得が必要である。

■留意点

特に出席が重要であり無断欠席は絶対に許さない

科目名 ホームゼミナールⅣ〔SeminarsⅣ〕

担当教員 趙 佑鎮

■講義目的

本ゼミの中心テーマは「流通」と「マーケティング」である。商品流通のための社会的仕組みである流通システムの構成要素は、流通構造、流通行動、流通制度の3つからなる。本講義では流通をシステムとして捉えることで現代流通のダイナミックスを体系的に把握させゼミ生の流通に対する興味と理解を深めてもらうのが狙いである。例えば、外部環境の変化(国際化、情報化、業態化、法的規制緩和、消費者ニーズの多様化等)のもとで、流通制度と流通構造にそれぞれ直接・間接に規定される流通行動が、今後、どう変貌するかを論じる。流通業(卸小売業)は多摩大学学生の就職先の産業別構成からみて毎年30%以上を占めており、学生のキャリア形成にとって流通関連の知識習得は大きな意味がある。授業後半期には、現実の流通問題(流通チャネル管理、大規模小売業の経営問題、中小小売商業問題等)を学習することとする。経営上、有意義な話が聞けるゲスト・スピーカー(他大学教員や企業経営者)が本学にきた際には、ゼミ生に対し正規の講義時間外の自主的な勉強会参加を呼びかける場合もある。本ゼミナールを履修するにあたって、マーケティングマネジメント論、立志起業家論、特別講座(リレー講座)の単位取得が必要である。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

- ・「流通システム」と「流通企業」の総合的理解
- ・流通企業の就活面接時に「流通とは何か」を問われた際に、自分なりの答えが言えること

■講義形態

講義のみ

講義 + GD・GW・PR

その他(マーケティングの事例を扱ったビデオ・視聴覚教育)

GD: グループディスカッション

GW: グループワーク

PR: プレゼンテーション

〔学外学習有〕

■講義の概要

本演習の方法は大きく4つに大別できる。①具体的な流通業のケースを扱った教材を読み込んだ後、それをどう分析し対処していくのかをディスカッションする。②流通に関連するいくつかの基本的知識は講義を通じて習得する。③具体的な現実を理解するうえで参考になる流通業の経営者を招待して講義とディスカッションを行う④教科書、指定図書の輪読と発表を行う。回ごとにレポーターを決め、教科書を予習してレジュメを作成、発表、グループディスカッションの形式をとる。随時、レポートを課す予定である。

〈第1講〉～〈第20講〉

概要：オリエンテーション、流通をテーマとした教科書・指定図書の輪読と発表

詳細：流通システムの予習、復習とグループワーク、指定図書のレポート発表準備

〈第21講〉～〈第30講〉

概要：組織人事・経営戦略・流通に関係するケーススタディ3～4本とこれに関連する講義、ゲスト講師講義

概要：・ケース・スタディーの予習とグループワーク、指定図書のレポート発表準備

■教科書

- ・原田英生、向山雅夫『ベーシック流通と商業—現実から学ぶ理論と仕組み(新版)』有斐閣 2010年
- ・上記以外の図書は、随時提示する予定

■指定図書

- ・原田英生、向山雅夫『ベーシック流通と商業—現実から学ぶ理論と仕組み(新版)』有斐閣 2010年
- ・渡辺達朗編著『流通論をつかむ』有斐閣 2008年
- ・松岡真宏、中林恵一『流通業の「常識」を疑え-再生へのシナリオ-』日本経済新聞社 2012年
- ・上記以外の図書は、随時提示する予定

■評価方法

- ・出席+授業態度(グループディスカッションとプレゼンテーション)+小テスト+レポート

■評価基準

絶対評価

- ・上記の総合評価

■事前履修科目等

本ゼミナールを履修するにあたって、マーケティングマネジメント論、立志起業家論、特別講座(リレー講座)の単位取得が必要である。

■留意点

特に出席が重要であり無断欠席は絶対に許さない

科目名 ホームゼミナールV～VI〔Seminars V～VI〕

担当教員 趙 佑鎮

■講義目的

本ゼミの中心テーマは「歴史の見方」であり、3年間のゼミにおける最終的な成果物は「経営」、「組織」、「マーケティング」、「ベンチャー企業経営」、「アジアダイナミズム」等を題材とする卒業論文の作成である。授業前半期には、「歴史」に関する様々な本を輪読・ディスカッションし、授業後半期には「歴史」研究と共に、卒業論文作成のためのディスカッションと個人面談を行う。経営上、有意義な話が聞けるゲスト・スピーカー（他大学教員や企業経営者）が本学にきた際には、ゼミ生に対し正規の講義時間外の自主的な勉強会参加を呼びかける場合もある。

本ゼミナールを履修するにあたって、マーケティングマネジメント論、立志起業家論、特別講座（リレー講座）の単位取得が必要である。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

- ・卒業論文の完成－就活面接時の「大学で何を勉強してたか」の間に答えられるようにする
- ・複眼的見方ができる歴史観を持った人材－歴史をテーマとした学習と研究

■講義形態

講義のみ

講義＋GD・GW・PR

その他（マーケティングの事例を扱ったビデオ・視聴覚教育）

GD: グループディスカッション

GW: グループワーク

PR: プレゼンテーション

〔学外学習有〕

■講義の概要

①教科書、指定図書の輪読と発表を行う。回ごとにレポーターを決め、教科書を予習してレジュメを作成、発表、グループディスカッションの形式をとる。随時、レポートを課す予定である。②卒業論文作成のために論文の書き方を指導し、進捗度を確認するために個人面談を随時行う

〈第1講>～〈第7講〉

概要：オリエンテーション、組織人事・マーケティング・流通に関係するケーススタディ3本とこれに関連する講義、ゲスト講師講義

詳細：ケース・スタディの予習とグループワーク、指定図書のレポート発表準備

〈第8講>～〈第18講〉

概要：「歴史」をテーマとした指定図書の学習研究、各ゼミ生推薦の歴史関連書の発表プレゼンテーション

詳細：近現代史やグローバリズムの予習、復習、指定図書のレポート発表準備、歴史に関するビデオ学習

〈第19講>～〈第30講〉

概要：卒業論文作成のための発表、個別面談

詳細：卒業論文作成、近現代史やグローバリズムの予習、復習、指定図書のレポート発表準備

■教科書

- ・加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社 2009年
 - ・田原総一郎『誰もが書かなかった日本の戦争』ポプラ社 2011年
 - ・山内昌之『リーダーシップ―胆力と大局観―』新潮新書 2011年
 - ・堺屋太一『歴史の使い方』講談社 2004年
- 上記以外の図書は、随時提示する予定

■指定図書

- ・加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社 2009年
 - ・田原総一郎『誰もが書かなかった日本の戦争』ポプラ社 2011年
 - ・山内昌之『リーダーシップ―胆力と大局観―』新潮新書 2011年
 - ・堺屋太一『歴史の使い方』講談社 2004年
- 上記以外の図書は、随時提示する予定

■評価方法

- ・卒業論文提出＋出席＋授業態度（グループディスカッションとプレゼンテーション）＋小テスト＋レポート

■評価基準

絶対評価

- ・上記の総合評価

■事前履修科目等

本ゼミナールを履修するにあたって、マーケティングマネジメント論、立志起業家論、特別講座（リレー講座）の単位取得が必要である。

■留意点

特に出席が重要であり無断欠席は絶対に許さない

科 目 名 ホームゼミナール I [Seminars I]**担当教員** 常見 耕平**■講義目的**

学習の根本は、自ら学ぶことである。
自分自身で問題を発見し、その答えを探索する力を身につけることである。
したがって、学習を避けるべき苦行ととらえるのではなく、日々の習慣とすることを演習の目的とする。
自ら学ぶこと、つまり演習(学習)の基本として「大量に本を読む」ことを要求する。「大量」の目安として、1週間に平均して2冊、年間平均100冊をひとつの指標と考える。これは上限ではなく、最低限、これくらいの冊数の本を読むことを目標に取り組むことである。
最終的には、日常的に本を読むことを習慣化すること。さらに学習することを習慣化することを目指す。このため毎回のゼミナールでは、その週に読んだ本の内容等を報告することを求める。
常に世界に好奇心を持ち、読み続ける。これによって最終的には、日常的に本を読むことを習慣化すること。学習することを習慣化することを目指す。
ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

と考える。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

世界を理解する手がかりを得る。

■講義形態

講義のみ[学外学習有]

■講義の概要

講義開始後、受講生と相談して決める。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

金谷治訳注『論語』岩波文庫

■評価方法

評価方法

特に定めていない。

■評価基準

評価基準

受講姿勢に基づき判断する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

ホームゼミナールとは、自らが選んだテーマについて、自らが学習し、研究する活動である。3年間の演習を通して自らが選んだテーマに関する論文を完成させることを最終到達点とする。大学で受講する他の講義はもとより、不断の・日常の自学自習が高い成果を生むと考える。したがって、演習として大学の時間割に配置された90分間は「あってないもの」

科目名 ▶ ホームゼミナールⅡ～Ⅵ〔Seminars Ⅱ～Ⅵ〕

担当教員 ▶ 常見 耕平

■講義目的

学習の根本は、自ら学ぶことである。
自分自身で問題を発見し、その答えを探索する力を身につけることである。
したがって、学習を避けるべき苦行ととらえるのではなく、日々の習慣とすることを演習の目的とする。
ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

世界を理解する手がかりを得る。

■講義形態

講義のみ〔学外学習有〕

■講義の概要

講義開始後、受講生と相談して決める。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

金谷治訳注『論語』岩波文庫

■評価方法

評価方法

特に定めていない。

■評価基準

評価基準

受講姿勢に基づき判断する。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

ホームゼミナールとは、自らが選んだテーマについて、自らが学習し、研究する活動である。3年間の演習を通して自らが選んだテーマに関する論文を完成させることを最終到達点とする。大学で受講する他の講義はもとより、不断の・日常の自学自習が高い成果を生むと考える。したがって、演習として大学の時間割に配置された90分間は「あってないもの」と考える。

演習(学習)の基本として本を読むことを要求する。

最終的には、日常的に本を読むことを習慣化すること。さらに学習することを習慣化することを目指す。

科目名

ホームゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ〔SeminarsⅠ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ〕

担当教員

豊田 裕貴

■講義目的

豊田ゼミは、マーケティングとマーケティング・リサーチをテーマとする。2から4年次の三年間を通じて、マーケティングセンスの獲得と、リサーチセンスの獲得(視点・仮説・調査・分析・解釈といった調査を用いた論展開が出来るようになる)を目指す。特に3年次には一年間を通じて、「グループでの共通テーマを設定し、各テーマについて必ず調査(質的・量的共に必須)を行った上での研究発表並びにグループとしての報告書の作成」を演習として取り組む。なお、これらの成果については、他者からの評価も重要と考え、インターカレッジによる論文大会への参加を義務づけ、質の高い調査を目指すようにしている。

マーケティングをはじめ実務の場面では、様々な課題に対して調査や分析からの知見を必要とする場合が多い。豊田ゼミは、これらに対する一つのアプローチとして、マーケティング・リサーチを中心に学習する(マーケティング・リサーチとマーケティング・エンジニアリングのシラバスの内容も参考にする事)。

なお、本ゼミでは、全体での共通テーマと同時に、参加者(もしくはグループ)が興味のあるテーマをそれぞれ設定し、それらに取り組むというスタイルを採用する。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

マーケティング視点からビジネスを考えられる力の習得を目指し、5年後、10年後に活躍できる基礎を固めることを目標とする。また、学外での論文大会(関東10ゼミマーケティング討論会)への出場や企業からの課題への取り組みなどを通じて、学外での成果の発表とそれに対するフィードバックに向き合うことで、実践力を身につけることを目指す。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR

その他(講義＋レポート)

GD:グループディスカッション

GW:グループワーク

PR:プレゼンテーション

〔学外学習有〕

■講義の概要

(ホームゼミは履修者の興味、その時々の研究テーマに応じて内容が変わるため、15回の詳細については割愛する)。

■評価方法

演習なので、普段の取り組みから評価を行う。ゼミといえども(ゼミだからこそ)原則、全回出席を必須として、参加率が悪ければ、F評価を行う。

■評価基準

- ・やる気とゼミへの参加姿勢を評価の大前提とする。
- ・面白い発想や独自の視点を高く評価する。
- ・ゼミ外での発表(SRCや学外での発表など)も高く評価する。

■留意点

- ・ゼミでは対外活動も多く講義以外の時間にも多くの時間が必要となることを承知の上、受講すること。

- ・春期休暇中、夏期休暇期間中には合宿を行う(参加必須)。
- ・参加の可否については、選考テスト、または、面接を行うことがある。
- ・3年次に「マーケティング・リサーチ」「マーケティング・モデリング」を受講すること。
- ・「自分たちのゼミは自分たちで作る」という意欲のある学生の受講を強く期待したい。

科目名 ホームゼミナールⅢ(SeminarsⅢ)

担当教員 豊田 裕貴

■講義目的

豊田ゼミでは、通常の学年ごとの演習に加え、全学年を通じてゼミを開講し、より積極的な演習への取り組みを行う。具体的には、春学期・秋学期ともに合宿ならびに合宿前後の準備ゼミにより、学年を横断するチームを編成し、各種ケーススタディやプランニング演習を行う。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

学年横断で組まれるグループにて、限られた時間内に、設定された課題に取り組み、発表する。その際、発表前のグループワークの段階で、どのような質問や意見がなされるかを考え、それを織り込んだストーリー展開を考えることが、望まれるレベルである。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR

GD: グループディスカッション

GW: グループワーク

PR: プレゼンテーション

〔学外学習有〕

■講義の概要

(合同ゼミは履修者の興味、その時々の研究テーマに応じて内容が変わり、かつ集中講義を行うため、15回の詳細については割愛する)。

■評価方法

演習科目であり、積極的にグループワークに取り組むことが最低限の評価基準である。その上で、発表された課題についての質や質疑応答の仕方など総合的に判断し、評価を行う。

■評価基準

- ・本科目は、演習科目であり、PないしはFの絶対評価となる。
- ・面白い発想や独自の視点を高く評価する。

■留意点

- ・ゼミでは対外活動も多く講義以外の時間にも多くの時間が必要となることを承知の上、受講すること。
- ・春期休暇中、夏期休暇期間中には合宿を行う(参加必須)。
- ・参加の可否については、選考テスト、または、面接を行うことがある。
- ・3年次に「マーケティング・リサーチ」「マーケティング・モデリング」を受講すること。
- ・「自分たちのゼミは自分たちで作る」という意欲のある学生の受講を強く期待したい。

科 目 名 ▶ **ホームゼミナールV〔Seminars V〕****担当教員** ▶ **豊田 裕貴****■講義目的**

豊田ゼミでは、通常の学年ごとの演習に加え、全学年を通じたゼミを開講し、より積極的な演習への取り組みを行う。具体的には、春学期・秋学期ともに合宿ならびに合宿前後の準備ゼミにより、学年を横断するチームを編成し、各種ケーススタディやプランニング演習を行う。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人育成

■到達目標

学年横断で組まれるグループにて、限られた時間内に、設定された課題に取り組み、発表する。その際、発表前のグループワークの段階で、どのような質問や意見がなされるかを考え、それを織り込んだストーリー展開を考えることが、望まれるレベルである。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR

GD: グループディスカッション

GW: グループワーク

PR: プレゼンテーション

〔学外学習有〕

■講義の概要

（合同ゼミは履修者の興味、その時々の研究テーマに応じて内容が変わり、かつ集中講義を行うため、15回の詳細については割愛する）。

■評価方法

演習科目であり、積極的にグループワークに取り組むことが最低限の評価基準である。その上で、発表された課題についての質や質疑応答の仕方など総合的に判断し、評価を行う。

■評価基準

- ・本科目は、演習科目であり、PないしはFの絶対評価となる。
- ・面白い発想や独自の視点を高く評価する。

■留意点

- ・ゼミでは対外活動も多く講義以外の時間にも多くの時間が必要となることを承知の上、受講すること。
- ・春期休暇中、夏期休暇期間中には合宿を行う（参加必須）。
- ・参加の可否については、選考テスト、または、面接を行うことがある。
- ・3年次に「マーケティング・リサーチ」「マーケティング・モデリング」を受講すること。
- ・「自分たちのゼミは自分たちで作る」という意欲のある学生の受講を強く期待したい。

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕

担当教員 中庭 光彦

■講義目的

本ゼミナールは地域政策マネジメントのゼミです。今後、人口減少する社会で、問題解決を行うために、基本的な文献を読み、現場を調査し、分析力を身につけ、討議を行い、論文を書き、提案力を身につけます。

今年度は、以下の活動を予定しています。

<2年生>多摩地域のウェブ博物館構築

多摩地域の企業に聞き取り調査を行い、その結果を報告書として公開します。

<3年生>観光まちづくり企画

観光まちづくり大学コンテストに参加し、企画提案をしてもらいます。また、その内容に基づいた観光ガイドブックを制作してもらいます。

<4年生>卒業論文指導

各自のテーマに基づいた指導を行います。7月と12月のSRCで発表を行います。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／社会人力育成／地域ビジネス

■到達目標

本ゼミ学生が身につけるべき人材像は以下の通りです。

- (1)本を読む力。
 - (2)情報を集め、数表を使ったレポート、論文を書く力。
 - (3)社会人に礼儀よく電話をしたり、要件を伝えたり、交渉する力。
 - (4)雑学×想像力＝企画力
 - (5)チームとして動く力。
 - (6)最後までやり抜く力、逃げない力。
- この能力を養うために、他大学・他機関との交流は積極的にを行います。

■講義形態

GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

<2年春>

企業分析の方法について学び、分析の実習。

論文の書き方。

フィールドワーク実習。

調査企業の選定。インタビュー実習。

<2年秋>

インタビュー調査～報告書制作～HP制作

<3年春>

観光まちづくりの手法について文献等調査。

フィールドワーク。

企画作業～提案書作成～発表。

<3年秋>

提案内容をガイドブックとして制作。

<4年春>

卒業論文指導～SRC報告。

<4年秋>

卒業論文指導～SRC報告

■教科書

適宜指示する。

■指定図書

適宜指示する。

■参考文献

適宜指示する。

■参考URL

<https://sites.google.com/a/tama.ac.jp/nakaniwasemi/>

■評価方法

出席(50%)、ゼミ活動への貢献度(50%)

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科 目 名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕

担当教員 中村 その子

■講義目的

中村そのこゼミナールは、社会を動かすことば力をテーマに、コマmercial作り、キャッチコピー作成、ネーミングテクニックなど、社会で自分の製品やアイデアを広告、PRする方法を学ぶゼミです。同時に、人々の心を動かす説得力のある話し方や問題解決に結びつく考え方も学んでいきます。

＜そのこゼミナールでの活動＞

ラジオコマmercial研究・制作

映像・静止画コマmercial研究・制作

ポスター、ヒラやポップなどの広告印刷物研究・制作

ネーミングとキャッチコピーの手法を学ぶ

マスコットキャラクターやアニメキャラクターによるセールスプロモーション活動

イベント活動と企業PRの関係を探る

上記に関連する懸賞やコンテストへの応募

コミュニティラジオ局やケーブルテレビ局など、広告に関連の深い企業の見学やインターンシップ

その他企業や製品、サービスにかんするPR活動全般に目を向ける

そのこゼミナールで。。。。

社会に影響を与えることば力の世界を探検し、

辞書に残るネーミング

歴史に残るキャッチコピー

記憶に残るコマmercialメッセージ

を創造してみませんか。

中村そのこゼミナールは、「社会を動かすことば力」をテーマに、コマmercial作り、キャッチコピー作成、

ネーミングテクニックなど、社会で自分の製品やアイデアを広告、PRする方法を学ぶゼミです。同時に、人々の心を動かす説得力のある話し方や問題解決に結びつく考え方も学んでいきます。

将来、広告製作やPR活動に関係した分野で志を実現する力を付けることももちろんですが、どんな分野で仕事、社会活動をする場合でも、自分のアイデア、製品のPR、会社業務、活動のPR、など、説得力のあるメッセージを、社会に向けて力強く発信する(訴える)必要があります。このゼミでは(中心は広告になりますが)社会に向けて情報を発信していく「発信力」をどんな分野でも発揮できるような力を付けることをゴールとしています。グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーションなどの活動を重視し、産業社会の最前線事例や問題解決シミュレーションなども積極的に取り入れます。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

1 コマmercial関連

テレビ・ラジオコマmercial、町の看板やポスター、新聞雑誌広告、商品キャンペーンやイベント企画など、PR活動全般について研究し、何かを広告、PRする場合にどのようにしたら効果的かを探ります。たとえば。。。。

新製品や新マスコットキャラクターなどを開発・想定し、それらにネーミング、併せてキャッチコピーを作成し、プロモーション活動を企画して、動画・静止画コマmercialやポスターなどを制作します。次にグループや個人でアイデアを交

換してディスカッション後プレゼンテーション。成果をキャッチコピーコンテストやラジオコマmercialコンテストに応募して力試しします。

実際に自分たちの作った広告ポスターを貼り出したり、ラジオ・テレビコマmercialを放送、放映してもらうなどして外部発信。コミュニティラジオ局、ケーブルテレビ局の見学やインターンシップ活動、イベント関連会社の見学なども行っており、メディアや企業の情報発信の形も体験していきます。

3 ネーミングとキャッチコピー

私たちのまわりには数えきれない商品があふれていますが、名前のないものはない、と言ってもいいでしょう。名前の付け方で商品の消費者に対する訴求力が変わってきますし、商品名を変えただけで売れ行きが爆発的にアップなどということもあります。実際にネーミングに携わっている人たちがどのようなプロセスでネーミングをしているのかを学び、「成功した商品名」にはどんな秘密があるのかを探ります。ネーミングとともに、その魅力を短い文で消費者に訴えるキャッチコピーにも注目。多くの人の心に残る魅力的なキャッチコピーの特徴を研究し、優れたコピーを作るためのテクニックを身につけ、コピーライティングに必要な直感と感性を磨きます。

4 私たちをとりまくことばたち

何かをコマmercialしたりPRしたりするときに、「ことば」をまったく使わない、ということはありませんね。そのこゼミでは、有名起業家、アーティスト、スポーツ選手、ドラマやアニメの名句、名文、新語・流行語のメカニズムと特徴、を探り、その分析を行うことによって、社会で人を動かす説得力あることばはどのように生み出されるのかを考え、自分自身もそのような話し方ができるようにトレーニングします。もちろん、それをしっかりと支える問題解決力も身につけていきます。英語学習全般のサポートや広告での英語表現法なども、ゼミ生の要望があれば喜んで対応します！

■講義形態

講義＋GD・GW・PR

その他(ゼミナールとしての能動的諸活動)(学外学習有)

■講義の概要

1 コマmercial関連

テレビ・ラジオコマmercial、町の看板やポスター、新聞雑誌広告、商品キャンペーンやイベント企画など、PR活動全般について研究し、何かを広告、PRする場合にどのようにしたら効果的かを探ります。実際にラジオコマmercialやポスター、新聞雑誌広告、マスコットキャラクターなどを作っており、プレゼンテーション。コンテストに応募したりします。

2 キャッチコピー

短い一言で消費者に製品を印象づけるキャッチコピー。これまでの名作、やその作成技法などを学び、「コマmercialコピーの言語感覚」を磨きます。

3 ネーミング

私たちのまわりには数えきれない商品があふれていますが、名前のないものはない、と言ってもいいでしょう。名前の付け方で商品の消費者に対する訴求力が変わってくることもよくあります。実際にネーミングに携わっている人たちがどの

ようなプロセスでネーミングをしているのかを学び、何気なく付いているかに見える「商品名」の隠れた秘密を探ります。

4 何かをコマーシャルしたりPRしたりするときに、「ことば」をまったく使わない、ということはあまりありませんね。そのこゼミでは、有名起業家、アーティスト、スポーツ選手、ドラマやアニメの名句、名文、新語・流行語のメカニズムと特徴、を探り、その分析を行うことによって、社会で人を動かす説得力あることばはどのように生み出されるのかを考え、自分自身もそのような話し方ができるようにトレーニングします。もちろん、それをしっかりと支える問題解決力も身につけて行きます。

5 また英語学習全般のサポートや広告での英語表現法なども、ゼミ生の要望があれば喜んで対応します！ゼミ活動は、通常、上記1, 2, 3, 4(5)を先生が説明⇒個人やグループでの制作活動⇒その成果の発表とプレゼンテーション⇒ゼミ内でそれを評価してディスカッション、という形で進みます。そのこゼミナールは、ゼミ生の自主性と創造性、やる気とまごころで作られます。

なので、ゼミではゼミ生のやりたいことを尊重し、方向性を決めて行きます。

なら、多摩大学で画期的なゼミをつづぐらい作り上げてみよう、

そんなゼミの一員としてちょっと活動してみようかな！と思うみなさんにお会いするのを楽しみにしています！！

そのこゼミは、経済活動とことばの関係を考えるゼミです。ことばが経済活動にどんな影響を与え、またどんな役割を果たしているのかをいろいろな角度から考えていきます。

ネーミング、キャッチコピー、会社名とコーポレートスローガン、その他の種々のコマーシャルメッセージを集めて、それらがどのように作られるのか、そこにはどんな工夫やアイデア、理論が隠されているのか、またどのようなメッセージがより効果的かを学び、いろいろなリサーチをします。なぜインスタント焼そばの名前が「F.O」なのか。なぜマクドナルドのキャッチコピーが通常では考えられないloveの進行形「I'm lovin' it」なのか、なぜスナック甘栗の名前が「甘栗むいちゃいました」なのか、などをコピーライター目線で観察していきます。

仮想の新製品やアーティスト、マスコットキャラクターなどを想定し、コンセプト分析に基づいてそれらにネーミング、併せてキャッチコピーを作成し、文章によるプロモーション活動や文字コマーシャルなども作り、グループや個人でアイデアを交換したりプレゼンテーションしたりします。その成果を、キャッチコピーやラジオコマーシャル公募（コンテスト）にオリジナル作品を送って力試し。また、そんな活動のヒントを得るために、実際に街をフィールドワークして、いつもはなんとなく眺めているネーミング（例えば看板に書かれた店名）を違った角度から眺め、本や資料だけでなく、自分の五感をフル活用した「ネーミング勘」を養って行きたいと思っています。

そんなネーミングにはかならず「ことば」が使われます。そのこゼミでは人々が「ぐっと」来て印象に残ることばにはどんな特徴があるのかも追及します。以下に挙げるような、わたしたちの心や社会を動かすことばにはどんな要素があるのかを探り、それを自ら使って「人を動かす」ことば力＝自分の考えを効果的に表

現する力を養っていきます。

- ・ お笑いに隠されたコトバ力の秘密〜おもしろさのからくり

- ・ 有名人、アーティスト、スポーツ選手、ドラマやアニメの名セリフ

- ・ 古くからあるジョークに隠されたテクニックの数々や流行語の特徴

以下のセリフや名言の魅力を生み出す要素、あなたにはわかりますか。

☆またつまらぬものを切ってしまった。。。。 ルパン三世 石川五ェ門

☆約束は守られたものが約束なのです。 コフィー・アッタ・アナン 前国連事務総長

☆妥協をたくさんしてきたし、自分に負けたこともいっぱいあります。ただ、野球に関してはそれが無いというだけで。。。

イチロー

授業では、このようなセリフや名言が、人々の印象に残るメカニズムについても探っていきますが、最後に小ネタをちょっとこちらで披露しておきます。

「ブタもおだてりや木に登る」は昔からあることわざのように思われていますが、実は1970年代にテレビ放映されていたアニメ「ヤッターマン」のセリフです。

Googleはあまりにも有名なオンライン検索システム。その有名さゆえに、すでにgoogleはGoogleで検索する、サーチエンジンで検索するという動詞として使われ始めています。

Why don't you google it? = 「Googleで検索してみればいいのに。」日本語でも「ぐぐる」という言い方を使う人がいますね。

「キャプテン翼」は世界でも有名な日本のアニメーション。プロサッカーリーグで活躍する世界的に有名な選手の中にも、子供のころに翼くんにあこがれてサッカーを始めたという人がけっこういます。なんとスペイン語では動作が遅いことを

Es mas lento que el remote de Oliver y Benji と言います。

Oliver y Benji は「キャプテン翼」のスペイン語の題名。キャプテン翼より動作が遅い、という意味なのですが、翼くんの動作が遅くてダメな選手ということではありません。これは、アニメの中でストーリーを効果的にするために翼くんのシュートシーン（シュートを打つまで）が10分間ぐらいに引き伸ばされて、実際のサッカーのゲームでは絶対あり得ない長さで描かれるところから来たものなのです。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

特になし

■評価方法

ゼミナールでのすべての活動に、積極的に参加し、十分満足の行く結果を出すこと

■評価基準

上記が満たされた場合にP

それ以外はF

■事前履修科目等

リサーチ、マーケティング関連科目、メゾ経済学関連科目、地域活性化、社会企業家[起業家]関連科目

■留意点

出席は最重要視される。

科 目 名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕**担当教員** 中村 有一**■講義目的**

情報系のゼミで、主に、コンピュータ、ネットワーク、情報社会、数理モデルなどの分野で研究を進めている。内容的には理科系・工学系であるが、それほど前提となる知識は必要としない。情報系の分野において各自テーマを決め、研究を通して実際の知識を身に付けることを目的とする。また最終的には卒業論文または卒業製作の形に成果をまとめる。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

自分で研究テーマを決め、研究していく能力を身につける。プログラミングや電子工作などにより、自分のアイデアを実現していくこと。成果を論文や研究発表の形で表現する能力を習得する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

研究テーマの例をいくつかあげておく。過去の研究テーマについては以下のURLを参照すること。

『Yusemi Wiki』 <http://www.rye.tama.ac.jp/hiki/>

(1) コンピュータ

プログラミング・・・プログラミング言語、ソフト作成、地理情報の処理

ハードウェア・・・電子工作、組み込みプログラミング、PC自作

(2) ネットワーク

サーバ構築・管理・・・インターネットのサービス提供、OSの利用法

ネットワークプログラミング・・・ネット上の新しいサービス開発

情報セキュリティ・・・暗号・認証・信頼性

(3) 情報社会

情報社会の問題点の考察

知的財産権・・・著作権、特許権

未来予測

(4) 数理モデル

社会現象の数学的モデル化

最適化計画

詳しい計画は、それぞれの学期の初めに提示する。

予習のポイント：予習すべき点は、そのつと提示する。

復習のポイント：復習すべき点についても、そのつと提示する。

■教科書

特になし。

■指定図書

特になし。

■参考文献

特になし。

■参考URL

<http://www.rye.tama.ac.jp/hiki/>

■評価方法

評価は、出席点・平常点70%、レポート・発表30% により行う。

■評価基準**絶対評価**

やる気をもって積極的に参加することが重要である。自分でテーマを探し、自分で研究を進めていくという自己解決能力を養うことが目標である。絶対評価である。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

「コンピュータ概論」、「情報概論」、「プログラミング言語」、「コンピュータネットワーク活用」、「システムデザイン」などの情報系科目を履修していること、あるいはゼミと並行して履修することが望ましい。

科目名 ホームゼミナールⅠ(SeminarsⅠ)

担当教員 バートル

■講義目的

時代は今、「知」が重要視される知識情報社会となっており、膨大な情報の中から必要な情報を抽出して分析し、未来を洞察していくことが求められている。本ゼミでは、世界経済の牽引役として、国際的プレゼンスの高まりを見せている中国を立体的かつ複眼的な視点で理解するための基礎的な知識の習得と産業界が求める問題解決能力に優れ、かつ高度なコミュニケーション能力を備えた「グローバル人材」を念頭に置きながら各種調査活動やプレゼンテーション及びディスカッションを積極的に行う。ゼミ生は、本ゼミを通じて修得した知識とノウハウを自分の就職活動や将来に向けて活用できるようになることは必須である。

本ゼミの目的は二つある。一つは、企業が求める「グローバル人材」の育成である。近年、アジア・大洋州地域域内及び日本とアジア・大洋州地域の経済の緊密化に伴い、日本企業は「アジア重視」へ舵を切り始め、人材戦略の面では「グローバル人材」の育成に注力している。こうした日本企業(外資系企業も含む)の動向を踏まえ、学生諸君の卒業後の就職活動や大学院への進学の一助となることを念頭に置きながら企業が求めるグローバル人材(主体性、外国語によるコミュニケーション能力、協調性、異文化に対する興味・関心・適応力、多角的・複合的な手法でグローバルな問題に取り組む能力、既成概念に捉われない、チャレンジ精神を持つなど)の育成を最大の目的とする。もう一つは、中国を中心とした大中華圏への理解を深めることである。中国を中心とした大中華圏(香港・台湾・シンガポールを含む)の経済、政治、外交関係に関するテーマを取り上げ、全員参加の議論を重ね、中国及び大中華圏のビジネスに関わる基本的な知識やノウハウを身に付けることである。本ゼミの運営方法としては、「学生による文献調査＋レポート作成＋ゼミ報告＋ディスカッション」の形式を採用する。具体的には、ゼミ生が日本や中国及び大中華圏に関する時事問題からトピックスを選び、自分自身で関連文献やデータの収集、調査を行った上レポートの作成とプレゼンテーションを行う。それに基づいて、ゼミ生全員で議論し、問題の所在と問題解決のための方法論を検討する。又、アジア主要国地域の政治経済概況に関する情報やデータの収集と定期的な更新作業を行い、報告する。更には、学外学習の一環として、フィールド調査・人的ネットワーク形成の観点から各種セミナーや合同ゼミの実施や留学生、企業関係者との交流活動も行う。可能的場合は海外視察(海外の大学や企業、工場など)も実施する。なお、ゼミの運営方法に関しては、学生の意見やアイデアを積極的に取り入れる。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会力育成／グローバルビジネス／ビジネスICT／地域ビジネス

■到達目標

①2年時は、アジアティリーニュース(毎週、全員)やアジア政治経済概況(四半期・通年ベース、全員)の作成と発信・報告を行う。2年後半には、各自の研究テーマを決定し、一定期間において関連する文献や情報の収集、調査を行い、ゼミやSRCで報告する。

②3年時は、アジアティリーニュースに加え、卒業論文のテーマ設定、関連文献や情報の収集、調査、作成進捗状況を報告する。また、就職などの進路指導も行う。

③4年時は、卒業論文を推敲し、完成させる。また、就職や大学院進学などの進路指導も行う。

■講義形態

GD・GW・PR[学外学習有]

■講義の概要

①2年時は、アジアティリーニュース(毎週、全員)やアジア政治経済概況(四半期・通年ベース、全員)の作成と発信・報告を行う。2年後半には、各自の研究テーマを決定し、一定期間において関連する文献や情報の収集、調査を行い、ゼミやSRCで報告する。

②3年時は、アジアティリーニュースに加え、卒業論文のテーマ設定、関連文献や情報の収集、調査、作成進捗状況を報告する。また、就職などの進路指導も行う。

③4年時は、卒業論文を推敲し、完成させる。また、就職や大学院進学などの進路指導も行う。

■指定図書

『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年)

『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP新書、2011年)

■参考文献

関志雄『チャイナ・アズ・ナンバーワン』、東洋経済新聞社、2009年

三井物産戦略研究所『アジアを見る眼』、共同通信社、2012年

■評価方法

評価は、出席(35%)、報告およびディスカッション(35%)、学年毎のレポート(30%)により行う。

■評価基準

相対評価

出席と報告およびディスカッションを重視(35%+35%=70%)する。

レポート(30%)は、2年時はアジアティリーニュースとアジア政治経済概況、3年時は卒業論文の作成、4年時は卒業論文の完成。卒業論文は、中国やアジア戦略をテーマに設定し、作成する。なお、レポートは、独自の視点や問題意識を持ち、問題解決へ向けての積極的な取り組み姿勢を重視する。

■事前履修科目等

当ゼミの履修にあたり世界潮流とグローバルビジネス関連科目を履修すること。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

■参考URL

日本外務省HP：<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/index.html>

日本貿易振興機構HP：<http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/>

中国・新華通信HP：<http://www.xinhua.jp>

共同通信HP：<http://www.kyodo.co.jp>

環日本海経済研究所HP：<http://www.erina.or.jp/index.html>

在日本中国大使館HP：<http://www.china-embassy.or.jp/jpn/>

科目名 ホームゼミナールⅡ(SeminarsⅡ)**担当教員** パートル**■講義目的**

時代は今、「知」が重要視される知識情報社会となっており、膨大な情報の中から必要な情報を抽出して分析し、未来を洞察していくことが求められている。本ゼミでは、世界経済の牽引役として、国際的プレゼンスの高まりを見せつけている中国を立体的かつ複眼的な視点で理解するための基礎的な知識の習得と産業界が求める問題解決能力に優れ、かつ高度なコミュニケーション能力を備えた「グローバル人材」を念頭に置きながら各種調査活動やプレゼンテーション及びディスカッションを積極的に行う。ゼミ生は、本ゼミを通じて習得した知識とノウハウを自分の就職活動や将来に向けて活用できるようになることは必須である。本ゼミの目的は二つある。一つは、企業が求める「グローバル人材」の育成である。近年、アジア・大洋州地域域内及び日本とアジア・大洋州地域の経済の緊密化に伴い、日本企業は「アジア重視」へ舵を切り始め、人材戦略の面では「グローバル人材」の育成に注力している。こうした日本企業(外資系企業も含む)の動向を踏まえ、学生諸君の卒業後の就職活動や大学院への進学の一助となることを念頭に置きながら企業が求めるグローバル人材(主体性、外国語によるコミュニケーション能力、協調性、異文化に対する興味・関心・適応力、多角的・複合的な手法でグローバルな問題に取り組む能力、既成概念に捉われず、チャレンジ精神を持つなど)の育成を最大の目的とする。もう一つは、中国を中心とした大中華圏への理解を深めることである。中国を中心とした大中華圏(香港・台湾・シンガポールを含む)の経済、政治、外交関係に関するテーマを取り上げ、全員参加の議論を重ね、中国及び大中華圏のビジネスに関わる基本的な知識やノウハウを身に付けることである。本ゼミの運営方法としては、「学生による文献調査+レポート作成+ゼミ報告+ディスカッション」の形式を採用する。具体的には、ゼミ生が日本や中国及び大中華圏に関する時事問題からトピックを選び、自分自身で関連文献やデータの収集、調査を行った上レポートの作成とプレゼンテーションを行う。それに基づいて、ゼミ生全員で議論し、問題の所在と問題解決のための方法論を検討する。又、アジア主要国地域の政治経済概況に関する情報やデータの収集と定期的な更新作業を行い、報告する。更には、学外学習の一環として、フィールド調査・人的ネットワーク形成の観点から各種セミナーや合同ゼミの実施や留学生、企業関係者との交流活動も行う。可能的場合は海外視察(海外の大学や企業、工場など)も実施する。なお、ゼミの運営方法に関しては、学生の意見やアイデアを積極的に取り入れる。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会力育成／グローバルビジネス／ビジネスICT／地域ビジネス

■到達目標

- ①2年時は、アジアティリーニュース(毎週、全員)やアジア政治経済概況(四半期・通年ベース、全員)の作成と発信・報告を行う。2年後後半には、各自の研究テーマを決定し、一定期間において関連する文献や情報の収集、調査を行い、ゼミやSRCで報告する。
- ②3年時は、アジアティリーニュースに加え、卒業論文のテーマ設定、関連文献や情報の収集、調査、作成進捗状況も報告する。また、就職などの進路指導も行う。
- ③4年時は、卒業論文を推敲し、完成させる。また、就職や大学院進学などの進路指導も行う。

■講義形態

GD・GW・PR[学外学習有]

■講義の概要

- ①2年時は、アジアティリーニュース(毎週、全員)やアジア政治経済概況(四半期・通年ベース、全員)の作成と発信・報告を行う。2年後後半には、各自の研究テーマを決定し、一定期間において関連する文献や情報の収集、調査を行い、ゼミやSRCで報告する。
- ②3年時は、アジアティリーニュースに加え、卒業論文のテーマ設定、関連文献や情報の収集、調査、作成進捗状況も報告する。また、就職などの進路指導も行う。
- ③4年時は、卒業論文を推敲し、完成させる。また、就職や大学院進学などの進路指導も行う。

■教科書

随時紹介、推薦する。

■指定図書

- 『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年)
『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP新書、2011年)

■参考文献

- 関志雄『チャイナ・アズ・ナンバーワン』、東洋経済新聞社、2009年
三井物産戦略研究所『アジアを見る眼』、共同通信社、2012年

■評価方法

評価は、出席(35%)、報告およびディスカッション(35%)、学年毎のレポート(30%)により行う。

■評価基準**相対評価**

出席と報告およびディスカッションを重視(35%+35%=70%)する。

レポート(30%)は、2年時はアジアティリーニュースとアジア政治経済概況、3年時はアジアティリーニュースに加え、卒業論文の作成、4年時は卒業論文の完成。卒業論文は、中国やアジア戦略をテーマに設定し、作成する。なお、レポートは、独自の視点や問題意識を持ち、問題解決へ向けての積極的な取り組み姿勢を重視する。

■事前履修科目等

当ゼミの履修にあたり世界潮流とグローバルビジネス関連科目を履修すること。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点**■参考 URL**

- 日本外務省 HP : <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/index.html>
日本貿易振興機構 HP : <http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/>
中国・新華通信 HP : <http://www.xinhua.jp>
共同通信 HP : <http://www.kyodo.co.jp>
環日本海経済研究所 HP : <http://www.erina.or.jp/index.html>
ja
在日本中国大使館 HP : <http://www.china-embassy.or.jp/jpn/>

科目名

ホームゼミナール III (Seminars III)

担当教員

バートル

■講義目的

時代は今、「知」が重要視される知識情報社会となっており、膨大な情報の中から必要な情報を抽出して分析し、未来を洞察していくことが求められている。本ゼミでは、世界経済の牽引役として、国際的プレゼンスの高まりを見せている中国を立体的かつ複眼的な視点で理解するための基礎的な知識の習得と産業社会が求める問題解決能力に備え、かつ高度なコミュニケーション能力を備えた「グローバル人材」を念頭に置きながら各種調査活動やプレゼンテーション及びディスカッションを積極的に行う。ゼミ生は、本ゼミを通じて修得した知識とノウハウを自分の就職活動や将来に向けて活用できるようになることは必須である。本ゼミの目的は二つある。一つは、企業が求める「グローバル人材」の育成である。近年、アジア・大洋州地域域内及び日本とアジア・大洋州地域の経済の緊密化に伴い、日本企業は「アジア重視」へ舵を切り始め、人材戦略の面では「グローバル人材」の育成に注力している。こうした日本企業（外資系企業も含む）の動向を踏まえ、学生諸君の卒業後の就職活動や大学院への進学の一助となることを念頭に置きながら企業が求めるグローバル人材（主体性、外国語によるコミュニケーション能力、協調性、異文化に対する興味・関心・適応力、多角的・複合的な手法でグローバルな問題に取り組み能力、既成概念に捉われない、チャレンジ精神を持つなど）の育成を最大の目的とする。もう一つは、中国を中心とした大中華圏への理解を深めることである。中国を中心とした大中華圏（香港・台湾・シンガポールを含む）の経済、政治、外交関係に関するテーマを取り上げ、全員参加の議論を重ね、中国及び大中華圏のビジネスに関わる基本的な知識やノウハウを身に付けることである。本ゼミの運営方法としては、「学生による文献調査＋レポート作成＋ゼミ報告＋ディスカッション」の形式を採用する。具体的には、ゼミ生が日本や中国及び大中華圏に関する時事問題からトピックを選び、自分自身で関連文献やデータの収集、調査を行った上レポートの作成とプレゼンテーションを行う。それに基づいて、ゼミ生全員で議論し、問題の所在と問題解決のための方法論を検討する。又、アジア主要国地域の政治経済状況に関する情報やデータの収集と定期的な更新作業を行い、報告する。更には、学外学習の一環として、フィールド調査・人的ネットワーク形成の観点から各種ゼミナーや合同ゼミの実施や留学生、企業関係者との交流活動も行う。可能な場合は海外視察（海外の大学や企業、工場など）も実施する。なお、ゼミの運営方法に関しては、学生の意見やアイデアを積極的に取り入れる。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／ビジネスICT／地域ビジネス

■到達目標

- ①2年時は、中国経済と中国ビジネスに関する基礎的な知識や理論を習得し、中国や世界発の各種情報の収集・分析・発信する能力を身に付ける。
- ②3年時は、中国経済や中国ビジネスに関する問題点や課題を発見し、経営戦略やビジネスモデルの立案などを通じて問題解決能力を備える。
- ③4年時は、中国を始めアジア地域に対する深い理解力と専門知識を備える。

■講義形態

GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

- ①2年時は、アジアティリーニュース（毎週、全員）やアジア政治経済概況（四半期・通年ベース、全員）の作成と発信・報告を行う。2年時後半には、各自の研究テーマを決定し、一定期間において関連する文献や情報の収集、調査を行い、ゼミやSRCで報告する。
- ②3年時は、アジアティリーニュースに加え、卒業論文のテ

ーマ設定、関連文献や情報の収集、調査、作成進捗状況を報告する。また、就職などの進路指導も行う。

- ③4年時は、卒業論文を推敲し、完成させる。また、就職や大学院進学などの進路指導も行う。

■教科書

随時紹介、推薦する。

■指定図書

- 『世界を知る力』（寺島実郎、PHP新書、2010年）
 『世界を知る力 日本創生編』（寺島実郎、PHP新書、2011年）
 『大中華圏』（寺島実郎、NHK出版、2012年）
 『中国経済の実像とゆくえ』（真家陽一、ジェトロ、2012年）
 『アジアを見る眼』（三井物産戦略研究所、共同通信、2012年）

■参考文献

- 関志雄『チャイナ・アズ・ナンバワン』、東洋経済新聞社、2009年
 三井物産戦略研究所『アジアを見る眼』、共同通信社、2012年

■評価方法

評価は、出席（35%）、報告およびディスカッション（35%）、学年毎のレポート（30%）により行う。

■評価基準

相対評価

出席と報告およびディスカッションを重視（35%+35%＝70%）する。

レポート（30%）は、2年時はアジアティリーニュースとアジア政治経済概況、3年時は卒業論文の作成、4年時は卒業論文の完成。卒業論文は、中国やアジア戦略をテーマに設定し、作成する。なお、レポートは、独自の視点や問題意識を持ち、問題解決へ向けての積極的な取り組み姿勢を重視する。

■事前履修科目等

当ゼミの履修にあたり世界潮流とグローバルビジネス関連科目を履修すること。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

以下の機関が発表する情報等を常時確認すること。

日本外務省 HP : <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/index.html>

日本貿易振興機構 HP : <http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/>

中国・新華通信 HP : <http://www.xinhua.jp>

共同通信 HP : <http://www.kyodo.co.jp>

環日本海経済研究所 HP : <http://www.erina.or.jp/index.html>

ja
 在日本中国大使館 HP : <http://www.china-embassy.or.jp/jpn/>

科 目 名 ホームゼミナールⅣ〔Seminars Ⅳ〕

担当教員 パートル

■講義目的

時代は今、「知」が重要視される知識情報社会となっており、膨大な情報の中から必要な情報を抽出して分析し、未来を洞察していくことが求められている。本ゼミでは、世界経済の牽引役として、国際的プレゼンスの高まりを見せている中国を立体的かつ複眼的な視点で理解するための基礎的な知識の習得と産業社会が求める問題解決能力に優れ、かつ高度なコミュニケーション能力を備えた「グローバル人材」を念頭に置きながら各種調査活動やプレゼンテーション及びディスカッションを積極的に行う。ゼミ生は、本ゼミを通じて修得した知識とノウハウを自分の就職活動や将来に向けて活用できるようにすることは必須である。

本ゼミの目的は二つある。一つは、企業が求める「グローバル人材」の育成である。近年、アジア・大洋州地域域内及び日本とアジア・大洋州地域の経済の緊密化に伴い、日本企業は「アジア重視」へ舵を切り始め、人材戦略の面では「グローバル人材」の育成に注力している。こうした日本企業（外資系企業も含む）の動向を踏まえ、学生諸君の卒業後の就職活動や大学院への進学の一助となることを念頭に置きながら企業が求めるグローバル人材（主体性、外国語によるコミュニケーション能力、協調性、異文化に対する興味・関心・適応力、多角的・複合的な手法でグローバルな問題に取り組む能力、既存概念に捉われず、チャレンジ精神を持つなど）の育成を最大の目的とする。もう一つは、中国を中心とした大中華圏への理解を深めることである。中国を中心とした大中華圏（香港・台湾・シンガポールを含む）の経済、政治、外交関係に関するテーマを取り上げ、全員参加の議論を重ね、中国及び大中華圏のビジネスに関わる基本的な知識やノウハウを身に付けることである。

本ゼミの運営方法としては、「学生による文献調査＋レポート作成＋ゼミ報告＋ディスカッション」の形式を採用する。具体的には、ゼミ生が日本や中国及び大中華圏に関する時事問題からトピックを選び、自分自身で関連文献やデータの収集、調査を行った上レポートの作成とプレゼンテーションを行う。それに基づいて、ゼミ生全員で議論し、問題の所在と問題解決のための方法論を検討する。又、アジア主要国地域の政治経済概況に関する情報やデータの収集と定期的な更新作業を行い、報告する。更には、学外学習の一環として、フィールド調査・人的ネットワーク形成の観点から各種セミナーや合同ゼミの実施や留学生、企業関係者との交流活動も行う。可能な場合は海外視察（海外の大学や企業、工場など）も実施する。なお、ゼミの運営方法に関しては、学生の意見やアイデアを積極的に取り入れる。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会力育成／グローバルビジネス／ビジネスICT／地域ビジネス

■到達目標

①2年時は、中国経済と中国ビジネスに関する基礎的な知識や理論を習得し、中国や世界発の各種情報の収集・分析・発

信する能力を身に付ける。

②3年時は、中国経済や中国ビジネスに関する問題点や課題を発見し、経営戦略やビジネスモデルの立案などを通じて問題解決能力を備える。

③4年時は、中国を始めアジア地域に対する深い理解力と専門知識を備える。

■講義形態

GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

①2年時は、アジアティリーニュース（毎日、当番制）やアジア政治経済概況（ゼミ毎、当番制）の作成と発信・報告を行う。2年後半には、卒業論文のテーマを決定し、関連する文献や情報の収集、調査を行う。

②3年時は、卒業論文の作成進捗状況を報告する。また、就職や大学院進学などの進路指導も行う。

③4年時は、卒業論文を推敲し、完成させる。

■指定図書

『世界を知る力』（寺島実郎、PHP新書、2010年）

『世界を知る力 日本創生編』（寺島実郎、PHP新書、2011年）

■参考文献

関志雄『チャイナ・アズ・ナンバワン』、東洋経済新聞社、2009年

三井物産戦略研究所『アジアを見る眼』、共同通信社、2012年

■評価方法

評価は、出席（35%）、報告およびディスカッション（35%）、学年毎のレポート（30%）により行う。

■評価基準

相対評価

出席と報告およびディスカッションを重視（35%+35%＝70%）する。

レポート（30%）は、2年時はアジアティリーニュースとアジア政治経済概況、3年時は卒業論文の作成、4年時は卒業論文の完成。卒業論文は、中国やアジア戦略をテーマに設定し、作成する。なお、レポートは、独自の視点や問題意識を持ち、問題解決へ向けての積極的な取り組み姿勢を重視する。

■事前履修科目等

当ゼミの履修にあたり世界潮流とグローバルビジネス関連科目を履修すること。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

■参考URL

日本外務省 HP：http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/index.html

日本貿易振興機構 HP：http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/中国・新華通信 HP：http://www.xinhua.jp

共同通信 HP：http://www.kyodo.co.jp

環日本海経済研究所 HP：http://www.erina.or.jp/index.html.ja

在日本中国大使館 HP：http://www.china-embassy.or.jp/jpn/

科目名 ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕

担当教員 浜田 正幸

■講義目的

本ホームゼミナールでは、全学年を合わせて一つの会社組織としてマネジメントしていく。組織経営のためには、さまざまな資源のマネジメント手法やその哲学を先人から学び、自らのものへと昇華し、創りだしていかなければならない。そのためには実際に起こっているFactを正しく把握する技術が必要であり、そのFactをふまえた上で、問題解決していく技術が必要である。そのような実社会で必要とされるものの考え方や技術・知識を、実践的に学んでいくのが、本ゼミナールの目的である。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス／ビジネスICT／地域ビジネス

■到達目標

本ゼミナール終了時には、社会人3年目程度の知識・技術・作法・人間性を獲得している事を目標としている。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR

GD・GW・PR

その他(調査・問題解決技法、調査データ集計エクセル、ppt資料作成、プレゼンテーション、合宿)

[学外学習有]

■講義の概要

フィールドワーク、参与観察法、インタビュー技法、質問紙法、統計学、報告書の書き方、プロジェクトマネジメント、会議の進め方、問題解決技法などを実際の社会でのテーマで取り組み、使いこなせるまでトレーニングする。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献

講義内に適宜紹介する

■評価方法

講義の最終回に試験を実施し、その答案の量と質で評価する。出席点は加点されるが、減点はされない。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

1年時秋に実施される採用試験に合格し、内定を得ているものに限る。

科目名 ホームゼミナールⅠ・Ⅲ・Ⅴ〔SeminarsⅠ・Ⅲ・Ⅴ〕

担当教員 樋口 裕一

■講義目的

クラシック音楽を多摩地区のひとびと、とりわけ若者に広めるための活動を行う。ゼミ生が、一流演奏家に出演交渉をし、会場を探し、プログラム、ポスター作りなどをして、ゼミ生主催の本格的コンサートを開く。このような活動によって、産業社会で活躍し、問題発見、解決に不可欠な企画力、行動力を養成する。また、就職のために必要なコミュニケーション力も養う。

■講義分類

☐ 顧客理解 ☐ ビジネス環境理解 ☐ ビジネス創造 ☐ ビジネスマネジメント ☐ 社会人力育成 ☐ グローバルビジネス? ☐ ビジネスICT ☐ 地域ビジネス

■到達目標

一つのグループで、クラシック音楽コンサート企画し、出演者・会場などとの交渉、当日のコンサートの運営など、すべてを行えるようにする。

■講義形態

☐ 講義のみ ☐ 講義 + GD・GW・PR
☐ GD・GW・PR ☐ その他()
 GD: グループディスカッション
 GW: グループワーク PR: プレゼンテーション
☐ 学外学習有 ☐ 学外学習無

■講義の概要

〈第1講〉

概要: オリエンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]

詳細: 企画書の書き方 会議の仕方 メールの書き方など基本的なマナーについて。

〈第2講〉

概要: ゼミをうまく進めるために

事前学習しておくべき用語やポイント[企画+教科書]

詳細: 企画書の書き方 会議の仕方 メールの書き方の実際

〈第3講〉

概要: 企画+音楽教養講座1

事前学習しておくべき用語やポイント[企画+教科書]

詳細: バロック音楽①

〈第4講〉

概要: 企画+音楽教養講座2

事前学習しておくべき用語やポイント[企画+教科書]

詳細: バロック音楽②

〈第5講〉

概要: 企画+音楽教養講座3

事前学習しておくべき用語やポイント[企画+教科書]

詳細: 古典派の音楽①

〈第6講〉

概要: 企画+音楽教養講座4

事前学習しておくべき用語やポイント[企画+教科書]

詳細: 古典派の音楽②

〈第7講〉

概要: 企画+音楽教養講座5

事前学習しておくべき用語やポイント[企画+教科書]

詳細: 古典派の音楽③

〈第8講〉

概要: 企画+音楽教養講座6

事前学習しておくべき用語やポイント[企画+教科書]

詳細: ロマン派前期の音楽①

〈第9講〉

概要: 企画+音楽教養講座7

事前学習しておくべき用語やポイント[企画+教科書]

詳細: ロマン派前期の音楽②

〈第10講〉

概要: 企画+音楽教養講座8

事前学習しておくべき用語やポイント[企画+教科書]

詳細: ロマン派後期の音楽①

〈第11講〉

概要: 企画+音楽教養講座9

事前学習しておくべき用語やポイント[企画+教科書]

詳細: ロマン派後期の音楽②

〈第12講〉

概要: 企画+音楽教養講座10

事前学習しておくべき用語やポイント[企画+教科書]

詳細: ロマン派後期の音楽③

〈第13講〉

概要: 企画+音楽教養講座11

事前学習しておくべき用語やポイント[企画+教科書]

詳細: 国民楽派の音楽

〈第14講〉

概要: 企画+音楽教養講座12

事前学習しておくべき用語やポイント[企画+教科書]

詳細: 20世紀の音楽

〈第15講〉

概要: 企画+音楽教養講座13

事前学習しておくべき用語やポイント[これまで実行したコンサートの資料を準備]

詳細: 学外コンサートについての反省会

■教科書

『知識ゼロからのクラシック音楽鑑賞術入門』 幻冬舎

■指定図書

なし

■参考文献

頭がよくなるクラシック』 幻冬舎文庫

『音楽によって人は輝く』 集英社新書

■評価方法

出席・活動記録・発表・レポート

(クラシック音楽のコンサートを企画するには最低限の知識が不可欠なので、きわめて簡単な小テストを行う。不合格を続けるものは、コンサート企画への参加を認めない。よって必然的に不合格となる)

■評価基準

☐ 相対評価 ☐ 絶対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

☐ 実施する ☐ 実施しない

■留意点

複数のグループに分かれて活動する。グループ外のメンバーも、本書のコンサートでは全面的に参加するが、基本的に小グループごとに、コンサートを企画、実現する。通常のゼミの時間は、前半の約45分間、音楽についての講義(CDやDVDの観覧を中心とする)を行い、残りの時間をグループごとに企画などの活動にあてる。ただし、本書のコンサートが近づいているときなどは、音楽についての講義を行わないこともある。いずれにせよ、まず自分がクラシック音楽を愛するところから始める必要がある。できるだけたくさん曲を聴き、教養を身につけ、自分が得た感動を他者に伝えるように努めてほしい。

科目名 ホームゼミナールⅡ・Ⅳ・Ⅵ〔Seminars Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ〕

担当教員 樋口 裕一

■講義目的

クラシック音楽を多摩地区のひとびと、とりわけ若者に広めるための活動を行う。ゼミ生が、一流演奏家に出演交渉をし、会場を探し、プログラム、ポスター作りなどをして、ゼミ生主催の本格的コンサートを開く。このような活動によって、産業社会で活躍し、問題発見、解決に不可欠な企画力、行動力を養成する。また、就職のために必要なコミュニケーション力も養う。

■講義分類

- ☐顧客理解 ☐ビジネス環境理解／☐ビジネス創造 ☐ビジネスマネジメント ☐社会人力育成／☐グローバルビジネス ☐ビジネスICT ☐地域ビジネス

■到達目標

一つのグループで、クラシック音楽コンサート企画し、出演者・会場などとの交渉、当日のコンサートの運営など、すべてを行えるようにする。

■講義形態

- ☐講義のみ ☐講義＋GD・GW・PR
☐GD・GW・PR ☐その他()
 GD:グループディスカッション
 GW:グループワーク
 PR:プレゼンテーション
☐ 学外学習有 ☐ 学外学習無

■講義の概要

〈第1講〉

概要:オリエンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント〔特になし〕

詳細:企画書の書き方 会議の仕方 メールの書き方など基本的なマナーについて。

〈第2講〉

概要:ゼミをうまく進めるために

事前学習しておくべき用語やポイント〔企画＋教科書〕

詳細:企画書の書き方 会議の仕方 メールの書き方の実際

〈第3講〉

概要:企画＋音楽教養講座1

事前学習しておくべき用語やポイント〔企画＋教科書〕

詳細:交響曲①

〈第4講〉

概要:企画＋音楽教養講座2

事前学習しておくべき用語やポイント〔企画＋教科書〕

詳細:交響曲②

〈第5講〉

概要:企画＋音楽教養講座3

事前学習しておくべき用語やポイント〔企画＋教科書〕

詳細:交響曲③

〈第6講〉

概要:企画＋音楽教養講座4

事前学習しておくべき用語やポイント〔企画＋教科書〕

詳細:協奏曲①

〈第7講〉

概要:企画＋音楽教養講座5

事前学習しておくべき用語やポイント〔企画＋教科書〕

詳細:協奏曲②

〈第8講〉

概要:企画＋音楽教養講座6

事前学習しておくべき用語やポイント〔企画＋教科書〕

詳細:室内楽①

〈第9講〉

概要:企画＋音楽教養講座7

事前学習しておくべき用語やポイント〔企画＋教科書〕

詳細:室内楽②

〈第10講〉

概要:企画＋音楽教養講座8

事前学習しておくべき用語やポイント〔企画＋教科書〕

詳細:室内楽③

〈第11講〉

概要:企画＋音楽教養講座9

事前学習しておくべき用語やポイント〔企画＋教科書〕

詳細:器楽①

〈第12講〉

概要:企画＋音楽教養講座10

事前学習しておくべき用語やポイント〔企画＋教科書〕

詳細:器楽②

〈第13講〉

概要:企画＋音楽教養講座11

事前学習しておくべき用語やポイント〔企画＋教科書〕

詳細:歌曲・歌劇①

〈第14講〉

概要:企画＋音楽教養講座12

事前学習しておくべき用語やポイント〔企画＋教科書〕

詳細:歌曲・歌劇

〈第15講〉

概要:企画＋音楽教養講座13

事前学習しておくべき用語やポイント〔これまで実行したコンサートの資料を準備〕

詳細:学外コンサートについての反省会

■教科書

『知識ゼロからのクラシック音楽鑑賞入門』 幻冬舎

■指定図書

なし

■参考文献

『頭がよくなるクラシック』 幻冬舎文庫

『音楽によって人は輝く』 集英社新書

■評価方法

出席・活動記録・発表・レポート

(クラシック音楽のコンサートを企画するには最低限の知識が不可欠なので、きわめて簡単な小テストを行う。不合格を続けるものは、コンサート企画への参加を認めない。よって必然的に不合格となる)

■評価基準

☐相対評価

☐絶対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施☐実施する ☐実施しない**■留意点**

複数のグループに分かれて活動する。グループ外のメンバーも、本番のコンサートでは全面的に参加するが、基本的に小グループごとに、コンサートを企画、実現する。通常のゼミの時間は、前半の約45分間、音楽についての講義(CDやDVDの観賞を中心とする)を行い、残りの時間をグループごとに企画などの活動にあてる。ただし、本番のコンサートが近づいているときなどは、音楽についての講義を行わないこともある。いずれにせよ、まず自分がクラシック音楽を愛するところから始める必要がある。できるだけたくさんの曲を聴き、教養を身につけ、自分が得た感動を他者に伝えるように努めてほしい。

科目名

ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕

担当教員

久恒 啓一

■講義目的

行政、ビジネス、教育などあらゆる分野でのコミュニケーションの手段は、文章と箇条書きが中心である。文章最大の特徴はごまかしができることである。また箇条書きはそれぞれの項目の大小、重なり、関係を示すことができない。関係を意識する図解コミュニケーション力を鍛えるのもっとも大きなメリットは、「考える力」を身につけることができる点である。ゼミ生は実戦経験を重ね、卒業までに考えるための強力な武器となる「図解思考」を自分のものにすることができる。「お客様に立つ」「顧客重視」「お客様第一主義」などはサービス業のみならずあらゆる業種で唱えられている。これをCS(Customer Satisfaction: 顧客満足)という。しかし継続的にその考え方を実現できる仕組みを整えたり、この考え方を日常の仕事の中に一貫して落とし込むには大きな忍耐力と実践的な知恵と戦略が求められる。組織は「お客様の声」を通じて磨かれていくが、顧客との接点を失い、軽視した組織は次第に供給側の論理で仕事をする体質になり、顧客の支持を失い、結果として存立基盤を脅かされることになる。今日、公共性を標榜してきた多くの分野は、銀行などの金融業種、新聞やテレビのマスコミ、病院や検診機関などの医療関係機関、介護を担当する福祉施設、学生に知識を与える学校教育、住民との多様な接点を持つ現場を抱える地方自治体などにも「顧客満足」を考えたシステムやホスピタリティが求められている。今後はこういった分野にも、顧客の視点と経営の視点が必要である。

問題解決の武器としての「図解思考」、問題解決の視点としての「顧客満足」を身につけ、産業社会を形成する企業・地域・行政などの最前線の問題解決プロジェクトに挑戦する中で産業社会の問題解決の最前線に立つ人材を育てる志を持った実学ゼミとする方針である。

◎プロジェクトのテーマ

- ・東京ヴェルディ応援プロジェクト
- ・多摩の手土産プロジェクト
- ・スポーツゴミ拾いプロジェクト
- ・多摩エクセレントカンパニープロジェクト

■講義分類

ビジネスマネジメント／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

問題解決の武器としての「図解思考」と「図解の技術」を身につける。

パワーポイントを用いて図を描く能力を身につける。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

〈第1講〉

概要：オリエンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント〔図解思考〕

詳細：ゼミの説明・進め方

図解実習

〈第2講〉

概要：グループ分け

事前学習しておくべき用語やポイント〔図解思考〕

詳細：図解実習

プロジェクトの説明と参加プロジェクトの選択

〈第3講〉

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント〔図解思考〕

詳細：図解実習

プロジェクトチームの形成(自己紹介・リーダー選出)

〈第4講〉

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント〔図解思考〕

詳細：図解実習

プロジェクトの方向を議論

〈第5講〉

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント〔図解思考〕

詳細：図解実習

プロジェクトの今年度テーマを決定

〈第6講〉

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント〔図解思考〕

詳細：図解実習

情報収集

〈第7講〉

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント〔図解思考〕

詳細：図解実習

情報収集

〈第8講〉

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント〔図解思考〕

詳細：図解実習

フィールドワーク

〈第9講〉

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント〔図解思考〕

詳細：図解実習

フィールドワーク

〈第10講〉

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント〔図解思考〕

詳細：図解実習

フィールドワーク

〈第11講〉

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント〔図解思考〕

詳細：図解実習

フィールドワーク

〈第12講〉

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント〔図解思考〕

詳細：図解実習

発表準備

〈第13講〉

概要：グループ発表

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

詳細：プロジェクト毎に発表

〈第14講〉

概要：グループ発表

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

詳細：プロジェクト毎に発表・二回目

〈第15講〉

概要：全体発表

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

詳細：ゼミ全体で発表

■教科書

「図で考える技術が身につくトレーニング30」（久恒啓一）[自由国民社]

■指定図書

「図で考える技術が身につくトレーニング30」（久恒啓一）[自由国民社]

■参考文献

ゼミ中に随時指示する。

■参考 URL

<http://www.hisatune.net/>

■評価方法

- 1.出席
- 2.ゼミの成果への貢献

■評価基準

ゼミへの出席を前提として、ゼミの成果への貢献の度合いを評価する。

絶対評価

P：図解思考と顧客満足の視点を身に付けた。出席率と貢献度が高い。

F：図解思考と顧客満足の視点への理解が不足している。出席率と貢献度が低い。

■事前履修科目等

「問題解決学」分野の科目を多数履修することが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

■参考 URL

<http://www.hisatune.net/><http://www.hisatune.net/html/01-kyouiku/tamadai/home-seminar/index.htm>

科目名 ホームゼミナールⅠ(SeminarsⅠ)

担当教員 広瀬 一郎

■講義目的

「スポーツを考える」を通じ、「考える」とはどういうことか、「理解する」とはどういうことか、を学ぶ。

第一に「スポーツ」に関するナレッジの修得であるが、特に社会的な側面、つまり「文化」や「競技」に留まらず、「政治的」「経済的」な側面を考え整理する。

「スポーツの公共性」を考えることで、そもそも「公共性」とは何か、を考えることになるだろう。

「スポーツの教育的な意味」を考えることで、そもそも「教育」とは何のためにあるのか、を問うことになるだろう。

「情報を得る」「事実を客観的に理解する」ことが、戦略思考の前提となる。事態や情報を構造的に把握したら、次にその分析／評価に移る。評価した上で、軽重を判断し、優先順位をつける。「戦略」とは、「優先順位」の別称である。戦略の実行において、自らの意思を他者に伝える技量が必要になる。以上を段階的にゼミで修得する。

■講義分類

ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

最終的には、「社会の豊かさ」を「問い、自分の人生の豊かさを問い直すことになるだろう。

社会の健全さと自己の生の関係を把握しないで「善く生きる」ことは不可能である。この関係性を体得することが全ての始まりになるはずだ。

■講義形態

1)「課題図書」

2)「時事」

以上の2つについて、毎週の当番制でプレゼンテーションをし、全員で内容の吟味ディスカッションをする□

■講義の概要

指定図書の読み込みを行い、グループ毎に担当箇所をプレゼンテーションし、全員でディスカッションする。

詳細は期初にメンバーで決定する。

■指定図書

2年生は「10年後、仕事で差がつく戦略思考」(広瀬一郎／東洋経済新報社)

3年生は「サッカービジネスの基礎知識」

4年生は「サッカーで燃える国、野球で儲ける国」(シマンスキー／クーパー)

■参考文献

List「ゴールは偶然の産物ではない」(ソリアーノ著／アチーブメント出版)

「60億円を投資できるMLBのからくり」(Aジンバリスト／BBマガジン社)

「アティダスとプーマ」(Bシュミット／ランダムハウス小学館)

■評価方法

出席と姿勢／態度。プレゼンテーション。

■評価基準

出席が50%以下なら単位取得は不可。

■留意点

社会的な事象に対する興味の無いものは不向き。読書の嫌いな者、不得手な者を不向き。

精神的に追い詰めるので、弱い者は不向き。(肉体的にも精神的にも避ける方が賢明である。)

「スポーツマーケティング」(通年)と、「スポーツマンシップ」(後期)を履修することが条件である。

科 目 名 ▶ **ホームゼミナールⅡ(SeminarsⅡ)****担当教員** ▶ **広瀬 一郎****■講義目的**

Criticalな思考、論理的な思考」を身に着け、大学卒業時の自分の到達イメージを持つ。

■講義分類

ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

最終的には、「社会の豊かさ」を問い、自分の人生の豊かさを問い直すことになるだろう。

社会の健全さと自己の生の関係を把握しないで「善く生きる」ことは不可能である。この関係性を体得することが全ての始まりになるはずだ。

■講義形態

1)「課題図書」

2)「時事」

以上の2つについて、毎週の当番制でプレゼンテーションをし、全員で内容の吟味ディスカッションをする□

■講義の概要

指定図書の読み込みを行い、グループ毎に担当箇所をプレゼンテーションし、全員でディスカッションする。

詳細は期初にメンバーで決定する。

■指定図書

2年生は「10年後、仕事で差がつく戦略思考」(広瀬一郎／東洋経済新報社)

3年生は「サッカービジネスの基礎知識」

4年生は「サッカーで燃える国、野球で儲ける国」

■参考文献

「ゴールは偶然の産物ではない」(ソリアーノ著／アチーブメント出版)

「60億円を投資できるMLBのからくり」(Aジンバリスト／BBマガジン社)

「アティダスとブーマ」(Bシュミット／ランダムハウス小学館)

■評価方法

出席と姿勢／態度。プレゼンテーション。

■評価基準

出席が50%以下なら単位取得は不可。

■留意点

社会的な事象に対する興味の無いものは不向き。読書の嫌いな者、不得手な者を不向き。

精神的に追い詰めるので、弱い者は不向き。(肉体的にも精神的にも避ける方が賢明である。)

科目名 ホームゼミナールⅢ(SeminarsⅢ)

担当教員 広瀬 一郎

■講義目的

「スポーツを考える」を通じ、「考える」とはどういうことか、「理解する」とはどういうことか、を学ぶ。

第一に「スポーツ」に関するナレッジの修得であるが、特に社会的な側面、つまり「文化」や「競技」に留まらず、「政治的」「経済的」な側面を考え整理する。

「スポーツの公共性」を考えることで、そもそも「公共性」とは何か、を考えることになるだろう。

「スポーツの教育的な意味」を考えることで、そもそも「教育」とは何のためにあるのか、を問うことになるだろう。

「情報を得る」「事実を客観的に理解する」ことが、戦略思考の前提となる。事態や情報を構造的に把握したら、次にその分析／評価に移る。評価した上で、軽重を判断し、優先順位をつける。「戦略」とは、「優先順位」の別称である。戦略の実行において、自らの意思を他者に伝える技量が必要になる。以上を段階的にゼミで修得する。

■講義分類

ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

最終的には、「社会の豊かさ」を「問い、自分の人生の豊かさを問い直すことになるだろう。

社会の健全さと自己の生の関係を把握しないで「善く生きる」ことは不可能である。この関係性を体得することが全ての始まりになるはずだ。

■講義形態

1)「課題図書」

2)「時事」

以上の2つについて、毎週の当番制でプレゼンテーションをし、全員で内容の吟味ディスカッションをする□

■講義の概要

指定図書の読み込みを行い、グループ毎に担当箇所をプレゼンテーションし、全員でディスカッションする。

詳細は期初にメンバーで決定する。

■指定図書

2年生は「10年後、仕事で差がつく戦略思考」(広瀬一郎／東洋経済新報社)

3年生は「サッカービジネスの基礎知識」

4年生は「サッカーで燃える国、野球で儲ける国」(シマンズキー／クーバー)

■参考文献

「ゴールは偶然の産物ではない」(ソリアーノ著／アチーブメント出版)

「60億円を投資できるMLBのからくり」(Aジンバリスト／BBマガジン社)

「アティダスとプーマ」(Bシュミット／ランダムハウス小学館)

■評価方法

出席と姿勢／態度。プレゼンテーション。

■評価基準

出席が50%以下なら単位取得は不可。

■留意点

社会的な事象に対する興味の無いものは不向き。読書の嫌い

な者、不得手な者を不向き。

精神的に追い詰めるので、弱い者は不向き。(肉体的にも精神的にも避ける方が賢明である。)

「スポーツマーケティング」(通年)と、「スポーツマンシップ」(後期)を履修することが条件である

科 目 名 ホームゼミナールⅣ〔SeminarsⅣ〕

担当教員 広瀬 一郎

■講義目的

Course「スポーツを考える」ことを通じ、「考える」とはどういうことか、「理解する」とはどういうことか、を学ぶ。
第一に「スポーツ」に関するナレッジの修得であるが、特に社会的な側面、つまり「文化」や「競技」に留まらず、「政治的」「経済的」な側面を考え整理する。
「スポーツの公共性」を考えることで、そもそも「公共性」とは何か、を考えることになる。
「スポーツの教育的な意味」を考えることで、そもそも「教育」とは何のためにあるのか、を問うことになるだろう。
「情報を得る」「事実を客観的に理解する」ことが、戦略思考の前提となる。事態や情報を構造的に把握したら、次にその分析／評価に移る。評価した上で、軽重を判断し、優先順位をつける。「戦略」とは、「優先順位」の別称である。戦略の実行において、自らの意思を他者に伝える技量が必要になる。以上を段階的にゼミで修得する。

■講義分類

ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

最終的には、「社会の豊かさ」を問い、自分の人生の豊かさを問い直すことになるだろう。
社会の健全さと自己の生の関係を把握しないで「善く生きる」ことは不可能である。この関係性を体得することが全ての始まりになるはずだ。

■講義形態

- 1)「課題図書」
- 2)「時事」

以上の2つについて、毎週の当番制でプレゼンテーションをし、全員で内容の吟味ディスカッションをする。

■講義の概要

指定図書の読み込みを行い、グループ毎に担当箇所をプレゼンテーションし、全員でディスカッションする。
詳細は期初にメンバーで決定する。

■指定図書

2年生は「10年後、仕事で差がつく戦略思考」(広瀬一郎／東洋経済新報社)
3年生は「サッカービジネスの基礎知識」(広瀬一郎／東邦出版)
4年生は「サッカーで燃える国、野球で儲ける国」(シマンスキー／クーパー)

■参考文献

List「ゴールは偶然の産物ではない」(ソリアーノ著／アチーブメント出版)
「60億円を投資できるMLBのからくり」(Aジンバリスト／BBマガジン社)
「アティダスとプーマ」(Bシュミット／ランダムハウス小学館)

■評価方法

出席と姿勢／態度。プレゼンテーション。

■評価基準

出席が50%以下なら単位取得は不可。

■留意点

社会的な事象に対する興味の無いものは不向き。読書の嫌いな者、不得手な者を不向き。
精神的に追い詰めるので、弱い者は不向き。(肉体的にも精神的にも避ける方が賢明である。)
「スポーツマーケティング」(通年)と、「スポーツマンシップ」(後期)を履修することが条件である

科目名 ホームゼミナールⅤ〔SeminarsⅤ〕

担当教員 広瀬 一郎

■講義目的

Course「スポーツを考える」ことを通じ、「考える」とはということか、「理解する」とはどういうことか、を学ぶ。

第一に「スポーツ」に関するナレッジの修得であるが、特に社会的な側面、つまり「文化」や「競技」に留まらず、「政治的」「経済的」な側面を考え整理する。

「スポーツの公共性」を考えることで、そもそも「公共性」とは何か、を考えることになるだろう。

「スポーツの教育的な意味」を考えることで、そもそも「教育」とは何のためにあるのか、を問うことになるだろう。

「情報を得る」「事実を客観的に理解する」ことが、戦略思考の前提となる。事態や情報を構造的に把握したら、次にその分析／評価に移る。評価した上で、軽重を判断し、優先順位をつける。「戦略」とは、「優先順位」の別称である。戦略の実行において、自らの意思を他者に伝える技量が必要になる。以上を段階的にゼミで修得する。

的にも避ける方が賢明である。)

「スポーツマーケティング」(通年)と、「スポーツマンシップ」(後期)を履修することが条件である

■講義分類

ビジネスマネジメント／社会人育成

■到達目標

最終的には、「社会の豊かさ」を問い、自分の人生の豊かさを問い直すことになるだろう。

社会の健全さと自己の生の関係を把握しないで「善く生きる」ことは不可能である。この関係性を体得することが全ての始まりになるはずだ。

■講義形態

1)「課題図書」

2)「時事」

以上の2つについて、毎週の当番制でプレゼンテーションをし、全員で内容の吟味ディスカッションをする□

■講義の概要

指定図書の読み込みを行い、グループ毎に担当箇所をプレゼンテーションし、全員でディスカッションする。

詳細は期初にメンバーで決定する。

■教科書

なし

■指定図書

2年生は「10年後、仕事で差がつく戦略思考」(広瀬一郎／東洋経済新報社)

3年生は「サッカービジネスの基礎知識」

4年生は「サッカーで燃える国、野球で儲ける国」(シマンスキー／クーパー)

■参考文献

なし

■評価方法

出席と姿勢／態度。プレゼンテーション。

■評価基準

出席が50%以下なら単位取得は不可。

■留意点

社会的な事象に対する興味の無いものは不向き。読書の嫌いな者、不得手な者を不向き。

精神的に追い詰めるので、弱い者は不向き。(肉体的にも精神

科 目 名 ホームゼミナールVI(Seminars VI)**担当教員** 広瀬 一郎**■講義目的**

Course「スポーツを考える」ことを通じ、「考える」とはどういうことか、「理解する」とはどういうことか、を学ぶ。

第一に「スポーツ」に関するナレッジの修得であるが、特に社会的な側面、つまり「文化」や「競技」に留まらず、「政治的」「経済的」な側面を考え整理する。

「スポーツの公共性」を考えることで、そもそも「公共性」とは何か、を考えることになる。

「スポーツの教育的な意味」を考えることで、そもそも「教育」とは何のためにあるのか、を問うことになるだろう。

「情報を得る」「事実を客観的に理解する」ことが、戦略思考の前提となる。事態や情報を構造的に把握したら、次にその分析／評価に移る。評価した上で、軽重を判断し、優先順位をつける。「戦略」とは、「優先順位」の別称である。戦略の実行において、自らの意思を他者に伝える技量が必要になる。以上を段階的にゼミで修得する。

的にも避ける方が賢明である。)

「スポーツマーケティング」(通年)と、「スポーツマンシップ」(後期)を履修することが条件である

■講義分類

ビジネスマネジメント／社会力育成

■到達目標

最終的には、「社会の豊かさ」を問い、自分の人生の豊かさを問い直すことになるだろう。

社会の健全さと自己の生の関係を把握しないで「善く生きる」ことは不可能である。この関係性を体得することが全ての始まりになるはずだ。

■講義形態

1)「課題図書」

2)「時事」

以上の2つについて、毎週の当番制でプレゼンテーションをし、全員で内容の吟味ディスカッションをする。

■講義の概要

指定図書の読み込みを行い、グループ毎に担当箇所をプレゼンテーションし、全員でディスカッションする。

詳細は期初にメンバーで決定する。

■教科書

なし

■指定図書

2年生は「10年後、仕事で差がつく戦略思考」(広瀬一郎／東洋経済新報社)

3年生は「サッカービジネスの基礎知識」

4年生は「サッカーで燃える国、野球で儲ける国」(シマンスキー／クーパー)

■参考文献

なし

■評価方法

出席と姿勢／態度。プレゼンテーション。

■評価基準

出席が50%以下なら単位取得は不可。

■留意点

社会的な事象に対する興味の無いものは不向き。読書の嫌いな者、不得手な者を不向き。

精神的に追い詰めるので、弱い者は不向き。(肉体的にも精神

科目名 ホームゼミナールⅠ〔SeminarsⅠ〕

担当教員 増田 浩通

■講義目的

ホームゼミナールを通じて、文献を正しく読め、レポート等を書く力を養う。また、情報化社会の基礎教養として、プログラミングの経験をする。

■講義分類

社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

与えられた課題に対し、自分から積極的に調べ、レポートやパワーポイント資料にまとめられる能力の向上を目標とする。

■講義形態

グループディスカッション
グループワーク
プレゼンテーション〔学外学習有〕

■講義の概要

〈第1講〉ガイダンス

〈第2講〉から〈第5講〉

概要：購読書を基に、各自が読み込んで調べたことを、パワーポイントにして発表する。

〈第6講〉から〈第10講〉

概要：英語の勉強の仕方を、音読等を通じて学ぶ。

〈第11講〉から〈第15講〉

概要：社会シミュレーションの一種であるエージェントベースシミュレーションのプログラミングの基礎を学ぶ。

■評価基準

相対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科 目 名 ▶ **ホームゼミナールⅡ～Ⅳ〔Seminars Ⅱ～Ⅳ〕****担当教員** ▶ **増田 浩通****■講義目的**

ホームゼミナールを通じて、文献を正しく読み、レポート等を書く力を養う。また、情報化社会の基礎教養として、プログラミングの経験をする。

■講義分類

社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

与えられた課題に対し、自分から積極的に調べ、レポートやパワーポイント資料にまとめられる能力の向上を目標とする。

■講義形態

グループディスカッション

グループワーク

プレゼンテーション〔学外学習有〕

■講義の概要

〈第1講〉ガイダンス

〈第2講〉から〈第5講〉

概要：購読書を基に、各自が読み込んで調べたことを、パワーポイントにして発表する。

〈第6講〉から〈第10講〉

概要：英語の勉強の仕方を、音読等を通じて学ぶ。

〈第11講〉から〈第15講〉

概要：社会シミュレーションの一種であるエージェントベースシミュレーションのプログラミングの基礎を学ぶ。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名 ▶ ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕

担当教員 ▶ 村山 貞幸

■講義目的

プロフェッショナル ビジネスパーソンに必要なマインドとスキルを獲得することで、ビジネスの高度な問題解決を行う能力を養う。

それは、就職力向上にもつながり、厳しい就職活動に打ち勝つ能力を獲得することになる。

本ゼミでは、プロフェッショナル ビジネスパーソンを、「社会性を重視し、組織目標を圧倒的に優れた能力により達成する人」とする。

そのために必要な能力は、以下と考える。

- 社会性
- 行動力
- 創造力
- 人脈構築力
- コミュニケーション力
- 論理的思考力

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / ビジネス創造
 / ビジネスマネジメント / 社会人力育成

■到達目標

- (1) プロフェッショナル マインドを高いレベルで獲得する。
- (2) プロフェッショナル スキルを高いレベルで獲得する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

<活動>

目的達成のための活動は、教員の提案に基づき、ゼミ生とともに検討する。

概要は以下の通り。

-2年生 ビジネスプランニング フェーズ

主課題: 論理的思考力、創造力

-3年生 プラン実行フェーズ

主課題: 行動力 表現力 人脈構築力

-4年生 コーチング フェーズ

主課題: 能力確認

別に、3年生後半から4年生にかけ、就職活動を意識したメニューを多彩に用意している。

<基本方針>

大学にとどまらず、社会人や他大学生、その他の組織の方々とともに、活動する。

企画にとどまらず、企画実行することを通じて学びを高める。

ゼミ活動にとどまらず、プライベートを含め、あらゆる活動をプロフェッショナル能力の獲得につなげる。

■教科書

グロービス・マネジメント・インスティテュート『改訂3版グロービスMBAマーケティング』（『新版MBAマーケティング』も可）ダイヤモンド社

■評価方法

ゼミ活動に対する貢献度。

提出物は、MS Officeのエクセル、ワード、パワーポイントにより作成。

■評価基準

各活動の量と質により総合的に評価。

■事前履修科目等

マーケティング入門

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科 目 名 **ホームゼミナールⅠ～Ⅵ〔SeminarsⅠ～Ⅵ〕****担当教員** **諸橋 正幸****■講義目的**

コンピュータを使いこなす技術がIT(情報技術)からICT(情報と通信技術)へとその呼び名を変えている現在、インターネットを核とするネットワーク上での情報の扱いが最重要の課題となっている。また、扱う対象が数値データから言語データへと広がりを見せていることも最近のICT技術の特徴である。そうした最新の技術を用いて、我々は何ができるのか、社会にどのようなインパクトを与えうるのかを探るのが本ゼミナールの中心課題である。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／
社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

企業が、基幹業務において如何に生産効率を上げ、また、事務処理効率を上げるための工夫を行っているかを理解する。さらに、顧客側の視点から最も望ましいサービスを提供する目的で企業間連携が行われている現状を知る。

現状を理解したうえで、その基礎となる技術を用いたシステムを自作する。あるいは、現状を反映するデータを分析することで理解度を深める。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

研究テーマはゼミ生各自で決め、進捗状況にあわせて助言を行う。

■参考文献

テーマごとに適宜紹介する。

■評価方法

2年次は、各自がやりたいことを実際の物作りに結び付けるためのプログラミング技術の習得と、自然言語処理のための理論の理解に力点を置く。3年次からは、各自テーマを決め、SRCでの発表とその時点での提出論文の完成度を評価する。年次が上がるに従って、完成度の評価には、そのテーマに関連した世の中の研究の動きをどの程度把握したか、自分がやっていることがその中でどういう位置付けにあるのか、自分の研究内容の独自性は何かなどに重点が移る。

■評価基準

演習、レポート、期末試験ともに、講義内容をどの程度理解したかを見る。

■事前履修科目等

ICT科目一般が望ましいが、研究テーマにより各自にガイドする。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名

ホームゼミナールⅤ～Ⅵ〔Seminars Ⅴ～Ⅵ〕

担当教員

山原 克明

■講義目的

本ゼミナールは、会計情報に基づく経営活動の分析と評価を主要なテーマとする。有価証券報告書や各企業のIR情報等から財務諸表にかかわる情報を収集して、企業の経営状況の分析と経営力(組織力:組織力をコアに生産力・販売力・財務力などを総合したもので、経営体(企業)の総合的な能力)の評価を研究する。

各人が実際の企業を取り上げ、定量的(quantitative:数値データ)な会計情報から企業の経営力(組織力)を分析・解釈・評価し、これに研究経営戦略、マーケティング、企業組織・文化、企業変革などにかかわる定性的(qualitative:数値以外)な視点を加えて考察を深める。

この研究を通じて、社会人として基本的な資質の育成を図り、「読む・書く・計算する」といったリテラシーを育てる。これを総合した成果として論文にまとめ、研究の段階ごとに、発表・報告(「聞く・話す」)を行う。

財務情報の収集、専門的な技法や用語などの理解には、積み重ねる努力が不可欠である。ゼミナールに出席するだけではなく、自らすすんで新たな発見をしようとする意欲が求められる。

■講義分類

ビジネス環境理解/ビジネス創造 /ビジネスマネジメント
□社会人力育成/地域ビジネス

■到達目標

経営分析の手法を用いて企業活動を分析して、それぞれの企業経営の特質を把握し、ゼミナールの時間やSRCなどでのプレゼンテーションを通じて、指導教官等とのディスカッションを十分に行うとともに、ロジカルに究明したプロセスと結果を相当ページ数の論文にまとめる。

■講義形態

講義+GD・GW・PR〔学外学習 無〕

■講義の概要

本ゼミナールは、会計情報に基づく経営活動の分析と評価を主要なテーマとし、企業の経営状況の分析と経営力の評価を研究する。財務諸表に集められた会計データは、企業の過去から現在に至るまでの実態を伝える信頼性の高い豊かな情報の源である。定量的な会計情報を的確にとらえるとともに、経営活動に関する広い定性的な知識を合わせて、企業の現状の価値を理解して未来を見通す取り組みが求められる。定量的な会計(アカウンティング)やファイナンス(Finance:金融)面の解明から、数値を超えて、ストラテジー=マーケティング=カルチャー(組織文化)による定性的な面へと観察を深める。

まず、会計の基本的な項目やIFRS(国際会計基準)に関連するこれからの諸基準の理解からはじめ、実際企業を取り上げて、経営戦略、マーケティングなどにかかわる定性的な視点を加えながら、定量的な企業の経営力(組織力)にかかわる情報の見方、分析・解釈、評価方法や手順に従って研究する。

[3年・春学期] ホームゼミナールⅢ ～企業グループの基礎的な財務諸表分析～

有価証券報告書から貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フ

ロー計算書などの主要な財務諸表を入手し、その中長期の財務データから実際の企業経営の姿を概観する。さらに、百分率財務諸表などによる経営活動のトレンドを解析・解釈・理解したうえで、財務諸表の分析・評価の理論体系に従って、分析結果を研究テーマとしてどのように展開するのかを構想する。

データの収集と分析(各種分析指標の算出)を通じて、経営活動の特徴的な動きを抽出し、変化をもたらした要因の整理の仕方、研究における用い方・伝え方(レポート)を習得する。

<予習・復習ポイント>

研究対象とする企業の概要を把握し、これを論述する手法を身に付けたか。

IFRSに対応した財務諸表(財政状態計算書・包括利益計算書)との対比ができたか。

[3年・秋学期] ホームゼミナールⅣ ～企業グループのパワーの解明～

企業グループとしての会計情報を研究することによって、新たな経営力の変化や問題点を考察する。

複合的な財務情報(連単、セグメント、キャッシュ・フローの分析指標)により、連結グループによる経営活動を掘り下げ、その分析経緯と結果をこれまでの論述に加える。あわせて、各種グラフ(Microsoft-Excel)により分析データをビジュアル化して論点を明確にし、PowerPointにより分析の要点を示して、研究事例として取り上げた企業のグループによる経営の全体像を把握する。

<予習・復習ポイント>

財務諸表分析の研究対象とする企業の収益性・安全性・キャッシュ・フローの状況を分析でできたか。

[4年・春学期] ホームゼミナールⅤ ～経済・業界・ライバル企業の特徴の究明～

専門図書、関係専門誌、インターネット等を通じて、これまでに分析した定量的な情報に加えて、経済・業界・ライバル企業等にかかわる定性的な情報を収集する。分析の対象とした企業の経営活動との関係を読み取り、これまでの分析・評価・解析結果に加味して考察を深める。

経営力の分析と評価に対する自らの問題意識を構造化して、当該企業の経営力評価の枠組みを構想する。また、さらに必要となる資料の収集計画をたて、研究事例として取り上げた企業を選定した意図と整合させるとともに、これまでの考察の妥当性を改めて検討する。

<予習・復習ポイント>

同種業界に所属する企業集団の状況を把握し、研究対象とする企業との比較・検討ができたか。

[4年・秋学期] ホームゼミナールⅥ ～研究成果のまとめ(研究・卒業論文の作成)～

それぞれの研究テーマ・データによって、財務諸表の分析による経営情報の研究をまとめ、分析結果とその評価を組み合わせる卒業論文を完成させる。これまでの研究を発表する機会をとらえて、卒業論文の要約をPowerPointにまとめ、SRCでの研究成果の発表に備える。

研究事例の選定理由、分析・解析部分の論述展開、参考文献

等の引用、データの取り上げ方、言い回し、専門用語の使い方、グラフによる表現、論述の構成などの可否を検討し、内容の全体的な妥当性や総括すべき事項の絞り込み具合を吟味する。

<予習・復習ポイント>

財務諸表分析の研究対象とする企業の全体像を整理し、過去・現在のデータを集約してロジカルに論文にまとめ、当該企業の未来を敷衍することができたか。

■教科書

- [1] 秋山純一・山原克明著 『財務会計テキスト』 東京経済情報出版
 [2] 今西崇男・田中利征著 『決算書会社の数字がわかる』 西東社
 [3] 西山茂著 『企業分析シナリオ』(第2版) 東洋経済新報社

■指定図書

- [1] 川口勉著 『Q&A 経営分析の実際』 日本経済新聞社
 [2] 谷江武士著 『事例でわかる連結経営分析』 中央経済社
 [3] 野村健太郎著 『連結企業集団の経営分析』 税務経理協会

■参考文献

落合俊彦著 『決算スーパー分析』(第3版) 金融財政事情研究会 その他、演習の各段階で指示する。

■参考 URL

<http://info.edinet.go.jp/>

■評価方法

課題研究・提出物(60%) 発表(10%) 出席(30%)

■評価基準

絶対評価

・課題研究 各演習の段階ごとに、経済・経営・情報にかかわる必要な知識を身に付けているか。

・提出物 専門の用語を正確に使用しているか。

課題の意図をよく理解し、的確に考察しているか。

進んで課題を取り上げ、よく理解して適切な分量で記述しているか。

(ホームゼミナールⅥでは、原則として卒論の内容・レベルによって評価する。)

・発表 正確・簡潔な表現で、よく整理された構成になっているか。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・毎回の演習に出席することが前提であり、興味関心を持って真面目に取り組む姿勢がのぞまれる。

・演習の段階ごとに、一定量のレポートあるいは論文を指示された日時までに必ず提出する。

科目名 社会人力セミナーⅠ～Ⅵ〔Basic Social Skills Ⅰ～Ⅵ〕 春学期

担当教員 奥山 雅之

■講義目的

職場や地域社会の中で、多種多様な人々とともに仕事をし、仕事上の問題などを解決していく上で必要な力が、社会人力です。基礎知識と専門知識を社会で活かしていく力とも言えるでしょう。特に

- ・「指示待ち」ではなく「一歩前に踏み出せる力」を持つ
 - ・「マニュアル」依存ではなく「考え抜く力」を持つ
 - ・「孤立している」のではなく「チームで協力する力」を持つ
- が組織や地域において求められる力です。
このセミナーでは、身近な問題や課題を解決するチームでの作業などを通して社会人基礎力の養成をはかります。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

前に踏み出す力・チームで働く力・考え抜く力を培う社会人基礎力養成を目的とする

■講義形態

- ・講義＋GD・GW・PR
- ・その他(学外学習無)

■講義の概要

社会人力セミナーは、社会人基礎力を修得する科目であり、春学期と秋学期合わせて30講をもって構成されている。

〈第1講〉概論

このセミナーについて、その位置づけなどを説明する。

〈第2講〉自己資源を探る

自己が持っているスキルや知識を整理して、自己資源について整理整頓する。

〈第3講〉自己分析と自己理解

社会の中の自分の位置づけを考える上で、自己分析や自己理解を明確にしておくことは必要条件である。これについて講義・演習します。

〈第4講〉人を動かす

問題解決を行う場合にはプロジェクトチームでの活動が必要となり、自分一人では解決できない。この講義では、問題解決において他人に協力してもらい行う場合のキーについて講義・演習します。

〈第5講〉目標設定

何らかの行動を起こす場合には、必ず目標が設定される。この場合に、その目標は実現可能性があるものでなければならぬ。この目標設定について講義・演習します。

〈第6講〉社会の常識と非常識

我々を取り巻く社会には習慣的で、明示的でないルールがある。これらについて理解し、自分なりの視点を有することは重要である。ここでは、特に、社会の常識と非常識に関して講義・演習します。

〈第7講〉ビジネスマナー(非言語要素)

ビジネスの様々な場面では、表情やしぐさなどの無意識に伝わる“何か”は言葉のもつ意味以上に会話や人間関係に作用します。これについて講義・演習します。

〈第8講〉ビジネスマナー(言語要素)

ビジネスの様々な場面では、言語的に明確にしてコミュニケーションを達成する必要があります。ここでは、「言葉遣い」

とされているものについて、ビジネスの枠組みで捉え直して、講義・演習します。

〈第9講〉伝わる話し方

ビジネスの様々な場面では、こちらの意図を誤解無く伝達することが重要です。そのための話し方にはキーポイントがあります。それらについて講義・演習します。

〈第10講〉発表(個人)

個人個人での発表を行い、発表力をつけます。そのためにはMSOfficeを用いて要旨などを作成する。

〈第11講〉理解する聴き方

ビジネスは、相手があつてこそ成り立ちます。そのためにも相手の主張などを誤解無く聴き、理解して整理することが重要です。これについて講義・演習します。

〈第12講〉真意を引き出す聴き方

ビジネスでは必ず交渉があります。交渉相手の真意を理解せずに意思を表明すると不適切なことがあります。ここでは、このような状況になることを避けるための聴き方について講義・演習します。

〈第13講〉情動指数(EQ)

ビジネスに必要な能力の高さを測るものとしてIQではなくEQと呼ばれるものが使用される場合があります。これについてその意味や解釈やその伸ばし方について講義・演習します。

〈第14講〉好感対応(アサーション)

顧客との対応で、交換対応が重要な要因となる場合があります。それを実際の演習を通じて理論的に学びます。

〈第15講〉まとめ

■教科書

講義に説明する

■指定図書

特になし

■参考文献

特になし

■評価方法

出席(50%)、演習・ワーク(50%)

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

履修者は春学期と秋学期の両方を履修すること

科目名 社会人力セミナーⅠ～Ⅵ〔Basic Social Skills Ⅰ～Ⅵ〕 秋学期

担当教員 奥山 雅之

講義目的

職場や地域社会の中で、多種多様な人々とともに仕事をし、仕事上の問題などを解決していく上で必要な力が、社会人力です。基礎知識と専門知識を社会で活かしていく力とも言えるでしょう。特に

- ・「指示待ち」ではなく「一歩前に踏み出せる力」を持つ
- ・「マニュアル」依存ではなく「考え抜く力」を持つ
- ・「孤立している」のではなく「チームで協力する力」を持つ

が組織や地域において求められる力です。
このセミナーでは、身近な問題や課題を解決するチームでの作業などを通して社会人基礎力の養成をはかります。

講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／社会人育成

到達目標

前に踏み出す力・チームで働く力・考え抜く力を培う社会人基礎力養成を目的とする

講義形態

- ・講義＋GD・GW・PR
- ・その他〔学外学習無〕

講義の概要

春学期からの継続科目として以下の内容について行う。

〈第1講〉交渉術（ネゴシエーション）

ビジネスでは、必ず交渉が必要となる。その場合に重要な交渉術について講義・演習を行う。

〈第2講〉チームワーク①（チームビルディング）

チームとして、業務を遂行する場合に、一貫して目標に対してチームとして行動する必要がある。その場合、適切なチームとして稼働するために必要なチームビルディングについて講義と演習を行う。

〈第3講〉チームワーク②（ブレインストーミング）

課題発見のための手法の一つであるブレインストーミングについて講義と演習を行う。

〈第4講〉発表（チーム）

チーム別に発表を行い、発表力のブラッシュアップを行う。そのためにはMSOfficeを用いて要旨などを作成する。

〈第5講〉ストレス耐性

目標を達成するためにはストレスをコントロールする力が必要です。そのために、まずはストレス耐性について理解し、自己のストレス耐性を高めることについて講義と演習を行う。

〈第6講〉ストレスマネジメント

人が対応できるストレスの質や量には限界がある。そこで、さまざまなストレスに対して処理できるようになるためのストレスマネジメントについて講義と演習を行う。

〈第7講〉思考法（多角的視野と着眼点強化）

問題解決においては、所定の問題を様々な面から検討し、そこでの発見をもとにして問題解決を構想することが大切である。これに関して講義と演習を行う。

〈第8講〉目標管理

ビジネスにおいては、時間が価値を持つ。そこで、目標を達成するためには、各人が目標管理能力を持つことが必須である。これについて講義と演習を行う。

〈第9講〉戦術と戦略の立て方

戦術と戦略は階層的な構造を持っている。課題解決や問題解決において戦術と戦略を区別して実施案を提案することが求められる。これについて講義と演習を行う。

〈第10講〉ロジカルシンキング①（論理的に整理する）

課題を発見し、問題を解決するためには、扱っている問題を明確に、個人またはチームで解決する必要がある。そのために必須である論理力やそれをもとに問題を整理する力について講義と演習を行う。

〈第11講〉ロジカルシンキング②（問題抽出）

整理された問題に関して解決を図る。この場合、解決順序や重要度を明確にして明示する必要がある。これについて講義と演習を行う。

〈第12講〉ビジネス文書

ビジネスでは、個人を離れ社会人として活動することが求められる。業務の明確化がその遂行を評価するために必須である。この点から文書化しておくことが重要である。ここではそのためのビジネス文書作成について学ぶ。

MSOfficeのソフトを用いて作成する。

〈第13講〉会社の常識（B/SとP/L）

どのような活動でも、会計の枠組みで評価されることになる。そのための基礎となるB/S（バランスシート、貸借対照表）とP/L（プロフィット・アンド・ロス・ステートメント、益計算書）について学ぶ。

〈第14講〉法律と税金の基礎知識（労働基準法・年金・保険など）

企業の活動は商法で定められているように、労働基準法や保険などさまざまな法律と年金や税金に関する理解が必須である。これについて学ぶ。

〈第15講〉期末テスト

教科書

特になし。その都度配布。

指定図書

特になし

参考文献

特になし

評価方法

出席（50％）、演習・ワーク・（50％）

評価基準

相対評価

事前履修科目等

社会に通用する社会人力を身につけるため、春学期の「社会人力セミナーⅠ」を履修した人は必ず「社会人力セミナーⅡ」を履修すること。

卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

留意点

社会に通用する社会人力を身につけるため、春学期の「社会人力セミナー」を履修した人は必ず「社会人力セミナー」を履修すること。

科目名 プロジェクトゼミナール〔Project Seminars〕 春学期

担当教員 池田 勇人

■講義目的

無料で使えるマーケティングツールであるソーシャルメディアを使いこなす力は、これからのビジネスパーソンにおいては必須のスキルの一つである。

本講義では、地域ビジネス、非営利活動などへの関わりを通して最前線の事例に触れ、実践的な知識を獲得することを狙いとする。

■講義分類

顧客理解／ビジネス創造／ビジネスICT／地域ビジネス

■到達目標

(1) ツイッター、フェイスブックを使った基本的なマーケティング施策のプランニング、実行ができる

(2) ブログを使った基本的なマーケティング施策のプランニング、実行ができる

(3) オンライン・オフラインを融合させたマーケティング施策のプランニング、実行ができる

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

〈第1講〉チームビルディングと講義の進め方の解説

概要：プロジェクトゼミナールの開催にあたり、チームビルディングを行う

事前学習しておくべき用語やポイント〔チームビルディング〕
PCを充電して持参すること

詳細：アイスブレイキング、自己紹介、ワークショップを通して半期のゼミナールの活動を行うためのチームを組成する。

〈第2講〉ソーシャルメディアマーケティング概論(1)

概要：ソーシャルメディアを活用する上で気をつけるべきこと

事前学習しておくべき用語やポイント〔マーケティング、ソーシャルメディア〕

PCを充電して持参すること

詳細：ソーシャルメディアをマーケティングに活用する際の注意点、ポイントを解説する。

講義のポイント

・目的を明らかにする

・炎上にご注意

・オフラインの視点を持つ

〈第3講〉ソーシャルメディアマーケティング概論(2)

概要：具体的なソーシャルメディア活用法

事前学習しておくべき用語やポイント〔ツイッター、フェイスブック〕

PCを充電して持参すること

詳細：ツイッター、フェイスブックの活用法を解説、課題の発表を行う。

講義のポイント

・ツイッターの活用法、ケーススタディ

・フェイスブックの活用法、ケーススタディ

〈第4講〉ソーシャルメディアマーケティング概論(3)

概要：具体的なソーシャルメディア活用法の実践

事前学習しておくべき用語やポイント〔ツイッター、フェイスブック〕

PCを充電して持参すること

詳細：ツイッター、フェイスブックに関する課題の確認、ディスカッションを行う。

〈第5講〉ソーシャルメディアマーケティング概論(1)

概要：ブログを使ったマーケティングについて学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント〔ブログ〕

PCを充電して持参すること

詳細：ブログを使ったマーケティングについての解説、課題の発表を行う。

講義のポイント

・オンラインマーケティングにおけるブログの位置づけ

・検索エンジンに望まれるコンテンツとは何か

〈第6講〉ソーシャルメディアマーケティング企画(2)

概要：ブログを使ったマーケティングについて学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント〔ブログ〕

PCを充電して持参すること

詳細：ブログを使ったマーケティングについての解説、課題の確認を行う。

〈第7講〉ソーシャルメディアマーケティング企画(1)

概要：ケーススタディを事例に、マーケティングプランを練る

事前学習しておくべき用語やポイント〔マーケティングプランニング〕

PCを充電して持参すること

詳細：NPO、中小企業の当事者にお越しいただき、マーケティング上の課題についてヒアリングを行い、その上で、マーケティングプランの作成に向けたディスカッションを行う。

〈第8講〉ソーシャルメディアマーケティング企画(2)

概要：ケーススタディを事例に、マーケティングプランを練る

事前学習しておくべき用語やポイント〔マーケティングプランニング〕

PCを充電して持参すること

詳細：マーケティングプランの作成、ディスカッション

〈第9講〉ソーシャルメディアマーケティング企画(3)

概要：ケーススタディを事例に、マーケティングプランを練る

事前学習しておくべき用語やポイント〔マーケティングプランニング〕

PCを充電して持参すること

詳細：マーケティングプランの作成、ディスカッション

〈第10講〉ソーシャルメディアマーケティング企画(4)

概要：プレゼンテーションの技法を学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント〔プレゼンテーション〕

PCを充電して持参すること

詳細：次の発表に向けて、プレゼンテーションの技法を学ぶ

〈第11講〉ソーシャルメディアマーケティング企画(5)

概要：作成したマーケティングプランを発表

事前学習しておくべき用語やポイント〔プレゼンテーション〕

PCを充電して持参すること

詳細：作成したマーケティングプランを発表し、全体でフィ

ードバック、ディスカッションを行う。

〈第12講〉ソーシャルメディアマーケティング企画(6)

概要：作成したマーケティングプランを発表

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーション]

PCを充電して持参すること

詳細：作成したマーケティングプランを発表し、全体でフィードバック、ディスカッションを行う。

〈第13講〉課題「発見」能力を磨く(1)

概要：課題を解決するだけでなく、新たに発見する能力を磨く

事前学習しておくべき用語やポイント[課題発見、課題解決]

PCを充電して持参すること

詳細：ビジネス全般、マーケティング全般の要諦は与えられた課題の解決それ自体よりも、埋もれている、ないし認識されていない課題を発見することにある。ケーススタディと課題の実践を通して、21世紀のビジネスパーソンに必要な「課題発見能力」を磨いていく。

〈第14講〉課題「発見」能力を磨く(2)

概要：自らが発見した課題について解説する

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーション]

PCを充電して持参すること

詳細：前回講義で提出された課題の発表と全体フィードバックを行う。

〈第15講〉課題「発見」能力を磨く(3)

概要：自らが発見した課題について解説する

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼンテーション]

PCを充電して持参すること

詳細：前回講義で提出された課題の発表と全体フィードバックを行う

■教科書

テキストは配布する

■評価方法

評価は、講義中の演習(70%)、出席(30%)により行う。

■評価基準

相対評価

講義中の演習は、次の3点を中心に評価する。

- (1) ツイッター、フェイスブックを使った基本的なマーケティング施策のプランニング方法について理解しているか
- (2) ブログを使った基本的なマーケティング施策のプランニング方法について理解しているか
- (3) 課題発見能力を身に付けることができたか

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

科目名 プロジェクトゼミナール〔Project Seminars〕 春学期

担当教員 江頭 満正

■講義分類

顧客理解 / ビジネスマネジメント／社会人育成／地域ビジネス

■到達目標

実際にイベントを実施するための計画、準備、実施を経験することコミュニケーション能力、リスクヘッジ、自己客観化し結果を評価する能力をつけること。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

横浜FC及び、Jリーグクラブチーム、プロ野球、メジャーリーグ、マイナーリーグなどのスタジアム演出に關する映像資料、現地調査をもとに調査を実施。横浜FCが抱えている問題を解決するための方法を論理的に導き出し、数人のグループワークにより横浜FCで実施するイベントの企画を立案。ゼミ内選考を経て、学内及び横浜FCへプレゼンテーションを行う。

〔第1講〕

概要：プロスポーツビジネスの特徴とリスク

事前学習しておくべき用語やポイント〔リスクマネジメント〕

詳細：一般的な産業とプロスポーツビジネスとのモデルの違いを理解する。

〔第2講〕

概要：スタジアム演出の実例〔講義〕2011年に実施したイベント概要

事前学習しておくべき用語やポイント〔顧客価値〕

詳細：2011年度当該講座で実施したイベントの詳細とその評価

〔第3講〕

概要：ニッパツ三ツ沢球技場調査実施（4月30日町田ゼルビア戦を予定）

事前学習しておくべき用語やポイント〔顧客満足度、消費者行動〕

詳細：試合以外に顧客に提供されている財を調査

〔第4講〕

概要：ニッパツ三ツ沢球技場調査実施（4月30日町田ゼルビア戦を予定）

事前学習しておくべき用語やポイント〔顧客満足度、消費者行動〕

詳細：試合以外に顧客に提供されている財を調査

〔第5講〕

概要：スタジアムイベント調査報告（グループワーク）

事前学習しておくべき用語やポイント〔顧客価値〕

詳細：4～5講で行った現地調査の報告をPowerPointを使いグループごとに行う

〔第6講〕

概要：スタジアムイベント調査（グループワーク）

事前学習しておくべき用語やポイント〔スポーツ・イベント・マネジメント〕

詳細：履修学生の観戦経験から「良いイベント」を考える

〔第7講〕

概要：国内スタジアムイベント調査（グループワーク）

事前学習しておくべき用語やポイント〔顧客満足度〕

詳細：リーグ・プロ野球などが行っているスタジアムイベントをWEB等で調査し報告

〔第8講〕

概要：ニッパツ三ツ沢球技場 プレゼン参加（6月24日アビス（福岡戦を予定）

事前学習しておくべき用語やポイント〔顧客価値〕

詳細：スタジアムでフェイスシール・チャイルドなどの来場者サービスを体験

〔第9講〕

概要：ニッパツ三ツ沢球技場 プレゼン参加（6月24日アビス（福岡戦を予定）

事前学習しておくべき用語やポイント〔顧客価値〕

詳細：スタジアムでフェイスシール・チャイルドなどの来場者サービスを体験

〔第10講〕

概要：横浜FCイベント企画・立案

事前学習しておくべき用語やポイント〔〕

詳細：学生が実施する企画を、様々な要素から考える

〔第11講〕

概要：横浜FCイベント企画・立案

事前学習しておくべき用語やポイント〔〕

詳細：学生が実施する企画を、様々な要素から考える

〔第12講〕

概要：横浜FCイベント学内プレゼン

事前学習しておくべき用語やポイント〔〕

詳細：本番のプレゼン前に学内で実施し、完成度を高めるために議論する

〔第13講〕

概要：横浜FCイベント プレゼンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント〔〕

詳細：横浜FCの担当者に来校いただき、企画の合否を掛けたプレゼンを実施

〔第14講〕

概要：企画修正

事前学習しておくべき用語やポイント〔〕

詳細：前回のプレゼンでの意見を踏まえて修正・補正を行う

〔第15講〕

概要：横浜FC 最終プレゼン

事前学習しておくべき用語やポイント〔〕

詳細：イベントの実現性、予算、人員、スケジュールなど実施計画を含めてイベント詳細を横浜FC担当者にプレゼン

■教科書

なし

■参考文献

世界一やさしい問題解決の授業 渡辺 健介（著）

イベント実務」がよくわかる本 平野 咲臣（著）

イベント学のすすめ イベント学会 会長 堀屋太一（編集）

■評価方法

講座の性格上、無断欠席と遅刻は厳禁。グループワークが中心であり、横浜FCという校外関係者に対して責任ある行動が出来ない履修者は、成果に関わらず不合格とする。校外活動は講義時間外に実施するが、参加を必須とする。出席40点、参加態度30点、プレゼンテーション30点

■評価基準

絶対評価

P：積極的な講座への参加姿勢が見られる、プレゼン企画内容に新規性があり、実現可能性も検討されている

F：無断欠席・遅刻がある、学外活動を欠席、横浜FCへのプレゼンを欠席。プレゼンテーションされた企画内容に新規性が無い。

■事前履修科目等

スポーツ・マネジメント論（広瀬一郎）を履修していること

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

横浜FCという、プロスポーツチームのイベントを学生が実施するものであり、イベント当日の来場者は「学生のイベント」だからといって内容が不十分でも許してくれることはない。

来場者は入場料金の一部として「学生のイベント」を評価する。従って、この講座では「社会人」としての行動規範や、価値観を優先し厳しい態度で望む。春学期からの通年履修とする。秋学期からの履修は受け付けない。

科 目 名 プロジェクトゼミナール[Project Seminars] 秋学期

担当教員 江頭 満正

■講義分類

顧客理解／ビジネスマネジメント／社会人力育成／地域ビジネス

■到達目標

実際にイベントを実施するための計画、準備、実施を経験すること コミュニケーション能力、リスクヘッジ、自己客観化し結果を評価する能力をつけること。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

横浜FC公式戦においてゼミ学生が企画したイベントの実施計画を作成し、運営計画を立て実施する。イベント実施前以外に、該当試合での多摩大学の活動と、スタジアムへの動員増加を目標として「広報」活動（記録）活動を実施。イベント終了後には、学生、観客、チーム関係者の3者から、イベント実施本人の評価を加え、報告書を作成。このゼミを通して学んだことを整理する。

〈第1講〉

概要：イベント実施内容確認

事前学習しておくべき用語やポイント

詳細：10月に実施するイベント内容、実施計画、スケジュール、人員計画、予算の面で進捗状況を確認する

〈第2講〉

概要：イベント実施計画作成1

事前学習しておくべき用語やポイント

詳細：実施予算と制作物スケジュールを確定させる

〈第3講〉

概要：イベント実施計画作成2

事前学習しておくべき用語やポイント

詳細：人員計画、当日のスケジュールを確定させる

〈第4講〉

概要：イベント実施計画作成3

事前学習しておくべき用語やポイント〔リスクマネジメント〕

詳細：イベント実施上での危機を想定し、対処方法をマニュアルにまとめる

〈第5講〉

概要：イベント実施計画作成4

事前学習しておくべき用語やポイント

詳細：当日の進行台本を完成させる

〈第6講〉

概要：横浜FC最終確認

事前学習しておくべき用語やポイント

詳細：横浜FCの担当者に依頼していただき、イベント実施の為の詳細を全て確認する

〈第7講〉

概要：ニッパツ三ツ沢競技場 イベント実施

事前学習しておくべき用語やポイント

詳細：10月28日草津戦（予定）においてイベントを実施する

〈第8講〉

概要：ニッパツ三ツ沢競技場 イベント実施

事前学習しておくべき用語やポイント

詳細：10月28日草津戦（予定）においてイベントを実施する

〈第9講〉

概要：ニッパツ三ツ沢競技場 イベント実施

事前学習しておくべき用語やポイント

詳細：10月28日草津戦（予定）においてイベントを実施する

〈第10講〉

概要：ニッパツ三ツ沢競技場 イベント実施

事前学習しておくべき用語やポイント

詳細：10月28日草津戦（予定）においてイベントを実施する

〈第11講〉

概要：イベント実施報告会

事前学習しておくべき用語やポイント

詳細：実施体験直後の記憶が鮮明な時に自己評価を行う

〈第12講〉

概要：イベント報告書作成1

事前学習しておくべき用語やポイント

詳細：来場者評価、横浜FC関係者評価、履修生評価、イベント実施概要などを記載した報告書を作成する

〈第13講〉

概要：イベント報告書作成2

事前学習しておくべき用語やポイント

詳細：来場者評価、横浜FC関係者評価、履修生評価、イベント実施概要などを記載した報告書を作成する

〈第14講〉

概要：イベント報告書作成3

事前学習しておくべき用語やポイント

詳細：来場者評価、横浜FC関係者評価、履修生評価、イベント実施概要などを記載した報告書を作成する

〈第15講〉

概要：まとめ

事前学習しておくべき用語やポイント

詳細：報告書をもとに、参加した履修生の評価を共有する

■教科書

特になし

■指定図書

世界一やさしい問題解決の授業 渡辺 健介（著）

企画術の教科書 古館プロジェクト編

■参考文献

ゼミ内で随時通知

■評価方法

講座の性格上、無断欠席と遅刻は厳禁。グループワークが中心であり、横浜FCという校外関係者に対して責任ある行動が出来ない履修者は、成果に関わらず不合格とする。校外活動は講義時間外に実施するが、参加を必須とする。出席40点、参加態度30点、プレゼンテーション30点

■評価基準

絶対評価

P：積極的な講座への参加姿勢が見られる、プレゼン企画内容に新規性があり、実現可能性も検討されている
F：無断欠席・遅刻がある、学外活動を欠席、横浜FCへのプレゼンを欠席。プレゼンテーションされた企画内容に新規性が無い。

■事前履修科目等

スポーツ・マネジメント論（広瀬一郎）を履修していること（可否は問わない）

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

横浜FCという、プロスポーツチームのイベントを学生が実施するものであり、イベント当日の来場者は「学生のイベントだからといって内容が不十分でも許してくれることは無い。来場者は入場料金の一部として「学生のイベント」を評価する。従って、この講座では「社会人」としての行動規範や、価値観を優先し厳しい態度で望む。

春学期からの通年履修とする。秋学期からの履修は受け付け無い。

科目名 プロジェクトゼミナール〔Project Seminars〕 秋学期

担当教員 大風 薫

■講義目的

コンビニエンス・ストアやスーパーマーケット、自動販売機などで売られている様々な商品は、一体どのように作られているのか？メーカーでは、マーケットと呼ばれる人たちが、日々、消費者のニーズを探索し、消費者の心をつかめるような商品作りや、多くの商品の中から自社の商品を選んでもらえるような活動をしています。しかしメーカーは、消費者の求めるものをた商品化すればいいというのではなく、同時に目標とする売り上げや利益も達成しなくてはなりません。新製品開発とマーケティングとは、このように「消費者の行動や気持ちを理解し、どうしたら消費者に喜んでもらえるのかという視点」と、「新製品の市場導入によって事業目標を達成するという視点」という2つの大きな視点をもって取り組まなくてはならない仕事です。本ゼミでは、このような新製品開発とマーケティングの実例を、さまざまな食品の事例を通して具体的に学びながら、新製品のマーケティング戦略をグループで作成します。メーカーやマーケティング関連の仕事などに興味や関心を持っている学生の参加を待っています。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント

■到達目標

1.メーカーで行われているマーケティングや新製品開発の実情が理解できる。2.メーカーのマーケティングや新製品開発事例をとりあげ、そのような活動が行われている理由や目的を、分析的に推測できる。また、そのような事例に対して、生活（消費者）の視点で問題点を探り、改善案が提案できる。
3.新製品やそれに伴うマーケティング施策のアイデアが作成できる。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔受講者人数によって、学外学習もある〕

■講義の概要

※ただし、受講者数や受講生の関心によって、講義内容は変更する可能性がある

〈第1講〉

概要：オリエンテーションと導入

事前学習しておくべき用語やポイント〔実際の店舗で販売されている新製品を観察する〕

詳細：オリエンテーション、新製品開発とは？〔新製品開発とマーケティングの関係〕、3タイプの開発（新事業開発／新ブランド開発／追加型製品開発）

〈第2講〉

概要：新製品とは何か、新製品開発業務とはなにか

事前学習しておくべき用語やポイント〔実際の店舗で販売されている新製品を観察する〕

詳細：メーカーにおける新製品の位置づけ、新製品開発業務とはどのようなことを行う仕事なのかを理解する

〈第3講〉

概要：新事業開発と新製品開発の事例紹介

事前学習しておくべき用語やポイント〔市販されている健康食品や健康食品メーカーの活動を調べる〕

詳細：A社健康栄養食品の事業戦略に関する事例を紹介（プロジェクトチーム発足から現在までの流れ）

〈第4講〉

概要：健康食品事業の実態をさぐる

事前学習しておくべき用語やポイント〔市販されている健康食品や健康食品メーカーの活動を調べる〕

詳細：食品メーカーにおける健康食品事業の位置づけや消費者ベネフィットについて討議する

〈第5講〉

概要：新ブランド開発と新製品開発の事例紹介

事前学習しておくべき用語やポイント〔市販されているカップスープやスプーマーカーの活動を調べる〕

詳細：H社スープの事業戦略に関する事例を紹介（新たなカテゴリに参入した経緯と発売までの流れ）

〈第6講〉

概要：スープ事業の実態をさぐる

事前学習しておくべき用語やポイント〔市販されているカップスープやスプーマーカーの活動を調べる〕

詳細：スープ事業を展開しているメーカーやそのブランドを調べ、市場拡大の背景を考え、今後の市場展望について討議する

〈第7講〉

概要：新製品開発に必要なマーケティング・リサーチ〔質的調査を中心に〕①

事前学習しておくべき用語やポイント〔質的調査とは何か〕

詳細：新製品開発の起点となる消費者ニーズの探索をどのように行うべきか、講義形式で学習する

〈第8講〉

概要：新製品開発に必要なマーケティング・リサーチ〔質的調査を中心に〕②

事前学習しておくべき用語やポイント〔質的調査とは何か〕

詳細：マーケティング・リサーチの企画をグループで立案する（調査目的・調査課題・調査項目・対象者の選定・調査手順など）

〈第9講〉

概要：質的調査の実施①

事前学習しておくべき用語やポイント〔消費者ニーズ〕

詳細：企画書に基づき、質的調査を実施する

〈第10講〉

概要：質的調査の実施②

事前学習しておくべき用語やポイント〔消費者ニーズ〕

詳細：企画書に基づき、質的調査を実施する

〈第11講〉

概要：消費者ベネフィットと製品コンセプトの設計

事前学習しておくべき用語やポイント〔マネフィット〔便益〕〕

詳細：調査結果をもとに、消費者ニーズの抽出→消費者ベネフィットへの転換→製品コンセプトの設計を行う

〈第12講〉

概要：新製品開発とマーケティング戦略策定演習①

事前学習しておくべき用語やポイント〔マーケティング・ミックス〕

詳細：リサーチの分析結果に基づき、具体的な新製品のコンセプト開発とマーケティング戦略の作成演習を実施する

〈第13講〉

概要：新製品開発とマーケティング戦略策定演習②

事前学習しておくべき用語やポイント〔マーケティング・ミックス〕

詳細：リサーチの分析結果に基づき、具体的な新製品のコンセプト開発とマーケティング戦略の作成演習を実施する

〈第14講〉

概要：新製品開発とマーケティング戦略策定演習③

事前学習しておくべき用語やポイント〔マーケティング・ミックス〕

詳細：リサーチの分析結果に基づき、具体的な新製品のコンセプト開発とマーケティング戦略の作成演習を実施する

〈第15講〉

概要：プレゼンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント〔プレゼンテーション資料の準備〕

詳細：グループ同士で企画を発表し合い、建設的な意見交換を実施する

■教科書

なし（講義時に配布する資料を使用する）

■指定図書

なし（必要に応じてゼミの中で案内する）

■参考文献

なし（必要に応じてゼミの中で案内する）

■評価方法

出席（50％）、演習への積極的な参加（30％）、プレゼンテーション準備や実施への貢献（20％）

■評価基準

評価P：十分に出席し、グループ演習や発表に貢献できた
評価F：出席不足、グループ演習や発表に貢献しなかった

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

単也取得に資する出席回数の目安は、12回以上（15回中）である。グループ・ディスカッションや発表を重視するため、特段の理由がない限り、欠席は認めない。

科目名 プロジェクトゼミナール[Project Seminars] 秋学期

担当教員 荻野 博司

■講義目的

欧州が揺さぶられているユーロの崩壊、米国で広がる格差社会への異議申立て、中国のめざましい台頭。世界でこれまでの秩序や常識を覆す事態が進んでいる。その根底にあるもの、これからの方向について、新聞やウェブなどのメディアも活用しながら探っていく。

毎回、当日の朝刊を教材として授業を進める。それにより情報を主体的に取り込む姿勢を習得することも目指す。企業訪問の直前になって新聞を読み出す「にわか勉強」の学生には得られない内容の濃いものとし、それぞれの問題解決力を高める。

グローバル化に伴って日本政府や企業が解決を迫られる問題を想定し、どのように取り組んだらいいのかをチーム単位で考える機会を設ける。

また、小論文の書き方を個別に指導する。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／社会人力育成／グローバルビジネス

■到達目標

1. 欧米やアジアの変容について、歴史的な視点で考える
2. メディアの情報を鵜呑みにするのではなく、その背景も考えて批判的に吸収するメディアリテラシーを得る
3. 自らの体験を世界の変化と連動させてとらえ直し、産業社会の将来像を考える
4. 最終的には、自らの考えを積極的に伝える姿勢を確立し、企業社会での活動に役立てる
5. 自らの視点を盛り込んだ小論文を書く能力を得る

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■講義の概要

〈第1講〉

概要：情報の取り込み方

事前学習しておくべき用語やポイント[新聞の読み方]

詳細：朝刊を教材として活用するため、新聞の制作過程や紙面構成などの基本知識を学ぶ。これまで新聞を閲読する習慣のない学生は、毎日、興味のある記事を最低一本読み通すように心がけておいてもらいたい。

〈第2講〉

概要：日本経済の現況 1

事前学習しておくべき用語やポイント[テフレ、為替、パブル]

詳細：世界の問題を考えるにあたり、まず足元がどうなっているかを考える。90年代初めのパブルの崩壊とともに、日本は長いトンネルに入ってしまった。テフレ経済が根を張り、就職難に若者はおののく。政権は再び交代したが、政府にこうした袋小路を抜け出す道はあるのか。国際経済の視点から日本の立ち位置を見直す。

〈第3講〉

概要：日本経済の現況 2

事前学習しておくべき用語やポイント[経常収支]

詳細：日本の強さの源泉だった企業の強さが影を潜めている。ソニーは赤字体質から抜け出せず、トヨタも韓国勢の追い上

げにさらされている。身の回りにはアップルやサムソンの製品が増えてきていないか。産業の最前線で起きている事例を踏まえて、日本企業の将来性をともに考えたい。

〈第4講〉

概要：欧州経済の現況

事前学習しておくべき用語やポイント[E U]

詳細：27カ国が加わる欧州共同体(E U)。半世紀に及ぶ統合の歴史を振り返り、その背景にある「不戦の誓い」を考える。

また、ソ連の解体に伴う東西の壁の崩壊がもたらした社会の変化についても考察しよう。

〈第5講〉

概要：欧州各論＝曲がり角の通貨統合

事前学習しておくべき用語やポイント[ユーロ]

詳細：E Uのメンバー27カ国のうち17カ国が加わったのが統一通貨ユーロだ。日本が韓国や中国、台湾と同じ通貨を使う日が来るなど、現時点では考えられないが、二度の世界大戦で戦火を交えた欧州の国々は現実のものとした。各国が自らの通貨を放棄し、ユーロに集まった国々だが、ギリシアなどの経済危機でユーロの先行きは不透明だ。

〈第6講〉

概要：欧州各論＝混迷する経済

事前学習しておくべき用語やポイント[若年失業率]

詳細：欧州の失業率の高さは深刻だ。とくに若者層で職を得られない人々が着実に増えている。それが欧州の政治をさらに揺るがし、ひいてはユーロの安定を損なう。経済成長のなかで若者の雇用を増やすのが理想であるが、現実とはならないまだ。日本と比較しながら若者が働かない社会の将来像を考える。

〈第7講〉

概要：米国経済の現況

事前学習しておくべき用語やポイント[大統領制度]

詳細：再選を果たし第2期に入ったオバマ大統領だが、さっそく「財政の崖」に直面している。オバマ政権は08年のリーマンショックはどうにか乗り切ったものの、ドルの価値は不安定で世界を先導してきた米国も日本と同様に不況に突入する懸念はぬぐえない。去年の大統領選挙の争点を振り返りながら、これからの政策の課題を考える。

〈第8講〉

概要：米国各論＝格差社会

事前学習しておくべき用語やポイント[ウォール街]

詳細：米ウォール街の占拠運動に端を発した格差への異議申し立ては世界に広がった。すべての国民に成功のチャンスが与えられるアメリカン・ドリームはどこにいったのか。全国民をカバーする医療保険制度が整っていない米国の現状を知った上で、世界規模で進む格差社会の背景を知り、今後の対応策を考える。

〈第9講〉

概要：米国各論＝財政危機

事前学習しておくべき用語やポイント[財政の崖]

詳細：米国の財政赤字は膨張している。しっかりとした医療保険制度を発足させようとするオバマ大統領に対して、国民に税負担を迫る「大きな政府」を嫌う共和党の抵抗は激しい。

ついに政府の資金が底をつく「財政の崖」が目前に迫る事態となった。米国の政治システムを学ぶとともに、民主党、共和党の政策理念を比較する。

〈第10講〉

概要：アジア経済の現況 1＝中国

事前学習しておくべき用語やポイント[人民元]

詳細：21世紀に入ってから中国の躍進はめざましい。GDPでは日本を抜き、世界第二の経済大国となった。とはいえ、急成長のひずみは各所にあらわれ、日本との通商関係も複雑に揺れる。中国の現状を見ることで、日本の復活のカギも浮かんでくる。

〈第11講〉

概要：アジア経済の現況 2＝韓国、ASEAN

事前学習しておくべき用語やポイント[ガラパゴス化]

サムスンに代表される韓国企業は日本の電器産業を追い詰めてつづめる。世界市場と無関係に独自の進化を遂げ「ガラパゴス」と揶揄される日本製の携帯電話と米アップル社との連携で急拡大している韓国製携帯。自動車などでもこの構図が現実になるのか。90年代後半に経済危機を体験した後、急回復した韓国の秘密を探る。また、アジア諸国の現状にも触れる。

〈第12講〉

概要：TPPと日本

事前学習しておくべき用語やポイント[自由貿易]

詳細：太平洋に面する国々が互いの関税を原則としてゼロにするTPPへの対応を巡って日本国内も揺れている。シンガポールやニュージーランド、チリなど小規模な4カ国の構想がここまで大きくなったのは米国の参加と後押しがあってのことだ。米国の思惑は何なのか。日本にはどんな影響を及ぼすのか。進路を考える際に知っておかなければならないテーマと言える。

〈第13講〉

概要：各国の競争力の現状

事前学習しておくべき用語やポイント[競争力]

ここまで欧州、米国、アジアの経済について学んだ。さまざまなデータをもとに、あらためて各国の競争力を概観するとともに、今後の世界経済の行方を考える。

〈第14講〉

概要：日本の将来

事前学習しておくべき用語やポイント[市場経済]

詳細：米国や欧州、アジアの動きに日本はどう対応すべきか。市場経済の波にさらされるなかで、これに押し流されることなく、逆に軽やかに乗っていく覚悟が求められる。これまでの学習成果を踏まえて論じ合いたい。就職を考える学生にとっては、おのずと将来性のある企業や産業を健闘する機会となる。

〈第15講〉

概要：補論

これまでの授業で論じきれなかったテーマについて、とりあげる。

■教科書

講義日の朝刊を教科書として使う。各自、朝刊に目を通した上で授業に持参すること。総合紙(読売、毎日、東京、産経、日経、朝日)と地方紙(神奈川、千葉日報、山梨日々など)のいずれかとし、夕刊紙やスポーツ紙、政党機関紙などは認めない。

■指定図書

必要に応じて、授業の中で指示する。

■参考文献

必要に応じて、授業の中で指示する。

■評価方法

以下の通りだが、授業姿勢などにもとづく加点、減点もある。

試験 50% - 理解度を確認するため、定期試験を実施する。

小テスト 20% - 第7回から第9回の授業のいずれかで小テストあるいは小論文提出を課す。

平常点評価 30% - 授業に取り組む姿勢を評価する。なお、出席者の確認も兼ねて、毎回、感想や質問を記入する用紙を配る。

■評価基準

絶対評価

以下のような観点から評価する

☐ 現在起こっている問題の概要を理解しているのか。

☐ 国際的な問題を自らの視点から論じられるか。

☐ 説得力のある説明ができるか

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

実社会に出ていく皆さんに、付け焼き刃でない知識を習得してもらうことが最大の狙いであり、新聞など活字メディアからの情報の取得により、しっかりとした考え方を身につけてもらいたい。また、メディア関連業界への就職を考える学生とは、別途、指導の機会を設ける。

科目名 プロジェクトゼミナール[Project Seminars] 春学期

担当教員 片桐 徹也

■講義目的

「多摩キャンパス」が位置する多摩市は、街開きから41年が経過した「多摩ニュータウン地域」が7割を占める。

その「多摩ニュータウン」は、様々な問題、課題、外的驚異を克服し、一方で、強みや機会を活かす、新たな地域経営手法の創出・実践が求められている。地域主体の一つでもあり地域資源の一つでもある、「多摩大学」をはじめ、市内5つの大学の学生が、「学び」と「地域貢献活動」の組み合わせによる「地域課題/社会問題」の解決、そして、将来求められる地域像の創出へ関わっていくことは、学生や、地域の双方にとり有益である。

この講座は、地域の現状と課題を学びつつ、地域課題/社会問題の解決の担い手であるNPOや、地域企業と、地域大学(生)がパートナーシップ(連携)・協働し、地域が活性していく仕掛けを創出するプロセスに関わることで、連携協議体の媒介役としての学生の役割や、地域経営体における実践を学ぶことを目的とする。

手法としては、「地域SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)」の活用により、地域課題に取り組むNPO等の活動理念を可視化させ、抱えている課題・問題に「共鳴・共感」する担い手として、学生や企業市民、「志民」がその活動に関わることで、地域社会に参画をする。また、個々の学生の特性を活かした役割を担うことが考えられる。

マルチステークホルダー(地域課題解決に取り組む複数の主体(NPO等・行政・地域金融機関・大学・企業)との連携により、「地域貢献ポイント」インセンティブを付与される仕組みと、活動する学生等の活動を可視化させる仕組みを創出することでサステナブル(持続可能)な地域経営手法の創出に関わる「多摩大学地域活性化マネジメントセンター」や、関連するホームゼミ、関連する他大学のゼミとも連携し、実際の学生ニーズと現実の地域活動ニーズをマッチングさせていく「サービス・ラーニング(学生の学びによる地域/社会貢献)」の手法を実践する。

このことは、街の再生・活性策を技術的な手法のみに依存するのではなく、大学生と地域の双方が連携し地域づくりに参画し活動していくプロセス(過程)そのものが、地域経営のひとつの仕組みになっていくことを目指すものである。例えば子育て世代の居住誘引につながることで「ニュータウン再生」の仕掛けや、住民コミュニティが再生されていく仕掛けを創出することが期待される。

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / ビジネス創造 / ビジネスマネジメント / 社会人力育成 / ビジネスICT / 地域ビジネス

■到達目標

- ・まちづくりポイント」の利活用による「共鳴・共感・協働の地域公共圏」創出事業への貢献
(企画、広報、講習講師、ブログ公開等)
- ・地域課題や社会問題の解決を担うNPO等との協働体験による地域社会マネジメントの理解
- ・官民連携(Public-Private Partnership)の基本を理解する
- ・留学生との交流によるアジア市場経済の学びと国際交流の地域への展開

- ・地域企業が展開するCSR施策に関わることで、地域企業と地域の連携の効用を理解する

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

その他(地域イベント参画)[学外学習有]

■講義の概要

〈第1講〉ガイダンス

概要：ゼミナール説明

事前学習しておくべき用語やポイント[サービスラーニング、地域SNS、地域貢献、CSR]

詳細：ゼミナールの目的と使命、方針を理解する。春学期の成果を踏まえた秋学期の実践・取組について。

〈第2講〉「ハロウィンin多摩センター」運営・参画

概要：子ども系NPOとの協働

事前学習しておくべき用語やポイント[NPO法人多摩子ども劇場]

詳細：地域の子どものふるさとづくりの理念を理解すると共に、11周年を迎える「ハロウィンin多摩センター」イベントの企画運営を体験学習する。

〈第3講〉留学生と地域コミュニティ、日本およびアジアの市場と将来

概要：留学生との関係づくり、我が国を取り巻くビジネス市場と将来

事前学習しておくべき用語やポイント[アジアダイナミズム]

詳細：我が国の人口減少、高齢化、縮む経済を理解し、アジアに広がるマーケットを展望する。その上で、留学生との交流を展望する

〈第4講〉地域企業のCSRとCSV、地域大学と連携した地域貢献活動の展開

概要：地域企業との協働・連携による地域活性化

事前学習しておくべき用語やポイント[CSR, CSV]

詳細：「地域企業」などの協働策を通じた地域課題解決の方策を考察、実践する。

〈第5講〉ニュータウンにおける地域コミュニティ醸成、「みんなの食堂」プロジェクト

概要：高齢化が進捗する多摩ニュータウンと「食」、近隣センター空き店舗の活用策

事前学習しておくべき用語やポイント[高齢化社会、近隣センター、「団地の縁側」]

詳細：街区、自治会単位のコミュニティ醸成策と、地域課題の解決に「食」を活用した方策を実践する。

〈第6講〉地域と沿線鉄道事業

概要：沿線価値創造による地域活性化

事前学習しておくべき用語やポイント[鉄道ビジネス、京王相模原線、小田急多摩線の歴史]

詳細：鉄道事業の役割とまちづくり。鉄道事業の売り上げ構成から考察する、これからの地域づくり。

多摩ニュータウン地域における鉄道事業者との連携方策の考察。

〈第7講〉地域/社会貢献ビジネスの創造

一たま地域貢献ポイントの利活用による地域公共圏の実践(1)

概要：多様な地域担い手と協働した地域課題の解決手法について理解を深める

事前学習しておくべき用語やポイント[新しい公共]

詳細：MSP(マルチ・ステークホルダー・プロセス)による事業構造を構築する。

〈第8講〉 地域/社会貢献ビジネスの創造

一たま地域貢献ポイントの利活用による地域公共圏創出構想(2)

概要：「サービス・ラーニング(大学生の学びによる地域貢献)」を理解する

事前学習しておくべき用語やポイント[サービ斯拉ーニング]
詳細：多摩大学におけるセンター機能構築と市内5大学連携による地域システムを構築する。

〈第9講〉 地域/社会貢献ビジネスの創造

一たま地域貢献ポイントの利活用による地域公共圏創出構想(3)

概要： 地域企業と地域経済

事前学習しておくべき用語やポイント[地域企業の役割と課題]

詳細：地域企業が果たす地域における役割と、貢献。地域大学との連携の効用。

〈第10講〉 地域/社会貢献ビジネスの創造

一たま地域貢献ポイントの利活用による地域公共圏創出構想(4)

概要：行政、商工会議所との連携手法の演習

事前学習しておくべき用語やポイント[商工会議所]

詳細：地域経済を考えると、地元の商工との連携は不可欠となる。多摩市の実情を鑑み、その連携、協働手法について研究する。

〈第11講〉 地域/社会貢献ビジネスの創造

一たま地域貢献ポイントの利活用による地域公共圏創出構想(5)

概要：地域大学、キャンパスタウンと将来

事前学習しておくべき用語やポイント[地域経営(マネジメント)]

詳細：地域と、ステークホルダー(利害関係者)の一つの主体として地域に立地する多摩市内5大学、及び大学生との協働手法について考察する。

〈第12講〉 ソーシャルイノベーション

概要：家守、リーダーシップ

事前学習しておくべき用語やポイント[家守(やもり)、裸踊り(YouTube参照)、ソーシャルイノベーション]

詳細：今アジアや我が国で必要不可欠なリーダーシップとは。真のパートナーシップとは。

〈第13講〉 プロジェクト戦略会議Ⅲ

概要：地域経営計画構築

詳細：実際に地域ビジネスのストラクチャー(構造)を、PPPやファイナンス要素を入れて計画する。

〈第14講〉 プロジェクト戦略会議Ⅳ

概要：地域経営計画構築

詳細：実際に地域ビジネスのストラクチャー(構造)を、PPPやファイナンス要素を入れて計画する。

〈第15講〉 最終(中間)発表

概要：地域SNS、まちづくりポイント、サービ斯拉ーニングセンターの運営評価まとめ

事前学習しておくべき用語やポイント[秋学期の総括まとめ]

詳細：地域貢献ポイント付与型地域SNSを利用した、サー

ビ斯拉ーニング、地域の繋がりの仕掛けの実際を考察、次年度へ向けての戦略方針修正を行う。

【多摩大学地域プロジェクト発表祭における発表】

■教科書

※無し(適宜、資料を配布する)

■指定図書

サラ・コナリー、マージット・ミサンギ・ワッツ 著 山田一隆・井上泰夫 訳

「関係性の学び方」見洋書房

西山康雄/西山八重子 著「イギリスのガバナンス型まちづくり」学芸出版社

■参考文献

丹保憲仁著「人口減少下の社会資本整備-拡大から縮小への処方箋-」(社)土木学会

岡田知弘著「地域づくりの経済学入門-地域内再投資力論-」自治体研究社

■参考 URL

<https://www.facebook.com/kata.semi>

■評価方法

ゼミナール活動への貢献度

講義への出席数 70%

イベントやプロジェクトへの参画による成果作成 30%

■評価基準

絶対評価(合格、または、不可)

■事前履修科目等

※なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・春学期のプロジェクトゼミナールI「公民連携による地域/社会貢献ビジネスI」

「(仮)サービス・ラーニングセンター」創出プロジェクトI」と通年開講である。

秋学期の「(仮)サービス・ラーニングセンター」創出プロジェクトII」から受講する者は、

次の春学期「(仮)サービス・ラーニングセンター」創出プロジェクトII」も受講することが望まれます。

・実際のの地域活動を実践していくプロジェクト型なため、受講者の予定を考慮した上で講義時間

以外に適宜、外部活動を行う。(地域活動団体や地域企業との協議や、地域イベント参画など)

・近隣大学ゼミ、多摩市役所関係部局、地域民間企業との連携を行う

・地域コミュニティの促進や、人と情報のネットワーク、市民活動中間支援、社会的企業(ソーシャルビジネス)、等に興味のある学生の参加が望まれます。また、公務員志望の学生向けでもある。

・ゼミナール時間以外に、教員と学生間にて、ソーシャルメディア(フェースブック、twitter、地域SNS)などを使ったコミュニケーションが必須となる

科目名 プロジェクトゼミナール[Project Seminars] 秋学期

担当教員 片桐 徹也

■講義目的

「多摩キャンパス」が位置する多摩市は、街開きから41年が経過した「多摩ニュータウン地域」が7割を占める。

その「多摩ニュータウン」は、様々な問題、課題、外的驚異を克服し、一方で、強みや機会を活かす、新たな地域経営手法の創出・実践が求められている。地域主体の一つでもあり地域資源の一つでもある、「多摩大学」をはじめ、市内5つの大学の学生が、「学び」と「地域貢献活動」の組み合わせによる「地域課題/社会問題」の解決、そして、将来求められる地域像の創出へ関わっていくことは、学生や、地域の双方にとり有益である。

この講座は、地域の現状と課題を学びつつ、地域課題/社会問題の解決の担い手であるNPOや、地域企業と、地域大学(生)がパートナーシップ(連携)・協働し、地域が活性していく仕掛けを創出するプロセスに関わることで、連携協議体の媒介役としての学生の役割や、地域経営体における実践を学ぶことを目的とする。

手法としては、「地域SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)」の活用により、地域課題に取り組むNPO等の活動理念を可視化させ、抱えている課題・問題に「共鳴・共感」する担い手として、学生や企業市民、「志民」がその活動に関わることで、地域社会に参画をする。また、個々の学生の特性を活かした役割を担うことが考えられる。

マルチステークホルダー(地域課題解決に取り組む複数の主体(NPO等・行政・地域金融機関・大学・企業)との連携により、「地域貢献ポイント」インセンティブを付与される仕組みと、活動する学生等の活動を可視化させる仕組みを創出することでサステナブル(持続可能)な地域経営手法の創出に関わる。「多摩大学地域活性化マネジメントセンター」や、関連するホームゼミ、関連する他大学のゼミとも連携し、実際の学生ニーズと現実の地域活動ニーズをマッチングさせていく「サービス・ラーニング(学生の学びによる地域/社会貢献)」の手法を実践する。

このことは、街の再生・活性策を技術的な手法のみに依存するのではなく、大学生と地域の双方が連携し地域づくりに参画し活動していくプロセス(過程)そのものが、地域経営のひとつの仕組みになっていくことを目指すものである。例えば子育て世代の居住誘引につながることで「ニュータウン再生」の仕掛けや、住民コミュニティが再生されていく仕掛けを創出することが期待される。

■講義分類

顧客理解/ビジネス環境理解/ビジネス創造/ビジネスマネジメント/社会人力育成/ビジネスICT/地域ビジネス

■到達目標

- ・まちづくりポイント」の利活用による「共鳴・共感・協働の地域公共圏」創出事業への貢献
(企画、広報、講習講師、ブログ公開等)
- ・地域課題や社会問題の解決を担うNPO等との協働体験による地域社会マネジメントの理解
- ・官民連携(Public-Private Partnership)の基本を理解する
- ・留学生との交流によるアジア市場経済の学びと国際交流の地域への展開

- ・地域企業が展開するCSR施策に関わることで、地域企業と地域の連携の効用を理解する

■講義形態

講義 + GD + GW + PR

その他(地域イベント参画)[学外学習有]

■講義の概要

〈第1講〉ガイダンス

概要：セミナー説明

事前学習しておくべき用語やポイント[サービスラーニング、地域SNS、地域貢献]

詳細：セミナーの目的と使命、方針を理解する。

〈第2講〉人口推計から読み解く将来

概要：我が国の現状と人口推計から見える今後、および、多摩ニュータウンの概要

事前学習しておくべき用語やポイント[団塊世代、高齢化、多摩ニュータウン]

詳細：予め人口推計等から、将来の我が国の状況や、アジア経済を理解しつつ、強み、弱み、チャンス、脅威をとらえた将来構想を考える。

〈第3講〉フィールドワーク

概要：多摩ニュータウン・諏訪/永山地域・街歩き

事前学習しておくべき用語やポイント[多摩ニュータウン諏訪/永山、多摩市の歴史]

詳細：対象とするフィールドを実際に自分の目で見て、地域の声を聞くことで、地域を実感する。

〈第4講〉サービス・ラーニング

概要：コミュニティ・サービス・ラーニング(学生の地域/社会貢献と学び)の実態

事前学習しておくべき用語やポイント[サービス・ラーニング]

詳細：サービス・ラーニングのケーススタディ

多摩地域で展開するサービス・ラーニングについて解説

〈第5講〉地域SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)

概要：地域SNSケーススタディ

事前学習しておくべき用語やポイント[地域SNS、まちづくりポイント、地域貢献ポイント、インセンティブ]

詳細：地域SNSの実例を学び、問題点を討議する。「多摩」に必要な仕掛けを考察する。

〈第6講〉社会的事業(SB)、公民連携(P/PP)

概要：地域課題解決、社会問題解決の主体について学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント

[ソーシャルビジネス、NPO、Public-Private Partnership]

詳細：地域社会の担い手や、ビジネス手法について学び理解する。具体例によるケーススタディ

〈第7講〉地域企業とCSR、CSV

概要：CSRやCSVによる企業の地域貢献

事前学習しておくべき用語やポイント[CSR, Creating Shared Value]

詳細：多摩市内に事業所を設置する地域企業の社会/地域貢献施策を地域大学が媒介役となり、必要としているNPO等と

のマッチングにより、地域貢献活動を繰り広げるための課題解決と実践に結びつける。

〈第8講〉 NPO法人との協働(留学生協働プロジェクト)

概要：コミュニティカフェイベント共催

事前学習しておくべき用語やポイント[コミュニティカフェ、ワーカースコップ、NPO福祉亭、込煮亭、「団地の縁側」、アジア経済]

詳細：留学生参画による、地域におけるフードイベントを共催する。

〈第9講〉 近隣センターとの連携

概要：ニュータウン近隣センターとの連携

事前学習しておくべき用語やポイント[近隣センター]

詳細：実際に、ニュータウンの近隣センターと連携し、恒常的な地域活動、祭りに参画し、地域住民との関係構築も行う。

〈第10講〉 地域スポーツクラブ基礎

概要：「地域」と「地域スポーツクラブ」

事前学習しておくべき用語やポイント[指定管理者制度、多摩市立温水プール「アクアブルー多摩」]

詳細：地域スポーツクラブが醸成する、地域づくり、地域コミュニティについて学ぶ。

〈第11講〉 地域コミュニティ(自治会と連携)

概要：高齢化する街と、「食」、コミュニティ創出

事前学習しておくべき用語やポイント[買い物弱者、買い物難民、オンデマンド交通]

詳細：実際に、具取自治会、地域住民、間接的に行政と協働し、有効な、課題解決策を考案、実践する。

〈第12講〉 公民連携(P/P/P)

概要：公民連携、官民パートナーシップ、PPPについて学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント[PPP]

詳細：世界のPPP、日本におけるPPPを学び、これからのニュータウンに不可欠なPPPを討議する。

〈第13講〉 プロジェクト戦略会議Ⅰ

概要：地域経営計画構築

詳細：実際に地域ビジネスのストラクチャー(構造)を、PPPやファイナンス要素を入れて計画する。

〈第14講〉 プロジェクト戦略会議Ⅱ

概要：地域経営計画構築

詳細：実際に地域ビジネスのストラクチャー(構造)を、PPPやファイナンス要素を入れて計画する。

〈第15講〉 中間発表

概要：地域SNS、まちづくりポイント、サービスラーニングセンターの運営中間評価

事前学習しておくべき用語やポイント[春学期の総括まとめ]

詳細：地域貢献ポイント付与型地域SNSを利用した、サービスラーニング、地域の繋がりへの仕掛けの実際を考察、秋学期へ向けての戦略方針修正を行う。

■教科書

※無し(適宜、資料を配布する)

■指定図書

サラ・コナリー、マージット・ミサンギ・ワッツ 著 山田一隆・井上泰夫 訳

「関係性の学び方」晃洋書房

西山康雄/西山八重子 著「イギリスのガバナンス型まちづくり」学芸出版社

■参考文献

丹保恵仁著 「人口減少下の社会資本整備-拡大から縮小へ

の処方箋-」(社)土木学会

岡田知弘著 「地域づくりの経済学入門-地域内再投資力論-」自治体研究社

■参考URL

<https://www.facebook.com/kata.semi>

■評価方法

ゼミナール活動への貢献度

講義への出席数 70%

イベントやプロジェクトへの参画による成果作成 30%

■評価基準

絶対評価(合格、または、不可)

■事前履修科目等

※なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・秋学期の「プロジェクトゼミナールⅠ 公民連携による地域/社会貢献ビジネスⅡ」

「(仮)サービス・ラーニングセンター」創出プロジェクトⅡ」と通年開講である。春→秋、または、秋→春学期を連続しての受講が必要である(なお、次年度以降継続しての受講を妨げない)

・実際の地域活動を実践していくプロジェクト型のため、受講者の予定を考慮した上で、講義時間

以外に適宜、外部活動を行う。(地域活動団体や地域企業との連携協議や、地域イベントへの参画など)

・近隣大学ゼミ、多摩市役所関係部局、地域民間企業との連携を行う

・地域コミュニティの促進や、人と情報のネットワーク、市民活動中間支援、社会的企業(ソーシャルビジネス)等に興味のある学生の参加が望まれる。公務員志望の学生向けでもある。

・ゼミナール時間以外に、教員と学生間にて、ソーシャルメディア(フェースブック、twitter、地域SNS)などを使ったコミュニケーションが必須となる

科目名 プロジェクトゼミナール[Project Seminars] 春学期

担当教員 木村 知義

■講義目的

メディアの世界にいま「新しい風」が起きている。
ICT (情報通信技術) のめざましい発展によって、これまで
は情報の「受け手」としてしか存在しなかった我々の誰もが
情報発信の主体、「送り手」になれる時代がやってきた。「オ
ルタナティブ・メディア」あるいは「コミュニティメディア」
といわれる市民によるメディア発信も、世界各地で活発にお
こなわれている。また、フェイスブックやツイッターといっ
たソーシャルメディアを活用した、新たな情報発信もめざま
しい広がりをみせている。

しかし、それだけに、何を、どう伝えるのが深く問われてく
る。プロジェクトゼミ「メディアを創る」では、社会や地域を見
つめ、自らテーマを発見し、企画、取材、編集といった、メ
ディアにかかわる全プロセスを体験することで、課題発見能
力、企画力、取材力、そして問題解決能力にいたる総合的な
力の獲得をめざす。こうした実践的知識と能力の錬磨を通じ
て、メディアリテラシーとコミュニケーション能力を育み、
社会と人間へのまなざし、ものの見方、考え方を鍛え、社会
で生きていくために不可欠な人間力の陶冶をめざす。さらに
多様な発想にもとづくメディア実践を通して現代社会におけ
るメディアの責任と使命、ビジネスICTの現状と可能性につ
いても学ぶ。当プロジェクトゼミは、2008年からインタ
ーネットラジオでの発信をイメージした音声番組の企画、制
作ワークを積み重ね、2011年からはステージを新たにし
て、映像メディアの企画、制作に踏み出した。さらに昨年、
2012年秋学期から「学生ジャーナル」の取材・編集に参画
することで、音声、映像、活字といったメディアミックスに
よる情報発信へとフィールドを広げている。
2011年3月11日に起きた東日本大震災を契機に、多く
の大学生が被災地に入り、あるいは被災して避難生活を余儀
なくされた人々のあいだに分け入って、人々の暮らしや被災
の現状を記録するという活動と取り組み始めている。また全
国各地で大学生による多様なメディアでの情報発信が一段と
熱を帯びている。
こうした大学発の情報発信の高まりと広がりをふまえ、チャ
レンジングで創造的なメディア実践の学びの場をめざす。

■講義分類

社会人力育成 ビジネスマネジメント／ビジネスICT
ビジネス創造

■到達目標

1. 広く社会に目を向け、テーマを見つけ、企画を立て、取材し、インタビューしたりリポートしたりすることで、自らのことは語り、伝えることができる。
2. 映像や音声によるドキュメンタリー企画、取材、編集という番組制作にかかわる全過程を経験して、メディア制作についての知識と実用的な技法、方法について学びの場に向けて情報発信できる。
3. 多摩大学「学生ジャーナル」の取材、編集に参画して、大学発の情報発信を担う。
4. 多摩学を学ぶ活動などと連携し、地域社会に根ざすコミュニティメディアの創造にむけてのプランニングに参画する。
5. これらの取り組みによって、問題発見能力、企画力、そして交渉力をはじめとするマネジメント能力、問題解決能力を鍛え、実社会で活用できる。

■講義形態

講義+GD+GW+PR[学外学習有]

■講義の概要

*以下の講義計画は「映像制作」の基本的なプロセスにそって各段階の作業に即したものである。実際には映像、音声、活

字など各メディアとそれぞれの進捗状況に応じて個別に対応しながらすすめることになる。したがって、以下は「映像制作」をモデルにした総体的な講義計画ということになる。

【第1講】番組制作とはどのような営みなのか

概要：メディアにおける企画、取材、制作とはどのような営みなのか、いま、なぜ「オルタナティブ・メディア」なのかを学びながら、このプロジェクトゼミがめざすものについて認識の共有をはかる。

事前学習しておくべき用語やポイント[大学生のドキュメンタリー制作活動例について]

詳細：巨大なマスメディアの存在をこえて、多様な言論、多様なメディア文化が存在するかどうかが社会のあり方をはかる重要なテーマになっている。ICT技術の進歩によって、情報発信のハードルは一挙に低くなり、わいわい一人ひとりが情報発信の使い手として参画する道が開けてきている。メディアを創り、多様なメディア発信のプロジェクトに参画する意味と意義について知るとともに、これから取り組む企画、取材、制作のプロセスに即して、このプロジェクトゼミを通じて何を学ぶ、何をめざすのか、その目標とゼミのすめ方について、意見発表、討論も交えて理解を深める。

【第2講】企画を立てる。メディアはメッセージだ！(1)

概要：メディアは企画がすべて！では企画をどう生み出すのか、討論を交えて実践的に学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[自分の取り組んでみたい企画についてまとめる]

詳細：メディアはメッセージだ！という不変のテーゼである。では企画をどう生み出すのか、一体、何を伝えたいのかを考えるとどこまで問題意識の底辺にまで、企画が生まれ、形あるものにも発展していく過程を、いくつかの具体番組の例をもとに、それぞれの意見発表と討論を深めながら学んでいく。

なお、制作にあたっての選択肢は、

1. ビデオ番組
2. デジタルカメラを活用したスライドショー構成番組
3. 音声番組
4. 活字、ペーパーメディアにおける記事

【第3講】企画を立てる。メディアはメッセージだ！(2)

概要：提案企画をひらき企画を発表して議論をおこなう。

事前学習しておくべき用語やポイント[企画のプレゼンテーションの準備をする]

詳細：番組制作にあたって選んで進みたいのが「提案企画」。各自の企画を組上に乗せて議論することで企画のブラッシュアップをはかる。同時に、批判にさらされることで、多角的に「提案を採り」意義について学ぶ。また、企画・提案に至るプロセスで学ぶポイントは、

- ・説得力のある企画提案書はどのような書きかたで、企画意図をどう企画書にまとめ上げいくのか、それをどうプレゼンテーションすれば理解を得られるのか、認められるのかについて、実際に体験する。
- ・リサーチから企画をまとめ上げるまでのプロセスをしかり身につける。
- ・放送現場での「企画書」をモデルに、それぞれが触発されたことを整理して、企画を発想する手法、方法論について深める。

【第4講】提案企画を企画についての検討、議論を深める。

概要：さらに「提案企画」で議論を深め、それぞれの企画のさらなるブラッシュアップをめざす。

事前学習しておくべき用語やポイント[企画をもとにも構成を考える]

詳細：提案企画を創りながら、当初の企画案が「提案企画」での議論を経てどうにもブラッシュアップされたのかをチェックして、企画力、提案力を鍛えていく。また、モデルとして配布する「構成表」をもとに、それぞれの企画の構成イメージを組み立て、書いてみる。さらに、「仮構成にもとづいてさらにリサーチを重ね、取材計画を立てる。

【第5講】撮影！撮影の実践とカメラの達人になるために

概要：ビデオカメラを使って撮影の実践について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[ビデオカメラの使い方、カメラワーク]

詳細：実際にビデオカメラに触れて、ビデオカメラの特性、撮影にあたっての注意について学ぶ。あわせて音声収録についても録音機材を使って、実際に即して学ぶ。

*「インタビュー」についての教材資料を配布、熟読して次週に備える。

【第6講】「問い」がすべて！インタビューの力を鍛える

概要：配布教材をもとに、インタビューについて学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[インタビューとはどのような行為か]

詳細：「問いは答えてくれるもの」とは白痴まで作家として書き続けた上野先生さんのことばでは、それはその意味とところを何か？インタビューの方法論とその実践について学ぶ。

【第7講】「構成」を検討する

概要：それぞれが書いた「構成表」をもとに議論、検討する。

事前学習しておくべき用語やポイント[構成表を書きあげる]

詳細：テーマ、メッセージが明確に伝わる「構成」とはどのようなものか、放送現場での「構成表」などを参考に、視聴者の関心、興味を引きつけながらメッセージを力強く伝えていく方法について学ぶ。

〈第8講〉取材に向けて

概要：「構成」をもとに「取材計画」を立てて、発表して検討する。

事前学習しておくべき用語やポイント[取材計画の立案]

詳細：「構成」をもとに「取材計画」を立てる。同時に、ロケ取材に使う機材についてもさらに習熟し、ミスなく確実なロケ取材ができるようにしていく。また、取材交渉の実例、「取材（協力）依頼文書」の書き方など、取材交渉からロケ計画まで、実際に即して、必要な段取りや作業について学ぶ。

〈第9講〉編集と再構成～ポスト・プロダクションの実際～(1)

概要：編集ソフトと編集作業の実態について学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[編集ソフト、EDIU S Neo 3 活用の実例]

詳細：ロケ取材した素材をもとに編集作業に入ることになるが、そのためにどんな準備が必要なのかを学びながら、「構成」の手直し（再構成）の重要性について学ぶ。同時に編集ソフトについて習熟をはかる。また音声編集についても学ぶ。

〈第10講〉編集と再構成～ポスト・プロダクションの実際～(2)

概要：ロケ取材した素材の編集作業をすすめるから、再構成をすすめる。

事前学習しておくべき用語やポイント[ポスト・プロダクション]

詳細：ロケ取材した素材の編集作業をすすめるから、再構成した内容をもとに必要なコメント（ナレーション）や音楽材について検討し、制作の仕上げ（完プロ）にむけて準備する。また、ロケが進んでいるものについてはロケ計画の詰めを急ぐなど制作作業の進捗状況をチェックする。

〈第11講〉編集と再構成～ポスト・プロダクションの実際～(3)

概要：編集した「素材」を視聴して、さらに吟味、検討する。

事前学習しておくべき用語やポイント[構成の手直し、ナレーションコメントを書く]

詳細：編集した「素材」を視聴して、さらに検討、議論を重ね、手直しの編集作業と取り組む。さらに、手直した「素材」にもとづいて、ポストプロの仕上げに向けてナレーションのコメントの作成、音楽材の編集手直しなどに取り組む。

〈第12講〉「完プロ」仕上げ作業へ

概要：編集した「素材」とコメント（ナレーション）、音などを合わせてさらに検討する。

事前学習しておくべき用語やポイント[完プロ用の構成台本を作成する]

詳細：編集した「素材」とコメント（ナレーション）、音などを合わせてみてさらに検討を深める。そして、確定版の構成台本を作成して、ナレーションなどを入れて完成させる。

〈第13講〉番組視聴と検証(1)

概要：制作した番組を視聴しながら議論を深め、番組について検証する。

事前学習しておくべき用語やポイント[番組を見る力]

詳細：番組は出来上りであればそれでいい。番組の検証を通して「次ぎへの教訓を得てさらなる力になること」がなにより重要。制作した番組を視聴しながら議論を深め、番組について検証していく。

〈第14講〉番組視聴と検証(2)

概要：番組の視聴と検証をさらにすすめる。

事前学習しておくべき用語やポイント[番組を評価する力、批判する力]

詳細：番組の視聴と検証のプロセスを通じて、番組の見方を鍛えることが制作力を鍛えることに通じることを体得していく。すべては問題意識の鋭さ、深さにかかわるということ、さらにはその基礎にある、ものの見方、考え方を鍛えることが優れた番組をつくることに通じることを学ぶ。また、「何が足りなかったのか」とどまらず、「なぜ、そうだったのか」について考えることが重要。リサーチ、企画段階から構成、取材のすべてのプロセスに立ち戻って、メッセージを的確に伝える内容になったかどうかを考え、検証を深める。

こうした検証を通じて、より的確で豊かな内容の番組を制作していくための教訓をつかむ。

〈第15講〉春学期を総括する

概要：企画から制作に至る全過程を振り返り、それぞれの感想と総括を発表して意見を交わし、討論を通じて春学期の成果と今後の課題について明らかにする。

事前学習しておくべき用語やポイント[広く社会に目を向けドキュメンタリー制作へ]

詳細：制作のプロセスをふりかえりながら、それぞれにとって成果は何か、課題は何かを再確認する。企画から取材、編集、表現にいたる総合的な「制作力」とはどのようなことなのかを深める。春学期の総括をもとに秋学期にむけて企画を考え、リサーチに入る。

春学期の制作ワークの総括を深め、レポートにまとめる。

■教科書

なし。随時、プリントやパワーポイントのスライドなど、教材を準備する。

■参考文献

『メディアをつくる～「小さな声」を伝えるために～』白石草（岩波書店 2011 年）

『市民メディアの挑戦』松本恭幸（リベルタ出版 2009 年）

『オルタナティブ・メディア』ミッチ・ウォルツ（大月書店 2008 年）

『メディア・ルネサンス～市民社会とメディア再生～』津田正夫他（風媒社 2008 年）

『メディアリテラシー～世界の現場から～』菅谷明子（岩波書店 2000 年）

『現場主義の知的生産法』関 満博（筑摩書房 2002 年）

■評価方法

普段のゼミへの参加の姿勢をはじめ番組制作プロセスでの努力に主眼を置いて評価する。

そのうえで、作り上げた作品のレベルとともに発想の豊かさ、企画力などを総合的に判断して評価する。結果としての番組の出来具合も大事だが、なによりも真摯に努力する姿勢や積極性を重視する。

■評価基準

絶対評価

ゼミの評価基準、P、F の二分法にもとづいて評価。

ゼミのテーマ設定の性格から、不合格とせざるを得ない場合は事前に本人と話し合い、納得性の上に判定する。

■留意点

自ら調べ、考え、議論し、取材に歩き、編集に取り組むなど、相当ハードなワークになる。それぞれの自覚性にもとづく創造的な「学びの場」をめざすので、チャレンジ精神に富む学生諸君の参加を呼びかけたい。同時に、将来、進路としてメディアでの仕事を志す学生はもちろん、それ以外の学生にとっても重要な、もの見方や考え方、社会性などを実践的に鍛え、総合的なコミュニケーション能力の鍛練をめざしている。メディア志望者に限らず、多様な問題意識をもった学生の参画を期待する。

以下の諸点に、あらかじめ理解、覚悟したうえで参加すること。

＊15 回という限られた講義設定の中で目標を達成する必要がある。病気、就活などやむを得ない場合を除いて、全授業に出席することが前提となる。

＊また、ゼミ時間外に自主的に取材、編集などの作業に取り組むことが不可欠となる。

＊さらに、秋学期までの30 回を前提に作品の制作計画を立てる。通年で履修が望ましい。

＊重ねて、かなりハードなワークとなるが、かならず努力が実を結び大きな達成感、充実感を手にすることができると確信する。

＊番組の企画、制作に取り組む面白さ、楽しさと「苦労」を体験しながら、社会に出て通用する実戦的な力を身につけたいという、意欲に燃えた諸君の参加を待つ。

科目名 プロジェクトゼミナール[Project Seminars] 秋学期

担当教員 木村 知義

■講義目的

「YouTube」「USTREAM」・・・など、これまで閉ざされがちだったメディアの世界にいま「新しい風」が起きている。ICT(情報通信技術)のめざましい発展によって、これまでは情報の「受け手」としてしか存在し得なかったわれわれの誰もが情報発信の主体、「送り手」になれる時代がやってきた。また「オルタナティブ・メディア」といわれる市民によるメディア発信も、世界各地で活発におこなわれるようになってきた。

しかし、それだけに、何を、どう伝えるのが深く問われてくる。プロジェクトゼミ「メディアを創る」では、社会や地域を見つめ、自らテーマを発見し、企画、取材、編集といった、メディアにかかわる全プロセスを体験することで、課題発見能力、企画力、取材力、そして問題解決能力にいたる総合的な力の獲得をめざす。こうした実践的知識と能力の錬磨を通じて、メディアリテラシーとコミュニケーション能力を育み、社会と人間へのまなざし、ものの見方、考え方を鍛え、社会で生きていくために不可欠な人間力の陶冶をめざす。さらに多様な発想にもとづくメディア実践を通して現代社会におけるメディアの責任と使命、ビジネスICTの現状と可能性についても学ぶ。

当プロジェクトゼミは、2008年からインターネットラジオでの発信をイメージした音声番組の企画、制作ワークを積み重ね、2011年からはステージを新たに、映像メディアの企画、制作に踏み出した。さらに昨年、2012年秋季から「学生ジャーナル」の取材・編集に参画することで、音声、映像、活字といったメディアミックスによる情報発信へとフィールドを広げている。

秋学期は、春学期に学んだメディア制作の基本的な方法、技法を活用して、広く社会に目を向け、さらにステップアップした企画の制作に挑戦する。とりわけ、大学のある多摩地域に目を向け、より社会性と地域性を持った企画の取材、制作にチャレンジする。長年放送の現場で仕事を重ねてきた経験に立って、より実践的かつ創造的な「学びの場」をめざす。

■講義分類

社会力育成 ビジネスマネジメント／ビジネスICT
ビジネス創造

■到達目標

1. 広く社会に目を向け、テーマを見つけ、企画を立て、取材し、インタビューしたりレポートしたりすることで、自らのことで語り、伝えることができる。
2. 映像や音声によるドキュメンタリーの企画、取材、編集という番組制作にかかわる全過程を経験して、メディア制作についての知識と実践的な技法、方法について学び外に向けて情報発信できる。
3. 多摩大学「学生ジャーナル」の取材、編集に参画して、大学発の情報発信を担う。
4. 多摩学を学ぶ活動などと連携し、地域社会に根ざすコミュニティメディアの創造にむけてのプランニングに参画する。
5. これらの取り組みによって、問題発見能力、企画力、そして交渉力をはじめとするマネジメント能力、問題解決能力を鍛え、実社会で活用できる。

■講義形態

講義+GD・GW・PR(学外学習)

■講義の概要

*以下の講義計画は春学期同様、「映像制作」の基本的なプロセスにそって各段階の作業に即したものである。

である。実際には映像、音声、活字など各メディアとそれぞれの進捗状況に応じて個別に対応しながらすすめることになる。したがって、以下は「映像制作」をモデルにした総体的な講義計画ということになる。

※なお、制作にあたっての選択枝は、春学期同様

1. ビデオ番組
2. デジタルカメラを活用したスライドショー構成番組
3. 音声番組
4. 活字、ペーパーメディアにおける記事となる。

(第1講)映像番組制作のステップアップにむけて

概要：秋学期は、春学期に学んだことをもとに、さらにステップアップをめざす。

事前学習しておくべき用語やポイント[地方の時代映像祭、自治体、学生部門について知る]

詳細：「誰かが映像表現できる時代に」、大学や地域に根ざしたメディアを創り出す意味について、議論を通して深めチャレンジへのモチベーションを高める。同時に、春学期に学んだ、企画、取材から編集、完プロまでの制作の全過程についてそのポイントを復習する。インタビューの方法、放送における音声表現のポイントについても復習するとともに、編集ソフトの使い方など、番組の制作にかかわるさまざまな作業について再確認する。さらに、提案会議にむけてそれぞれの新たな企画についてまとめる。

(第2講)ステップアップをめざして、企画を立てる(1)

概要：「メディアは企画がすべて」というのは春学期にも学んだ。ではどうすれば地域や社会に目を向けたドキュメンタリー番組の企画を生み出すことができるのか？

事前学習しておくべき用語やポイント[NHKドキュメント20min. など事例研究]

詳細：視野を大学キャンパスから地域や社会に広げて企画のテーマを考える。また、グループワーク(共同制作)という取り組みも視野に入れて番組の企画について議論する。

これらの議論をもとに、図書館などで過去の新聞記事や資料に当たったり、実際に現場に出かけたりしてリサーチを重ね、企画をまとめる。また、大学発や地域発の映像番組による情報発信の例について調べ、その番組の内容などから学ぶべき点を探る。

(第3講)ステップアップをめざして、企画を立てる(2)

概要：リサーチをもとに「提案会議」で企画を検討、議論する。

事前学習しておくべき用語やポイント[ドキュメント20min. など事例研究を続ける]

詳細：一人の人間が考えることのできる企画には限界がある。それを補い、深め、発展させて、より大きく、骨太にしていくのが提案会議(企画会議)。提案会議の議論を通じて企画を骨太、豊かなものにブラッシュアップする。

(第4講)ステップアップをめざして、企画を立てる(3)

概要：企画を絞り、取材計画を立てる。

事前学習しておくべき用語やポイント[さらに番組の事例研究を続ける]

詳細：「提案会議」で企画を絞り、決定する。企画をブラッシュアップするとはどういうことなのか。具体的なアイデアを出す力、生産的な批判能力を身につけることが企画提案能力を高めることと密接不可分であることを体験的に学ぶ。同時に企画のレベルをより高めて番組化するための道筋について考えた上で、提案の採否を決定して「提案票」の決定欄を仕上げる。その上に、「(仮)構成表」を書いてみる。ロケなど取材計画を考える。

(第5講)構成表を書く

概要：提案票をもとに構成を検討し、構成表をつくりあげる。

事前学習しておくべき用語やポイント[構成表の書き方を復習する]

詳細：よい企画があればそれだけで番組ができるというものではない！構成力が勝負を決めることは春学期にも学んだ。では構成力とはどういうものなのか。議論しながら構成を豊かにしてい、構成を練り上げていく。このプロセスを通して、構成力ということについて深く学ぶ。構成にもとづいて取材計画を立て、取材交渉をはじめ。

(第6講)ロケ取材へ

概要：ロケ取材の実際についてさらにステップアップして学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント[カメラの操作、ロケのポイントについて復習]

詳細：構成ではできた。しかし、それはあくまでも机上のものだ。取材して必要な要素を集めるこ

とができなければ単なる「絵に描いた餅」に終わる。取材はむずかしい！さてどうする。取材交渉から取材計画の立案など、ロケ取材の実際についてさらにステップアップして学ぶ。

〈第7講〉ロケ取材の実際

概要：取材交渉からロケへ。

事前学習しておくべき用語やポイント【カメラワーク、ロケ取材の実際】

詳細：ロケ取材の準備過程で見た問題や課題、疑問を出し合いながら、それをどう乗り越え、解決していくのか、議論を通じて解決への道筋を見つけていく。同時に現場でのインタビュー内容やリポート収録の準備についてもチェックする。ロケ取材の実地へ！

〈第8講〉編集作業へ

概要：ロケしてきた素材を試写しながら編集の構想を練る。

事前学習しておくべき用語やポイント【編集ソフトの使い方を復習する】

詳細：ロケ取材した「映像素材」をもとに詳細な「カット表」を作るとともに並行してインタビュー内容など「音素材」の「起こし」の作業と取り組む。また、制作の進み具合をチェックし、進んでいない場合は何が卡になっているのか、それを突き破るためにはどうすればいいのかを議論して解決策を考える。取材が進んでいるケースでは、さらに補足取材すべき要素はないかと検討して、番組の質の向上をめざす。

〈第9講〉編集と取り組む

概要：取材してきた映像素材を視聴しながら「再構成」し、番組内容の深化、ブラッシュアップをはかる。

事前学習しておくべき用語やポイント【編集の技法についてさらに研究する】

詳細：取材できた映像素材をどう生かせばいい番組になるのかを考え構成をさらに手直し、構成表の「改定版」を作る。それにもとづいて編集作業と取り組む。また、そこから何が足りないのかを考えて再取材、補足取材の必要な事柄を洗い出す。

〈第10講〉編集作業をすすめる

概要：春学期に編集の基本については学んだが、より高度で複雑な編集作業について、編集の実際を体験しながら学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント【番組研究をもとに編集の技法について深める】

詳細：引き続き、なぜ「再構成」が必要なのか、「再構成」とはどういう作業なのかを体験的に学ぶ。そこでは豊かな発想力、構想力がカギになることを学び、「再構成」をもとに編集作業をすすめる。

〈第11講〉「一編」の試写と編集の手直し、再・再構成へ

概要：「粗編集」した「一編」（一回目の編集結果）を視聴しながら構成の再度の検討とそれにもとづいた再編集と取り組む。

事前学習しておくべき用語やポイント【ナレーションの実際の訓練】

詳細：「粗編集」で仕上げた「一編」を視聴して構成の再手直しをする。構成の再度の検討とそれにもとづいた再編集と取り組む。同時にナレーションのコメントや効果音など仕上げて向け準備をすすめる。

〈第12講〉完プロ、制作の仕上げへ

概要：編集できた素材にナレーションや効果音、必要な字幕などを加え、完成させる。

事前学習しておくべき用語やポイント【ナレーションの実際と効果音などの音処理】

詳細：編集できた素材をもとにナレーションや効果音などを加え、作品を完成させる。

必要に応じて字幕を入れる。加えて、視聴、検証に向けてナレーションコメントなども書き入れた「構成表」の最終確定版を作り上げておく。

〈第13講〉番組視聴と検証（1）

概要：出来上がった番組を視聴しながら議論と検証を深める。

事前学習しておくべき用語やポイント【批判的に見る】ということについて考える】

詳細：番組の出来合いを確認するだけではなく、番組の試聴を通して、それぞれが番組に対して意見や評価を持ち、論理的に発言し議論を深めることができるように努力する。また、そこで出された意見や評価にどう学んだのかなどを整理して深めていく。制作力は番組を「見る力」（読み解く力）と密接不可分であることを体験しながら学ぶ。

〈第14講〉番組視聴と検証（2）

概要：引き続き番組を視聴して議論、検証を重ねる。

事前学習しておくべき用語やポイント【番組を見る力、読み解く力とはどのような力か】

詳細：なぜ「事後」の検証が必要なのか、事後の検証作業が持つ意味について再確認して深める。「事後検証」が番組の質的向上、深化（進化）にとって不可欠であることを学ぶ。議論を通じて、番組制作と取り組んだ成果と課題について整理する。また、全国の大学生による映像番組制作の取り組みや市民メディアといわれる多様な情報発信について調べ、整理する。秋学期とこの一年の番組制作ワークについて総括のレポートをまとめる。

〈第15講〉もうひとつのメディア創出をめざして～終講にあたって

概要：一年間取り組んできた映像番組の制作を通して獲得した力は、現在の社会でどのような意味があるのかを考えながら、各自の総括レポートをもとに考えを発表する。

事前学習しておくべき用語やポイント【市民メディア、コミュニティメディア、ビデオジャーナリスト】

詳細：この一年、プロジェクトゼミで学んだことや成果と今後の課題について、認識と問題意識を共有することをめざす。さらに「もうひとつのメディア＝オルタナティブ・メディア」の社会的意味とそこの大学発、あるいは地域発の情報発信の意義を確認する。同時に、ここで培った力がどのようなものであるのか、それぞれが一年を総括して深める。

■教科書

なし。随時、プリントやパワーポイントのスライドなど、教材を準備する。

■参考文献

『メディアをつくる～「小さな声」を伝えるために～』白石草（岩波書店 2011年）

『市民メディアの挑戦』松本恭幸（リベルタ出版 2009年）

『オルタナティブ・メディア』ミッチ・ウォルツ（大月書店 2008年）

『メディア・ルネサンス～市民社会とメディア再生～』津田正夫他（風媒社 2008年）

『メディアリテラシー～世界の現場から～』菅谷明子（岩波書店 2000年）

『現場主義の知的生産法』関 満博（筑摩書房 2002年）

■評価方法

普段のゼミへの参加の姿勢をはじめ番組制作プロセスでの努力に主眼をおいて評価する。

そのうえで、作り上げた作品のレベルとともに発想の豊かさ、企画力などを総合的に判断して評価する。結果としての番組の出来具合も大事だが、なによりも真摯に努力する姿勢や積極性を重視する。

■評価基準

絶対評価

春学期同様、ゼミの評価基準、P、Fの二分法にもとづいて評価する。

ゼミのテーマ設定の性格から、不合格とせざるを得ない場合は事前に本人と話し合い、納得性の上に判定することも春学期と同様。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

自ら調べ、考え、議論し、取材に歩き、編集に取り組むなど、自発性にもとづく「学びの場」をめざすのは春学期と同じだが、さらにステップアップをめざす。春学期同様、教室での時間外に自ら努力することがより重要になるハードなワークとなるので、ファイトと覚悟をもって臨んでほしい。

科目名 プロジェクトゼミナール[Project Seminars] 春学期

担当教員 田中 雄

講義目的

持ち歩くことができ、通信ができ、演算機能を持ち、カメラやGPSといった様々なセンサーを搭載したスマートフォンは、ビジネス、アミューズメント、学習支援、地域活性化など、あらゆる分野で活躍している。

本ゼミでは、スマートフォンの醍醐味である【AR(拡張現実感)アプリ】や、ゲーム開発エンジン【Unity】を使ったスマートフォン用アプリケーションの企画・開発を体験することができる。

ゼミでの実習を通して、今後の活動に役立つアプリケーションの発案や、新しいビジネスのヒントが得られることを期待する。

開発環境・・・Unity、Vuforia

使用言語・・・C#

グラフィック作成・・・Blender3D、123D Catch、AzPainter2 など。

音楽作成・・・フリーの作曲ツールを利用。

講義分類

ビジネスICT

到達目標

- (1) ARとは何かを理解する。
- (2) UnityとVuforiaを使ったARアプリケーションの開発方法を体験する。
- (3) チームでアイデアを出して、企画をまとめる。
- (4) 開発スケジュールの作成と管理を行う。
- (5) 試作品を開発し、感想を得る。
- (6) SRCで発表し、自らの考えたアイデアが他者にどのように伝わるかを理解する。

講義形態

講義 + GD・GW・PR[学外学習無]

講義の概要

<第1,2講>

概要：ゼミ紹介とUnityの紹介とセットアップ

事前学習しておくべき用語やポイント [Unity3D,Vuforia,123D Catch,AzPainter2]

詳細：ゼミの活動内容の紹介と、受講者の自己紹介、開発環境のセットアップ、動作テストを行う。

到達目標：開発環境のインストールを完了させる。

<第3講>

概要：Unityの操作

事前学習しておくべき用語やポイント [Unity3D,チュートリアル]

詳細：Unityの公式サイトで公開されているチュートリアルを使って、Unityの基本的な使い方を学習する。「画面レイアウトを知る」「基本操作」「インスペクタとは」「物(オブジェクト)を配置する」「カメラの操作」「物理挙動を確認」

到達目標：物をシーンに配置できる。カメラを自在に操作できる。3D空間に物を自由に配置し、カメラでそれらを写すことができる。

<第4,5講>

概要：ARアプリ開発の実習

事前学習しておくべき用語やポイント [Vuforia]

詳細：ARアプリケーションの開発環境であるVuforiaの使い方を学ぶ。手近にある書籍の表紙や挿絵、学生証などを、Vuforiaを使って認識させることでどのようなことができるか、できそうかを体験し、考察する。

到達目標：AR(拡張現実感)とは何かを第三者に説明できる。

Vuforiaに任意の画像を登録して、Unity上に3Dオブジェクトを表示することができる。

<第6,7講>

概要：企画会議

事前学習しておくべき用語やポイント [ブレインストーミング,多摩大学の地図,Google Maps]

詳細：AR技術を使ったアプリケーションを発案する。AR実習から、観光ナビゲーション、学習支援ツール、エンターテインメント作品など、様々な応用案が考えられるだろう。そういったアイデアを出し合い、画面のラフスケッチを描き、作品の流れをまとめる。全体像を紙やパワーポイントを使って具体化していくことで、どのような素材が必要で、どのようにプログラミングをしていくのか。また、担当者をどうするかなどを決めていく。

到達目標：アイデアを出し合い、企画としてまとめる。

<第8講>

概要：プレゼンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント [プレゼンの準備]

詳細：チームを作り、講義内でプレゼンを行う。自らのアイデアを、持ち時間の中でいかに伝えるか。チーム間での着眼点の違いなどを感じることで、よりよいプレゼンテーションについて考察する。

到達目標：プレゼンテーションを行う。

<第9～12講>

概要：ARアプリケーションの開発

事前学習しておくべき用語やポイント [Unity3D,C#,AzPainter2]

詳細：講師の協力のもと、企画を実現するための作業と、それに必要な技術について洗い出し、スケジュールを作成して、開発作業を実習する。開発にはチームであったり、企画担当、プログラミング担当、グラフィック担当、ARデータベース作成担当、サウンド担当など、メンバーの得意分野を担当に割り振って、力を合わせて開発を進める。

到達目標：作品の面白さが伝わるようなプログラムを開発する。

<第13,14講>

概要：SRC発表方針の検討

事前学習しておくべき用語やポイント [SRC,アンケート]

詳細：作成したアプリを友人などに体験してもらって意見を集める。集めた意見と、実習の経験、開発したプログラムをもとに、Student Research Conference(SRC)で発表する内容を検討、準備する。最後に、プレゼンと質疑応答の練習を行う。

到達目標：SRCの発表の準備を整える。

{<http://iis.edu.tama.ac.jp/src/>}

<第15講>

概要：SRCの反省と成果物の取りまとめ

事前学習しておくべき用語やポイント [SRC, レポート]

詳細：SRCでの発表を受けて、反省点や今後の改善点を話し合っ
て、活動内容をレポートにまとめる。また、作成したプログラム
やデータを成果物としてまとめて提出する。

■教科書

Webで配信する。

■指定図書

別途指示する。

■参考文献

和泉信生 『Unityマスターブック』 カットシステム

高橋啓治郎 『Unity入門』 ソフトバンククリエイティブ

紀平拓男・春日伸弥 『プログラミングの宝箱 アルゴリズム
とデータ構造』 ソフトバンクパブリッシング

ねおだ如 『ゲームのアルゴリズム 思考ルーチンと物理シ
ミュレーション』 ソフトバンククリエイティブ

高野隼人 『ドット絵プロフェッショナルテクニック』 秀和
システム

■参考URL

<http://unity3d.com/japan/>

■評価方法

出席と日常点70%。プレゼンと提出物30%。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

なし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・開発はチームで行うので、プログラミングが不得意であっ
たり、未体験でも、フォローしてくれる仲間を募れば全く問
題ない。

・出席を重視するので欠席はしないこと。

・実習にPCを多用するので、PCを持参すること。

・PCを返却していたり、故障で手元にない場合は、教室のPC
や貸与PCを利用するが、大きなデータを扱うのでUSBメモリ
を持参すること。

・技術的なことは講師がサポートするので、「何か作ってみた
い!」という意欲がある人は是非チャレンジして欲しい。

科目名 プロジェクトゼミナール[Project Seminars] 春学期

担当教員 中野 未知子

■講義目的

社会に出て人と交わり仕事をしていくためには、状況観察／全体俯瞰／論理思考／課題把握／情報共有といったことがファンダメンタルなスキルとして求められる。このことは、どんな業種職種であろうと、顧客やビジネス環境を理解し、問題を持続的に解決しながらビジネスを創っていくために必要である。しかし、これらのスキルの要諦を理解し反復練習により自分のものにするための場合は、社会に出る前にも後にも極めて稀というのが実態である。本ゼミは、現役の社会人講師の支援のもとで、受講生が自らファンダメンタルなスキルを理解し必要性を認識し習得することを目的として開講する。〈特徴1〉講師〉講師は、現役社会人が務める。〈特徴2〉教材〉教材は、多数の企業向けに実際に提供されている教育プログラムが基盤となっている。〈特徴3〉効能〉本ゼミで習得するスキルは、社会に出てからだけでなく、他のゼミでの問題解決や企画立案などを目的としたグループディスカッション、ドキュメンテーション(資料作成)、プレゼンテーションにも幅広く応用できるものであるため、本ゼミで習得したことを他のゼミで実践することによる相乗効果が期待できる。

■講義分類

☐ 顧客理解 ☐ ビジネス環境理解 ☐ ビジネス創造 ☒ ビジネスマネジメント ☒ 社会人力育成 ☐ グローバルビジネス ☐ ビジネスICT ☐ 地域ビジネス

■到達目標

仕事を進める時に必要とされる計画立案、段取り、実行、コミュニケーションとはどのようなものを学び、自分の技術的課題と課題に取り組む上での手掛かりとを発見する。

■講義形態

・講義 + GD・GW・PR

■講義の概要

本ゼミは学習効果を高める観点から、1講義(90分)単位でなく連続講義を行う。詳細は初回講義で説明するので、講師の指示をよく確認して受講すること。

〈第1講〉

概要：ゼミの目的や内容の紹介とグループ面談

詳細：グループ面談は、2～5名程度ずつ30分単位で実施を想定。募集要項やシラバスを参照し、質問事項などあれば、準備してくること。

〈第2講〉

概要：ゼミの目的・目標確認

詳細：講義計画、受講ルール説明、グループ分け、役割分担、論理的思考に関する小演習。

〈第3・4・5講〉

概要：「チームでの仕事の進め方」をテーマとしたシミュレーションワーク

事前学習しておくべき用語やポイント[計画立案、仮説と検証]

本ゼミの中での実践だけでは、身につくための経験値が足りない。他のゼミや日常生活、就職活動などに積極的に応用すること。

秋学期に知的プロフェッショナルゼミナール(INPUT)を受講

した学生は、(INPUT)で理解した手法を(OUPUT)で実践すると受講成果がより高まるため、(INPUT)の内容の振り返りを行っておくことを推奨する。

詳細：グループワークで時間内に成果物の作成とプレゼンテーションを行い、その成果とプロセスを検証することによって、チームで仕事をする上で何が必要とされるのか、各自の課題は何か、を各自が発見する。

〈第5・6・7講〉

概要：「チームでの仕事の進め方」をテーマとした講義・演習事前学習しておくべき用語やポイント[相手視点、傾聴、俯瞰]

事前学習に関する留意点は、第3・4・5講に同じ。

詳細：第3・4・5講のグループワークの振り返りを通じて得た気づきと、講義の内容を各自が紐づけながら、今後の学生生活を通じて各自の課題に取り組んでいく手掛かりを得る。

■教科書

適宜テキストを配布する。。

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■評価方法

☐ 相対評価

☐ 絶対評価

P：論理的思考の理解に向けて、評価方法に記載した3点に積極的に取り組んでいると講師が判断した場合、Pとする。

F：出欠状況及び、ゼミ参加への積極性を著しく欠くと講師が判断した場合、Fとする。

■評価基準

ゼミへの出欠状況、ゼミ参加に対する積極性、成果物(課題、発表)の品質の3点で評価する。

■事前履修科目等

知的プロフェッショナルゼミは、2年次秋学期の基礎と3年次春学期の応用の2部構成である。基礎では論理的思考に関する知識や勘どころを習得し、応用で論理的思考を含む、仕事をチームで進める上で必要とされる力について学ぶ。基礎のみ応用のみの履修も可能だが、学習効果の観点から、両方の受講を勧める。上記以外の年次の組み合わせでの受講ももちろん可能である。不安点などあれば講師に相談してほしい。

■卒業年次生対象再試験の実施

☐ 実施する ☐ 実施しない

■留意点

初回に、グループ面談を実施する。面談によって本ゼミのねらいと応募学生の受講目的とがマッチしているかどうかを確認する。

科目名 プロジェクトゼミナール〔Project Seminars〕 秋学期

担当教員 中野 未知子

■講義目的

社会に出て人と交わり仕事をしていくためには、状況観察／全体俯瞰／論理思考／課題把握／情報共有といったことがファンダメンタルなスキルとして求められる。このことは、どんな業種職種であろうと、顧客やビジネス環境を理解し、問題を持続的に解決しながらビジネスを創っていくために必要である。しかし、これらのスキルの要諦を理解し反復練習により自分のものにするための場は、社会に出る前にも後にも極めて稀というのが実態である。本ゼミは、現役の社会人講師の支援のもとで、受講生が自らファンダメンタルなスキルを理解し必要性を認識し習得することを目的として開講する。

〈特徴1〉講師＝講師は、現役社会人が務める。〈特徴2〉教材＝教材は、多数の企業向けに実際に提供されている教育プログラムが基盤となっている。〈特徴3〉効能＝本ゼミで習得するスキルは、社会に出てからだけでなく、他のゼミでの問題解決や企画立案などを目的としたグループディスカッション、ドキュメンテーション（資料作成）、プレゼンテーションにも幅広く応用できるものであるため、本ゼミで習得したことを他のゼミで実践することによる相乗効果が期待できる。

■講義分類

☐顧客理解／☐ビジネス環境理解／☐ビジネス創造／☐ビジネスマネジメント／☐社会人力育成／☐グローバルビジネス／☐ビジネスICT／☐地域ビジネス

■到達目標

論理的思考とは何か、なぜ必要か、仕事に論理的思考を活用するにおいて、どのような手順が効率的かの講義を受けた上で、小演習・演習の繰り返しによって、相手に伝わるコミュニケーションの勘どころを掴む。

■講義形態

☐講義のみ
☐講義＋GD・GW・PR
☐GD・GW・PR
☐その他()
 GD:グループディスカッション
 GW:グループワーク
 PR:プレゼンテーション ☐ 学外学習有 ☐ 学外学習無

■講義の概要

本ゼミは学習効果を高める観点から、1講義（90分）単位でなく連続講義を行う。詳細は初回講義で説明するので、講師の指示をよく確認して受講すること。

〈第1講〉

概要：ゼミの目的や内容の紹介とグループ面談

詳細：グループ面談は、2～5名程度ずつ30分単位で実施を想定。募集要項やシラバスを参照し、質問事項などあれば、準備してくること。

〈第2講〉

概要：ゼミの目的・目標確認

詳細：講義計画、受講ルール説明、グループ分け、役割分担、論理的思考に関する小演習。

〈第3・4・5講〉

概要：論理的思考や論理的な話し方に関する講義・演習
 事前学習しておくべき用語やポイント〔論点把握〕

本格的にゼミが始まり学習する事柄が増えるので、ゼミ後に、必ず内容の振り返りを行った上で次回に臨むこと。振り返りを行うことで、学習したことへの定着度合いが飛躍的に高まるので、がんばってほしい。

ゼミに積極的に参加し意見を述べることで、学習効果を高める一番の秘訣であるので、オープンな気持ちをもって講義に臨むこと。

詳細：講義・演習（エレベータートーク、スライド作成など）を通じて、論理的思考のポイントを学んでいく。特に、論点把握を重視し、論点を正しく掴む癖づけを徹底的に行う。

〈第5・6・7講〉

概要：論理的なコミュニケーション

事前学習しておくべき用語やポイント〔論点分析・整理、傾聴、ファシリテーション〕

事前学習に関する留意点は、第3・4・5講に同じ。

詳細：講義・演習（論点分析・整理）を通じて、論理的思考のブラッシュアップを目指す。さらに講義・演習（傾聴、ミーティングファシリテーションなど）を通じて、論理的なコミュニケーションのポイントを学んでいく。コミュニケーションにおいては、論理であること以外に、相手の納得感を高めるために必要な配慮についても学ぶ。

■教科書

適宜テキストを配布する。

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■評価方法

☐相対評価

☐絶対評価

P：論理的思考の理解に向けて、評価方法に記載した4点に積極的に取り組んでいると講師が判断した場合、Pとする。

F：出欠状況及び、ゼミ参加への積極性を著しく欠くと講師が判断した場合、Fとする。

■評価基準

ゼミへの出欠状況、ゼミ参加への積極性、課題提出の納期遵守状況、成果物（課題、発表）の品質の4点で評価する。

■事前履修科目等

知的プロフェッショナルゼミは、2年次秋学期の基礎と3年次春学期の応用の2部構成である。基礎では論理的思考に関する知識や勘どころを習得し、応用で論理的思考を含む、仕事をチームで進める上で必要とされる力について学ぶ。基礎のみ応用のみの履修も可能だが、学習効果の観点から、両方の受講を勧める。上記以外の年次の組み合わせでの受講ももちろん可能である。不安点などあれば講師に相談してほしい。

■卒業年次生対象再試験の実施

☐実施する ☐実施しない

■留意点

初回に、グループ面談を実施する。面談によって本ゼミのねらいと応募学生の受講目的とがマッチしているかどうかを確認する。

科目名 プロジェクトゼミナール[Project Seminars] 秋学期

担当教員 中村 紳吾

■講義目的

インターネットで広く利用されているシステムの多くはプログラムとデータベースの連携を基本構成としている。このプロジェクトゼミでは、Webデータベースシステムについて理解するという視点から、実際に動作するシステムを題材にして、カスタマイズしながら学習する。システムはLAMP(Linux/Apache/MySQL/PHP)で構築し、題材としてはソーシャルカードゲームを想定している。講義内では、Webデータベースシステムの技術的な学習のみならず、グループ単位でプロジェクトとして開発を進め、定期的に成果発表をおこなうながらプロジェクト管理を体験することにより、課題発見および問題解決のための方法を学習する。さらに実際のユーザーにサービスとして公開し利用してもらいフィードバックを受けることにより、顧客理解および問題解決の方法についても体験することにより学習する。

■講義分類

ビジネス ICT

■到達目標

(1) Webデータベースシステムの技術的仕組みを理解し、実装できる (2) プロジェクトとして開発することにより、課題発見および問題解決をおこなう (3) プロジェクトの成果発表としてプレゼンテーションをおこなう (4) ユーザーからのフィードバックを受けることにより顧客理解を経験する

■講義形態

- ・ 講義 + GD・GW・PR
- ・ その他 (PC を使用した実習) [学外学習無]

■講義の概要

〈第 1 講〉

概要：オリエンテーション

事前学習しておくべき用語：Webプログラミングシステム、ソーシャルカードゲーム

詳細：オリエンテーションとして、講義の進め方、グループ分けおよび題材システムについて説明する。題材とするシステムはソーシャルカードゲームを想定しており、グループでプロジェクト形式を取りながらゲームをカスタマイズし、完成させていく。

〈第 2 講〉

概要：Webプログラミングシステム概要、ソーシャルカードゲームの仕組み

事前学習しておくべき用語：サーバ、サーバサイドプログラム、データベース、HTML、CSS、JavaScript

詳細：今回開発するシステムである Web プログラミングシステムに関連する技術および環境として、サーバ、サーバサイドプログラム、データベース、HTML、CSS、JavaScript について学習し、概要を把握する。

また、ソーシャルカードゲームの仕組みについて学習し、Web プログラミングシステムの技術がどのように利用されているかを理解する。

〈第 3 講〉

概要：プロジェクト管理、開発の進め方、目標の設定

事前学習しておくべき用語：プロジェクト管理、ソーシャルカードゲーム

詳細：グループを結成し、プロジェクトで管理するために必要な作業および役割分担を行う。開発の進め方について説明し、実際にテストしてみる。カスタマイズの最終目標をグループで設定する。

〈第 4～7 講〉

概要：プロジェクト管理、進捗報告、中間発表用資料作成

事前学習しておくべき用語：PHP、SQL、フレームワーク

詳細：グループワークで開発を進め、進捗も管理する。第 6 講で実施する中間発表用資料も作成する。

〈第 8 講〉

概要：中間発表

事前学習しておくべき用語：なし

詳細：グループごとに開発状況について中間発表を行う。

〈第 9 講〉

概要：公開するサービス

事前学習しておくべき用語：ユーザビリティ

詳細：ユーザーにサービスを公開するときのポイントについて学習する。あらかじめ協力者を募集する準備をする。

〈第 10～13 講〉

概要：プロジェクト管理、進捗報告、最終発表用資料作成

事前学習しておくべき用語：PHP、SQL、フレームワーク

詳細：ユーザーに公開するサービスを目指してグループワークで開発を進め、進捗も管理する。最終講で実施する最終発表用資料も作成する。

〈第 14 講〉

概要：ユーザーへのサービス公開

事前学習しておくべき用語：

詳細：指定された日時にサービスを公開する準備を行う。

〈第 15 講〉

概要：最終発表

事前学習しておくべき用語：なし

詳細：グループごとに開発状況について最終発表を行う。

■教科書

講義用ポータルを提供する予定

■評価方法

システムの完成度 (40%)、プロジェクト管理 (30%)、受講態度 (30%) により行う

■評価基準

相対評価

システムの完成度は以下の点で評価する

(1) ユーザーの評価

(2) 実装された機能

(3) エラー対策

プロジェクト管理は以下の点で評価する

(1) 進捗管理

(2) 課題発見と問題解決

(3) グループメンバー全員の当事者意識

受講態度は以下の点で評価する

(1) 出席回数

(2) 積極的な学習意欲

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

PC 持参必須。

実際に動作するシステムを題材にするため、システムを把握してカスタマイズするために必要な知識は非常に多いいっぽうで、講義ではそれらについて十分に解説する時間を設けることはできないので、講義時間外に自ら理解を深める努力が求められる。

また、開発はグループによるプロジェクトにより進めるので、グループ内での情報共有などコミュニケーションも図るよう努めることを期待する。

受講者数や受講者の技術レベルにより、Web プログラミングシステムの学習という範囲内で内容の難易度および題材が変わる可能性がある。

科目名 プロジェクトゼミナール〔Project Seminars〕 春学期

担当教員 福島 清彦

■講義目的

われわれはこれまで、一国の経済規模を該国の1年間の生産高(国内総生産、Gross Domestic Product、GDP)によって計算してきた。その国の1年間の経済業績を、前の年に比べた生産高の伸び率によって評価してきた。その結果、高めの経済成長率を達成することを経済政策の最高目標にしようとする傾向が生まれてきた。

しかし、成長率ではなく、もっと別のものを経済戦略の目標にするべきだという考え方が生まれている。それは、国全体の経済規模をますます大きくすることではなく、国民一人一人の福利厚生度を大きくすることと、経済発展の持続可能性を高めることを経済戦略の目標にするべきだという考え方である。

この考え方はフランス・サルコジ大統領(当時)の要請に応じて、米国コロンビア大学のスティグリッツ教授らが2009年9月にまとめた報告書で打ち出された。2011年4月には「従来のGDP統計に代わる新しい経済指標を国連統計局は開発すべきだ」という決議が、国連総会で満場一致で採択された。これに基づき、2012年6月には、国民の福利厚生度を中心とした新指標が、国連の委嘱を受けた調査チームの手で開発され、報告書が出た。

その報告書の中で、人的資本と生産した資本、天然資本の三つを合計した資産残高を見ると、日本の総資産額は、一人あたりで43万5千ドルと世界1位であり、国全体の資産額でも5500万ドルとアメリカについて世界2位であるという評価が出た。この報告書は前途について悲観一色に包まれている日本人に自信を持たせ、将来への新しい展望を開くものである。講義ではまず、今も国全体の経済指標として最重要であるGDPについて勉強する。次に新しい指標とその背後にある考え方を説明する。最後に今後日本はどのような指標を重視し、どのような経済戦略を持つべきかを考える。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成

■到達目標

- ① GDPによる一国の経済規模の計算方法を知る。
- ② GDPを超えるアタらしい考え方を理解する。

■講義形態

講義+PR(プレゼンテーション)〔なし。〕

■講義の概要

- ① 導入部、全体の説明、 ② GDPとは何か(1)、 ③ GDPとは何か(2) 数字と計算例
- ④ 経済成長率とは (ここまでで、講義内容について小レポートの提出を求める。)
- ⑤ GDPを超える指標の提案 ⑥ 現在ある七つの非GDP指標、
- ⑦ EUの2020年戦略、
- ⑧ 米国の主要全国指標KNI ⑨ スティグリッツ委員会の報告書。
- ⑩ ダスグプタチームの報告書(1)、⑪ ダスグプタチームの報告書(2)
- ⑫ ニュー・デリー・シンポジウムでの「福利厚生と社会進歩」
- ⑬ 幸福度増大戦略の背景、⑭ 日本の経済戦略のあり方、
- ⑮ 最終テスト GDPと超GDPについて、レポート提出を求め

る。

■教科書

福島清彦 『国富論から幸福論へ』 税務経理協会 2011年

■指定図書

福島清彦 『暮らしの質を測る』 社団法人・金融財政事情研究会 2012年

■参考文献

福島清彦 『新国連統計から見た日本経済の実力』 社団法人・金融財政事情研究会 2013年

■参考URL

<http://www.stiglitz-sen-fitoussi.fr>

■評価方法

出席30、中間レポート20、期末レポート50 の比率
officeソフトを使ったワープロ、ベタ打ちのレポートで良い。

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特にありません。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

毎回授業に出て、教科書と指定図書、及び参考文献を必ず読んでレポートを書いて下さい。

科目名

プロジェクトゼミナール〔Project Seminars〕 春・秋学期
サンリオピューロランドの課題解決イベントの企画・運営

担当教員

松本 祐一

■講義目的

サンリオピューロランドは、日本で初めての全天候型のテーマパークとして、ブランド力のあるキャラクターや質の高いパフォーマンスを武器に世界中から愛されている集客施設です。ただし、様々な課題を抱えていることも事実です。本ゼミでは、サンリオの企業理念や歴史を学びながら、施設の課題を調査し、学生の視点から、その課題を解決するためのイベントを企画・運営します。ゼミにはサンリオピューロランドの社員も参加し、共同で施設の魅力を高めていくことを目指します。

社会人と一緒に学ぶプロセスの中で、履修者は集客施設のマーケティング、イベントマネジメントの考え方、手法を学びます。

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / ビジネス創造 / ビジネス
マネジメント / 社会人育成 / 地域ビジネス

■到達目標

- 1) 自分たちでイベントを企画、実践し、設定した目標を達成する。
- 2) 集客施設のマーケティングの考え方を理解する。
- 3) イベントマネジメントの手法を理解する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

<春学期>

- ・キックオフミーティング
- ・サンリオの歴史やビジネスモデルの解説
- ・サンリオピューロランドの施設フィールドワーク（見学）
- ・イベントマネジメントの研究
- ・イベントの企画書作成

<秋学期>

- ・イベントの企画と役割分担
- ・イベントの準備
- ・イベントの開催
- ・イベントの効果測定とまとめ
- ・成果報告書の作成と発表会

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

ゼミ中に指示します。

■評価方法

ゼミ中に提出してもらったレポートなどとゼミ中の取り組む姿勢等で判断します。

■評価基準

相対評価

企画立案などを自分なりの視点で行えたか。

グループワーク、フィールドワークに自主的・積極的に貢献したか。

仲間と一緒に協力してプロジェクトを運営できたか。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本ゼミは、1年間（春学期・秋学期両方）の履修が前提です。講義時間外（放課後、土日祝日、夏休み等）にフィールドワークしたり、グループで作業したり、大学のイベント等に参加したりする場合があります。（希望者ではなく全員）

科目名

プロジェクトゼミナール〔Project Seminars〕 春・秋学期
地域プロジェクトマネジメントの手法(多摩市のシティセールス)

担当教員

松本 祐一

■講義目的

地域コミュニティにおいて何かを新しいものを生み出そうと運営するプロジェクトは、企業等で行われるマネジメントとは違う方法論が求められる。本ゼミでは、多摩市のシティセールス(多摩市の魅力を内外にアピールして、活性化を促す)のためのプロジェクトを運営することで、プロジェクトマネジメントの手法を学びます。

今年度は、2013年に東京で開催される「国民体育大会(東京国体)」に関連するプロジェクトを構想し、運営します。多摩市では、サッカーおよびハンドボールが開催されるので、これらの競技に合わせて、多摩市の魅力を発信するプロジェクトを企画します。

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / ビジネス創造 / ビジネスマネジメント / 社会人力育成 / 地域ビジネス

■到達目標

- 1) 自分たちでプロジェクトを企画、実践し、設定した目標を達成する。
- 2) 地域コミュニティならではのマネジメントの考え方を理解する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

<春学期>

- ・キックオフミーティング
- ・プロジェクトマネジメントの基礎を学ぶ。
- ・調査活動
- ・プロジェクトの立案、実践

<秋学期>

- ・プロジェクトの実践
- ・プロジェクトの効果測定とまとめ
- ・成果報告書の作成と発表会

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

ゼミ中に指示します。

■評価方法

ゼミ中に提出してもらったレポートなどとゼミ中の取り組み姿勢等で判断します。

■評価基準

相対評価

企画立案などを自分なりの視点で行えたか。

グループワーク、フィールドワークに自主的・積極的に貢献したか。

仲間と一緒に協力してプロジェクトを運営できたか。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本ゼミは、1年間(春学期・秋学期両方)の履修が前提です。講義時間外(放課後、土日祝日、夏休み等)にフィールドワークしたり、グループで作業したり、大学のイベント等に参加したりする場合があります。(希望者ではなく全員)

科目名 プロジェクトゼミナール[Project Seminars] 秋学期

担当教員 見山 謙一郎

■講義目的

現在進行形の“今”をテーマにした実践型のゼミナールで、日本の産業構造や実存する企業の研究を通じて、経営戦略を学ぶことを目的とする。尚、本ゼミナールで行う企業研究は、就職活動を目的としたものではないが、日本の産業構造や日本企業の特徴、そして現在進行形の経営戦略を理解することは、結果的に就職活動や今後のキャリア形成に生かせる要素が多々あるものと思われる。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人育成／グローバルビジネス／地域ビジネス

■到達目標

- (1) 日本の産業構造を理解すること
- (2) 日本企業の経営戦略を理解する能力を身につけること
- (3) グループワークを通じて、多面的な思考と対案提示力を身につけること

■講義形態

講義＋GD・GW・PR[学外学習有]

■講義の概要

〈第1講〉

概要：オリエンテーション(1)

事前学習しておくべき用語やポイント[日本の代表的企業]

詳細：本ゼミナールの目的を説明、解説する。日本の代表的企業について、知っている情報を共有しあい、グループに分かれてディスカッションを行う。尚、ディスカッションのテーマ、ポイントについては、当日、講義内で説明、解説を行う。

〈第2講〉

概要：オリエンテーション(2)

事前学習しておくべき用語やポイント[興味のある企業とその理由]

詳細：第1講に続き、このゼミナールの目的を説明、解説する。この回では、自分が興味のある企業を1社選び(興味は、CMをよく目にするや、就職したい等何でもよい)、その理由と、どんなことをやっている会社なのか発表してもらう。その後、グループに分かれて、ディスカッションを行う。尚、ディスカッションのテーマ、ポイントについては、当日、講義内で説明、解説を行う。

〈第3講〉

概要：オリエンテーション(3)

事前学習しておくべき用語やポイント[興味のある企業が属する産業(業界)]

詳細：この回では、自分が選んだ興味のある企業が、どのような産業(業界)に属するか、また競合にはどのような企業があるのか等をグループに分かれて、ディスカッションを行い、その後、ポイントの解説を行う。

〈第4講〉

概要：日本の産業構造を知る(1)

事前学習しておくべき用語やポイント[日本の4大財閥]

詳細：あらかじめ、日本の4大財閥を調べ、その特徴や、歴史、思想等について、グループに分かれて、ディスカッショ

ンを行い、その後、ポイントの解説を行う。

〈第5講〉

概要：日本の産業構造を知る(2)

事前学習しておくべき用語やポイント[装置産業、組み立て型産業]

詳細：自動車、電機等に代表される「組み立て型産業」と、重厚長大産業とも言われる鉄鋼、ガラス等の「装置産業」との関連性について、グループに分かれてディスカッションを行い、その後、ポイントの解説を行う。

〈第6講〉

概要：日本の産業構造を知る(3)

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼン資料作成]

詳細：日本の産業構造に関するこれまでの講義やグループでのディスカッションを踏まえ、グループごとに、「日本の産業構造の特徴」について、プレゼンテーションを行ってもらい。尚、プレゼンのポイントについては、講義内で説明、解説を行う。

〈第7講〉

概要：日本企業の戦略研究(1-1)

事前学習しておくべき用語やポイント[企業のHPの見方]

詳細：同一産業内の企業を複数取り上げ、経営戦略の違いや特徴を理解し、比較分析が出来る力を身につける為、企業のHPの読み解き方のポイント及び解説を行うとともに、その内容についてグループでディスカッションを行う。

〈第8講〉

概要：日本企業の戦略研究(1-2)

事前学習しておくべき用語やポイント[IR、CSR]

詳細：第7講に続き、同一産業内の企業を複数取り上げ、経営戦略の違いや特徴を理解し、比較分析が出来る力を身につける為、企業のHPの読み解き方のポイント及び解説を行うとともに、その内容についてグループでディスカッションを行う。

〈第9講〉

概要：日本企業の戦略研究(1-3)

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼン資料作成]

詳細：第7講、第8講でのグループディスカッションを踏まえ、グループごとに、それぞれが担当した企業の「経営戦略の違いや特徴」について、プレゼンテーションを行ってもらい、その後、全体でディカッションを行う。

〈第10講〉

概要：日本企業の戦略研究(2-1)

事前学習しておくべき用語やポイント[中期経営計画]

詳細：各グループで、研究対象とする企業を1社に絞り、既存の経営戦略を理解したうえで、グループワークを通じて、新たな経営戦略を学生目線で作成することを目指す。

〈第11講〉

概要：日本企業の戦略研究(2-2)

事前学習しておくべき用語やポイント[M&A]

詳細：第10講に続き、各グループで、研究対象とする企業を1社に絞り、既存の経営戦略を理解したうえで、グループワークを通じて、新たな経営戦略を学生目線で作成することを目指す。

〈第12講〉

概要：日本企業の戦略研究 (2-3)

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼン資料作成とプレゼンテーション]

詳細：第10講、第11講でのグループディスカッションを踏まえ、グループごとに、それぞれが担当した企業への提言について、プレゼンテーションを行ってもらう。その後、全体でディスカッションを行う。

〈第13講〉

概要：日本企業の戦略研究 (3-1)

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼン資料作成とプレゼンテーション]

詳細：第12講でのディスカッションを踏まえ、グループごとに、それぞれが担当した企業への提言について、再度プレゼンテーションを行ってもらう。その後、全体でディスカッションを行う。

〈第14講〉

概要：日本企業の戦略研究 (3-2)

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼン資料作成とプレゼンテーション]

詳細：第13講でのディスカッションを踏まえ、グループごとに、それぞれが担当した企業への提言について、再々度プレゼンテーションを行ってもらう。その後、全体でディスカッションを行いプレゼン資料の完成に向けた最終調整を行う。

〈第15講〉

概要：日本企業の戦略研究 (3-3)

事前学習しておくべき用語やポイント[プレゼン資料作成とプレゼンテーション]

詳細：第14講でのディスカッションを踏まえ、グループごとに、それぞれが担当した企業への提言について、実際の企業担当者へのプレゼンテーションを想定し、最終プレゼンテーションを行ってもらう。

■教科書

特に設けない。

■指定図書

必要に応じて、都度講義内で指定する。

■参考文献

必要に応じて、都度講義内で指定する。

■参考URL

http://diamond.jp/series/miyama_econews/bn.html

■評価方法

出席状況(単位取得には2/3以上の出席が必要となる)、最終レポートにより評価。

■評価基準

相対評価

出席状況(50%)、講義内での発言やプレゼンテーションなどの貢献度(30%)、最終プレゼンテーション(20%)にて評価を行う。

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

春学期ののみの受講も可能であるが、原則として秋学期の受講も強く推奨する。

科目名 プロジェクトゼミナール〔Project Seminars〕 秋学期

担当教員 森本 美行

■講義目的

近年の情報技術の発達、インターネットの普及により莫大な量のデータいわゆるビッグデータの取得が可能になった。またビッグデータを効率的に処理するためのテクノロジーも同様に発達している。しかし重要な事はこれらのデータを何のためにどのような意味を引き出すかというインテリジェンスを伴った分析を行う事だ。起きた現象の原因に對する仮説を立て、データを収集し、分析を行い検証するといふ一連のプロセスをスポーツという身近なコンテンツを利用して学び、実践的知識を獲得することを本講義の目的とする。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネスマネジメント／ビジネスICT

■到達目標

- (1) サッカー、フットサル、バレーボール(未定)等の実際の試合から、勝ち負け、得失点、ゲームの進め方(優勢、劣勢)を決める要因はどのようなことが考えられるか、データを活用して読解力のある分析を行う。
- (2) スポーツの試合で起きている様々なアクション(非構造的なデータ)を映像から取得し、それを元に仮説を立て、質の高い分析を行い問題解決のための方法を習得する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

〈第1講〉自己紹介／この講義の狙い／近代スポーツ誕生の起源

概要：データ分析の必要性を理解し、本講義の最終アウトプットのイメージを共有する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔改善/客観性〕

詳細：「己を知る」＝自己評価/相手を「知る」＝環境の理解の重要性を学ぶ。近代スポーツがマネジメントの育成コンテンツとしての側面を持っていたことを理解しておく。

〈第2講〉分析とは？

概要：スポーツ(サッカー)における分析の現場作業を理解する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔PDCAサイクル〕

詳細：情報の収集、蓄積、選別、加工、提供という分析に必要な一連のプロセスを学ぶ

〈第3講〉セイバートリックスの考え方

概要：データ分析の活用方法を学ぶ。

事前学習しておくべき用語やポイント〔SABR・METRIX〕

詳細：現場での活用＝強化/マネジメントサイドでの活用＝評価について学ぶ。

〈第4講〉データを活用したスポーツのマネジメントの現場

概要：スポーツ選手の評価について考える。

事前学習しておくべき用語やポイント〔評価〕

詳細：プロサッカークラブの評価についてケーススタディで議論を行う。

〈第5講〉他のスポーツの分析事例紹介(バレーボール/ラグビー/野球等)

概要：異なる競技における分析の視点を理解する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔多様性〕

詳細：他のスポーツにおける取得データ、分析切り口等について学ぶ

〈第6講〉他のスポーツの分析事例紹介(バレーボール/ラグビー/野球等)

概要：異なる競技における分析の視点を理解する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔多様性〕

詳細：他のスポーツにおける取得データ、分析切り口等について学ぶ

〈第7講〉フィールドスタディ

概要：実際の試合を観察する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：実際の現場に訪問し、分析の隙隙像には映らない分析の際考慮すべき様々なデータについて考える。

〈第8講〉データ分析チームアサイン

概要：グループ分けと担当競技を決める

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：誰とどの競技の分析を行うかアサインし方向性についてディスカッションを行う。

〈第9講〉分析チームの最終決定

概要：どのような仮説を立て、何を分析するのか方向性の確定させる。

事前学習しておくべき用語やポイント〔仮説/検証〕

詳細：各チームごとの仮説、何を分析するのかについて発表する。

〈第10講〉情報(データ)の収集と整理の方法

概要：どのような情報(データ)をどのように収集するの。

事前学習しておくべき用語やポイント〔データベース、検索〕

詳細：どのような情報(データ)をどのように取得するかチームごとに考え発表する。

〈第11講〉収集した情報(データ)の選別、加工、提供方法

概要：収集した情報(データ)をどのように加工していくのかを確認する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔優先順位〕

詳細：必要になるなるべく分かりやすく情報を届けるために重要なことを議論する。

〈第12講〉最新のデータ分析テクノロジーの紹介

概要：欧米の最先端技術に関する最新事例の紹介。

事前学習しておくべき用語やポイント〔トラッキングシステム〕

詳細：現在のIT技術で可能なデータ取得方法の紹介と分析事例。

〈第13講〉実際の現場での分析の事例紹介

概要：トッププロで行われた分析の事例を紹介する。

事前学習しておくべき用語やポイント〔トッププロ〕

詳細：プロスポーツの現場においてどのように問題解決が行われたのか体験する。

〈第14講〉プレゼンテーション

概要：グループ毎の発表と質疑応答

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：テーマに沿ったチームごとのプレゼンテーションとそれに対するフィードバック。

〈第15講〉プレゼンテーション

概要：グループ毎の発表と質疑応答

事前学習しておくべき用語やポイント〔 〕

詳細：テーマに沿ったチームごとのプレゼンテーションとそれに対するフィードバック。

■参考文献

ゼミ内で随時通知

■評価方法

評価は、講義及びグループワークへの貢献(30%)、プレゼンテーション(40%)、出席(30%)により行う。

■評価基準

絶対評価

講義及びグループワークへの貢献、2点の点を中心に評価する。

(1) 講義に対して関心も持って参加し、積極的に疑問に解決するために意見を述べたか

(2) プレゼンテーションのためのディスカッション、情報(データ)収集、加工等常に

チームのメンバーの一人として貢献できたか

プレゼンテーションは次の3点から評価する。

(1) プレゼンテーションが説得力を持つように論理的に構成されていたか

(2) 情報(データ)の量、質が適切で説得力のある分析ができたか

(3) 聴く人の興味を引く能力的な構成のプレゼンテーションだったか(プレゼン資料、情報(データ)の見せ方、発表の仕方から評価)

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

起きている現象をより本質的に理解するために多種、大量のデータから分析を行う経営手法が重要視され始めている。今回のゼミではスポーツを通してデータ分析を学ぶが、その先に様々なビジネスシーンにおいても適用できるような実践的知識を身につけるように心がける。

科 目 名 プロジェクトゼミナール〔Project Seminars〕 春学期**担当教員** 渡辺 幸裕**■講義目的**

社会人としての基礎力をつけるため、国内外で活躍する各分野での最新事例を直接知ること大変貴重である。この科目では企業や団体の現役ビジネスパーソンから直接“社会の現実”を聞き、日々の課題を解決している職場やイベントの場を訪問、空気を自ら感じ取り問題解決手法の学習を行う。加えてそれらを更に理解し実践すべく、現場で実際に行う事で対人コミュニケーション能力開発技術を習得する。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人育成／グローバルビジネス

■到達目標

自分で少人数のセミナーを企画・実施できるまでの力をつける

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

〈第1講〉オリエンテーション 今後の予定

- ・渡辺の自己紹介
- ・プログラム計画説明、準備事項説明
- ・前半数回に向けての準備学習の指導

〈第2講〉ゲストスピーカーの話（1）

（内容は以下）

渡辺がインタビューしてお聞きする形式

当該企業・団体の事業分野、歴史、特色、市場での評価、将来展望

課題とその解決の為にしている事

若者、若手社員に臨む資質

学生時代に何を取得しておいたら良いか

質疑応答 などを想定している。

（候補企業：サントリー、アサヒビール、資生堂、ハーゲンダッツ、三井不動産、オリエンタルランド等を想定、商品開発者のアレンジが出来次第実施）

〈第3講〉ゲストスピーカー（商品開発者）の話（2）

進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

〈第4講〉ゲストスピーカー（商品開発者）の話（3）

進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

〈第5講〉ワークショップ 訪問（1）

企業訪問 または渡辺主催のイベントに係員として参加、聴講

・テレビ局番組制作者のセミナー＆意見交換会 を想定

（訪問想定企業：フジテレビ、日本テレビ、TBS、テレビ朝日、テレビ東京 共同テレビ等、アレンジ出来次第実施）

〈第6講〉ワークショップ 訪問（2）

企業訪問 または渡辺主催のイベントに係員として参加、聴講

進行は第5講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

・雑誌編集者のセミナー＆意見交換会 を想定

（訪問想定企業：小学館、文芸春秋、マガジンハウス、講談社、宝島社、角川マガジンス、リクルート等、アレンジ出来次第実施）

〈第7講〉前半終了時の総括

・学生から発表、感想、質問、希望受付

その後の学習に向けての指導

場合によっては前期に登場したゲストと再度の交流時間を持つ

〈第8講〉ゲストスピーカー（企業・団体・官僚等）の話（4）

進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

〈第9講〉ゲストスピーカー（企業・団体・官僚等）の話（5）

進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

〈第10講〉ワークショップ 訪問（3）

企業訪問 または渡辺主催のイベントに係員として参加、聴講

進行は第3講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

・テレビ局番組制作者のセミナー＆意見交換会 を想定

〈第11講〉ワークショップ 訪問（4）

企業訪問 または渡辺主催のイベントに係員として参加、聴講

進行は第3講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

・雑誌編集者のセミナー＆意見交換会 を想定

〈第12講〉ワークショップ 訪問（5）

企業訪問 または渡辺主催のイベントに係員として参加、聴講

進行は第3講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

・ネットコンテンツ編集者のセミナー＆意見交換会 を想定

〈第13講〉ゲストスピーカーの総括

これまでに話を聞いたゲストの方から、学生と話をした感想、今後のへのアドバイスを披露して頂き、それを皆で総括し、社会の現実を知る時間とする。

〈第14講〉ワークショップ 総括

訪問、参加した企業や団体、イベント現場での現実を総括し、

特にコミュニケーション力アップのためのテクニックを学ぶ

情報収集術、企画立案術、イベント実施ノウハウ 等

〈第15講〉グローバルビジネスマインド講座 総括

グループでテーマを決め、自らの将来の為に何が役に立ったか、

今後もし引き続き興味を持って注目したい分野、企業、活動などを発表し、

それを担当講師が総括し、アドバイスをを行う。

納金実施予定

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献

なし

■参考URL

<http://www.gillie.co.jp/>

■評価方法

出席50%、中間レポート 20%、期末レポート 30%

■評価基準

相対評価

■事前履修科目等

特に無し

■留意点

実際に多くの社会人の方に話を聞くのが学習の場です。若者の好奇心と軽快なフットワークで、自分の将来を考えて、ビジネスマインド、センスをつける為に貴重な時間になります。学生の将来、日本の未来の為への協力依頼をさせて頂き、多忙な時間を割いて頂く方ばかりですので、話を聞かせて貰う場、時において最低の礼儀をわきまえない非常識な態度はその時点で失格となります。“志を持った多摩大学学生”としての態度で臨まれる事を希望します。

科目名 合同ゼミナール〔EX Seminars〕 春学期・秋学期

担当教員 大森 拓哉

■講義目的

心理学の入門、情報分析の仕方の基本および意思決定課題の解き方を学ぶ。与えられた課題に対して、グループワークにより分析を行い、発表会を行う。

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解/ビジネス創造
/ ビジネスマネジメント/社会人育成/ビジネスICT

■到達目標

心理学の基礎的知識・トピックスについて理解ができていて、情報の適切な収集方法、処理方法、伝達方法が理解・習得できているか。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

概要：合宿形式にてゼミを行う。

事前学習しておくべき用語やポイント〔事前に指示された心理学トピックス〕

詳細：このゼミでは、新2年生による心理学トピックスの授業、全学年合同によるグループワーク、グループ発表、レポート作成、SRCでの発表、を一連の課題とする。今回のテーマは「新聞記事の比較による新聞紙各社の主張の違い」と「協調ゲームにおける戦略研究と実践」である。

■評価方法

出席90%、課題10%

■評価基準

絶対評価

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義は合宿形式で行う。参加したものにのみ単位が認定される。ノートパソコンを持参すること。事前の講義・事後レポートも単位認定の必須要件である。

科目名 合同ゼミナール〔EX Seminars〕 春学期

担当教員 金子 邦博

■講義目的

【春学期：収益性の高い企業の秘訣を探る】

本ゼミナールは、産業社会においてビジネスがどのように行われているのかを、文献などの情報による調査研究とビジネスの現場に出かけて調査することを通じて、さまざまな実例の中から「儲ける」というビジネスの基本が、実社会においてどのように実現されているのか、またそこで働く人々はどのような意欲と知識・経験を持って仕事を遂行しているのかを学んでいくことを目的にしている。

そのため、本ゼミナールでは、春学期は主に収益性の高い事業を展開できている企業について財務情報や経営戦略、商品展開などの分析・調査を中心に行うと共に、ビジネスが行われている現場(工場、商店街、会社など)へのフィールドワークを適宜組み合わせることで演習を展開していく。フィールドワークは、「事前調査」→「実地調査」→「調査結果の報告(プレゼンテーション)」をワンセットに、春学期及び夏期合宿を通じて4箇所程度の調査を行うことを予定している。

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / ビジネス創造 / ビジネスマネジメント / 社会人力育成

■到達目標

「儲ける」ために、経営者は何を考え、その実現に向けてどのような努力をし、結果を出したのかを見いだせる理解力や分析力を身につけることを目指していく。

■講義形態

GD・GW・PR(学外学習有)

■講義の概要

〈第1講〉 ～ 〈第15講〉

概要：ビジネスが行われている現場(工場、商店街、会社など)へのフィールドワークを行う。

事前学習しておくべき用語やポイント[なし]

詳細：フィールドワークは、「事前調査」→「実地調査」→「調査結果の報告(プレゼンテーション)」をワンセットになる。調査先について、現地調査で確認すべきことをインターネットなどで事前に調べ、現場調査では事前の調査では分からなかった点を確認し、調査結果からビジネスを持続していける秘訣を考察して報告書(レポート)をまとめ、その内容を発表する。この作業を4回程度繰り返す。

フィールドワークにおいては、事前にどれだけ調査対象の内容を理解しているのかが最終的な成果の良し悪しの分かれ目になる。そのため、現場に行ってから何かを探し出すという取り組み姿勢ではなく、事前の調査において現場で深掘りすべき内容をピックアップできるよう、時間をかけて幅広く調べておく必要がある。

■教科書

演習の各段階で指示する。

■指定図書

なし

■参考文献

演習の各段階で指示する。

■評価方法

出席と調査報告内容の発表と報告書により総合的に評価する。

■評価基準

出席については、ゼミに参加し積極的に発言しているか。発表や報告書については、報告をまとめる過程で報告内容について十分に検討を行ったかどうかという考察過程を中心に、「儲ける」ことを実践できるノウハウを理解したのかという点に着目して評価する。

絶対評価

P：ゼミ活動の到達目標に概ね達している。

F：ゼミ活動への参加が不十分でゼミ活動の到達目標に達していない。

■事前履修科目等

ゼミの参加に際して、特定の科目の単位取得は条件とはしない。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- (1) 合同ゼミであるので、履修は金子ホームゼミナールの参加者に限る。
- (2) ゼミやフィールドワークは、参加者の予定を調整した上で、学期中に集中講義方式で適宜実施する。
- (3) 正当な理由なしに欠席する者には単位を付与しない。

科目名 合同ゼミナール〔EX Seminars〕 春学期

担当教員 酒井 麻衣子

■講義目的

本演習では、アンケート調査の一連の流れを実践することを目的とする。

調査課題をどのように設定し、それを明らかにするためにはどのような調査票を作る必要があるのか。データを集めるには誰にどのように回答を依頼すればよいのか。得られたデータをどのように分析し、解釈すればよいのか。調査結果をどのようにまとめて報告すればよいのか。これらを実践し、アンケート調査実施の基礎を身に付けることを目指す。

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / ビジネス創造 / ビジネスマネジメント / 社会人力育成 / ビジネスICT

■到達目標

アンケート調査の一連の流れを理解し、調査実施の基礎を身につける。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

アンケート調査の企画・設計から、実調査、データ分析、プレゼンテーションまでを総合的に実践する。

可能な限り、企業との共同研究形式をとり、産業社会での実際の課題に対する問題解決に取り組む。

以下を予定している。

- ・3学年混合のグループワーク
- ・学内外の関係者を招いた成果発表会でのプレゼンテーション

■教科書

適宜指示する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

適宜指示する。

■評価方法

グループワーク参加状況、プレゼンテーション等で総合的に評価する。

■評価基準

?相対評価

<学年共通>

- ・グループワークへの積極的な参加と貢献。

<2年生>

- ・アンケート調査の一連の流れを理解し、留意点を把握できたか。

<3年生・4年生>

- ・昨年度の合同ゼミ「アンケート調査実践」における反省点を克服できたか。

■事前履修科目等

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

酒井ゼミ2年生・3年生・4年生を対象とする。2・3年生は履修

必須、4年生は任意で履修可能とする。

科 目 名 合同ゼミナール〔EX Seminars〕 秋学期**担当教員** 酒井 麻衣子**■講義目的**

本演習は、データマイニングの基礎を身に付けるとともに、一連のデータマイニング作業を実践することを目的とする。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

大量データを用いたデータマイニングの一連の流れを理解し、実践できるようになる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

データマイニングの概要と手法の基礎を学ぶとともに、統計解析ツール・データマイニングツール (IBM SPSS Statistics、IBM SPSS Modeler等)の基本的操作方法を習得する。さらに、実際の大量データを用いてデータマイニングを実践し、その計画・実行・解釈・報告までを経験する。

以下を予定している。

- ・事前課題
- ・3学年混合のグループワーク
- ・プレゼンテーション

■教科書

適宜指示する。

■指定図書

特になし。

■参考文献

適宜指示する。

■評価方法

事前課題の内容、グループワーク参加状況、プレゼンテーション等で総合的に評価する。

■評価基準

相対評価

<学年共通>

- ・事前課題の提出
- ・グループワークへの積極的な参加と貢献

<2年生>

統計解析ツール・データマイニングツールを用いた一連のデータマイニングの流れを身に付けることができたか

<3年生・4年生>

統計解析ツール・データマイニングツールを用いたデータマイニングの基本を復習して確実なものとともに、より高度なアルゴリズムを用いたモデリング等にチャレンジできたか

■事前履修科目等

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

酒井ゼミ2年生、3年生、4年生を対象とする。

科目名 合同ゼミナール〔EX Seminars〕 春学期・秋学期

担当教員 豊田 裕貴

■講義目的

豊田ゼミでは、通常の学年ごとの演習に加え、全学年を通じてゼミを開講し、より積極的な演習への取り組みを行う。具体的には、春学期・秋学期ともに合宿ならびに合宿前後の準備ゼミにより、学年を横断するチームを編成し、各種ケーススタディやプランニング演習を行う。

■講義分類

顧客理解／ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／社会人力育成

■到達目標

学年横断で組まれるグループにて、限られた時間内に、設定された課題に取り組み、発表する。その際、発表前のグループワークの段階で、どのような質問や意見がなされるかを考え、それを織り込んだストーリー展開を考えることが、望まれるレベルである。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR

GD: グループディスカッション

GW: グループワーク

PR: プレゼンテーション

〔学外学習有〕

■講義の概要

（合同ゼミは履修者の興味、その時々の研究テーマに応じて内容が変わり、かつ集中講義を行うため、15回の詳細については割愛する）。

■評価方法

演習科目であり、積極的にグループワークに取り組むことが最低限の評価基準である。その上で、発表された課題についての質や質疑応答の仕方など総合的に判断し、評価を行う。

■評価基準

- ・本科目は、演習科目であり、PないしはFの絶対評価となる。
- ・面白い発想や独自の視点を高く評価する。

■留意点

- ・合同ゼミであるから、履修はホームゼミ（豊田ゼミ）のメンバーに限る。
- ・EXゼミの履修上限コマの問題から、他のEXゼミを履修したい場合には、本EXゼミを聴講扱いとして参加すること（ただし、豊田ゼミ生は単位の登録の有無に関わらず合同ゼミの参加を必須とする）。
- ・集中講義の日程については、ホームゼミにて連絡する。

科 目 名 合同ゼミナール〔EX Seminars〕 春学期・秋学期**担当教員** 村山 貞幸**■講義目的**

プロフェッショナル ビジネスパーソンに必要なマインドとスキルを獲得することで、ビジネスの高度な問題解決を行う能力を養う。

それは、就職力向上にもつながり、厳しい就職活動に打ち勝つ能力を獲得することになる。

本ゼミでは、プロフェッショナル ビジネスパーソンを、「社会性を重視し、組織目標を圧倒的に優れた能力により達成する人」とする。

そのために必要な能力は、以下と考える。

- 社会性
- 行動力
- 創造力
- 人脈構築力
- コミュニケーション力
- 論理的思考力

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / ビジネス創造 / ビジネスマネジメント / 社会人育成

■到達目標

- (1) プロフェッショナル マインドを高いレベルで獲得する。
- (2) プロフェッショナル スキルを高いレベルで獲得する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

<活動>

目的達成のための活動は、教員の提案に基づき、ゼミ生とともに検討する。

読書年100冊は必須。

概要は以下の通り。

-2年生 ビジネスプランニング フェーズ

主課題: 論理的思考力、創造力

-3年生 プラン実行フェーズ

主課題: 行動力 表現力 人脈構築力

-4年生 コーチング フェーズ

主課題: 能力確認

別に、3年生後半から4年生にかけ、就職活動を意識したメニューを多彩に用意している。

<基本方針>

大学にとどまらず、社会人や他大学生、その他の組織の方々とともに、活動する。

企画にとどまらず、企画実行することを通じて学びを高める。ゼミ活動にとどまらず、プライベートを含め、あらゆる活動をプロフェッショナル能力の獲得につなげる。

■教科書

グロービス・マネジメント・インスティテュート『改訂3版グロービスMBAマーケティング』（『新版MBAマーケティング』も可）ダイヤモンド社

■評価方法

ゼミ活動に対する貢献度。

■評価基準

各活動の量と質により総合的に評価。

■事前履修科目等

マーケティング入門

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名 合同ゼミナール〔EX Seminars〕 秋学期

担当教員 金子 邦博

■講義目的

【秋学期：企業が生き残っていくための秘訣を探る】
本ゼミナールは、産業社会においてビジネスがどのように行われているのかを、文献などの情報による調査研究とビジネスの現場に出かけて調査することを通じて、さまざまな実例の中から「儲ける」というビジネスの基本が、実社会においてどのように実現されているのか、またそこで働く人々はどのような意欲と知識・経験を持って仕事を遂行しているのかを学んでいくことを目的にしている。

そのため、本ゼミナールでは、秋学期は企業の持続可能性(長期的な収益性)に注目して企業の財務情報や経営戦略、商品展開などの分析・調査を中心にを行うと共に、ビジネスが行われている現場(工場、商店街、会社など)へのフィールドワークを適宜組み合わせることで演習を展開していく。フィールドワークは、「事前調査」→「実地調査」→「調査結果の報告(プレゼンテーション)」をワンセットに、秋学期及び冬期合宿を通じて4箇所程度の調査を行うことを予定している。

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / ビジネス創造 / ビジネスマネジメント / 社会人育成

■到達目標

「儲ける」ために、経営者は何を考え、その実現に向けてどのような努力をし、結果を出したのかを見いだせる理解力や分析力を身につけることを目指していく。

■講義形態

GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

<第1講> ～ <第15講>

概要：ビジネスが行われている現場（工場、商店街、会社など）へのフィールドワークを行う。

事前学習しておくべき用語やポイント〔なし〕

詳細：フィールドワークは、「事前調査」→「実地調査」→「調査結果の報告(プレゼンテーション)」をワンセットになる。調査先について、現地調査で確認すべきことをインターネットなどで事前に調べ、現場調査では事前の調査では分からなかった点を確認し、調査結果からビジネスを持続していける秘訣を考察して報告書(レポート)をまとめ、その内容を発表する。この作業を4回程度繰り返す。

フィールドワークにおいては、事前にどれだけ調査対象の内容を理解しているのかが最終的な成果の良し悪しの分かれ目になる。そのため、現場に行ってから何かを探し出すという取り組み姿勢ではなく、事前の調査において現場で深掘りすべき内容をピックアップできるよう、時間をかけて幅広く調べておく必要がある。

■教科書

演習の各段階で指示する。

■指定図書

なし

■参考文献

演習の各段階で指示する。

■評価方法

出席と調査報告内容の発表と報告書により総合的に評価する。

■評価基準

出席については、ゼミに参加し積極的に発言しているか。発表や報告書については、報告をまとめる過程で報告内容について十分に検討を行ったかどうかという考察過程を中心に、「儲ける」ことを実践できるノウハウを理解したのかという点に着目して評価する。

絶対評価

P：ゼミ活動の到達目標に概ね達している。

F：ゼミ活動への参加が不十分でゼミ活動の到達目標に達していない。

■事前履修科目等

ゼミの参加に際して、特定の科目の単位取得は条件とはしない。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- (1) 合同ゼミであるので、履修は金子ホームゼミナールの参加者に限る。
- (2) ゼミやフィールドワークは、参加者の予定を調整した上で、学期中に集中講義方式で適宜実施する。
- (3) 正当な理由なしに欠席する者には単位を付与しない。

科 目 名 合同ゼミナール〔EX Seminars〕 秋学期**担当教員** 彩藤 ひろみ**■講義目的**

地域活性化へのアイディア提供と、3 DCG技術の応用を絡めて、期間を区切ったプロジェクトを1～2つ実施する。これまで、サンリオピューロランドコンテンツを使ったARスタンブラリー、立川で行ったアニメを使った街づくりへの参加、ARネコ合わせによる永山学園祭参加、ラバルバーチャル学生コンテストを目指したARコンテンツづくりなどを行ってきた。

今年度は、フランスからのインターンシップ学生を加え、浅草の「祭」をテーマにお祭りミュージアムにおさめるコンテンツを3 DCGで仕上げることを考える

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネス創造 ／社会人力育成／ビジネスICT

■到達目標

プロジェクトを仕上げる経験を持つ。
タイム管理と、全体目標に対する自分の立ち位置を的確に見つける訓練をする。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習あり〕

■教科書

特になし
参考文献は適時提示する

■指定図書

特になし。必要に応じて用意する。

■参考文献

特になし

■参考URL

<http://cat.tama.ac.jp>

■評価方法

プロジェクト

■評価基準

プロジェクトへの貢献度

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

積極的に参加すること

科目名 合同ゼミナール〔EX Seminars〕 秋学期

担当教員 下井 直毅

■講義目的

この講義では、日本経済全般に触れ、産業社会について学ぶ。戦後の日本経済がどのように歩んできたのか、という点に始まり、日本経済を取り巻く環境はどうなっているのか、ということについて最前線の事例も含めて理解を深める。

■講義分類

ビジネス環境理解／社会人力育成／グローバルビジネス

■到達目標

日本経済やグローバル化が進展する世界経済の動向や課題についての基本的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR

GD: グループディスカッション

GW: グループワーク

PR: プレゼンテーション

〔学外学習有〕

■講義の概要

〈第1講〉

概要：日本経済の歩み(I)

事前学習しておくべき用語やポイント〔高度経済成長、石油危機〕

詳細：1950年代から80年代にかけての日本の経済はどのように推移したのかを学ぶ

〈第2講〉

概要：日本経済の歩み(II)

事前学習しておくべき用語やポイント〔バブル経済、失われた10年、内需主導型、テフレ〕

詳細：1980年代以降の日本経済はどのように推移したのかを学ぶ

〈第3講〉

概要：日本経済の成長と循環(I)

事前学習しておくべき用語やポイント〔国内総生産、三面等価の原則、日本経済の成長力〕

詳細：高度経済成長期の日本経済の経済成長率が高かった要因は何と考えられるかを学ぶ

〈第4講〉

概要：日本経済の成長と循環(II)

事前学習しておくべき用語やポイント〔景気循環、景気循環の4つの波〕

詳細：景気循環とは何か、その要因として何があるかを学ぶ

〈第5講〉

概要：日本の経済政策(I)

事前学習しておくべき用語やポイント〔公共財、所得格差、総需要管理政策、スタグフレーション〕

詳細：総需要管理政策とは何かを学ぶ

〈第6講〉

概要：日本の経済政策(II)

事前学習しておくべき用語やポイント〔1955年体制、官僚主導の政策決定、変動相場制下のマクロ経済政策、行財政改革〕

詳細：1955年体制とはどういうものなのかを学ぶ

〈第7講〉

概要：企業経営と産業組織(I)

事前学習しておくべき用語やポイント〔3つの過剰、日本の企業経営、ベンチャー、M&A〕

詳細：バブル崩壊後の3つの過剰には何かがあるのか。グローバル化社会に必要な経営体質はどういうものかを学ぶ

〈第8講〉

概要：企業経営と産業組織(II)

事前学習しておくべき用語やポイント〔競争政策、技術革新、独占禁止法〕

詳細：競争政策とは何かを学ぶ

〈第9講〉

概要：労働市場(I)

事前学習しておくべき用語やポイント〔用・賃金、失業率、少子高齢化、女性、高齢者、サービス化、グローバル化〕

詳細：労働市場において少子高齢化が引き起こす問題は何かを学ぶ

〈第10講〉

概要：労働市場(II)

事前学習しておくべき用語やポイント〔日本的雇用慣行、働くものの権利と意識〕

詳細：日本的雇用慣行とは何か／何だったのかを学ぶ

〈第11講〉

概要：世界経済の動向と日本の役割(I)

事前学習しておくべき用語やポイント〔レーガノミックス、IT革命、欧州連合、石油価格高騰〕

詳細：戦後の世界経済はどのように推移したのかを学ぶ

〈第12講〉

概要：世界経済の動向と日本の役割(II)

事前学習しておくべき用語やポイント〔国際金融市場、累積債務問題、通貨危機、WTO、自由貿易協定〕

詳細：今日の世界経済が抱える問題は何かを学ぶ

〈第13講〉

概要：日本の経済の現状と課題(I)

事前学習しておくべき用語やポイント〔グローバル、アジア〕

詳細：今日の日本経済が抱える問題は何かを学ぶ

〈第14講〉

概要：日本の経済の現状と課題(II)

事前学習しておくべき用語やポイント〔農業、環境、医療〕

詳細：今日の日本経済が抱える問題は何かを学ぶ

〈第15講〉

概要：日本の経済の現状と課題(III)

事前学習しておくべき用語やポイント〔農業、環境、医療〕

詳細：今日の日本経済が抱える問題は何かを学ぶ

■教科書

金森久雄・香西泰・加藤裕己 『日本経済読本』 東洋経済新報社(2007)

■指定図書

講義中に紹介する

■参考文献

三橋規宏・池田吉紀・内田茂男 『ゼミナール日本経済入門』 日本経済新聞出版社(2008)

橋本寿朗・宮島英昭・長谷川信 『現代日本経済』 有斐閣アルマ(2006)

■評価方法

評価は、講義中の演習(30%)、出席(70%)により行う

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科 目 名 合同ゼミナール〔EX Seminars〕 秋学期**担当教員** 諸橋 正幸**■講義目的**

言葉の法則性について、従来の言語学で中心となっている研究は、書き言葉における「文の構造」を把握するための文法であり、絶対的な法則とその根拠を説明することに重点が置かれていた。

そこからは、精緻な構文構造を把握できるという利点はあるものの、分析が単独の文という制約から、文章解析においては力不足である。

そこで、文という単位に限ることなく文章の流れの中で、あるいは、対話における流れの中で、言葉の使用順の法則性を見つけることが有効であるとの考え方が主流になりつつある。本演習では、この考え方に立って、実際の文章コーパス(実際に存在する、ある程度多量の文章データ)を用いて言葉の法則性を、統計的手法を用いて発見することを主眼とする。

■講義分類

ビジネス環境理解／ビジネス創造／ビジネスマネジメント／ビジネスICT／

■到達目標

形態素解析ソフトおよび統計マクロ付きのエクセルを用いて、大規模テキストを対象としたテキストマイニング技術の基本をマスターする。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR(学外学習無)

■講義の概要

言語データを複数個与え、各自で選んだデータに基づき処理結果を発表・議論する。

■参考文献

石川慎一郎他 「言語研究のための統計入門」 くろしお出版 (2010)

■評価方法

出席および成果発表の結果で合否判定をする。

■評価基準

演習、レポート、期末試験ともに、講義内容をどの程度理解したかを見る。

■事前履修科目等

ホームゼミ履修者に限る。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

科目名

社会工学研究会〔Seminar-social engineering〕 春学期

担当教員

久恒 啓一、他

■講義目的

現代社会の抱える課題について、学部・大学院・学年などをまわいで塾形式で切磋琢磨しながら、多様な要素や手法を組み合わせた柔らかな発想で、体系的・総合的な答を志向する総合設計力を身に付ける。

（講義要旨）受講生自身による問題発掘・発見から仮説の提示、そして多様な要素の組み合わせによる問題解決へいたるプロセスの中で、寺島学長以下、学内の教員や社会で活躍する学外の賢人による付加価値を高め、創造的問題解決策を志向する。

■講義分類

ビジネス環境理解・ビジネスマネジメント・グローバルビジネス・地域ビジネス

■到達目標

選択したテーマについて、文献調査・フィールドワーク・考察・執筆を行わせ、1年後に論文をまとめさせる。産業社会の持つ課題を発見し、解決へのアプローチを目指す論文内容へと指導する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

〈第1講〉

経営情報学部生19名、グローバルスタディーズ学部生3名、大学院生8名、合計30名。

教員11名で開始。

概要：オリエンテーション、学長講話

詳細：学長講話

人間力の必要性。ヒューマンリレーションマップとアセットマップの作成

人間能力＝知力（IQ）×度量（EQ）。

知力＝言語能力×理論数理能力×空間認識能力

度量＝忍耐力×行動力×意志力×やさしさ×熱意

インターゼミは、仕大実験。面白いと思う気持ちを持って挑戦する。

今期のテーマ。

・多摩学（横須賀と浦賀）

・ティズニー

・アジアダイナミズム

・地域研究

・エネルギーと環境

〈第2講〉

概要：学長講話・自己紹介・グループ分け作業

詳細：自己紹介

ゼミ生全員に、現在の関心事項と出身高校を含めた自己紹介。

ティズニー、アジア、多摩学、震災復興、エネルギーのグループの中で希望する所でグループワーク。

〈第3講〉

概要：グループ分け作業

詳細：ティズニー、アジア、多摩学、震災復興、エネルギーのグループの中で希望する所でグループワーク。

学部インターゼミOBも参加。

〈第4講〉

概要：グループ決定・グループワーク

詳細：2回のグループワークを経て、各自の希望に基づいて5つのグループのメンバーを決定。グループワーク開始。

・アジアダイナミズム

・多摩学

・ティズニー・エンターテインメント

・エネルギー・環境

・地域・震災

〈第5講〉

概要：学長講話・各グループの担当教員、学生から進捗報告

詳細：学長講話

今年度のインターゼミの全体テーマ「大学のグローバル展開力」

・エネルギー・環境：「本当に社会を変えるエネルギーとは何か」を考える。

・ティズニー：オリエンタルランドからの過去3年分の論文による提言に対する感謝状を披露。

これまでの蓄積を踏まえて、もう一步グローバル性について進む。

・多摩学：満貫を振り下げた多摩と国際関係について踏み込む。

・地域・震災：防災拠点としての道の駅を深める。

・アジアダイナミズム：尖閣諸島や竹島問題に踏み込むなら覚悟が必要。国際海洋法を学び、問題の複雑さを知る。

各グループにてグループワーク

〈第6講〉

概要：学長講話・グループワーク

詳細：学長講話

各グループのテーマ設定については、視界を広げ独特の意見に収斂させる。

演繹法、帰納法、仮説法。ものの方を学ぶ。

各グループに分かれてのグループワーク。

〈第7講〉

概要：教員講話・グループワーク

詳細：教員講話

・久恒先生「立体世界認識 17世紀オランダが日本の近現代に投げかけたもの」（寺島美穂「協力のレッスン」）の図解を配布し説明。

各グループに分かれてのグループワーク。

学部インターゼミOBも参加。

〈第8講〉

概要：グループワーク

詳細：グループワーク

6月30日の研究計画発表表に向けてのグループワーク。

研究計画発表表では、各グループのテーマ・文献・フィールドワークをプレゼンテーション。

大学院インターゼミOBも参加。

〈第9講〉

概要：グループワーク

詳細：グループワーク

6月30日の研究計画発表表に向けてのグループワーク。

〈第10講〉

概要：グループワーク・学長講話

詳細：グループワーク

6月30日の研究計画発表表に向けてのグループワーク。

学長講話

学長へ各グループの研究計画発表表に向けた進捗状況の報告

グループ毎に学長からコメント。

〈第11講〉

概要：研究計画発表

詳細：研究計画発表 パワーポイントを使用したプレゼンテーション

・地域・震災：「道の駅」台湾導入戦略プロジェクト。

学長コメント：道の駅の理解と方向感海外展開に関しては法体系、権利関係を考える必要あり。もう一度よく見極める。

「道の駅」とは何か、震災で何が進化したのか。踏み固める。

・多摩学「浦賀」

学長コメント：浦賀のある三浦半島には北条水軍の拠点があり、それを家康は徳川水軍のベースとして物流の拠点となった。江戸時代の浦賀を調べると意外に外国との交易が盛んであったことがわかる。クローカリティの観点。

・アジアダイナミズム：「日中韓露の領土問題－尖閣諸島、竹島、北方領土」

学長コメント：領土問題に踏み込むのであれば「国際海洋法」を調べる。基礎知識をしっかりと学ぶ。

・ティズニー「海外各地のティズニーランドと各国の文化との関係」

学長コメント：香港ティズニーに着目する。美しい虚構をつくりあげた企業の偉しさと見事さについて考える。

・エネルギー環境「地域エネルギーを生かしたエネルギー自立化モデルの可能性」。

学長コメント：デンマークの例を参考にしながら国内のモデルを考える。

学長総括コメント：研究は、「絞り込み」「重心を低く」「足元を固めよ。」「いつまでも自分の頭と心に残る研究を」
《第12講》

概要：学長講話・グループワーク・学長グループ指導

詳細：学長講話

・沖縄復帰40周年について

・手応のある人間関係の構築。

・学長、教員に挑戦する気持ち。ものの考え方。何を言おうとしているのかを考える。好奇心を持って吸収する。文献研究は一枚のカードに蓄積する。

各グループに分かれてのグループワーク。

学長による多摩学グループへの指導。

《第13講》

概要：教員講話・学長講話・グループワーク・学長グループ指導

詳細：教員講話

久恒先生：文献調査ノートと野外調査ノートの使い方と宮城県道の駅のフィールドワーク報告

巴 特先生：政権交代の起る今年の中国の研究

長田先生：インタビューの技術

学長講話

・聞く力、引き出す力。インタビューは質問者の能力によって決まる。フィールドワークには相当の備えが必要。

各グループに分かれてのグループワーク。

学長によるティズニーグループへの指導。

《第14講》

概要：学長講話・グループ進捗報告・グループワーク

詳細：学長講話

・原装について

・教員について

・業師さのまほろは塾。

・薄田立董(1877-1945年)の豫の詩。

グループ進捗状況報告に対する学長からのコメント

・アジアダイナミズム

学長コメント：国際海洋法の200海里説と大陸棚説の二重の根について。領土問題については、互いの論拠を確認する。

・地域関連＜震災＞

学長コメント：道の問題については、(一財)日本総研・多摩大総研・インターゼミの合同プロジェクトも見据える。

・エネルギー・環境

学長コメント：岩手県葛巻町の事例。自然エネルギー。バイオマスと風力。ガソリンに植物油エタノール、さとうきび。

資源を使うバイオマスなど自然を相手にすることの難しさを考える。

<夏季合宿1日目(8月中旬)>

概要：中間発表 パワーポイントを使用したプレゼンテーション

詳細：中間発表と質疑応答

中間発表に対する学長コメント

・多摩学

学長コメント：浦賀は北条水軍の拠点。家康は江戸の貿易港として浦賀で朱印船貿易を行う。貿易の視点。開国へ向けての動き。警備力として八王子千人同心が浦賀に。安全保障の視点。

・アジアダイナミズム

学長コメント：知的基盤をしっかりと整える。国際海洋法を勉強し、歴史的事実を積み上げる。

・エネルギー環境

学長コメント：自国では脱原発、他国には売り込むという姿勢は疑問。廃炉にも技術が必要。技術のわかる人がいなくなれば発言力、存在感はない。安全保障にも関わる問題。どういふ日本に住みたいか。清く

貧しく美しく。技術で豊かさに立ち向かっていくか。エネルギーは全体知。

・ティズニー

学長コメント：ユーロティズニーは虚構という感覚。香港は苦戦している。成功させるにはどうするか。海洋公園との比

較。ニセモノ感が中国のらしさか。

・地域関連＜震災＞

学長コメント：道の駅というキーワードを残しながら地域活性化に取り組む。

<夏季合宿2日目(8月中旬)>

概要：学長講話・グループワーク

詳細：学長講話

「2012年度」

・香港、カタール(中東協力会議)、パリ(IAEAエネルギーギラタイム)、ウィーン(IAEAと面談)、ロンドン(国際戦略)を移動。

・日本の発信力が問われている。きちんとしたものの方の考え方が必要。

グループワーク

中間報告での学長コメントをもとに各グループにわかれてのグループワーク。

■教科書

「世界を知る力」「世界を知る力2」

■指定図書

「脳力のレッスンⅠ」「脳力のレッスンⅡ」「脳力のレッスンⅢ」「大中華圏」

■参考文献

「二十世紀から何を学ぶか 上」「二十世紀から何を学ぶか 下」

■参考 URL

<http://www.tama.ac.jp/terashima/>

■評価方法

出席：25点 日常点：25点 中間発表：50点

■評価基準

絶対評価

上記「評価方法」に基づく総合評価

P：一年間を通じて課題解決に努力し、研究論文に貢献した。出席率が高い。

F：課題解決と論文執筆への貢献度が低い。出席率が低い。

■事前履修科目等

特別講座受講が必須。「問題解決学」分野の科目を多く履修することが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

毎回出席すること。特別講座受講が必須。夏季合宿に参加すること。教科書、指定図書、参考文献、及び、ゼミ中に指定された図書を読むこと。

科目名 社会工学研究会〔Seminar-social engineering〕 秋学期

担当教員 久恒 啓一、他

■講義目的

現代社会の抱える課題について、学部・大学院・学年などをまたいで塾形式で切磋琢磨しながら、多様な要素や手法を組み合わせた柔軟な発想で、体系的・総合的な答を志向する総合設計力を身に付ける。

(講義要旨)受講生自身による問題発掘・発見から仮説の提示、そして多様な要素の組み合わせによる問題解決へいたるプロセスの中で、寺島学長以下、学内の教員や社会で活躍する学外の賢人による付加価値を高め、創造的問題解決策を志向する。

■講義分類

ビジネス環境理解・ビジネスマネジメント・グローバルビジネス・地域ビジネス

■到達目標

選択したテーマについて、文献調査・フィールドワーク・考察・執筆を行わせ、1年後に論文をまとめさせる。産業社会の持つ課題を発見し、解決へのアプローチを目指す論文内容へと指導する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

〈第1講〉

概要：教員講話・学長講話・グループワーク

詳細：教員講話 2012年夏の報告

・菅野先生「大阪について」

・巴特尔先生「台湾視察ツアー」

・久恒先生「本を一冊執筆。人物記念館の旅、仙台・浜松・群馬・山梨・長野16館」

学長講話

・学生からの2012年夏の報告 ・台湾視察ツアー参加 ・インド・ネパールの旅 ・インターンシップの報告 ・北海道、九州旅行 ・起業

・尖閣領有権について

・過剰期待と過剰依存から脱却し常識に帰る。行動や体験から何を見抜くか。問題意識が情報の質を決める。大中華圏を旅する。

・11月のワークブレイスメントイベント。12月からB S 12にて月曜9時の番組開始。

グループワーク

各グループにわかれてのグループワーク

〈第2講〉

概要：グループ進捗状況報告・学長講話・グループワーク

詳細：地域関連＜震災＞、アジアダイナミズム、多摩学の各グループより進捗報告

学長コメント：ファクトを積み上げ、事実を踏まえる。

学長講話

・尖閣について、サンフランシスコ平和条約、沖縄返還協定グループワーク

インターゼミ OB の就職活動体験

〈第3講〉

概要：教員講話・学長講話・グループワーク

詳細：教員講話

・中庭先生：買い物難民について、多摩ニュータウンと信州上田市の事例

学長講話

・台湾について

グループワーク

〈第4講〉

概要：教員講話・学長講話・グループワーク

詳細：教員講話

・菅野先生

・諸橋先生

学長講話

・ワークブレイスメント

・B S 12で12月中旬より「就職を機に世界と人生を考える」番組放送開始

・映画「天地明察」について

グループワーク

インターゼミ OB の就職活動報告

リクルート社「R 25」の取材

〈第5講〉

概要：グループワーク

詳細：各グループワークに分かれてのグループワーク

〈第6講〉

概要：学長講演・教員、院生報告、グループワーク

詳細：学長講演

・湘南キャンパス学園祭での学長講演

教員、院生の近況報告

各グループワークに分かれてのグループワーク

インターゼミ OB の活動報告

湘南キャンパスにて開講

〈第7講〉

概要：教員講話、学長講話、グループワーク

詳細：教員講話

・酒井先生：多摩「志企業」探検バスツアーについて

・巴特尔先生：吉林大学の沈先生のセミナーについて

学長講演

・ワシントンポストの「日本の没落」特集

・習近平氏の中国

・日本はどこに向かうのか。民主化、天皇制、アメリカとの関係

各グループワークに分かれてのグループワーク

〈第8講〉

概要：学長講話、グループワーク

詳細：学長講演

・衆議院解散、議院定数削減、政治家とは

各グループワークに分かれてのグループワーク

〈第9講〉

概要：学長講話、グループワーク

詳細：学長講演

各グループワークに分かれてのグループワーク

〈第10講〉

概要：グループワーク

詳細：各グループワークに分かれてのグループワーク

〈第11講〉

概要：最終発表会 パワーポイントを使用したプレゼンテーション

詳細：最終発表と学長コメント

地域関連＜震災＞

学長コメント：地域に引きつける力が必要。生産活動をサポートする仕組み。多摩地域との連携の視点。

ティズニー

学長コメント：「海外展開は次年度以降の課題とする。ローカライズ。アトラクションの中身や工夫について、スモールワールドにはユネスコの世界観。ユーロティズニーにはシンデレラ城がない。など」

アジアダイナミズム

学長コメント：「事実の積み上げ、ファクトファインディング。領土問題にはアメリカの存在がある。あいまい作戦。

多摩学

学長コメント：「浦賀の歴史についての年表は良い。知識はつながって知恵となる」

エネルギー・環境

学長コメント：「決めつけずに固定観念を持たないで可能性を追う。足元にある多摩や川崎の発電システムに着目。小型分散発電はスマートグリッドでつなぐ。

〈第12講〉

概要：グループワーク

詳細：各グループワークに分かれての論文執筆作業

〈第13講〉

概要：学長講話・グループワーク・年内論文提出(ワード・エクセルを使用した最終論文作成)

詳細：学長講話

・B S 12の月曜夜9時 就職を機に世界と人生を考える放送スタート。引込み思案を解消し、歯を食いしばって力をつけよ。

各グループワークに分かれての論文執筆作業後、年内論文提出

〈第14講〉

概要：グループワーク

詳細：各グループワークに分かれての論文執筆作業

〈第15講〉

概要：学長講話・グループワーク

詳細：学長講話

各グループワークに分かれての論文執筆作業

■教科書

「世界を知る力」「世界を知る力2」

■指定図書

「脳のレッスンⅠ」「脳のレッスンⅡ」「脳のレッスンⅢ」「大中華園」

■参考文献

「二十世紀から何を学ぶか 上」「二十世紀から何を学ぶか 下」

■参考URL

<http://www.tama.ac.jp/terashima/>

■評価方法

出席：25点 日常点：25点 中間発表：50点

■評価基準

絶対評価

上記「評価方法」に基づく総合評価

P：一年間を通じて課題解決に努力し、研究論文に貢献した。

出席率が高い。

F：課題解決と論文執筆への貢献度が低い。出席率が低い。

■事前履修科目等

特別講座受講が必須。「問題解決学」分野の科目を多く履修することが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

毎回出席すること。特別講座受講が必須。夏季合宿に参加すること。教科書、指定図書、

参考文献、及び、ゼミ中に指定された図書を読むこと。

科目名 教育原理〔Educational Principle〕

担当教員 杉森 知也

■講義目的

教育という営みは、もっとも身近なものの一つであるが、意外と意識化できていない。そこで、できる限り各自の経験を意識化し、「教育」という営みについて客観的に理解できるようにしたい。

また、学校教育のみに限らず、社会教育・生涯学習との連携についても把握し、教職課程を履修していく上で、幅広い視野で臨めるようにする。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

- 1.教育の目的や歴史について原理的に考察し、それを自分の言葉で説明できる。
- 2.教育の最新事情やその背景・課題などについて、多角的に把握することができる。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉 ガイダンス

概要:授業の進め方

予習、復習のポイント:今まで受けてきた「教育」の場面について振り返っておくこと。

詳細:本講の概要の説明と、事故の教育との出会いについて細かく振り返る機会にする。教員との一対一のヒアリングのほか、参加者同士の聞き取りなども、状況によっては実施したい。

〈第2講〉 教育の本質 1

概要:教育と文化

予習、復習のポイント:指定教科書の該当部分を、事前に読んでくこと。

詳細:教育と「文化の伝承」について、他の動物との比較などを通して根源的に考える。

〈第3講〉 教育の本質 2

概要:教育と人間形成

予習、復習のポイント:人間にとって「教育」はどのような意味があるのか、本講のまとめとしてまとめる作業をおこなうこと。

詳細:教育と人間形成との関係について、また、これに付随して「教育の目的」についても考察する。

〈第4講〉 教育の歴史的展開1

概要:古代から中世

予習、復習のポイント:プリントを配布して講義する。世界史を多分に含むので、ルネサンスについて事前学習をしておくこと。

詳細:大学の成立と中等教育の勃興について、特に古代ギリシャ・ローマから中世ヨーロッパ社会における教育について理解する。

〈第5講〉 教育の歴史的展開 2

概要:近代以降

予習、復習のポイント:プリントを配布して講義する。宗教改革・市民革命・帝国主義について事前学習をしておくこと。

詳細:庶民のための教育機関の広まりと学校の制度化について、

「近代国家」をキーワードに大きく把握する。

〈第6講〉 子どもの発見・家族の発見

概要:中世と近代のヨーロッパにおける子ども観・家族観

予習、復習のポイント:「フィリップ・アリエス」について事前にインターネットで検索し、彼の思想について予習しておくこと。また、指定図書についても読んでおくこと。

詳細:アリエスやバダンテールの研究の紹介を通して、中世までの「子どもの発見」、「家族の発見」という意味を理解する。

〈第7講〉 イリイチの「脱学校論」が指摘したこと

概要:イリイチの教育思想と生涯学習の理念

予習、復習のポイント:授業後に渡すコメントシートを完成して翌週、提出すること。

詳細:イリイチの「脱学校論」の記述の理解を通して、彼のいう「脱学校」の意味を精密に読み解く。そのうえで、生涯学習との関連性についても触れたい。

〈第8講〉 教育課程

概要:教育の目的と学習指導要領

予習、復習のポイント:指定教科書の該当部分を、事前に読んでくこと。

詳細:既習内容の教育の目的について復習し、現代の日本における学習指導要領の意味を理解する。

〈第9講〉 「学力」論争と「学力」論 1

概要:学力調査と「効果のある学校」

予習、復習のポイント:指定教科書と指定図書の該当部分を、事前に読んでくこと。

詳細:日本および諸外国の学校効果研究の成果を紹介し、その共通点を検討する。

〈第10講〉 「学力」論争と「学力」論 2

概要:学力と格差社会

予習、復習のポイント:指定教科書と指定図書の該当部分を、事前に読んでくこと。

詳細:格差社会と学力格差についての諸研究を紹介する。格差は正が叫ばれる意味について、「意欲格差」という観点も含めて考察する。

〈第11講〉 「教育基本法」を読む

概要:「教育基本法」の精読

予習、復習のポイント:現行の教育基本法と改正前の教育基本法をインターネットで検索して印刷し、どこが変化したのかについて事前にチェックしておくこと。

詳細:「教育基本法」を精読し、その規程範囲と法の目的について把握する。

〈第12講〉 キャリア教育の意味するもの

概要:キャリア教育の実践を体験し、自己分析を深める。

予習、復習のポイント:指定教科書の該当部分を、事前に読んでくこと。

詳細:外部講師によるキャリア教育の実践を体験し、教育現場で重視されつつあるキャリア教育の意味を見出す。また、キャリア教育の実践に触れながら、同時に自己分析を進めていく。

〈第13講〉 特別支援教育

概要:インテグレーションの理念とその課題

予習、復習のポイント:指定教科書の該当部分を、事前に読んでくこと。

でること。

詳細:障害児教育の歴史的変遷を理解するとともに、インテグレーションに向かおうとする世界的な動向とその課題について検討する。参加者同士の意見の交換もおこないたい。

〈第14講〉「もっと僕を知ってほしい」を観て

概要:ADHDの児童のDVDを観る。

〈予習、復習のポイント〉発達障害をキーワードに、その種類と症状について事前に勉強しておくこと。

詳細:「もっと僕を知ってほしい(NHK)」を観て、ADHDの症状や親・教師の苦悩、児童の「戸惑い」などを理解するとともに、日本とアメリカの対応の違いと共通点を整理する。

〈第15講〉子どもの生活をめぐる諸問題

概要:不登校、いじめ、子ども(若者)文化と格差社会

予習、復習のポイント:指定教科書の該当部分を、事前に読んでくこと。

詳細:不登校、いじめ、子ども(若者)文化について、教育社会学の成果を中心に紹介する。また、これと既習内容の格差社会とも関連付ける。

■教科書

安彦彦彦ら編著『よくわかる教育学原論』、ミネルヴァ書房
その他、授業時にプリントを配布する。

■指定図書

ケネス・ハウ『教育の平等と正義』、東信堂
その他は、授業時に指示する。

■参考文献

イヴァン・イリッチ『脱学校の社会』、東京創元社
辻本雅史『「学び」の復権-模倣と習熟』、角川書店
広田照幸監修『リーディングス 日本の教育と社会①～⑩』、日本図書センター
河原和枝『子ども観の近代-「赤い鳥」と「童心」の理想』、中公新書
山内乾史ら著『学力論争とはなんだったのか』、ミネルヴァ書房
『日本教育新聞』(日本教育新聞社)
その他は、授業時に指示する。

■評価方法

平常点(授業態度等を含む)70%、レポート30%で評価する。

■評価基準

- 1.授業への参加姿勢を、平常点として算定する。
- 2.課題追究の姿勢は、平常点とレポートの記述内容、取り組み等から評価する。
- 3.レポートの内容とその水準は、レポートとして算定する。

絶対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

新聞等で、最新の教育情報を常にチェックしておくこと。
授業は、学生の主体的な働きかけで進むものである。疑問や意見を持ったら必ず発言して、全体で共有しながら進めたい。
また、受講人数によっても進行状況は変わってくるので、状況によっては内容の変更や扱う回入れ替えなどが生じることがある。

科目名 教育史〔Education History〕

担当教員 山原 克明

■講義目的

教育史は、これから「教育」の道を志す者に対して広い教養的な性格をもっており、基礎的な拠り所となる領域に深くかかわっている。一般教養的であると同時に、教職教養的な内容を含んでいる。この講義を通じて、歴史を全体的にどう見るかという根本的なものの見方を考え、歴史的事象と教育の間に関連を見出すことによって、教職を目指す者が身に付けなければならない必須の教養を深める。

本講義では、「人間の登場しない歴史はない」という視点に立って、教育史上に重要な役割を果たした人物を中心にその背景となっている歴史の流れをたどり、教育の本質について考察を進める。

■到達目標

英・米・欧の歴史と日本の教育史を時系列的にたどり、教職に就く者として求められる教育の歴史について、基本的な知識の習得をめざす。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習 無〕

■講義の概要

教育は、人間の子どもが人間らしい人間になるために、また社会の存続と発展あるいは文化の継承と創造のために不可欠なものである。わたしたちが当面する「教育問題」の本質の大半は、現在に特有な問題であるというよりも、歴史的課題として提起されてきたものである。教育の歴史をたどり、その本質について歴史の流れの中から考察を深めて行くことにする。

西洋の教育の歴史

〈第1講〉ギリシア・ローマ・中世の教育

今日、近代教育とよんでいる教育の理念や主張は、すでにギリシア・ローマにおいて芽生えが見られる。

<予習・復習ポイント>

歴史の流れ、主要な人物、著作物、思想について、求められる知識が身に付いたか。

〈第2講〉近代教育の黎明期

近代的な教育の思想的な系譜は、近代の夜明けともいえるルネサンスや宗教改革期の中にもよく発見できる。(新しい世界観・人生観＝ヒューマンイズム(humanism:人文主義)の教育)

<予習・復習ポイント>

歴史の流れ、主要な人物、著作物、思想について、求められる知識が身に付いたか。

〈第3講〉近代教育の黎明期

自然科学の発達の影響により、17世紀のヨーロッパの教育の著しい傾向(リアリズム(Realism)の教育)があらわれた。

<予習・復習ポイント>

歴史の流れ、主要な人物、著作物、思想について、求められる知識が身に付いたか。

〈第4講〉絶対主義時代の教育

絶対主義の時代は、強力な王権(絶対君主)によって統一され、国家的な規模で中央集権的に再編成された。

<予習・復習ポイント>

歴史の流れ、主要な人物、著作物、思想について、求められる

る知識が身に付いたか。

〈第5講〉18世紀の教育改革者

革命的な思想運動の立場から、合理主義に立ち、因習、迷信の打破、人間の開放を目指す。合理的、理性的立場から批判対象となり、近代社会が成立する先駆的な時期であった。

<予習・復習ポイント>

歴史の流れ、主要な人物、著作物、思想について、求められる知識が身に付いたか。

〈第6講〉産業革命と教育

19世紀以降の欧米の教育を変動させた要因として、民主主義、ナショナリズム、産業革命の3つが指摘される。

<予習・復習ポイント>

歴史の流れ、主要な人物、著作物、思想について、求められる知識が身に付いたか。

〈第7講〉近代教育制度の成立

現代教育は、教育が国民教育として公的な意味を持ち、国や地方公共団体の事業(公教育)として行われている。ほぼ19世紀に公立・無償・義務という三大要素から成り立っている。

<予習・復習ポイント>

歴史の流れ、主要な人物、著作物、思想について、求められる知識が身に付いたか。

〈第8講〉19世紀の教育思想

19世紀に入り、資本主義体制が確立し、都市人口の膨張、大都市の勃興、労働者階級の台頭、労働・社会問題が発生した。

<予習・復習ポイント>

歴史の流れ、主要な人物、著作物、思想について、求められる知識が身に付いたか。

〈第9講〉世界新教育運動の展開

児童を中心とする教育思想および教育実践が、世界的な規模の教育運動になった。「児童の世紀」「児童から」といったことばが盛んに用いられた。

<予習・復習ポイント>

歴史の流れ、主要な人物、著作物、思想について、求められる知識が身に付いたか。

〈第10講〉民主主義の発展と教育

ヨーロッパ諸国は、19世紀後半に帝国主義の段階にまで発展し、国際的な対立と軋轢(アツレキ)を激化した。社会内部の矛盾が顕在化し、労働者階級の成長といった事態が現れた。

<予習・復習ポイント>

歴史の流れ、主要な人物、著作物、思想について、求められる知識が身に付いたか。

<まとめ:予習・復習ポイント>

数千年に及ぶ世界の歴史の流れに従って、教育思想の変遷を理解し、教育に携わる者としての歴史観をしっかりと身に付ける。

我が国の教育の歴史

〈第11講〉日本の教育

古代・中世の教育、近世の教育から近代の教育へと歴史をたどってゆく。

<予習・復習ポイント>

歴史の流れ、主要な人物、著作物、思想について、求められる知識が身に付いたか。

〈第12講〉近世の教育

江戸時代の武士は、確立された幕藩体制のもとで、高い教養を身につけることが求められた。

<予習・復習ポイント>

歴史の流れ、主要な人物、著作物、思想について、求められる知識が身に付いたか。

〈第13講〉近代教育制度の創始

日本の近代教育制度の起点は、明治5年(1872年)の学制の制定にある。改正がなされ、教育制度全般にわたって、中央集権的、官僚統制的傾向が強められ、徳育重視の傾向があらわれた。

<予習・復習ポイント>

歴史の流れ、主要な人物、著作物、思想について、求められる知識が身に付いたか。

〈第14講〉公教育制度の整頓

明治18年8月に、再度教育令が改正され、帝国大学令、小学校令・中学校令・師範学校令が公布された。このことによって、義務教育の発達と中・高等教育の拡充がなされた。

<予習・復習ポイント>

歴史の流れ、主要な人物、著作物、思想について、求められる知識が身に付いたか。

〈第15講〉近代日本の教育方法の発達

大正自由主義期の教師、戦時下の教師、戦後の教師

<予習・復習ポイント>

歴史の流れ、主要な人物、著作物、思想について、求められる知識が身に付いたか。

<まとめ:予習・復習ポイント>

数千年に及ぶ我が国の歴史の流れに従って、教育思想の変遷を理解し、教育に携わる者としての歴史観をしっかりと身に付ける。

■教科書

プリント教材を配布して進める。

■指定図書

[1] 教師養成研究会 森秀夫著 『教育史 西洋・日本』 学芸図書株式会社

[2] 柴田義松他編著 『ポイント教育学 教育史』 学文社

[3] 教員試験情報研究会編 『教職教養 教育史』 一ツ橋書店

■参考文献

荒井武編著 『教育史』 福村出版

■評価方法

期末試験(30%) レポート・発表(10%) 出席(60%)

■評価基準

絶対評価

出席 ・すべての講義に欠席・遅刻なく出席しているか。

期末試験 ・講義内容の全般にわたる教養をどの程度身に付けているか。

・教育にかかわる歴史的な背景を正確に理解しているか。

・適量な分量で論点を的確に答えているか。

発表・レポート

・講義で取り上げた項目をよく理解しているか。

・資料を収集・整理し、簡潔な表現で適切な分量で記述して

いるか。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・講義は毎回出席し、積極的な態度が望まれる。(原則として、欠席・遅刻はできない。)

・教員としての資質を啓発するために、資料を収集・整理して発表する機会を設ける。

科目名 教育実習〔Practice Teaching〕

担当教員 大森 拓哉

■講義目的

本講義は、教育実習の前後に行う指導である。事前に、教育実習の意義、実習上の留意事項、授業の見方、授業の実施方法、実習校とのかかわり方などについて講義するとともに、模擬実習を組み込んで2週間～3週間の教育実習の指導・助言を図る。

実習後には、実習体験の整理の方法などについてふれる。その際に、教育実習が単に教える技術を学ぶ場だけではなく、主体的に行動し人間関係を創ってゆく総合的な体験の機会であったことを思い起こし、この体験を通じて得た自信を今後の社会人としての生活に生かせるように総括する。

■講義分類

顧客理解 / ビジネス環境理解 / ビジネス創造 / ビジネスマネジメント / 社会人力育成 / ビジネスICT

■到達目標

教職に就く者として求められる教育実習について、講義技法と教育者としての態度を身に付け、基本的な知識の修得をめざす。

※この科目の単位修得時の学習目標をお書き下さい

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習有〕

■講義の概要

教育実習は、高等学校では2週間～3週間の期間で行われる。その前後に1単位の事前および事後指導をすることが教員免許法で定められている。その中身は特に定められていないが、はじめて実習校で生徒の前に立って授業をする以上、少しでも円滑に進められるように準備をしておくことが必要になる。また、高等学校の教育活動の全体を知り、経験を通じて学ぶことも教育実習の重要な目的とされており、そのための基礎的な知識を与えることも大切なことである。

教育実習の講義では、こういった目的を果たすために教育実習前(事前)の指導に必要な準備をする。また、教育実習後(事後)に、主体的に行動し人間関係を創ってゆく総合的な体験の機会であったことを思い起こし、この体験を通じて得た自信を今後の社会人としての生活に生かせるように総括する。

●事前指導Ⅰ

教育と教師を見つめ直そう
教師になるには何が必要か
教育実習がなぜ必要か
教員としての心がまえ
実習生としてふさわしい学生とは
実習校の組織(分掌)を知ろう
身だしなみで注意したいこと
ホームルーム経営への参加
実習にかかわる事務手続き
実習ノートの書き方

●事前指導Ⅱ

教育実習は教師へのワンステップ
単元指導案・学習指導案の作成
わかりやすい授業とは

●事前指導Ⅲ

指導教師から学ぶもの

実習は全力投球で
効果的な教材研究
授業参観の着眼点
板書・ノート指導・話し方
<予習・復習ポイント>

教職に携わる者として求められる知識・態度が何かを理解し、教職を目指す者としての公的な立場の職責をしっかりと身に付けたか。

●事後指導

実習を終えたら
実習後の事務処理
実習校・生徒へのお礼状の作成
実習ノートの取りまとめ
実習の経験を今後の社会人としての生活に生かすには

<予習・復習ポイント>

教職の場での実習を通じて何が求められているのかを理解し、教職の免許状を取得した社会人としての生き方を深く考察できるか。

■教科書

講義の中で、プリント資料・インターネットからの資料・DVD資料などを指示する。

■指定図書

小松喬生他編 『教員採用シリーズ 教育実習を成功させよう』 一ツ橋書店
寺崎昌男編 『教育実習57の質問』 学文社
教師養成研究会編 『教育実習の研究』 学芸図書

■参考文献

入江昌明他著 『教育実習』 EXP

■参考 URL

講義時に指示する。

■評価方法

出席80%、レポート20%

■評価基準

絶対評価

A+：講義内容を完全に理解できている

A：実習に行く準備・実習後のまとめがきちんとできている

B：講義内容が理解できている

C：最低限の理解ができている

F：講義科目の履修目標に達していない

■事前履修科目等

3年次までの教職科目を単位履修していないと、本講義を受講することはできない。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講義は集中授業であるため、実施日については別途連絡する。

科目名 教育制度論(Educational System)

担当教員 杉森 知也

■講義目的

教育をとりくむ社会・行政の制度改革の動向を含めて、広く考察するとともに、現在の日本の教育制度・行政等について、歴史的視点と国際的視点の両面から比較する。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

現在の日本の教育制度設計を、政策の動向を加味しながら客観的に評価できる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉 ガイダンス

概要：「教育の制度」とは何か

予習、復習のポイント：授業時に提示された「教育制度」の概要について身近なものとして再度把握すること。

詳細：本講の全体像を示すとともに、「制度」という意味を考える。その上で、教育制度がどのような範囲をカバーするののかについて把握する。

〈第2講〉 学校体系1

概要：ヨーロッパ諸国の学校体系

予習、復習のポイント：指定教科書の該当部分を、事前に読んでくこと。

詳細：多様な制度を形成している背景に、歴史・文化があることについて提示する。

〈第3講〉 学校体系2

概要：日本の学校体系の変遷

予習、復習のポイント：戦前と戦後の違いを大きく把握して、その意味をまとめておくこと。

詳細：米国教育使節団報告書を手掛かりにしながら、戦後の日本はなぜ単線型の学校体系となったのかについて紹介する。

〈第4講〉 学校体系3

概要：学校制度体系の類型と諸外国が抱える課題

予習、復習のポイント：海外の学校体系と日本との比較を通して、その背景にある歴史的背景や制度改革の意味をまとめておくこと。

詳細：各国がそれぞれの歴史と文化を引きずりながら学校体系が形成されていることと、そのような学校体系を通して社会が再形成(再生産)されていることを提示する。その上で、各国がどのように克服しようとしているのかについて把握する。

〈第5講〉 教育に関する法規

概要：日本の教育法規体系

予習、復習のポイント：指定教科書の該当部分を、事前に読んでくこと。

詳細：「教育基本法」、「学校教育法」、「地教行法」を中心に、日本の教育法規の体系について把握する。

〈第6講〉 教育に関する行政と財政1

概要：教育行政の原理と文部科学省

予習、復習のポイント：文部科学省のHPを見ておくこと。

詳細：文部科学省が持っている権限・官制の範囲について紹介する。

〈第7講〉 教育に関する行政と財政2

概要：教育委員会設置の意味

予習、復習のポイント：自分の住んでいる地域の教育委員会のHPを見ておくこと。

詳細：教育委員会が行政委員会として設置されている意味を、米国教育使節団報告書を手掛かりに紹介する。また、教育委員の仕組みと選出方法などについて、実際の委員の経歴などの調査を通して把握する。

〈第8講〉 教育に関する行政と財政3

概要：大阪府の教育基本条例を読む

予習、復習のポイント：教育委員会廃止論の動向もあるもので、これらの主張の意味を把握しておくこと。

詳細：大阪府の教育基本条例案については賛否両論が出されているが、それぞれの主張について精密に突合せさせ、なぜ教育委員会廃止論などが生じているのかについて考える。また、本講と第7講の内容とを突合せて自己の意見を形成する。出席者同士の意見交換、ディスカッションもおこないたい。

〈第9講〉 教育内容と学習指導要領

概要：学習指導要領の歴史の変遷と改定のポイント

予習、復習のポイント：学習指導要領の改訂の要点を読んでくこと。

詳細：学習指導要領の改訂ポイントについて、時代背景を含めながら提示する。

〈第10講〉 教育内容と学習指導要領2

概要：学級経営と集団づくり

予習、復習のポイント：指定教科書の該当部分を、事前に読んでくこと。

詳細：教師の職務としての学級経営の内実について把握する。

〈第11講〉 教育の平等を考える1

概要：機械の均等と平等

予習、復習のポイント：指定図書に事前に読んでおくこと。

詳細：「結果の平等」を求めてきた日本の教育は善か悪か。

〈第12講〉 教育の平等を考える2

概要：「機械の均等」と「結果の平等」

予習、復習のポイント：第11講までの授業内容を総合して、機会均等と結果の平等についてまとめておくこと。

詳細：「機会均等」の意義を見出しつつ、「結果の平等」を目指す方向性とあわせてどこに課題があるか、討論する。

〈第13講〉 教育の市場化と新自由主義

概要：新自由主義下の教育政策

予習、復習のポイント：福祉国家観・新自由主義という語句について、事前によく理解しておくこと。

詳細：イギリスのサッチャー政権のおこなった教育政策、中曽根、小泉内閣の改革路線を検証する。

〈第14講〉 教育への新たな社会的要求

概要：不登校とオルタナティブスクール

予習、復習のポイント：指定教科書の該当部分を、事前に読んでくこと。

詳細：義務教育の年限に関する規定を提示し、不登校等で出席日数不足となった際に多く取られる措置について考える。また、そうした層の受け皿のひとつとしてのオルタナティブスクールの実態を検証する。

〈第15講〉 まとめ

概要：本講のまとめ

予習、復習のポイント：「教育制度」論で学習した内容を総括しておくこと。

詳細：本講で扱ってきた内容のうち、特に反応の良かった部分について再検討をしつつ、半期の総括をおこなう。

■教科書

安彦忠彦ら編著『よくわかる教育学原論』、ミネルヴァ書房

その他は、授業時にプリントを配布する。

■指定図書

ケネス・ハウ「教育の平等と正義」、東信堂 大田直子・黒崎崎「学校をよりよく理解するための教育学」1~6、学事出版 解説教育六論修養委員会編「解説教育六論2012」、三省堂 その他は、授業時に指示する。

■参考文献

渡部 蒔「図解問答 教育法規・教育行政入門」、学術出版会

『日本教育新聞』 日本教育新聞社

その他は、授業時に指示する。

■評価方法

平常点（授業態度等）70%、レポート30%で評価する。

■評価基準

授業への積極的な参加意欲を平常点として、授業時に提出してもらったレポートはその水準によって、それぞれ評価する。

絶対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

最新の教育情報を、新聞等で常にチェックしておくこと。

授業は、学生の主体的な働きかけが進むものである。疑問や意見を持ったら必ず発言して、全体で共有しながら進めたい。

したがって、状況によっては若干内容や扱う回の入れ替えなどが生じることもある。

科目名 教育方法〔Teaching Method〕

担当教員 齋藤 S.裕美

■講義目的

2008年の学習指導要領改訂により、基礎的な知識・技能の習得に加え、確かな学力が重要視されるようになった。また、習得した知識・技能を活用して自ら考え、判断し、表現することにより様々な問題に積極的に対応し、解決する力を求められるようになった。

本講義では、教育方法の変遷を欧米における教授理論の展開と日本における教育課程の変遷において概観し、その上で授業構成要素である学習目標、学習内容、指導方法・学習方法、指導組織・形態、学習環境・メディア、学習評価等について基礎理論を学ぶ。さらに具体的な指導案や教材・教具の開発を行い、事例に基づいて理解を深め、それら事例における工夫や改善のあり方についても検討する。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

- ・教育方法の基本的な概念がわかる。
- ・教育方法の変遷、現代的課題がわかる。
- ・教授-学習過程の構造がわかり、教授原理について説明できる。
- ・指導内容、教材、教具の関係について説明でき、教材を活用した授業を設計できる。
- ・教材研究の機能を説明し、具体的な教材開発ができる。
- ・教育評価の機能と授業評価の種類や方法を説明できる。

■講義形態

講義＋GD＋GW＋PR〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉 教育方法の二つの側面

学習指導-知識の習得とその応用・活用についての指導について、生徒が学習する意味や学校教育の意味を考察し、そこから敷衍して「教育方法」という科目の意義について確認する。

<予習・復習のポイント>

生徒にとって学校教育において学ぶ意味とはどのようなことであるか、「教育方法」を学ぶ意味は何か。

〈第2講〉 近代までの教育方法の思想

西洋古代から西洋中世までの教育方法（ソクラテスの産婆術、アリストテレスの演繹法、7自由科の成立、F. ペーコンの帰納法）、西洋近代の教育方法（コメニウスの近代教授学、実学主義と直感主義、ペスタロッチの教育方法、ヘルバルト学派）、現代の教育方法（経験主義、児童中心主義、新教育運動、エッセンシャルイズム、プログレッシビズム）の順に追い、教育方法の歴史の変遷について確認する。

<予習・復習のポイント>

古代から近代までにどのような教育方法が生み出されてきたのだろうか。

〈第3講〉 近現代の教育方法の思想

近現代の教育方法（経験主義、児童中心主義、新教育運動、エッセンシャルイズム、プログレッシビズム）について確認し、現在の日本の学校教育との関連について確認する。

<予習・復習のポイント>

近現代の教育方法とはどのようなものか。

〈第4講〉 近代日本教育方法の変遷

江戸時代の教育方法から明治期の学制に見られる教育観、大正新教育運動と各学校の成立過程、戦後の学習指導要領と教育方法の変遷を確認し、現行の学習指導要領と新学習指導要領の特徴について概説する。

<予習・復習のポイント>

近現代の日本の教育方法とはどのような歴史の変遷をたどったのか、学習指導要領改訂とはどのような社会的背景のもとになされたのか。

〈第5講〉 教育課程とその類型

経験カリキュラム、教科カリキュラム、融合カリキュラム、広領域カリキュラム、コア・カリキュラムなどのカリキュラムの類型について確認し、現行の教育課程の特徴と教育課程編成の原理などについて概説する。

<予習・復習のポイント>

教育課程とは何か、その類型にはどのようなものがあるか、教育課程の編成はどのような原理のもとで行われるのか。

〈第6講〉 学習の諸原理

興味の原理、経験の原理、自発性の原理、社会性の原理、直観の原理について確認し、さらに学力とは何か、学力低下問題やPISA型学力などの現代的問題についても取り上げる。

<予習・復習のポイント>

学習の原理にはどのようなものがあるか。

〈第7講〉 教授学習の過程

教授学習過程の流れについて確認し、授業を構成する三要素、授業の構造について概説する。さらに、授業設計と主題研究の関わり、指導法検討の意義についても考察する。

<予習・復習のポイント>

授業とは何か、主題研究の意義はどのようなものであるか。

〈第8講〉 単元の設定と展開

カリキュラムについて、大単元と小単元、導入-展開-まとめについて概説する。

<予習・復習のポイント>

単元とは何か、導入-展開-まとめの意義はどのようなものであるか。

〈第9講〉 教材教具

教材とは何か、教具とは何か、教材教具の必要性について概説し、教材教具をどのような場合に開発すべきか考察する。

<予習・復習のポイント>

教材教具はどのような場合に必要か。課題として教材作成を行う。

〈第10講〉 教育工学

教育機器や視聴覚教材の利用について、フラット教材、オーディオ教材、ビジュアル教材-Teaching Machineについて概説する。

<予習・復習のポイント>

教育機器や視聴覚教材にはどのようなものがあるか、どのような場面で活用すべきか。

〈第11講〉 授業設計(1)

授業設計の手順と方法について概説する。

<予習・復習のポイント>

授業設計の手順と方法とはどのようなものか。

〈第12講〉 授業設計(2)

学習指導案の作成法について概説する。

<予習・復習のポイント>

学習指導案を作成し、どのような手順で学習指導案を作成するのか、作成時の留意点とは何かを理解する。

〈第13講〉 授業設計(3)

模擬授業演習

<予習・復習のポイント>

模擬授業のための準備を行うこと。課題として学習指導案作成を行う。

〈第14講〉 教育評価

学習評価の分類、測定の方法、絶対評価と相対評価、観点別評価と絶対評価の尺度、データ解析の方法について概説する。

<予習・復習のポイント>

教育評価の目的は何か、観点別評価と絶対評価の関連はどのようなものであるか。課題として評価基準と評価基準の作成を行う。

■教科書

谷田貝公昭・成田国英・林邦雄著 『教育方法論』 一藝社

■指定図書

樋口直宏・林尚示・牛尾直行著 『実践に活かす 教育課程論・教育方法論』 学事出版

柴田義松・山崎準二著 『教育の方法と技術』 学文社

西之園晴夫・宮寺晃夫著 『教育の方法と技術』 ミネルヴァ書房

日本教育方法学会著 『日本の授業研究（上巻）授業研究の歴史と教師教育』 学文社

日本教育方法学会著 『日本の授業研究（下巻）授業研究の方法と形態』 学文社

■参考文献

日本教育方法学会著 『現代カリキュラム研究と教育方法学—新学習指導要領・PISA型学力を問う』

図書文化社

植野真臣著 『知識社会における e-learning』 培風館

■評価方法

期末試験45%、学期中のレポートや課題、発表40%、出席状況15%を基本とし、授業への参加態度などを加味して総合的に評価する。

■評価基準

次の3点を中心に評価する。

- (1)教育方法史や教育課程の変遷について理解しているか。
- (2)教育現場における方法技術を理解・体得できているか。
- (3)レポートや期末試験における記述が正確であるか。

絶対評価

A+：上記評価方法で評価点95点以上

A：上記評価方法で評価点80点以上95点未満

B：上記評価方法で評価点70点以上80点未満

C：上記評価方法で評価点60点以上70点未満

F：上記評価方法で評価点60点未満

■事前履修科目等

2年次春学期の教職科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

特になし。

科目名 教職概論〔Teaching Profession〕

担当教員 杉森 知也

■講義目的

教職についての基本的事項(教職の意義、教員の役割、職務内容等)をおさえるとともに、現行教員養成制度の原理や政策的な課題について理解する。また、近年の政策動向のなかで、新たに求められつつある教師の資質と力量について考えながら、自己の教職観・教師像の構築をはかる。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

教員の養成・採用・研修を、「教師の成長」という観点から考え、教職の意義、教師の仕事、教職の専門性について総合的に説明できる。

現在の地方分権・構造改革下の教員養成政策を確認しながら、新たな教師像を模索する動向について世界的な流れを含めて説明できる。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習無〕

■講義の概要

〈第1講〉 ガイダンス

概要:教師との出会いの原体験から教職課程受講の意味を再確認する

予習・復習のポイント:自分が教員免許の取得を目指そうとした理由を、過去の学校での体験などから考えて授業に臨むこと。

詳細:本講は、教職課程の入門的科目となる。出会った教師たちを振り返りながら、そもそもなぜ教職課程を受講しているのかについて省察する。

〈第2講〉 教師の職務

概要:教師の職務内容とその範囲

予習・復習のポイント:授業のほかに教師がおこなっている職務について、考えてくること。

詳細:教師の職務の多様さを理解し、それらの職務について具体的な事例を踏まえながら紹介する。

〈第3講〉 教師の地位と身分1

概要:教師の「地位」

予習・復習のポイント:授業で扱った内容について、インターネットで良いので調べて補足する。

詳細:教師の地位について、「教育基本法」や「地方公務員法」をもとに理解する。

〈第4講〉 教師の地位と身分2

概要:教師の義務と身分保障の意味

予習・復習のポイント:「不適格教員」と「指導力不足教員」という二つの言葉について、どのように使い分けができるのか、インターネットで良いので必ず複数の情報源を使って説明できるようにして授業に臨むこと。

詳細:教師に課せられている義務について、特に「地方公務員法」を中心に検討する。また、教師の身分保障の意味について

〈第5講〉 教師の地位と身分3

概要:教師の待遇

予習・復習のポイント:授業で扱った内容について、インターネットで最新の情報を調べて補足する。

詳細:教師の給与水準について、諸法令の規定を含めながら検

討する。また、それらの規定が現状に合わなくなっていることなども指摘し、今後の政策の方向性等について意見交換をおこなう。

〈第6講〉 教員研修

概要:教員研修の種類と意義

予習・復習のポイント:自分の住んでいる地域の、教員の研修施設(教育センター等)がどこにあるか調べておくこと。

詳細:教員研修の種類を把握するとともに、公的な研修と自主的な研修の関係性について考える。また、その中でも校内研修の重要性について、最新の研究を紹介しながら理解する。

〈第7講〉 教師のやりがいとバーンアウト

概要:教師のバーンアウト要因を中心に、日本と諸外国の比較をおこなう。

予習・復習のポイント:三楽病院のHPを中心に、バーンアウトのより具体的な内容について補足する。

詳細:教師のやりがいや「誇り」、またバーンアウトスコア等を諸外国との比較をおこないながら、各国の抱えている教師を取り巻く環境や政策の影響等について考える。

〈第8講〉 価値多様化社会の中の専門職1

概要:専門職といわれる職業が価値多様化社会のなかでどのような変化を求められているか。

予習・復習のポイント:指定図書『専門家の知恵』を読んでおくこと。

詳細:法曹関係者や医療従事者と教職との関係性について、価値多様化社会の到来と同時に求められた変化を見出す。モンスターペアレントの問題や教育の私事化についても触れる。

〈第9講〉 価値多様化社会の中の専門職2

概要:「反省の実践家」としての専門職集団づくり

予習・復習のポイント:

概要:専門職である者が「反省の実践家」である必要はどこにあるのか、ドナルド・ショーンらの研究を手掛かりに検討する。

〈第10講〉教員免許制度の現状分析

概要:戦後初期の教員免許に関する理念と近年の動向について検証する。

予習・復習のポイント:本講義に参加して、日本の教員免許制度で問題だと思った部分一つについて、インターネット等で調べて補足する。

詳細:「教育職員免許法」制定当初の理念を把握するとともに、その理念が様々な方面で崩れてきていることを紹介する。社会人を教員や校長に登用しようとする動きの意味についても紹介するので、この点について意見交換したい。

〈第11講〉教職観の変遷

概要:開放制の「ゆらぎ」

予習・復習のポイント:なぜ教育大学や教育学部でない多摩大学で教員免許状が取得できるのか。その意味について、仮定でよいので考えてくること。

概要:教員の計画養成がはじまった意味と教員の需給関係について概観し、そこに教育大学や教育学部が存在する意味について考える。同時に、私立大学をはじめとして目的養成でどこで教員免許を取得できるということの意味と問題点について把握する。

〈第12講〉新しい教師の力量 1

概要:日本の教師と世界の教師との比較を中心に

予習、復習のポイント:本講で考察した日本の教師に期待されていることと第6講との関係について、自分なりの意見を考える。

概要:東アジアの教師像と西欧諸国の教師像の違いについて理解するとともに、それぞれがその教職観を乗り越えようとしている意味について、その背景を含めて把握する。

〈第13講〉新しい教師の力量 2

概要:OECDの政策提言から世界的な動向を見出す

予習、復習のポイント:授業で扱った内容について、指定図書を読んで補足すること。

詳細:日本の政策動向とOECDの政策提言との共通項を見出す。

〈第14講〉新しい教師の力量 3

概要:「学校を変えるのは誰だ(NHK)」を観て、「開かれた学校づくり」の現状を理解する。

予習、復習のポイント:「開かれた学校づくり」をキーワードに、指定教科書・インターネットを調べて授業に参加すること。

詳細:「学校を変えるのは誰だ(NHK)」を観て、学校支援ボランティア、民間人校長、コミュニティー・スクール導入の意味やその課題について把握し、意見交換をおこなう。

〈第15講〉教師への聞き取りから見えるもの

概要:レポートへのフィードバックを中心に

予習、復習のポイント:第1講で考えた自分の理想とする教師像と、本講義を受けた上で考える理想の教師像について、コメントシートに記入してくること。発表・意見交換をおこなう。

概要:これまで作成されたレポートの記述をピックアップし、その内容について意見交換をおこなう。また、最後に、自己の教職観についての小レポートを課す。

■教科書

授業時に、プリントを配布する。

■指定図書

佐藤学『教師というアボリア』、世織書房

ドナルド・A・ショーン『省察的実践とは何かープロフェッショナルの行為と思考ー』、鳳書房

稲垣忠彦編『教師のライフコース』、東京大学出版会

山田浩之『マンガが語る教師像』、昭和堂

解説教育六法編修委員会編『解説 教育六法 2012』、三省堂

■参考文献

日本教師教育学会 『講座 教師教育学Ⅰ 教師とは』、学文社

日本教師教育学会 『講座 教師教育学Ⅱ 教師をめざす』、学文社

日本教師教育学会 『講座 教師教育学Ⅲ 教師として生きる』、学文社

ドナルド・ショーン『専門家の知恵-反省的実践家は行為しながら考える』、ゆみる出版

『日本教育新聞』、日本教育新聞社

その他は、授業時に指示する。

■評価方法

レポート50%、平常点50%で評価する。レポートは、ヒアリングをもとに作成するので、できる限り早めに教師・学校アポイントメントを取っておくことが望ましい。レポートについては、期日までに提出しなければ、原則として評価をしない。

■評価基準

レポート(80%)、平常点(20%)

レポートは、A4(40字×30行)5枚以上。期日までに提出されない場合は、原則として評価の対象としない。

平常点は、授業への積極的な参加姿勢で評価する。

?絶対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

学生には、迷いながら教師を目指して欲しい。本講義は本来、教職課程の入門的科目でもあり、敢えて「迷う」ことを誘う内容になっている。明確に教師を目指している人だけでなく、教師を目指すか迷っている人もぜひ受講して一緒に考えて欲しい。また、授業は学生の主体的な働きかけで進むものである。疑問や意見を持ったら必ず発言して、全体で共有しながら進めたい。状況によっては、内容や扱う回の入れ替えなどが生じることもあり得る。

科目名 教職課程総論〔Curriculum〕

担当教員 山原 克明

■講義目的

教育課程 (curriculum:カリキュラム) は、教育内容の一般的な計画の側面をもっており、学校における教育活動は教育課程を核として展開される。教育課程により、包括的に教育内容を

捉え、教育全般を概観できる。この研究を通じて、新しい時代を担う教員としての資質・能力を形成する。

本講義では、教育課程の意義と編成の方法について、「学ぶため・学ぶ方のコース」とし

ての一般方針・配慮事項、編成の基準、類型と評価、指導計画の編成と指導の工夫などを取り扱う。目標として、時代の進展や社会の変化に応じた指導力を生かすために、留意すべき諸点に注目し、必要な知識と編成の技能が着実に身に付けることを目指す。

■到達目標

教職に就く者として求められる教育課程 (カリキュラム) について、基本的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義のみ〔学外学習 無〕

■講義の概要

教育課程 (curriculum:カリキュラム) は、教育内容の一般的な計画の側面をもっており、学校における教育活動は教育課程を核として展開される。教育課程により、包括的に教育内容を捉え、教育全般を概観できる。この研究を通じて、新しい時代を担う教員としての資質・能力を形成する。

〈第 Ⅰ : 第1講～第3講〉 教育課程とは何か 教育課程改革と学習指導要領

学習指導要領は、幾多の変遷を経て今日に至っている。21世紀を展望し、我が国の教育について、「ゆとり」の中で「生きる力」をはぐくむことを重視するよう提言している (中央教育審議会の第一次答申)。「生きる力」について、同答申は「いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」、「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性」、そして、「たくましく生きるための健康や体力」を重要な要素としてあげている。改訂高等学校学習指導要領 (平成21年3月) が公表され、平成25年度入学生から新学習指導要領として学年進行で実施されることになった。「生きる力」をはぐくむことは、新しい学習指導要領の基本的な考え方としても引き継がれる。

<予習・復習ポイント>

教育課程とは何かについて理解し、求められる知識が身に付いたか。

〈第 Ⅱ : 第4講～第6講〉 教育課程 (curriculum) の意義と編成

一般的に教育課程といわれ、教育目標に即して生徒の学習を指導するために、学校が計画的・組織的に編成して課す教育内容の全体計画を意味する。

・教育課程編成の一般方針 普通教育に関する各教科・科目・学習指導要領
・学校設定科目・学校設定教科 各教科・科目の履修等

・各教科・科目、特別活動及び総合的な学習の時間の授業時数等

・教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項

・単位の修得および卒業の認定、通信制の課程における教育課程の特例

<予習・復習ポイント>

教育課程)の意義と編成について理解し、求められる知識が身に付いたか。

〈第 Ⅲ : 第7講～第9講〉 教育課程の類型とその評価

教育課程のいろいろな類型を取り上げ、その評価について考えてみる。

・教科カリキュラム

・相関カリキュラム

・融合カリキュラム

・広域カリキュラム

・コア・カリキュラム

・経験カリキュラム

<予習・復習ポイント>

教育課程)の類型と評価について理解し、求められる知識が身に付いたか。

〈第 Ⅳ・Ⅴ : 第10講～第12講〉 高等学校のカリキュラム編成の基準とモデル

各教科および特別活動の指導計画は、学校の教育目標の達成の上で重要な役割を果たすものである。指導計画の種類は、学校全体の教育計画に位置つけた全体の指導計画と、それをふまえて策定する内容ごとの全体計画や、年間指導計画、1単位時間の指導計画 (単元指導案・学習指導案) などがある。カリキュラムのモデル作成時に留意すべき事項は、学習指導要領が示している基本的な配慮事項を十分にふまえて、学校としての創意工夫をすることである。その際に、全職員の参加と協力を求めて、共通理解を図り、指導組織間の連携を深めることが必須といえる。また、この指導計画は、生徒の活動計画のよりどころとなるもので、生徒自身による計画化が容易であるように留意してモデルを作成する。

<予習・復習ポイント>

高等学校のカリキュラム編成の基準とモデルについて理解し、生徒の活動計画のよりどころとなる知識が身に付いたか。

〈第 Ⅵ・Ⅶ : 第13講～第15講〉 教育課程のデザインと指導計画の作成演習

・教育委員会の役割を考えてみる。

・文部科学省ホームページ (<http://www.mext.go.jp>) から、各審議会による答申等を検索して、関連するデータを収集・分析する。

・実際の教育課程 (母校の教育課程表) を改めて見直してみる。

・各県の高等学校のカリキュラム、指導目標などを比較してみる。

・3年間の模擬的教育課程を編成し、問題点と改善点を指摘してみる。

・新しい形の高等学校のホームページから、各校の教育課程の特色を指摘してみる。

・各高等学校のホームページから、具体的な教育課程表を収集し、講義で学習した知識を検証したうえで、それぞれの高等学校の教育目標や、実

際の内容の特徴と

を比較検討してみる。

<予習・復習ポイント>

教育課程のデザインについて理解し、生指導計画の作成ができるか。

■教科書

講義の中で適宜指示する

■指定図書

[1] 文部科学省編 『高等学校学習指導要領解説 総則編』
東山書房

[2] 柴田義松著 『教育課程 カリキュラム入門』
有斐閣

■参考文献

特になし。

■参考 URL

<http://www.mext.go.jp/>

■評価方法

期末試験(40%) 提出物(10%) 出席(50%)

■評価基準

絶対評価

期末試験 ・講義内容の全般にわたる知識をどの程度身に付けているか。

- ・専門の用語を正確に理解しているか。
- ・出題の意図よく理解し、適当な分量で的確に答えているか。
- 提出物 ・講義で取り上げた項目をよく理解しているか。
- ・主要な課題を取り上げ、適切な分量で記述しているか。
- ・正確・簡潔な表現で、よく整理された構成になっているか。
- 出席 ・原則として、すべての講義に出席しているか

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・講義には欠席・遅刻なくすべての講義に出席して、教員としての立場からも真剣に受講する必要がある。
- ・参考資料を配布して講義を進める。
- ・課題を設定して、指導上の諸問題を解決する研究を適宜指示する。

科目名

教職実践演習

担当教員

杉森 知也

■講義目的

4年間の学生生活(特に、教職に関すること)を省察し、その過程で、自己の強み・弱みを見出す。また、こうした活動を通して、自己の教職観を再構成する。

■講義分類

社会人力養成

■到達目標

教育実習の振り返りを、各自のワーク、全体討議を通しておこない、経験の共有化をはかる。学生時代の振り返りを通して、今後の自己の成長に必要なことを見出す。

以上の活動を通して、自己の授業観、教職観を再構成する。

■講義形態

なし[学外学習あり]

■講義の概要

第1回 カルテによる振り返り1

概要: 学生時代を振り返る

事前・事後学習: 指定図書第2章を読んでおく。

詳細: 特に、学業についての振り返りをおこない、「振り返りシート」にまとめる。

第2回 カルテによる振り返り2

概要: 学生時代を振り返る

事前・事後学習: 指定図書第3章を読んでおく。

詳細: 特に、サークル活動やアルバイト等についての振り返りをおこない、「振り返りシート」にまとめる。

第3回 卒業までできること

概要: 学生時代にできることについて意見交換する

事前・事後学習: 第1・2講でまとめた内容に基づいて、プレゼンテーションできるようにまとめておくこと。

詳細: 短いながらも、学生時代にできることについて、第1・2講の振り返りをもとにプレゼンテーションと意見交換をおこなう。

第4回 教育実習の振り返り1

概要: 教育実習の出来事を細かく振り返る

事前・事後学習: 指定図書第3章を読んでおく。

詳細: 教科指導の課題について振り返り、「振り返りシート」にまとめる。

第5回 教育実習の振り返り2

概要: 教育実習の出来事を細かく振り返る

事前・事後学習: 第4講でまとめた内容に基づいて、プレゼンテーションできるようにまとめておくこと。

詳細: 教科指導の課題について意見交換をおこない、「良い授業」の要件と自己の課題について意見交換をおこなう。

第6回 教育実習の振り返り3

概要: 教育実習の出来事を細かく振り返る

事前・事後学習: 第5講で提示された問題や自己の意見を書き留めておく、自分なりの意見をまとめておくこと。

詳細: 第5講の続きをおこなう。

第7回 教育実習の振り返り4

概要: 教育実習の出来事を細かく振り返る

事前・事後学習: 教育実習ノートを再読しておく。

詳細: 特別活動の指導について振り返りをおこない、「振り返りシート」にまとめる。

第8回 教育実習の振り返り5

概要: 教育実習の出来事を細かく振り返る

事前・事後学習: 第7講でまとめた内容に基づいて、プレゼンテーションできるようにまとめておくこと。

詳細: 生活指導の場面について振り返りをプレゼンテーションし、意見交換をおこなう。

第9回 教育実習の振り返り6

概要: 教育実習の出来事を細かく振り返る

事前・事後学習: 指定図書第5章を読んでおくこと。

詳細: 生活指導の場面について振り返り、「振り返りシート」にまとめる。

第10回 教育実習の振り返り7

概要: 教育実習の出来事を細かく振り返る

事前・事後学習: 第9講でまとめたことについて、プレゼンテーションできるようにしておく。

詳細: 生活指導の場面について例示し、それについて意見交換をおこなう。

第11回 教育実習の振り返り8

概要: 教育実習の出来事を細かく振り返る

事前・事後学習: 第10講で意見交換したことを振り返りつつ、特に自己の意見がどのようなものであったのかについてメモしたことを振り返り、どのような指向を持っているのか確認しておく。

詳細: 第10講の続きとして、生活指導の場面について例示し、それについて意見交換をおこなう。

第12回 教育実習の振り返り9

概要: 教育実習出来事を細かく振り返る

事前・事後学習: 第4～第11講でおこなった振り返りと、意見交換、およびそれに対する自己の意見表明の傾向等をまとめながら、自己の教職観について考えておくこと。

詳細: 第4～第11講でおこなった振り返りと、意見交換、およびそれに対する自己の意見表明の傾向等のまとめをもとに、他者から見た理解を受けあう。

第13回 教育実習の振り返り10

概要: 教育実習の出来事を細かく振り返る

事前・事後学習: 指定図書第8章を読んでおく。

詳細: 第12講で自己の指向について他者理解を得たが、それと自己理解をかみ合わせる。個別学習によって、深化を促す。

第14回 自己の教職観を再構成する

概要: 第1～第13講までの内容を統合する

事前・事後学習: 各自がこれまでの振り返り活動を通して得られた自己理解・他者理解に基づいて自己の教職観の根源について考えておくこと。

詳細: これまでの振り返り活動を通して得られた自己理解・他者理解に基づいて、自己の教職観の根源についてレポートを作成する。

第15回 まとめ

概要: 反省的実践と教職観

事前・事後学習: 指定図書第8章を読んでおく。

詳細: 反省的実践についての概要を講義し、そのうえで、教職に就いた場合とどのような成長をどのように遂げていくかについての見通しについて考える。

■教科書

なし

■指定図書

F・コルトハーヘン『教師教育学―理論と実践をつなぐリアリステック・アプローチ』学文社

その他は、授業時に指示する。

■参考文献

授業時に指示する

■評価方法

授業時の積極的な姿勢(特に、ワークやディスカッション)を、平常点(100%)として評価する。

■評価基準

絶対評価

■事前履修科目等

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

最新の教育情報を、新聞等で常にチェックしておくこと。

授業は、学生の主体的な働きかけで進むものである。疑問や意見を持ったらず必ず発言して、全体で共有しながら進めたい。したがって、状況によっては若干内容や扱う回の入れ替えなどが生じることもある。

科目名 情報科教育法〔Teaching Method on Information Education〕

担当教員 齋藤 S.裕美

■講義目的

高等学校情報科の教員として、多様な高校生に「情報」の本質を指導する基本的な能力を身に付けることを目標とする。このために、情報にかかわる理念、制度、知識・技能、指導法等の情報教育の基本的な事項の理解を深めながら、実践的な資質や指導力の習得を図ることを目的とする。

本講義では、新学習指導要領(平成25年度入学生から学年進んで実施)の改訂ポイントや主な改善事項についてふれ、実習を通じて情報科教育の研究を進め、教材研究の方法、学習指導の工夫などの授業創りの実際を体験する。

■講義分類

社会人力養成

■到達目標

教職に就く者として求められる教科教育(情報)について、基本的な知識と授業実践の手法の習得をめざす。

- ・情報教育の沿革と現状、在り方について説明できる。
- ・共通教科「情報」(各学科に共通する教科「情報」)と専門教科「情報」(主として専門学科において開設される教科「情報」)の基本的な理念について説明できる。
- ・共通教科「情報」と専門教科「情報」の目標、内容、構成を理解する。
- ・指導計画を作成し、それを基に模擬授業を通じた実践ができる。
- ・他の学生の模擬授業を見て、改善点や修正点などを相互に指摘できる。
- ・指摘を受け入れて、自らの指導計画や授業などを改善・工夫できる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習 無〕

■講義の概要

- ・講義と研究授業の形式による模擬授業(教壇実習)を行う。
- ・高等学校(情報科)の教員として、基本的な理念、制度、知識・技能、指導法等の情報教育の基本的な事項の理解を深めながら、実践的な資質や指導力の習得を図る。
- ・改訂高等学校学習指導要領(平成21年3月)が公表され、平成25年度入学生から新学習指導要領として学年進んで実施されることになった。「生きる力」をかくむことは、新しい学習指導要領の基本的な考え方としても引き継がれる。本講義では、これまでの普通教科「情報A」「情報B」「情報C」の内容を再構成し、共通教科「社会と情報」・「情報の科学」の2科目構成とした高等学校「情報科」の改訂ポイントや主な改善事項についてふれ、専門教科「情報科」の改訂ポイントや主な改善事項についても検討する。

<内容・教育方法>

『高等学校学習指導要領解説 情報編』(文部科学省編 開隆堂出版)を中心に、指導用図書(高等学校で使用する教科書)や参考資料を配布して講義を進める。

- (1)科目ごとに課題を提示し、科目の内容について担当教員の立場から研究を進め、教材研究の方法、学習指導の工夫の実習を通じて授業作りの実際を体験する。また、主要な問題を取り上げ、内容の分析と要点を考察する。
- (2)担当する科目の単元を定めて、年間指導計画、単元案・学

習指導案を実際に作成するとともに、研究授業の形式による模擬授業(教壇実習)を行い、教育現場を想定した実際の授業体験を試みる。

(3)共通教科「情報」および専門教科「情報」の指導に必要な能力を身に付けるとともに、教員として求められる資質を涵養する。

〈第1講〉 情報教育の沿革と現状

・「情報」、「情報教育」、「情報科教育」の沿革と現状および基本的な理念についてふれる。

・新学習指導要領について

・共通教科情報科、専門教科情報科の改訂のポイント

・「社会と情報」・「情報の科学」の改善事項

<予習・復習ポイント>

「情報」、「情報教育」、「情報科教育」についてよく理解し、教職に就く者として求められる知識が身に付いたか。

〈第2講〉 高等学校学習指導要領における情報教育の全体像

・共通教科「情報」の構成について

「第2章 普通教育に関する各教科 第10節 情報」の「総説」、「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」について解説する。

・専門教科情報の構成について

「第3章 専門教育に関する各教科 第7節 情報の「総説」、「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」について解説する。

<予習・復習ポイント>

・共通教科「情報」の全体像を理解し、教職に就く者として求められる知識が身に付いたか。

・専門教科「情報」の全体像を理解し、教職に就く者として求められる知識が身に付いたか。

〈第3講～10講〉

高等学校学習指導要領「第2章 普通教育に関する各教科 第10節 情報」・「第3章 専門教育に関する各教科 第7節 情報」の各科目の「目標」・「内容」・「内容の取扱い」の要点を解説する。

- ・共通教科「情報」・専門教科「情報」の基本的な概念について
- ・共通教科「情報」・専門教科「情報」の各科目の目標・内容・内容の取扱いについて

・各科目

「社会と情報」・「情報の科学」

・各科目

「情報産業と社会」・「課題研究」・「情報の表現と管理」・「情報と問題解決」・「情報テクノロジー」・「アルゴリズムとプログラム」・「ネットワークシステム」・「データベース」・「情報システム実習」・「情報メディア」・「情報デザイン」・「表現メディアの編集と表現」・「情報コンテンツ実習」

<予習・復習ポイント>

・各科目の基本的な概念や要点を理解し、指導するうえで基礎的な知識が身に付いたか。

・知識を情報教育に展開させ、わかりやすい指導に結び付けることができるか。

〈第11講～第14講〉 指導計画の作成

各科目の指導計画と学習指導案(教案)の作成に際して、いろいろな形式のものがああり、それを通じて多様な情報の授業が

展開されている。雛型を参考にして、十分に練られた学習指導案(教案)を作成できるようにするだけではなく、指導計画の各教科・科目および特別活動の指導内容と相互に関連させ、全体として調和のとれたものとなるようにする。さらに、創意工夫を生かして、発展的・系統的な指導ができるような学習指導案(教案)となるように留意させる。

<予習・復習ポイント>

- ・指導計画の作成について理解し、創意・工夫した指導計画を作成する知識・技能が身に付いたか。
- ・どの程度適切なものであるか、自ら評価できるか。

<第15講～29講> 模擬授業

分担する模擬授業の範囲(科目・単元、章・節)を決め、学習指導案を1単位時間分(50分)作成する。指導の詳細手順、キーマン、参考事項をノートなどにまとめ、実際に教壇に立って模擬授業を行い、良かったところ、さらに工夫すべきところを検討する。情報教育を担当する教員としての適性を自ら観察して、要求される資質がどの程度まで備わっているかを確認する。

<予習・復習ポイント>

- ・学習指導案を作成するために、教科書などの印刷教材、インターネット上の資料を収集し、要点をよく把握した教材研究が十分になされているか。
- ・学習指導案の作成に十分な時間をかけて、内容をよく理解したうえで、授業の進め方、板書・配布物の準備ができているか。
- ・教育を実践する者として、円滑に模擬授業を進め、その大切さを自覚できたか。
- ・1単位時間分(50分)の指導を実践して、教員としての態度・見識がしっかりと身に付いたか。

<第30講> 教育課程の編成

学習指導要領第3款に示されている「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」に留意しながら、指導計画を作成し、具体的な教育課程を仮に編成し、これまでの講義を総括する。

<予習・復習ポイント>

教育課程の編成について理解し、教職に就く者として求められる思考力・判断力が身に付いたか。

■教科書

文部科学省編 『高等学校学習指導要領解説 情報編』 開隆堂出版

この他に、課題研究や模擬授業に必要な高等学校の教科書の資料を配布する。

■指定図書

文部科学省編 『高等学校学習指導要領』 国立印刷局

■参考文献

文部科学省ホームページ 『新学習指導要領 パンフレット』・『新学習指導要領 新旧対照表』

■評価方法

期末試験 (30%) 提出物 (30%) 出席 (40%)

■評価基準

絶対評価

- ・模擬授業などの際に、安定した技術(話し方・書き方・聞き方・調べ方・まとめ方)、能力を発揮しているか。
- ・教員として、ふさわしいものの考え方・見方・態度を身に付けているか。
- ・教育と指導に対する情熱・資質を持ち、相応の適性を有しているか。

ているか。

期末試験

・講義内容の全般にわたり、教員となるために十分な知識を身に付けているか。

・教職および情報にかかわる専門用語を正確に理解しているか。

・出題の意図をよく理解し、適当な分量で的確に答えているか。

提出物

- ・講義で取り上げた項目をよく理解して作成されているか。
- ・主要な課題を取り上げ、適切な分量で的確に記述しているか。

発表(模擬授業)

- ・十分な教材研究に基づいて、正確・簡潔な表現で、よく整理された授業の構成になっているか。
- ・学習指導案(導入⇒展開⇒まとめ)の指導プロセスと模擬授業が整合しているか。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・高等学校で使用している「情報」の教科書を講義の中心に位置付け、レジュメおよび参考資料を配布する。
- ・講義には毎回出席し、意欲的な受講態度や丁寧な教案・資料作りが求められる。
- ・各自で学習指導案・単元指導案および参考資料(手許資料)を作成して、他の実習予定者にも配布する。
- ・研究課題ごとに、複数回の教材研究と模擬授業の機会を課する。
- ・教職に就く者として教科教育について強い「意志」が求められ、基本的な知識・態度と授業実践の手法の十分な習得が欠かせない。
- ・教員としての資質を啓発するために、指定した課題についての発表・模擬授業の機会を設け、教員としての適性の有無を観察・評価する。

科目名 生徒指導〔Student Direction〕

担当教員 山原 克明

■講義目的

本講義では、生徒指導の意義と課題、生徒指導の原理、生徒理解の考え方と方法、生徒指導と教育課程、生徒指導のあり方について理解を深め、教員として生徒指導上の諸問題に対応できる能力を高めることを目的とする。

学校教育の成否は、生徒の教育に直接携わる教員の資質能力に負うところが極めて大きく、その向上がその重要なポイントとなる。いじめや登校拒否など深刻な問題が生じており、教科指導以外の生徒指導やホームルーム経営の面でも、新たな資質・能力が求められている。生徒の指導にあたって、特に重視されている学校における教育相談、進路指導の現状とその課題などについても理解を深める。

■到達目標

教職に就く者として求められる生徒指導について、講義のほかにグループディスカッション、プレゼンテーションを通じて、教員として生徒指導の重要性について深く考察し、基本的な知識の確実な習得をめざす。

■講義形態

講義＋GD・GW・PR〔学外学習 無〕

■講義の概要

生徒指導は、学校がその教育目標を達成するための重要な機能の1つであり、子どもの

人格の形成を図るうえで、大きな役割を担っている。平成21年6月に「生徒指導提要の作成に関する協力者会議」が設置され、生徒指導の実践に際し教員間や学校間で共通理解を図り、小学校段階から高等学校段階までの組織的・体系的な生徒指導を進めることができるよう、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書として、『生徒指導提要』(平成22年4月2日)が取りまとめられた。

この提要では、学校種間の連携についても述べ、複雑化・多様化する児童生徒をめぐる課題について、児童生徒全体への指導と、個別の課題ごとの指導の基本的な考え方について解説し、発達障害についての理解と支援の在り方についてもふれている。

本講義では、この『生徒指導提要』を基本教材として、生徒指導の意義と課題、生徒指導の原理、生徒理解の考え方と方法、生徒指導と教育課程、生徒指導のあり方について理解を深め、生徒指導上の諸問題に対応できる能力を高めることを目的とする。講義に加えて、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、教員として生徒指導の重要性についてよく理解し、そのための基本的な知識を確実に習得する。

〈第1講～3講〉 生徒指導とは何か(生徒指導の意義と原理)

生徒指導は、人間の尊厳という考えに基づき、一人一人の生徒を常に目的そのものとし

て扱うことを基本とする。これは、価値を内在した個々の生徒の自己実現を助ける過程であり、人間性の発達を目的とするものである。生徒は、このように社会化を続けながら、自覚的な存在として、自主的に自己の人生目標を選択し、設定し、追求して行く過程にある存在と捉えることができる。ここに生徒指導の原理を考察することになる。

内 容

・生徒指導の意義と課題

・教育課程における生徒指導の位置付け

・生徒指導の前提となる発達観と指導観

・集団指導・個別指導の方法原理

<予習・復習ポイント>

生徒指導の意義や原理をよく理解し、求められる知識が身に付いたか。

〈第4講～第5講〉 生徒理解の考え方と方法

生徒指導における生徒理解の考え方、生徒指導における生徒理解の必要性、生徒理解の対象、生徒理解の立場、生徒理解のための資料、生徒理解のための資料を集める方法、生徒理解の留意点について考える。

<予習・復習ポイント>

生徒理解とは何かについて理解し、求められる知識が身に付いたか。

〈第6講～第7講〉 生徒指導と教育課程

教育課程の展開としての生徒指導は、生徒に直接働きかける教育活動として、休憩時間や放課後などにおいて個別に行われる指導やいろいろな形式で行われる教育相談などが生徒指導の仕事としてあげられる。

内 容

・教科における生徒指導

・道徳教育における生徒指導

・総合的な学習の時間における生徒指導

・特別活動における生徒指導・

<予習・復習ポイント>

生徒指導と教育課程と生徒指導について理解し、求められる知識が身に付いたか。

〈第8講～10講〉 生徒指導の在り方

学校における生徒指導体制、生徒指導とホームルーム担任の教員、生徒指導と社会環境について、ホームルーム担任という想定のもとに、具体的な研究内容のロングホームルーム形式の模擬実習を行う。

内 容

・生徒指導体制の基本的な考え方

・生徒指導の組織と生徒指導主事の役割・

・年間指導計画 ・生徒指導のための教員の研修

・資料の保管・活用と指導要録 ・全校指導体制の確立 ・生徒指導の評価と改善

<予習・復習ポイント>

生徒指導の在り方について理解し、求められる知識が身に付いたか。

〈第11講・12講〉 学校における教育相談

生徒指導における教育相談の意義と特質、教育相談の方法、教育相談の限界と他の機関との連携、教育相談を担当する教員の資質と訓練について、具体的な研究内容として、カウンセリング研修ビデオを視聴し、事例を通じて生徒指導上で必要なカウンセリングの基本的な知識・技術によるいじめ・暴力行為・不登校への対応の理解を図る。

内 容

- ・教育相談の意義
- ・教育相談体制の構築
- ・教育相談の進め方
- ・スクールカウンセラー、専門機関等との連携
- ・守秘義務と説明責任

<予習・復習ポイント>

教育相談について理解し、求められる知識が身に付いたか。
 <第13・14講> 進路指導と学級担任・ホームルーム担任の指導

進路指導については、学習指導要領に規定がある。人間としての在り方や生き方に関する教育の一環として位置づけられ、学校の教育活動全体を通じて推進を図る。

内 容

- ・生徒指導における学級担任・ホームルーム担任の立場
- ・基本的な生活習慣の確立
- ・校内規律に関する指導の基本
- ・児童生徒の安全にかかわる問題
- ・個別の課題を抱える児童生徒への指導

<予習・復習ポイント>

進路指導の在り方や課題について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第15講> これからの生徒指導

1. 人間関係の改善と望ましい人間関係の促進
2. 生徒の自然体験や生活体験の不足を補うような望ましい習慣の形成
3. 生徒の将来展望の不確かさや不安の解消および自己指導能力の伸長

<予習・復習ポイント>

これからの生徒指導について考え、何が求められているのが考察できたか。

■教科書

講義の中で、『生徒指導提要』(文部科学省:電子データ)を印刷教材として配布する。

■指定図書

- [1] 文部科学省編 『生徒指導資料第6集 担任教師による生徒指導』 大蔵省印刷局
- [2] 高野清純編著 『放送大学教材 生徒指導』 放送大学教育振興会

■参考文献

- [1] 文部省新学校経営研究会編 『Q&A 生徒指導の基礎知識』 教育開発研究所
- [2] 白井三恵編著 『生徒の自己実現を援ける生徒指導』 学事出版

■参考 URL

<http://www.mext.go.jp>

■評価方法

期末試験(30%) 提出物・模擬指導(10%) 出席(60%)

■評価基準

絶対評価

・指導者(教員)として生徒指導の方法をよく理解し、安定した資質を発揮して、ふさわしい考え方・ものの見方を身に付けているか。

期末試験 ・教員を目指す者として、講義内容の全般にわたる知識を十分に身に付けているか。

・教員としての教養を身に付け、生徒指導に関する事項を正確に理解しているか。

・出題の意図よく理解し、適当な分量で的確に答えているか。

提出物 ・教員としての視点から、講義で取り上げた内容をよく理解しているか。

・主要な論点を取り出し、適切な分量で論述しているか。

・正確でわかりやすい表現で、整理された論理構成で話されているか。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・講義には、欠席・遅刻なく出席することが必要である。(原則として、欠席・遅刻はできない。)

・『生徒指導提要』によるレジュメを中心に、参考資料を配布して講義を進める。

・生徒指導上の諸課題を具体的に考察し、実践的、基礎的、基本的な考え方を扱う。

科目名 特別活動〔Extracurricular activity〕

担当教員 山原 克明

■講義目的

教育課程改革の経緯や高等学校学習指導要領(学習指導要領という)の変遷をふまえて、特別活動の「なすことにより学ぶ」という本質から、教育的な意義と目標、特質、教員としての実践的な資質や指導力の習得を図る。合わせて、高等学校の教育課程(カリキュラム)の意義と、学習指導要領に準拠してどのように編成するかを考える。改訂高等学校学習指導要領は、平成25年度入学生から学年進んで実施される。新たな特別活動の中で、新学習指導要領の理念に基づいて、具体的な手立てを考察する

■到達目標

特別活動および教育課程の意義と編成について、講義とともにグループディスカッション、プレゼンテーションを通じて、教員としてホームルーム活動・生徒会活動・学校行事の重要性について考え、そのための基本的な知識の確実な習得をめざす。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR〔学外学習 無〕

■講義の概要

各特別活動では、教科・科目、総合的な学習の時間で学んだことを生活や行動に生かすという自主的・実践的な態度を育てることが求められる。本講義は、学習指導要領の改訂による教育の基調の転換をふまえて、特別活動の「なすことにより学ぶ」という本質に基づき、体験的指導力(人間的魅力)の育成を目指して展開する。

新高等学校学習指導要領では、「生きる力」をはぐくむことが基本的な考え方として引き継がれる。本講義では、どのようにこの理念を実現するかについて考察する。

教育実践の事例、総合的な学習の時間などとの相互の関連について考察を深め、教育的な意義と目標、将来の教員としての実践的な資質や能力の習得を図る。目標として、時代の進展や社会の変化に応じた指導力を涵養するために、留意すべき諸点に注目する。グループディスカッション、プレゼンテーションを通じて、教員としてホームルーム活動・生徒会活動・学校行事の重要性についてよく考え、そのための基本的な知識を確実に身に付ける。

〈第 1 講〉 意義と目標・改訂の経緯と趣旨

配布した参考プリントから、に小学校、中学校、高等学校の学習指導要領の目標の違いに注目し、それぞれの目標の違いから、特に高等学校における特別活動の学校教育上の意義を考えてみよう。

総説(改訂の経緯・改訂の趣旨・改訂の要点)、目標(特別活動の目標・各活動・学校行事の目標との関連)、基本的な性格と教育的意義(教育課程上の位置付け・人間形成と特別活動・教育的意義・内容相互の関連・各教科・科目、道徳、総合的な学習の時間等との関連)

<予習・復習ポイント>

特別活動とは何かについて理解し、求められる知識が身に付いたか。

〈第 II 講〉 ホームルーム活動の内容と指導

ホームルームは、学校における生徒の生活の単位組織と、固

有の生徒の活動が行われ、学校における生徒の様々な活動の基盤としての役割を果たす場である。学校における生徒指導(進路指導を含む)を進めるために、生徒が心理的に最も安定して帰属できる「心の居場所」としての意義も大きい。相互の受容と共感による親密な人間関係に基づく家庭的な雰囲気の中で指導が行われる。

ホームルーム活動の目標は、望ましい集団活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてホームルームや学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題や、生徒の発達課題に即した諸課題を解決しつつ、社会的に自立しようとする自主的、実践的な態度を育成することにある。高等学校の特別活動における道徳教育は、人間としての在り方生き方に関する指導を通じて充実が図られ、特にホームルーム活動は大きな役割を果たすことに留意させる。

ホームルーム活動(ホームルーム活動の目標・ホームルーム活動の内容・活動の指導

計画・ホームルーム活動の内容の取扱い)

<予習・復習ポイント>

ホームルームとは何かについて理解し、求められる知識が身に付いたか。

〈第 III・IV 講〉 生徒会活動の内容と指導

生徒会活動は、全生徒を会員として組織し、学校における自分たちの生活の充実・発展、学校生活の改善・向上を目指す。生徒の立場から自発的、自治的に行われる活動

である。生徒会活動の目標は、生徒会の集団における望ましい集団活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育成することにある。生徒会活動で期待されることは、目標を実現する過程で、生徒の自主性・主体性を育て、学校集団としての活力を高めるとともに、健全で豊かな学校生活が展開できるような集団を育成することである。

生徒会活動(生徒会活動の目標・生徒会活動の内容・生徒会活動の指導計画・生徒会活動の内容の取扱い)

<予習・復習ポイント>

生徒会活動について理解し、求められる知識が身に付いたか。

〈第 V・VI 講〉 学校行事の内容と指導

学校行事は、全校若しくは学年またはそれらに準ずる比較的大きな集団を単位として、日常の学習や経験を総合的に発揮し、その発展を図る体験的な活動である。

学校行事の目標は、大きな集団における望ましい集団活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築き、社会的に自立しようとする自主的、実践的な態度を育成することにある。

目標を実現する過程で育てていくことは、自己理解をいっそう深め、規律、協同、責任、思いやりなどの社会性、集団や社会における自己の生き方、集団行動における望ましい態度などを育てることになる。

学校行事(学校行事の目標・学校行事の内容・学校行事の指導計画・学校行事の内容の取扱い)

<予習・復習ポイント>

行事について理解し、求められる知識が身に付いたか。

〈第 VII・VIII 講〉 指導計画の作成と内容の取り扱いとこれからの課題

教育課程(カリキュラム)の意義と編成

各教科および特別活動の指導計画は、学校の教育目標達成の上で重要な役割を果たすものである。

指導計画の種類は、学校全体の教育計画に位置づけた全体の指導計画と、それをふまえて策定する各内容の全体計画や、年間指導計画、1単位時間の指導計画(指導案)などがある。学習指導要領の特別活動の分析を行い、相互の違いを明らかにして、21世紀の教育の目指すところを考えてみる。

<予習・復習ポイント>

文部科学省ホームページから特別活動に関連するデータを収集・分析する。

<予習・復習ポイント>

指導計画の作成と内容の取り扱いと指導計画の作成、高等学校のカリキュラム編成

と基準について理解し、求められる知識が身に付いたか。

■教科書

文部科学省編 『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』
東山書房

■指定図書

[1] 文部科学省編 『高等学校特別活動指導資料』 海文堂出版

[2] 山崎準二編 『教育課程』 学文社

[3] 森嶋昭伸他編著 『高等学校新学習指導要領の解説 特別活動』 学事出版

■参考文献

日本特別活動学会編 『キーワードで拓く新しい特別活動』
東洋館出版社

文部科学省ホームページ 『新学習指導要領 パンフレット』

■参考 URL

<http://www.mext.go.jp/>

■評価方法

期末試験(30%) 提出物(10%) 出席(60%)

■評価基準

絶対評価

・教員として、報告や発表の際に安定した資質を発揮して、ふさわしいものの考え方・見方を身に付けているか。

期末試験

・講義内容の全般にわたる知識について、教員を目指す者として十分に身に付けているか。

・専門の用語を正確に理解しているか。

・出題の意図よく理解し、適当な分量で的確に答えているか。
提出物

・講義で取り上げた項目をよく理解しているか。

・主要な課題を取り上げ、適切な分量で記述しているか。

・正確・簡潔な表現で、よく整理された構成になっているか。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・教育課程(カリキュラム)の意義と編成についてふれる。

・講義には欠席や遅刻なく毎回出席して、教員としての立場から真剣に受講することが求められる(原則として、欠席・遅刻はできない)。

・教科書『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』を中心に、参考資料を配布して講義を進める。

・研究課題を設定して、指導上の諸問題を解決する力を求める。